UNIVERSITY OF ILLINOIS-URBANA
DS803.S56 C001 V004
SHIRYO TAIKAN
3 0112 029871123

ISSEIDO
東京 誠 神田

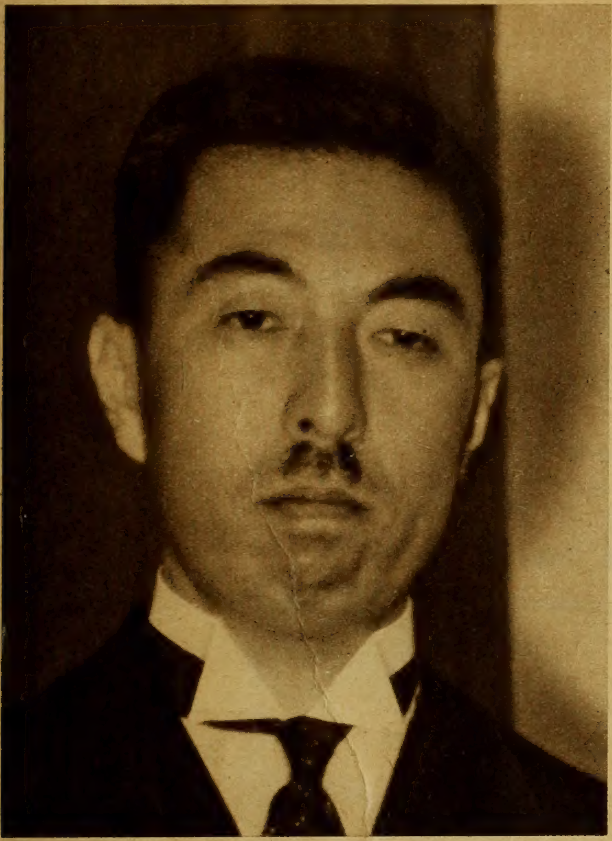
日本健康優良兒童表

文部大臣　安井英

我々の期待は絶大

近衛首相談

朝日新聞社が主催する全日本健康優良兒童表彰の運動が、いまや全國的に充分にその意義を理解されるに到つたことは、多年同社が意を用ひつゝある國民體位向上運動に對して贊意を表する。自分としても洵に慶賀に堪えない。國民の健康增進は發育旺盛な少年時代からだと普遍的な方法に依つて行はれるものを要すること無論であるが、健康兒童表彰の事業は斯の如き國民體位向上運動としてその理想に遮いものと考へる。更にまたこの運動が單に身體の健康と運動能力のみでなく學業操行もその條件中に加へたことは全く同感である。いま國家内外多事の秋に當り來るべき新時代の擔ひ手としての少年、少女の健康に對する我々の期待は絶大である。自分はこの機會に日本一の名譽を贏ち得た兒童に對し、またその今日あるを得しめた父兄、敎師諸氏に對し深甚な敬意を表すると共に國民體位向上運動の今後益〻發展することを祈つてやまぬものである。



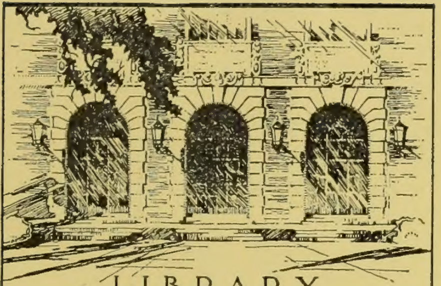
總理大臣 近衛文麿公

DS
803
.S56
v.4

故近衛豫樂院殿家凞公口授　保壽院法眼山科道安筆記
公爵近衛篤麿公題字　男爵細川潤次郎先生序文
文學博士黑川眞頼先生　小杉榲邨先生　井上頼圀先生　校閲

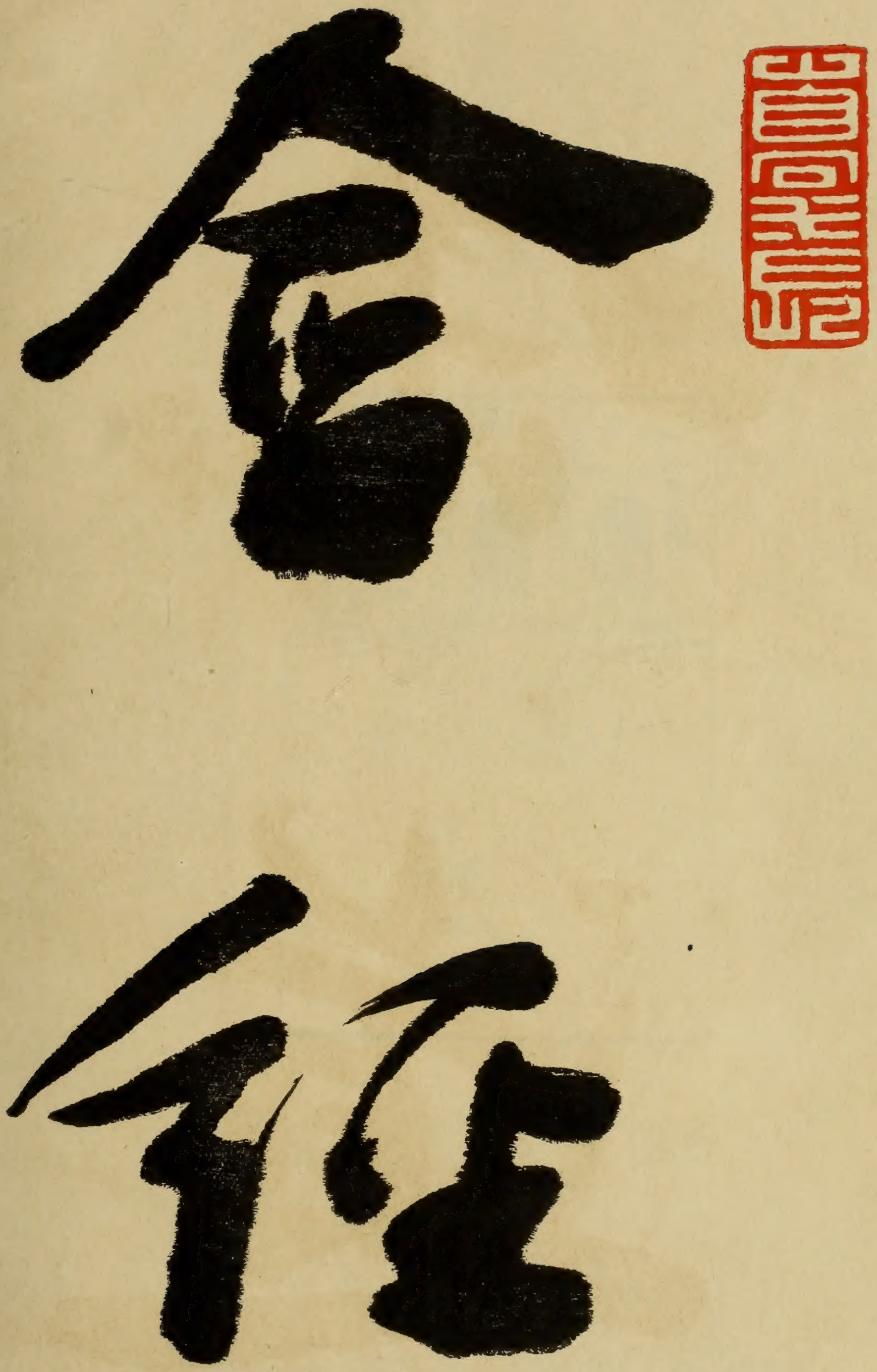
史料大觀

哲學書院藏版



LIBRARY
OF THE
UNIVERSITY
OF ILLINOIS

DS
803
.S56
v.4



味道

昭和三十六年春日
梅原龍三郎

槐記序

槐記者千巻宗師望士山科道安記近衛公家熈言行以備遺忘者也傳寫已久差謬寖多予甚憾焉高頭巻造捜訪善本又請於今近衛公借予藏本參互挍訂以授平氏請近衛公題其巻首且屬余序之按公生于華胄諳練朝儀政績著聞與龍山應山諸公後先輝映可謂盛矣公好學有儒素風又多才藝詩歌書畫無所不能而點茶插花蹴鞠唱曲等雜技亦皆臻

其妙雖專門々々待莫氏適焉蓋公富於藏書手籤玉
軸充棟選簡日夕披覽無一所未知而好學慊寸靈懷集
蓋凡輦轂之下自名儒碩彥以至一藝名家莫不希風慕景
爭為之用則何異於公之學藝度越常流萬萬哉道
安以望測伺候其門得聆緒論恐其久而失之也遂日綴
述寖然成帙用意審詳行文簡樸足取信於後世而書
中所載考據精嚴辨析微芒識者所具見今也印刷
告竣吾知其裨學者不尠也公初隸官至左大臣寶永

中累進攝政關白太政大臣享保十年　詔准三宮薙
髮稱自覺元文元年十月薨年七十號豫樂院公
別有日記亦未有印本吾望寓頭氏他日得梓以廣
其傳焉

時

明治庚子九月

十洲居士細川潤

史料大観

槐記解題

槐記は京都の醫山科道安が近衞家凞公の言行を筆記せしものに係り、正篇七巻續篇四巻あり、享保九年正月に起りて同二十年正月に終る、番外雜書解題に載する所は、享保九年四月より同十二年十二月まで、僅に四巻に過ぎざれども、今蜂須賀侯爵家藏本を原とし、近衞公爵家藏本故榊原芳野翁藏本川崎千虎翁藏本及ひ帝國圖書館本を以て訂正增補し正續十一巻となせり、而して近衞公爵家藏本最も完璧たり、又た番外雜書解題に享保九年甲辰四月の自序を載せていふ、「臣かつて前の攝政太政大臣家凞公の門を窺ふと幾く數年或は閣下に陪し或は簾外に侍しかたしけなく台命を承る和漢の事歴古今の人物禮樂經政儀章度數乃至食服器財言語文字その規模の大節目の詳常に是を拜聽して恐嘆感服すしかれとも才識の拙記誦の薄物換り星移りて遺失忘却す悔吝といふべし請ふ今日よりして聞て是を記し且他日恭承の事を追て亦是をしるし數年空過の罪を贖むと欲す」と有職故實其他當時の事蹟を知るに足るもの多く考據に資すべきなり、公は關白基凞公の子、母は後水尾院皇女常子内親王なり、寛文七年六月を以て生る、貞享三年三月内大臣に任し元祿六年六月右大臣、寶永元年正月左大臣に轉し、同四年正月關白の詔あり、同六年六月攝政となる、明年正月太政大臣に任す、正德元年七月太政大臣を辭し、尋てまた攝政を辭す、享保十年十二月二十一日准三宮、同日拜賀、二十四日准三宮を辭す、許されず、同日落飾して眞覺と稱し豫樂院と號す、元文元年十月甍ず、年七十、山科道安は保壽院と號し官法眼に至る、

本書の體裁はすべて既刊の史料大観に同しくし巻中一々諸本の名を擧けず省略に從ふと左の如し、

近本……近衞公爵家藏本
榊本……故榊原芳野翁藏本
川本……川崎千虎翁藏本
一本……帝國圖書館本

明治三十三年十月

槐記序

臣嘗竊

前攝政太政大臣家熙公之門幾數年矣或陪於閣下或侍於簾外恭承
台命爲和漢之事歷古今之人物禮樂刑政儀章度數乃至食服器財言語文字
其規模之大節目之詳每拜聽之恐歎感伏矣然才識之拙記誦之薄物換星
移遺失忘却矣可謂悔吝請自今日聞是記之且追他日恭承之事亦記之欲
贖數年空過之罪唯恐鄙詞麁俗謾汚
台命焉所謂以辭莫害志
享保九年甲辰四月

保壽院法眼山科道安頓首再拜而記焉

槐記

凡例

一槐台記ハ今日ヨリノ承ルトコロ一々即日記ス別記ハ往昔カツテ承ルトコロ追念シテ折々記

一初ハ台記別記二書トセントト欲ス故ニ此凡例アリ今ハ一書トス

一槐台記別記トモニ聞マヽニ記之遺失忘却ナカランコトヲ欲ス故ニ初ヨリ體制ナク次序ナク類例ナク部分ナシ

一台命台旨ニアラスト雖モ台命ニ應シテ申上ルカ又ハ台命ニテ人ノ考ヲ稱セラルカ皆記之

一台命ニアラス台旨ニヨラサレドモ御前ニテ承ルホドノコトハ皆記之但シ一字ヲ下テ分辨ス

一台命ナラヒニ御前伺候ノ人ノ語ニ付テ私記ヲ載ルモノアリ又一字ヲ下シテ分辨ス

史料大觀 第參卷

槐記前編目次

卷第一　自享保九年一月 至同年十二月……一頁
卷第二　自享保十年一月 至同年十二月……二十七頁
卷第三　自享保十一年一月 至同年十二月……四十七頁
卷第四　自享保十二年一月 至同年十二月……八十九頁
卷第五　自享保十三年一月 至同年十二月……百四十五頁
卷第六　自享保十四年一月 至同年十二月……百九十三頁
卷第七　自享保十五年一月 至同年七月……二百五十一頁

槐記續編目次

卷第一　自享保十六年一月 至同年十二月……一頁
卷第二　自享保十七年一月 至同年十二月……三十五頁

卷第三　自享保十八年十一月至同十二月……五十九頁
卷第四　自享保十九年一月至同二十年一月……八十九頁

槐記目次終

槐記　巻第一

近衛豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

○享保九年甲辰正月四日、參候、

歲旦ノ詩トモノ御噂コレアリ、自作ヲ御尋コレアリ、書シテ獻ズ、御作ヲモ出シテ御見セナサル、（近本有二首字）

甲辰元旦

一室蕭然稀ニ賀客ハ、衣袍不レ改烏沙巾、窓前柳睡梅猶默、穉子擧レ盃頻報レ春、

又

何獨南院能樂レ貧、竹籬不レ隔一天春、登レ樓山色長隨レ我、榮翼幸揖（揖楠本作櫰一本作榎）還有レ隣、

榮翼之字樓部（樓部近本作説郛）ニ出、ハフ造リノコトナリト、大納言（言下近本有殿字）ノ新殿ノ北隣ニ建シ翌年ノ御作ナリ、

○或時、宗白ト一所ニ、參候ノコトアリケル、御談話ニ、琉球ノ程順則ハ、年來故アリテ、折々書翰ヲ奉ル、去年輪番ニテ、本唐ニ行、今年歸リテ、土產ニ、孔子ノ廟へ參リ、孔廟ノ傍ニ、昔シ子貢ノ樹ラレタリト云、楷木ノカブアリテ、ソノ木ハ枯朽テ、又砌ニ若木ノ楷木ノ、後世ニウエタルアリ、ソノ昔ノ楷木ノ杭、一塊ヲ取歸リテ、內ノ方ヲ漆ニテヌリ、楷盃ト號シテ、文一巻ヲ捧ク、ソノ形古木ニシテ、今樣アル可キ物ニアラズ、然レトモ、公嘗テ酒ヲ嗜玉ハス、イト惜キコトナリ、覆シテ見レバ、木理縱橫、高下凸凹、ソノ形假山トシテ見ハヤトオボシメシテ、其旨ヲ仰ツカハサル、程氏モ辱コトニ思ヒケン、又假山記一巻ヲ書テ奉ル、今日御見セナサルヘキノ由ニテ、則チ物外樓上ニ、青貝ノ一間ハカリアルヘキ御几ノ上ニ、洲崎ノヤウニ、砂ヲ蒔テカサラレ、其傍ニ二巻ノ記ヲ置カル、宗白ト一同ニ拜見ス、

○或時仰ラルヽハ、古今シカト究メカタキモノハ五色ナリ、延喜式等ニ、何ニ何ヲ何ホト加ヘテ染レバ、何色ニナルト云、ソノ色今ノ色ニアハサルコト多シ、同シアカキニモ、赤アリ、朱アリ、緋アリ、紅アリ、其外モ亦然リ、內々詩文等ノ色（色下近本有ノ處之二字）ノコラス拔書サセタリ、草木ハ、色ノ自然ナル者也、本艸綱目ノ、草木菜果ノ色字、ヲリヲリニ、拔書スヘキノ由命セラル、年ヲ經テ、生色抄畧八巻ヲ撰テ奉ル、公甚御感アリテ、御肴並ニ巻物、且群玉韻府ヲ下サル、（外題ハ御筆ノ由）且御筆ノ物、下サル可キノ間、何ニテモ文句、願奉ルヘキノ旨仰下サル、則孫思邈カ、胆大心小ノ四句ヲ願奉ル、翌年唐ノ繪絹地ニ、右ノ御染筆ヲアソハサレ、

表具並箱等、皆上ヨリノ、御物數寄ニテ拜領ス、面目餘リアルモノカ、或時參候ノ序ニ御諚ニ、ヌリモノナトニ、タマリタルホコリハ、何ト云文字ニテアルヘキヤトアリケル、若クハ三躰詩ニ渭城朝雨浥ニ輕塵ニトアレバ、輕塵ナトニテモアルヘキヤト申上ル、清水某ニ御タツ子アレバ、埃ノ字ニテモアルヘキカト申上ルノ由、昨日カ、百拙ノ參リタルニ、御尋アリシニ、ホコリハ段々アリト申サル、公ニハ、微塵ノ字ニテアルヘキカト、百拙應テ申サク、倶舍ノ中、微塵ノ上ノ（近本ノ作ニ）ホコリ十（近本十作ヤ）三段、ソレソレ名アリ、タトヘハ、ヌリモノニタマリタル、微塵ノホコリノ、絹地ヲ通シテヌケタルハ、一段精シ、ソノホコリノ、紙ナトノ目ナキ者ヲ通シタルハ、又一段精シ、清水ヲクミテ、一點ノクモリナキモノ、底ニタマリタルホコリ、又一段精シ、カヤウノ類ソレソレノ名アリ、重テ書拔テ獻上スヘシト、參ラバ拜借ヲユルサルヘキノ由仰ラル、

○ハキカケカントウト云切レアリ、文字如何樣ニカクヘキヤト申上クル、公卽チ外記ヘ御尋アリシニ、今ノ通事、刷懸廣東トカクノ由申上ル、サアルヘシト仰ラル、

○凡テ和語ヲ、漢字ニテ考ント思ヒテ、コレヲ文字ニアツレバ、牽强附會ノコト多シ、文字ヲ類推シテ、和訓ヲアテ、スヘシ、コレ通擇（離日擇恐譯歟）ノ道ナリト仰ラル、

○今ノ石帶ト云モノ、昔三公ナトノ帶ハ玉ニテ、コレヲ玉（ゴク）ノ帶ト云フ、法性寺殿ノナサレタル玉帶。御殿ニアリ、イツゾ拜見スヘシ、青色ニテ、獅子牡丹ナトノ紋、ウキ紋ノヤウニ見ユ、拙工ノ及マシキ唐物ナリト、

○小堀遠州ヨリ、奥州ノ正宗ヘ、重寶トテ贈ラレタル掛物ニ、雪村カ（一本ニ雪舟トアリ）枯木ノ枝ニ鷺ノトマリテ、クチバシヲ直下ニシタル圖ノ外、何モナシ疎石ノ賛ニ、水清魚見トセラレタリ、雪村カ畫ニ、モトヨリ水モナケレバ、魚モナシ、然ルニ如此ニ賛シタルヨリ見レバ、イカニモ澄潭ノ清潔ナルニ、魚ノ見ヱタルヲ、鷺ノ見付タルニ少モタカハス、先年關東御下向ノ節、□奥守ヨリ獻上ス、御重寶ナリ、イツゾ御ミセアルヘシ（近本ヘシヘキトニ作ル）此ニ（近本此ニノ二字無）シ因テ御思召ニ、凡テ賛ヲ書ニハ、心得アルヘキコトナリ、下手ノ賛ハ、畫ト重言ニナルコト多シトゾ、

○今ノ世ノ色ノ名モ、古ニアハザルコト多シ、淺黃ト云ハ黃（ウコン）ノウスキ色ノコトナリ、今ハアヲキ色ノウスキヲ淺黃ト云、且淺黃ハ、深黃ニ對スルノ名ナリ、今深黃ノ名ハナシ、

○十九日、參候、

文鋒四件ノコトヲ申シ上ク、近日拜借下サルヘキノ旨被レ仰、

○新渡ノ唐本目銀、今日來レリ、拜見スヘシト仰ラル、醫書ハ、張氏醫通證治大還ノ外ナシ、

○廿日、參候、
昨日ノ雷ノ御ウハサニテ、漢土ノ雷（雷近本作晉）州ニアル、雷獸雷鉄、並ニ霹靂楔等ノ、奇怪ノ御咄サマサマナリ、
正月廿三日ヨリ、先妣ノ病ニ係リテ、度々參候スト雖、忽々トテシ聞クコトアルニアヅカラズ、（榊本忽々トシテ御話ヲモ拜聞セスニ作ル）終ニ三月十二日、壙ニ屬ス、故ニ喪中ハ、參候スルコトナク、二月九日ヨリ、五月三日ニ、始テ參候ス、喪中無恙ノ御會釋ノミ、別ニコトナシ、

○四月十九日、參候、
苅ト云文字、古今漢ノ字書ニ見エス、正字通、字典等ニナクレハ、音讀トモニ不明ナリ、刈ノ字ハ、毎々出タリ、國朝ノ延喜式ニ、苅安艸（カリヤスクサ）ト毎々出之、俗ニモ苅茅（カルカヤ）、マタハ葮苅（アシカリ）ナト、皆廿アリ、但俗字カト云々、苅安ノ漢名ヲ物產者ニ可ニ尋問一ト云々、
堀正超ヘ、苅ノ字相タツヌル處、唐書ナトニ、小人ノ君子ヲ排シ、君子ノ小人ヲ追フコトヲ、芟刈（サンカイ）トス、コレニモ廿ハナシ、他日可レ考、
物產者ニ相尋ヌルノ處、藎艸ナリト、シカレトモ、藎艸ノ下、苅刈ノ沙汰ナシ、

○同廿一日、參候、
醫書ニ拗ノ字アリ、三拗湯、五拗湯ト云拗ノ字、字書ニ見エス、今日コレヲ窺フ、
康熙字典、正字通、續字彙等、コレナキヨシ仰ラル、漢唐ノ史傳ニ天子ノ諱ヲ辟テ、一畫ヲ減シ、又ハ一畫ヲ添ルコトアリ、可レ考ト仰ラル、
入門ノ方意ノ處ニ、三拗湯、五拗湯トノ拗ハ、不順ナリトス、拗ノ字ノ誤リカト云々、

○字典ハ天下ノ文字ヲ盡スト云ヘトモ、俗字ヲ、正字ノ下ニ附ス、正字明ニ知テ、俗字ヲ知ルニハ可ナリ、俗字ヲ知テ、正字ヲ考ントセバ、通篇遍ク見サレハ知リカタシ、仕ヤウアルヘキモノナリト仰ラル、
俗字便覽ト云書アリ、見ルヘシト仰ラル、

○諱解ノ中ニ、天子ノ諱ヲ辟テ、作リカヘタル文字ノ分、一處ニコレヲ出ス、重テヌキ出シ見スヘシト仰ラル、（一本ニ「此一段廿二日參候也」トアリ）

○前日秦武貞ニ、舞樂ニ扇ヲ持コトハ、何レノ世ヨリ、始リタルニヤト、御尋アリテ、
秦武貞、命ニ應シテ一封ヲ奉ル、（詳ニ別記ニ記ス）
倘和漢ノ書、見當リ次第、可ニ申上一ノ由仰下サル、且御記錄ノ中、五節ノ淵醉ニ、今樣ヲ舞カナテタル文、並圖アリ、コレハ後白河院、保元平治ノ後、□□□□ノ時分ノコトナリ、カヤウ

UNIVERSITY OF ILLINOIS LIBRARY

ノ物見當リタルヤ、若未見當ラスハ、拜借ヲユルサルヘキノ由仰下サル、

奉ㇾ畏ノ由申上、翌廿二日、申キカスノ所他出、息ニ申置、

○後唐與二梁人一戰二于葫蘆一套（榊本無套字）詳二明一統志一、字典、（字典榊本本文トナス一本同）

右ノ文中、葫蘆ノ地、何州何府何縣ニアリヤ、イツソヤ大明總圖ヲ、上覽ニ備ヘシ、金子某ニ可ㇾ尋ノ由仰下サル、

同御請申上ゲ、又同廿二日申遣ス、

○廿三日、　參候、

秦武貞、私宅マテ今朝參リ、曾テ拜見不ㇾ仕、年來ノ懇望、アリタキノ由申ニ付、拜借ノ願申上ルノ處、御記錄ヒソカニ拜見ス、武貞ヘハ、追テ書寫下サルヘキノ由、仰下サル、

葫蘆ノ御請ハ、金子某ハ覺悟ナキノ由、藤田某再タヒ、大明總圖考ヘ書拔、サシコスノ間、書寫ノママ指上クル、御滿足ト云々、即チ大明一統志、並ニ總圖ナト御吟味ノ處、蘆浦僧正參候ノ旨申上ルニヨッテ退出ス、

○廿九日、　參候、

拾芥抄ト申ス書ハ、一方ノ出處ニモナル書ニテ候ヤト窺フ、

仰ニ、拾芥ハ、東山ノ左府實熙ノ作ナリ、左府ハ和漢ノ英才ニテ、又ツヽク人アルマシ、隨分ノ入用ノコトヲ、ツマミ擧ラレテ、シカモ出處正シク、重寶ノ書ナリ、然レトモ世本、甚タ誤字脫簡アリ、コレヲ正サントスレバ、出處ノ引書夥キコトニテ、御意ニモ思召ハアレトモ、盡クハ正サレズ、隨分ノ好本ノ書本、御所持アリ、若正サント欲セハ、ソレゾレノ本書ニテ、校正シテ可ナリ、サレトモ夥シキコトナリ、昔モ水戶黃門ニ、天下ノ英才ヲ集ラレシトキ、仕官ヲ望ム人アレハ、先古參ノ宿儒老才ノ人出合テ、初テ及第ノトキノ挨拶ニ必其方拾芥抄ヲ見ラレタルヤ、盡ク濟サレタルヤト尋ヌ、答テイカニモ見侍リ、何ニテモ御尋候ヘト申ス人ハ、才ノホトモ知レタリ、抱ルニ不ㇾ足ト仰ラル、

又拾芥ハ、中々私式ノ及フ處ニアラズ、吟味ハ隨分致シ候ヘトモ、其本書ヲ盡ク正スホトハ、臣カ及フ處ニアラスト云人ニハ、餘程ノ英才ナリトテ、抱ラレケルトソ、誠ニ黃門モ、エセモノナリト仰ラル、

○カスガイト云正字シレカネタリ、鎹ノ字ヲ、古來用來レリ、シカルニ此鎹ノ字、字書ニツヒニナシ、博覽ノ士ニ尋ヌヘシ、和書ノ歷々タル書ニ、多ク出タレトモ、カスガイノコトニアラズ、然ルニ今和漢通事ノ人ニ、カスガイト云字ヲトヘハ、鎹ノ字ヲ答フ、何トヤランキミワロキコトナリ、和字ノ漢ニワタルヘキヤウモナシ、イカヾト仰ラル、

○閏四月六日、　參候、

内々（内々榊本作兼テ、一本作内々）、其方カ申スハ、後漢ノ張仲景ハ、獻帝ノ時孝

廉ニ擧ラレテ、官長沙ノ大守ニマテナリタル人ニテ、後漢書ニ傳ナキコト、一統志ニハ載タリ、仲景全書ノ巻始ニ載タルハ、文獻通考ノ說也ト、委キ傳何ソニアルヘキコトナリト申シキ、頃日大切ノ本ニテ、仲景碑銘ヲ御覽出サレタリ、恐ラク普通ノ記傳ニアルマシキト仰ラル、書モ拜見ヲ許サル、當時ハ申マシキ由、堅ク制セラルト云々、

○七日、參候、

凡ソ通事ノ申スコトハ、皆漢文ナリトハキハメカタシ、前ニ所謂鋖ノ字ノ類是ナリ、マサシク唐人ノ云コトサヘ、漢字トハ究メカタシ、昔天山ノ話ニ、此以前朝鮮人ニ、伽羅ノ油ヲ送リシ人アリ、通事仲間ヨリアヒテ、唐人モコレヲ問ハヽ、香蠟油ト對ヘキヨシ申シ合セテ唐人ニ見ス、唐人是レヲ見テ、コレハ日本ノ伽羅油ト云モノナリト云ヒシ、スレハ唐人ノ云コトモ、コトニヨリテ漢字ナリト云カタキコトアリト仰ラル、

○八日、參候、

頃日度ノ御吟味アリ、トカク周尺ト云モノ、キハメカタシ、何レノ道ニモ、漢尺カ、唐尺カ、周尺カ、キハマリタル尺ナケレバ、究メカタシ、周尺ハ、唐尺ノ六寸四分弱ナリト云、六寸四分弱ハ、周尺ナルヘキカ、ソノ周尺ト云モノハ、ナニガ出處ナルヘキカ、シレガタシ、少シ據ヲ御見付ナサレタリ、追テ仰聞サルヘシ、今度法隆寺ノ尺モ、五寸ニハ目ヲモリテ、今五寸ノ所ハ目モナク、五寸ノ處ヨリ長シ、故ニ世以テ疑レ之、アレハ尺ニアラズ、文鎮ノ類ニテ、外ノ道具ナリ、外ノ道具ニ、タマタマ周尺ノ目ヲモリタルモノナレハ、五寸ノ所ヲ折反シテ、一尺トスルノ法ナリ、目ノナキ處ハ、全ク尺ニアラスト仰セラル、

○九日、參候、

先日申セシ拾芥ハ、京程ノ部ハカリノコトナラハ、延喜式ノ彈正（四十一、四十二、）ニテ考合スヘシ、文字大ニ差它（差它榊本作チガヒ）アリト仰ラル、

○一統志ト云モノハ、大明ハカリニアラス、唐ニモ宋ニモアリ、故ニ古書ニ、一統志ト引タルモノ、大明一統志ニナキコトアルヘシ、シカレトモ日本ニテハ、一統志ノ、大明ヨリ外ノハ、未台覽ナキ由、（國史經籍志、澹確類書ニ出、）

○十日、參候、

明清ノ間ニ、醫ノ傳ノシレサルハ、書出シテ上クヘシ、此頃明清ノ間ノ人物御考ノコトアリ、次手ニ考ヘ下サルヘキノ由ナリ、因テ兼テ思立シ、醫脉淵源錄ノ編集ニトリカヽレリ、

○十一日、參候、

竹田某カ所持ノ、古板ノ玉篇ニテ、鋖ノ字ヲ考ヘ上クヘキノ由仰ナリ、御請申上ル、

○十三日、參候、今日御灸、

昨日十二日ニ、竹田某ニ御尋ノ趣ヲ申入シニ、先達テ承リシ故ニ、奥田（近本作村）某ハ、先年普請奉行タリシ故尋見シニ、江戸ニテハ、支用帳ニハ必鉸ノ字ヲ書テ、カスガイト訓ス、京都ニテハ、イザシラストナン、大德寺芳春院ノ僧ニ尋シモ亦如レ此、鉸ノ字ハ、字書ニ釘鉸トツヽキテ、形如ニ松葉一挾ニ婦人衣一トス、イカサマニモ、カスガイニ類スルヤウナリト申上ル、

仰ニ、鉸ノ字ハ、ハサミト訓シテヨシ、今ノハサミハ形コトナリ、昔ノハサミハ、釘ノコトクナルモノヲ、本ノフトキ處ニテ、ヤリチカヘノ物ヲ打テ、イカニモ形松葉ニ類シタルモノナリト、

○此日、大明一統志拜借シテ、張仲景ノ傳ヲ寫ス、（景仲全書、張機ノ首書ニ記レ之、）

○十五日、參候、

兼テ、竹田某ニ下サルヘキ、御記錄ノウツシ仰付ラレタリ、廸モノ義ニ、年號仰付ラルヘシトナリ、

竹田某ノ申上シヤウハ、翁ノ面ノ齒ニ、必カネツケタルコト、數十面ヲ集メテ然リ、先日ノ密書ニ書上タルコトク、相傳ニハ、採桑老ノ面ヲ、翁ニ用ヒタルヲ、樂人ノ方ヘトリテ、採桑老ヲ仕立テタルト云、樂人ハ此方ノ面ヲトリテ、能ニ用テ翁ト云ト、互ニ云カチナリ、夫ハトモアレ、面ノ齒ニ、カネツケタルカラハ、日本ノ具ナリト存スルナリ、御序アラハ窺フヘシトテ、兼テ願ヒ候ト申上ケレハ、イカニモ、採桑老ノ全躰、皆日本ノ仕舞付ニテ、行粧モミナ日本ノ仕立ナリ、面ニカキルヘカラス、タマタマ採桑老ノ名アルカラ、仕立タル者ト見エタリ、文字モアチノハ採桑郎ナリ、日本ノハ扶桑老ナリ、丁トアチノ妾夫蓮（相府）ヲ、日本ニテ想夫戀トシタ格ナリ、又アタマカラ伽綾ナトハ、仕舞モ行粧モ、ミナ天竺仕立ナリ、ミナガミナマデ、天竺ノナリニテハアルマジケレトモ、ソレ風ニ仕立タルモノナリト仰ラル、

○十七日、參候、

竹田某ニ下サル、御記錄ノウツシ、潛ニ拜見ス、

（一本此條黃薥條ノ次ニアリ）

○世本ト申モノ、古書ナリト承候イカヽ、タマタマモ有モノニテ候ヤト御窺申上ル、追テ御考下サルヘキ由ナリ、

○黃薥ト云艸バナ、何ト申モノニ候ヤ、松岡ヘ尋ヌヘキ由、並ニエヒネノコトモ可レ尋トナリ、琉球ニテ程順息（近本一作循息）カ詩ニハ、題ニ海老根一トアリ、コレハ日本ノモノカ、此花日本ニテ、海老根ト云テミセタル故ニ、程氏モソノマヽ、其名ニシタルモノナルヘシ、イツレニモ漢名ヲ御聞ナサレタキトナリ、其旨申遣ス、

○十八日、

早天、林彈正ヨリ手帖ニテ、昨日申シ上シ世本ノコト、御考當ナ

サレタル趣ニテ、書寫シ下サル、別紙コレアリ、

○耆、・參候、

昨日玄達（玄達松岡氏、字成章、號恕庵、初學ニ神道、後物產學ヲ以テ時名アリ、其先尾州、住ニ平安、博覽好古、儉素淳撲ナルハ人ノ知ルトコロナリ）ヨリノ、御請中上ル黃蕙ハ、和名ニテ箸蘭ノコト、（一本此處ニ「一ニ翡蘭ト云ト申上ル」トアリテ下ニナシ）エヒ子モ皆蘭ノ種類ニテ、紫ヲ紫蘭ト云、黃ヲ黃蘭ト云、一ニ翡蘭ト云ト申上ル、御前ニ思召立コトアリ、ソノエヒ子ノ、紫ニモ黃ニモナキ本名ハイカ、トノ御尋ナリ、尋ヌヘキ由仰ラル、

○世本ト云モノニテ司馬遷カコシラヘタル史記ナレハ、古書ノ世本ニ云ト出タル處ヲ、史記ノ世本云トァルト、考合タキコトナリ、一々合ヘハ必定ナリ、サナケレバ疑シ、ソレニ付テ和ノ記錄ニ、漢志曰ト出タルヲ、漢書ゾトコロエテ見レハ、漢書ニナキコト多シ、後成園寺（後成恩寺、一條兼良公、永享四年攝政、文安三年太政大臣、同關白、應仁元年還補、文明五年出家、法名覺惠、同十三年四月二日薨、八十）ノセラレタル、令ノ抄ニ、漢志ヲ引テ置レタルヲ、壺井ノ某カ、漢書ニハナキ文ナリ、引ゾコナヒナリトテソシレリ、壺井（壺井氏、名義知、字子海、稱鶴翁、通稱安左衛門、河內產、神學又有職ニクハシ、諸書ヲ著）漢志ヲ、漢書ノコトゾト思ヒタル故ナリ、漢書ハ班固カ作、漢志ハ荀悅カ作ニテ、漢書ヨリ已前ノモノナリ、ソレヲ引合テミレバ、後ノ成園寺ノ說正シクコレアリ、却テ壺井カ麁相ニテ、漢志ヲシラサル故ナリ、此漢志ト云モノ、漢ヨリ前ノ書ナレハ、アルヘキヤウナシ、然ルニ近年不圖求得テ、古來ナキト云シ漢志ト引タルモノ、一々ノコラスアリ、珍キコトナリ、世間ノモノモ、漢志トテ、ワツカアルユエ、漢書ノヌキカキソト心得テ、漏シタリトミエテ、不思議ニ得ラレタリ、アトヨリハ追々モ來ルヘキカ、先御前ニメサレシ本ハ、康煕帝ノ不思議ニ求得ラレシユエ、官板ニ、新本ニセラレシ本ナリト仰ラル、

○又仰ニ、種類多キモノハ、一々漢名アルヘカラス、後西院ノ御時、山茶（ツバキ）ヲ御好アリケレハ、處々ヨリコレヲ獻上ス、珍花ハ手鑑ニシテ、極彩色ニテ片表ニ、九ツ、花ヲ記サレシニ、年々ニ冊數多ナリケルホトニ、ツヒニ五十卷ハカリニナリ、所詮カギリナキコトナリトテ止ラレタリ、コレニヨリァ思フニ、菊ノ椿ノト云モノ、人ノ數寄ニヨリ、數多ニナルモノト見エタリ、一々漢名アルヘカラスト仰ラル、

○十九日、參候、

玄達書付ヲ指上ク、御留主御所、

○廿三日、參候、

御雜談耳、

○五月三日、參候

昨日、進藤左馬頭カ館ヘ、朝茶ニナラセラレタリ、茶後百拙、西王寺夕翁ナト種々ノ咄ノ次ニ、牙舍利ト云モノハ、釋尊ノ牙

ノ由ナリ、日本ニ正眞ノ牙舍利ト云モノ、七八ケ所アリ、漢ノ書ニモ、四十餘ケ所コレアル由本文アリ、シカレハ釋迦ハ、齒牙カク多クレハ、口モ又大ナルヘシトテ、大笑シタリトナリ、

私申シ上シハ、舍利ハブンスルトテ、分生スルト承ル、分生ニアラサルヤイザシラスト、

仰ニ、舍利ニカキラズ、ブンスルモノ多シ、先年故大膳介了安カ、本殿ニテ咄シニ、昔シ蚫ヲ食テ、眞珠ヲ嚙當タリ、取テ象牙ノ箱ニ入テ置シニ、程經テ二ツニ分生シタリト申セシニ、ソレハ御覽アラレタシ、何トキニテモ持參スヘシト仰ラレシニ、幸唯今モコレニアリトテ、ドウランヨリ、彼象牙ノ小箱ヲ、袱紗ニツヽミタルヲ、取出セシニ、象牙ノ箱、コトゴトクワレ損シテ、眞珠數十粒ニ倍ス、不思議ナリトテ、一ツヽ一坐ノモノ共皆モラヒシ、今モ有ヘシ、イツニテモ、問見ルヘキノ由仰ラル、

○典厩カ庭ニ、百日紅アリ、其坐ノモノヽ咄、イカナル大木ニテモ、身木ヲ人ノ爪ニテ抓ケハ、枝葉コトゴトク動クヨシ、歴然タルヨシ、還御ノ後、羣芳譜ニテ御考アレハ、其文歷々如二其言一、

○四日、　參候、

申シ上シハ、日本ノ風俗ニテ、古今ノ歷代書籍ヲ、秘セラルヽカラ、斷絕ニ及フコト多シ、最惜キコトナリト存スルハ、印行サヘアレハ、何方ソニハ遺ルコトアリト、申シ上ケシニ、

イカニモ汝カ申ス如クナリ、コレニハ古今ノ人ノ、心得チカヘタルヨリ、如レ此ニハナリ來レリト思召ナリ、正シキ日本ノ歷代サヘ、日本後紀ハ斷絕シテナシ、三代實錄ハ全ク存ス、コレニテモ見ルヘシ、台家ニモ、御堂殿ノ直ニアソハサレシ御記錄モアリ、凡七百年來、今モ左大臣家ニハ、每日ノ日記アリ、コレラハ子孫ノ爲ニ記シテ、他人ノ見ルヘキモノニアラス、朝家ノコトニテモ、時アリテ諷ス、子孫ノ爲ナレバナリ、コレラノ書ハ、堅ク秘シテ、他人ノ見ルヘキモノニアラス、自分面々ノ書ハ、善惡トモニ、印行ナサレタキモノト思召ノ由ナリ、

○得長壽院ト、蓮花王院トハ、兩處ノヤウニコレアリ、何クニテコレアルヤト、尋ネタル人コレアリ、今ノ三十三間堂ハ蓮花王院也、得長壽院今一ツアルヘシ、仰ニ、ソノ處ハイサシラス、蓮花王院ノ千手千躰ハ、諸臣ニ命セラレテ、ツクラシメタリ、御先祖ヨリモ作ラレタルコト、玉海ニ見エタリ、スレバ三十三間堂ハ、蓮花王院ノ地ナリ、

○五日朝、　參候、

御病中ユヱ他事ナシ、晩參候、鷹司大納言卿、御ナリ、御目見ナシ、

○六日、參候、
御參內、御留主ノ御所、
○八日、參候、
昨夜一位樣ヨリ進セラレシモノ拜見イタシ、コノ書付、松岡玄達ヘ相尋ヌヘキ由仰ラル、其狀(カタ)チ南京染付ノ壺、(三升計入、)上ヲトニテアミ、直ニ提ラル丶樣ニ、手ヲコシラヘ、壺ノ口下ヲ、紅唐紙ニテハリ、上ヲ黃唐紙ニテ、小紋形ノキリヌキニシテ、外箱ハ、桐ノサナダツキノ物二ツ、一ツノ上ニハ、冬箏輔(箏一本作算)トアリ、一ツノ上ニハ、十香藕トアリ、コノ十香ト云モノ何ノコトソ、相尋ヌヘキ由ナリ、コレハ去頃西丸樣ヨリ、一位樣ヘ獻セラレシ物トソ、
○十日、參候、
右御尋ノ趣、玄達ヘ相尋ヌルノ處、不レ奉レ存ノヨシ申シ上ク、其余ハ御雜談ノミ、(松平播磨守コト、青山駿河守コト、)
○十五日、參候、
前日百拙、夕翁等ト、左馬頭ヘナラセラレシ節ノ咄ニ、百日紅(漢名紫薇花、)ノ木ヲ、手ニテ搔ケハ、花葉枝條コトゴトク戰ヒ動クト云ヘリ、物類ノ相感ナリト云シヲ、後ニ御覽アレハ、華譜ヤ、羣芳譜ナトニ其說出タリ、漢ニモソノ沙汰アリト見エタリ、昨日大德寺ヘナラセラレシニ、經堂ノ側ニ、兩抱ハカリノ百日紅アリ、大木ナレハ枝葉低覆テ、池ノ上手モトヾクハカリナリ、人ヲシテ動カサハ、兩人ヤ四人ニテ、動クヘキモノニアラス、彼事ヲ思出テ、廣瀨廣介ニ仰セテ、是ヲ搔摩セシム、初ノホトハサモナシ、十遍ハカリ此木ノ幹ヲスルニ、枝葉コトゴトク慄ヒ戰ヒテ風モ吹カヌニ鳴ル音セリ、手コレヲスルコトヲ止ムレハ、戰慄モ亦從テヤム、何トシテカ丶ルコトヲ、仕覺エタルモノソ、イサシラス、藥性ナトノ理ニテオスヘカラサルコトモ、又如レ此ナルヘシ、
○今日朝鮮本ノ、儀禮圖ヲ御覽ニ入ル、上ニモ經解御所持ニテ、引合セテ御覽アルニ、異ナルコトナシ、御用コレナキ由ニテ反シ下サル、
○野中ニ、石碑或ハ木碑ヲ立テ、右何ヘユク道、左ドコヘユク道ト記ス、コノ名ヲ、何ト申スヘキヤト、申シ上シニ、御覺悟ハナシ、アルヘキモノナリ、通事ナラハ早速出スヘシ、名物六帖ニハアルヘシ、可レ考ト仰ラル、彈正ト兩人、考レ之レトモナシ、堠子ハ、俗ニ云一里塚ナリ、其次ニ、分堠子ト云モノ有、是ナルヘキカト窺フ、マタアルヘシ、重テ考ヘシト仰ラル、
○十九日、參候、
此日ノコト、誤テ奧ニ記ス、
○廿日、參候、

右ニ同シ、

○六月十四日、　參候、

百拙ト一處ニ御前ニアリ、前日ノ榜子ノコト仰出サル、百拙モ何ヤランニテ、覺エタルヤウニテ、不分明ト申上ラル、外記中上タル類ノコトナリト申ス、予百拙ニ問フ、醫書ニ、筝尖ト出タルハ、竹ノコノトカリナルヘシ、同シ書ニ、蘆筝尖トアリ、スレハ筝尖モ、蘆ノツノグムモノカ、百拙答テ曰、漢ニハ尖ノ字ヲ、モノヽ芽ニ使フコト多シ、筝ノ字モ、メノコトニツカフコト多シ、筝尖ハ、竹ノコノトガリナリ、蘆筝尖ハ、アシノツノナリ、茶ノメヲ、茶筝ト書タルコト多シト、西瓜ナト出テ、晩景マテ在ルヘキ時體ナリ、今日神事ノ由、御暇申退出ス、

○十五日、　參候、

獵二百艸ヲ一ト云コト、或書ニアリ、獵ト云ハ、採コトニヤト仰ナリ、百艸ハ群艸ヲ五月五日ニ採コトナリ、群艸ナレハ、採コトヲ獵トモ申ヘキコトナリ、涉二獵羣書一トアレハナリト申上ク、

○廿日、　參候、

御床ニ、古キカナ文ノ御掛物アリ、コレハ俊成卿ノ娘ノ内侍ノ文ナリ、肩書ニ、壽永二年トアルハ、定家ノ筆跡ト仰ラル、此時代ノカナニテ、讀カタシ、返書ニ、トヨノアカリモ、ヒカリナキヤウニトアリ、左モアリツヘクアハレナリ、

○廿二日、　參候、

御床ニ、青キ紙ニ歌カキタル、脇ハホツレタルヲ、裡打シテアリ、コレハ百人一首ニアル俊頼朝臣ナリ、俊頼ハ俊成ノ師匠ナリ、世ニ此紙ニ、此筆跡アルヲ、アチコウゼイナリト云ハ誤ナリ、アチコウゼイナリ榊本靑行成ニ作リ本文トナス　一本々文トス此ハ□□□ノ集ナリ、□□□ノ集ナリ榊本作新古今ノ歌切レナリ御先祖宇治ノ頼通公ノ記ニ、俊頼ニ仰テ、此集ヲカ、セタルコト明白ニアリ、カウゼイハ、百年ホト後ナリト仰ラル、

○六月廿四日、　參候、

此日、律君御方御不豫甚シ、コレヨリ晝夜相詰、故ニ日々常ニ御前ニ候シテ多レ聞、シカレトモ記スニ暇アラス、且ソノ日ヲ不レ覺、故ニ追テコレヲ記ントス、此以下日ヲ不レ記モノハ、皆此間ノ御命ナリ、或時ト記スト云々、ト云々榊本作モノコレナリ

○或時、　參候、

凡ソ一藝ニ長スルモノ、其極ヲ極ムレハ、他ニモ自ラ通用セスト云コトナシ、難波故中納言ナド、蹴鞠ニ其極ヲキハメタルモノト可レ謂、紫宸殿ノ亂間ノケタ、三ツアルヲ、人々ノ望次第ニ、越サセテ見セタル人ナリ、若キ公家衆ノ集リテ、鞠ニテ紫宸殿ノムネヲ越サスルニ、一人モ越サスルモノアラス、コレヲ故中納言ニ申ス、中納言シハラク思案シテ、高サ十五間ノ處ナリ、イカサマニモ越カタシ、併祿アラハ、越サスヘシト云、皆々所

望シクレハ、コノ（コノ榊本ナシ一本同）屋ノ棟ハ、鱗形ナリヤト問テ、直上ニ高足ヲ蹴上テ、棟ノムカフノ方ヘ落セシニ、念ナク小御所ノ中庭ニ落タリ、ソノ日ノ付所各別ナリ、或時　法皇、御庭ノ池水ニ、舟ヲ浮ラレシニ、御前ニモ御側ニ伺候アリシニ、舟ノトモニ、愛宕故宰相ト、難波中納言ト、奉行シテ坐セシニ、若キ殿上人ノ無功ニ、漫ニ棹サシタルカ、島ノ嵜角ニ當テ、御舟動搖ス、主上ニモ、御前ニモ、反覆ナサレシカハ、マシテ後ニ伺候ノ宰相ト中納言ハ、念ナク池中ニ落タリト見エシカ、難波ハ本ノ如ク端坐ス、愛宕ハ全ク墮落シテ、狩衣モ下着モ、水ヒタシ、泥ダラケニナリシカハ、笑止ノ中、大笑ニナリテ、興セラレシ中ニ、難波ハ仕合ナリト詔アリテ、人々怪我ハナキカト、打ヨリテ見シニ、難波狩衣ノクヒスチヨリ、腰帶ノ邊迄、水ニ濡レタルヲ見テ、扨ハ落ラレタルニハ究タレトモ、ハネ返シテ坐セラレタルコソ奇特ナレト、御褒美アリシカハ、難波申サレタルハ、凡ソ何ク何方ニテモアレ、ワツカニ足ノ拇指ノカヽラソホトハ、怪我ハ致サシト申サレタリ、藝モアレホトニ熟シテハ、一筋ニヌケテ百筋ニモ、ソノ筋ニハ通用スルナリト仰ラル、

○或時、參候、

台命ニ、凡ソ一年ノ月、四月ハカリハ、專ラ卯月ト稱シ、十一月ハカリハ、霜月ト稱スルコト其故ナシ、歌ヨミナトハ、卯月ハ、卯ノ花月ト云詞ノ縁ナリ、霜月ハ、シモフリ月ト云、縁ナリト云、卯ノ花月ヲ四月ト云ハヽ、三月ヲ櫻月ト云ヘシ、霜初降ハ、九月ニテコソアレ、十一月ハ雪フリナリ、因テ考ミルニ、夏殷周ニテ、正月各異ナリ、今ノ正月ハ、夏正ヲ用ルトナン、卯月霜月ハ、周ノ正ニテ云ナルヘシ、周ノ正ハ十一月ニシテ、子ニ建ノ月ニシテ、子丑寅卯ト、第四月ニ當ルモノハ卯月ナリ、ソレカラ數レハ、十一月ハ今ノ九月ニ當テ、霜降ノ月ナリ、シモ月ト可レ稱コトナリ、コレニ付テ、四月ノ佛誕生モ、今ノ四月ナリヤイナヤ、釋迦ハコトニ周ノ人ナレハ、今ノ正月四月ニテハアルヘカラス、自空ニ御尋アリシニ、夥シキ書記アレトモ、シカト今ノ四月トモ、四月ニテナシトモ、キハメカタシト仰ラル、

ソレニツキテ、霜月ト云ハ漢語ナリ、和訓ニアラス、コレニテ彌九月タルコト明ナリ、集古錄云、涒灘霜月ノ靈、皇極之日、蓋九月五日ナリト云ト、仰ラル、

和朝ニ、冬ノ菊ヲ寒菊トテ、花小ク葉テリ、嚴寒ニ當テ開クモノヲ名ツクルハ、漢名ニアラス和名ナリ、アレヲ何ト云ヤ、菊ノ類ナリヤ、見當タラスヤト仰ラル、氣モツカヌ由申上ル、ソレヨリ本艸ナカ（ナカ榊本作ナラヒニ一本作ナニカ）ニ、圓機活法ナトニ、春ヲ除テ、

夏秋冬皆菊アリ、夏菊秋菊冬菊ト云、冬菊ト云モノ、寒菊ト云ヘシヤ、活法ノ歳菊ノ下ノ詩、寒菊ノヤウニキコユ、然トモ出處シレス、ソノ、チ百詠ノ中ニ出タル由、詩モ寒菊ノ詩ナリト仰ラル、其後世繼某カ考ニ、唐宋詩ノ中、陳月觀カ臘月菊ノ詩ヲ考テサシ上ル、尤考合ニ然ルヘキ出處ナリ、認ラルヘキノ台旨ニテ、北小路左兵衛尉ニ、ウツシ仰付ラル、

○アサカホト云艸ハ、牽牛花ノコトナリ、槿ノ字ヲアサカホト訓スルハ、アヤマリナリト云、コノ槿トハカリ云モノ、何ニモ見アタラス、木槿ハムクゲナリ、シカルニ昔ヨリ、和歌ニ詠スルアサカホハ、槿ノ字一字ナリ、古キホト槿ノ字ナリ、ソノ和歌、ムクゲヲヨミタルヤウニ聞ユル歌モアリ、如何樣ニモ木篇ノ字、艸ニテハアルヘカラス、何ソ木槿ノ異名ヲ、牽牛ト云カ、重テ可レ考ト仰ラル、蕣ノ字ハ牽牛ノ釋名ニ出、

○或時伺候、

藤田某カ問ニ、道傍ニ木或ハ石ノ榜子ヲ立テ、、右左ノ字ヲシルシテ、道シルヘトスルモノ、何ト稱スルヤ、予不レ知此ヲ伺フ、

上ニモ御覺コレナシ、名物六帖ニ、一里塚ヲ堠子ト云、ソノ下ニ、分堠子ト云字アリコレカ、重テ問ヘシト仰ラル、其後淸水外記ヘ御尋アリシニ、今ノ通事ハ、コレヲ引道牌ト云ト、其後世繼某カ考ニ、唐宋人ノ詩アリ、並ニ其註ニ、堠子ハ今ノ五里牌コレナリトアレハ、大方コレナルヘキカ、

○浪人ナトノ、武士ノ家ヘカケコミテ、先ヘウケコマル、ヲ、カクマハル、ト云、何ノ字ナルヘキヤト問、（コレモ藤田某カ問ナリ、）或時參候コレヲ窺、御覺コレナキ由ナリ、匿ノ字ナルヘキカト申上ル、論語ニ、匿レ怨友ニ其人ニ左丘明耻ト云、コノカクス、色ニモ出サヌ字ナリ、イカ、アルヘキヤト仰ラル、其後六諭衍義ニ、盜宿ヘカクシオクヲ、客留トアリ、公義ヨリ御尋ノモノ、道具ニテモ何ニテモ、カクシオキテ出サヌヲ隱匿ト云、コレナルヘキカト申上ル、左モアルヘキカト仰ラル、

○或時、參候、

公ノ製セラル、處ノ、文房四賢、並ニ諸賢ノ文章ヲ拜見ス、即チ其文章共ヲ拜借ス、七月晦日、律君御回復ノ御祝事下サル、其日返上、私ノ四賢ノ醫案ヲ指上ク、大ニ御褒美ナサル、此一件別ニ一冊トス、

○八月廿日、參候、

唐本ノ集韵ト云モノ召上ラル、重寶ノ書ト云々、ソノ書ニ朱印一冊コトニコレアリ、其印中ノ古文字、謝在抗藏書（近本無書字）印トアリ、謝在抗ハ、五雜俎ノ作者ニテ、明ノ初ノ人ナリ、不思議

ナリト仰ラル、書ヲ御好ナル故、カヽル奇特ノコト、折々コレアリ、列朝詩ニ小傳アリ、一本此一行ナシ

○同廿二日、　參候、

後水尾院ノ詔ニ、凡ソ諸藝通敏ノ人ニモ、必コノ一筋ニハ、不器用ナリト云コトアリ、諸藝不器用ノ人ニモ、コノ一筋ニハ、甚器用ナリト云コト、コレアルモノナリ、コレ天然自然ニ、カクアルモノナリ、故ニ凡ソ諸藝トモニ、ソノ道ニスクレルト、スグレヌハ、性質才用ノコトハカリニアラス、其身ノ仕合ナリトノ詔ナリ、ソレハイカニト申上ケシニ、天然ニソノ筋ノ器用ナル藝ヲ、修行スル人ハ、各別ニ骨モヲラス、骨ヲ折テモハカユキテ、上手ノ名ヲ得ルコト必定ナリ、コレ仕合ナリ、若シソノ藝ニユキアタラスニ、天然ノ器用ヲ、生レツカヌ藝ニノミ骨ヲリテ、一生中工ノ名モトラヌコト多シ、コレ不仕合ナリト詔ナリ、尤ナルコトナリ、凡ソ藝ハ、其筋ヲ知テ、修行スヘキコトナリ、サレトモ生知ハ、各別習ハス、修行セスニ、上手ニナルヘキヤウハナシ、サレトモソノ筋ニ、生レツキタル人ハ、ソノ藝ノ、ナラヒハシメヨリシテ、志ス處モ深ク、修行モ自ラ厚ク、スキニナリテ精出スカラ、ハカユキ、ハカユクカラ、精ノ出ルヤウニナル、堺ノ笛大鼓ウチ總右衞門ノ若キ時、大病人ニテ、一里ハカリワキノ醫者ニカヽリテ、毎朝藥ヲトリニ家來ヲ遣ス、ソノ僕ノ、門ヲ出ルヨリ返ルマテ、大鼓ヲキサミテ、毎朝カクノコトクスルコト七年、終ニ病モ癒、大鼓モ天下ニ名人ノ名ヲ得タリ、コレ修行ノミニアラス、仕合ノヨル處ナリト仰ラル、ソレニツキ、應山公ノ時分ヨリ、太閤悠山ノ初マテ事ヘシ、無禪ト云侍アリ、コレカ申セシハ、凡ソ藝ヲ習フ人、古ト今ト各別ニナリシ、古ノ人ノ習フハ、只一藝ニテ、ワキノコトニハ聊目モヤラス、ソレユヱ其一藝ハ、ヨクモアシクモアツシ、今ノ人ノ藝ヲ習フハ、數多ノコトニ目カツキテ、何モ角モ、器用ナルヤウニミエテ、皆々ソノ藝ウスシ、昔七八歳ノ子ノ、大文字ナト書ハ、イカフメツラシクテ、偶コレアレハ、取ハヤシテ賞翫ス、サルホトニ、其子成長シテ、一方ノ手カキナリト稱セラルルモノ多シ、今北野淸水等、男女トモニ五六歳カラシテ、種々ノ大字ヲ掛テ、其數ヲシラス、サレハコソト思テモ、成長ノ後、皆コトコトク手書ニモナラネハコソ、其名ヲキカネト申スト仰ラル、

○先日ノ仰ニ、鶯ノ巣カラ、杜鵑ノ出ルコトハ眞實ナリ、鶯ノ子ノホトヽキスト讀タレトモ、子カ巣ヲカルカハイサシラス、昔シ上ノ御殿ニ、夏ノ初ニハ、鶯ノ巣ニ杜鵑ノスダチスルモノ數シラス、ソレユヱ、ホトヽキスノ初音メツラシカラス、最カシマシキクラ井ナリ、カノ大無、

杜鵑、イトカシマシキ、初音哉、
ホトヽキス、ナカデカナハヌ、コトナラハ、イコフ遠クカ、
サテハ夜更テ、
トヨミシクラ井ナリトテ、大笑アソハス、上ニモ度々御覽ナリタルト仰ラル、

○コレモ前日ノコトナリ、百日紅ヲ紫薇花ト云テ、本艸ニアルヨシ、貝原篤信ノ大和本艸ニ記サレタレトモ、綱目ニハナシト仰ラル、玄達ヘモ御尋アリシニ、本艸ニテハ覺エ奉ラス、他日中上ハキノ山ナリ、總シテ此公ノ御考如レ此、大和本艸ニ、本草ニ出トアレハ、本草ヲ御吟味ナクテハ、出處トナサレス、

○九月七日、

今日、律君御方御生日、内々御祝儀、御料理御次ニ於テ被レ下レ之、

總シテ、後鳥羽院已來ノ宸（川崎本作眞）記ハ、後光明院ノ時ノ禁裏炎上ニ、悉ク亡タリ、御道具ニモ、天下ノ名物トモ、ミナ燒失セリ、眞ノ天災ナルヘシ、中井定覺カ若カリシトキニテ、此時ノ火消ニ參リタリシカ、イツモ咄セシハ、小御所ヘ火ノツクト見エシ、其屋天井トモニ、御泉水ノ築山ヲ隔テヽ、向ナル御文庫ヘ、打カフセテ燒立タルホトニ、人力ノ及處ニハアラサリキト語ル、サモアルヘシ、五間ニ八間ノ御文庫、三ツトモニ、一度ニ燒失セリ、惜ムヘシ、然ルニ壹切ノ御劍、コノ外ニ、今二振ノ御劍モ、念ナク燒失タルカ、後日ニ柄モ鞘モナクテ、身ハカリハ、燒跡ヨリ探シ出シ奉ルニ、兎ノ毛ノ先ニテツキタルホトノ疵モナシ、不思議ト云ヘシ、今ノ御劍コレナリト仰ラル、

後西院ハ、各別ノ遠慮アリシ君也、新院ニオリ井サセ給ヒショリ、唯一向ニ、禁中ノ御記錄ヲ、御宸筆ニテ、大方ノコラスアソハサレテ、兩部トナシ、院ノ御文庫ニ收メラレタリ、初ハイラサル御事也ト思ヒシカ、果而右ノ炎上ニ、一冊モノコラス燒失シタレトモ、此新寫遺リシ故ニコソ、今ノ御記ノ分ハ、ミナ後西院ノ宸翰也ト仰ラル、

○御家ノ御記錄ハ、幸ニシテ、應仁ナトノ大亂ニモ、アナタコナタト、預ケタレトモ、終ニ無事ニ遺リテ、貞仁公ナトノ眞記モ今ニアリ、凡千年也、目出度御事ト謂ツヘシ、夫故、凡ソ何事ニテモ、今上ノ御用ニ、御尋アランニ、餘リ事闕事ハアルヘカラスト仰ラル、昔ノ人ハ、各別ノ人才ト見エテ、貞仁公以來代々ノ先祖ノ衆中、又今ノヤウナルコトニテハナシ、公事奏儀ノ夥コトヲサバキ、何角ノ中ニテ、日記ヲ書セラルヽニ、三十余行ノ系ニテ、二十四五枚、三十枚ナトノ日記多シ、ソノ中ニテモ、宇治ノ川逍遙ノ、嵯峨ノ遊覽ノト云テ、詩歌管絃ノコトモアリ、カヽル御心ユヘニコソ、ソノ記モ出來タレト仰ラル、凡ソ當職

ノ中ノ記錄ニ、末サマノコトハ各別、コトゴトク自筆也、ソレ故御上ニモ、御當職ノ間ハ、一日片時モ御暇ナシ、御學問等ノコトモ、思召ノヤウニハナラス、唯アケクレ、右ノ舊記ヲ觀テ、變ニ應スルノ心得ノ外、他事ナシト仰ラル、御記錄三十八匣アリ、後西院ノ御事ヲ思テ、舊キ衆中ノオモナルモノハ、大方ニ二三十年以來、新寫自筆シテ、河原ノ御別業ノ御文庫ニ收メラレタリ、ミナマテハ思ヒモヨラスト仰ラル、憚多キコトナカラ、各別ノ才ノ美ト申スモ、恐多キコト也、

御當職ノ間、ワツカニ出入五年也、瘧ヲ病タレドモ、一日モ所勞ノ御斷ヲ申テ引キタルコトハナシ、腫物ヲ病タルヲ、申立ニテ引タリ、當職ノ中ハ、事ヲ追カクルヤウニテ、目カレモセス、舊記ノミニカヽリテ、外ノコトハナシ、タトヘハ春ノ御儀式、節會等ノコトスメハ早葵ノ御神事ノコトニ付テ、人ノ尋來ランホドノコトハ、例ヲ引テ返答セント思テ、ソノ事ニ關スルホトノコトヲ、考テ待タリ、野々宮ト毎度ソノコトヲ論シテ、ソノ方ナトハ、左右ノ近府（近本府作衛）ノコトサヘ明ナレハ、ソノ外ハシラヌト云テモ事カケス、當職ノ人ハ、地下ノ官人ヨリ、駕輿丁マテノコト、明ナラサレハスマス、大勞苦ト謂ツヘシト云タリ、コトニ御前ノ御當職ノ節ハ、就レ中御事多カリシヤウ覺侍ルト申シ上シカハ、イカニモ先太子御即位ノコトヲ初トシテ、禁裡炎上、同造營ノコト、天子諒闇、又ハ兩度ノ改元、關東兩度ノ大變、將軍宣下、天皇元服、禁中、仙洞ノ御遷行、御ワタマシ、其外當職ワツカニ五年ノ內ホト事多カリシハナシ、仕合トヤ云ハン、不仕合トヤ云ハント仰ラル、

御遷行ノコトハ、ソノ時モ珍シキコトノヤウニ、人申シタリ、其前モ炎上ハ度々アリ、シカモ渡御モ度々アルヘシ、ソノ前モ、アノヤウニアリシヤラント申上ル、ソノ前ニ炎上ノ節モ、近衞ノ第ヘ渡御ナリシカ、又近衞ノ第ニモ火アリテ、藏ナト燒亡セリ、是ニ因テ白川ヘ渡御ナリケレトモ、遷行ハ御ヒソカ也、御當職ノ時ノ御遷行、凡ソ二百年絕タルヲ、續タリシコト也ト仰ラル、（家煕公寶永四年關白、寶永五年三月八日自午刻洛大火事、禁裏仙洞不殘炎上、同六年正月十日將軍綱吉公薨、同年四月廿八日將軍宣下、同年六月十一日仙洞靈元上皇御移徙、同七月二日新院東山帝御移徙、同十二月十七日東山帝崩、同七年十一月十六日當今中御門帝御移徙、翌年四月廿五日正德改元、同二年十月十日將軍家宣公薨、同三年將軍宣下、）

御遷行ノ時、馬上ニテ供奉シタリシコトハ、珍キコトノヤウニ謂タレトモ、此度ニカキリテハ、馬上ナラテカナハヌ筈也ト、强テ乘馬シタリ、ヨホトオウチヤク也ト仰ラル、凡ソ御幼主ニテ、攝政供奉タル時ハ、左右ノ大臣步行タル時ハ、攝政ハ必馬上ニテ、鳳輦ノ脇ニ供奉ス、大臣馬上ノ時ハ、攝政ハ一ツチ跡ニ引サカリテ、車ニ乘ル、是貞信公以來ノ舊記ニ見エテ、私ナラヌコト也、カヽル時節ニ合テ、カヽル時儀モ、又アルヘキニ

アラサレハ、又子孫ノ衆ノ爲ト思ヒテ、如レ此思ヒ立タリト仰ラル、

○ソレニ付、後水尾院ノ二條行幸ヲコソ、近代ノ美觀ニシテ、事モ備レリト謂ツヘシ、兼テ咄セシ無禪モ、布衣ニテ應山ノ御供申セシトテ、每度カタリキ、此時シモ、大臣ミナ騎馬タルカユエニ、應山ニハ御車ニテ、後從ニオサヘラレタリ、此時ノ攝政タルカユエ也、此車近代マテ存セリ、先年ノ火ニ、中和門院ノ御車モ、一所ニ燒失セリ、カサリモ最美麗ナリシカ、惜キコト也ト仰ラル、

○太閤秀吉ノ、アルトキ狩ノカヘリノ供奉ノ躰、上覽ニ入ヘキママ、南門ノ前、御通シアレト願ハレテ、御許容アリシカハ、其日南門ヲ啓テ上覽アル、三藐院殿ニモ、御出アリシユエ、始終ノ裝束付マテ、ノコル處ナク記サレタリ、事夥キコトハ、言モオロカ也、先手、鶴百羽青竹ニ結付、二行ニナラヒ、其次ニハ雁二百羽、同ク卜云ヤウニ、事ヲ華美ニヨセテ、見物スルヤウニ、輿行セラレタリト見エタリ、家康ナト以下ノ衆中、騎馬ノ分ハミナ鷹ヲ手ニスエテ通ル、秀吉ハ朝鮮ノ乘輿ニ乘テ、唐冠ニ唐服ヲ着シ、鵰(フクロ)ヲ手ニスエテ、南門ノ前ニテ、酒ヲ請ハレタリ、殿上人諸卿トモニ出合テ、南門ノ前ニ席(ムシロ)ヲ布テ宴ス、右ノ鵰ノ首ヲトラレタレハ、作リモノニテ、中ニ肴ヲ入ラレタリ、太閤ノ物數寄左モアルヘシ、今ノ世ヨリ推シテハ、輕キコト所司代マテモ、左ヤウノ所行ナルヘキヤ、ソレユエ聚樂ノ行幸モ、事ハ夥カルヘシ、儀ハ二條行幸ホトニハ、備ランヤイナヤ、」今茶湯ニモ用ル蜃貝ニ、菊ノヲキアケ蒔繪ニシ、重箱ノ中ヲ、金ノフンダメニシ、杉ノ四角ナル箱ニ、菊ノヲリ枝シタル炭取ナト、此時利休カ物數寄ニテ出來タル道具也、還幸ノ御ミヤニモ、色々ノ名物ヲ獻セラレタリ、此モ後光明院ノ炎上ニ、コトゴトク燒失セリ、承應二癸巳年六月廿三日禁裏炎上

香合ニ貝ヲ用ルニハ、譯アルコト也、貝ヲ棚ニ直シテ、千ニ一ツモ、ロクニハナヲラヌ者也、タカマキエニスレハ、ロクニナホル、ソコヲ利休カ見立タルモノ也、華美ハカリニアラス、

○九月廿二日、參候、

此程、奇代ノ珍書御求アリケル由、御噂アリシハ、何ト申ス書ニテ候ヤト、申上シカハ、□□□ト云書也、拜見スヘキ由ニテ、御見セナサル、コレニツキ一昨日、大德寺御遊覽ニ御成ノ時、御輿ノ中ニテ、此書ヲ御覽アリテ、年來御不審ニ覺セシコト、明白ニ埒アキタリ、此大秘藏ノコト也、必々人ニ語ルヘカラス、前カトモ御徵ナサレシコトアリ、世間ニテモテハヤス、親房ノ撰セラレシ、職原抄ト云モノハ、最初推古天皇御宇、聖德太子

攝政、十二年甲子正月、定ニ官位十二階ニトアリ、世本版本ハ雜駁ノ書也、古本舊本ノ眞書、御家ニモ二通アリ、他ヨリモ一本舊キ本ヲ御覽アルニ、何レモ餘程古キ書ニシテ、三本トモニ、此處十一年甲子正月トアリ、此コトヲ近代壺井ノ何某カ、職原ノ末書ヲ編テ、此處ヲ評シテ曰、古本ノ一書ニ、十二ヲ、十一ニ作ルハ誤也、正クエトヲ推シテ知ヘシ、推古ノ十二年正月ハ、甲子也、十一ハ甲子ニ非ス、此ヲ以テ證トスヘシト云、一通リキコエタルヤウニシテ、氣味ワロシ、古キ人々エトヲ以テ合ザルコトヲ、歴々ノ衆十一トセラルヘキヤウナシ、一本ナトハ、不圖カキアヤマルコトモアルヘシ、三本マテモ、コトニ舊キ秘藏ノ本ニ、一ニ作ルヘキヤウナシ、エトノチカヒタルコトヲ、壺井ナトニ譏(譏近本作議)ラルヘキヤウナシト、此コト數十年來ノ不審也、日本書紀ニ、神功皇后ノ攝政ナサレシ時ノ年紀ヲ記スニ、攝政ノ十年、攝政ノ五年ト記セリ、カクアルヘキコト也、年號モナケレハ、年紀ヲ記スヘキヤウモナシ、攝政ナレハ、カナラス幼主也、幼主ニ元年ノアルヘキヤウモナケレハ、攝政ノ何年ト云コト尤也、日本ノ例ハ如レ此也、漢ニモ此例アルヘキコト也ト、年々思召ケルニ、右ノ珍書ノ(珍書ノ三字據榊本補之)中ニ、洎ニ周公攝政六年ニ初定ニ職位ニト云語アリシホトニ、還御ノ後、史記廣記等、御考アリケレトモ、□□□□□(榊本作官職沿革錄)ト云書、(コレモ珍書也、)周公ノ攝政六年ノ處ニ、大師大傅大保等ノ官、ソノ外モコトゴトク定メラレタル由、ノコラス擧タリ、此ニ因テ、職原ノ十一年モ、攝政ノ十一年ナルコト明也、(攝政ノ十一年、即甲子ニ相アタル、)其嬉サ、言ニモ盡シカタシト仰ラル、總シテ此公ノ御考、出處ノ御吟味、凡テ如レ此、可レ仰可レ尊ト云爾、

職原ノ唐名ノコトハ、後人附會ノ由承候、然リヤ、最前ノ御咄ノ御本ニモ、コレナキヤト申シ上シニ、イカニモ舊キ本ニハナシ、附會ノ説ナルヘシ、漢ノ職名、和ノ官名トモニ、唐名ニハアハザルコト多シ、亦ヒタトアヒタルコトモアリ、高ニテハ迚モ、アハサルコト也、譬ハ頭立タル官名ノ、大常寺ナトハ、大方ニアヒテモ、下役附官ニナリテ、高ニテ(榊本無高ニテ三字)日本ニテハ、タラヌカチ也、スレバ迚モ、アハセテアハズ、且ツ大ニチカヒタル名モアリ、昔シ延喜ノ時分ニモ、此詮議アリテ、今日本ノ太政大臣ノ職ハ、何ナルヘキゾ、大相國ト稱セラルヘキヤ、唐ノ相國トハ、各別譯チカヒタリ、スレハ相國ニハ配シカタキヨシ、奏議問難オヒタヽシキコトニテ、ナルマシキ由見エタリ、此時菅相丞ナト此中也、昔ノ人ノ詮議各別也、イツモ云テ笑コト也、唐名ハ江戸鑑ニ職付ヲシテ見タキモノ也、官人ノ分ニテハ、高ニテ人タラスト仰ラル、

○昨日今日モ、御記錄ノ御校合アリ、昔ノ衆中ハ各別也、日本ニ

テモ、昔ハ及第アリテ夥ク集レリ、狀元モシ、落第モス、今日マテコレナキハ、無念ナルコト也、總シテ今ニモアレ、下ニ新井筑後ヤ、（新井氏名與、後改君美、字在中號白石、通稱勘解由、後任從五位下筑後守賜千石、武州人、享保十年卒、六十九、）伊藤源藏、（伊藤源藏、名長胤、字源藏、號東涯、又號慥々齋、古義堂仁齋長男、世人稱堀川學、元文五年沒、六十七、）松岡玄達、ナトノ如キ者アリ、詩ニテモ、柳川三省（柳川三省、名三省、字魯甫、號滄洲、攝州人、儒學木下順庵、始向井氏、後爲柳川順剛家嗣、享保十六年沒、六十六、）ヤ、松下見林（松下見林、名見林、號西峰、大坂人、醫學見宜翁、兼國學發明、）ナトニテモ、及第アラハ參ルヘシ、然レドモ其判者ナシ、又學フモノモ、何モ角モ學ヒテ、用ニ立ヤウニ心得ル、及第ノ政アルトキハ、イデ書經ニテ及第セント思フモノハ、書ノコトニ於テハ、ドチカラドコマテモ、力カキリ、（近本及川本作カヾチリ）ノ如クシテ待、禮記ニテ及第セント思フモノハ、禮ノコトハ縱横十文字、埒アクヤウニシテ待、詩文章モ亦然リ、サルホドニ、其判ニ立ツ人ハ、ヨクヨクニテナクレハナラス、昔モ詩ノ及第ニ、去聲ノ字ヲ、上聲ニ仕ヒタル誤リニテ落第セシニ、卽坐ニ去聲ノ字ヲ、上聲ニ仕ヒタル例ノ詩七首ヲ、アチノ詩ニテ、書テ見セタル由、記錄ニ見エタリ、各別ナルコト也、判者モ秀才モ、今ノ世ニテハ、ナルヘカラズト仰ラル、如レ此ナレハ、御上ニモ重寶ナルコト也、書經ノコトカ御入用ナレハ、書經ヲ及第セシモノニ御尋アレハ、底カラ埒カアク、禮樂詩文モ亦同ジ、今ニテハ、俄ニハナリカタカルヘシト仰ラル、今ニモセヨ、及第ノ政アラハ、下ニモ其人アルヘシ、此政ナキユエ、其人ナキナルヘシト申上シカハ、イカニモ左モアルヘシ、漢ノコトバカリニアラズ、令格式等ノ及第モアリ、重寶ナルコト也ト仰ラル、歌ノ及第ハ、ナキコトト御尋申シ上ル、曾テナキコト也、醫書ノ及第ハ、ナキコトニヤト御尋アリ、覺悟ナキ由申上ル、今ニテモアレ、及第ニ事カクマシキモノハ、四座ノ役者計也ト、兼テ云コト也トテ、大笑ナサル、

一本ニ此一章御茶殊外細字難成書寫除之

○十月十六日、

一昨日參候ノ刻、明々後岡崎ノ鄉錦小路極﨟（錦小路極﨟、錦小路賴庸藏人極﨟、典藥頭從四位上、實宮內權大輔賴季男、寶永四年改小森、號錦小路、享保十一年、可レ爲二盛直後胤一旨蒙仰、中絕相續、享保廿年正月十日卒、六十九、）ノ亭へ、御茶御成ノ間、御供ニ參ヘキノ由仰ラル、難レ有奉レ畏ノ由申シ上ル、今日四ツ時伺候、昨日一昨日、刑部大輔へ參リ、卽日ノ儀承合問レ目、（兩日共他出不レ能レ面、適今日問レ之）直ニ御別業へ出、（此間仰有ラル丶、秦曆貞カ所持ノ玉篇奉レ之、暫仰留、）午ノ時計ウチ中ス由申上ル、刑部同道ニテ、御先へ參リ、御待請ツカマツルヘキノ由仰也、卽時罷出、御先へ參ル、（刑部、道安、雅樂、雅樂ハ御給仕也、）錦小路亭ハ、上岡崎道範屋敷ノ前也、表待合（二疊シキ、竹天井、烟艸盆、火爐、請次二通リ）待合ニ着ト追付御成リ、刑部、亭主、掃、外へ御迎ニ出ル、御會釋、今日御成、アリカタキ旨亭主申上ル、御待合へ御入、三人下座、（刑部御入アルヘキノ由、亭主へアイサツス）亭主入、兩人トモ待合へ上ルヘキ

ノ山上意、兩人トモ上ル、僕次坐、刑部末座、暫シテ亭主御迎ニ出ル、追付御入リ、ツヾキテ僕入ル、刑部、御刀ヲ持、

中門、竹ノアミ戸、波形ノランマノ古キヲ、額ニ直シテ、白フンニテ清風トアリ、其双方薮垣、中門ノ中、小流ノタマリ水ノ中、飛石十アマリアリ、双方紅黄ノ楓樹サカリ也、キレイニ掃除シタル上、今日ノ風ニテ散シキタル、面白キ風情、其中清水ノ井アリ、ツルヘノワラヒ縄付タルアリ、傍ヨリ、竹垣ノ外ヲ廻リテ、中クヾリト覺シキ、竹ノアミ戸アリ、コレヨリ内スキ屋前、別シテ奇麗也、

御手水、御脇指御掛、カタナカケ三重、上ノ段ヘ御カケ、下段ニ掛レハ中立迄ノ間ニ、水ヲ打トキ邪魔ナレハナリ、

御入、刑部伺候御草履ヲ直ス

面々手水掛、右御供ノ間、御前御手水ナニカ、下ニナラセラル、間ハ、イツレモ下座ス、立テナラセラルヽトキハ立ツ、

刀掛ノ下段ニ刀掛、此モ問目ノ一ツナリ、法ノ通リニ上段ニ紙ヲシキ、刀掛ノ下ニ立カクル本式ナリ、然レトモ、今ハ下段ニカク、

而シテ入ル、如常御艸履踏石ヨリ外ノ方ニ平ニ直ス、面々ノ草リハ勝手ノ方ニ重ネテ立カクル、請次ナリ、サテメン〳〵ノ草リハ、鼻紙ヲ出シテツマミ、紙ハ袂ニ入ル、

內ノ法如常例、但シ床ノカサリヲ見ルニ、正面ニハナヲラス、ワキヨリ見ル請次ナリ、

掛物ハ、繼近本無繼字雪村ノ山水、出來モノ、由御褒美、表具、

釜、フルシ、口挾、カラカネ蓋、ヒラマルカマ、

香合、貝、內金、菊ノオキアケ、羽帚、二重棚ニカサル、

御會席、

御膳、木具ヒラヲシキ也、サンボウノヤウニ足付三寸ハカリ、

御汁、鱈、ウスミソシル、柚ノケン、

先、先近本作向 漬セトノ猪口、鮒膾、ヲツケ、（近本無ヲツケ三字）ケンセリ、杉ノフタ、竹ノ取手、フタアリ、コレハアタヽメナマスユヱカ、但シ野邊ユヱ、ツツシミカ、

御香物、鉢唐津ドンブリ、口少シ反ル、ナラヅケ、

御煮物、卷湯波、ナメ酒醬油アンバイ、

御酒、御自杓御食次モ御自身、次客イタヽキテツグ、

御吸物、ツボサラ、ナマコ、フキノトウ、

御菓子、コウライセンベイニ、羊カンツヽミテ蒸タルモノ、五分ハカリノ柚、ミソツケヤキ、

御中立、書院ノ椽先ニ、タヽミ蒲ムシロ、烟草盆計、〇ツキノエンニ、圓坐二、次客ノ爲メカ、

案內御入、如二最前一、

花、筒、御作、アブラ竹二重切下ニソギカケアリ、水楊ホノコロヤナギ、椿、妙蓮寺（近本作メウトン寺）

水指、信樂、白赤ノコケアリ、ビゼン、フタ取合セ、

御茶、二服、一服、御上也、樂吉左衞門一服、御相伴、堅手、筒茶碗ベヽラ口、ヒラ茶ワン、

御茶杓、御作、

茶入、古セト、肩少シツキ、シモフクラ、〇袋ツムキ地、立田川ノ手ト云、金紋入、ウラムラサキアツカイキ、

圍御立、書院床、カコノ花入、小ギク大枝二本、下ニ寒菊ノテリ葉共小枝一ツ

御菓子、木具、杉ノ丸盆臺ニスヱ、足四角ニクリ、白マンヂウ、羊カン、六條陸奥、

御薄茶、臺ニテ、

御話、暫時、

醴酒、御臺先ニ小皿、燒鹽、カンナベニテツグ、

追付御立、直ニ御禮ニ出ル、

〇十七日夜、參候、直ニ御宿、コレハ、律君御方、深更ニ及ンデ御ツカヘ、可レ奉レ候ノ旨ニテ伺候ス、

御前ヘ罷出、今宵御玄猪御祝儀、

五ツ時奥へ御入リ、例ノ故アル御間ニテ御夜食、御相伴、

御茶、御菓子、今日御前並ニ保君樣、房君樣、御スワリ拜領、○追付十炷香初ル、別記、

二組、初、香本、於秀御娘、後、香本、吉岡御娘、

御前、吉岡、於秀、道安、

十炷香之記、一、春の山邊　二、くれなゐ　三、竹葉　ウ、山かは

三 二 一 三 三 ウ 二 二 一 一

牡丹、 一 一 ウ 三、 三、 二 一 二、 三 二 三

梅、 三、 二、 ウ 一 一 三、 二 二、 三 三 三

櫻、 ウ 二、 二 二 三、 一 一 一、 三 三

萩、 二 ウ 一、 三、 三 一 一 二、 二 三

十月十七日夜、

十炷香之記、一、雪　二、月　三、花　ウ、冬

三 ウ 一 一 三 二 二 三 一 二、

牡丹、 三、 一 二 一、 三、 二、 二、 三、 ウ 一 六

梅、 三 一 二 二 ウ 二、 一 三、 一 三 四

櫻、 一 二 一 一 三、 二、 ウ 一、 三 六

萩、 三、 ウ、 一、 一、 三、 二、 三、 三、 一、 二 拾、

十月十七夜、

ふゆ、　玉つさ、　二種拜領ス、御香包(近本無香字)並銘書、公御染筆、

香ノ半ハニ、川音ニツレテ、千鳥ノ啼テ飛カフ、最興アリ、千鳥ハ香ヲ好ムモノ也、水邊ニテ名香ヲタケハ、千鳥多ク集ルノ由仰ナリ、

子ノ半刻、御暇下サレ、詰所ニ出、林彈正、可悦、御酒下サレ、寢所ニ入ル、明六ツ時退出、月ハ殘リ、霜ハオキソフニ、川音ノカスカニ聞エナガラ、霜ハオキソフニ、川本作、霜ハオキ、ソラニ川音ノカスカニ聞エナガラ、山ノ端ニ、横雲シラミワタリ、市鄽ノ人鷄カスカニ聞エテ風致イハンカタナシ、有難キコトモ今更ノヤウニ、身ニシミヾミト思ヒアタル、

○十八日、午前參候、今日ハ刑部へ御成、御相伴道安、錦小路極臈、

午後御成、少シ前ニ兩人參ル、御輿式臺平ツケ、左典廐御迎ニ出ツ、露路ノ戸開、兩人土坐蹲居、御服、道中ハ黃ノ道服、折烏帽子、○羽織ニテ御入、

待合、利休形屛風反古張、宗匠遠州織部、江月、澤庵、利休、宗旦等、當所ハ進藤、染付ノ手アブリ御烟草盆、○請次二ツ、錦小路上坐、道安下坐、○刑部中クヽリ越出、難レ有由申上ル、追付入御、御草リ直シ錦小路、○錦次坐、道安末坐、

掛物、圓城寺樣御自書自贊、一筆達磨、一文字金シヤ、中今オリ、上下シケ、○總躰ノカサリカゲンハ、少シ譯アリ、頃日大德寺看松菴へ御成、新筆古筆出來物(近本作土ケ物)數多御覽ユエ、此類ヲ除ク趣向ナリ、

釜、丸、カラカ子フタ、

棚、羽箒、　香合、カウチ龜、

御會席、御膳木具、クリアシ○杉下ハクリ色カンナメヒラ、

御汁、アンカウ、ツケサンセウ、

猪口、上ハ丸、黃色オリヘ、下ハ角、白ノ織部、柚ミソ、

御香物、鉢カタクチ、ミシマ、ナラヅケ、ウリ、ナスビ、竹ノハシ、

御煮物、ナメ、鴨、セリ、

御酒、

吸物、カキ、フキノトウ、

御湯盆、ヌリユツギ、織部ノ水次、セトノ四角、カウセン入、

御菓子、ダイハノ重箱、ムキソラ(近本ラ下有ヒ字)モロコシ、アメチマキ、織部ノサトウ入、盆カラモノ、

御中立、川端ノ亭、カサリ同前、

鉦ニテ御案內、先達テ御斷リ申上グ、御ナグサミノタメ、

後御入、

花入、備前、アメチマキノテ、(川本花ノ字アリ)白梅、ツハキ、

水指、赤シカラキ、ヤハヅロ、ヌリブタ、

茶入、利休ナツメ、シモハリト云、上ノモノチシリハリト云、

袋、道元ドンス、名物キレノヨシ、

御茶碗、赤ノ樂、ケンゲウノ手、內ニメアリ、次ノ茶碗、黑ノ長四郎、トウジメ、

茶杓、本ブシ、名アリ、珠光、

御挨拶御出、亭ヘ御登、

四疊半ノ床、御作ノ御筒、花、カンキク、

釜、アラレノ平、カラカ子フタ、

御菓子、木具、白ヤウカン、ミカン、次ハ、フチタカムシテ、

御夜食、粢飯、

平皿、大根フロフキ、セウガ、

燒物、イセゴヒ、ツケアブリ、

重箱、デンガク、

鍋、玉子ノフハフハ、亭主イテ、盛レ之、

月ヤウヤウ山ノ端ヲ出ル丈五、川原表水ノ淸漣、風景イハンカタナシ、郢曲小皷等アリ、

亥ノ上刻還御、

○廿三日、深諦院殿、御茶ニ御參リ、御相伴、拙、午刻參候、於ニ奧三疊敷一先御對面、直ニ初入、

待合、御案內ナシ、

御床掛物、定家ノ文、歌ト文章トノ、入マセノ文、摸様メツラシ、大方ニヨメテ、主意解セス、一文字茶地古金ラン、中紫地印金、角龍向兎、上下純子花色中紋、中風帶、

御香盆、堆朱、盆ノ眞中黑ク、青貝ニテ仙人艸岩アリ、朱ノ處ニ、カナカヒノ山ミチ筋アリ、柿ノ手ト云、

御釜、アシヤ、コシキタチ、地紋アリ、カラカ子蓋、

御膳、角ノ足ウチフチノマン中ニ一スヂノヒアリ、朱膳ノ內クロシ、足トモニ角キリノカタ、

御汁、眞キサミ大根、鷄、アチミセリ、ツルノスヂ、一位様ヨリ進上、公方様御コブシノ鳥ナリ、

平皿、コモ麩二ツ、ナメナ計少シ、葛、

御香物、南京、奈良漬、ウリ、カブラ、四角、

御重箱、外シュンケイ、カケナガシ、中クロ、鯛大切ニシテ鹽ヤキ、是ハ 御前御持參、(川本無此條)

御吸物、椀リウキウ、青漆朱糸目、タヒラギ、紫蘭藻紫色、備前ヨリ獻上、

猪口、干ウルカ、花カツホ、

御菓子、ドウメウジモチ、シキサトウ、ニンジンオロシカケ、ニンジンニシメ、唐物クロシホ御持參、
中立、
待合、タバコボン、手爐、
御案内、鉦、後入、
御花生、二重筒、コシニテ少ヒ子リアリ、ツクロヒ、黒ノツクロヒ、金ツクロヒ、景多シ、宗和作、
御花、連癸、大枝小枝、赤ノ山茶花葉トモ、
御水指、備前、ナデ肩、口狹底ニ少シ圓座アリ、ヌリフタ、カンナメ、
御茶碗、手燒、□□ヨリ獻上、
御茶杓、片桐石見守、
御茶入、オヨリ手ト云、中古セト、少肩アリ、丸ツボ、袋白地古金ラン、
表御床、可慶墨畫、一文字シロヂ印キン、中コンヂ印金、上下シケ、
御花生、カラカ子ノユグチト云、御花、白梅、寒菊、ユグチト云コトハ、金銀銅鉄ノルイヲ鑄ニ、湯トナリテナガレコム處ノ、湯口ノカ子ヲシタテ、花生ニシタルコト、古シ通名トナリタルモノ也ト仰ラル、
御薄茶、
御菓子、サガノ　ギウヒコンブ、引カヘ、ミカン、
御吸物、御肴、御酒、黄昏御退出、
此間ニ、琉球ノ物産生ウツシノ繪卷物拜見ス、
○十一月六日、上田養安、御茶ニ召、相伴、
午刻參候、
御床掛物、定家ノ詠草、泊瀨山、

おはつせの峰のまさかにふきしおり、
　　あらしにくもる雪の山もと、

一文字紫地印金、中白地古金ラン、上下ヌヒ紗、此歌ハ後鳥羽院ノトキ、着到二十歌ノ秀歌ヲエラハレテ、定家卿十歌ノ一也、點ハ定メテ後鳥羽院、俊成、慈鎭ナルヘシト仰ラル、
御香盆、貝、菊ノオキアケ、常修院様御好ミ、世間ノモヤウト少シ別、貝ノウラ菊ノ坐アリ、甚大也、
御釜、上ニ同、
御膳、上ニ同、
御汁、小菜ミチンタヽキ、チヤウロギ、ウド、
百合猪口、アメノウヲノハラヽコ、ナマコアタヽメ、イリザケ、
平皿、スヾナニカブ、小鳥三切、タマゴフワフワ
御香物、鉢前ニ同ジ、
御重箱、鳥、カマボコ、小串トリミソ、御前御待參、
御吸物、雲タケ、紫ノリ、
猪口、ウルカ、
御湯盃、湯次、ヌリモノ、水指、カウチ、
香煎入、メヅラシキ平形、シヨンスイ、
御菓子、
御筒、宗和一重、御花、薄紅梅、フキノトウ、
御水指、セト類也、ツチタチ、ヌリフタ、見コトノヨシ、
御茶碗、長門ヨリ献上ノ萩、養安拜領ス、

御茶抄、上ニ同、
御茶入、唐物丸壺ノルイ、〇袋 遠州トンス、ウラ遠州カイキ、深諦院殿御ウハサニ、東門跡ヨリ、已前獻上ノ茶入ナルヘシ、ソレハ瀬戸カラモノト云テ、唐物アシラヒバカリニテ、盆ニハノセヌコトト、仰ラレタル由也、
表ノ御掛物、古法眼ノガマ、テツカイノ二幅對、前ニ記ス、
御次、二重筒、常修院樣、水仙、ツバキ、
御茶入、セト、見コトノヨシ、
此間ニ御菓子、薯蕷カン、ニミカン、コンブ、ソメツケノ鉢御家ニ御相傳、
雪舟ノ三十三像ノ觀音ノ手鑑、古金襴ノ手鑑拜見、
御夜食、四ツ前退出、

〇同廿四日、保君御方御深曾木、參候、此日、伊都君御方御忌明、上御殿候ス、及レ暮御別業參候、
仰ニ、此頃 親王御方、御深曾木ノ御用御役目、日日參候ス、既前日御習禮ニ參リ、暮ニ及ンデ、明日參ヘキノ由ヲ奏シテ、退出セント欲スルトキ、明日ノ儀ニ付テ、書付ヲ指出サルヽヲ拜見ス、鑑文ハ土御門ヨリ作進ス、其中ニ向ニ生氣之方トアリ、生氣ノ方トハ、何ノ方ゾト云ニ、覺悟ノ人ナシ、サレハトテ明朝ノコトヲ、暮ニ及テ西京マテ尋問センモ、夜中ノ往來躁動、若此ノ人ノ云分モ、イブカシクレハ不祥也ト、サラヌ體ニテ、還御ナリテ、頃來考ヘ置レタルモノトモ上覽アレトモ、昝テ其沙汰ナシ、夜半ニ及ブコロ、アグミハテ、不圖思ヒ付ケルハ、前年御當職中ニ、求メオカレシ、理數□□ト云書アリ、此天文曆數ノ細釋シタル書也、唐本、ヤクニタヽヌ物ナカラ、珍シキ書也ト思召テ、求メオカレケレトモ、其後ツヒニ御用ノコトモナクテ、御文庫ニアリシヲ、俄ニ仰テ取ヨセ御覽アリテ、上ノ御年、其甲子ニヨッテ、生氣ノ方、死氣ノ方ト、云コトヲ一々ノセタリ、初テ安堵シテ、明朝ノ御用モ、相違ナクツトメタリ、不レ知土御門ノ方ニモ、此出處アリヤ否ヤト仰ラル、
鷹司大納言樣モ、御側ニナラセラル、若キ人ハ聞覺エタマフヘシ、强テ隱密ノコト也ト仰ラル、是ニ付テモ、重寶ニコシラヘタル書ハ、入ラストモ調ヘオクヘキコト也ト仰ラル、

〇御香アリ、香ヲ聞ト云コト、唐ニテモ香臭トモニ、嗅コトヲ聞ト云、和朝ニテキクト云ハ、耳ニカキリテ云、唐ニテ聞ト云ハ、キクコトニモ、カグコトニモ用タリ、古キ朗詠集ナドニ、聞香ノ字ハ、昔ヨリ古キ點付ノ好本ニハ聞レ香ト付タリ、御前ニモヨミ習ハセラレタリ、コレニ付テ、和訓ニテ義理ヲ付タルコトニハ、心得チカヒタルコト多シ、香ヲキクト云ハ、カグコト也ト覺レハヨシ、キクト云カラ、慇懃ニイハントテ、香ヲ承ルト云ハアヤマリ也、ソレガキクト云カラ轉シタルモノ也、鶯ノ巢ヲクウト云ハ、巢ヲ作ルコト也、クウト云カラ食ノ字ノヤウニ覺テ、慇懃ニイハントテ、巢ヲタベテト云人アリトテ、大笑シタリト仰ラル、

○伽羅シキヲ、銀盤ト云コトヲ、知タルヤト仰ラル、覺悟ナキ由申上ル、キラ、ニテ、作リ立タルモノヲ、銀盤ト云フコト、イブカシキコト也、本伽羅ノ下ニシク、今ノギンバン（銀盤）ハ火敷ト云、薰物ノ下ニシクハ銀也、コレヲ銀盤ト云、ソレヨリ轉シテ、伽羅ノ火敷ヲ銀盤ト云、薰物ニ盤ヲシクコトモ、初テ承ル、漢ニテハ隔火ト云、遵生八箋ニ見エタリ、

○十炷香ノ法ト云コトハ、近代ノコト也、逍遙院時代コノカタナルヘシ、薰物ヲキ、クラベタルコトハ、日本ニテハ、イカウ舊キコト也、

伽羅ハ、蠻國ノモノ也、本唐ニテハ攝楠ノミ也、星槎勝覽ニ見エタリト仰ラル、

一本御茶之一章前ニ同シ除レ之、

○十二月七日、今大路治部少輔、御茶獻上ニ參候、

午刻參上、　御前、右京、道安、

掛物、一休小々色紙、

香盒、ヌリモノ、フンニテ表ニ千鳥、ミカヘシニ琵琶、

御釜、拜借、與二郎、小アラレ、利休ヨリ取次フミアリ、

御會席

御汁、アンコウ、カワワタトモ、

猪口、リウキウイモ、黑コマアヘ、

煮物、スクヒ豆腐、ス、茶カブ、スクヒ玉子、

吸物、田上川ノヒヲ、フキノトウ、

御菓子、カンサラシ、シキサトウ、青苔カケ、

御中立、

筒、利休一重キリ、　花、福壽艸ノ滿開二リン、

茶碗、新樂、

水指、セトノ茶ツボナリ、耳アリ、備前アハセフタ、仰ニカヤウノモノハ、ヌリブタヨシ、何トナキヌリブタニ、小サキトツテヨシ、春ニナラハ仰付ラレテ、下サルヘシトノ上意、アリカタキ由御請アリ、

茶杓、常門樣筒トモ、

茶入、　袋、

御立表ニテ御香アリ、

サマザマノ御咄ノ次手ニ、不圖十八年已前ノ、大火ノコトヲ、右京咄シ出シテ、御前ノ御働トモヲ、恐嘆シ奉ル、御前御咄ニ、ソノ日ハ御暇ヲ申シテ、紫竹（シチク）ヘ御出、アノカタニテ見附、例ノ大黑ノ御馬ニテ、カクツクラレタルニ、徳大寺ハ未出仕ナキ内ニ、門ヲ通リタリ、御供ニツヽク人少ク、茶辨當持一人、草履取一人ノミナリ、

御所ニモ追附、賀茂ヘ渡御ノ供奉シテ出、賀茂ヘモ御先ヘカケヌケテ、設ノ御坐ヲ初トシテ、ソレソレニ中渡シ、追付渡御ナルト、又近衞殿ヲ假殿ト仰出サル、勅ヲ承リテ、馬ニテ引返シ

テ、内侍所ヲ始トシテ、ソレソレヲ云渡シ、殿内ノ鎰トモチ、ノコラス腰ニ付テ、ソレソレノ女中ニ引渡シ、側ノ小カクレニテ、餉ヤウヤウ聞シ召テ、又馬ニテ堀川ノ御所ヘ、一先退出セシニ、夜ハホノホノト明タリト仰ラル、

○當職ノ初ヨリ、火事挾箱ト名付テ、非常ノ爲ニコシラヘテ、兼テ用意セシニ、ソノトキ初テ　御用ニ立タリ、一方ニハソレソレノ私具、一方ニハ茶碗茶臺ヲ初テ、御膳ノ具マデ、新調ヲ一通リ入テ、カリニモ次ニセスシテ用意ス、東山院、鴨ノ川原ノ中途御渴アリ、湯ヲ聞シ召ント詔アリシニ、幸ニシテ茶辨當ハアリケレトモ、用意ノ具ヤナカラントヒシメク、彼新調ヲ獻上ス、手柄ヲシタリ、スナハチ今ノ左府マテニ云傳テ、此ノ非常ノ具ヲ用意スト仰ラル、

右京ノ御話ヲ申出テヽ恐嘆セラル、賀茂ヘ供奉ノ時、今出川ヲ寺町ヘ出サセラレタルニ、南側ノ荒物屋ニ、杖立ニ杖ヲ百本ハカリ立テアリ、(商賣物也、)是ヲ御覽アリテ、ノコラス召上ラレテ、一人アテ二本ヅヽ、女中ヘ下サル、歩ミ習ハヌ局方ノ上童ナド、アリカタキコトニ思フテ供奉ス、　御假殿ニキハマリテ、還御アルトヒトシク、御藏ヨリ布晒數十端、トリ出サセラレテ、三尺ツヽニ斷裁シテ、御殿ノ間々ニ、ノコラス掛ラレタリ、女中渡御ノ供奉シテ、土足泥脚ヲ、念ナクフキノゴヒ近仕ス、大ニヨロコビアヘリト云々、

○十二月十八日、進藤刑部大輔ヘ御成、御供、右京、道安、午時御入、

待合、唐物石屛ヲ刀掛ニス、

御前、黃紋道服

掛物、遠州歲暮ノ歌、贈答二首

香盒、黑ノ時代ケシフン、菊ノ折枝、ミカヘシ一エタ、

釜、アラレノ背口、

フクヘ、宗旦、

御會席、

御汁、ヲイモ、ウドメ、

平皿、鴨三切、クロタケ、白高麗四角、(高麗近本作豆腐)クヅアンカケ、

重箱二重、上香物、下鯛色付、

吸物、鹽松茸、

菓子、小倉マンヂウ、ヤイテ、

御中立、

筒、(筒近本作花入)今ノ宗佐、花、柳、福壽草、

水指、フシキ、ヌリフタ、

茶入、新兵衞、袋、古金ラン、靑地カイキウラ、

茶杓、少菴、
茶碗、薩州留主居手燒、　次茶碗、堅手、見コト、
二階掛物、養朴山水、七十三歲、
御香二座、
御夜食、ウツミ豆腐、
猪口、ヨメナ、ツタシ、白魚、イリザケ、
平、ハンベ、セリ、細柚、雞卵フハフハ、
鉢、カヅノコ、花カツホ、
四ツ前還御、

槐記卷第一終

明治十五年三月
華族蜂須賀茂韶藏書ヲ寫ス
明治卅三年六月
依近衞公爵家藏本校之

小杉榲邨校閱
雛田千佳𠍱校正

槐記　巻第二

近衛豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

○享保十年乙巳正月四日、如レ例參候、
御目見、御熨斗昆布頂戴、御賀儀、
歳旦ノ詩御目ニ掛、他所ヨリ來ル百拙、夕翁等ノ詩、御見セアソバサル、御前ノ台製ヲ願奉ルニ、サレハトヨ、去歳ハ近隣ニ九條殿ノ第ノ建タルナト、趣向モアリキ、今年ハ何事モナク、元日ニハ、賀客モ最寂莫トシテ、釜ヲ煮ヤシ、書ニ對シテ、几ニ凭リ居シニ、終ニナク、覺エス午睡ヲシタリ、左府ノ方ヨリ、年賀ノ使トシテ、今大路治部大輔カ參リタルニ、駭テ醒ヌ、古ト違ヒテ、珍シキ靜閑ナル元日ナリト、思ヒタリト仰ラル、台製ハ未タアソバサス、重テ御見セアルヘシト、御趣向コレアルヤウニ恐察シ奉ル、明日ハ恒例ニテ、左府公ヲ始メテ、鷹司卿、入江君ナト、御禮ナカラ御節アリ、久シクアソバサヌコトナレトモ、珍ク立花ヲアソハサント思召立ヌ、參リテ拜見スベシト仰ラル、
○五日暮、參候、
左府公、鷹司卿御侍坐、御床ノ掛物、後水尾院御八十一ノ御歳旦ノ御歌、前立花、
此の春に、せめて驚く、みともかな、はち多ふ（榊本作ふ一本作く）して、命長きを、
コレハ、其年ノ春參リシニ、此老法師カ歳旦ヲ見スヘシトテ其座ニテアソハシテ下サレシヲ、表具シタリト仰ラル、
次ノ御床ニ三幅對、中ハ後ノ法性寺殿、（法性寺殿忠通、保安三年關白從一位、大治三年太政大臣、長寛二年薨、六十八、逍遙院殿實隆、永正三年内大臣正二位、學和漢最善國風、雖爲三條庶流、以才能得升台鼎、天文六年薨、八十三法名堯空、稱名院殿、公條天文十一年、右大臣正二位、博學之譽以出藍稱、永祿六年薨七十七、法名仍覺、）兩方ハ逍遙院殿御父子ノ唱和ニテ、イツレモ歳旦ノ詩也、
○六日、參候、
御前ニテ、夜前ハ歷々成ラセラレタル故、拜見モソコソコニ仕タリ、トクト拜見致シタキ由願テ再ヒ拜見ス、（御掛物、御立花トモ、申モ恐アレトモ、兎角ノ論ニ及ヘカラス、）吉岡ヘ御筆物、（墨繪竹、）舊冬下サル、表具シテ部屋ニカケ、今日始テオロシ奉ル、拜見スヘキノ由、御前ニテ拜見ス、吉岡挨拶ニ、道安ヘモ下サルマシキヤト申上ラレ、イカサマニモ成シ下サルベキ由仰ラル、有カタキ由御請申上ル、
○七日、參候、今日大雪、
今日ノ風雪ニ、能參リタリトテ、保君御方御盃頂戴、イトア

リカタキヲ覺エ、而シテ　御前ニ出、今日ハ御嘉例ニテ、大服ノ御茶湯アリ、久米玄察、宗也ナト參ル、雪モ一段トフリツヽキヌレハ、最面白ケレドモ、路次ノ行粧大キスキテ苦勞ナリ、後ハ晴ヤシヌランド御笑ナサル、

○九日、　參候、

台作御見セナサル、

一事無レ成又添レ歲、群芳脫却出ニ群芳一、迎レ春偶至綠衣客、午睡覺來梅更香、

イト目出度アリカタキコトニ拜謁ス、

近代ノ親王家ニ、獅子吼院殿ホドノ人ハ、アルヘシトモ覺エス、英才ノ上ニ、骨ヲ折ラレシ故ニ、天台一宗ニ於テハ、中興トモ謂ツヘキ人也、僧傳配韵ト云書、七十卷バカリアリ、一生ノ精力コレニアリ、最重寶ノ書ナリ、唐僧ノ名アル人ヲ、韵ヨセニシテ、本書ニ出處付ヲシタルモノ也、詩モ數寄ニハアレドモ、三菩提院殿（三菩提院、後水尾帝第十皇子、一條院貞敬二品法親王、俗名常賢、尊覺法親王、兼興福清水兩寺別當、母新廣義門院、慶安二年四月廿四日誕生、稱登美宮、明曆四年六月九日爲親王、万治二年四月六日得度、寬文四年唯摩會竪義遂講、興福寺務、同五年三月十九日唯摩會講師興福寺別當、同月二十五日清水寺別當大會中六日、同月廿六日叙二品、寶永三年七月六日薨、五十八、葬于興福寺、號三菩提院宮）ナトノヤウニ、強テ骨ヲ折タルニテハナケレトモ、詩集アリ重テ見スヘシ、歌ト茶湯ハ大ノキラヒニテ、俳諧ハ名人ナリ、ソノ英才ニテセラレハ、何ゴトモナルヘキヲ、歌ト茶ヲ、アレホドニ忌レシモ、見ル處アリテナルヘシ、先師雲龍院殿（茶人系傳全集云、雲龍院御門主妙法院宮、古田織部正、門人）ハ、御傳授マテ相スミテ、名アル歌人ナリ、其寫謄秘書トモヲ、ノコラス一カラゲニシテ、父帝後水尾院ヘ奉リ、我レ歌ト云フコトヲ、不器ニシテヨミエズ、曾テ點頭シ得ス、千度思惟シテモ、上手ニナルヘキ道ヲシラス、是ハ大切ノ書ニテ、歌道ニ於テ、秘訣タリト承ル、若不埒ニテ、狼藉トナレハイカヾ也、此後モ、歌ヲ讀ムマジケレハ迚、返上スヘシトテ、不レ殘返シ奉ツテ、一生ノ間ハ、歌ヲアソハサス、茶モ、雲龍院殿ノ、天下ノ數寄ニテ、名物トモ多ク、露路モ圍モ、織部ノ物スキナリシヲ、一生薄茶モマイラズ、煎茶ノミナリ、何トヤラン云眞壺（マツボ）アリシニ、常ニ淺草ノリヲ入テ賞シテ、イトハシヤキテ好ト稱セラル、鹽ノシミテ、アタラツボノ廢レント云シニ、壺ハ我ツボナリ、何ノ惜キコトカアラント仰ラル、是等不風流ニ似テ、全ク左ニアラズ、見ル處アリテ也、詩モ立花モ、スキニアレトモ、何ノ益ナキコト也、翫ヒ玉フナト云ツツモ、好キ眞アレハ贈ラレ、好キ流シアレハ贈ラル、其時ノ立花ノ上手トモノ評ニモ、及フ處ニアラスト申キ、（水仙ノタメヤウナト、凡ソ又類ナキ由申ス、）イツマデモ、御存生アルヘキニ、不圖前年冬ヨリ、膈噎ノ症ニテ、次ノ四月十四日逝去ナル、ソノ前日ニモ、玄々院ヲ召テ、板ニ紙ヲ張ラセテ、辭世ノ偈ヲアソハス、

踏破一乾坤、呵々翻レ袂歸、此道無ニ岐路一、夏日白雲飛、

トアソハシ畢テ、サラハ臨終ノ法事ヲ修セント、自ラ鈴ヲ振テ、導師ヲツトメラレ、最長キ法莚モ、コト故ナク濟タリ、ソノ氣力ヲ見ルニ、中々急變ノ、氣遣ハナシト、玄々院モ申サレシカ、其曉ニ御コトキレサセ玉フ、御前ニモ始終御側ニナラセラレタリト仰ラル、

獅子吼院ハ、百十二代後西院皇子（川崎本作「獅子吼院ハ後水尾帝第八皇子、稱照宮、俗名完敏、」）堯恕法親王二品、天台座主妙法院宮、母新廣義門院、元祿八年四月十六日遷化、五十六、（寛永十七年十月十六日誕生、正保四年十二月十六日入室、慶安三年二月十五日爲親王、同年八月廿一日得度、寛文三年十月十日任天台座主、同五年七月十二日叙二品、延寶四年二月二日重補天台坐主、同七年十一月二日選補、元祿六年八月十六日退院、號獅子吼院宮）

右平左衛門考、

松下見櫟（松下氏名ハ見櫟、字ハ子節、號ハ眞山、見林ノ男、伊豫松山侯儒臣ト成、）カ、詩ヲ奉ル其序ニ、此頃百拙參リテ、新年ニ珍シキ、聯ノカケアヒアリトテ、御目ニカケラル、

御前ニモ、御對アソハサント思シメス、人ニモ見セヨ、拙ニモセヨカシト仰アリテ、寫レ之、黄檗山ニ、昔ハ新年ニハ、聯ノカケアヒトテ、流行セシコトナリ、今ハサマテニナシト申ス、

有馬有レ馬、相馬相レ馬、有レ相レ馬能ニ孰馬一、乃千里馬、竹旬是筍、上旬生、中旬生、下旬生、（スルカ）

右百拙ヨリ來ル句也、

梅準梅、梅畑梅、八重紅、一重白、都栽ニ梅壺一（九日ノ日ノ御噂ニハ、都栽ニ九重一ト、）

但馬馬餝ニ但馬一引レ前、（但馬ト云ハ、カサリ馬ノコトナリ、）

對馬馬粧ニ對馬一騎レ後、（對馬ト云ハ、一對ノ馬ノコトナリ、）

右ハ、御前ヨリ出タル句也、

松尾松、松崎松、五葉綠、々葉青、此見ニ松山一、

飛鳥鳥逐ニ飛鳥一下レ地、大鳥鳥隨ニ大鳥一上レ天、

米唐爲レ糖、初唐造、盛唐造、晩唐造、（コレハ百拙ノ噂ニテ、或人ノ句也、）

艸田作レ苗、高田熟、平田熟、下田熟、（コレハ百拙ノ對ナリ、）

淀水鯉、湖水鮒、共養ニ一池一、以名ニ一鄕一、池鯉鮒、

倉山鶴、峨山龜、同游ニ巨島一、宜レ稱ニ巨景一（濃之虎溪有ニ鶴龜島一、虎溪一作ニ巨景一、）

艸毒名レ毒、大毒乎、小毒乎、常毒乎、（私ノ句對、）

ステニ對句ノ出來タルヲ、出シテ見セラル、昔シ黄泉和尙ノ咄ニ、隱元ノ時ニ不圖、烟鎖ニ池塘柳一ト云句ヲ出シテ、諸僧ニ對セヨト云ハレシカハ、ワレモワレモト、頭ヲ傾テ案シケルニ、最若キ小僧ノ、隱元ノ傍ニ行テ、コレハ天下ニ對ノナキ句ナリ、對アルマシト云ケレハ、出來シタリトテ、褒美セラレシトカヤ、其故ヲ問ヘハ、最モ易キ句ノヤウニキコエテ、扁ニ、木火土金水ノ、五行ノ字具ル、如レ此ノ字、又アルヘキヤウナシ、易キヤウニテ、難句ナリ、昔シカヤウノコト、毎々コレアリト申サレタリ、

〇廿日、參候、

此間御風氣ニアラセラレシカ、今日ハ御快シトテ、御立花アソハシカヽル處ヘ、參リタリシニ、幸ニ參リ拜見ヲユルサル、今日ノ花ハ、藜蘆(オモト)ノ前オキトテ、立花ノ家ニハ、殊ノ外ニ秘スルコトナリ、マシテ立ヤウ、拵ヤウハ、堅ク見セヌコト也、他ニテ沙汰スヘカラズ、藜蘆ハ、水仙ナトヽ違テ、ハリカヲヲ入ラレヌモノニテ、竹ノ串ニ結付テ、タムルモノ也、實ヲタツルニ、ソノ實ノ一カブ一カブニ、見エルヤウニ、立ルコトナリト仰ラル、私申上ルヤフ、立花ノコトハ、露ハカリモ存知サムラハヲハ、是御花モ、見事ヤラント中モ恐レアリ、凡ソ立花ヲ見テハ、如何カ挨拶シ褒メ、如何ヤウニ詠ムルモノニヤト、御尋申セシカハ、先ツ立花ハ眞次第也、眞ノ高(高據榊本補之)サホト前ヘ退キテ見ル、正面ヨリ詠メテ、脇ヲ見ヌモノ也、四方見ル事ニハ、如何ナル名手モナラヌモノナリ、尤モ見事ナリ、奇麗ナリナト挨拶スヘシ、夫ヨリ先ハ、面々ノ知ルホトツヽノ挨拶アルヘシ、昔シ池ノ坊ノ專光ヤ、本能寺ノ大自(自近本作慈)院ナト、古今ニ超絶スト云ヘシ、イツモ柳、水仙ヲタムルニ妙アリ、獅子吼院ノ、アレハ多羅尼ヲ唱テ、タムルナラントテ、大笑ナサレシ、

古昔應山ノ、宗和ヲ招カレテ、茶湯ノアリシニ、中立ノ折節ニ、取次ノ人、大坂ヨリ久々ニテ、專光カ上リテ、御機嫌ヲ窺フヨシヲ申上シカハ、好キ折節也、參リテ投入ヲスヘシト仰ニテ仕(雖曰仕疑在)リシニ、宗和入ルトヒトシク、相客ノ人ニ、專光ハ大坂ヘ下リシト承リシカ、イツ登リタルニヤ、御茶後ニ、少逢タキコトアリト挨拶スルヲ、應山ノ聞シ召テ、我ヲ折ラセ玉ヒテ、如何ニシテ專光カ花トハ、知リタルニヤト、御尋アリシニ、イヤトヨ、彼カ細工ノ手段(テギハ)ハ、御前ナトノナサルヘキヤウナシト申上ケル由、毎度例ノ無禪カ咄ナリト仰ラル、

○廿一日、參候、

キノフノ立花ノ御潤色ヲ拜見スヘキノ由仰ニテ拜見ス、次ノ御床ニ、侗信カ三幅對ノ(中文珠、右枯木ニ尾長鳥、左枯木ニ鵙、イト見事也、)左右ノ表具ハ、齊ク、中ハ左右トハ參差トシテ異ナリ、不審ニテ別ノ中ヲ懸ラレタルニヤト申シ上シニ、凡ソ三幅對、二幅對、四幅對、八幅對ノ類、對ノカタモノヽ表具ハ、極メテソノ法アリテ、殊ニ三幅對ノ中ニカキリテハ、兩脇トハ別ニスルカ作法ナリ、古キ對ノカタモノ、皆ソノ法ニ合(大德寺ノ古キカケモノ是也、)今ニモアレ、古キ掛物ノ一幅物、二幅物ヲ見ルニ、是ハ中ヲ拔テ、二幅カケタルモノナリ、二幅對ノ傍ヲ掛ケタルナリトハ、即時ニ知ラル、其法二十七色ナラテハナキモノナリ、(コレモ澤山ナル人ノコトナリ、)近代ノハ其法ナシ、色紙ニテ、雛形ヲ成シオカレタリ、近日御見セアルベシト仰ラル、二幅對、三幅對、四幅對ノコトハ、承ハリ及ヘリ、八幅對ノコトハ、不ニ覺悟一ノ由申上ル、コレハ東山ノ八景ヲ、八幅

ニセラレシコト、名物記ニ見エタリ、今陸奥守ニ四幅カアリ、ソノ外一幅二幅アリ、奈良ノ菊屋カ所持ノ、徐渕カ鷲ノ畫ノ掛物、コレハ天下ノ名物ナリ、毎度三菩提院殿ノ、見テ置ベシト仰ニテ、見侍リシカ、如何サマニモ、又類アルマジク、見事ノモノナリ、サレドモ兎角二幅對ノ傍ト見ユル由ヲ、毎度三菩提院殿ト申合シカ、果シテソノカケモノニ添タル、澤菴カ一卷アリ、ソレニ是ハ珠光カ家藏ノ重物ナリシヲ、一幅ハ彼ニ、一幅ハ此ニト書タリスレハ、彌ウタカフ處ナキ二幅對ノ傍ナルコト明ナリ、古ハカヤウノコトモ、甚タ丁寧ナリシト見エタリ、

倘信カ三對幅ノ御表具、中ノ表具、左右ノ中ヲ、リンホウニシテ、上下ニツカヒ、左右ノ一文字ヲ、中ニツカヒ、一文字ハ別ノ切ナリ、（鵜飼玉川云瀟湘八是ノ掛物ニテ八幡トシ欄間ニ掛クルモノナリ）

○享保十乙巳年正月廿三日ヨリ、先妣ノ病ニ係リテ、度々參候ストイヘトモ、怱々トシテ聞コトアルニ與ラズ、（榊本作御話ヲモ拜聞セス）終ニ三月十二日壙ニ屬ス、故ニ喪中ハ、參候スルコトナク、二月九日ヨリ、五月三日ニ始テ參候ス、喪中無恙御會釋ノミ、別ニ事ナシ、

○五月八日、參候、

兼テ指上置、度量ノ考（古澤道說）、御返シ、字ノ誤トモ訂正ス、ソレニ付、兼々御ウハサノ三器通考ヲ、御カシアルヘキノ由仰ラル、

○同九日、

三器通考拜借ス、尤秘スヘキ由仰ラル、コレニ付兼テ仰ラルル通リ、日本ニテハキト知レサルモノハ、御府ノ周尺ナリ、法隆寺ノ尺モ、シカト周尺トモ定カタシ、御府ノ尺ヨリ長シ、御府ノ周尺ハ、六寸四分弱、法隆寺ノ周尺、七寸餘アリ、シカレハ迚モ尺ト云フモノニテハ證シ難シ、何ツ外ノ器ニテ、コレカ三寸アル器ナリト云フモノカ出レハ、代々ノ尺ヲソレニ合セテ、三寸ニ當ル尺ヲ、何ノ代ノ三寸ト究メテ、ソノ世カラワリ出スヤウニスレハ、終ニ成ヘキコトナリ、是ニ付テ、淡海公ノ令ニ載タル、天皇ノ内印外印ト云フモノアリ、御所ニモソノ璽ヲオサレタルモノアリ、コレカ令ノ寸法、内印三寸、外印二寸八分トアリ、コレニ代々ノ尺ヲ合セテ見レハ、漢ノ尺カ丁ド當ル、是ヲ本ニシテ、代々ノ尺ヲワリ出スカラハ、成ソウナモノナリト仰ラル、

○十七日、參候、

今朝御内意アリテ、此間御ウハサノ鳩喚（キウクワン）ト云唐鳥、今日御所ヘ來ル、拜見セント欲セハ、四ツ時參候スヘキノ由仰ノ旨、林彈正ヨリ申越サル、忝由御請申上、四時參候、御前御簾中又脇坐簾中女中方、外ヘ出テ、侍衆ト一所ニ拜見ス、大サ鳩ホトニテ、色ハルリコン、喙ト足トハ黄ニシテ、頂ト耳後トニ黄色ナル

垂耳ノゴトクナルモノアリ、能人言ヲナス、此ニ付テ、此間ヨリ御噂ニテ拜見セシ書面ニ、少モ違ハス、後ニ記ス、秦吉了如ニ鸜鵒一、紺黑色、丹咮黃距、目下連レ頂有ニ深黃文一、頂毛有レ縫如ニ人分髮一、能人言、比ニ鸜鵒ニ尤慧、大抵鸜鵒如レ見、吉了聲則如ニ丈夫一、出ニ邕州溪洞中一、唐書林邑出ニ結遼鳥一、林邑今古城、云ニ邕(鸜鵒一本作鸐鴿)欽州一、但隔ニ交趾一、疑吉了也、百川學海、扶海禽志、秦吉了、琅耶代醉、瀘南有下畜ニ養秦吉了一者上、亦能ニ人言一、有ニ夷首一欲ニ錢五十萬買一レ之、其人告以レ貧將ニ賣レ爾、秦吉了曰、我漢禽、不レ願レ入ニ夷中一、遂逐一本作道不レ食而死、万花谷、

○十七日、　參候、

近本並一本此條下文十八日ノ條下ニ在リ疑クハ七ハ九ノ誤リニシテ錯簡ナラン

此頃御ウハサ申上シ、天竺物麒麟角ト云モノ、御覽ニ入ル、先キリンノ角サヘ笑シキニ、天竺物トハ何コトソト大笑ナサル、折節　御前ニ、進藤夕翁、今大路治部ナト參候、　夕翁ノ申上ラレシハ、水戸ノ角兵衞方ヨリ、八景ノ出處知レカタシ、若御前ヘ、御序ニ御尋申上クレヨカシト申越ス、イカカト申上ラル、　御前ニモ、ソレハ何日ソヤ、道安ニモ咄シテ、大笑セシコトナリ、世間ニ流布セル、玉澗カ八景ト云フモノハ、斷テ出處ナシ、世ニ云傳ル、東山ノ義敎、此八景ノ書贊アリケルヨリシテ、世ニモテハヤス、コレヲ西湖ノ八景ト云、然レトモ外ニ出所ナシ、東坡八景ノ詩アリト云人アレトモ、未レ見、第一ノ違ヒハ、八景ニ載タル名所ノ名ハ、皆瀟湘ニシテ、西湖トハ遙ニ別ナリ、コレハ瀟湘ノ八景ニシテ、西湖ニアラス、八景記ト云モノアリ、甚珍書ナリ、サテ八景ノ出處ハ、大明一統志ニ出、イカナル人モ、氣カツクマシ、右八景ノ記ニ、八景臺ト云コトアリ、ソレカラ見渡シタル八景ナリ、ソレカラシテ、大明一統志ノ臺ノ處ニ氣ヲ付テ見タレハ、行當リタリ、八景ノ詩ト氣カ付カラ、詩ノ書ニアルヘシト思フカラナリ、コレヲ申シツカハスヘシ、角兵衞モウレシカルヘシト仰ラル、夕翁甚タ忝キト申上ラル、此次ニ、一統志ヲ拜借シテ記ス可シ、此八景モ、題ノ名ハ同フシテ、詩ハ全ク別ナリ、洪覺範カ作ニシテ、玉澗ニアラス、玉澗ハ僧ニシテ名高キモノナリ、詩ノコトハナシ、圓華集ナラテ、外ニ見エス、潛確類書ニ出ツ、瀟湘モ、處ノ名ニアラス、瀟水ト湘水トノ、相合スル處ナリ、

○十八日、進藤刑部大輔ヘ御成、御供仰付ラル、晝前參候、

正晝御成、御相伴、今大路治部大輔、山科道安、

掛物、春屋、

四賓主トアリテ、賓中之主、主中之賓、賓中之賓、主中之主トアリテ、春屋叟記トアリ、

一文字、竹屋町中紗ノヤウニ、金紋アリ、上下ハシケカ、

奈良風呂四方釜、大テイヨリチト平メノ各別大ナリ、作ハテンメウ、
棚ニ香合、シヨンスイ瓢簞形、〇シボリ見事ナリ、
御會席、
汁、茄子、シソ、
先皿、鯛ノイケモリ、ワサビ、ケン、
香物鉢、ハケメ、クリ、青豆、ナスヒ、
煮物、鯛ノウシホニ、ケン柚、
御酒杉ヘキ、御盃、酒注、メザシツケアフリ、
吸物ナシ、　炭、
御菓子ハ、御中立ニ、亭ニテ上ケ申度挨拶、
御中立、川端ノ亭、御菓子、左馬頭持參、道安料理捧ク、
御菓子、葛チマキ、黄色鉢水ニツケ、染付ノ長ミアル角ノ砂糖入、白砂糖サハリサシヤウシ竹箸、
案内御入、
床、置花生、備前インヘ、長ミアリテ、口シメヨセ、底六角ノオキ付アリ、黒ヌリ丸ノウス板、
水指、シカラキ、口廣、ヌリ蓋内込、
茶入、ハフ手上作、尻ハリ、一筋薬ナダレアリ、御前ニ、是ハ廣澤ト見ユ、大褒美見事、
袋、白地金襴、(川本、ウラ厚カイキノ六字アリ)
茶杓、吉首座、(吉近本並川本作ケイ)
茶碗、新渡ノ、ハンス、
ソレヨリ下ノ座シキ、床、二重筒、花、山梔子、(近本山上有白癸二字)

二階床掛物、唐繪ノ枇杷、表具金襴類、(金近本作今)
御菓子、山形羊肝、オリヘノ手付ノ鉢ニ入、左馬頭捧、御薄茶、追付還御、
今日數寄屋ニテ御咄ニ、春屋ハ、遠州カ持ハヤシケルヨリ、澤菴、江月トトモニ流布ス、宗和ハイカイキラヒナリ、イツモ無禪カ咄ニ、宗和ノ申サレシ、今日モ好茶湯ニ行タリ、何モ出來タレドモ、例ノ坊主メカ、床ニアリテト嘲ラレシトナリ、應山ニモ、春屋ホド、黒キ手ハナシトテ、御シカリナサレシ、惡筆ナリト仰ラル、菴澤ハ、アマリ贊物多キ故、贊澤菴ト云シ由ナリ、歌ノ贊物。別シテ多シ、歌ハ烏丸光廣ノ弟子ニテ、餘程ノ修行ナリトゾ、光廣ノ異見ニテ、ヒラニ歌ヨムコトヲヤメラレヨ、禪ノイラヌコトナリト、云遣ハサレシ返事ノ奥ニ、夢窓有二庭之癖一、雪舟有二書之癖一、愚有二和歌之癖一ト書テ、ソノ奥ニ、世ノ中ノ人ニハ、癖ノアルモノヲ、我ニモユルセ、敷島ノ道、ト云ヤラレシト云ヘリ、コレヨリ光廣モユルシテ、指南セラレシトナリ、

〇廿一日、　參候、
或曰、和書ニ、上畧、中畧、下畧ト云コトアリ、又云々ト云コトアリ、差別アリヤト、或曰、畧ト云ハ、其事ニアツカラス、全ク別ノコトナルヘシ、云云ト云ハ、皆其コトナレドモ、今此ニハ與カラス、故ニ云々ト、記スナルヘシト云、予曰、

上畧中畧下畧ノ字、漢ノ書ニテ見ルコト希ナリ、云々トハ、
　毎々コレアリ、幸今日コレヲ窺、
古昔令ヤ、江家次第ナドマテノ書ニ、云々トアルト、近代ノ書ニ、云々トアルトハ、意甚別ナリ、古書ノ云々ハ、漢書ノ注ニアルゴトク、猶レ云レ如レ此トアル心ナリ、上畧中畧下畧ト、意全同シ、別ナシ、上代ノ書ニハ、大方云々トアリ、タトヘハ天平賓字何年云々トアレハ、天平ノ例モ亦如レ此ト云心ナリ、近代ノ書ニ、云々ト云ハ、少ク疑フヤウニテ、事ノスミタル處ニ用ユ、タトヘハ、何月何日可レ有二御幸一云々、ナドノ類ナリ、イツイクカハ、御幸ノ筈ト云心ナリ、文章モ、上代三百年前ノ書ハ、令ヤ、延喜式ヤ、江家次第等、顚倒ハ勿論、漢朝ノ文ニ耻ルコトナシ、定家時代ヨリシテ、日本流ノ文章ガ、一流出來テ、文字ノ顚倒等、心得カタキコトアリ、總シテ藝モ同シ、畫ニテモ、唐書大和畫ハ差別ナシ、筆道ニテモ、唐樣日本ヤウノ差別ナシ、土佐ヤウハ日本畫、御家ヤウハ日本流ト、後ニハナリタルモノナリト仰ラル、但漢ニモ、上畧中畧下畧ト云コトアリヤ、廣瀨外記ヲメサレテ、御尋アリシニ、シカト上畧中畧下畧トハナケレドモ、畧トカ、省文ノ畧ノ不記ノコトハアル、其意ナリ、ウチトメニ、云トハカリハ、漢ノ法ニモアリ、コレハ云爾ノ心ナリ、云々トアレハトテ、連綿ノヲドリ字ニアラス、謂テ曰ト云々、云ヘリノ意ナリト申上ル、
昔シ、漢朝ヨリ日本ヘ、醫ヲ求メシコトアリ、公卿僉議アリテ、遣ハサルマシキニ、事極リテ、ソノ返簡ヲ、江匡房ノ書レテ、內覽セラル、宇治賴通、コノ時內覽宣旨ヲ蒙リテ此ヲ閱シ、立トコロニ、二字カ三字ヲ疑ハレシニ、匡房畏リテ、文字ヲケツリテ、書改メラルト、（世上ニモテハヤシテ、匡房一生ノ名文ナリト云、）匡房ハ、後世マテ稱美スル人ナリ、賴通ハ、ソレホドノ聞エナキ人タニ、上ニ立テ攝關ヲモカヽル人、此時分（分近本作文）ニハ、各別ト見エタリ、後世ノ及フ處ニアラス、其ハツナリ、常々唐人ト相並ンテ、茶話雜談ノゴトクナレハ、此トキノ文如レ此ナルコト、宜ナル哉ト仰ラル、

○六月三日、　參候、御晝御相伴、
此一章、道安考ニテ、醫書ノ抜書シテ指上ク、紙數六枚アリ、
　此ヲ除ク、
延喜式ニ載セタル處ノ、醫書ノ目錄ノ中、一書ニテモ、今世ニ存セヌヤト申上シニ全不レ傳ノ由仰ナリ、モシ典藥頭ニ、秘スルニアラスト申上シニ、古書ハサテオキ、右京カ先祖ノ編集セシ、醫心方サヘ、一册モナシトナリ、

○六月十五日、　參候、
古ヘヨリ、輭障曲屛トテ、今日本ノ屛風ノコトニ用タルコト、

歴々ノ書ニ見エタリ、尤ラシキ字ナリト思フカラ、如何ヤウニモ、漢ノ書ニアルヘキカト、近年思召テ、ヒタモノサガサルレドモ見エス、宿儒、老僧、ナドヘモ問ヘドモ、不レ知ト答フ、源氏物語ナトニモ、輭障トイデテ、古ヘヨリ、ケンセウト讀來レリ、季吟ナトカ湖月ニモ、ケンセウト、假名付シテ、出處モナケレハ音義モナシ、何ト工夫シテモ、文字ハ漢字ナルヘシト思召テ、久シク御不審ナリシカ、此度フト通雅ニテ、其見當アラレシ、輭障曲屛ハ、其制出二于日東一ト書タリ、サレハコソ、制モ文字モ、日本ヨリ出タルトハ知ラルレト仰ナリ、總シテ此公ノ御考、凡テ如レ此、一旦ニ大方ニ出處ニナルヘキコト出テモ、落着セヌヲ、ムリ濟シニセス、數十年ヲ經テモ、御失念ナキ故、御若年ヨリ、スマヌコトノ、近年濟タルコト多シ、

○同月廿五日、　參候、

總シテ出處ト云モノ、切角出テ、ウルサキコトアルモノナリ、ソノ出處ノ書ガ、實ノ正本ニアラザレハ、書誤リタルコトヲ、眞カト思テ、不審スルコト多シ、先日モ、水戸ノ角兵衞カ方ヨリ、進藤夕翁カ方ヘ書通シテ、後法性寺殿ノ御記錄ノ中ニ、狢ト云字ノ下ニ、此字廣韵並ニ諸ノ字書ヲ考フルニコレナシ、不審々々、トアソハサレタリ、畢竟狢ノ字ヲ、トガノ社ト讀コト也、狢ノ字ハ、字書ニ多出タレハ、御不審アルヘカラス、定テトガトヨムコト字書ニナキヲ、御不審ニオホシメスヤラン、折ヲ得テ、上ヘ窺ヒ度ヨシ申上シニ、ソレハ御覺アルコトナリ、御考下サルヘシトテ、御記錄所ヘ仰遣ハサレテ、御吟味アリ、即法性寺殿御自筆ノ御本ニハ、木扁ニ守ト云字ノ旁ニテ、〓ノ字ナリ、〓ノ字ハ、遍ク御考アリテモナキ字ナリ、此度ノ字典ニモナキ字ナリ、カヤウノコト、特ニ日本ノ記錄ナドノ板行ニハ、誤リ多シテ信シラレヌト仰ナリ、

○七月七日、　參候、

近年御求アリシ十五省志ハ、凡ソ日本ニ二部ノ書ナリ、ハナレハナレニハ間々アリ、揃タルハ稀ナルヘシ、是ハ江戸ヨリ長崎ヘ仰遣ハサル、次手ニ、此方ヨリモ仰遣ハサレシ故ニ、一處ニ揃タリ、夥シキコトナリ、醫者ノ傳ナド、技藝ノ部ニ多シ、ソロソロ考ヘ見ルヘシ、先府州ノ目錄ヲ寫シテ、追々願ヘシト仰ラレシカ、隙アルマシト思召テ、御近習（習下近本有岡屋二字）堤右近ニ仰セテ、寫サセテ下サル由拜領ス、最アリカタキコトナリ、

○八月十三日、　參候、

此度、關東ノ姫君樣御逝去ニテ、御忌ニテ奧ニ成ラセラレシ、御伽ニ參リテ、最サフザフシクテ、御興モナシ、更行マヽニ雨モハレ、朧（オホロ）ゲナガラ月モ指出テ、少シ興セサセマシマシヲ便リニ、女中（吉岡於秀）、左兵衞尉ノミニテ、四方山ノ咄ノ御次手ニ、此

坐席ハ、古ヘ櫻ノ御所ニアリシ御書院ニテ名物ナリ、奥州正宗、福島大夫ナド、常々參リ會タル所ナリ、此オシイレ、古ヘハ（ハ下近本有三云字）疊數ノ間ナリシニ、或時鼠ノ入リテ、躁シカリシヲ、應山ノ、鼠ナランナト仰ラレショリ、片目正宗、福島大夫兩人、ツヅイテ推入ヘ入テ、ココヨ、カシコヨト、サガシ求メシニ、外ヨリハ、取リ北（ニガ）シクルカト、切リニ御尋アリシニ、念ナクトリニガシタリ、既ニ推入ヲ出シカハ、如何ニヤ如何ニト御尋アリシニ、大夫謹ミテ申シ上ケシハ、由ナクモ取リニガシタルハ、無念ノ至ナリ、人ナラハ北シハセマジ物ヲト申サレタリ、如何ニモ人ナラハ、北スマシキ者共ナリト、最笑シカリキトテ、毎度御咄ナリトゾ、

福島大夫ハ、常ハ最モ物ヤワラカナルモノニテ、人ノ噂ノヤウニハナキモノナリシガ、或時應山公ノ、滋野井ヲ供ニテ、福島カ旅宿ヘ、茶湯ニ成ラセラレシカ、待合ニテ、大夫御迎ニ出ラレシニ、中門ノ外ニテ、蜘ノ巣ノ面ニ、ヒタト、カヽリケルヲ、手ニテ推拭ヒテ、御挨拶ヲ申入ランナトセシヲ、滋野井アナアサマシ、此掃除人ハ、アハヤ手打ニナルラン、不便ノコトヤト思ヒシニ、應山ノ御挨拶ニ、今日ハ何ヨリモ、珍キ馳走ニアヒタリ、待合ヘ着ト齊ク、アノ喬松ノ梢ヨリ、蜘ノ舞サカリテ、中門ノ袖スリヘ掛渡シテ、織シホドニ、漸クニ出來タル所ヘ、亭主ノ出ラレシホトニ、今少シ見殘セシコトノ殘多サヨ、蜘ノ振舞カ子テヨリ仰付ラレタランナド、御戯アリシニ、大夫モ最興アリテ、辱キコトニ思ヒ、掃除ニハ、氣モツカスナリヌ、此コトハ後ニ犬徒然（然下近本有艸字、川本犬作大）ト云假名物ニ、ノセタル由仰ラル、

○八月十三日夜、　參候、

同月七日辰刻、安克君ノ御方、カクレマシマシシ凶左右ノ、十日ノ夜御聽ニ達シ、其朦中ツレヅレニテ御坐アッシ、御伽ニ伺候セシ、最サウザウシク、物アハレニテ、言出スヘキ言ノ葉モナク、夜更ルマテ御次ニ蹲居ス、恐多キコトナカラ、御心ノ中恐察シ奉ル、此度ハ臣モ早退ニテ下向スヘキ由仰コトアリテ、十日ノ夜子ノ刻ニ、既ニ發スヘカリシニ、訃音忽チ至リ默シヌ、其夜モ御機嫌ヲ窺ヒシカドモ、御對面モナシ、翌十一日罷出シ折カラ、存ショラヌ苦勞ナリシニ、セメテ出ヌ先ニテト計ノ仰ナリ、今少シ遲參ニテ、御用ニ相立申サヌコトノ、無㆓冥加㆒存シ奉ルノミ、樣々ノ御心遣ニ、御機嫌ニモ御替リナク、恐悅シ奉ル由ヲ申セショリ後ハ、日々ノ參候ニモ、夜ノ御咄ニモ、終ニ出ルコトナク、勿論御愁情ノ體、御落涙ナドノコトハ、思ヒモヨラス、下々ノ梯タテテモ不㆑可㆑及コトナリ、御薄情ニテサアルニハアラス、十日ノ夜迄ノ御心遣ハ、人ノ氣ノ付ザリシコトマテニ、細ニ御氣付アルコトノ御傷シサヨ、（吉岡ノ局ノ物語ニ、十日ノ夜更ルママ、御寢モナラテ、最

早道安ハ立ヌラン、時刻ハ何時ナルソト、御尋アリシニ、四ツハ打チタリ、夜半ニ立ヨシ、未タ立ハ致サシト申上シニ、アナ嬉シ、御命ニ御氣道ハアルマシト仰ラレシニ、程ナク御悪左右アリケル、御心ノ中、推ハカルニ言葉ナシトテ、共ニ落涙シヌ、

○十五日夜、　參候、

入江様ニモ成ラセラル、御色紙ニ御染筆アソバサレテ、コレヲヨメト仰ラル、始終文字ノ眞名ニテ、歌ヲアソバシタルモノナリ、コレハ歌ヲ覺エタル故、ヨメ申ヨシ御請申上、又竹紙ニ御書捨ノ長キモノアリ、是ハ得覺悟仕ラヌ由申上ル、御秀ノ局、伊勢物語ノ由申サル、初メテヨミヌ、二品トモニ拜領ス、今之レ有、二重文字ヲアソハシテ、是ヲ書テ見ヨト仰ラル、字ニヨリテ、成リガタカルヘキ由申上ル、何ニテモナルモノナリ、是モ筆道ノ一ツナリ、是ヲ雙鉤ト云、左兵衛尉申上ル飛白ト申ハ、何ノコトニテ候ヤト、仰ニ、飛白ニハ説々アリ、帛ノ字ガヨキナリ、白ト書テモ帛ノ心ナリ、今時梵字ナドヲ書ヤウニ、刷毛ノ類ノ筆ニテ、ヒラメニ書タルモノヲ云、帛キヌナドノ、風ニ飜ル體ナリト仰ラル、

○九月十六夜、

此夜國史經籍十卷拜借ス、一本ニハ拜領、

進藤夕翁ト一度ニ、薄暮ヨリ參候ス、夕翁申上ル、秀吉太閤天下一統ノ後、西明寺殿ノ似セヲシテ、日本回國ノ思立アル由、近習ノ者ドモニ、潜ニ語ラレシカハ、アナ淺マシ、爾來ヒコロノ御氣象ナレハ、留ルトモ余モ聞入ハ有マジト、四人衆ナト迄ハ風聞シヌ、丹羽五郎左衛門ナト、如何ニモシテ、留ント思フニ術ナシ、于レ茲ソロリト云ル僻者アリ、太閤ノ氣ニ入ニテ、輕口モノヲ賴ミテ、カクカクノコトアリ、汝チ留メヲ、セハ、莫大ノ忠勤ナリトアリシカハ、心得申タリ、御機嫌ヲ見合申上ヘシト領承ス、或時御前ニ出シニ、何ゴトゾ替リタルコトハ無ヤト、御尋有、答テ云、替リシコトハ、此間以ノ外ニ流行スルモノ博奕ニテ候、東國西國ヨリ上リテ、處々ニテノ參會ハ夥シキコト、此頃モ清瀧ノ邊ニテ、東方ト西方トノ勝負ヲ、一時ニ決セシト寄合シヲ、旅人ト見エシ山伏客僧ノ、何クトモナク來リテ、是ヲ見物ス、較アリテ我モ人衆ニ加ヘ玉ヘ、一勝負致スベシト云、博奕ノ棟梁等、コレヲ聞テ、先ツ本手モトテヲ見セラレヨト云シカハ、本手ニハ及バス、何レモノ如キ下手ヲ合手ニシテハ、坐中ノ錢金ハ、皆我モノナリ、サレドモ少々ハ懷中セリト、金三百兩サシ出シテ、是ヲ質トシテ勝負セシニ、案ニ違ハス、坐中ノコラス勝マクリテ、己カ有トス、東西ノ棟梁共魂ヲ消シ、君ハ何クノ住人ソト問、此山ノ麓ニ住テ自由ス、天下ノ博奕ノ棟梁タリ、慢ルヘカラスト云、皆再拜稽首ス、亦語テ曰、博奕ニカキラス、我ハ天地ヲ把捉シ、山川ヲ自由ニシテ、高カラント欲スレハ、此愛宕山頭ト長ヲ同シ、長カラント欲スレハ、君カ東國ヨリ、君ガ西國マテモ長クナル、大ナラント欲スレハ、天地

ニハビコリ、小ナラント欲スレハ、煮豆ホドニナルト語ル、一人進ミ出テ、サテサテ奇代ノタメシナリ、迚ノ義ニ、炒豆ニナリテ、見セラレヨト望マレテ、速時ニ炒豆トナリケル處ヲ、取テ口ニ入、ガリガリト嚙クダキ、今ハ心安シト、悦タリト申スト語リシカハ、秀吉大ニ感ジ、サテサテ己ハウイヤツナリ、我此頃思立シ囘國ノコトヲ、汝聞テ、我ヲ諫メケルナ、尤至極セリ、我天下ヲ有スルトイヘドモ、其位ニ居テ、其職ヲ守レハコソ安ケレ、一人ノ獨夫ニテハ、思モヨラヌコト、アルマシキコトニテナント、思ヒトマラレケリトナリ、此一事、虛誕ニモセヨ、甚美談ナリトテ、水戶黃門ノ儒官某ト云モノ、曾呂利 曾呂利、杉本甚右衞門、或作彦右衞門、又作新左衞門、剃髮號坂内宗拾稱界鑑、住于泉州境津目口町刀鞘師也、細工得名譽、刀鞘口能合、故世人以爲異名曾呂利、受香技於志野宗心、尤好茶事、昵近豐臣公、學茶法於武野紹鷗、 カ傳ト云モノニ、コレヲ記セリ、近日上覽ニ供ヘ申ヘキ由申上ラル、

昔シ、四方市ト云ヘル盲人ハ、名譽ノ調子聞ニテ、人ノ吉凶悔吝ヲ占フニ、少シモ違フコトナシ、應山ヘハ御心易ク、毎々參リテ御次ニ伺候セシカ、晩年ニ及ヒテ申セシハ、由ナキコトヲ覺エテ、甚クヤシ、終日人ニ交ルゴトニ、其人ノ吉凶、皆耳ニ響テ、イトカシマシト申シタル由、サルホトニ度々ノ高名、擧テ數ヘカタシ、此四方市朝夙ニ起テ、僕ヲ呼、サテサテ惡キ調子ナリ、此調子ニテハ、大方京中ハ滅却スヘキソ、イソキ食ニテモ認メテ、我ヲ先嵯峩ノ方ヘ誘ヒ行ケト云、日頃ノテギハトモアレハ、早速西ヲサシテ嵯峨ニ行、嵐山ノ麓大井川原ニ着テ、暫ク休息シテ云ヤウ、未ダ調子ナホラス、アナイブカシ、大方大火事ナルベシト、人家アル處ヲ離レテ、此ニ越セシニ、未タ同シ調子ナルハ、此モ惡處ト覺ユ、愛宕ニハ知レル坊アリ、此ニ誘ヒ行ケト云、イザトテ、又上リ上リテ其坊ニ着ク、坊主出テ、何トシテ、カク早クハ登山シケルヨト中セシカハ、然々ノコトアリト答フ、此ハイカニト問、コヽモ倘安カラス、少シニテモ高キ處ヘ、參リタシト云、某ノ處ニ護摩堂アリ、此ニ行カレヨトアリシカハ、此堂ニ入テ大ニ悅ヒ、サテサテ安堵ニ住セリ、調子初メテ直リシトテ、唯イツマテモ此ニ居タキ由ヲ中セシカ、頓テ大地震ヨリ出シ、夥シキコト云ハカリナシ、世間ニ云寅年大地震、何トカシタリケン、彼護摩堂ハ架 架下近本有懸字 作ニテ、頓テ深谷ヘ崩レ落テ破損シ、四方市モ空クナル、六十余リニテアルヘキカ、此一生ノ終リニシテ、人ノ吉凶サヘ、姦キホトニ知ルモノノ、己カ終ル所ヲ不レ知ノミニアラス、死場ニテ安堵シケルコトコソ、不審ケレ、吉ノ極ル處ハ凶、凶ノ極ル處ハ吉ナレハナルヘシ、毎度無禪カ物語ナリト仰ラル、

○同廿八日夜、　參候、

今夜モ、入江樣成ラセラレシニ依テ召ス、昔シ應山ノ御時ヨリ、

今ニ相續スル、宇治郡ノ地士ニ、五條久右（近本右作左）衞門、岡屋喜左衞門ナト云シ者アリ、應山御落餝ノ時、宇治ヘノ御使ノ人、彼人々ノ本ヘ寄テ、上ニハ目出度御コトアリ、近衞樣ニハ御落餝ニテ、御名ヲ應山樣ト申シ奉ルト、云捨テ通リケル跡ニテ、是ハ各別ノ御コトナリ、飛脚ニテ一筆指上ケ、先御賀ヲ申上ヘシト、イザ書タマヘト筆ヲ取リ、先御落餝トハ、イカカ書ヘキヤト云ニ、知ル人ナシ、使ノ人ノ申セシハ、御クシヲ落サレシコトト云シホトニ、面々ニ似合タルヤウニ、御法體ト書ヘシ、應山樣ト申ス御名ヲ、問ハザリシコトコソ、不念ナレト云シカハ、喜右衞門イタク高ニナリテ、ソレハ問マテナシ、王殘トカカレヨ、大御所ハ、後陽成院樣ノ第二ノ宮樣ニテ、王樣ノキレノコリナレハナリト申タル由ニテ、大笑シタリト仰ラル、

此夜江戸ヨリ來ル煙草盆ヲ御見セナサル、名人ノ細工ト見エテ、杉ニテ糸ヨリ細キ彫物ナリ、イト危キモノナリ、併有氣ノイハヒヨリ外ニハ、何ノ益ナキモノナリト仰ラル、ソレニ付、有氣ノ祝ヒホド、爲ヘキヤウナキモノハナシ、此已前ノコト、御前ノ五旬ノ御有氣ニ、

一位樣ヨリ、進セラレシヤウナルハナシトナリ、假令ハ挾箱ノ大サホトナル箱二ツニ、卷物ヲ廿五卷ツツ、都合五十卷、ミナ白地ニテ、綸子、紗綾、チリメン、純子ヲ始トシ、十（近本無十之字）八講サラシニ至ルマデ、一色モ同シモノナク、五十色ヲ揃ヘラレタル、不思議ノ思召付ナリト仰ラル、御榮耀ハサルコトナレドモ、御心付ノ程恐感シ奉ルナリ、

徒然ニ埋メル、ワリゴト書キタルモ、有マシキコトニアラス、昔シ中和門院ノ御賀ニ、天下ノ捧ケ物ドモ、善盡シ、美盡シタルコトナリシニ、彼岡屋喜左衞門カ思ケルハ、我モ何カナ獻上シタキモ、去レドモアノ中ヘ、輕微ナルモノハ出サレマシト工夫シテ、先銀二十枚ノリノ臺ヲ、御殿ニテモラヒ、ハゼヲ堆ク盛テ、御殿ヘ持參シ、玄關ニテ口上ヲ演說セシウチニ、折節南風ハゲシク吹立ケルホドニ、彼ハゼヲ念ナク吹散シテ、臺ノ角ニ、一撮ハカリ殘リタル笑シサ、持參ノ主モ、取次モ、腹ヲカヽヘタリトノ、ウハサナリト仰ラル、

江戸ヨリ流行シ來ル、似タ物揃、シレヌモノ揃ナト、方々ヨリ出ル、御慰ニ御覽アリテ、兎角カヤウノコトハ、京ノ口ヨリモ、江戸勝リタリ、此コトハ、日本ニテ仕タシタルコトニアラス、漢ニモ出タリ、東坡山谷、ナドカ作ニ、甚ヨク云オホセタルアリ、近日拔出シテ、御見セアルヘシト仰ラル、

接鄰、青山雜纂續集、

漢語ヲ釋（近本作譯）スルコトモ、メツタニハ言難シ、近年日本ノ語ノ、漢ヨリ釋シ來ルモノ多シ、歌ナト讀テ、點ヲ請タル文モアリ、日

本ノ小歌ヲ釋タルモアリ、ソノ中ニ笑シキハ、吉野ノ山ヲ、雪カトミレハ、雪ニハアラテ、花ノフブキト云ハ、恐クハ語ノ顚倒ナルヘシ、吉野ハ花ノ名所ニテ、ソレヲ詠セシニハ、吉野ノ山ヲ花カト見レハ、花ニハアラテ雪ノフフキト云ハ、義平穩ニテ、作意アルヘキカト云、尤ナリトテ大笑ナサル、此君ノ御博才、今更云ヘクモナシ、毎々感懼シ奉ルコトノミナリ、

一本以下十四葉脫セリ

○十月朔日、　參候、

一昨日、百拙來リテ云ヤウ、或者問テ申ケルハ、三井寺ノ謠ニ、園々離二海竟一、漸々出二雲瞿一ト云句ハ、何ニ出テ、誰カ詩ノ句ナリヤト問ハレテ、反答ナシ、若御覺エナキヤト問、先ハ不レ覺、シカシ何ヤラン書扱キタルコトアリト思フテ、尋タレハ如レ此コトアリ、

瀛奎律髓、　漁隱叢話、

天中記、　詩藪、

謠ノ抄ニ、前ノ句ノコトハ、緇苑殘芳ニ見タリトアリ、緇苑殘芳ト云書ハ、イカナル書ナリヤ、詩才ノ者ニ可レ問ト仰ラル、遍ク問レ之ニ知ル人ナシ、和書ノ近代ノ物ナルヘシト云、ソノ外ノ出處トモ、入紙ノ通リナリ、○謙明ト、貫休トノ作者モ、未タ分明ナラス、

○十六日夜、　參候、夕翁、如石、拙、

井ヲ掘ルニ、竹ニ水ヲ入レテ、三星ノ移ルトコロヲ掘レハ、極メテ上水ナリト云テ、古ヨリ人コトニ稱レ之コトナリ、俗說ナリヤト窺フ、

ソレハ前日、道安ニモ仰アリテ、漢ヨリアルコトナリ、農政全書ノ井ノ部ナドニ、出ツヘキコトニテ、ソレニモ無、進遠秘書ノ中、癸辛雜記ニ見エタリ、三星ニカギラス、星ノ多クウツル處、可ナリト云コトナリ、キコエタルコトナリ、

賀茂ノアフヒハ、葵ノ字ヲ用ヒ來レリ、葵ナレハ、衞足ノ故事ヲ、引付ニナルヘキヤト窺フ、仰ニイカガ、葵ハアフヒト訓スレハ、衞足ノコトハ、葵ノ字ニ付テノ故事ニテ、アフヒノ故事ニアラサレハ、引證タシカナラス、其道ノ人ニ問ヘシト、松岡氏ニ問レ之、葵ハ眞ノ細辛ニシテ、アフヒハ、葵ノ字ニアラス、葵ノ字ヲアフヒト訓スレハ、五月頃ノツユニ咲アフヒニテ、賀茂ノフタハアフヒニハアラスト、申サルルノ由申上ル、然レトモ葵ハ菜ノ類ニテ、蜀葵葵下近本有錦葵二字ハ、花草近本作中ノ部ニシテ、李白カ詩ニ、衞足ノ故事ヲ用ユ、キミワロシ、葵ト云ヘハ、皆同シコトカト云々、

○廿日、　參候、

和書ノ出處ヲ用ルコト、タトヘハ日本紀ニ出タルコトハ、大ヤウ舊事紀、古事記ニ出タルコトナリ、然レトモ日本紀、續日本紀ヲ、出處ニ引コトイカヽ、出處ト云カラハ、一日モ舊キヲ引ヘキコトナリ、廿一代集ノ中ニモ、末ノ集ニ、前代ノ五百番ヤ、千五百番ノ歌ヲ、載タルヲ引ニハ、五百番、千五百番、ト引カ、ヨキナリ、

世ハ末ニテモ、拾遺、後拾遺、ト引カ然ルヘキヤト申上ル、仰ニ記事ハ國史ニ及ハス、家集ハ本集ニ及ハス、故ニ先ハ舊事記古事記ニアリトモ、日本紀ヲ取ルヘシ、千五百番ニ出タリトモ、廿一代ノ集ヲ取ヘシ、然レトモ此歌ニテノコトナリ、コレハ出處ハ拾遺ニ出トシテ歌ハ千五百ノ歌ナリトセハ、彌詳ナルヘシ、歌ハ出ニ本集ニトシテヨシ、得テハ此誤リアリ、漢ニテモ、天寶遺事ハ、唐ノ玄宗ノ天寶年中ノ事歷ニテ、當世ノ書ナリ、唐書ハ、ハルカ後ノ書ナレドモ、玄宗ノコトナレハ、玄宗本紀ヲ出處ニ引カ本證ナリ、天寶遺事ハ、考證ニ備ハルハ各別、出處ニハ引ガタシ、然レドモ國史ニナキコトハ、事記ヲ用ル勿論ノコトナリ、詩人ナドノ引證ニエテハ夫ノ書ヨリモ、此書ガ、クハシキトテ、一部ヲ引用ルコト甚卑陋ナリ、詳略ハ詳略ノ吟味ニテコソアレ、出處ハ急度シタル書ヲアクルコト此コトナリ、

又窺フ、三代集、八代集、廿一代集等ノ名ハ、イツレモ勅銘ニテ候ヤ、仰ニ、イヤトヨ勅銘ニテハナシ、三代ノ集ナルカ故ニ、三代ト名付、八代ノ集ナルカ故ニ、八代ト名付タルモノナリ、故ニ三代集、八代集、ト稱スルモ僻事ナリ、古ノ人ハ、三代ノ集、八代ノ集、ト云タルコトナリト仰ラル、

○廿一日、參候、

左大臣樣御成、御前ノ御ウハサニ、頃日ノ御幸ノ詩歌ノ通リ、題ハ山皆紅葉トコソ、ムツカシキ題ナリ、和歌題ニテ詩作、別シテムツカシカルヘシト仰ラル、

左府公ノ仰ニ、近代ニテ、逍遙院ノ、證歌アル由ヲ、仰セ上ラル、

　モミヂバニ、タチカクサレテ、見シ花ノ、カタハラナリシ、常磐木モナシ、

御前ニモ御感心ニテ、近代ノ上手ナリ、此證歌ニテハ、皆人々ノ迷惑ナリト仰ラル、花ノカタハラノ常磐木ハ、源氏ノ紅葉ノ賀ノ言葉ナル由ヲ聞テ、及ハズナカラ奉二恐感一、

○左府公還御ノ後モ、逍遙院ハ大テイノ人ニアラス、自由ナルコトナリ、夫ニ付古ヘヨリ傀儡子ヲ歌ニヨムニハ、浮レ女ヲ讀コト作例ナリ、詩ニ作ルトハ各別ノコトナリ、シカルニ逍遙院ノ傀儡ノ歌ニ、

　何トカク、迷フ心ソ、木ヲ削リ、糸ヲ引ニモ、似タルスカタヲ、

ト讀レタリ、異ナ歌ト思ヒシカ、聯珠詩格ノ梁鍾カ詩、

　刻レ木牽レ絲作二老翁一、雞皮鶴髮與レ眞同、須臾曲罷寂無レ事、還似人生一夢中、

トアル、コレヨリ作ラレタリト見ユ、サテハ此人モ、妓女ノミヲ讀テハ無念ナリ、全ク人形ニシテハ、作例ニハヅル、其間ヲ讀テ、自由ヲナサレシコトノ、不思議サヨト仰ラル、

○廿二日夜、參候、（夕翁、如石、石見守、拙、）
筆道ニ飛白ト云コト、梵字ノコトニアラス、眞ニモ艸ニモアル由ナレハ、兎角ニ筆法ニテ、中ニカスリノ出來テアルモノハ、皆飛白ナリ、シカレトモ飛白ト云釋名ナキ故ニ、シカトハ其分チ分明ナラス、ソレニ付醫書ニ、水飛ト云飛ノ字ハ、何ノ心ソト御尋ナリ、曾テ氣付申サス、淺マシキコトナリ、急度考ヘ申上クヘキ由申上ル、氣ノツカヌコト故、今マテ考ヘ置サリシコトノ無念サヨ、

○夕翁申上ラレシハ、臺徳院殿ノ御時、酒井雅樂頭、奥州ノ正宗、御相伴ニテ、御拳ノ雁ヲ下サレケルニ、不圖ソノ時分、ハヤリケルニヤ、兩人トモニ、雁ヲホメ申サレケレハ、一句アルマシキヤト、御尋アリシ御言葉ノ下ニ、雅樂頭、
下サル丶、御汁イクタビ、カヘル雁、
トセラレシカハ、御感ノ餘リ、正宗ワキヲト、御所望、
オソキ給仕ノ、アタマ春風、
トセラレシカハ、御輿ニ入ラセラレシニ、兩人申上シハ、何トソ第三ハ、御上ニアソバサレカシト願ヒシニ、
山々ハ、辛夷（コブシ）ノ花ノ、盛リニテ、
トアソバシケル由、御前ニモ、昔ノ人ハト、大笑アソハス、三人ノ氣象ノ、ソレソレニ見ユルヿノ、淺サマシサヨ、

○廿三日、參候、
昨日ノ水飛ノ考證申シ上ル、
凡用二鐘乳等諸石一、以二玉槌一水研、三日三夜漂錬、務令二極細一、（陶弘景名醫別錄、梁人、）
凡使二赤石脂研如一レ粉、新汲水飛過、三度晒乾、（雷斅、炮炙論、南宋人、（近本眞年云、南宋ハ誤劉宋時人也、））
亦有二火煅水飛者一、（時珍綱目、明人、）
如レ此ナレハ、上古ニハ、水飛ト云ハスト見エタリ、後世水飛ト云ハ、水ニテ飛過スルノ字ヲ切テ、水飛ト云ト見エタリ

○霜月十日晝、深諦院殿御茶ニ召サル、御相伴、午刻參上、
御待合、（圓坐ハカリ、）
御前御迎ニ御出、
御掛物、（日觀、葡萄自畫自讃、）　表具、（一文字紫地印金、上下紺地シケ、中白地古金襴、）
棚、環、羽箒、
釜、 　挑燈釜、（コレハ、常修（近本修作春）院宮、御所持新作、三哲提院宮ヘ進セラレ、今此御所ニアル由ナリ、）
香盒、（黑ノ唐墨ノ形、江戸新細工ノヨシ、裏ニ享保九壬寅トアリ、）
御會席、（膳シユンケイノ糸目、フチウラ、タメヌリノ黑、椀クロ、）
御汁、（シホモゾク、チヨロキ、）
乾山燒ノ皿、（ナマコタヽミ、サキエビ、ケンエビノ髭（ヒゲ）、）
御香物鉢、（アカ畫ノゴス、ドンブリ、皮ツキ箸、）
御食次、（膳ニ同シ、）

壺皿、鴨、ナメ、ミソ煮、
酒、
吸物、鯛ウシホニ、柚、
猪口、ウニ、
御菓子、葛道明寺、モロコシ、アヅキ、シキサトウ、一閑バリ、内赤フチクロ、
中立、
待合、タバコボンバカリ、
御花、桊ノ葉、青赤カラシノ花、
籠、エカゴ、唐物、
水指、備前インベ、ヌリフタ、
御茶入、藤四郎、肩ツキ、黑赤クスリ、石ハゼアリ、
袋、金春キンカイキ、○コレヽヽ、茶入、フタ、フクロ、トモニ小堀遠州ヨリ、應山公ヘ獻上ノ由、夜ノ鶴ト云銘アリ、
御茶碗、新渡ノハンス、
茶杓、宗、青竹、
表御床、拙慭ノ山水、
金ノ花入、白梅、紅椿、
左府公御成ニテ、深諦院殿退出、夜ニ入御對面、御小袖拜領、大紋ノ純子白地、羽二重ウラ、綿トモニ拜領ス、
○十二月五日、午半御茶、上田養安、拙、參候、
待合、圓坐ハカリ、御案内ナシ
御掛物、西行ノ文、御裳川ノ茶トテ、此者近衞家ニテ、名高キ一軸ナリトソ、昔三遊院ノ御トキハ毎度アリシナリ、大猷院ノ設ニモ、カカリシトナリ、コレチミモスソノ百首トテ、西行百首チヨミテ、太神宮ヘ奉納ノ志アリシチ、俊成卿ヘ判チ請ハレシニ、果ザリシカハ、西行ヨリ俊成ヘ、セガミニヤラレシ文ナリ、例ノ如ク、イガミスヅリテ、ヨミカヌル文字アリシチ、昔シ松花堂ヘ云付ラレテ、書セオカレタル一紙チ、別ニ掛物箱ニ入レオカレシナリ、又此文チ、應仁ノ亂ニ、冷泉家ヨリ盜ミ出シテ、所持セラレシ由緒ノ一卷アリ、コレハ奈良ノ方光院ノ教悔ト云人カ、レシトナリ、コレモ又ヨホトノ入トミエタリ○表具ハ、オリヘヘ仰付ラレテ、一文字青地ノ金紗、中白地ノ金紗、上下紺地ノシケナリ、
御棚、羽箒、香盒、堆朱ノヤウニミエテ、ハシカホリナリ、形ハ、手ツキノカゴノ形ナリ、メヅラシキモノナリ、
フクベ、同前、
御釜、與次郎、コレハ應山ノ御トキ、與次郎チ召テ仰付ラレシ、大アラレナリ、共フタニテ十王口平ク丸釜ニテ、當世專ラハヤルナリ、兼テ御物語ニテ、當世ハヤルトキヽテ、終ニカケズト（近本仰付ラレシノ下大アラレ小アラレトテ二ツノ一ツナリ是ハ大アラノレナリ共プタ云々）仰ラル、客ユヘカ初テ拜見ス、
御會席、
御汁、ナメニ、百合根、芋ノ葉ノホシタルチ小タタキニシテ、フクサミソ、
膳具、同前
平皿、ススナ、鴨、
燒物、ヤリカンナメノ、一重ノ黑ヌリ盖ノウラニ、マキ繪アリ、鯛板ヤキ、花シホ、
吸物、小エビ、チヨロギ、
猪口、樂、コノワタ、
菓子、カステラノムシカヘシ、シイタケノニシメ、
盃、同上
中立、
待合、ベンカラノ幕雨ヒラキ、烟草盆、手爐カテウ、

御案內、鉦

御花、井ノコヤナギ、椿ノ飛入二リン、イツモナガラ言語ヲ絕ス、

筒、宗和ノ一重キリ、

水指、平壺ノウチコミブタ、シマモノ、

御茶碗、百年ハカリ以前ノ新渡ノハンスノゴキ、

茶杓、

茶入、ハリヤカタツキ、〇コレハ織部ヨリ獻上ニテ、御家ニテハ、カヅラキト銘ス、ハリヤカタツキニ、カヤウニハゼノアルハマレナリ、尻ニ大ナルヤマカケアリ、蓋モ織部モノスキナリ、

袋、古金ラン、白地ウラカイキハ、

御表ノ床、雪舟ノ山水、小カケ物二幅對、〇上下純子、中ヌヒシヤ、孔雀ノモヤウ同シ、

卓、春日卓、青磁ノ香爐、〇此ハ土屋相摸守ノ道具ニテ、方光院ヨリオクラレシ物ナリト仰ラル、是レヲ二重オビト云、大方ノ香爐ハ、糸筋カ胴中ニアリ、此ハ上下ニアリ、故ニ名ツケタルカ、

夜ニ入ルマテ、話シ申シ上ヘキ旨、兼テ仰ニ依テ、四ツ過マテ御前ニ伺候ス、御領內池田ニテ燒出シタル由ニテ、燒物イロイロ御出シアソハシ、面目ツキ次第ニ下サルヘキ由ニテ、各々拜領ス、

〇十九日、　參候、

昨十八日、准后宣下ノ御內意コレアリ、廿一日陣ノ儀アリテ、御奏慶ノ由承ル、恐悅至極ノ旨申上ル、仰ニ、兼テ落飾ノ願ヲ、內々ニ申上置タレハ、思召モヨラヌ御事ニテ、勿論落飾ハ中ノ通リニアソハスヘシ、其ヨリ前、准后ノ宣下アルヘシトノ御事ナリ、御先祖ノ御餘慶ニテモアルヘケレドモ、昔ノ人ノ、准后ニナラレシ重キコトヲ、思召クラヘラルレハ、過分ノ御事ナリ、御家ニテハ、忠仁公ソノ最初ニシテ、ソノ外御歷代ニハ、ヒタトアリシコトナレドモ、近代ニテハ三邈院ノ御父龍山公コソ、准后ニテワタラセ玉ヘ、ソノ外ニハ絕テナシ、凡百廿年ハカリ、外ノ五家ノ衆ニモ最メツラシ、御奏慶スマハ、御落飾モ程ナクアソバサルヘシト、最御心ヨゲニ仰承リテ、數ナラヌ身ナカラ、難レ有キコトニ申上ヘク言葉モナク、追付上ノ御殿ニナラセラルル御催ニテ退出ス、

常ニ參リ通ヒテ、拜シ奉ルニ、總シテ此公ノ御アリサマ、又アルヘシトモ覺エ子トモ、カカル御コトハ、思ヒヨラヌ御コトナリ、世澆季ニ及ト云ヘカラス、御家ハ申モオロカ、御位ハ太政大臣ニテ、御外祖タル御コトナレハ、御器ハナクトモ、カカルタメシノアルマシキコトニシモアラ子ト、カカル御器量ニテ、カカル御規摸アランハ、又近代ノ御中興トヤ申ヘキ、仰キテモ尙餘リアリ、〇潛ニ承リシハ廿四日ニハ、春日ノ社御參詣ノ由、今日吉田殿御請申サレシナリ、定メテ此度ノ大義ヲ、告申サルルニテモアルヘキカ、又御落飾御暇乞ノ爲ニモアラン、最貴キ御事ナリ、

〇廿一日、　上ノ御殿ヘ參候、

准后ノ御拜賀、

〇廿五日、　參候、

廿二日、准后ノ拜賀ノ首尾ヨク濟セラレシコトヲ、賀シ申シ上ケシニ、サレハトヨ、天氣モヨクテ、首尾ノコルコトナキ目出タサヨ、禁裡院中ヨリモ、築地ノ中、ノコリナク掃除ナト仰付ラレシホトニ、今日ハ內々ニテ、昨日ノ御禮ヲ申シ上ニ追付參

ルナリ、明日ヨリハ、三日ノ御神事ニ入ラセラレ、廿四日ニハ、春日ヘ御參詣アルヘケレハ、年ノ中ハ日數モ少ケレハ、日比ノ思召タル御落餝ノコトモ、何時ノコトニヤナルラン、春ニモ延ヘキヤウニ御物語アリテ退出セシニ、今日山本ノ某ニテ、御落餝ノ御沙汰ト聞エシカハ、誠シクモアラネト、此間ハ御神事ニテ、特ニ臣ハ重服ノ恐レアレハ、御機嫌ヲモ窺ハサリシカ、扨コソト、急キ彼御所ニ行向テ窺シカハ、爾々ト聞ユ、恐ナカラ存モヨラヌコトノ恐悅サヨト申シ上ク、御前ニ召サレテ拜シ奉ルニ、御髮ハ束ネナカラ、道服ニテ御坐アル、錦小路、拙、恐悅ナルコトニ、斯懼レ驚キタルコトハ候ハズト申上シカハ、左コソアルヘケレ、未タヨクモ早クハ知タレ、昨日春日ヨリ還御アリテ、御裝束ヲ脫セラレ、御指貫ニテ數馬ヲ召サレ、御髮ヲホトキ、此ホトニ、切ヘシト仰ラレシヲ、數馬イト意得ズ、イカカト申シ上シカト、仰ナレハ是非ナク、ソロヘ束ネシニ、女中方ヘ、先頃ノ一條院ヘ御賴アリテ、兼テ拵オカレシ、素絹ノ御衣、御袈裟、トモニ持參レト仰ス、女中何心ナク持參リ、御姿ヲ見テ駭キ奉ル、ヤガテ今大路兵部丞コレハ吉田ヨリ御供ニテ、御別業ニ伺候ス、ヲ召サレテ、此旨ヲ、左府ヘ申上ヘシト仰ス、兵部丞モ、存シヨラヌ顏ニテ、急キ歸リテ申上シカハ、左府ノ御方ニモ、努々知ロシメサヌコトニテ、御悅ノ御使ナト進セラレシコトナリ、御殿内ノ御家來サヘ知ラヌコトナレハ、汝カ知ラヌコトハ理リナレト仰ラル、女中方ヨリ合テ、サテシモ知ヌヘシト、今モ今トテ、沙汰セシカ、早クモ來リヌ、サソ驚キヌラン、知ラサスハ恨ミヌヘシトテ、ウハサセシナト、口々ニ言ノノシル、私モイト御心易ク參リナカラ、カホト知ラヌコトハアルマシトテ、御シカリナサルヘキカト、互ニ大笑シテ退出ス、希代ノコトナリ、

○廿八日暮、參候、

御內々ニテ、月ヲ獻上ス、コレハ忌憚ルコトアレハ、委ハ記セス、

○茶入ノヒモヲ、左ノ手ニ茶入ヲ持ナカラトクコトハ、棗ニカキリタルコトノヤウニ申ス、左ヤウニテ候ヤト申シ上ク、仰ニ、夫ニハ訣アルコトナリ、棗ニカキルヘカラズ、凡ソ大海ヤ內海ナトノヤウナル、底ノ平ナル茶入ハ、左手ニスヱテ、右ニテトクコトアリ、尻ノ尖リタルモノニハ、ナキコトナリト仰ラル、左ニテ候ハバ、凡ソ底ノ平ナルモノハ、皆手ニスユルコトニヤ、但シ下ニスユルト、手ニオクトニ、差別アルコトニヤト申上ル、

仰ニ、イカニモ差別アリ、ソレハタトヘハ、茶道ノ茶ナトニテ立ルカ、濃茶ノアトニ、直ニ薄茶ナト、袋入ニテ立ルトキ、最モ前ノ茶入ヲ、下ニオキテヒモヲトキ、又後ノ茶入モ、同シモヤウニスレハ、客モアクドシ、故ニサマヲカヘテスルコトアリ、サレトモ底ノ平ナルモノニアラザレハセヌコトナリ、底ハ平ニテモ、初ノニハセヌコトナリ、棗目ニカキルコトニテハナシト仰ラル、

總シテ、サヤウノ心得違タルコト、多シトミエタリ、何日モ話セシヤウニ、世間ノ宗旦流ト稱スル人モ、見トリニテスルコト多シ、直ニ習ヒ聞カヌコトハ、タシカナラス、自在竹ノ小ビルヲ、究メテ左ノ方ニスル、　御前ナトノハ右ノ方ナリ、コレラモ宗旦ハ生レ付、ヒタリニテアリシ故ニ、勝手ノ自在竹ノ小ビルヲ、不圖見タルモノ、言傳ヘタルト見ヱタリ、イツソヤ汝ニ見セシ、應山ノ御自筆ニテアソハセシ、宗旦傳授ノ書ニモ、右ニスル由ヲ、直ニ申シ上シトアリ、疑アルヘカラス、

遠州ノ花生ノソギハ、世上ヨリ一等ヒキシ、又多クハ置花生ノモノナリ、コレモ遠州流ト云モノカ、見トリニスレハアシシ、

遠州ハ生レ付近目ユヱニ常ノ通リニテハ、高キヤウニ思ヒタルモノナリ、

槐記卷第二終

明治十五年三月三十日

華族蜂須賀茂韶藏書ヲ寫ス

明治卅三年六月

依近衞公爵家藏本并川崎千虎本校之

小杉榲邨校閲

雛田千佳艮校正

槐記　卷第三

近衞豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

○享保十一年丙午正月元日、參候、（恒例ハ四日參候スレトモ、律君御方御風氣ニテ、暮ヨリ參リツヽク、）

○如ニ恒例ニ御茶（近本茶作樂）獻上ス、今年ハ諸獻上共ニ御斷リニテ、御請ナサレヌ由ニテ返シ下サル、諸方ノ御禮者ヲモ、御辭謝ナル由ニテ、此後ハ諸大名式正ノ御禮ハ勿論、寒暑ノ獻上ヲモ謝セラルノ由ナリ、

御內々ニテ御目見、　御熨斗昆布頂戴、御賀儀何時（イツモ）ナカラ、今年ハ別シテ閑靜ナル元日ニテ、最安樂ナリト仰ラル、

○二日、　參候、

御歲旦ノ台作三首御見セナサル、最世間サタナシノ由仰ラル、

御休臺ノ上ノ茶杓拜見スヘシ、是ハ三齋ノ茶道一齋ト云シ者、百歲餘ニテケヅリテ、御幼少ノ時、直ニ奉リシト也（二重タメニテ、末ニ節アリ、）總シテ茶杓ハ、茶入ニ相應ノ形アルモノニテ、初ヨリ形ヲ定ムルモノニアラ子ド、コレハ目出度茶杓ユヱニ、毎年元日ニ御用ナサルヽ由仰セラル、

○六日、　參候、（錦小路、擱、夕翁、）

江戶ヨリ上リタル太助カ咄ニテ、總シテ和漢トモニ、幼少ノ中ニ分外ノ名アル人、後マテ全キハ少シ、七才子ナニカト云ヘトモ、司馬温公ヒトリ、後マテ全シ、近年關東ニテ沙汰アル、荻生宗右衞門、室新助ナト、幼少ニ分外ノ才アルコトヲ聞ズト、夕翁申上ル、

○八日、　參候、

御會初ノ題ハ、廣キヤウニテ狹キモノナリ、讀オホスル人モアルヘキカ、　山景移水トナリ、是ニツキ逍遙院ハ、歌ノ趣向ニハ、古今ニ超絕シタル人ナリ、コノ頃サル方ヨリ、硯ノ蓋ニ、銘ヲカキテ下レヨト、所望ニ逢テ、何ヲカ記スヘキソト思惟スレドモ、古硯ノ銘モ、アマリニ耳ナレタリト思シカ、幸ニ逍遙院ノ硯ノ歌ニ、古硯銘ヲ、一イキニ讀レタルヲ、書テヤリタリ、

墨筆を、さぞあたものと、見る石の、おのれ靜に、世をつくし筒、

トセラレタルヲ、書テ遣セシト仰ラル、（此公ノ歌ヲ願ヒタルヨリモ、漢字ノ物ヲ遊ハシタルコト多キ故ニ、定メテ先ヨリハ、難キ銘ナトノ所望ニテアルヘキヲ、却テ歌ヲカキテツカハサレタリト見ユ、）

○十一日、　參候、

（一本此條、下文茶筅ノ條ノ下ニ在リ）

昨日ノ御茶ノウハサナド、申上ルツイテニ、近年ノハヤリ言ニ

テ、阿彌陀堂ノ、丸カマノト云カラ、釜ノナリヲ得テ問フ人アリ、釜ノナリヲ、盡ク名アルト云フハ、ナキコトナリ、茶入ナトノ、何ノ手ト云ヤウニ、覺エタル人アリ、

○常修院殿（常修院殿、梶井宮慈胤二品親王、後陽成帝第十三皇子、天台坐主承快法親王資、母土佐局、元和三年三月廿四日誕生、稱淸宮、寛永六年十月九日爲親王、同七年十一月七日得度、同十九年十二月廿八日任天台坐主、元祿十二年十二月十二日薨八十二、葬于魚山、號常修院宮、）ノ常ニ御物語ニ、疊ニ本末ト云コトアリ、多ハ人ノ知ラヌモノ也、本末ヲ吟味シテ敷タルタ、ミハ少ナキ者也、氣ヲ付テミルヘシト仰ラレシカ、眞ニナキモノ也、疊ノヌヒ出シノ方ヲ本トス、目モロクニシテ、ヲツレモナシ、スヒサキハ、何トシテモ、目モ半ニカカリ、ヲツレアル故ニ、爐ノキハ、本ノ方ヲ敷カヲハ、シダラクナルモノ也ト仰ラル、今モ幸雪（常修院樣、御近習、）ナドカ、能覺テ居テ、疊屋ガシカラレタリト申ス、

○茶釜ノ吟味ナトハ、世間ニタエテナキコト也、アラホノ釜ハ此茶碗、コノ茶釜ハコレト、ソレソレカハリアルハ、風流ニノミスルコトニアラス、ソレテナケレバ、立ラレヌユヱナリ、

○當世ニ、露地ノ石ヲ高クスユルコトハ、意得チカヒ也ト、毎度中井定覺ガハナセシガ、尤ナルコト也、妙喜菴ノ石ク高サ、二寸バカリアリトテ、此ヲ法トスルハ違也、妙喜菴ニハ、本ハ小石ヲ敷タル庭ニテ、定覺ナト若キ時マデ覺エタリ、ソレヲ近年トリタル跡ノ、石ノ高サ也、常式タルベカラズト云、イカサマ左モアルベシト仰セラル、

○露地ゲタト云コトハ、絶テナキコト也ト、常修院殿仰ラル、石ハ水ハキノヨキヤウニスエテ、雨ガフラヲドモ、降タルホトニ水ウチタル庭ノ爲ニ、拵シラヘル、裏付ノ草履ナレハ、外ニ履アルベキヤウナシト仰ラル、

○亭主ロノ丸キハ、常修院、菩提院ナト、イカイ御キラヒ也、宗和ノ流ハ、皆ハカマコシ也ト仰ラル、

○十四日、參候、

疊ニ、本末ト云コトアリト仰ラレシヲ、再ヒ窺フ、仰ニ、ヌヒ出シノ所ハ、キハモ正ク、目通リモ正シ、是ヲ本トス、ソレナリニ推出シテイテ、向ノ方ハ、ナリ次第ニ、ヘリヲツクル故ニ、目通リモ、ナニトシテモ正シカラズ、ヲツレモアルモノ也ト仰ラル、

○釜ノコトモ、再ヒ窺フ、

仰ニ、七通リアルモノ也、先アラホ、シケホ、ツホミ、ヒラキ、節トマリトテ、七通リ也ト仰ラル、

○棗ノ形モ、十二ナラデハナキモノ也、今ノ人ミダリニ棗ヲ用ルコトハ、合點ノイカヌコト也、棗日ニハ、時節モアルモノ也、置合セアルコト也、イツゾ見スベシト仰ラル、

○十五日、參候、御夕方御相伴、（三寶院新門御成、）

常修院殿ノ御咄ニ、織部ガ利休ヘ、大棗ヲ請ハレシニ、即出シテ遣ハセシカハ喜ヒテ、明日即チ是ニテ、御茶申タキノ由ヲ申テ歸ラレシ跡ニテ、利休申サレシハ、織部何トシテ、大棗ノ茶ヲ調(タヾ)ヘキヤ、心元ナシトテ、明日參ラレシニ、先棗目ヲ、ハダカニテカザリ付、扨茶ヲ立ルトキ、茶杓ヲ持ナカラ、棗ノ茶ヲ殘ラズハラヒテ立ラレシヲ、利休カヘリテ、織部モタヽモノニアラス、出來シタリト褒ラレシトカヤ、大棗目ナドニ、茶ヲ澤山ニ入レタルハ、立タルアトマデモムサシ、總シテ此ニカギラズ、棗目ノアシラヒニハ、大事ノコトアリ、秘藏スヘシ、人ニカタルベカラズ、彼形ヲモ拜見スベシトテ、御内々ニテ拜見ス、タトヘハ廿冊入ノ本箱ホドノ内ニ棚アリ、其中茶箱ナドノ大ナルサシ蓋ニ、絹サナダノ綫付タル箱上下二ツアリ、其一箱ノ中ニ、袋入ノ棗目六ツ、以上十二アリ、其中ニハ、見覺エタル形モアリ、曾テ見知ラヌ形モアリ、皆コレヲ世ニ、紹鷗ノ、利休ノト云テ、宗匠ノ物ズキノヤウニ、思フハアヤマリ也、形ガカウナケレバナラヌコト也、是大秘藏ノコト也、人ニ語ルベカラス、大根棗目ハ、茶入ノ引家也、ソレ故ブンリン、丸壺、肩衝ヲ、ハシメトシテ、ソレ〳〵ノ茶入ノ形ニ應シテ、挽家ハアルモノ故、唐物廿四通ノ外、家ニアル形ヨリ外ハ、ナキ筈ノコト也ト合點スヘシ、是大事ノコトナリ、

○水戸黄門ノ家來ニ、□□ト云フモノ、織田知徹流ノ茶人ナリ、コレカ編ミタル茶道ノ書アリ、牽牛(アサガホ)ノ茶、雨ノ茶、雪ノ茶、夜ノ茶、朝込、此五通リヲ書タル書ニ、安積角兵衞カ序ヲ書タリ、面白キコト也、近日見スベシト仰ラル、

○廿三日、進藤左馬頭ヘ御成、(廣瀨外記、拙、)

御供、

午下刻御成、

待合、(上ノ圓座タテカケ、次ノ圓座二枚カサ子、上ノ煙草盆、新相樂ノ火入、青竹灰吹、下ノ烟草盆一カンパリ、染付火入、青竹灰吹、)

上ノ御衣、(御ウチキ、チイサカタナ、○褂ノ字ヲ書ノ由、一葉ノ咄也、コレハ此頃御内々ニテ拜見ス、古代ノ服ニテ、源氏ナトニ、ウチキスカタト云コレ也、先日准后宣下ニ、勅使ヘ下サレケルカツケモノモ、コレナリトナリ、タトヘハ八徳ノヤウニテカサ子アリ、袖口スソマハリ、三重ツツノコヘリカサ子也、上ハ茶ズス、中ハ紺、ウラハモヽ色也、近年ノ内ニハ、毛衣ニモナサルヘシト思召ヨシ也、向後ハ御刀モ持サルマジキ由ナリ)

床、掛物、(探幽ノ福祿壽ノ寶ツクシヲ荷擔タル圖也、一生ノ出來モノヽ由、表具ハオリヘ物スキナリ、○コノ掛物ハ、カ子テ一葉ノ所持ニテ、ライ紙多キユエ、御賛ヲ願ハレシカトモ、重子テ思召付アラハアソバスヘシトノ事ナリシカ、舊冬不圖思召付テ、アソバシ下サレケルト御噂アリシコト、承リ及ヒタリ、サテコソト拜見スルニ、錦上鋪花トアソハシタリ、恐多キコトナカラ、兼テ賛物ニ心得アリトノ御意ニ、少シモタカハス、)

棚、香合、(少シ長ミアリテ、スヤキノヤウニ、カラクサノホリモノアリ、甲ニハ飯菱ノヤウナルモノ、朱ニテヌリタルモノナリ、カウチノ由見事也、)

會席、

汁、(子イモ、小丸ヤキ豆腐、ウド、フクサミソ、)

指味、(鯛、ワサビ、キンカン、鯛ヲ半分ハ、カキダヒニシテ、半分ハソノマヽ、)

煮物、(センバ、生雁、三月大根、柚ノ細ギリ、)

香物、ナラツケ、ナスビ、ウリ、　鉢、四角ニシテ、角ヨリ角ヘ手付、織部、
御酒、
御肴、ヘギ、コノハガレヒ、アサクサノリ、
御菓子、ゼウヨマンヂウ、ヤキテ、
御中立、
花生、ビゼン、一尺二寸ハカリ、細ク中ニテヒラミアリ、白クスリ立スヂアリ、〇オキ花生ニテ、丸キウスイタ、
花、ヒボケ、フキノトウ、
茶碗、御上、樂ノアメクスリ、カフタイスヤキ、アヤスギミシマノ形、　次　カタデヒラ
茶杓、宗和、二重ダメ、
茶入、セト、金華山ノ手、　袋、オランダモフル、地白、芥子花ノ樣ナル模ヤウ、
御中立、
表床ノ掛物、〇〇
次ノカク花生、クミモノノ籠、レンギヤウ、ツバキ、
夜食、
ナラ茶、
汁、ミソ、ホウボウ、ミツバ、
煮物、タマゴトウフ、
燒物、鯛ノイロツケ、
初夜半還御、
〇廿四日、　昨日ノ御禮參候、昨日ノ茶ノ御ウワサ樣々ナリ、

菜籠ヲ出スコト、今ハ春ニナレハ、必用コトノヤウニス、古ヘノ常修院殿ナドニハ、春ニ至リテモ、大方フクベ也、若シ同シ客ニ、ウチツヽキテ珍シカラヲバ、菜籠ニナサレシコトモ、偶〻ハアリタリト仰ナリ、
〇廿五日、　參候、
近日ハレナル夜茶湯ニ參ルコトアリ、然トモ御流ノ茶主ニテコレナク、客ニナリテノ致シヤウ、心得ナキコトニヤトウカヾフ、
仰ニ、サシテ別ノコトハナケレドモ、今ハ昔ノヤウニハ、大ニ替リタルコトアリ、第一ノ心得ニハ、外ヨリ見入タルトキ、數寄屋ノ窓障子ノ、明リノトリヤウニ氣ヲ付テ見ヘシ、此亭主ノ上手下手ノ、大イニ見ユルコト也、窓コトニ、必ズ掛戸ハアルコトナレドモ、是非ニ一方ハ明ルコトナリ、コレヲイキダシト云、上ノ窓ヲ明ルコトモアリ、下ノ窓ヲ明ルコトモアリ、月夜ト暗トノ違モアリ、月ノサシ込處ナトヘ、燈ノ明ニミユルヤウニスルコトハ、大ニアヤマリ也、前カト宗巴ニ、夜ノ茶ヲ仰付ラレシトキハ、窓コトノ戸ヲ、殘ラス掛タリ、譯コソアルラメト仰ラル、
手燭ヲモ、今ハトモシナカラ、障子ノ外ニ捨置テ、勝手ヨリ、取ルヤウニスルコトハ、先第一ノ不用心也、風ナドアル夜ハ、

アブナキコト也、露地ニヨリテ、アシク戸ヲシメテ、入カタキ處モアルヘシ、古ヘ常修院殿ナドハ、究テ戸ノ外ニテ、下客ノ手水ツカヒ仕廻ヲ待テ、燭ヲ持テ御入アリテ、掛物ナトソノ燭ニテ見マハシ、下客ソノ手燭ヲ、亭主ノ出テ、トリヨキ處ニ直シオキテ、火ヲ消スヘカラス、

手燭石ハ、手燭ヲ置タメナレバ、今ヤウノ路次ニ、手燭ナケレバ、庭闇クテアヤウキヤウニ覺エ候ハ、イカヽト窺フ、ソレハ兼テ燈籠ノ置ヤウ悪キ故ナリ、燈籠ヲ斜ニ直シタルモノアリ、正ニ直シタルモアルハ、風流ニシタルモノニアラズ、夜直シ見テ、手燭ナクテモ、明リヨキヤウニ直スコト第一ナルヲ、因(ヨシ)モナク、燈籠ヲ立ルユヱ、鉢前ナト暗ク、庭クラクテ、手燭ナクテハ歩カレヌハ、兼テ心得アシキ故也、

○廿八日、參候、

御閑ニナラセラル、間、夜マテ御伽スヘキ由仰ナリ、サマサマノ御說ノ中、コノ頃ノ野村某カ茶ノ噂ヲ申上テ、御流ノ者ユヱ窺フニテ候、テンメウノ釜ノ尻張ニ、伊賀ノ水指ノ下ニテハリタルニ、車軸ノ茶入ニ、長次郎ガシヲクノ樂茶碗ニテ候ヨシ、コレハ指合ノヤウニ候、イカヾト窺フ、

仰ニ、亭主ノ心ハイザシラズ、其ハアルコト也、結句一ツ二ツナラバ指合タリトモ云ヘシ、加樣ニソロヒタルコトハ、好テモスルコト也ト仰ラル、○表ハ宗和ノ二重棚ニ、フブキノ茶入也、コレハイカヾト窺フ、　仰ニ、ソレモ亭主ノ心ハシラヌドモ、車軸ノ茶入ニハ、フブキ相應也ト仰ラル、（棗目ハ、カタツキノ類也、口傳、）

○先日ノ左典厩カ茶ニ、一ツノ仕損シアリ、氣カ付タルヤト仰ラル、曾テ氣付申サヌヨシヲ申ス、花ガ款冬(フキ)ノトウナルニ、吸物ニフキノトウハ指合也、コトニフキノトウノ花ガイト珍シ、餘寒ノ甚シサニ、未タ出ベカラザリシニ、最コヽチヨク開キタルヲ、興ニ入テ思ヒシニ、吸物ニマデ入タルハ、澤山ナリケルヨト推量スト、昨日モ如石ト、御ウハサナサレシト也、コレニ付テ、古ヘ三菩提院殿ト、昔シ何某ガ茶ニ御成アリシニ、會席ノ膾ニ、ナメノ軸ヲ多クツカヒタリ、一段オモシロキ風味也、三菩提院殿ノ、耳ニ口ヲヨセテ、晩ノ夜食ニ、ナメヲツカハ子バヨキガ、コヽロモトナシト仰セラレシニ、案ニタガハズ、イトモ澤山ニ吸物ニシタリ、扨コソトテ、大笑シタリト仰ラル、

○何藝ニテモ、習ハズニ、見トリ聞トリニスルハ、形ハ似(ニ)テモ、何トシテ、加樣ニハスルト云譯ガスマヌ故、コヽニテハ合ヒテ、彼コニテハ違フコト多シ、フクサヲ腰ニ付ルコトモ、右ニカキリタルコトナレドモ、今樣宗旦流ト云モノハ、必左ニスルトモ云、又ハコボシニ從フトモ云、皆アヤマリ也、兼テ云通リ、宗旦カ左ナル故ニ、勝手ニマカセタルヲ、見トリニシタルアヤマリ也、

料理ナドモ喰タルマヽ、見タルマヽニテ、其仕様ヲ習ハズニスレバ、大ニ違フコト多シ、昔シ獅子吼院殿ハ、物ヅキノ達人ニテ、物ゴトニ面白キコト多シ、或時應圓滿院、無上方院公、葉室一位、坊城一位ナド參リシニ、數邊御饗應ノ上ニテ、盃ヲ大小御人數ニ合セテ、盃ニ並ヘテ、ソノ中ヘハ山椒ノ細末ト、青苔ノ末ト、燒鹽ト、三色ヲ匙ニテ、松ニ雪ノフリカヽリタル處ヲ、繪ニアソハシテ出サレタリ、山椒ノ粉ヲ身木ニシテ、松ノ葉ヲ青苔、鹽ヲ雪ニアシラハレシ由、今モ拜シ奉ルヤウ也、イト面白キ御趣向也、面々ノ器ニ應シテ、酒ヲツキテ召上ラレ、一位タチハ、皆上手ナリシカハ、又其々ノ器ニテ飲テ、一段風味モ又一キワカハリテ好ト稱嘆ス、〇ソノ後庚申ノ夜、イツモ無上方院ノ御方ニテ御遊アリ、日外ノ獅子吼院ノ御物スキノ面白サ、今宵モ遊ハセカシト仰ニテ、公ノ御繪ニテ、ソレ鹽ヨ青ノリヨト、アハテフタメキテ、拵ヘ出來シマヽニ、サラハ遊ハセトテ盃出シテ、コノ枝ハ今少シ長クシテ、コノ松ノ蓋ヲ一カサ大ニシテ、今一ツモ苦シカルマシ、身木ハ少フトキガ相應也、カレ枝モ面白カルベシナトシテ出來タリ、扨コソ見事ナル物ヨ、サラハ酒一ツツギテ飲カシ、我ヨ人ヨト推イタヽキテ、風味モヨカルベシトアリシニ、鹽モ山椒モ、辛ク鹹クテ、一口モタベカテタリトテ大笑シタリ、獅子吼院ニハ繪モヨク遊ハシ、酒モ一ツ上リシ故、ソレヨリ出タル御物スキ也、公ハ酒ハ子カラ御キラヒ故、ソノ加減ハ御存ナキハ御理リ也、

〇二月九日夜、中川石見守ヘ御成、吉岡局、御秀御娘、拙、

暮六半頃御成、

掛物、御染筆、壽ノ一字、

釜、天明ノ丸釜、カラ金フタ、

香盒、コマ

御會席、

御汁、ヨメナ、燒ハエ、

煮物、三月大根、鹽雁、

燒物、キスゴ、ヒラキホ子ヌキツケアブリ、

吸物、シホ松茸、

御菓子、宵モチ、梨、ウス切ニシテ、

御中立、

花、紅梅、白椿、　筒、常修院樣尺八、ウルシツクロヒ、腰少シモジリアリ、

水指、備前、形チキリ、ヌリフタ、

茶入、〇〇、　袋、ツムキ地、飛金、

茶杓、〇〇、

四ツ過還御、

〇短檠ノ置處ハ、大事ノモノ也、此樣ニ爐先ニ、ハメノ板アルトキハ、向フニ置ベキカ、然レドモ、又手燭モ向フヘ直ス、サマ

タゲヌヤウニスヘシト仰ラル、
紅梅ハイラザルモノ也、椿ハカリニテ然ルヘシト仰ラル、掛物、第一ノ賞翫ナレハ、直ニカケナガシニシテ、花ハナキガ然ヘシト仰ラルシ由、御秀殿ウハサニテ承リシ也、
○十一日、藤一葉ヘ御成、深諦院殿、拙、
正午御成、
掛物、一山、一文字紫地印金、中淺黃シケ、上下紺地シケ、
釜、紹鷗、アラレ釣釜、　自在竹、宗旦ノ判アリ、
香合、ソメツケ、屛風箱ノ手、
會席、
汁、フクサ、ツクチイモ、薄クヘギテ、フキ、タンホホ、ウトメ、
鱠、ケン、ボウフウ、
燒物、重引ニシテ杉ノイタヤキ、柚ノ輪
吸物、松露、　猪口、ウルカ、
菓子、アチモチ、
御中立、
花、ハナミヅキ、本阿彌ツバキ、　筒、御作、一重キリ、
水指、イガ、ウチコミヌリプタ、半分ハコゲ、半分ハ白クスリ、
茶入、飛シュンケイノ肩衝、　袋、シマ、

茶杓、宗守
茶碗、繪カウライノ新渡ツツ、　次茶碗、ウス赤ノ、光悅ノツツ、

二階、
掛物、宗達ノ十德、
御菓子、ヤウカン、エダカキ、
御次、外記、如石、左馬、排漢和アリ、別記、
今ノ世ニ、小キ水指ヲ見テハ、ヨキ棚水指也ト云、イニシヘモ、常修院殿ナドハ、毎度大ナル水指ヲ見テハ、ヨキ棚也ト仰ラレシ、小キ水指ハ、圍居モノ也ト仰ラル、尤ナルコト也、カコヒハ、柄杓ニ三盃ホドサヘ、水カ入レバヨシ、棚ハサフサフハカヘラレヌモノ故、大ナルカヨキ筈也ト仰ラル、
○十二日、　御禮ニ參候、君樣方御灸、
昨日ノ自在竹ヲ見ルベシ、兼テ仰ラレシ、世間一統ニ、小猿ヲ左リニスルハ誤リ也、右ノ筈也ト云コト、倘々試ミ知ベシ、宗旦ノ判ヲ、竹ノ向フニ書テアルベキヤウナシ、花生ナドノ判ヲ見テモ知ベシ、判ハ內ノ方ニアルベキモノ也、小猿ヲ左リニスル故、判カ向フヘナル、是一ツニテモ知レタルコト、マシテ應山ノ御返答ニ、宗旦カ直ニ申シ上タルモ、右ナルヲヤ、
○二十日、　百拙ヘ御成、一葉、最應寺、拙、
所ハ下岡崎村ノ東ノ端ニテ、兼テハ上ノ御別莊ナリシヲ、百拙アツカリ申テ居住セラル、其人ト云所ト云、一キハ洒落ニ覺エタリ、今日ハ初テ　御步ニテ、一處ニ御供ニ候ス、

御出立、アジロ笠、花帽子、黑チリメン御衣、
御待合、茅店ニテ二疊半ハカリアリ、ガマ席二枚、ヨシノスダレ、　硯箱、時代マキエ、
百拙衣ニテ御迎ニ出ル、衣トルヘキ由仰也、
掛物、宗阿彌、絲瓜、甜瓜ノ畫繪、一文字竹ヤ町、中白地金ラン、上下茶地純子、
平釜、棚、上紫フクサ、下環、羽箒、
炭取、茶籠、但馬細工ノ由、細長也、
香盒、貝ノ口黑ヌリ、甲ニ丹朱ニテ布袋ノモヤウアリ、
御會席、
汁、ウスフクサ、タンホホ、トウフノウバ、ウドメ、
御膳、ハンダイ、　御碗、チヤワン、ヤキモノ、
皿、ツクヅクシ、ヨメナ、ハリグリ、イリサケ、
煮物、ヤキ豆腐、ゴマミソカケ、
吸物、ニンシンノ根、タン尺ニキリ、葉少シ、シホ松茸、クズキリ、
ヘギ、和歌浦ノリ、
菓子、タツキビノカンザラシ、シキザトフ、
御中立、
花生、三菩提院樣、一重、
花、ハナミヅキ、
水指、南蠻、丸ヌリブタ、
茶碗、今渡ノ雲雀（近本雀作鵮）　次、シノヤキノ白、

茶入、古キ備前、ヒヤウタンナリ、六寸計、　袋、モメンモウル、スヾキン、
仰ニ、此茶入ハ、舊ハ後西院ノ御重寶ニテ、三菩提院へ進セラレシヲ、百拙へ下サレシ由也、蓋袋トモニ、後西院ノ御物ズキ也、此等古備前ハ、今ノ世ニ云茶入ノ、未タ出來ヌ先ノ燒物也、ヨクヨク見覺ヘシト仰セナリ、
表ノ床、董其昌、
御菓子、マンチウ、
還御、御歩行ニテ、上岡崎錦小路、左京カ許ヘ、御立ヨリアソハサント也、仙ハ熟シケン、若飛行セハ、詮ナキコトナト笑モテユク、左京思ヒ設ケヌコトニテ轉動ス、チリフシ娘ヲ嫁セシ里歸リトテ、イトニギヤカニ、紅梅ツツミタル折枝、又ハ唐松ノチリ枝ニ、卷物ヲ付、五色ノ絲カケタルナトアリ、是ハ婿ヘノヒキデモノ也、ヌヒモンニ紅梅ウラノ小袖ナドヌキステタル、ヨク〳〵周章ラレタリトミエテ、イトヲカシ、御菓子ナド召上ラレテ、歸ルサニ、一葉ニ返歌セヨトテ、御ザレコトアソバス、仙境の、それにはあらで、處から、これは岡崎、女郎客人、

〇廿一日、　右御禮參上、
亭主口ノホウタテ上ノトマリノ、カモ井イノ角ハ、長ミハイカホドニヤト窺フ、　仰ニ、ソレハ慥ニ覺エズ、大工ナド覺エテ居ルベシ、總シテカヤウノ寸法ハ、ミナ面々ノ物ズキトハ云ナカラ、何ゾ據ナクテハ滅法也、何ソ據アレバ、法ニモ叶フ、寸法モ恰好ナルモノ也、コレラモ、角ノ長ミ、鴨居ノハバトカ、傍立ノハバトカニスベシ、必ズ恰好ヨキモノ也、フスマナドノ引手ヲウツモ、丸キハ、多クハ内ノリホド、フチヨリヨケテヨキモノ也、長キハ、外ノリホド、アクルガヨキモ

ノ也、尤又ヒキテニモヨルベシト仰セラル、
○廿四日、　御茶、深諦院殿、拙、
午刻御對面、衣ハ取ヘシ、案内ハ出サルマジキヨシ仰也、
待合、圓座バカリ、
御掛物、夢窓國師筆、山呼萬歳聲ト、一行物印アリ、一文字ハ紫地ノ印金、オキアケタルヤウナル、蓮花カラ草、中紺地ノ金紗、上下茶地ノシケ、
御棚、香合、羽箒、二重ノ下ノ棚ニカザラル、
香合、鏡ノ巣、時代ノマキ繪、菊大小オキアケ梨子地、見返シニ石竹アリ、口ノキチヤウメンノ處、ミチンノ青貝、
フクヘ、
御釜、與二郎、アラレ、○コレハ三邈院様ヘ、利休ヨリ獻上ノ狀アリ、
御會席、
御汁、小鳥タヽキ、青ミニ小菜小タヽキ、ウトメ二切、ウスフクサ、
御煮物、豆腐ヲ千葉ノ菊ノ形ニキリ、眞中ニ鷄卵ノ黄ミヲ、スイノゴシニシテマキテ、
御鱠、セトノ皿、鯛ハカリ、防風ケン、モリワケ、一方ハ平作リ、一方ハホソツクリニシテ、
御酒、青漆ノ重箱、タイラキ、燒テ青グシ、芝川ノリ、菱ニキリテ、
御吸物、マテ貝共身四切、　猪口、子ウルカ、
御菓子、青モチヲシヤキン袋ニシテ、ムキグリ、
盃、ムカシノ形ノ由、黒ヌリニシテ、ウラヨリ見テ、茶臺ノ穴ナキヤウノモノナリ、
中立、
待合、タバコボン、御案内、ドラ

御花生、常修院様、二重切、内底トモニ黒ノタメヌリニシテ、金フンニテ波ノモヤウ、上ノ重ノ中ニ、龜ノモヤウアリ、
御花、シテコブシ、フキノトウ、
御水指、松平陸奥守ヨリ獻上、新ヤキ、瓢簞ナリ、タトヘハ黒ノセトカ、黒ノテンモクノ藥ノヤウナリ、ヌリフタ、
御茶碗、大坂春助、コモカヘノウツシ、
御茶杓、常修院様ノノンドリ、○御自慢ノ茶杓也、イトメヅラシ、御筒ニ御判アリ、メツラシキコト也ト仰ナリ、

御茶入、古瀬戸、子ヂヌキノ手、　袋、ツギ／＼ノ白地ノ古金襴、紹鷗トンス、島カントウナドナリ、
御表ノ床、法性寺殿ノ奏狀、
山僧之事承候畢、座主之事、被ニ奏聞ニ給候、誠恐謹言、
月日、藤原忠通トアリ、
金(カネ)ノ花入、赤ノ椿、白ノ梅、
御菓子、サガノマンヂウ、モヅクコンブ、キクリンドウ、小フジノミトリ、
申刻御退出、
○廿八日、　上田養安、御茶獻上、藤一葉、拙御供、
待合、上ノ烟艸盆、杉ノメ通リ、菊ノ枝オキアゲ、次ノ烟艸盆、圓坐請次、
掛物、一休詩ノ物、一文字金紗、中白地飛金、上下シケ、

釜、與次郎アラレ、トモフタ、ナタナリ、
香合、棚ニカザル、ションスイ、アコダナリ、長二寸計、茶籠、カラモノ、
會席、
汁、松露、ナメスヽキ、フキ、サンセウノメ、
膾、サヨリ細作リ、イリサケ、ワサビ、防風、
平皿、鯛燒物、サンセウ醬油付アブリ、同サンセウ、セウユカケテ、
香物、ウリ、ナスビ、クコピタシモノ、
吸物、タイラギ、ミツバノクキ、
菓子、クズマンヂウ、シロサトウシキテ、
御中立、
花生、備前ノ長キ德利ナリノ置花生、薄板　花、紅梅、モクレン、
棚、柄杓、ヒツキリ、
水指、シカラキ、ヌリフタ、
茶入、古瀬戸、カタツキ、袋、花ウサキ、紋カイキウラ、
茶杓、流芳宗佐、
茶碗、上、木村勝右衞門手燒黑樂ノ筒、次、コモガヘ、
御亭、下ノ床、林鷗子、鯢子自畫自贊、巾フウタイ竹ヤ町、
橋ノ坊二重筒、花臺ニ花、二三種、
上ノ床、宗阿彌カ賈島ノ圖、香爐、靑地ノキヌタ、チドリノ香爐、
菓子、薯蕷羹、干菓子、

暮前退出、

○怜悧ノ悧ノ字、字書ニナキ由ヲ窺フ、俗字ハ字書ニナキコト多シト仰ラル、

○待合ニテノ御咄ニ、古ヘ獅子吼院殿ノ、淸白堂ヲ建ラレテ、一方ノ壁ニ、窓ヲアケタク思召テ、人々ヘ御相談アリシニ、三菩提院殿ナド、二ツ割ニシテ、一方ヘヨセテアクヘキカトアレハ、ソレモ何トヤラン物ニ似テ、イヤナリト仰ラル、御前ニモ、イロイロ仰ラレテモ、御意ニ入ラザリシカ、程過テ牖ヲアケラレタリ、參リテ見ルベキ由ニテ參リシニ、丸キニテモナシ、又エビツニモアラズ、マンナカデモナシ、脇デモナシ、何トモヨメヌ窓也、コレハイカニト申上シニ、サレバトヨ、如何ヤウニ分別シテモ、分別スルホド、物ニ似テイヤ也、サルホドニ日傭ノ中ニテモ、イカニモ田舍ラシキ、日傭ナレヌ男ニ、ソノ方カ心次第ニ明ヨトテ、アケサセタリ、ヨモ物ニ似ルマシトテ、大笑ナサル、

鹿圍(カコイ)ニ、フスマノモヂリタルハ、ドチガアクヤラ、シレヌモノニテ、客ノ心遣スルモノ也、トカクニ、上ニナリタル方ハ、アカヌ筈也ト心得ベシト、仰ラル、

四方釜ハ、風爐ハ各別、爐ニカケラレタルコトハ、覺エズト仰ラル、

○三月四日、　參候、
先日ノ上田カ茶ノ花ハ、木蓮ノミニテ、紅梅ハナカラマシカハト存スル旨申上ル、仰ニ、イカニモ左アルベシ、花モ三リンニテ澤山也、且木蓮モ葉ノナキモノ、紅梅モ葉ナキモノ也、二色ト思フカ、留メント思ハヾ、他ノ花ノ葉ノアルモノ、然ルベカラン、欵冬トカ、椿トカアルベキカ、人ノ噂ノ樣也、漏スベカラズ、是モ珍ラシキ花ヲトバカリ、思ヒ付タルナラン、先日ヨリ木蓮ノ沙汰アリシ由ヲ申上ル、尤也ソレラガ、昔ノ人ト、花ノ仕ヤウ大ニ差別アリ、能々記臆スベシ、昔　常修院殿、三菩提院殿ナドノ、茶ノ花ニ珍シキヲト、好マレタルコトハナシ、何(イツ)ニテモ、水仙、椿、梅、ナドノ外ハ少シ、ソレヲ面々ノ亭主ノ心ニテ、同シ花ヲ生替タルコソ、賞翫ナレ、珍ラシキ花ヲト好ハ、花次第ニテ、亭主ノ物數寄ハナキト云モノ也、炭ト花トバカリニテ、百會モ事替ルコソ、茶ノ本意ナレ、花ノ珍キヲノミ好ムハ、僻事也、

客ノヨキ枝ナリトホムルハ、亭主ヘ對シテ大不仕付ナリ、イカナル惡キ枝ニテモ、ヨクソレヲ入ルルガ手柄ナリ、アタマカラヨキ枝ナレハ、亭主ノ器量アルベカラズ、

花ヲ入ル丶ハ、兼テ此花入レハ此花ト究ルハ僻事也、花ノ枝次第ニテ、花入ヲ究ムベシ、枝ニヨリテ、一重ニヨキアリ、二重ニ好アリ、置花入ニ好アリ、釣舟ニ好アリ、兎角ニ、枝ニヨリテ究ルヲ好トス、ソレ故客トナリテ、花ナドヲ贈ルハ、大ナル僻事也、何種ニテモ、贈ラルルホドハ殘サレス、花生モ兼テ此レト思ヨリタルモ、花ニヨリテ、用ラレヌコトアリ、大ニ迷惑スルコト也、客トナリテ、遠慮アルベキコト也、

常修院殿ナト、口切前ニ、筒ニテモ、茶杓ニテモ、類ミテモ、其年ノ口切一通リスムカ、一坐コト終ルマテ、出サレズト仰ラル、

○花ヲ入ルルコト、今ノ世ニハ曾テ穿鑿ナシ、大方ノ人、投入ト云ハ、立花ナドノヤウニ、タメツコガメツシテ、入ル丶コトデナシ、枝ノナリヲ其儘ニ入ルルヲ投入ト云ト覺テ居ルハ、大ナル心得違也、昔ノ人ノ、生木生花ノ枝ノナリヲ傷ハスト云ハ、タメヌコト、ユカメヌコトニアラズ、只ソノ木、ソノ艸、ソノ花、ソノ枝ニヨリテ、ソレソレニ生レ付タル質ノヤウニ、生付ヲ傷ハヌヤウニセヨト云コト也、サルホドニ、梅ヲ生テ桃ニナリ、桃ヲ生テ梅ニナルコトアリト云ハコノコト也、是一大事秘藏ノコトナリ、人ニ漫ニ談スベカラス、譬ヘ桃ハ、枝ノ生付タル處ノヌルキモノ也、ソレヲ理屈ナル枝ヲ、アヂニ生テ賞翫ス、ソレハ、花ハイカホト出來テモ、桃カ梅ニナリタルト云モノ也、梅ハ枝ブリノ詰屈ナルモノナルヲ、蘗(ズハイ)枝ノ長キマヽニ生レハ、

梅カ桃ニナル、杜若ハ、立花ニテモ、前置ニハ傳授ニスルコト也、兎角生レツキテ、花ノ高ク、葉ノヒキキモノナレバ、何方ニテモ花ヲ高ク、葉ヲヒキク生ルカ習也、菖蒲ハ、花ヨリ葉ノ高キモノ、コレカ生付ナレハ、何方ニテモ花ヲ卑ク、葉ヲ高クスル、是カ違フト、杜若カ菖蒲ニナリ、菖蒲カ杜若ニナル類也、ヨク／＼心得ヘシト仰ラル、

○柳ヲ生ルコト習アリ、凡ソ花ヲ生ルト云ヘハ、葉ハイケヌ筈也、柳バカリハユルシテ生ル、立華ニテハ十一月朔日ヨリ、二月晦日マテ、此外ハイケス、此時ハ別テ葉モナキ時ヲ用ルハ、ナゼニゾナレハ、定家ノ、十二月花鳥ヲ究メラレタルニ、柳ヲ第一番トセラレタルヲ出處ニ生ルコト也、

先日ノ掛物ノカケヤウニ、氣カ付タルカト仰ラル、何トモ氣付ヌ由ヲ申上ル、氣ヲ付ヘシ、左ヘ少シユガミアリ、必スユガムモノ也、掛物ノユガマヌヤウニ掛ルコト、傳授ナクテハナラヌモノ也ト仰ラル、ソレハ異ナコトニテ候、寸尺ヲタダシテカケタラハ、餘モユカムコトハアルマシキニテアルモノヲト申セシカハ、左ニアラス、總シテ御殿ニテ、茶ヲ上ルモノ、歴々ノ人ニテモ必ユガム、其筈也、近習ノ人々ニモ仰付ラレテ、餘ノコトハ各別、掛物ト筒トヲ掛ルハ、亭主ノ物數寄アルモノ也、掛テヤルベカラズト制シオク也、先日ノハイカニト御尋アリシニ、取持ノ人ニカケサセシト御聞アリ、總シテ利休カ百ケ條ノ第一番、亭主トナリテ、客ノ氣ヲ知ルコト、客トナリテ、亭主ノ氣ヲ知ルコトト書タルカ、此等ノコトナリ、ドレモカモ、皆勝手口カラ出テテ、掛物ヲ掛テ、ユカミヲ見ス、勝手ニ入ル故ニ、是非ニ勝手ノ方ヘユガムモノ也、筒ヲ掛ルモ又同シ、先掛タラハ、庭ニ出テ、露地ヨリ入テ、客ニナリテ見テ、ユガムカユガマヌカヲ吟味スヘシ、左ナケレハ、百度ニテモユガムモノ也ト仰ラル、

○前日ノ水指ハ、私式ノ覺エタルヨリハ、先ヘヨリ過タルヤウニ候、イカヽト申上ル、イカニモ左樣也、コレ上ニ云、勝手ヨリノ見分故ナルベシト仰ラル、

○花ハ好ナクサミナルモノ也、生習フベシ、近日何瓶モカケテ、近習衆ニモ、生サセラルベシ、拙ニモ入テ見ルベシ、ソレニテ、御前ニモ遊ハシテ、御見セナサルベシ、コレナレバ梅ニナル、コレナレバ桃ニナルト云味、コレハ一重ナラデハ生ラレヌ枝、二重ナラデハ生ラレヌ花ト云コトヲ、仰セキカサルベシ、天年生付タル花ノナリニ、上ヘ開タルアリ、下ヘ向タルアリ、タトヘハ牡丹ナトヲ生テ、一重切ニ入ルレハ、是非トモニ、花カ横ニナラテハ見エス、コレハ橋ノ坊カ、ガツバリニ上ヘ向テ入ルカ好イ、コレ牡丹ハ、牡丹ノ筒アル筈ナリ、連堯ヤ糸櫻ナドハ、

下ヘタレテ上ヲ向花ナレバ、舟トカ籠トカ、云ヤウニアルコト
也、假令ハトテ、御後ロニ一重ノ御筒ニ、白玉ト緋ボケノ入テ
アリシ、ボケノ枝モトニ、花ノツボミ多ク、梢ハ花モナク、一
屈リマガリタル枝ノ處ヲ指ササレテ、此處ヨリ切テ捨ベカリシ
ヲ、ソノ儘ニテオカルルニテボケ也、先ノマガリヲ斷タルナレ
ハ、梅ノ枝ニナル、コノ昧ニテ、能々合點スベシト仰セラル、

○五日、久田宗也、御茶献上、御供一葉、拙、

正午御成、

待合、上烟艸盆、次烟艸盆、上圓座、次圓座、

掛物、牧溪墨跡、僧傳ノ様ニ見エタリ、印アリ、○金紗ノ一文字、風帶上下純子、拜領ノ由、

菓籠、平ノカコ、

盒、ソメツケ貝ノ口、拜領ノヨシ、

釜、テンメウノ小アミダ、

會席、

汁、ウスブクサ、フキ、アツキ、

猪口、サキエビ、ウコユキ、タメイリザケ、

煮物、平皿、○鯛一寸ハカリ四角ニシテ二切、ウシホ煮、

吸物、シジミ、○莵二ツバカリ、肉タクサンニ、

ヘギ、カツホ、ムスビノシコンブ、

御中立、

花、スホウ、白玉、花生、樂ノ赤ノ置花生、○薄板、

此間落書

茶後、鷹司右大將公ヘ成セラル、

○八日、准后様六十御賀、左府公ヘ御成、六ツ過參候、

明六ツ半御成、

五ツ半御能始ル、

御客ハ、御家門ノ外ハ、御家禮ノ公家衆、議奏兩人オシカケ、櫛笥、石井(近本石作岩)拙、ガ參リシ時分ハ、未タ御客モナクテ、御靜ニナラセラルルノ由ニテ、左府公御對面、今日ノ御賀儀申上ル、今大路兵部少輔御前ニ出ツ、仰ニ、道安ハ内々ノ者也、何カ苦シカルヘキ、今日ノ御祝物ヲ見セヨト仰ラル、御居間御床ニ直サルル、案ト云モノ、上ニ、綾ノ風呂敷ニ包ミタルモノアリ、案ト云ハ、タトヘハ春日卓ノ大ナル、恰好モ大方ニ卓ノ形ニシテ、色ハキララヌリノ白色也、足四本ニテ、春日卓ノ脚也、風呂シキノ内ハ、紫ノ御コロモ、地ハ子モジ、同シク御ケサ、紋ハ牡丹ノ花ヲカゲニヌヒツケタルモノ、紋白ノヤウニテ、黄色ノ糸ナリ、ソレヲ卓ノナガミニ包テ、兩方ヲヲリカヘシタルモノナリ、

近本並ニ一本此注文、上文案ト云モノ、下ニ在リ

案ト巾ハ、蜀紅ニテハリテ、中ニ一筋ト、四方ノ角ヲ、色サナダノヤウナルモノニテ、フセヌヒニシテ、アマル處ヲ、四方ノ角ニテ、トンホウニ結テサゲタルモノ也、

上ニ、紅梅ノ作リ花ノ折枝ニ、四ツサシト、御短尺ヲカケラレタリ、四ツサシトハ、タトヘバ今ノ人ノ珠數袋ノヤウニ、底ハ四角ニテ、口バカリニテシムルヤウニシテ、四方ノ角カラ、カリキヌノ袖ノヤウニヌイタルモノ也、ソノ紐ハ深紅ニテフサアリ、コレヲヲモノ枝ニ、長緒ニテ茶入ナドムスビタルヤウニカケラレタリ、御短尺ハ、縦ニ四ツニヲリテ、ヒトヘムスビニ、枝ノ梢ノカタニカケラレタリ、其脇ニ、小四方ニ、黄金一枚ヲノセラレタリ、御馬代ト見ユ、

コレヲ拜見シテ、最難有コトニ思ヒ、何角トモイザシラヌコトナレドモ、感涙肝ニ銘シテ、今少シ悉クモ問尋ヌヘカリケレドモ、今大路モサソイソガハシカラント、大方ニシテ出ツ、御前ニ出テ、拜見ヲユルサレテ、有カタキ旨ヲ申上シカバ、仰ニ、定テ悉ク存知モスベケレドモ、アラ〳〵御物語アルヘシ、ソレニテ拜聽スヘシ、御先祖知足院殿ト申ハ、法性寺ノ忠通公ノ父御也、此七十ノ御賀ヲ催サレシモ三月也、迚モノコトニ、御差合モナキヤウニト思召テ、上旬ト仰ラレシニ、今日何ノ障モナク、天氣サヘ晴ニテ、イト目出度オボシメス、ソレハ七十ノ御賀、コレハ御六十ニテ、幾久クト、メデタカリシタメシソトヨ、ソノ時ノ進セラレモノ、器物ノ寸法等、幸ニノコラズ御記錄アリテ、其通リニ仰付ラレシ也、案モソノ時ノ寸法也、皆ノハ案ノ上ニ箱ニ合トアリ、ケサト衣ヲ別ニ入タルモノカ、ナニトソ譯アルヘシ、宇治殿マテ道モアル故ナルヘシ、今日ハ御直ニメサル、ナレバ、ソレマテニ及マシト思テ、ツツミ物ニスト仰セラル、御衣ハ、嚴儀ニハ、素絹ノ長衣ナレドモ、アナタノ著ヨク思召ヤウニト、一乘院殿ヘ御アツラヘアリシカバ、アナタノコトナレバ、何ヲメサレテモ、何カ苦シカルベキ、ヨキニハカラヒテ進スベシトテ、一乘院殿ヨリノ調進也、コレハ當時ノコト、古ヘ知足院殿ヘ、賴通公ヨリノ進物モ、御衣御袈裟ナリ、四ツサシニ、皆水精ノ御珠數、コレモソノ時ノ通リ也、只花ハ銀ノ橘ニテアリシ由見エタリ、當時ノコトユエ、輕クコシラヘタリ、御馬モ七疋トアレトモ、漸ク一疋上ル、當世ノ風情也トヨト仰也、アリカタサモ今一入ニマサリテ、カカル目出度時節ニ參リ合タルコトノ、辱サヨト申上ンモ、恐入テ申上ル處ヘ、准后樣御成ヨト、アハテサワキテ退出ス、

○翌九日、御別業、御本殿參候、

御別業ニテ、昨日ノ目出度カリシ御祝儀ヲ申上ク、一葉、右京、捌、昨日ノ進セラレモノヲ拜見ス、心モ言葉モ及ハレス、仰ニ、袈裟ノ紋ヲ黄糸ニスルコトハ、非常ニハナラヌコトナリ、大方ニ天子准后ナラテハ、ナラヌコトト見エタリ、皆水精ノ珠數モ、大臣以上ナラテハ、ナラヌコト也ト仰ラル、

御歌、

三千年ノ、ヲリヲカザシト、咲衣、ケサアヒニヲフ、桃ノ一枝、

○廿四日、　今大路治部大輔、御茶上ラル、一葉、捌、御相伴、

晝半御成、

掛物、松花堂ノ、臨濟ノ圖、

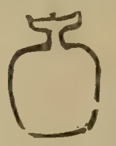
香合、白ノ平ナリ、ツマミアリ、ナンハンナルヘキヤト仰ラル、一葉ハ、カラツナルヘシト申サル、

會席、

汁、モヅクコンブ、擅鴨、三ツ葉ノクキ、

猪口、ウド、サンセウノメ、青アヘ、

平皿、鯛ノツクリミ、アンカケ、葢ノ上ニ從ノ葉ヲシキ、ワサビヲノス、

吸物、塩ヒラタケ、漬柚ノ輪、
菓子、葛モチ、シキサトフ、
御中立、
花生、クハノ身、花、白ノタンポポ、
茶碗、ラク、
茶入、金華山、

袋、阿蘭陀モノ、
茶杓、松安、
七ツ時相濟、
一葉ヲ以テ仰出サルヽハ、明廿五日、嵯峨ノ嵐山ノ花御覽ノタメ、大覺寺殿ヨリ御招也、クルシカラスハ、召連ラレタク思召御氣色也、參ラハ御滿足タルベシトノ仰也、畏リテ御請申上ク、追付御前ニメサレテ、御滿足ノ由仰ニテ、退出ス。
○廿五日、明六ツ時、御先へ參ス、一葉、如石、拙、太秦ニテ暫ク御小休、スクニ大井川へ御成、宵ヨリ雨ヲ催シテ、フルベカリケレトモ、何カ苦シカルベキナト、ツブヤキテ出ツ、太秦ニテ、少シ日影ミエケルカ、程ナク細雨フリ出テヽ、カゼハゲシク、寒キコトイフバカリナシ、先三間屋ニテ御輿ヨリ御出、山ノ花ヲ、雨ヲヘダテヽ、台覽ナサル、程ナク大覺寺樣ヨリ、衣笠刑部ヲ御使ニテ、御菓子等ヲ進セラル、ソレヨリ御船ニメサレテ、川上ニ溯洄ス。雨風イヨイヨ烈クテ、瀧マテハ御船モ上ラス、クミアユ〔鮎〕モ、道イトアシクテ、其人サヘ行ヤラヲハ、マシテ御覽ナルコトモナラズ、水イト高クレハ、筏モ下サス、最興ナキコトナカラ、花ハ今日ヲ晴ト咲ミタレテ、花ノイロイロ、雨ヲヘタテヽ、峯ヲ詠メタル風景、イハンカタナシ、御菓子御食籠ナド開キテ興ヲ催ス、山谷濕ヒフカク寒ツヨク、雨風サヘヲヤマヲバ、イザトヨ、一先還御アランニハトテ、御船ヲ下シ、林泉寺ノ中ノ藏光庵ニテ御小休、ソレヨリ大覺寺ニ入ラセラル、雨ナホヤマス、辛フシテ大覺寺ニ御著アリテ、面々モ參候ス、雨モ晴レ、風モヤミテ、天氣イト清朗也、アナニクノ雨ヨトツフヤク、七ツ前還御、大澤ノ池御覽、ソレヨリ御歩ニテ、妙心寺マテ御出、コヽニテ一葉、如石、道安、御イトマ下サル、ソレヨリ御輿ニテ還御、面々ハ西王禪寺ニヨリテ、一獻ヲ傾テ暮時歸宅ス、
○廿七日、參候、
先日ノ嵯峨ノ御ウハサノミ也、鮎ヲ取ルハ殺生ニアラス、一年モノニテ、秋ノ末ニハ自化スルト申ス由シ申上シニ、ソレハ本艸ニハナキコトニヤト仰ラル、覺悟イタサヌ由ヲ申シ上、
○晦日、
暮時如石ヨリ、御痛ニテ御寢也、明日夕飯ニ、御伽ニ參ルヘキ由申シ來ル、御請ヲ申シ、追付御機嫌ウカヾヒニ出ツ、今日アユノ考申上ク、鰷ヲアユト訓スルハ誤也、香魚ト書テヨキ本綱ニハ脫之由、松岡氏ノ說ナリ、シカレトモ巻懷食鏡ハ、香月牛山ノ作ニテ、玄達ノ序文也、然ルニ鰷ヲアユト訓ス、貝原篤信ノ大和本艸ニハ、鰷魚一名香魚トシテ、兩航雜錄ヲ引テ、一年モノヽヨ

シ見エタリ、中村惕齋カ訓蒙圖彙ニハ、年魚ト書タレトモ、出處ナキ由申上ク、何レトモ面白シ、明日篤ト、御考アルヘキノ山仰ラル、（兩航、近本、雨航ニ作ル、）

○御家ノ御書物目錄ヲ御見セナサル、書引ニシテ、カシラ字ニテヨセラレタリ、兩冠ノ部ニ、兩航雜錄ハ、正接郛ノ中ノ書ニテ、誰カ作也ト載ラレタリ、驚キ入タルコトナリ、

○四月朔日、　晝ヨリ夜半マテ參候、

先日ノ蔾ノ字ノ考ヲ、松下見櫟ヘ申ツカハセシニ、字彙ノ草部ニ、荔與レ莉同、又云蔾音離ト云々、シカレハ勿トリトハ、通用スルト見エタリト申上ク、

○正接郛ノ中ノ、兩航雜錄ニハ、香魚ノサタナシ、不審ト仰ラル、孫引ノ出處ニナラヌハコレ也、兩航雜錄モ、ワツカナルモノニテ、全本トハ見エヌ山仰ラル、

○年魚ト圖彙ニ書タルモ、和名抄ヲ出處トストミエタリ、順カ和名抄ニ、崔禹錫カ食經ヲ引テ、春生夏長、秋衰冬死、故謂ニ年魚ト記ス、コレナルヘキカ、然レトモ崔禹錫カ食經ト云モノ、アリヤナシヤ、吟味スヘシト仰セラル、

○十三日、　御薗意齋、御茶獻上、石州、捆、御相伴、

午過御成、

待合、烟艸盆、請次二ッ、圓坐、請次三ッ、

御床掛物、烏丸光廣ノ詠草三首、細川玄旨ノ點削、

香合、カウチノ鴎、伽羅、拜領ノ由、

菜籠、手ツキノ唐物、

御會席、

汁、サイノメノヤキ豆腐、ハツキノ細大根ノウスヘキ、

煮物、牛房ノ細キリ、鴨、

燒物、小鯛カシラチウチ切、骨ヌキツケアブリ、

吸物、コキノコ、ノリ、

肴、フジノリ、鮎ノ鹽引、

茶菓子、ヤキモチ、アンスリ、口取、シイタケ、

御中立、

花生、籔內紹知尺八、院御所ヨリ拜領、　花、ウナイコ二本、

水指、風早故中納言殿物數寄、赤樂ヒラ水指、ヌリフタ、

茶入、中古モノ、袋カントウ、

茶杓、空中、八十一歲作、

茶碗、新渡ノ高麗、白シチゲナリ、

御二階ノ床掛物、子昂ノ彩色ノ繪、

棚、卷物、唐筆ノ書畫、

後御菓子、クジラモチ、モゾクコブ、（ハシヤキ、）色ラクガン、

七ッ過、意齋御暇下サル、

鷹司樣御成、御夜食御相伴、

灰ヲ直スコトハ、遠州流ニハ、炭ノ後ニスルコトカト御尋ナリ、イカニモ左ヤウニ候ト申上ル、御流儀ニハ、風爐ノ灰ハ、炭ノ前ニスルコト也ト仰ラル、

○香ヲタクコト、初入ノ前ハ、中クヽリヘ入ト、空燒ノ香ニホフヤウニタクヘシ、後ノ香ハ、早ク香ニホフヤウニ燒ベシ、

○白炭ヲモ、必灰ホウロクニ、直スコトニモアラス、炭取廣ク大ナレハ、ソノマヽニ置ヘシ、胴炭ヲトルニ害アレハナリ、

○花ヲ入ル、ニ遠州流ニハ、モタレカカルコトヲ嫌フヨシ申上ル、イカニモ嫌フコト也、

○十九日、　松井主殿、御茶獻上、意齋、拙、

午過御成、

待合、圓座ハカリ、

掛物、金デイ地極彩色一本菊、土佐常昭光起筆、

香合、南京染付、平圓、

會席、

冷汁、汁碗ニシラガクリ、オロシ、アサ艸ノリ、メウガ、

麥飯、

皿、セト、豆腐大切ニシテ、青山椒ミソ、青葉シキ、香物膳付、

備前水付、タレミソ、鉢、冷汁ノ具入、湯盃ニノセ出ル、

青竹ツル鐺、竹ノ子、ナマブシ、サハリ匙、青竹ノ箸ソヘテ、

吸物、コエビ、カンテン、花柚、

肴、小鯛、ナンキン、ノリ、

菓子、クヅダンコ三ツ、青串ニサシ、梨、

御中立、

花生、赤銅ノ古釣瓶、脇ヘヨセテ、菖蒲葉トモ十本計、長キウスイタ、

水指、短キオリベ、ビゼンノフタ、

茶入、利休ノ棗、今宗佐ノ判アリ、　袋、青地ノ古金ラン、

茶杓、有隣軒樣、ノンドリ、

茶碗、宗安好ノ赤樂、若ミドリト云、

立マヘ、茶ヲタテ御前ヘ出シ、勝手口ヲアケ、小四方ニ服紗ヲノセ出シ、茶碗御トリナサル、時、トリテ勝手ニ入ル、

茶後兩人トモ召テ、薄茶下サル、由、西王寺參ラル、仰ニ、卓圍ト書テ、ウチシキナドノ類也トミエテ、何ノコトカ知レヌ由、去方ヨリ申上ク、覺ナキカト仰セラル、何モ不レ存ノ由申上ク、卓複ハ、ウチシキノ類ナルコト、佛書ニ見エタルノ由、西王寺申上ラル、其夜一安、玄達ヘ本草會ニ出、右ノ儀ヲ問、佛家ノ書ニ多ク出ツ、ウチシキノコト也ト申サル、

○廿一日、　御茶、上田養安、拙、

午半參集、雨天、

御待合、圓座ハカリ、

御手水鉢、雨覆アリ、杉ノ長ヘキ、細竹ウチ、同シク竹ノ四本アシ、
御圍ノニヂリアカリ、戻（モチリ）障子ハカリ、簾ナシ、
御床掛物、日寛葡萄、自畫自贊、是前カト、御茶ニテ拜見ス、日寛印、五月廿八日トアリ、風爐ニ別シテ興アリ、
御棚、ションスイノ四角平香合、赤絵マシリ、甲ニ揮ノ字アリ、肩ニ直印アリ、角ニ平印アリ、メツラシキ由ナリ、
御釜、大口ノコシキダチ、端ト端トノ下ニ、粒々アリ、
御會席、御碗、內外朱ニテ角ヨリイトソコマテ黑、御膳四角四方ニテソリアリ、內ニ白粉波ノモヤウ、
御汁、ウスミソ、蓋ノ上、青竹葉シキ、カラシ、蓴菜、
御皿、柏ノ木ノ葉ナリ、ハヤスシ、鯛ニ赤貝、キクラケ、タデシソ、スンコロクノ水次ニ、冷酒ヲ入レ出サル、酢ノタメカ、
御煮物、キンコ、ウラヂスキテ大切ナル一ツ、フキミソ、
御酒、御香物、ウリ、ナスヒ、アユノ色付三匹、手ノアル鉢、
御吸物、ウスフクサ、鶴、ヨメナ、竹ノ子ノアマカハ、朝鮮鶴ノヨシナリ、
御菓子、色チマキ、笹ノ葉付、朝鮮竹ノ子、　青磁小鉢、水クリ、水ヂハリ、　箸付、
中立、
待合、烟草盆、圓座計、
御圍、障子カハリ半腰、障子紙上ハミナ油布ニテ御ハリ、油布ハ唐物、黃色ノモジノ形ニ似テ、アラキモノナリ、
御床花生、二尺マハリホトノ竹、內眞ノ黑ヌリ、外ウルシツクロヒ、常修院樣、
御花、杜若、下ノ段ニ御イケ、川骨、上ノ段ニ水ハリ、
御水指、セトノアメ色筋アリヌリフタ黑、
御茶入、キリキリス、青色ニテ筋幾ツモアリ、肩ヨリ置方ニ黃藥アリ、
袋、紹鷗純子、裏、タテニ、スヂアルカイキ、

御茶杓、福島太夫作、
御茶碗、ハギ、
御禮申上表へ出、
表御床、定家之文、
今宵行啓、以ニ人々說ー傳承候、雖ニ多年所望ー、還成レ恐不ニ申上ー候、恐々謹言、
四月二十日　　　定家
一文字風體、紫地印金、中蜀江、上下、縫紗、
青磁花生、メトタテノ由御噂ナリ、花、朝鮮イバラ、
御家ノ名物、藤ノ裏葉ト云御硯箱拜見ス、言語道斷ト云フヘシ、家原カ家ノコフヂンキ類ナキ由ヲ、上田中上シカバ、ソレハ寫サセタリ、薩州醫師養伯、表具トモトテ御見セナサル、細川越中守方ニアル、雪舟カ、唐土ニテ書タル富士ノ圖モ、養朴ニ寫サセタリ、コレモ表具トモトテ御見セナサル、雪舟カ朝陽夕陽ノ圖ハ、古今ニ超絶スト謂フヘシ、夕陽ハ加賀ニアリトヤ、朝陽ハ陸奥守ニアリテ、常信ニ寫サセタリトテ、御見セナサル、表具ハワケモナキモノ故、不寫ト仰也、言語ニ絶シタルモノ也、
○五月朔日、　雨天、進藤一葉へ、御成、深諦院殿、御、
午半、表ノ三疊ダイメ、
待合、竹ノ屛風、唐物、石刀掛、烟艸盆、請次二、

掛物、利休ノ文、欵入、表具不分明、
棚、堆朱香合、
四方釜、乳足マユ風爐、長板一ツカサリ、
會席、
汁、ケン、ホウキヾ、トウカラシ、
皿、ツケナガシノアジ、竹ノコ廿皮、シソ、カラシヌタ、
香物、大コン、ナラツケウリ、鉢、ミシマ、
筍羮、竹ノ子、片口、コヒキノヤウニミユ、ケヅリ干物、青山椒、
吸物、雁、ミツバ、花柚、
猪口、マス、ハヤスシ、タデ、
片木(ヘギ)、鮭鹽引、ノリ、
茶後二階、
掛物、宗達墨繪ノ寒山、
御菓子、ヤウカン、佛手柑サトウツケ、
湯索麵、
吸(ミソ)物、鯛、
七ツ時還御、
○三日、
淮后様、八世君様、安君様、御有氣入、
晝、上ノ御殿ヘ參候、福引、足袋二足、紫服紗鹽瀬、拜領、

御百味、アサ草ノリ、小文匣人形ニツ、御裾分、
晩、下ノ御殿ヘ參候、福引、仁清香合ウロコ形、拜領、
御百味、小鯛、
拙モ有氣ニ入タル由、上聞ニ達シ、仰ニテ　御手ツカラ御染筆ノ御繪、御内印有、御作ノ竹花生、箱入、拜領、
入江様、鷹司様、御成、
御床、雪舟ノ鐘馗、前ニ籠ノ花生、芍藥十余輪、
御次ノ床、自適齋三幅對、中、福祿壽、左、龍、右、虎、此御表具、メツラシキ由ヲ申シ上シニ、廿八色ノ中ナリトノ仰ナリ、
叅テ御物語ノ、茶筌七種ノ形、御ミセナサル、
アラホ、大小、シクホ、大小、ツホミ、大小、大茶筌、
○五日、參候、昨日ノ御禮申上ル、
進藤夕翁、一處ニ御前ニ出ツ、夕翁ノ話ニ、去ルコトノ侍リテ、鎌倉志ヲ見侍リシニ、□□ノ□□□ニ寶物鏡一面アリ。光ノ中ニ觀音ノ尊像マシマス、影ノゴトクニテ、影ニモアラス、磨ケドモウスロガズ、奇特ノコトノ由ニテ、代々ノ因書アリ、寧一山ナドモ、コト〳〵シク記錄シ置レタリ、或人ノ説ニ、古今醫統ト云醫書ノ中ニ、鏡ニ物ヲ書付テ、磨スレドモ剝ゲヌ藥アリト云、ソレニヤト大笑セラル、醫書ニアリト聞テ、覺エズト云ハ、無念ナリト思ヒテ考フルニ、果シテ九十八卷、器物類第八、

畫寫鏡法ニ云、雌黃一錢、粉霜(オシロイヤキカヘシ)、硇砂(シホカタマリ)各一分、右細ニ研、以ニ膠水一調、任意於ニ鏡上ニ描ニ畫人物花卉故事ヲ候レ乾火燒片時、以ニ磨鏡藥ヲ磨去、其畫自見、トアリ、

○同說ニ、慕ト云字ハ、艸冠ニハナクテ、立心ノ畫ニアリ、イナコト也ト申サル、御前ノ仰ニ、大方ニ㣺トアル畫ハ心也、恭ノ字ナトモ心也ト仰ラル、

○コノコロ、⿰足盍ノ字ヲ、吟味スル人アリテ歷々ノ鴻儒ニ問ヘドモ知レズト云、ココカシコニ吟味シテモ知レズ、正字通盍字註云、羅泌跆史儿台字皆作レ盍、(史儿台三字恐夬亢合)按六書以レ合爲レ正云々、跆字註云、說文蹎也トスレハ、ツマヅクト訓シテ可也ト中上ク、尤ヨキ考也ト仰ラル、(泌、近本、並川本作謐)

先日外記、說ニ總シテシレヌ文字、偏ヲステヽ、旁ヲ求メテ吟味スヘシ、扁ニハ時々唐人ハツクル故、扁トキニハ知レヌ文字アルヘシト申ケルヲ便ニシテ、考タリト申上ク、

○九日、　參候、

昨日ノ硇ト書タルハ、何ノコトニヤト、御尋也、朴硝ノ類也ト中上グ、音ハイカニ考フヘキ由也、本艸ニハ音鐃トアリ、字彙ニハ音鹵トアリ、日本ニハ無ヨシ、松岡氏ノ說也、イヅレニ逢砂ノ類ニテ、海邊土砂ノ中、鹽ノカタマリタル物トミエタリ、

○御茶入ヲ拜見ス、唐物ノヌリ物ニ、四方ハ組物ニシタルモノ也、古ハ流行ノ物ノ由也、

○カナ風爐ノ、青ミアリテ見事ナル物也、コレハ昔勢多ノ橋再造ノ刻、ハラヒ物ニナリシ、欄干ノギボウシ也、中井定覺ニ云付テ取リテ、久シク庭ニ捨置シカ、不圖思ヒヨリテ、風爐ニシタリト仰ラル、金色カラ形カラ、兎角言舌ニ及ビガタキモノ也、總テ此公ノ御物數寄、凡慮ノ及フ處ニアラス、

○廿五日、　參候、

本草ノ魚部ニ、鱘ノ字アリテ、字書ニ此字ナシ、五車音瑞ニハ、無鱗ノ由ハカリ見ユ、字典ニハ此字アリテ、本草ヲ出處トセリ、松岡ニ尋ネ見ルヘキ由仰也、即チ問ニ遣セシニ、正字通ニコレアリトテ、寫シコサル、

正字通、魚篇ノ七畫鯼ノ註ニ、鱘之譌也トアリ、十二畫ノ鱏ノ注ニ、說文本作レ鱏、今省作レ鱏、六書故鱏鱘鱛字別音同、其爲ニ鱏魚ニ一也、說文分ニ鱛鱏ニ爲レ二誤トアリヌレハ、鯼鱏鱘ミナ一ッ字也ト中上ク、公コトニ御感心ニテ、ヨクモ覺エタリト仰ラル、

○六月朔日、　御本殿參候、

左府公關白宣下、同日拜賀、　准后樣、保君御方御成、九ッ前御出門、八ッ半時還御、ソノ美々タルコト、心モ言モ及ブコトナク、有ガタキコト、云バカリナシ、奥ニテ

准三宮、保君ノ御方、八世君御方、智君御方、ミナ〳〵御目見

ス、八ツ時退出ス、

○二日、　同參候、

今日ハ御直衣始トテ、長柄ニテ御參內、キノフニ替ラヌ御氣色、イト艶シキ御供奉トモ也、直ニ　准后御方御目見、シハラク御物語アソハス、直衣始ト申ハ、如何樣ノコトニヤト申上シニ、昔ハ必アリタルコト、是ハナクテカナハヌコト也、直衣ハ內々ノ服ニテ、晴ノ儀ニアラス、夫ユヱ吉日ヲ撰テ、內々ノ服ヲモ著初、出初タルノ義也、コレモ、准后ノ御方御當職ノ時、始メテ行ハレシヨリ例トナル、幸ヒ日ツヽキモヨサニ、今日アソハシタル也ト仰ラル、總シテ此　公ノ御當職ヨリシテ、公事ノ始リタルコトドモ多ク、御家ノ儀トモ多ク始レリ、仰クヘシ尊ムヘシ、

○親王ノ御方ニテ、琵琶ヲ進セラレテ、少納言殿持タレシ由也、コレモ古ヘヨリ、必親王ニ限ラス、御家門ノ御好ミアル方ニハ、引手物アル古例也、琵琶モ新作ナカラ、余程ヨキ飾也、准后ノ御時ニハ、太刀ヲ引カレシ也、多クハ樂器、又ハ太刀ナト也ト仰ラル、

○十二日、　參候、

先日御染筆ノ御繪ノ表具出來シ、筥マテ仰付ラレテ、今日拜領ス、面目ハ世ニ超エ、辱コトハ身ニ餘リ、申上ヘキ言モナク、只アリカタキ而已、再三ニシテ退出ス、御次ニテ、此一物ハ子孫ニ傳ヘ、家藏トスヘキモノノ、記錄ナクテハ、紛シカルヘキト思ヒテ、牧如石ニ、御筥ニ書付ヲナシモラヒ、外ニ添狀一通ヲ賴テ記レ之、即匱ニ藏テ有レ之、

○廿四日、　參候

千金方ノ客忤門ニ、銅鏡鼻ト云モノアリ、何物タルヲ知ラス、本艸類ヲ考ヘテモ不分明、モシ鏡ノ柄ナドノコトニヤト窺フ、仰ニ、鏡ノ柄アルハ、手鏡ト云、柄ノコトニハアルヘカラズト仰ラル、翌日則右ノ出處、ノコラス御考ノ趣ヲ御見セナサル、

一鏡如二鐘樣一、鼻上有二大環一、（瑯琊代醉卷廿三、鏡）

臺即所三以架二鏡者一、帶穿鼻以供二持挈一、併及レ之、（合璧事類卷五十三、鏡部、）

右之趣ナレハ、究メテ柄ナキ唐ノ鏡ナト云、丸鏡ノ裡ニアルツマミノコト也、コレ見ヨトテ御家ニアル唐ノ鏡ヲ、御見セナサル、類モナキ古鏡ノ、最見事ナルモノニテ、裡ニツマミナトアリ、帶ヲ穿テコレアリ、四方ニ富貴當寂ノ四字アリ、

○廿六日、　參候、

朝顏ノ花ヲ入ル、コト、今ノ人アマリ茶ニセヌコトソウ也、昔ハ朝顏ノ茶トテ、一方ニナリテアリト仰ラル、ソレハ定テ朝顏ニカキリテハ、船ナラデハ生マシキカト申上ル、勿論船ニモ生ル、常修院殿ノ竹ノ尺八ニ入ラレタルモ見タリ、トカクニ朝顏

ニカキリテハ、添木ナクテ生ルト云コトハナキコト也、添木ニハ、萩ノ柴第一ヨシ、コレニ纏ヒ付サセテ、好ボトニタワメテ生レハ、添木ハ少シモ見エヌモノ也ト仰ラル、此其家ニテハ秘藏ノコト也トゾ、

○廿八日、參候、

御次ニテ、山科殿山科參議從三位持言卿元文二年薨去八十一才ヨリ獻上ノ花筒、ナラヒニ石州ヘノ御狀アリ、是ニ付テ牧如石ノ話ニ、此山科殿ハ、只人ニハアラス、先朝ヲ引込レシ初ヨリ由アルコト也、昔シ禪閤ノ基熙公、近衞基熙公延寶五年左大臣元祿三年關白左府ニテ在セシニ、一條ノ冬經公、一條冬經公延寶五年右大臣天和二年關白右府ニテ關白拜任ノコトアリシヲ、世ニ恨メシキコトニ思テ、昔ヨリ越階ノタメシナキニシモアラズ、タトヘハ其任ニ當ル人、ソノ器ニ非ズバ是非ナシ、禪閤ノ器ニ當ソニ於テ何カ有ン、是ヲ名ツケテ亂階ト云、亂階ノ朝ニハ、共ニ立カタシトテ、終ニ病ヲ以テ蟄居ス、ソレヨリ以來今ニ出テス、禪閤ノ御一生ニモ、終ニ參ルコトモナク、物ヲモ奉ラス、禪閤基熙公薨享保七年九月十四日七十五才法名悠山稱禪閤家熙公享保十年十二月准三宮同月薙髮元文元年十月三日薨七十才法名豫樂院又法名眞覺薨セラレテ、今ノ准后ヘ、花ヲ奉ルコト今ニ六年、一日モ怠ルコトナシ、時ニヨレハ、一日ニ二度モ來ル、又類ナキコト也、初ハ何角ト獻上物ノアリシヲ、御斷ニテ上ニモ御隱居ノ御事ニテ、音信モ御ムツカシ、其方ニモ小身ノ人ノ心遣ナルコト也、用捨アレカシ、但花ハ好テ、每日モ生易テ慰トス、コレハカリハ、折ニフレテ獻上スヘキ由仰也、畏リテ、已來一日モ闕ケルコトナシ、夫モアリ合ニ獻上スルニアラズ、尤數寄ニテ、前庭後苑ニモ、多ク草木ヲ植テ、樂トセラルト見エタリ、又ハ他ヘモ云付テ、珍花アラハ持來レトテ、必獻セラルトコソ、最アリカタキ御志也、一日ヤ十日、半年一年ハ、勤テモナルヘシ、カカルコトハ、鐵肝心ナクテハ、ナリカタシトゾ、是モ　公ノ御威光トゾ覺ユル、拙ガ偶聞ニ與ル人々ニモ、滋野井、滋野井公澄卿、平松、平松時春卿、山科ナド、一方ノ器アル人ハ、ミナ御家禮ノ面々也、上好レ之則下有ニ甚レ之者一ト謂フヘシ、

○七月十六日、　關白家久公、　鷹司右大將樣、鷹司房熙公、入江樣入江樣ハ、三時智恩寺尼寺ノ御住職ニテ與樂院樣ノ御子ナリ、此寺ハ近衞家格別ノ御由緒ノ寺ニテ代々住職ハ必ス近衞家ヨリ御立チニナル也此入江樣ノ事チ或本又ハ世間ニテ一華族トスルモノアルハ誤リ也御成、東山ノ大文字御覽、イトユユシキ御コトドモ也、

仰ニ、イツモ仰アル無禪ハ珍キ男也、關白ニハ、覺ラレタルヤト御尋アリシニ、御六ツノ歲ニ死タリ、元祿五壬申年近衞家七代幽カニ御覺エアル由仰也、シカレハ高貝ニモ、三浦ニモ、勝タル男也、無禪カ七歲ノ歲ヨリ、龍山公前久公法名龍山慶長十七年薨七十七才ノ御前ニ召ツカハレテ、三邈院公、信尹公法名三邈院慶長十九年薨五十才應山公、信尋公法名應山ハ慶安二年薨五十一長山公、尙嗣公法名長山承應二年薨三十二禪閤、基熙公准后、家熙公關白、家久公享保十一年關白マテ凡テ七代ノ

間、近衞殿ノ門ヲ出サル奉公人ニテ、年ハ百十九歳也、（家久公六才ノ年ニ無禪ノ年百十九オナレハ生年ハ天正二戊年也七才ノトキハ天正八年ニテ龍山ニ近侍シ龍山公ノ年四十四才無禪沒年元祿五年家凞公廿五才享保十一年ニハ准宮家凞公年五十七關白家久公年四十）ト云、歳ヲイハヌ男ニテ、定カニ知タル人ナシ、（無禪カ歌我トシヲ、イクツニナルト、人問ハ、七八九十、百マデノ中、）元來ハ龍山公ノ、春日御參詣ノ砌、拾ハセラレテ、連テ還御ナリシ者ト見エタリ、幼少ノトキハ、名ヲ捨々ト呼ハレシトカヤ、手モヨク書、連俳モヨク仕タリ、大上根ノモノニテ、色々ノ書タルモノアリ、鼠ノ記、凬火論ナト、最面白キモノ也、就レ中龍山公ノ御爲ニ、美濃紙ヲ四半本ニシテ、極細字ニテ、古文前後集、三體詩上中下、長恨歌琵琶行ノ類、凡ソ十一部カヲ一冊ニシテ、御旅行ノ爲ニ書タリ、カヤウノ物カズ〳〵多シ、一生机ト云コトナシニ、書タルモノ也、相國寺門前ニ宅アリテ、同町ノ藪ノ中ニ、寺子ヲ取リテ、渡世シタル浪人アリ、大坂籠城ノ刻、（大阪ノ役起リシ慶長十九年無禪年四十一ノトキナリ）不圖一朝、カノ男二三人、甲冑ヲ帶シテ發足シタリ、此レ長曾我部ナル由、後ニ知タリ、此時モ同町ニテハ、異ナ出立ノ男カナト、直ニ目ニ當テ見タリト語ル、後ニ聞ケバ、寺町今出川ノ辻ニテハ、二三十騎バカリニナリテ、馬鑓等ヲモタセタリ、寺町三條ニテハ、二三百騎ニナリ、伏見ニテハ、大方千騎ニモナランカト、人々云アヘリ、珍事ナレハ、町所ヨリ訴出シカバ、板倉ノ某大ニ怒リテ、夫ト知ラハ討テ捨ベカリケル物ヲト云シトカヤ、カヤウノ物カタリ日々數多、ミナ實見ノコトニテ、最面白キコトトモ也、

○已前ノ御話ニ、此無禪ハ、二條行幸（寛永三丙寅年無禪年五十三ノ時）ノ御供ヲモ、布衣ノ衆ニテ勤タル男也、此時ノ美麗ヲモ、カズ〳〵咄タリシカ、又今樣ノコト共ニアラザリシト也、其時何トカヤ云シ女中ハ、即チ中和門院ノ御供ニテ、七日ノ間城ニ居タル人也、毎度ノ話ニ、何角ト云中ニ、女中ノ局、二三十間並立テ、其前ハ通リ椽ニテ、局一ツ一ツノ前ニ、手水ノ處アリテ、上ヨリ竹ニテ、掛樋ニテ流スヤウニ仕カケテ、晝夜暫モ間斷ナカリシガ、水ニハアラデ、好ツカヒ加減ノ湯ニテアリケルトナン、又アルマジキ御馳走也、

○廿五日、參候、

兼テ御秘藏ノ通雅ニ、醫ノ部一卷アリ、便ニナルヘキ物カ、此コロ御土用干ニ見出サレタリ、若重寶ノコトアラバ、寫スベキ由仰也、アリガタキ由御請申シ上ク、カヤウノコトニマデ、御心ニカケサセラルヽコト、最モカシコクコソ覺ユレ、

○八月二日、參候、

此間御ウハサノ通雅ヲ拜借ス、即書寫ニカヽリテ、同九日ニ返上ス、奇特也ト御意ナサル、

○六日夕、參候、

明日ハ光雲院様安克君、御一周回忌也、御上ニモ思召出サレシコトノ、サゾト思ヒ出侍リケレド、我々式ノ拜センモ恐レアリ、タダニ止ナンモ、本意ナシト思惟シテ、日野煎茶、桐箱ニ入、ヲ入江様ヘ獻上ス、若シ御靈ヘ供セラレハ、本望ノ至リ也、兵部卿ノ局マテ、去年ノ此ゴロノコト、サゾ思シ出サセツラメ、ヨキニ獻リ玉ヘカシト、文シテ申上シニ、本意ノ如ク、明朝ノ御茶湯ニ上ラルヘキ由、コトニ茶ハ御好物也、御滿足ノ由返シニ、最モ忝ナクコソ思ヒ侍レ、准后御方ヘハ、ナマジイニソノ事ヲ云出ンモイカガゾト、夕方ヨリ參候シテ、何トナク御伽シテ、夜半マテ侍候ス、女中ナトハ、去年今頃ノコトナヲ云出テ落涙ス、

○八日、　參候、

回春ノ求嗣門、螽斯勝寶丸ノ方後ニ、用ニ白毛烏骨鷄一隻重一斤或二斤者ニ、弔死水泡去レ毛、ト云云、弔死ノ二字、何ノ本ニモ、ツリコロスト訓ス、此事ヲ、登春院來リテ、予ニ告テ曰、吊ノ字ヲ、ツルト訓スルコト、字書ニミエス、如何ト問フ、予答テ曰、何ヤランニ見タルヤウ也、卒ニハ覺エス、考テ見ルヘシトテ、考索スルニ、字彙ニ吊音釣、又釣音吊トアリ、然レハ釣吊音義相通乎、且古來東西亞科(近本無西字)ノ書ニ、天吊天釣相互ニ書レ之、シカレハ吊ヲツルト訓スマシキニアラス、

准后ヘモ、御序ニ申シ上ク、翌日林彈正ヨリ書ニ曰、

昨日被ニ仰上一候吊字之事、品字箋御考被レ遊候間、書付被レ遣候、夫ニ付被ニ思召出一候、雲南通志之中、高提燈ヲ、吊燈ト記載有レ之、則圖モ有レ之候、又つりかきを、吊柿と書候様ニ思召候、乍レ毎度一御忘却、御無念之御事ニ思召候、是又乍レ序被ニ仰遣一候、此段宜申入候由ニ御座候以上、

品字箋云、弔字ノ下出吊字云、吊俗弔字、俗以ニ繩索一懸挂謂ニ之吊一、專用ニ此字一矣、

正字通韻會等ニ曾テ此註ナシ、品字箋ノ註ニテ、最明也、アリカタキ山御請申上ク、其序ニ天吊ノコト、並ニ本綱釣藤鈎ノ釋名云、亦作ニ吊藤一ト、又云、或作レ弔從レ簡耳トアル由ヲ申上ク、吊ニ作リタル譯ケ、キコエテ好シ、品字箋ニ御書入アルヘキ由仰也、

○十二日夜、　參候、

中院故大納言通勝ハ三光院三光院、西三條實枝公天正七年内大臣正二位同年正月廿四日薨六十九繼父祖業學兼和漢ノ弟子ニテ、歌ハカタノゴトクノ上手ナリシカ、或時寄レ鏡戀ト云題ニテ、歌ヲヨマレタリ、歌ハフト御ワスレナサレシト也、三光院ノ見ラレテ、サテ〱コレホドニモ、出處ノトリヤウノヨクテ、アシキコトハナシト仰ラレシトナリ、出處ヲ取コト大事也、三光院ノ御詞ニ、コレホドニヨフモ、ワロフトラレシトアルハ、好バヨイ、惡クバアシキニテコソアレ、異ナ御詞ノ様ナレドモ、大方世上ノ出處ノ取ヤウ、大要如レ此、イカニモ出處ハソレト、タシカニミエナガラ、ソノ出處ヲ、我意ニマケテ遣ヘハ、出處タケニツラキコト多シ、三光院ノ御詞、至極セリト仰ラル、ハハカリ多キコトナレトモ、此公ノ出處

ノ取ラレヤウ、サルホトニ正キコト、毎々云バカリナシ、世上ニ出處ヲ取ハ、先已カ意ヲ先ニタテテ、コレニ哀レヨキ出處アレカシト見ルホトニ、ソレ相應ニ、大方ニ似寄タルコトハ、引マケテ出處トスルコト多シ、言モ愚ヤ、三光院殿モ中院殿モ、サル人々ナレハ、大テイノコトニテハアルマシ、ヨクヨクノ御コトナルヘシ、

○廿三日夜、　參候、

舟橋ノ秀賢（船橋秀賢元高倉式部少補從四位上慶長十九年六月廿八日卒四十同父國賢大藏卿從三位慶長十九年十月廿八日薨七十一四百石）ハ、世上ニカクレナキ秀才ナリ、サルホドニ、舟橋ノ家ニテハ、中興トモ云ヘキ人也、毎度ノ秀才ノ咄シニ、中モオロカニ候ヘドモ、人コトニ申ス、繼母ノ恩ハ、ウスキモノニテコソ候ヘ、古父國賢、（秀賢ノ父、）秀賢ノ幼少ノ時、毎日出勤スル時ハ、フゴノヤウナルモノヲ、空ニツリ、其中ニ秀賢ヲノセテ、國賢カ還ランホドニ、其々ノ書ヲ、殘ラズ讀過スヘシ、ソノホトハ、此フゴヲ、落スコトナカレト、堅ク云付テ出ラレテ、最ムコキヤウニ覺ユレドモ、父ノ嚴命、ゼヒナク勤メケルガ、夏日ノ永キ日、冬ノ日ノ寒キニハ、繼母ノ來リテハ、少シハ休ミ玉ヘトテ、毎々オロシクレラレ嬉シケレドモ、今ニテ考申セハ、ソノ繼母ノ姑愛ナクハ、今少シハ秀才トモナルベキ身ノ、繼母ノ愛ダテニテ、今ノ秀賢カ愚才也、世上ノサカシキ口ニ、繼母ヲ怨ムモ、斷ナリト申サレタリ、兎角讀書ハ、幼少ノトキニ、無念無想ニ、道理ノ合點ナシニ覺エタルコトハ、老後マデモ忘レズ、國賢ホドノ人ナリトテ、御褒美ナサル、

○廿五日夕、　參候、

世ニ楊弓ホド、カハリタル藝ハナシ、何ノ藝モ同シコトナレドモ、器用ナル人ハ、朱引カナガヒ、程ナク長セルカ、若シオツル段ニナリテハ、甚ダオツルモノ也、御前ニハ、若キ御時、此藝ヲ遊ハセシカ、今ニテハ、六七年モ御ステナサレテ、弓トラレシコトモナシ、凡御學ビナサレシ、御手跡御書ヲ初トシテ、御楊弓ホドナレバ、世上ニ推出シテ、耻カシカラヌホドナリ、六七年モ遊ハサヌドモ、イデ今日アソバシタリトモ、古ヘニサマデ劣ルマジト思シ召也、コレニハ殊ニ譯ケアルコト也、世上ニ、射ハシメカラ、器用ニテ中ル人ハ、下ルモ又早シ、（尤モ器用ニテ稽古シケキ人、常ニアタリテオチヌモ頭（アタマ）カラ中ラヌ人モアリ、）コレハ何トシテ中ル、何トシテ中ラヌ、此道理ニテ中ル、カカル譯ニテオツルト、ソレソレノ譯ヲ、トクト合點シタル楊弓ニ、各別ニ落ルハ少シ、其譯ヲ合點セスニ、唯稽古ト、拍子ニテ中ルハ、今日ハ見事ノ中リニテ、明日ハ各別ニ落ルハ、ココ也ト仰ラル、コレハ本カ獅子吼院殿ノ御傳授ニテ、御覺リナサレシト也、（御園意齋御前ニ候シテ榮君ノ御方ヒトコロハ各別ノ御中リナリシカ、此コロハ何トシテカ、各別ニチヂタリト申サレシヨリシテ、御意下ノコトシ、意齋ノヨキコト申上ラレタリトコソ覺ユレ、）今ニテモ、進藤一葉、細野久兵衛ナドカ楊弓、イツマテモ落ベカラサル筈也、其譯ヲ呑込タル故也ト仰ラル、（御前ニ若キ御トキ、奈良ヘ御成アリシニ、細野マイリテ吹矢ヲ射ル、上手也、イテ楊弓ヲト望シニ、終ニ射タルコトナシトテ射シカ、一本モ中ラス、サテハ吹矢ノカニテモイカヌコトナリトテ、皆々笑シカ、トレニテモアレ、弓ヒトツカシタマヘトテ、取カヘリ、旅宿ニテ、コレハ何トソ中リソウナルモノナリ、何トシテハツルル

ト、譯ヲ工夫シテ、一夜射徹シケルカ、翌日參リテ、五十三本中リタリ、コレラ分チ合點シタル楊弓ナリト仰セラル、憚リオホキコトナカラ、毎々御咄シヲ承ル事ニ、感拜スルコトノミナレドモ、是ハ又就レ中各別ノ御事也、身ニアテテ、アリカタクコソ覺ユレ、凡ソ天下ノ藝ニテハ、サテハ醫術ト、楊弓トナルヘシト申上テ、大笑アソバス、余毎ニ人ニモ語リ、自ラモ工夫シテ思フニハ、イカナレバ諸藝ノ如クニ、醫術ハチキコトヤラン、余程ノ人品、人物ノ人モ時ニヨリテハ、カナガイホトノ器モ、明日ハ采引ニモタラヌノミカ、一本モ中ラヌ程ニハ、イカニ諸藝ハ、アガレハアガルホトノ功アリテ、彼ニハ増リ、コレニハ劣ル際アルニ、此術ニナリテ、際ノナキコトヨト、數十年來ノ不審ノ、今日融ケルコトノ有カタサヨ、世上ノ醫ニ、余ハ及ハスト思ノホトノ手柄ハ、ソノ日ノ楊弓ノ出來中リ也、アクル日ノアシニテハナシトサミスルハ、ソノ日ノ、不出來中リ也、所詮トウシタワケニテキク、トウシタ譯ニテ中ルト云、底ノ見エヌウチハ、出來不出來トモニ、楊弓ノ如シ、サルホトニ、一病人ニテモ、タマタマ其譯ケノミエタルニ、心覺シテ治スルハ、ソノ一人ノワケノ見エタル也、何ヤラシラヌニ直リタルハ、拍子ニテ中リタル楊弓也、サルホトニ直ラヌ譯ケモ、合點ユカヌ筈也、サテサテアリカタキ仰ヲ承テ、數十年來ノ惑ヒトケテ、剩ヘ此譯ヲ知リ徹リタキ一念起レリ、今マテハ生ヲ易タリトモ、知ルマシト思ヒシガ、何トソ古今ノ事歷ヲ經ル中ニ、此一筋ノ譯タケタニ見出シタラハ、此ハ見エ、コレハ見エヌホトノ位ニ、イタルマシキコトニアラスト工夫ス、

○九月三日夕、　參候、

一位樣ヨリ、頒チ進セラレシ鯑ノ初テ御料理ナサル、拜嘗スヘキノ由仰ニテ、暮方マテ御前ニ伺候ス、此程保君御方御違例、コトユエナク、御快然ニムカハレシ功勞ヲ思召ノ由ニテ、御内々ニテ、内經類纂約註ト、本草備要トヲ拜領ス、コレハ當年ノ新渡ニテ、珍書ノ由ヲ兼テ承ル、　御心ノ程、イトアリガタクコソ覺ユレ、兼テ願望ノ品也、アリタガキ由御請申上ク、仰ニ、コレハ、此程メヅラシキ、陸氏全書ト云八十册ノ書ヲ召上ラル、其中ニコメテ御買上ノ書也、心易存ズベキノ由仰也、御書物ヲメシアゲラルルコトハ、毎々承ルコトナレドモ、聞タビゴトニ耳ヲ驚ス、陸氏カ全書ト云モノハ、　上ニサヘ終ニ御聞及ナキ由也、コレニ付テ仰ニ、御當職ノ間、上ノ賜物ハ、例ヨリ夥キコトニテアリシ也、終始五六年ノ間ニ、種々ノ公事共、臨時ニアリシ故也、ソノ納物ハ、一錢モ他ニ漏サス、年々歲々ニ書物料ニナル樣ニ、兼テナサレ置レシ故、大方ノ大部ナル書ニテモ、サマテ御苦勞ニナラス、御納戸ノ物入モナシ、此中ヨリハ、アレホトノ御數寄ナレトモ、茶入一ツ御買上ナシトノ仰也、各別ノ處致據法ト云ヘシ、

○九月十三日、　參候、

先日度ノ字ノコトヲ窺シ譯ケ、根本アリ、昨夕觀音寺カ參リテ申上ケルハ、度ノ字ヲドト讀トキハ、尺度ノ名、タクト讀トキハ、度量ノ名ニテアルヲ、古今ニ寛仁大度ト讀付タリ、イカニ御考モナキヤ、何々ノ書ヲ、拜借仕タキ由ヲ申上ク、本ハ叡山ノ靈空カラ出シコトトヨ、佛書ニ度量ノコトヲ、古今度ト讀ツケタルコトアリ、向後タクト讀ヘシト、大衆ニ披露セラレシト也、此コト此分ニテハ如何ゾト、伊藤源藏ヘ、大度ノ度ヲドト讀付タル出處ヲ、アマタ書遣セシニ、又靈空ヨリモ、タクト讀トコロノ出處ヲ、アマタ書出シツカハセシト也、近日往來ノ書

冊來ルヘシ、見スヘシト仰ラル、

○十六日、　保君樣御快然御祝、醫者共御料理下サル、（養安、意齋、等伴、道安、）晝ヨリ參候、深更ニ及ンテ御暇下サル、

御床掛物、唐畫二幅對、（柳ニヒヨ鳥、梨花ニヒヨ鳥、）仰ニヒヨトリト云モノ、漢ニハ知レカタキ由ヲ、若水カ申セシトナリ、是ハイカニシテモヒヨ鳥也、見セタキ物ト仰ラル、

御亭ノ掛物、爲家ノ除目ノ切紙ト云モノノ由、誰々ノ人、何々ニ任セラレシ由ヲ、定家ヘ注進ノ切紙也、ソノ間ヘ、定家ヨリ書込テ、コレハイカナル故ニヤ、是ハ何ト云名歌ヨミシ人ナレハ、尤也ト注セラレシコト、又アルマシキモノ也、

御茶入、（万右衞門、ハオチボ、ヒヤウタンナリニテ、立スヂアリ、）

袋、（金サラサ、カイキウラ、）

茶杓、（フロノ道閑、）

棚ニ、中茶臺（近本臺作壺）ニ、覆ノカカリタルアリ、（古セト子ヌケ、）

○廿四日、　保君樣吉田ヘ御成、御供、

四ツ時御成、暮前還御、御菓子、白雪糕捧之、

○十月二日、　參候、

先日ノ道乙茶ノ咄ヲ申シ上クルニ付テ、今ノ人ノ茶ノ湯ニ濃茶ヲ立テ、客ヘ出シオキ、亭主ハ釜ノ蓋ヲシメ、柄杓ヲ直シ、跡ヘ退キテ默シ、二番目ノアタリヘ、茶ノ度ル時分ニ、又進ミテ蓋ヲトリ、水ヲサシ、柄杓ヲカサリテ相待コト、コレ尋常也、定テ先日ノ茶モ左アルヘシ、アレハ何トシタルコトト云譯ヲ存知タルヤ、コレハ常修院殿ノ、常ニ仰ラレシコト、普通ニハセヌコト也、一度茶ヲ出シテ何ノ爲ニ半ニ仕廻ヘキヤウナシ、何時モ後西院ヘ御茶上ラレシニ、折ニフレテ、上ヨリ拜領ノ茶トカ、左ナクテモ、御相伴アルヘキ由ノ仰アレハ、必釜ノ蓋ヲシメ、柄杓ヲ直シテ坐ヲ立チ、亦坐ニ付テ（近本亦作末）御相伴ナサレシ也、總シテ亭主ノ相伴ナラテハ、セヌコト也ト仰ラル、（御茶ノコトハ御流カ、又ハ師モ師ニテアリケル故カ、拜聽ノ度コトニ、耳ヲ驚カス、）

○六日、　東御門跡ヘ御成、（一葉、道安、）御供、（御先ヘ參ル、）

四ツ半時御出門、晝時御成、御山駕籠、御供、（青士二人、近習二人、）初夜半時還御、御上御道服、（御供、一葉羽織、道安十德、）晝御雜煮、御盃等コレアリ、

向陽丸殿御對面、御盃下サル、

奧小座敷、床、（雪舟、枯木ニ鳩ノ繪、）

新小座敷ヘ御成、御菓子、御咄、諸處御巡覽、追付夕飯出ル、

御濃茶御各服、（深諦院殿御給仕、）後御圍ニテ御薄茶、（深諦院殿）床ニトノカゴノ花入ニ水仙、釜、（加賀ノカンチ、）水指、（ナンバン、）御對面所ヘ御成、囃子仕舞等コレアリ、

又奧小書院御成、御夜食、追付還御、

○九日、　御本殿、御口切御成御供、

晝過御成、四ッ前還御、謠仕舞等コレアリ、

○十一日、參候、

二重切ノ筒ニ、花ヲ生ルコトハ大事也、常修院殿ヘ所望セシニ、是ハミダリニハセヌコトナレドモ、御所望ナルホドニ、生テ見スベシトテ、遊ハシタリ、夫二重切ハ、一亭一客ニカギリタルコト也、茶ノ湯ノ中立ノノチニ二重切ヲ掛テ、亭主方ヨリ、花ヲ臺ニノセ出シテ、客ヘ花ヲ所望スルコト也、ソレ故上下トモニ水ヲハリテ、願クハ上ニ花ヲアソハセ、我モ内々ヲ見合テ、花ヲ生ヘシト云、客シカラハトテ、花ヲ下ニ生ル、亭主出テ、稱美シ、下ニ御生ケナサレシホトニ、我ハ花ヲ許サレトテ固辭ス、客强テ所望シテノ後、生ルコトモ生ケヌコトモアリ、時儀ニヨルヘシト仰ラル、初テ水ヲハルワケモ、二重ノワケモヨメタリ、可レ仰可レ貴、

○二十日、參候、

御家ニ、物かわノ香合トテ、天下ノ名物アリ、何時ソ御見セアルヘシ、是ハ東山義政ノ、重器ノ一ツナリシヲ、御先祖ヘ進上セラレシ物也、形ハ二寸バカリニ、二寸五分バカリノスミアカニテ、甲ニ雛ノ雌雄ヲ、銀カナガイニテ入、蓋ノウラニ鐘樓アリ、兩方ニ環アリテ、緒ヲ付タリ、環付ヲ銀ニテ、一方ニ物、一方ニかわトアリ、古風ナル物ズキナリ、此香合ト、牧溪ノ三幅對ト、時雨(シグレ)ト云名壺トヲ贈ラレシカ、掛物ト壺トハ、先年ノ火事ニ燒失ス、香合ハカリハ、今ニ傳レリ、一旦後西院ヘ獻上セラレシヲ、御家ノ道具ナレハトテ、准后ヘ又進セラレシト也、是ニ付テ、古キ蒔繪ノ道具ヲ、源平ト云、其次ヲ東山ト云、其次ヲ信長太閤ナト云、家原自全ハ、蒔繪ノ目利ハ、天下ニ並ヒナキ者ナリシカ、毎ニ云、源平ト東山トハ、凡ソ三百年隔レリ、其間二百年ノ物ニ、ソレソレノ次第アリ、是ヲ知ラサレハ目利ハナラズ、此香合ナト、東山ヨリ御家ヘ獻セラルルニ、牧溪ト時雨ト、皆古キ物ニナラヘテ、此香合バカリ、東山殿モノズキニテ、新ク拵テ獻セラルヘキヤウナシ、東山殿モ、古キ物トテ重寶ノ餘リナレハ、其前百年モ以前ノ物ト見エタリト申ス、尤ナルコト也、

○自全カ道具ニ、料紙箱アリ、蓋ノ甲ニ、代々天子ノ皇統ヲ書テ、終リニ治正何年當今トアリ、此蒔繪ヲ本ニシテ、世間ノ道具ヲ究ムト申タリ、尤イヤト云ハレヌコト也、

○此頃最應寺カ咄シニ、今ノ了音ハ、未タ廿ニタラヌ者ニテ、先頃御城ニメサレ、一卷ヲ出サレテ、兩方マキカクテ、是レハ誰カ筆ナルソト、御尋アリシニ、先爲家ト申ス、併キハメ申コトハ再應ノ上ナラテハ、申シカタキ由申上シニ、拜借仰付ラレテ歸リシニ、奥書ニ爲家老後書レ之トアリテ、年號月日アリ、ソノ年

號ト、爲家ノ存世ヲクラブレハ、爲家三十ノ時ニ當レリ、僞筆ナルコト疑ナキ由ヲ申テ、御褒美ニ預リシト也、冥加ニテモアルヘケレドモ、出處イカカト云カタシ、

○廿三日、參候、一安初テ御目見エ仰付ラル、

晝時御目通リ召出サル、難有上意ドモ、言語ニ述カタシ、御前ニテ、拜領物（サアヤ一卷、）ナト仰付ラル、君樣方、御豚ナト仰付ラル、面目子孫ニ傳テアリカタシ、

○廿六日、進藤一葉ヘ參ル、

加州ヨリ召抱ラル、一件ニ付テ、世ニアリカタキ御命トモアリ、加州ノ一卷ノ中ニ載レ之、

○來六日ニハ、有隣君ヘ、御茶ニ成ラセラル、御供ノコト、其方、一葉并ニ道安ヲ、召連ラルヘキノ由仰ユエ、直ニ御前ニ出申上シニ、兼テ茶後ニハ、奥ヘモ成ラセラルヘキノ由也、道安ハ終ニ參ラヌ者ナレハ、イカカナリ、意齋ヲ召連ラルヘシ、其旨參リテ申ヘシトノ仰ナリ、又參リテ有隣君ヘ申上シニ、サレハトヨ、兼テハ御別業ヘモ參リテ、緩々ト御ハナシモ申シ、此方ヘ成ラセラレハ、奥ヘモ成シ申シ、設（設近本並ニ一本作皷）ニナト致スヘシト思ヒシカトモ、此度ハ茶事ナレバ、茶後ハ還御ナシ申スヘシ、道安ニハ、兼テ逢タシト思ヒキ、是非トモ御供ニメサルヘキ由ヲ、申セトアリシホトニ、又參リテ申シ上ントと思シガ、今日ハ奈良ノ一門ノ御成ニテ、御茶ノ最中ユエ、石見守ニ申置シカ、如何ニ仰付ラルヘキソトノ話ナリ（互ノ思召、共ニ世ニ類ナク、辱コソ侍レ、ソノノチ廿九日ノ狀ニ、念ナク意齋ニ仰付ラレタリ、左心得ヨト申オクラレタリ、）

○霜月四日、御茶、深諦院殿、拙、

午過參集、

御待合、（島カイキノノウレン、紫紐ニテ、ククリシホリテアリ、御道具何モナシ、圓座二ツ、）

御前御迎、（御羽織、御足袋、）

御掛物、後西院宸翰、（タトヘハ、切紙ノ幅ニテ、傍ヘヨセ御歌アリ、末ニライ紙大分アリ、）

身のうち茶、のみつゝしのふ、事とては、それより後の、むかしかたりぞ、

一文字、（萎ニ小菊ノ金襴、ムラサキ地、）中ハ（白地ニ色々ノヌヒ紗、）上下（白地ノドンス、）

（御話ニ、此御製ハ、後西院、ムカシノ茶ノ湯ノ御時、茶ノ湯ト申コトハ、中古ノ義ナレハ、詩歌ニハアルマシキコトナリト申シカハ、勅命ニ、左ニテハアルマシ、濵ノ眞砂トハ云カタシトテ、即席ノ御製ニテアリシトナリ、天下ニ並ヒナキモノナルヘシ、）

御釜、

（コレハ大德寺ノ寸松庵ニ、小堀遠州ヨリ寄附セラレシ釜ニテ、箱ニ遠州ノ書附アリ、去冬御茶ニ成セラレシ時御覽ニテ、御氣ニ入シ故、當春御カリナサレテ、當年釜屋ノ新三郎カ作也、ヨク似タリト仰ラル、全クアラカマ也、今ノ世ニ、又アルマシキ御モノスキナリ、）

御棚、羽箒、香合、

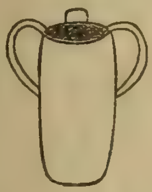
香合、屋ノ裡外金タミ、（コレハ先時御噂ノアリシコトナリ、後西院ノ御時、御淸所ヨリ侍所マテニツノリテ、尋ラレシカトモ、此樣ノ屋ハナシ、ソノ譯ハ、ロクニ直シテ、リントロノ方ニテ、アガリタルガナキモノナリ、只三ツアリテ、一ツハ、後水尾院ノ勅筆ニテ、落葉トアソバシ、今ニツチ一ツハ奈良ノ三菩提院、一ツハ准后ヘ下サレシ也、ソノ一ツナリ、）大サ二寸ハカリ、

御會席、食椀汁器、宗和形、（カウダイナリ）膳、（シュンケイ、イトメ、）

御汁、菜ノミヂンタタキ、チヨロキ、
平皿、四角、牛房ニタマコナツメ、サキエビ、葛タマリオシキ
御香物、一夜漬大コン、ナラツケ瓜、交趾ノ丸盃ノ形、
御壺皿、四角、半分ハ朱、半分ハ黑、鴨、セリ、細柚、
御吸物、金柑ノ葉ツキ四ツワリ、ナマコ、
御猪口、アミ、
御菓子、盃、一カンパリ内朱、大德寺キントン二ツ、銀杏醬油煑、小キ青クシ、
中立、
御煙艸盆、スルガ細工、手ツキ丸盃、烟草入奉書ノ火入イマリ、青竹灰吹、
手爐、カゲヤウ作、

杉ノ手桶、柄杓ソヘ、
御案內、鉦、大小四ツ、
御花生、唐ノ胡簶（ヤナグヒ）

コノ圖、武備志ニ出テ、此圖ニ少シモ違ハズ、此文字ケダモノノモヤウニテアリト、背ニ自然ノ環マテアリ、
御花、白玉ノツバキ、ハシバミ黃葉三枚アリ、
御水指、仁淸、白ク長ナリ、カリガンナ目、ヌリ蓋、常修院樣御物スキ、

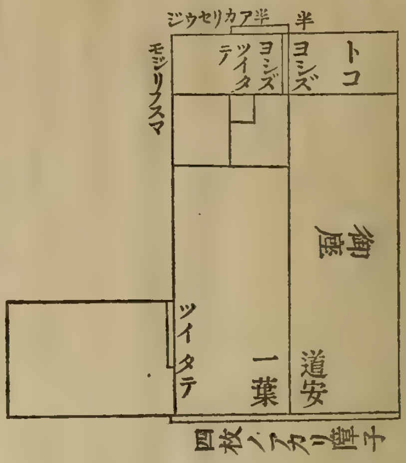


御茶入、玉川、　袋、藤言切、ウラカイキ、

ナキカタアリ、尻ウスグスリ、

此ハ古陸奧守ヨリ獻上ノモノ也、中古モノニテハ、廣澤ノ葵ノトウ中ニテハ、珍キモノ也、尤遠州ノ盞袋トモニアリ、箱ノ書付等アリ、〇シカレトモ盞袋ハ、御氣ニ入ラス、故ニアラタメヲレシトナリ、陸奧守道具ノ中自慢ト云、
御茶杓、宗和ノ靑竹、
御茶碗、新渡ノ繪高麗、ユピツナリ、
御表床御掛物、用田ノ、栗鼠ノ墨繪、絹地、茨ノヤウノ細キ木ニ、栗鼠ノ上ル圖アリ、
御茶後、御前ニテ御菓子御夜食等、五ツ時退出、
〇御前ノ御咄ニ、御前ホト居ヲ移サレシコトハ、外ニハアルマヂ、凡ソ御五ツノ御時ヨリ初テ、今ノ御別業マテニ、二十七處居ヲ移サレシコト、珍シト云ベシトテ、一々數ヘ奉ルニ、凡ソ廿六七箇處也、大體ノコトニアラス、奇異ト謂フヘシ、
〇七日、　大德寺孤峯庵ヘ御成、一葉、拙、御供、
午時芳春院御廟所御成、一葉、拙、御先ヘ參候、待受奉ル、夫ヨリ孤峯庵マテ、御步ニテ、一葉、拙、御トモ、御成、芳春院御迎ニ出ラル、火桶ヘキニノセ、御烟草盆三寶、
御待合御成、御座ノ後ニ屛風ヲ引、主馬繪ノ由、墨繪ノ梅ニ鳥ノ向圖、腰ニ金ノ菱垣、花毛氈、
脇ニ、
青貝ノ衣桁衝立アリ、

ハシカボリノ硯箱、角（スミ）ニ次ノ煙草盆、（キンマ、高麗火入、靑竹灰吹、トザイクノコリノ烟草入、
御手水鉢、ヌル湯、片口ニ湯、
茶所、　十三疊敷、



宗達曰、ヨシスノツイ立ト云ハ、疑ラクハ遠州好ノヨシノ大目棚ナルヘシ、則孤峯庵ノ此サシキニ、遠州組合タルヲ、今世上ニヨシダナト云テ用ルハ、コノ座敷ニ組合セタルモノ也、

掛物、眞龍岩墨蹟、此寺ノ什物、一文字靑地ノ金ラン、中カキ地トンス、上下同、

釜、織部殿好ミニテ、遠州へ贈ラル、遠州ヨリ、黑田殿へ贈ラル、黑田殿ヨリ、此寺へ寄附セラル、

アラレニテ、
ツバ口ナリ、

亭坊ノ衣體、長キ絹ノ衣ニ、アサキノフクサ、

棚ニ香合、堆朱ノグリ、□□作ノ由、ツラニ長生ト書付アリ、

炭取、檜ノ木ノヒツペキニテ、トコロドコロ結ヒ付タル臺也、足アリ、奉書ヲシキ、炭ドウスミ、輪スミ、ワリスミ、白スミ、取合セ積テ出、羽箒、火ハシ、トリソヘ、〇翌日ノ御評ニ、廣キ席ニハ、取合尤ヨシト仰ラル、

灰ボウロク、スヤキ新、ハヒスクヒソヘ、釜ニ水ヲツカレ候トキ、炭ガシラクスボリ出ツ、亭主アイサツアリテ、勝手口ヨリ、ハンタヲモチ出、クスボリ炭ヲアゲ、ソノカワリニ、炭ニツサシ入ラル、時ニトリテ面白シ、

御料理、

御膳、上木具、御椀、茶ワン、御食次、燒物、ヒクキ臺ニノセ、

〇一本御前ノ御膳木具茶碗、御食次ヤキモノニ臺ノセ、

汁、近江カブラ二ツ、栗スコシ、ウトメ、フクサミソ、

皿、セトノ四角、

菊ノ花ト、チサト、イリザケ砂糖少シアルカ、針ノ生ガ、シラカクリ、

二ノ椀、湯ドウフ、(湯一作燒)山ノイモ、トロヽカケ、

壺皿、湯波、酒醬油煮、ワサビ、

酒ナシ、

湯盃、ヌリモノ湯次、同杓子、石ノ水次、赤繪、染付ノツボ、淸水米イリテ、

菓子盆、唐物靑貝、

〇一本御前ノ菓子盆杉ノフチタカ、次〇朱ノ唐物ユヒツナリ、

菓子入、四角唐物、砂糖、ビイドロ大チヨコ、

菓子、何カシレズ、〇タトヘハ、蓮ノセンニ、團子ノ粉ヲマゼテアンヲ入、コシアヅキニテ、マワシタルモノカ、

御中立、初ノ處、

床、垂撥ニ靑竹ノ節ヲ中ニコメテ尺八、

花、寒菊ノテリ葉タツフリ、花少シ、水仙花二、葉四、〇亭坊ノアイサツニ、此花ハ、芳春院ヨリノ心ツカヒニテ送ラル、今日ノ御馳走ニト申上ラル、〇亭坊ノ本意ニハアラザルベシト云々、

〇一本亭坊ノ出立、サイミノ短キ衣、

水指、ナンバンノイモカシラ、大ブリニテ、ヌリブタ、

茶碗茶入、カザリツケ、

茶碗、新シキ天目、下ニ三寸タラズノ、四角ノタタミタル紙チシキ、

茶入、名物、遠州ノフ(ヅカ)タフクロニテ、箱ニモ書付アリ、秘藏ノ由、少シ肩チ衝テ、下少フクラカリ、瀨戸クスリノチキカタアリ、恰好トカク言語ニ及ハス、袋、シマノカントウ、カイキウラ、ツカリソノマヽ、

茶杓、名物、〇遠州作ニテ有馬山ト號ス、一生涯ニ、二ツノ茶杓ニテ、一ツハ家ニアリ、一ツハ此寺ニノコサルト云々、筒ニ澤庵ノ銘アリ、有馬山竹、何不レ用レ鞭、忽作ニ茶具一珍重々々、横ノ方ニアリ、裏ニ、有馬山、宗甫トアリ、

次ノ茶碗、コヒキ、次ノフクサ、黃色、

茶後直入庵ヘ御成、

坐敷床掛物、

花生、カチノ

白玉椿一リン、

佛檀ノ前、二枚ノフスマ、四段ニ、主馬ノスミ繪、脇床、唐物ノ丸キ卓ニ、セトノ向獅子、

三疊敷ノカコヒ、床掛物、尙信ノ山水ノキリヌキ、雪舟ヤウニ、コマカナルコト終ニ不レ見、

爐ニ釜、シカケアリ、

千宗佐、同宗因、初テ御目見仰付ラル、宗佐炭仕リ、宗因御薄茶立ル、御菸菓子等出、七ツ半時還御、一葉、拙、御供、室町頭マテ御步行、

〇翌八日、　參候、

昨日ノ御禮申上ル、今朝ヨリモ、昨日ノ御噂ノミニテ侍リテ御座アリシ由ニテ、トリ〳〵御褒美ナリ、

先日ノ御茶ニ、御不調法アリシ、氣カ付タルヤト仰ラル、曾テ氣付申サヌ由申上ル、仰ニ、何トシテモ御歲ノ氣ニテ、御忘レノコトモアリ、先日ノ茶ニ、香物ノ鉢ヲ持チ出サマニ、箸ヲ落シタリシガ、イツモ易リノ箸ヲ拵テ、竹ニ取替ント思ヒシニ、折節其用意ナカリシホドニ、白箸ヲト云シニ、ソレモ淸所マテ取ニ行ント云、湯ノトキニ出サントカト思ヒシカドモ、夫モ已ニ持出タルヲ由アリゲニ待ンコトモ益ナシトテ、箸ヲアラヒテノゴハスニ、ソノマヽ出シタリト仰ラル、氣ハ付カチド仰ヲ聞テ、誠ニ存シ當リタリト申上ク、御流儀ニ、竹ハシヲ仕フコトモ、ヌレハシヲ仕フコトモナシ、初テ此事ヲ見侍リシ、

深諦院殿、イツモ上座ヲツトメラル、ニ、末ニハツカズニ、シリアカリノ口ニ座セラル、此席下座床ユヱナリ、今日ニカキリテ、床ニツカセラル、イナコトヽ思テ、窺シカトモ、コレガヨカラント仰ラル、扨會席ノ出ケルトキ、床疊ヲヨケテ、平ニ向フヘナホラレタリ、初テ感シ思ケルハ、今日ノ掛物、勅筆ナルカ故ニ、床ヲ上座ニセラレタリト見エタリト申上シニ、尤サアルベシト仰ラル、一兩日ノ中ニ、夜ニ入テ參候スヘシ、例ノ十種香ヲアソハスヘシト仰ラル、十日ノ夕參ルベキ由申テカヘル、

〇十日夜、　參候、

十種香アリ、吉岡　於秀、　笆、　香本ヲセラル、御前、

保君御方、　三座アリ、香ノ記別ニアリ、香スミテ後ノ御物語ニ、先日ノ御茶ニ出シ水指ハ、後西院ヨリ拜領ス、後西院ニテ御茶アリシ、御客ニハ無上方院、御母公、一門並ニ御前ニテアリシカ、茶後ニ十種香ニテ掛物香アリ、フト勅詔ニ、一門ニハ、此度ノ上京ニハ、色々ノサハルコトアリテ、茶事モナカリシヤラン、明日ハ還ラルル由也、內府ヱ、朝茶ニ參ラレヨカシト、勅命也、得タリ賢シト、一門ニモ、誠ニ出立ハ、內府殿ニテ給候ナント仰ラル、御前ニモ、幾重ニモ辭退ナサレテ、今マデ角テアランニ、得コソ仕ランヤト仰ケレドモ、一門ニハ最ウレシゲニ、由(ヨシ)ヤ呼タマハズハ、押カケテ參ランニ、何カ苦シカルベキト仰ラル、然ラハ此香ヲコソ、御斷リ申サメト仰ケレドモ、夫レモ叶ハズ、漸クニ夜半ノコロ御暇タマヒテ、輿ニ乘ルヤ否ヤ、急ケタタト還御ナル、中ニモ花ハ角シテ、茶ハ兎シテト、工夫スル中ニ還御ナリテ、御近習ノ者ニ、急ナルコトコソ出來タレ、先掃除ノコト申付ヨト仰アリシニ、何カハ知ラス、先刻御本殿ヨリ御使ニテ、掃除ノコト申來リ、御封付ノ挾箱二ツ、無上方院ノ御方ヨリ參リタリト申ス、封ヲ切テ此ヲ見ルニ、後西院ノ御方ヨリ、掛物ヲ初メ、花生ニ花ヲトリソヘラレ、茶入ニハ、茶ヲ御ツメアリテ、水指ヨロヅ、何モ事カカヌマテニ成テ、下サレケルホトニ、終ニ又ナキ樂ナル茶ヲ仕タリ、一門モナラセラレテ、イカイ魂ヲツブサレテ褒美ナリシカ、後ニ御キキアリテ、諸道具トモニ、半分ワケニセント大笑ナサレシ、ソノトキノ水指ナリト仰ラル、古ノ風ノ、今ニ不レ及コト如レ此、イトモカシコシト謂ツベシ、夜モ深タリ、宿セカシト仰ニテ、御別業ニ宿ス、吉岡ノ局ヨリ、九獻ニテモ給テ休メカシト、女童ヲシテ、最ヲモコロニ承ル、イサトヨ、休タリトテ、御斷申テ寢ヌ、

翌早十一日、獨リ歸ル、

〇十一日、　午時一葉ヘ御成、御供、治部、道安、

待合、請次ノ煙草盆、手爐、

掛物、明惠ノ文、一文字、紫地印金、上下中トモニ、色カワリシケ、

香合、宗旦ノ棗、オシロイトキ、　裏ニ旦ノ判アリ、

フクベ、手附、

會席、

汁、納豆ニナメ、

猪口、ナマコノコタタミ、イリサケ、ワサヒ、

煮物、雁、マキユバ、ゴマアン、三ツ葉ノ莖、

吸物、カキニフキノトウ、

湯盃、木地ノヒツベキ、　湯次ヌリモノ、水次カ子、香煎筒、カラツノトクリ、竹ノ子ノカハノ口、

菓子、クヅ、山ノイモマンヂウ、カウタケ、

御中立、

花生、黄セト、　　花、白玉ツバキ、寒菊ノテリハ、

水指、イガ、口前ヘカタムキテ面白シ、フタ、ヌリフタ、
茶入、サツマハフノ尻バリ、　袋、白地ノ古キンラン、寳ツクシ、
茶杓、佐久間將監、
茶碗、上手燒、下ゴキ、
四疊半ノ花生、宗旦ノ一重キリ、イノコヤナギ、赤ノサヾン花、
二階ノ床、松花堂ノ雉子ニ、澤菴ノ賛、
きゝすらも、ほろゝうつなり、ほろ〳〵と、とけぬは人の、
心なりけり、
茶後如石、外記、ナト參リテ、狂漢和等アリ、四ツ時前還御、

○十二日、　參候、
房君御方御深晉木ニテ、内々御相伴仰付ラル、宿ヘモ御肴重之物ナド拜領ス、
二重ノ花生ニ、花ノ入ヤウヲ窺ニ、　仰ニ、必シモ下ニ生タルカヨシ、上ニハ水ヲハレバ、花ヲ入タル心也、上ニ生テヨケレハ、一重切カヨキ筈也、上ニ生テハ高過ルト思テ、二重ニシタルモノナレハ、必シモ下カヨキハヅ也、花ニモ其心得アルヘシ、
○昨日ノ花モ、願クハ表ノ宗旦ノ筒ニ生タラハ然ルヘカランカ、筒ノ黒キニ、白玉カ取合ヘシ、常修院殿ノ常ニ仰ラレシニ、白玉ト菊寒トハ、迚モ入ラヌモノ也、終ニ入タルハ見タルコトナシ、柳ニ寒菊カ、梅ニ白玉ナトニテアルヘシ、赤キハ、梅ニモトリアハヌモノ也、
○香合ハヌリモノニテモ、燒物ニテモ、爐風爐ノ差別モナク、取合ニモキラヒナキコトニ候ヤ、　仰ニキラヒナシ、但シトリナヤミニハ差別アリ、塗物ハ出ス時モ、棚ニ置カ、手ニ持テ出ルカ、餝リ付ルカ也、取入ルヽトキモ、是非手ニ持テ出ル、燒物ハ、フクベニ入ルヽカ、灰ホフロクニ、匙ノ上ニ載テ出ルコトモアリ、取入ルヽトキモ、フクベニ入テモ不レ苦ト也、（近本作炭ホウロク）
○棚ニ餝ルコト、强チ尊キ物ナルホトニト云コトハナシ、何ニ限ラス餝ル、茶入ヲカサルコトモアリ、フクヘヲ餝ルコトモアリ、是モ折々同シコトモ與ナキ故也、サレドモ一ツカサリ、三ツカサリト云コトアリ、二ツニナリ、四ツニナルコトヲ嫌、是ハイカフ大事ノコト也、人ニ語ルヘカラス、水指ノ前ニ、茶入ヲ餝ルコトアリ、脇ヘハヅシテ餝ルコトアリ、是ニハイカフ譯アルコト也、釜バカリハ、常カサリトテ、餝付ノ外也、水指ト掛物トバカリニテハ、二ツカザリニナル、其時ハ、茶入ヲハヅシテ餝レハ、三ツカサリニナル、水指ノ前ニカザレバ、見通シニナリテ、一ツニ立故ニ、茶碗トモニカサレハ、道具ハ四ツニテ、餝リハ三ツニ立ツ、是甚タ秘藏ノコト也ト仰ラル、
○棚カサリニ、香合ヲカザルニハ、必羽箒ヲソヘルカ、環箒トカ、香合箒トカ、二ツカザルモ、上ニ云譯也、若シ茶入トカ、香合

トカ、一ツアルトキハ、入サマニ箒ヲ棚ニチキテハイル、是ニテアトガ三ツニナル、

○先日何某カ茶ニ參リタリシニ、後ノ出ニ、亭主茶椀ト羽箒トヲ持出デ、爐ブチヲ一遍ハキテ入テ、コボシヒサクヲ指出タリ、珍キコト、終ニ見ザリシコトニ候、コレアルコトニヤト申上ル、仰ニイサシラス、後ニ羽箒ヲ持出ルコトハアルコト也、口切冬ノ茶ニハキカヌコト也、冬何トゾ口切ニ呼バテカナハヌ人トカ、口切ニ、冬ノ約束ノ延テ、春ニナリタルトキハ、諸事ミナ冬ノアシラヒナリ、炭取モフクヘ、爐ブチモ黒ヌリ也、其時ハ、茶碗羽箒ヲ持出テ、爐ブチヲハク、是ヲ爐ブチノアシラヒト云、冬ハシラヌコト也ト仰ラル、

○倩主客ノ樣子ヲ見ルニ、互ニ上手下手ハアルヘシ、主ヨリモ、客ニハナラルマジキモノト存シ奉ル、主ハ心一ハイニテ、獨リ藝也、客ハナスコトモナクテ、三人トモニ引張合ヲハ、不出來ノマキゾヘニ合コトモアリト申上シニ、後西院ノ勅ニ、御上々ニハ、上客ナラデハナサレヌコト也、下坐ノ者ノ迷惑セヌヤウニノ心得、第一タルベシトノ仰也、上客ニヨリテ下坐ノ難儀多シト仰ラル、此ニヨリテ見奉ルニ、イツモ御前ニ湯ヲ召上ラル、ニ、下坐ノ人飲テ後、再ヒ御請ナサレテ召上ラル、毎々如レ此、下坐ノ人ノ致シヨキコト也、

○十六日、朝夕參候、（今日一安初テ御茶ニ付テ、御禮傍參候ス、晩ニ養安モ御留ニテ參ル、）先日其方カ話セシ、小池坊ト、金地院トノ、活發々地ナルコト、記錄モナシヲクベキコト也ト仰也、カヤウノモノニ、茶湯サセテハ、上手ナルヘシトテ、大笑ナサル、

○小池坊ト金地院ト、常憲院殿ノ御前ニテ、參集セラレシニ、金地院ノ總錄、小池坊ニ向テ、頃日眞言ノ灌頂ヲ見シガ、悉皆傾城ノ道中也ト申シヽカバ、小池坊ノ曰、ソチハイツ傾城ノ道中ヲ見シヤト問、金地院曰、某眞言タリシ時見タリト云、小池坊曰、傾城ノ道中ヲ見物スルヤウナ眞言ハ、得テハ禪ニナルモノ也ト云ハレテ、一句モアカラザリシト申セシカバ、大ニ御感アリテ、當時應山ノ御前ニ、澤庵和尙ノ侍リテ、御暇申サレシニ、今暫シト御留ナサレシニ、今日ハ法華八講ノ中日也、先御暇申サントテ出ラレシヲ、呼返シテ、八講ノ中日トハ如何トアリシカハ、澤庵答曰、四ツ椀ノ中椀ノヤウナルモノ也ト思召セトテ、退出セラレシトカヤ、此頓知ニテハ、茶湯モ上手ナル筈ナリト仰ラル、

○今日ノ御茶ノウワサヲ聞ニ、先日ノ御道具ニカハルコトナシ、御釜ハ、カケハヅシ御大儀也トテ、カケカヘラレシ故、水指ツキ立タル備前ノ山、香合、犀皮ノ手ト云モノヽ由承ハル、

○今日初テ、宗佐ヲ召シテ、末座ヲ勤ラル、御茶碗ヲ返奉ルトキ、

改メ申サントテ、懐中ヨリ、奉書ニツ、ミタル紫袱紗ト、茶巾ノウチシメシタルヲ取出シテ、口付ノ處ヲフキテ、上座ヘカヘシケルハ、最興アリケルトノ御事也、

先日大德寺ニテ、御茶ノ節ニ、直入庵ニテ、宗佐ニ炭ヲ御所望アリシニ、炭ヲ仕廻テ、燒物ヲ燒ヘシヤ否ト、一葉マテ窺シコトヲ、左典廐カ尋シニ、イザトヨ、御前ニハ、火鉢サヘ御キラヒニテ、上衛アソハス由ノ仰、ヒタモノ承リシホドニ、炭ノ間爐邊ニ成セラル、サヘ、如何ト思シニ、燒物マテハイカニト窺シマテ也ト申キ、誠ニ其故ナキニシモアラスト仰ラル、

○廿六日夜、參候、

今宵ハ宿スヘキ由ニテ、宵ヨリ樣々ノ御話ノ内ニ、エテハ茶杓ヲ茶入ニカケテ落ルコトハ、兼テカケテミヌ故也、ソレニハ必スカケヤウアリ、茶杓ノ本ヲ、疊ノ目ニテヨクキハメテ、先ハカクルマテニ、合點スベシ、

○無禪カ話シニ、凡テ藝ハ、ヒツハルヲ好トスト、人ゴトニ云コトナレドモ、ヒツハルハ、タルム處アレバ也、然レバヒツハルハ病ナリ、只藝ハ、タルマヌヲ好シトスト申キ、尤ナルコト也ト仰ラル、

一本此條廿六日夜參候ノ下ニアリ

○常修院樣ノ御作トテ、兼テ求置シ筒ヲ、御日ニ掛シニ、是ハ他作也、御作ニアラズ、花マドモ、クギアナモ、格ニハヅレタリ、其上目利ハ、常修院殿、宗和ナドノ筒ハ、タケノタテハ、竹ノ筋目ヲ違ヘスニ切リテ、前ハロクニキル、コレラハ、竹ノ筋目ヲサカフテ、縱ヲキル、御作ニアラスト仰ラル、

○廿九日、參候、

一昨日ノ雪ノ日、有隣君ノ茶ニ御成アリシ御ウワサ、承リタキ由申上ル、サレバトヨ、思ヒモヨラヌ雪ニテ、茶ニハ至極ノ好趣ナリシ、香ノ茶ニシタリ、當年ノ初雪ナレバ也、ソレハ如何ヤウノコトニヤト申シ上シニ、香爐ハ口ノ入タル丸キ香爐ヲ、盆ニスエテ棚ニカサリタリ、二三(人ノ名)ハ、物ニコ、ロエタル茶人也、挨拶シテ、香爐ヲオロスベキ由ヲ申シタリシ程ニ、先是ニテ手ヲモ溫メラレヨカシトテ指出ス、新木ナカラ、類スクナキ御香也、火敷ヲオカレヨカシト申上シコソ尤ナレ、

スベリクチナトノ香爐ノ、十種香ニ用ル類ノ香爐ニハ、必銀ヲシク、口ヨセナトノ爐ニハ、大方シカズ、火シキヲシクトシカヌトニハ、イカウ習ノアル「ナリ、先ハ香爐ニヨル、又炭ノ仕ヤウニヨリテ、シクトシカヌトアリ、

香爐ハカヘサレシホトニ、取入テ炭ヲシタリ、勿論タキモノナシト云々、

○極月朔日、參候、

昨夜若君御誕生ノ御賀ヲ申上ル、大儀ノ由仰ナリ、江戸一位樣ヨリ、十種香ノ香包ノ折形ヲ、仰越サレシホドニ、ソレヲ仰付

ラルヽ也、十三通リアルモノ也、其外ニ御家ノ形モアリ、近日出來セハ、御見セアルベキ由仰ナリ、

一本此條ナシ

○一亭一客ノ茶碗ノ、亭主ヘモドリタルヲ、客ノ方ヨリ茶碗ヲ所望セハ、一ペン湯スヽキシテ出スベシ、是一亭ノ法ナリ、

○卓ニ香爐ヲ置樣ノ事ヲ申上ル、鴻池カ申セシハ、角ノ卓ニハ丸キ香爐、丸キ卓ニハ、角ノ香爐ヲ餝ルコト也ト申ス、如何ト申シ上シニ、其沙汰ナキコト也、香爐ノ直シヤウニハ、差別アリ、大秘藏ノコト也、三ツアシノ香爐ノ直シヤウ、先ハ一ツ足ヲ前ニシ、二ツ足ヲ先ヘスルカヨシ、然レドモ三幅對ナトニテ、中尊ニ觀音トカ、祖師トカ云モノアリテ、ソレヲ尊フタメニハ、一ツ足ヲ向フニ直ス、晝トカ、山水トカ云掛物ニテ、客ヲオモニアシラフニハ、一ツ足ヲ前ニス、

○三ツ足ノ香爐ニハ、一ツ足ハ各別ニシルルモノ也、氣ヲ付ヘシ、ロクニ三ツハナキモノ也、大方●●●ト、カヤウニアルモノ也、其一ツヲ見テ、向フカ前カヘ、直スヘシト仰ラル、

○卓下ニ花生ヲ直スコトハ、臺アル卓ニカキリタルコト也、臺ナキ卓ニハナキコト也、卓下ノ花ニ、船ヲツルコトアリ、唐物ナドニ、小キ舟アルモノ也、コレハ臺アル卓ニハツラヌコト也、臺ナキ卓ニカキリタルコト也、コレ皆書院カサリノコト也、小座シキニハナキコト也、ホヤノ香爐ハ、ソラタキニカキリタル也、表向ノモノニアラズ、

○香爐ノ灰ノ仕ヤウノコト、スベリクチノ香爐カ、聞香爐ニハ、香爐ノフチヨリハ、卑ク盤ヲスヱテ香ヲタク、ヒロクチノキツタチタル香爐カ、口ヨセノ香爐カ、スベテ聞香爐ニテナキニハ、灰ヲ口ノ高サ一パイニシテ、銀ヲ置クモノ也トガテンスベシ、

○伽羅ヲ、一分四方ニ切ルコトハ、十種香ノ時ハ、一分四方ノ木ヲ、四ツニヘギテ用ル、三ツハ一二三ノ香、一ツハ客ノ香ノ爲也ト云、ソレニハアラス、若小キモノ故、飛テ紛失センカタメ也、空燒ノ香ノキリヤウハ、又是ト別也、

○四日、參候、

昨日ノ道正庵カ茶ノ話ヲ申上ル、ソノ次テ、先日指上置シ茶入ノ蓋袋トモニ、出來ノヨシニテ拜領ス、難有コト云ハカリナシ、末代マテノ家物トシテ、書付スベシ、箱ハ跡ヨリ下サルヘキノ由、書付ノコトヲ、御尋申上シカハ、丸壺トハ云カタシ、ブンリンノ方ナルベシ、仁清ヤキ分輪トシテ然ンカ、御相伴ノ上、春服ノ御服、表裏絹トモ拜領、毎度ナカラ、去月モ醫者共、總並ニ拜領シテ、又此度ハ各別ニ拜領シタルコト、面目ト云ヘシ、吉岡局ニ、色ヲ好テ染サセ給ヘキ由ニテ預ク、

ソラタキノ香ノ割ヤウハ、イカホドニ仕候ヤト申上ケシニ、ソ

レハ座敷ニモヨリ、香爐ニモヨル、一定シガタシ、

十種香ノ香ノ割ヤウハ、香ヲハ、ワルト云ハズ、サクト云、古ヨリ如此、サ、一分四方ヲ、四ツニサク也、コレモ世間ニハ、木目ニ四ツニヘグコト也、ソレハアシシ、十種香ニカキリテハ、木口ヨリ、四ツニサキテ、細ラ長クスルカヨシ、如何トナレハ、木ノナリニ、四角ニスレバ、合セ香ノ時、火ノ上ニノラズ、細ラ長ケレハ、二種アハセテ、四角ニナリテ、火ノ上ニ四角也ト仰ラル、

火合ノコトハ、今世間ニ用ル、鍔ヲハメタル銀香箸ノヤウナルモノアリ、アレニテヨク候ヤト申上ルニ、アレハイカフ近代ノモノ也、根本火合ハ、定リテハナキモノ也、香ニヨリテ火合チガフ、古キ香ト、新シキ香トハ各別、ソレ故十種香ナトハ、四種トモニ時代ヲ吟味スルコト也、時代ニ各別ノ不同アレハ、火合定メカタキ故、香本ノ難義也、香本ニソレヲ知リテ、一度々々ニ火合ヲカヘ子ハナラヌ故也、

香爐ノ灰ハ、何ヲ上ト致シ候ヤ、白灰ニテハ、火ウツリテ後ニハ、香イデスキルヤウニ候、先日山田某ニモ問ケレトモ、御前ノ灰不レ存ト申キ、何ヤラン、各別ノ灰アル由ヲ申スト申セシカバ、夫ハ何ニテモ聞オクヘシ、　御前ニハ、埋レ木ニ越ルコトナシト思召ス、近代藤灰トテ、近江ヨリ出ルハ、藤ヲ焼キタル灰也ト云フ、色ハ似タレトモ、各別ノ者也、埋レ木ハ一度一度ニテ、色ニモ厚薄アリ、是見ヨトテ御見セナサル、イカニモ色コトナリ、埋レ木ト申ハ、仙臺陸奥守領分ノ、衣川ノ水底ニ、幾万年ノ朽木アリテ、ソレヲ焼テ灰ニシタルモノ也、色ハ少シツヽノ違アレトモ、先ハソウデンカラチヤノ色ナリ、コレハ各別ノ火持也、他ノ灰ハ押セハ堅クナル故ニ、火ハ漸々ニゼウニナリテモ、灰ハ形ヲクズサズ、リントナリテアル故、次第ニ火合遠クナリテ、香ノニホヒチカフ、埋レ木ハ火ノ消ルニ従テ、灰モサガル故、何ニテモ火合違ハス、ソレナゼナレハ、灰ヤハラカナル故也、

香ノ灰ノ仕ヤウ様々也、先ハ聞香ハ、筋ヲ付テ六角ニスルコトモアリ、五角ニスルコトモアリ、春夏ハ五角、秋冬ハ六角ナリ、又筋ナシニ、五角六角ニ、一筋ツヽ付テ置コトモアリ、又カキアゲ灰トテ、カキアケタルナリニテ、角ヲタテヌコトモアリ、ソノ時ハ大方ハ火敷ヲシカヌモノナリ、

○五日、　參候、

昨日ノ御禮ヲ申上ル、先日ヨリ求ラレシ珍書ニテ、目モアハズ嬉シサヨト仰ラル、拜見ハナラヌ物ナルヘシト申上シカハ、潜カニ見スヘシ、唐ノ六典也、六典ト云モノ、先近代ハ珍シ、タマ〳〵アレハ、嘉靖本ノミ也、先年新井筑後守カ、書寫ノ本ヲ獻上セシモ、嘉靖本ノ寫ナリ、御前ノ本ト異ナルコトナシ、ソレ故先年ヨリ思召立テ、此六典ノ磨滅ト、闕タル處ヲ、新舊唐

書、ソノ外唐代ノ書トモニテ、コト〴〵ク正サレタリ、是見ヨカシトテ、此書寫ノ本ヲ御見セナサル、臘ウチノ紙ニテ、六典一部、コト〴〵ク書寫ナサレテ、點ヲ付ラレ、磨滅ト闕字トヲ、他本ヲ以テ、頭ニ書加ラレテ、大方ハ恨ナキホトニ成就シタリ、此ハ諸家ニナクテカナハヌ物ナルホトニ、板行ヲ仰付ラルヘキト思召ケレトモ、今少シ御心ニカヽリシハ、本六典ハ唐ノ法ニテ、板本ニ行ハレシハ宋ノ紹興ノ本ガ根也、ソノノチ絶テ、又正徳ニ一本板行アリシガ、又斷絶ス、ソノ後全ク滅シタリシカ、明ノ嘉靖ニ印本ニシタリシ由、嘉靖本ノ跋ニ見エタリ、ソレヨリ以來、御心ニカケラレシカドモ、終ニナクテ、如何樣一兩年ノ中ニ、右ノ御本ヲ御藏版アルヘキト思召シ、折カラ去月中旬ノコロ、田舍ヨリ五六部來リシ書ノ中ニ、正德版ノ六典ヲ、持來リテ御覽ニ入ル、早速召上ラレテ、其ヨリ以來、晝夜御校合アリシニ、最前ノ磨滅ヲ補ハレ、闕疑ヲ擧ラレシ處々ドモ、一々符節ヲ合セタルガゴトシ、然ノミナラス嘉靖ノ本ハ、アリモアラヌモノヲ、版本ニシタリト見エテ、大分ニ落タル處モアリ、全ク別ノ物也、此嬉サ、晝ハヒメモス、夜ハヨモスカラ寢ラレズ、六十ニアマリテ、此ホトノ嬉シキコトハナシトテ、御本ヲ拜スレハ、最前ノ頭書トモヲ、一々藍書ニテケサレタリ、拜感餘リアルコト、言語ニ述ガタシ、今マテモ、最早版行セヨカシト、進ムル人多カリシガ、悪ク版行セハ、今日悔シカルヘキニ、幸甚ナルコト也、六年ノ精力、何ノ益ナシト思ヘドモ、此精力ノ冥加ニテアルヘシト思召ス、是ヨリ又アラヌ心付テ、今一部新書シテ、此度ノ正本ヲ正シテ、紹興ヨリ正德マテノ、シレヌ分ハ其通リ、正德以來嘉靖マテハ、明白ニ校正シテ、版行アソハスヘシト、思召ゾト也、總シテ今ニハシメヌコトナカラ、此ノ公ノ思召立ノ、タチノ精キコト如レ此、感嘆肝ニ銘シテ、難レ有コソ覺エレ、

○十五日夜、　候參、

此コロ坊城大納言ノ（坊城俊將卿權大納言正二位、學ニ茶法於豫樂殿下一、寛延二年正月朔日薨年五鷹司輔信公號有鄰軒、受ニ茶法於慈胤法親王一後患ニ眼疾一而愈嗜ニ茶事一寛保元年十月薨年六十二）有隣君ヘ御茶申サレシ話ヲ承リキ、臺天日ノ由也、（意齋話ニ承ル、）私ノ存シ候ハ何如アルヘキヤ、尤モカシ、有隣君ハ鷹司家ノ御連枝ナレハ、尊キコトハ申モ愚カナレトモ、無位無官ノ御方也、坊城ハ大納言ニテ公卿也、若攝柄ノ御方ガ、天子ヘ御茶ヲ獻上セハ、イカガスベキヤト存スルト申上シカハ、仰ニサレバトヨ、今ノ臺天目ハ、臺天目ノ主意ヲ、トリチガヘテ居ルト見エタリ、其方ハシメトシテ、貴人高位ノ人ニハ、臺天目ニテ、茶ヲ申スヤウニ覺エタルハ、アヤマリ也、臺子ニ、七餝リト云コトアリテ、茶碗ヲ三ツカザル、茶筌、（チヤセンノセニノセ、）茶巾、（チヤキンノセニノセ、）茶入、（盆ニノセ、）棗ト七ツ也、此時モ天目ハ、臺

ニノセテカサル也、總シテ天目ト云モノハ、尻スボリナルモノニテ、臺ニノセサレハ、茶ヲ立ルコトモ、飲コトモナラヌモノ故ニ、臺ニノセタルモノ也、ソレ故ニ、天目ニアラサレハ、臺ニ乘ルコトハセヌコト也、ソレヲオロシテ、臺天目ダテニスルコトハ、其畧也、故ニ昔ノ臺天目立ト云ハ、名物ノ天目ヲ所持ノ人ハ、臺天目ヲ立ル、天目ナキ人ハ、臺ダテヲスヘキヤウナシ、別ニ先ノ人ヲ尊ンテ、立ルコトニハアラス、丁ド盃タテ、唐物タテノ格ニテ、臺天目タテモ又一格ナリ、御前ニモ、終ニ御タテナサレタルコトナシト仰ラル、尤モ昔 後西院ノ御所望ニテ、常修院殿ノ、臺天目タテナサレタルガ、ソノ後所望シテ、ナラヒ置カレタレトモ、終ニ出サレタルコトハナシ、御前ニハ、 文昭院殿ヨリ進セラレシ、名物ノ天目ヲモ御所持ナサレ、臺モ名物ノヲ二ツ迄御所持ナサレタレハ、イツレ何時ゾハ、遊ハスヘシト思召也、昔ノ人ハ、某ニハ名物ノ天目アリテ、臺天目ノ茶湯アリトテ、ウラヤミシコト也、私ニイサトテ、天目立ヲスルコトニハアラス、世間流ノ臺タテノ心持ナレハ、坊城ノ許ハ、其方カ云ゴトクニテモアルヘキカト仰ラル、

○ソレニ付、其方ナトガ臺天目ダテヲ習ヒシハ、臺ハフクコトカト、御尋アリシ故、其通リ也ト申上ク、茶碗ハオロシテ、湯ススギヲスルカト仰ラル、其通也ト申上ク、仰ニ、コレモ二ヤウアリ、大事ノコト也、唐物ノ臺ニテモ、只ノ塗物ハ、ヤハリ臺ニスヱテ、湯ススギスルカヨシ、組モノヤ、グリナドノ臺ハ、オロシテ湯ススギスルガヨシ、ソレナゼナレハ、ヒヨツト湯ガ臺ノ上ニコボルレハ、何トシテモ、フクコトガナラヌ器也、ソレユヘノコト也ト仰ラル、

○茶巾ノコトモ、今ノ世ノ茶巾ハ、甚タ幅セバシ、トリアツカヒガ仕ヨキヤウナレトモ、今御前ナトノ御流儀ニテハ、イカイ違ヒ也、是モ若クハトリチガヘニテハナキカ、心許ナシ、アノ幅ノセマキ茶巾ハ、天目ノ茶巾也、天目ハ中バカリヲフキテ、外ヲフカヌモノ也、ソレ故セマキヲ用ルコト也、

○廿日、 參候、

今日君樣方御灸ニテ、御灸後、御相伴ノ上ニテ、御香七種、コレヲ拜領ス、即チ香包ノ上ノ御書付ハ臺筆也、有ガタク存スヘキノ旨、吉岡申渡サル、

雪、 松、 二重、 若菜、 天原、 谷風、 七夕、

右金入ノ緋唐紙ニ、御包分ケ、青色ノ紙ノ上包也、

○廿三日、 參候、

兼テ茶事ノ御傳授ノコトヲ申シ上グ、春ハ鷹司殿ノ、毎々稽古ニナラセラルル筈也、其度ゴトニ參リテ、拜見スベシト仰ラル、難レ有コト云バカリナシ、只一座モ闕ナカランコトヲ願フノミ、

夫ニツキ今ノ人ノ、茶ヲ稽古スルヲ見ルニ、茶ノ湯手マヘニカカリテ、ソレハ如レ此スベシ、ソレハ左ニアラズト直シテ、大方ナレハ、其通リニシテオク氣ニ、師モナリ弟子モナリテ、一遍通リハタレモアタマカラ立ラルルヤウニスル故ニ、誰モ一筋ヲ吟味シオホセルコトナシ、昔シ御前ナトノ御稽古ハ、左ニアラス、假令ハ茶入ノ結ビヤウナレハ、茶入一ツヲ出シテ、結ビヤウヲ、サマ〱ニ吟味シ、茶杓ノ置ヤウナレハ、置ヤウ一通リヲ、サマ〱ニ吟味シオホセ、炭ナレバ、先組ヤウ、置ヤウ、取アツカヒヲ吟味シテ、物（近本物作扱）ソレ〱ノスミタルヲ、一ツニアハセテ、立前ヲ習フコト也、春ノ稽古モ、左ヤウニスベシト仰ラル、

○大晦日、　參候、

歳暮ノ御禮ヲ申上ク、今宵ハ御香ヲ遊ハスヘシ、ユル〱御相伴スヘキ由仰也、畏リテ夜更ルマテ、吉岡於秀於笹ナド一處ニ、十炷香アリ、仰ニ、去年已後ハ、別シテ御靜ニナラセラル故、元日ハ一入ニ閑居遊バセドモ、明元日ニハ、午後ニ本殿ニナラセラルヘシト思召ス、今年ハ關白殿亭ニテ、小朝拜ヲ行ハルル諸卿ノ拜禮ノ體ヲ、御覽アソバスベシトノ御心也、昔シ御先祖猪熊殿ノ御時、スデニ准后ニテ入道殿ト申奉リシカ、　御子六條ノ關白殿ノ御トキニ、弟ゴノ兼平公ハ、鷹司殿ニテ侍リキ、（是鷹司ノ先祖、）御孫子兼經公ナト、六條ノ關白殿ヘ參リテ、小朝拜ノアリシヲ、入道殿ハ每々御出アリテ、御子御孫ナドノ、父子兄弟ノ拜禮ヲ、見物ナサレシヨシ、記錄ニ見エタリ、似ルベキニハアラヌド、時ニトリテハ、好モ似タルコトヨト思召テ、ナラセラルベキトノ御事也ト仰ラル、目出度コトハ申モ愚カニテ、扨モ御志ノ難レ有サヨト、感歎シ奉ル、御夜食過テ後、亥ノ刻退出ス、此兼平ハ大器ノ人ニテ、編書モコレアリテ、今ニ傳リシ由仰也、

槐記卷第三終

明治十五年四月十七日
華族蜂須賀茂韶藏書ヲ寫ス
明治三十三年七月
依近衞公爵家藏本幷川崎千虎藏本校正

小杉榲邨校閲
雛田千佳良校正

槐記　巻第四

近衛豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

○享保十二年丁未正月元日、參候、

○去年以來ハ、今日參候ス、恒例ノ如ク、御熨斗昆布、御手ツカラ頂戴ス、追付本殿ヘ成セラル、ノ由ニテ退出ス、御約束ノ如ク、明夜參候スヘキノ由仰ナリ、

○二日夕、參候、

今宵ハ御謠初ニテ、內匠、采女、承長、拙、御前ニ出ツ、

昔シ無上方院ノ御時ヨリシテ、今日御香初メナリ、例ニマカセテ遊ハスベキ由ニテ、御香二座アリ、

○仰ニ、再則是可ナリトハ、何ニモ通用スベキコトナリ、別シテ香ナドモ、ツト嗅タル時、コレハ假令ハ一ノ香ナリ、三ノ香ナリト思テ、再ヒ思惟スレバ、極テ違フモノナリ、擬疑スレバ、種々ノ香ニウツルモノナリト仰セラル、

○四日夜、參候、

明日ハ恒例ノ御節ニテ、關白樣、大將樣、入江樣、芳林院樣、ナド成セラル、晩ニハ御香アソバスベシ、其香組ニテ、今宵嗅ベシトテ、御香二座アリ、其次デニ申上シハ、十炷香ホド、式ヲ能イタシタルモノハ候ハズ、香ノ外ニモ、此式ニテ、古筆ナドノ目利ヲ稽古スルコトハ如何ト存ス、鼻ノミニ限ラズ、目ニモアル可キコトト存スルハ、如何サムラハンヤト申シ上ク、仰ニ、古筆ハナラヌコトナリ、試ニ一字ヤ二字出シテ、後ニ長キモノ出シテモ、一字ヤ二字ニテ、正筆ノシル、ト云コトハナキモノナリ、一體ノ位ニテ見ルコトナレバ、是ハナラヌ筈ノコトナリ、茶入ナドノ目利ハ、此式ニテナルベキコトナリト、兼テ思召付セタルト仰ナリ、

○六日、參候、

今日入江樣ヘ、御禮ニ罷出ツ、昨日進藤刑部入道一葉死シタルコトハ聞シヤ、時コソアレ、昨日ノ御困究、思ヒ遣レカシト仰ラル、大ニ驚キ、直ニ御本殿幷此御所ヘ、御機嫌ウカヾヒニ出、御家禮ノコトナカラ、太輔ノコトユヘ、御氣色ウカヾヒ奉ルノ由ヲ申上ク、上ニモ御不豫ノ御氣色ニテ、奥ニ成セラル、御閑ニナラセラル、ノ間、御伽ニ參候スヘキノ由仰也、此人ハ、御家ニ於テハ大功勞ノ人ニテ、サレバコソ、官加階ハ家ガラノコト、落飾マテ御相伴ニテ、一生ノ果報イミジキ人ナレバ、其身ノ終ハヨクシタル人ナレトモ、御家ニ於テハ、一カサリナルモノナト、各々嘆美シテ惜ミ申ス、

○九日、參候、錦小路、拙、

今日ハ、吉岡御膳獻上ニ付、兩人召サレテ參ル、此頃兼テ願ヒ奉リオキシ、御茶湯ノ式、御流義ノ御傳授ノコト、折ニフレテ、仰聞カサルヘキ由仰ナリシガ、今日初テ茶入ノ結ビ樣ヲ、御傳授ウク、ソレニ付、今ノ茶湯ノケイコ仕樣ハ、アチラコチラナリ、タテマヘ（川本作點前）ヲ先習ヒ覺エテ後、何モカモ習ハント思フ故ニ、タテマヘヲ一通リ、習ヒ覺エタルマデニテ、一ツ〱ノ道具ノサバキヲ知ラズ、先道具ノサバキヨリ、覺エ得ヘシト仰ラル、

○釣舟ノコト、出舟入舟ト云コトアルノナニノト（川本作入舟ト云コト有由）云、クサリハ二筋ノ方ヲトモトス、一筋ノ方ヲヘサキトス、何時モヘサキヲ、客ノ方ニスルコトナリ、花ヲ生ルニモ、ヘサキヘハ、花ヲミダリニ出サズ、トモノ方ヘハ、タレサガル樣ニ生ル、櫂（カイ）ノ心ナリ、朝ニハ出舟ニ生ケ、夕ニハ入舟ニ生ルナド、御流義ニハナキコトナリト仰ラル、

○舟ヲ釣ルクサリノ長短ハ、イカ程ニ仕ルコトニヤト窺フ、ソレハ何時（イツモ）仰ラル、樣ニ、花ニヨルコトナリ、花ノ長短タレ樣ニヨリテ、クサリノ長短ハアレドモ、常ノ花生釘ヨリ下ルベカラズ、釣舟ニ花ヲ生ルハ、常ノ花生ヨリ、高ク見ル爲ナリ、今世間流ニ、床ノ脇ノ方ニ、釘ヲ打テ懸ケ下ケ、床ブチヨリ一尺バカリ上ニ釣テ、花ヲ生ルハ、如何ナル故カ、若モ口カザリニ、掛物ニ重ル樣ニ思フカナレドモ、掛物ナキ時モ、脇ヘヨセテ懸ルハイナモノナリ、且アレホド下ケレバ、置花生同前ナリ、船ノセンハナシ、丁度二重切ト、一重ト、尺八トノ樣ナモノナリ、尺八ヨリ、一重ハヒキク、一重ヨリ、二重ハヒキク見ル爲ナリ

○艸木子ノ中ニ、松篁ノ詩アリ、能ク人ノ口ニ親炙シタル詩、釋伽見了呵々笑、烹殺許多行脚僧、トアリ、艸木子ノ唐本ヲ、未ダ御覽ナキ故ニ、シカトハ仰ラレガタケレドモ、釋伽ノ字解シガタシ、下ノ句ハ、松茸ノ形チ謂タルモノト聞ユ、上ノ釋伽ノ字ヲ、詩人ハイカヾ解スルヤ、里言解（川本作理諺解）ノ中ニ、方言ニテハ、男根ヲ擇伽ト云由ヲ記セリ、釋ノ字ト擇ノ字ト、字畫ヨク似タレバ、若誤タルカ、男根ノコトナレバ聞ユルガト仰ナリ、右京モ拙モ御尤ナル御義ナリト感シ奉ル、ヨクモ御氣ノ付タルコトカナト、稱嘆シ奉ル、

○墨跡ノ掛物ト、畫圖ノ掛物トハ、夏冬ニヨリテ心持アリ、覺悟セシヤト仰ラル、兩人共ニ、時節相應ト、兼テ奉存由申上ク、墨跡ナドハ文ガラ、或ハ月日ナドアラバ、時節相應ニス可シ、畫圖ハ、夏ハ冬ノ圖ヲカケ、冬ハ夏ノ圖ヲカクルコトナリト仰ラル、（此前ノ茶ノ御會ニ、日觀ガ葡萄ノ畫讃ノ御一軸ヲカケラレシハ春ナリ、春雨ノ字アル故ニ、カケラレタリトナリ、シカレバ畫讃トナラビタル時ハ、讃ガチモニナルニヤ、重子テ折ヲ得テ、窺ヒ奉ルベシ、）

○船ニ花ヲ生ルハ、心得アルコトナリ、船ハトテモ高ク見ルモノ

故ニ、花ヲタレ下シテ（川本作タレンガ為メ）立ルガヨシ、二筋ノクサリノ方ヘ少シ出シテ、一筋ノ方ヘタレ下シテ、多ク長クス、カイノ心ナリ、（川本作、一筋ノ方ヘタレ下リ多クスルガカイノ心ナリ）

○十六日、參候、

今宵ハ嘉例ニテ、毎年　入江樣御成、御香二座コレアリ、　仰ニ、先日吉岡ヨリ貰ヒシ、ミヅカキト云香ノコトハ、世間ヘ沙汰スベカラズ、少シ忌ミ憚ルコトアリ、竊ニソノ分ケハ、吉岡ニ承ルベシトナリ、如何ナルコトニヤト窺フ、此香ハ、モト加茂ヨリ出デテ、今ノ法王ノ敕銘ナリ、昔シ明正院ノ御時ノ上童（ウヘワラワ）ニ、相撲ト云シ女房アリ、其時ハ仙洞ニモ度々御幸ニテ、常ニ御遊ノ次手ニハ、御香タビ〳〵ナリシ、公ニモ常ニ御參アリシガ、此相撲ニ、法王ノ御氣色アリシ折カラ、花見ノ御遊ニ、方々ヨリ持ヨリノ御香ノアリケルニ、彼相撲ガ出シケル無銘ノ香ヲ、深ク褒サセ玉ヒテ、ミヅカキト、ヒソカニ銘ヲ下サレケルトナリ、ミヅカキト銘セラレケル本歌ハ、

…………………………思ひ初（ソメ）てき、

ト云歌ノ心ナリ、勅銘ニコトヨセテ、御思ノ程ヲ示サレケルニヤ、勿體ナクモ、最艶ナルコトナリシガ、相撲モ最アリガタキコトニ思テ、里ノ親モトヘモ披露シケレバ、面目世ニ越テ思ヒケルホドニ、此香木ヲ少シヅヽ、仲間ノ社司ヘモ贈リテ、今マデハ此木ヲ、家ニ在ナガラ、サホドニモ存ゼザリシヲ、勅銘ナルコトヨト、京ニモ持出テヽ、上ヘモ獻ツケル故、今ニアリ、年去リテ、此女房ノコトヲ、本院ノ御方ヘ、竊ニ仰ゴトノアリシヲ、何カ苦シフサムロフベキ、進ゼラルベキニキワマリケルヲ、如何ナル故ニカ此女房、上ヘ參ルコトヲ默シテ、終ニ此事ナラズナリユキテ、後ハ親（チヤ）セウトノ本ニカヘリスミケルガ、表向ヨリ御局ニ召ヲカルベキト思召テ、其時ノ所司代土屋相撲守ヘ、院ノ傳奏ヨリ内談アリテ、關東ヘウカヾハレタキ趣ナリ、シカレドモ相撲守モ、公家ノ上﨟息女タランニハ、何カ苦フ候フベキ、御下（ヲシモ）ノ女房ヲ、御局ニ置レンコト、未ダ其例ヲキカズ、關東ヘ窺フニ及ベカラズト申シヽホドニ、其事ヤミニケリ、其後此香木ノ、澤山ニ方々ヨリ出テヽ、此ハ加茂ノミヅカキナリ、此ハ勅銘ナリト、披露アリテ、表向ヨリ上ノ御耳ニタチテ、再ヒ御嗅ナサレテ、左樣ノ銘ヲ付ラレシコトハ、上ニ御覺エ之無シ、沙汰ノ限ナリ、アリモアラヌ虚説ヲ申シ、披露シケルコトノ不屆サヨト、逆鱗ノ由聞エケレバ、賀茂ノ親本（元カ）ニハ、暫ハ蟄居シテ、罪ヲ謝シケルホドニ、勅銘ニテハナカリケルガ、當時勅銘ト申スコトハ、深ク忌ミ憚ルコトナリ、殊ニ此御所ナドヨリ出タルナド、深ク沙汰スベカラズ、（此女房ヲ、後ニ鴻池道億、フカク戀慕シケレトモ、法師僧形ノ人ニハマミヘズトテ、イナミケルガ、ヤウ〳〵ニトリツクロヒテ、呼入ケル女ナリ、如何ナルクセモノニヤ、）

○廿四日、參候、

兼テ願ヒ置シ、十炷香ノ香包ヲ拜領ス、此ハ十三通ノ外、御家ノ折形ナリト仰ラル、

○晦日、參候、（村上等佺、拙、）　御香二座アリ、總シテ十九日以來八九日マテハ、丹州往來ノ中ニテ、日記前後ス、

○香爐ノ脚ト、風爐ノ脚トハ、アチラコチラノモノナリ、風爐ハ一ツ脚ヲ前ニス、香爐ハ二ツ脚ヲ前ニス、卓ニ飾リ付ル樣モ同シコトナリ、掛物ノ方ハ一脚、客方ハ二脚ナリ、然レドモ若掛物ニ、聖賢ノ像トカ、勅筆トカニテ、掛物賞翫ノ儀ナレハ、二脚ヲ掛物ノ方ニ直シ、一脚ヲ客ノ方ニ直ス、是又アチラコチラナリ、總シテ香爐ノ足ヲ三足トシテ、鱗形ノ樣ニ覺ルハ、僻カコトナリ、一足ト二足トナリ、∴トシタモノニ非ス、∴トシテ、一足ハ各別ノモノナリ、好香爐ニテ、見覺ユベシト仰ラル、

○卓下ニ花ヲ生ルコト常ノコトナリ、卓ヨリ外ニ出サヌモノト申ス、左樣ニテ候ヤト窺フ、イカニモ左ノ通リナリ、卓下ニ船ヲ釣ルコトアリ、唐ノ卓ノ棚ノ底ニ、ヒルカギヲ打タルガアルモノナリ、此御所ニモアリト仰アリシガ、（其後此卓ヲ拜見ス、）船モ亦常ノ船ヨリハ小キモノナリ、花モシホラシク生ベシ、何レモ書院カザリナリ、此御所ナドニテハ、不相應ナリ、セメテ本殿ノ廣間床ホドナレバ、時ニトリテ、面白カルベシ、

○今世間流ノ茶湯ニ、香箱ヲ炭取ノ中ヘ入組カ、又ハ灰ホウロ・クノ中、灰スクヒノ上ニ載テ出スコト、分ケコソ有ベケレドモ、合點ノユカヌコトナリ、マダシ燒物ナドハ、灰ガツクバカリニテ、ムサキ分ナリ、塗物ノ香合ハ、キズノツクコトヲキロフニハ、似合ハヌサバギナリ、棚ニ飾ルカ、跡ヨリ請テ、勝手ヨリ持出デテモ、苦シカラヌコトナリ、常修院殿ナド、常ニ勝手ヨリ、持出サレシコトナリ、

○釜敷ノ紙ハ、一通リカマシキトテコレアリ、半紙ヨリハ大ニ、美濃ヨリハ小ク、少シ厚キモノナリ、ソレヲ四ツニ折テ、十九枚ヨリ、廿一枚マデノモノナリ、紙ノ厚薄ニヨリテ、紙數ノチガヒアリ、直シ樣ハ、紙ノ重リタル方ヲ、先ト勝手ヘナル樣ニ、折目ヲ、客付ト我方ニナル樣ニ置コトナリ、ナゼナレバ、釜ヲ置ザマニ、タヽクレヌヤウニトノコトナリ、

○口ノ廣キ水指ト、口ノ狹キ水指トハ、柄杓ノツカイ樣異ナリ、口ノ廣キ水指ハ、柄杓ヲ水指ノ前ノ方ニテスリテ、靜ニ水ヲ汲メバ、水ウゴカズ平ナリ、水ヲ見ル故ナリ、口ノ狹ク小キ水指ハ、マン中ヘ柄杓ヲオロシテ、音ヲシテ水ヲ汲ムコトナリ、

○立花ノ見樣ハ、必ズワキトウシロヲ見ヌモノナリ、眞正面ニナホリテ、眞ノ高サホドアトヘヨリテ、上ヨリ見クダシテ、ソレ

ソレニ氣ヲ付テ、ホムベキコトハホムベシ、水際ミゴトナリナドホムルコトハ、云ハヌコトナリ、

○此コロ、岡崎ノ二三參リテ、御床ノ掛物ヲ拜見シ、是ハ勅筆ニテ候カト窺フ、後水尾院ノ宸翰ノ由ヲ、云キカセシカバ、サレバ社、御筆ハ存ゼズ候ヘドモ、御表具ガ、勅筆ノ表具ナルホドニト申ス、次ノ御間ノ三幅對ヲ見テ、サテ〱京ヘ上リ、初テ三幅一對ノ表具ヲ拜見ス、何方ニテモ、三幅ハカケナガラ、三幅一對ノ表具ニテハナキモノヲト申ス、能モ覺エタリ、總シテ表具ニハ、廿七通リコレアルモノニテ、ソレ〱ニ變リアリ、隨分ナルベキダケハ、御道具ニテ遊バスベシト思召故、ソレ〱御吟味アリケルガ、賢クモ見付タルモノ哉トテ、御褒美アソバス、

○茶入ノ袋ヲヒラクニ、先ヒボヲトキテ、先ノ方ノツカリヲノバシ、次ニ前ノ方ノツカリヲノバシ、再ビ先ノ方ノツカリヲノバシテ、手ニノセ、茶入ヲ出ス、客ノ方ヨリ見タルトキ、客ノホサレヌ爲ナリ、釜ノ環モソレナリ、左右ノ吟味ニ非ス、先勝手ノ方ヨリカケテ、客ノ方ニカクルト、一度ニ釜ヲアグレバ、客ガホサレヌ爲ナリ、○コボシヘ水ヲアクルモ、初ハ眞中ヘアケテ、ゼン〱ニ客ノ方ヘヨセテ、仕廻ハフチニテアクレバ、コボシノ口、ガハリトアカヌ、客ノ方ヨリ見テ、見ヨキ爲ナリ、

○茶入ト茶筌トハ、見通シ三目ト云コトニテ、器ニヨリテ、尻スハリナルモ、胴ニテハリタルモアル、何ニモセヨ見通シ三目ト合點スベシ、○茶筌ノオキ所ハ、タヽミノ目ヲ、筌ノ軸ノ眞中ニスベシ、ナゼナレバ、高ミニ置ケバ、グレツク故ナリ、ソレデハ、見通シ三目半ニナル、

○茶巾ノハヾトハ、幅巾ノハヾトハ、別ナリ、幅巾ハ…………茶巾ハ…………幅巾ハサラシノ布ナリ、茶巾ハテリフトテ、日本ニハナキモノ、琉球布ナリ、二色トモ、願ヒテ拜領ス、茶巾ニ、シボリ茶巾トテ、水ヲフクマセテ、水指ノ上ニカザリツケ、茶筌ヲモタセカケテ、餝ルコトアリ、極暑ノ時カ、極寒ノ時ニスルコトナリ、平常ニ、カ樣ノメヅラシキコトハセヌコトナリトテ、常修院殿毎ニ仰ラレシコトナリ、

○釜ヲアゲテ中ヲ見、湯ヘルトキハ、水ヲ指スコト、常ノ習ナリ、口切ニハ片口、風爐ニハ、燒物ナド用ユルコトナリ、世間流ニ、竹輪ヲ、片口ノ上カ、口カニノセテ、釜ノ蓋ヲノスルコトナリ、コレハ燒物ノ水次カ、金物ノ水次カニテ、釜ノ蓋ノ置カレヌモノハ、ソレカ好、モシ片口ナドノ樣ニ、片口ノ蓋カ大ナルハ、スグニアヲノケテ水ヲサシ、先ツ水次ノ蓋ヲシメ、釜ノ蓋ヲシメテ、口ノ開キテアレバ、客ヲホストテ、キロフコトナリ、

○閏正月九日、參候、

今日ハ、女房達ノ名易ヲ仰付ラレシ御祝儀ニ、御膳ヲ上ラレケル御相伴、石見、如石、拙、吉岡ヲ常陸ト、御秀ヲ玉ノ井、此頃去ル夜會ノ茶ノアリシニ、石見カ咄ヲ聞ケバ、亭主ノ挨拶ニ、黄梅ヲ生ント思ヒシカド、此紅梅ヲモラヒケル故ニ、生タリト云シ由ナリ、合點ノユカヌコトナリ、夜會ニ花ヲ生ルニハ、習アルコトナリ、秘藏ノコトナリ、夜ノ花ニハ、凡テ色ノアルモノヲ忌コトナリ、別シテ黄ナルモノヲ忌、凡テ色アルモノハ、夜ハ見エヌコトナリ、黄色別シテナリ、夜ハキハメテ白色ノ花バカリヲ生ルコトナリ、白色ハ、ハキト見ユルナリト仰ナリ、

○茶筌ウチヲスルコトハ、先後ニ差別アリ、初メハ湯ススギノ茶筌ハ、湯ニテ穂ヲヤハラグル爲ナレハ、イカニモヤハラカニ打反シ、茶筌スヽギモ靜ニ音セヌホドニスベシ、仕方口傳後ノ水スヽギハ茶筌ニ茶ノツキタルヲスヽギ清クスル爲ナレバ、如何ニモタシカニ音ヲシテ、茶碗ノ內、四方トモニヨクアラヒ、穂ヲシゴク樣ニシテ、茶ヲオトスヘシ、世間ノ茶、大ヤウ此差別ナシ、

○茶杓ヲハ、已ニ茶ヲ茶碗ニ入テ後ノ置樣、世間トモニ杓ヲアヲノケテ、縱ニ置ナリ、宗和流ニハ、茶碗ノ前ニ横ニ置ナリ、其故ハ此バカリハ餝リニハ非ス、茶入ヲ下ニ置間ノカリノコトナリ、カリノコトハ少シニテモ、本ゴトニ似ヌヤウニスルガ、第一ノコトナリ、茶杓ヲアヲノケテ縱ニカクルハ、天目ノ法ナリ、天目ノ法ニ似タルコトヲ、常ノ茶碗ニ用ルト云、假ノコトニ用ルハ僻ガゴトナリ、且ワキニカケテハ、茶碗ノ中ニ手指カ入テムサシ、前ニ横タユレバ、茶碗ニ指モ入ラズ、キレイナリ、

○遠州流ノ柄杓ハ、キハメテウツムケテ仕フ、宗和流ノ柄杓ハ、キハメテアヲノケテ仕フ、蓋置ニ柄杓ヲ置ト、水ヲ汲トニハ、柄杓ヲアヲノケテ柄杓ノ底ヲ下ニス、其トキハ隨分ニ底ヲ見セヌ樣ニヒキク仕フヘシ、柄杓ノ中ニ湯モ水モナキトキハ、柄杓ノ中ハミセヌモノナリ、物ナキニ中ヲミスルハ不禮ナリ、物アルニ底ヲ見スルハ不禮ナリ、

○茶入ト棗トノ服紗ノツカイ樣ハ各別ナリ、燒物ノ茶入ハ蓋ヲフキ、胴ヲフキ、ソレ〳〵ニフキテ直ス、棗ハ蓋バカリヲフキテ直ス○總シテ棗ヲ濃茶ノ茶湯ニ出スコトハナキコトナリ、先ハ左樣ニテ時アリテ出スコトアリ、大ヤウ袋ハカケズ、已前深諦院殿所望ニテ、利休ヨリ應山公ヘ獻ゼシ棗ニテ、御茶アソバセシトキ出サレシモ袋ナシナリ、大棗ナドハ急度茶湯ニ出ス、棗ニ袋カクルコトモアリ、棗デナケレバナラヌトキアリ、先ハ出サヌコトナリ、今ノ樣ニ古金ランノ袋ナド、色々ノケッコウナル袋カクルコトハ、知ラヌコトナリト仰ラル、

○前ニ織部カ大棗ヲ茶ノ湯ニ出セシコト仰アリ、ソレ故棗モ出スコトニヤ窺フ、仰ニ大棗ハ別シテ出スコトアリ、時ニヨリテ出サデカナワヌトキアリ、重テウカヾウベシ、

○今世間流ノ茶ニ、茶碗ヲ直シテ茶入ヲ引ヨスルニ、右ノ手ニテスルコト通例ナリ、宗和流ニハ茶入ニカギリテ右ノ手ハ不用、必左ノ手ニテトリアツカフコトナリ、ソレナゼナレハ、右ノ手ヲ用ルト茶碗ト茶入ノ間ニ手カ入テ、ヘダテニナル故ナリ、

○茶碗ト茶筌トモ、茶碗ト茶入トモ、見通シ三目ト合點スベシ、茶碗モ茶入モ形ニ色々ノ不同アリト云ヘドモ、見通シ三目トガテンシテ大様タガワス、

○銀盤ヲ銀盤ノセニノセヤウ、世間流ハ皆初ヨリ角ニノセル、御家ノヲ見奉ルニ、初ニハ菱ニノセ、アキタル盤ハ角ニノセル、コレニテ己ニスミタルト、未ダスマヌトヲ分ツ為ナリ、

○今世間流ノ茶ニ、水ヲ茶碗ヘ入サマニ、疊ヘコボシテクサルヲ嬉シガルハ何ゴトゾヤ、其謂レヲシラズ、昔シ大閤秀吉ノ時、サカイノ宗及ト利休ガ茶ヲタメシテ御覽アリケルニ、宗及ハ一滴水ノコボレタルガ、利休ハ一滴モコボレザリケル故ニコソ、宗匠トハ極メラレタルトコソ申セト、

○十九日、參候、

夕御膳御相伴ノ後、濃茶召上ラル、自分ニ立テ、戴クベキ由ノ仰ニテ立ル、御茶入平丸ノ糸目藤四郎ニ象牙ノスブタナリ、此ニハ茶杓ノヲキヤウアリ、跡ニテ仰聞サルベシ、先加様ノ茶入ハ、茶杓モ褒ノゴトクノセタルガ好、

○總ジテスブタノ始リハ、利休ガ方ニテ象牙ノ蓋ヲ挽カセケルニ、ソレマデハ、隨分ムキズナルヲ撰シニ、フト挽ケルウチニ、コノスガ出デ、疵ニナリタルホドニ、挽易ヘント申シヲ、利休見テ、一段面白シトテ、其スブタニテ茶湯ヲシテ、織部ヲヨビケルニ、スノ方ヲ勝手ニシテ、ツマミノ外ヘ茶杓ヲハヅシテ、客ノ方ニ茶杓ヲカケヽルニ、織部其茶入ヲ請受テ茶湯ヲシテ、利休ヲ呼デ、スノ方ヲ外ヘナシ、ツマミヨリ内ノ方ヘ、茶杓ヲカケタルヲ、利休ガ見テ、サテシモヨク仕タリ、ドフデモ織部ホドノモノアルベカラズトテ、褒美シケルトナリ、利休ハスヲ卑下シテ、勝手ヘ直シ、織部ハ巣ヲ賞翫シテ表ヘ直シタリ、今ニテモアレ、利休ガ子孫タランモノハイサシラス、先一統ハ表ヘ巣ヲ出スベキモノナリト、常修院殿ノ御物語ナリ、

○廿一日、參候、等佺、拙、

此コロ、丹波ニテノ饗應ノ咄ヲ申上テ、メヅラシキハ間鍋（カン）ヲ八寸ニノセテヒカヘタルコソ、終ニ見習ハヌ式法ナレト申上シニ、ソレハ江戸ニテモ見ヌコトナリ、總シテツルノアル物ハ臺ニノセヌガ法ナリ、ノスベカラザルモノナリトノ仰ナリ、コレニヨリテ思フニ、イツモ御茶湯ニ湯次ハ手ノアルモノナレドモ、湯盃ニノセテ出レドモ、ヤガテヲロシテアタシ、ソノ盃ニテアキヲ引テ取ラル、此例カ可窺、

○廿三日、御茶、深諦院殿、拙、

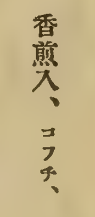
石見守ヲ以テ仰出サルヽハ、何時モノ如ク罷リ通ルヘシ、御案

内アルベカラズトナリ、
御待合、圓坐二ツバカリ、何モナシ、
御掛物、瑞圖筆、掩レ關間坐ノ四字、眞中ニ朱印アリ、印中書畵禪トアリ、是ハ明ノ中ゴロノ上筆ニテ、アノ方ニテモ尊ブト見ヘテ、石摺ナドモ近代來ル、先ハヤリモノナリ、イカサマニモ見事ナリ、尤イロ〳〵風ノアルモノナリ、是ハ文字モ掛ラルヽ、筆力モヨシト仰ナリ、印ハドレモ書畵禪トアリ、メツラシキコトナリ、是ハ木庵ヘ書テオクリケル一行ナリト仰ナリ、
一文字、アラヌイ馬、中、ヨリキンカヅブリ、上下、モヨギアヤ、
御釜、

アシヤノ由〇アシヤトハ更ニミエズ、關東釜ノヤウニ至極フルクミユ、此釜ハタビ〳〵茶湯ニ合タル釜ナリトノ仰ナリ、
御棚、香合、羽箒、

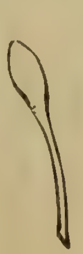
香合ハ、堆朱ノ紅花綠葉ノ手ナリ、〇前ノ御茶ニモ、紅花綠葉出ツ、コノ御香合ヨリハ大ニ角ナリ、是ハ小クシテ丸ナリ、イカニモ小クシテ珍シキ由ヲ申上ル、小クシテ好ト仰ナリ、
炭ナサレケルトキ、少ニホヒアリトテ、ハンダヲ請テ上ラル、
其時燒物ヲ先御クベナサル、〇此時深諦院殿、御香合ヲ請ハレズ、アトニテ請ハル、後ニ御褒美アリ、
御會席、
御汁、子イモ、　皿、フナ、マス、ケン防風、
御煮物、松露十計、三ツ葉五六筋、タイラキ大ニシテ二切、
御香物、ナラツケ瓜、大根ノクキト、切漬トヲアタヽメテ、莖ハウスクワギリニシテ、切漬ハカタメテ、
鉢、八角ノ平タキ赤繪ノ南京、　湯次、ヌリモノ、サハリサジ、　水次、ナンキンソメツケ、

御吸物、ツル、　香煎入、コフチ、



御菓子、ヨモギモチ、シヤキンアン入、ハシヤギモノ、
中立、
待合、ノフレン、　烟草盆、火入、青磁、青竹、灰吹、　烟草入、ソメ付、
手桶、柄杓、
御花、朝鮮木瓜、欵冬ノトフ、　花生、常修院様、二重切金フン、カスガイツクロイ、
御水指、イガ、

御茶碗、シガラキノ由〇タトヘバ、朝鮮ハンスナドノ様ナリ、
御茶杓、常修院様御作、チリヘノツツシ、筒共、



御茶入、セト、〇玉スダレノ手、　袋、青地古キンラン、花ツルノモヤウ、ウラ、モンカイキ、
表御床、
唐繪、艸花ニ麝香猫、　一文字、金紗、　風帶、丹地黃ドンス、　上下、ドンス、
御花生、カラカヲツチ、　御花、コブシ、カシケサキ椿、
生菓子、水山フキ、ハシヤギコブ、(一本ニハシヤギモチ)カセイタ、
又、ヲグラマンヂウ、
又、カキ、
御名香十五種、硯箱ニ入、常陸ヲシテ進セラル、今宵ハシメテ、

十炷香ノ象牙札出來ニ付、御香コレアル筈、深諦院殿御斷ニ付、
暮時御退出、
夜ニ入カノ札ニテ、十炷香一座コレアリ、春、二月(キサラギ)、忍少年ノ
春、
○今日ノ御茶ニ炭ヲクベラル丶ニ、フト惡キ臭ノ出ケル故、ハン
ダニテ取カヘラレ、其儘タキ物ヲクベケルガ、其時ヨクモ深諦
院ノ香合ヲ請ハレズシテ仕合ナリ、若シ請ハレンカト思テ早ク
仕マイタリ、後ニ燒タルトキニ請ハレタルニテ好ト御褒美ナリ、（ヨク心得ヘキコトナリ、惡ク心得ハ、初メノトキフト請ハンカ、）
○堆朱、堆紅、堆漆、紅花、綠葉、トノ差別ヲ窺フ、イヅレモ時
代コレアルモノナリ、堆朱ハ、己カホラントト思フホド朱ヲヌリ
アケテ、其漆朱ヲホリタルモノナリ、堆紅ハ、底ニ朱ヲヌリテ
其上ニ漆ヲヌリテ、ソレヲホリテ朱ノ處マテホリツメタルモノ
ナリ、又一遍ハ朱、一遍ハ黃漆、一遍ハ黑漆、ト次第シテヌリテ、
ソレヲ彫レハ色々ノ筋カ出來ル、コレヲイカナル故ニカ堆漆ノ
手ト云、其ヌリ樣ヤラ、時代ヤラ、繪ヤラノコト詳ニ遵生八牋
ニ見ヘタリ、
○楊茂、張成ヲ、世間ニ作ノ香合トテ、千年ニモ及ブ樣ニ云フ、
明ノ萬曆時代ノ者ノニテ上工ナリ、張成ハ細ナル工ヲ尊ミ、楊
茂ハ、グワサリトシタルヲ尊フ、

今日ノ御茶ニ、坐ノコトヲ深諦院殿ニウカヽヒシニ、床ヲ上坐
ニトアリシ故、初メハ左樣ニ著シガ、存ズレバ、給仕ノ爲ヨロ
シカラズト存ジ、御斷ヲ申シテ下坐、床ノ向ニ著ヌ、イカヾト
窺フ、イカニモ好シ、當流ノ人ハ、勝手ニカマハズ、兎角ニ床
ヲ上座トシテ坐ス、御流義ニハ、床ニハカマハズ、何デアロフ
ト、勝手口ヲ下坐ニスルトサヘ合點スレバ好、
○先日茶ノ湯ニハ、讌ニ棗ヲ出サヌコトナリ、今ノ世、古金ラン
ノ袋ナドヲカケテ、是ハ紹鷗ナリ、是ハ利休ナリ、宗丹ノ判ナ
リナド丶テ、コト〲シク云立テ用ルハ、何トシタル分ニヤト
仰ラレシ故、サテハ用ヒヌニテ候ヤト申上シニ、用ヒヌニテハ
ナシ、御所ニモ已前ニ、深諦院殿所望ニテ利休ヨリ奉リシ棗ヲ
出サル、（此時ニハ袋アリヤト窺フ、袋ナシトノ仰ナリ、）袋ハカケヌニヤト窺フ、袋モカク
ルコトアリト、已前ニ織部カ大棗ノアシライノコト御咄アリシ
モ、利休ヲ茶湯ニ呼ケル時ナリ、シカレバ出サヌニテハ有ベカ
ラスト申ス、イカニモ出サヌニテハナシ、是ハ大事ノコトナリ
トテ仰ナシ、然ラバ出サデカナワヌ時アルニヤ、イヤ必シモ出
サデカナワヌニテモナシト、暫アリテ、茶桶ノ茶ヲシリタルヤ
ト仰ニテ、初テハツト感シ奉ル、茶桶ニハ一ツハ茶入一ツハ棗
ナリ、然レハ茶入ニテ已ニ立タル跡ニハ、棗ニテ立ルカラハ、
假令ヒ誰ノ茶ニ茶入ヲ用テ、夜ニ入テ又濃茶ヲ立ルトカ、又ハ

客スデニ一座スギテ、相客ナドヘ參ランニ、棗ナド出スベキコトナリト仰ナリ、不レ堪二恐感一、

○大海ノ茶入ハ、圍居數寄屋ヘハ出サヌコトナリ、畢竟ヒキダメ眞壺ノ類ナリ、勝手ニ口覆ヲシテカザリ付、濃茶ナドノ切レタランマトキ、ツギタス爲ナリ、今ハ長緒ニシテ出スハ、シラヌコトナリ、內海ハ出スコト也、

○今日ノ鉦ハ、能キコエタルヤト御尋ナリ、能キコエタル由申上グ、四御打ナサレタル由承リ候ト申、仰ニ、鉦ノ數ノコト、世間流ニイロ〱ニ沙汰ス、客ノ數ニ打トモ云、三ツカ五ツナリトモ云、時ノ數ニテ、六ツカラハ五打、六トモ云、サマ〱也、此已前、左馬頭カ茶ニ參候ノトキ、鉦ヲ四ツ打クルヲ、不審シテ、當世ニハ數アシキトテ、三ツカ五ツカ打申ス、御前ニハ、毎々四ツ御打ナサレ候ハ、イカナル御事ニヤト窺フ、其方ガ流儀ニハイカヾ、三ツ打由申ス、然ラハ三ツ打テ置ケト云シカド、達テ請問奉ル故、シカラバ師匠ノ方ヘモ、堅ク申マシクバ、仰聞サルベシ、左馬謹デ云、誓言ヲ以テ、他ヘ漏スマジキ由ヲ申ス故、初テ仰聞サル、ヨクキコエタルコトナリ、佛家ニ、不祥ノ鐘ニテモ、磬ヲ打モ、皆三ツカ、五ツカ、半ニ打コトナリ、四ツ打コトハナキコトナリ、故ニ案內ノドラニハ、不祥ヲ忌テ、四ツニ打コトナリ、イカフ待合ガ遠キカ、風ナド吹テ、キコエカヂンナト思フトキハ、六ツモ打コトナレドモ、先四ツナリトノ仰ナリ、カヤウノ吟味ハ、世間ノ茶ニハ思モヨラス、サゾ氣ノ付カヌコトアルヘシ、

○水仙ノヲリハノコト、メツタニハセヌコトナリ、初雪ノ後ナラデハセヌコトナリ、是モヨクキコエタルコトカナ、初雪ヨリ前ニ、折葉アルベキヤウナシ、

○枇杷ノ花ト柳トハ、生ルニ、時節ノ日期アルモノナリ、枇杷ハ、十月朔日ヨリ、十月晦日マデ、柳ハ、霜月朔日ヨリ、正月一パイギリナリ、立花ニハ、二月マデモ立ルカ、

○柳ハ、御傳授ノモノヽ由、兼テ承ル、何時ゾハ拜見イタシタク存シ候ヘドモ、終ニ拜見イタサスコトハ、何ナルコトニヤト窺、サレバトヨ、立花ニハ傳受ニスル、投入ニハ、サシテ其吟味ナシトイヘドモ、立花傳受ノ心ニテ生レハ、各別生ヨシ、柳ホド生ヨキ物ハナシ、イカヤウニモ入ラルヽモノナリ、此御所ニハ、其方ガ見ル通リ、庭ノ入口ニ、大木ノ柳木アル故ニ、終ニ生タルコトナシト仰ナリ、

○茶杓ヲ、茶入ノ象牙蓋ニカケ樣ハ、先ハ立カケニスルガヨシ、蓋モ大キニ、茶入モ平目ナレバ、上ニノスルガヨシ、ノセ樣ハ、ツマミヨリ、勝手ノ方ヨシ、巢ニハカマハズト仰ナリ、予云ツマミト茶筌ハ、ヘダツルニ非ズヤト、仰ニ、ヘダツルニ非ス、若ツマミモ大ニ、セイタカクバ、外ノ方ニカクルコトモアルベキカ、

○廿六日、入江樣江御成、夕翁、拙、
晝半時御成、夜四時還御、御香二座アリ、
夕翁ヱ御咄ニ、先日申セシ散位ノコト、官ヲ辭シ、職ヲ辭シタル人ハ、貴賤尊卑ニヨラズ、散位ト書テ不レ苦コト、先日書テ下サレタル先例ドモニテ明ナリ、畢竟ハ、唐ニテ散官ト書ト同シコトナリ、位バカリニテ、官職ナキ人ハ、散位ナルコト明ナリ、漢ニハ、官ニ自ラ九品ガ付テアル故ニ、位ニ散ハナシ、官アリテ職ナキ人ヲ、散官ト云タモノナリ、但シ職原ノ追加ニ、六位已上ノ人ヲ、散位ト書ヨシヲ書レタルハ、何トシタ分ゾ、六位已上ニハ、位記ナキ故カ、夕翁申上ラレシハ、仰ニテ明ニ聞ヱ候、申ニタラヌコトナガラ、山城名勝志ニ、散位從六位ノ□トアリ、ソレ故、書テモ苦シカラヌコト、覺悟仕候ト申上ラル、

○頃日、何某カ編シ、版行セシヲ見セタリ、表題ノ文字ニ、歬ノ字ヲ書タリ、書ハサヤウニテモ有ベキカ、篆文ノ學ナキト見ヱタリ、全體ニテ前ノ字ハ、後世ニデキタル文字ナリ、舊前(セト)ノ字ハ、歬ノ字ナリシヲ、何ヤランマギル、コトアリテ、前ノ字ニ書カヘタリ、篆文ニ、前ノ字アルベキヤウナシ、

○先日ノ御咄ニ、是ハ前ニ記ス答忘却、投入ニ決シテ用ヒズ花アリ、金錢花ト、沉丁花トナリ、金錢花ハ、イクツニテモ花皆仰ギテ、カクル花生ニハ見所ナシ、立花ノ習ニ、大事也、水仙ノ一色ニハ、必前チキニ、金錢花ヲ生ルコトナリ、コレモ近代ハ、寒菊ナドモ入ル、由、上聞ニ達ス、イナコトナリ、昔(ムカ)シノ人ニハナキコトナリ、金錢ニカギルコト、能キコヱタルコトナリ、水仙ニカギリテハ、葉ヲ大事ニ生ル、必ハリガヲヲ入テタメテ、ハリガヲヲ入タト見ヱヌ樣ニ生ルニ、上手下手アリ、葉ゴトニ、色々ノ風流アルモノナリ、金錢花ハ、全ク葉ニ少モ異同ナク、幾ツモ同シモノナリ、花ハツケタリニシテ、葉ヲ生ルコト故、曾テツクロイナキヲ生ルコトナリ、投入ニモ、タマ〱ユガミ、横ニナリタル花モ、生ルト齊ク仰グモノナリ、タメノ少モキカヌモノナリ、イクベカラズ、沉丁花ハ、ニホヒチキロフカ、重テウカヽフヘシ、

○廿八日、參候、御相伴ニテ、直ニ宿ス、如石、拙、
筆道ノ御咄ノ上ニテ、今ノ御家(オイヘ)ト稱シテ、世間ニ習ヒ候ハ、皆尊圓親王ヲ本トシテ、尊澄、尊同、尊珍、ナドヲ學ビ、其風ニ書申スヲ、尊圓樣(ヤウ)トモ、御家樣(ヤウ)トモ申シ候ハ、唐樣ニアラズ、日本樣ナル故ナルベシ、然ラハ日本ニテハ、尊圓ヲ和樣ノ祖ト、仰クコトニ候ヤト窺フ、仰ニ、書畫詩文トモニ、大根コレハ唐樣、コレハ和樣ト云コトアルベカラス、道ハ天地自然ニ、ヒラケタル道ナレバ、ドチノヤウニ似スルコト有ベカラス、サレバコソ、上代ヨリ已來ノ、歷々ノ衆中ノ、上筆ト稱スルモノ、筆

跡、全ク唐ト日本ト、カワル處ナシ、而シテ手ノ風ハ、人々ニ異ナリ、ソレナゼナレバ、上代已來、佐理行成ナドハ、大根ノ目ノツケ處ガ、和漢トモノ上筆ノ、筆意骨子ヲ、能々見聞知覺シテ、手ハ面々ノ生付タルヤウニ、書タルモノナリ、サルホトニ師弟ト雖、カツテ風ハ似ズシテ、來リタルモノナリ、尊圓モソノ通リニ、上筆ノ骨子筆意ヲ得テ、アノ風ハ、主一分ニ生レ付レタル處ヲ、カカレタルモノナリ、ソレヲ學ブ人ガ、アノ風ノ形ノヤウニ、書キタシト思テ、學ビタルモノガ、今ノ於家(オイヘ)様ナリ、是骨子ハ得ズシテ形ヲ似セタルモノナリ、尊澄、尊道ナトモ、筆意ハ合點シテカヽレタレドモ、尊圓ニハ及バストハ謂ヘシ、尊珍ナドカラガ、全ク筆意ノ骨子ヲ得ズシテ、風儀ヲ似セラレタルモノ故ニ、代々形(ナリ)ガヨク似タルヲ、青蓮家ノヤウニナリタルモノナリ、青蓮家ノ一代ニ、尊何トヤラン云人一人、筆意ヲ得テ、全ク形ノ似ヌ人アリ、其外皆同シ、尊圓流ト稱スルハ、尊圓ノ御爲ニハ、今日ニテハ、仕合ト云ベキカ、不仕合ト云ヘキカ、祖ト稱スルハ、仕合ノヤウナレドモ、今日ノヤウニ、形ノ似タルヲ、流ト稱スルハ、尊圓ノ御意ニハ違フベシ、筆道ノ骨子ハ、唐ヤ日本ノ差別ハナシ、ソノカク人ハ、日本人コヘニ、筆意骨子ハ、和漢トモニ同クシテ、書出セル處ニハ、唐人ハ唐人、和人ハ和人ノ筆跡アルベシ、丁ド志津磨ナドガ、尤モ唐人ノ筆意骨子ヲ得テ、書ヲ、セタルモノ故ニ、隨分ニ唐人ノ筆跡ニテ好ケレドモ、我ハ日本人ト云コトナシニ、アチノ様ニノミ書タル故ニ、少モ似セ氣ハナケレドモ、丁ド唐人相撲ノ狂言ヲ見ルヤウニ、何モカモ、皆唐人ナレドモ、肝心ノ人ハ、日本人ナル物ヲ、返ス〳〵モ、筆意ノ骨子ヲ得ルコトハ、和漢ノ差別ハナシ、夫レヲ得テ書出セル處ハ、我ハ日本人ヲカクガヨイ筈ナリ、サレバ尊圓已前ノ、名筆ノ衆中ハ、皆骨子ヲ得テ、面々ノ手ヲ書出ス、（コレモ、我ハ我風ヲ書出サント思ハ私也、自ラ面々ノ顔色容貌ノ如ク、面々ノ生付アル筈ナリ、）似セント欲スルニ非ズ、似ヌヤウニト云コトニモ非ズ、尊圓親王ナドノ、眞字ノ物ナド、全クロクナルモノ也、今ノ様ノ物ニ非ス、

○筆意ヲ得ント欲シテ、石摺等ノ跡ヲ見テハ、筆意ハ得ラレソモナキモノニ非ズヤト存ズ、板行石摺ヲ習フハ、形ヲ習フニ非ヤト申上グ、仰ニ、イカニモ筆道ヲシラズ、筆意ノ合點ナシニ、板行ノモノヤ、石摺ヲ習フハ、形ニナル、筆意ヲ得テ、子昂ハ、コヽノ筆意ヲ得テ書タリ、其昌ハ、彼ノ骨子ヲ得テ書タリト合點シテ、板行デモ、石摺デモ見レバ、明ニ辨ヘ知ラルヽ、ソコヲ習ヘバ好シ、正筆ナリトテモ、ソコナシニ習ヘハ、形ヲ似スル外、習フベキ様ナシ、

○今ノ世ニ、男女トモニ、手習ノ初メニ、伊呂波ヲ習ハスルコト、五音ノ通用字聲カ、コレニテ、何ナリトモカヽル、合點ニテ、

習フハ各別ナリ、書ヲ學バント思ヒ、手ヲカヽント思フニ、初手ニ伊呂波ヲ習フハ、大ニアヤマリナリ、御家ナドニ、若君ノ御方ニ、アタマカラ、文字ヲ習ハセラルヽコトナリ、終ニイロハヨリ習ハセラルヽコトハ、全クナキコトナリ、兼テ見ル通リナリ、ソレナゼナレバ、文字ハ、永字十六點ナドニテモ、隨分少シモヒヅミノナキヤウ、ムリノナキコトヲ、專一ニスルコトナルニ、第一ノいノ字、ろノ字カラ初トシテ、皆々ヒヅミヲ習フコトアルベキ樣ナシ、ロクヲチシヘテサヘ、ヒヅミタガル手ニ、アタマカラニ、ヒヅミヲ付テクセニシテ、直ルベキ樣ナシ、通用ノ爲バカリナラバ、片カナヽドナラハスルハ、各別ノコトナリ、今ノ人、尊圓ノイロハニハ、傳授アリナドヽ稱スル、如何ナル故ニヤ、是モ筆意ヲ得テ、自在ヲシラバ、無理アルベカラズ、先草行カラ習ヒ初ルダニ、ムリナルベキコトナリ、

○イツモ云コトナリ、狩野主馬信尙ガ筆跡コソ、古今ニ超絕シタル物ナレ、只書ノ見事ト云コトニアラズ、筆意ヲ得タルコト、書ニ於テハ、中々尊圓、尊澄、ナドノ場ニテハナシ、佐理、行成、ナドニモ及ブベキカ、唐ニテモ、子昂枝山ナドノ場ニ居ルモノニ非ズ、得テハ探幽主馬ナドヲ、和書ノ祖ノヤウニ覺テ、唐繪ト和繪トハ、差別アル樣ニ思フハ、大ニ僻ガゴトナリ、主馬ハ日本人ニテ、繪ノ骨子筆意ヲ得テ、形ハ我ヲ書タルモノナリ、書ニ於テハ、筆意ヲ得タルコト、外ニハ有ベカラズト、

○請問、主馬ガサヤウニ、極所ニ至リ候ハ、修行ノ力ニテ候ヤ、又ハ天然ノ生質カラ、左樣ニ候カ、仰ニ、イヤトヨ、第一最初ヨリ、眼ノ付處ガチガフテアリ、唐ニテハ、牧溪、顏輝、日本ニテハ、雪舟ヨリ下ニハ目モツクズシテ、ソノ牧溪ガ筆意ハイカニ、雪舟ハ誰ガ筆意ヲ得テ、コノ骨子ヲ書タル物ゾト、其筆意骨子ニ、眼ヲツケテ、書ハ我ヲ書タルモノナリ、故雁一ツニテモ、筆意ハ雪舟ヲ學ンデ、形ハ今飛トコロノ雁ヲ手本ニシテ、書タルモノ故、筆意ハ雪舟ニシテ、形ハ主馬ナリ、コヽヲ以テ形ハ少シモ似ヌヲ、ソノ形ガ漢畫ニハミエヌ、扨ハアレガ和畫ノ法カト覺ヘテ、形ヲ學ブヲ、狩野流ト覺タルモノナリ、マダ畫ニハ、雁トカ卿トカ、コチラニ正眞ノ形ガアル故ニ、筆意ヲ得サヘスレバ書レル、書ハ正眞ノ形ト云モノガ、書ノ外ニナキ故ニ、我ヲ書コトガナリガタシ、是程カ、書ヨリモ書カ高キ故ナリ、形ヲ似スルハ、字ヲ學ブト云モノナリ、書ヲ學ブト云モノニ非ズト仰ラル、有難キ御說ヲ得テ、恐感シ奉ル、醫術モ亦如此ナルベキ由申上シニ、イカニモ外科ナドハ、形カラ得ルコト、書ノ如クナルベシ、本術ノモノハ、外ニ形ガナキホドニ、書ト同シナルベシト仰ラル、

○馬術ヲ、若キ御時ヨリ、御好アリケルコトハ、兼テ承及シコト

ナリ、仰ニ、織部カ親ノ賴母ハ、馬術ニ於テハ、煆煉ノモノニテ、御前ノ御師範タリシガ、常ニ馬經ヲ讀テ、馬ノコトヲ語ルニ、先馬ハ、第一落チヌ樣ト、怪我ナキトヲ、第一トスヘシ、ソノ怪我ナク、落チヌヤウハ、馬次弟ニサヘスレバ、落ヌコト、ケガセヌコトナリ、馬モ己カ怪我セントハ思ヒ、落サントハ思ハヌドモ、時ニ當テ、不圖前ノ膝ヲ折トカ、後足ヲ折トカスルヨリ外ナシ、ヨコニハコケヌモノナリ、ソレヲ人ガアハテ、、飛ダリ落タリスルカラ、鐙(アブミ)ニカカリナニカシテ、人ニツラレテ、馬モ横ニナルカラ、ケガモスル馬モ倒ルルヤウニナル、馬ナリニサヘシテヲレバ、馬モ人モ、ケガセヌモノナリト申シケルが、或時御馬ニテ、大德寺御參詣アリシニ、寺町丸太町ニテ、御馬前足ヲ折ケルが、兼テ其御心アリケル故、其儘ニテ、御座アリケレバ、又前足ヲタテ、、何事ナク還御ナリケル、是其時ニアタリテ、賴母が申シ上ゲケルコトヲ、思召出サレケルニハ非ズ、平生其御心ニテ、召レケル故ナリト仰ラル、治療ノ法モ亦如レ此、トクト虚實寒熱ヲ究テ、知リ得タル上ニ、薬方ヲ定テ用ル症ニ、フト思モヨラヌ症カ出來レハ、其症ニ動セラレテ、色々ト變易スルニテ、誤ルコト多カルヘシ、本症サヘ定マレハ、其ナル樣ニシテ、動セスシテユクコト多カルヘシ、

○賴母が申ケルハ、馬ノ上手ト申スハ、大體先馬ノ心ヲ知リ得ルヲ上手トス、假令ハ、馬ノクセアルヲ知リテ、ソコヲナヲシ、出ントスルヲ知リテ、ヒカヘル、是皆馬ノ心ヲ、人が知リ得ルコトナリ、ソレマデハ行コトナリ、人ノ心ヲ、馬ニ知ラル、ヲ、名人トス、此場ガユキニクキ所ナリ、假令ハ人ノ心ニ、ワヅカニ留ラント欲スレバ、馬留リ、行ント欲スレバ、馬行クヲ云、留メント欲シテ留リ、行シメント欲シテ、行シムルコトニ非ズ、此馬ト人ト、一體ニナリタルモノナリ、誠ノ至リハ、天地位シ、萬物育ハルモ、同シコトナリ、病人ヲ見テ、病情ヲ得、病根ヲシルハ、上手ノ至リナレトモ、名人ノ場ハ、知ルノ知ラヌノナシニ、我ト病人トガ一ニナレハ、察スルマテナシニ、自ラ得ラル筈ノコトナリ是モ先年大火ノ節、加茂ノ皇居ヲ定メニ、御馬ニテ成ラセラレシニ、跡ヨリ靑士ノ、文箱ヲ持來ルアリ、若シ御用ニヤト、御心ニ思召スト齊ク、馬留リタリ、此時ニ思召當リタリ、ワヅカニ心ニ思フ處ヲ、馬ニ知ラレント思フテハ、留リテモ本ノコトニ非ズ、留リモセヌ、自然ト私ナクシテ、心ノ欲スル處ニ從テ留ル味ナリト仰ラル、

○二月五日、右大將樣御成、主計、兵部、見櫟、拙、午時御成、御亭ニテ、琉球人ノ、物外樓ノ詩文ヲ、御見セナサル、下ノ亭御掛物、可溪ノ山水、脇ニ、琉球細工ノ掛板アリ、二階ノ御床、唐琴、筒筆、御坐敷ノ掛物、從一位倘通公ノ御詩作、永正元二五トアリ不思議ト云ヘシ次ノ御床、逍遙院ヨリ倘通へ、右ノ詩ヲ請ハレシ狀、

見櫟、先日仰アリシ、十炷香ノ詩ヲ奉ル、

御褒美アリ、飯後、物外樓ノ詩ヲ奉ル、

御前、大將樣、御和韻アリ、隱密ノ御沙汰ナリ、

見櫟作、物外眞遊物外樓、樓頭盡日侍ニ仙遊一、豈唯佳水名山富ノ
八極圍來入ニ寸眸一、
臺作、
主山心水一高樓、辭レ業絕レ交物外遊、默坐逍遙携ニ六合一、東巒南
岳不レ移レ眸、
大將樣、十二欄干百尺樓、山靑水秀對ニ高遊一、共開ニ筆硯一題レ詩
處、勝景無涯凝ニ遠眸一、
夜ニ入リ、十炷香アリ、　四ツ過還御、拙ニモ、和韻仕ルベキ
ノ由仰ニテ、奉レ之、
應
命卒次ニ眞山子之韵一、
隨レ例同登物外樓、最耻才拙陪ニ公遊一、春光別置詩家興、万
水千山縮ニ兩眸一、
○十五日、參候、
先日ノ見櫟ガ作、又予ガ和唱ノ清書、幷十炷香ノ和ヲ奉ル、
○十炷香ノ六十種ト云ハ、古ノ十種ニ、追加二種、家々ノ五十種
ヲ合セテ、六十種トス、實ハ六十二種ナリ、世上ニ古キ名香ニ、
六十種ノ中ノ香名ニ非ズト云人アリ、六十種ハ、家々ニアリテ、
先ノ逍遙院家、幽齋ナド、四家ニテ、二百四十種アリ、面々ニ
持出デ、、合セ燒テ、甲乙ヲ極シコトナリ、只一通リノ香ノ、
五十種ノ内ニ、其名ナシトテ、五十種ニ非ズト云ベカラズ、
○即チ六十種ノ香名ヲカヽセテ、拜領ス、四家ノ名香モ、重テ
書セ下サルベシトノ仰ナリ、
晝ノ内ハ、御亭ニテ御遊覽、夜ニ入、十炷香アリ、
○二十日夕、參候、
船ノ花生ニ、花ヲアシク入ルレハ傾クハ、如何仕リテヨク候ヤ
ト窺フ、ソレハ、文鎭ヲ長短ニコシラヘテ、ツリアヒヨキヤウ
ニ置ベシ、
○花生ノ釘ノコト、圍居ニテハ、ヲトシガケノ三ケ二下ニ打コト
ナリ、書院ニテハ、マンナカニ打ナリ、花生カケテ、ツリ緒ノ、
アマリカクレヌヤウニトノコトナリ、書院ニテハ、クサリニテ
モツル、故ニマン中ナリ、圍居ニテハ、大ヤウ直ニカクル故ナ
リ、
○竹ノ船ノコト、先達テモ仰アリシヤウニ、一日晴ノモノニテ、
今世間ニ用ル樣ニ、アカハリタル竹ノ、是ハ宗丹ナリ、是ハ誰
ナリトテ、用ルコトハナキコトナリ、昔シ　公ト、三菩提院殿
ト、　後西院ヘ、御茶ニ成ラセラレシニ、中立ノ時、菩提院ノ
仰ニ、今日ノ花生ハ、竹ノ釣船ニテアルベシト仰ラレシガ、果
シテ白牡丹ト、（世上ニ未ダ珍キ時分、）山吹（枝ノ長キナ、）トヲ、御生ナサレシホドニ、
拵シモ能察セラレタリ、何トゾ兼テソノアシライ社アルベキカ、

氣ノツカヌ社、クチヲシクレド、何トゾ聞タキコトヨト思召テ、茶ノスムヲ待テ、問ハンく\ト思フ中ニ、菩提院ノ御顏ヲ見レバ、目クバセシテ微笑セラル、程ナク御茶スミテ後、ヒソカニ問シカドモ、仰ラレズ、御書院ニテ、御咄ノ上ニ、御夜食ナドアリ、菩提院ノ御立アリシヒマニ、後西院ヘ申上シハ、斯(カク)く\ノコトコソ候ヘト申シシカバ、ソレハシラヌコトナリ、相尋ヌベシトテ、菩提院ヘ、只今大將ノ咄ニテ承リヌ、今日ノ花生ヲ、早クモ察セラレシ由、大將ニ仰ラレシハ、若シ竹ノ花生ニハ、前ニアシライアルコトニヤ、御キカマホシ、上ニハ、サシテ御覺エナシト仰ラル、菩提院ニモ、御迷惑ノ御氣色ニテ、大將ニヒト茶湯サセント存ヲ申シシコトヨ、御上ノ御耳ニ入リシコトノ笑止サヨ、今朝早天ニ、上御靈ヘ參詣イタセシトキ、常修院殿ノ門前ヲ通リシカバ、コナタノ侍(サムライ)ノ、竹ノ釣船ヲ提ケ、足早ニ行シハ、必定今日ノ御茶ノ爲ニ、常修院殿ヘ仰付ラレシヨト、推シタルマデナリトテ、一坐大笑ニナリヌ、此時初テ、竹ノ船ハ、新ヲ用ルコトヲ習ヌト仰ナリ、

竹ノ花生ニ、寸法ハナシ、竹ノ大サ、節ノツキヤウニテ、好キホドニ切ルコトナリ、サレドモ今ノヤウニ、短ク切コトハナシ、何ニモセヨ、フタツルノ⿱𠆢寽ト合點スヘシ、ソレニテ、チリクギニカケテ、恰好ヨシ、

○一重切ノ花生マデハ、釘穴アリ、尺八マドナシノ花生ニハ、釘穴ナキコトナリ、必環ナリ、環ニモ、丸ト長ト二ツアリ、花生ヲウツムケタキトキハ長ナリ、ソレヨリハ少シ仰ケタキトキハ丸ナリ、花生ノ恰好次第ナリ、尺八ハ、七分ト、九分ト、一寸二分ト、三色ナリ、是中ニテ、花生ノ恰好シダイニ打コトナリ、尺八マドナシハ、環ニ非レバ、水一ハイナシ、

○御床ノ角柱ニ、藤ノ花生ニ、白桃ノ枝ノ三尺バカリナルヲ、生ラレタリ、是ヲ拜見シテ、世上ニ角柱ニ釘ヲ打ヲ、顏回柱トテ致スコトナリ、イカヽト申上ク、仰ニ、シラヌコトナリ、ソチモ見ル通リ、御圍居ノ窓ノ上ノ壁ニ、釘打コトハアリ、角柱ニ打コトハナキコトナリ、御書院ノハ、加樣ノ長キ花ナドヲ、正面ニ生ルトキハ、枝ノ床ブチヨリ出張ルヲキラヒテナリト仰ラル、

○伽羅ニ火シキヲシクコトハ、近代ノコトナリ、漢ニテモ、諸香ニ、雲母ヲ火シキニスルコトハ、近代ノ由、遵生八牋ニ見エタリ、母雲ノ制モ、委ク出タリ、ヒシキヲ、漢ニテハ隔火ト云、

○俗ニ物ノ小キコトヲ、ノミノキバト云、漢ノ文字ニ、物ノ小キタトヘニ、蜂鬚ト云字アリ、能似タルモノナリ、

○今ノ世ニ用ル、石燈籠ノカハリニ、木燈籠ト云モノアリ、是ハナキコトニヤ、仰ニ、御流儀ニハナキコトナリ、時ニヨリテ、

木燈籠ニ環ヲツケテ、木ノ枝ニツルコトアリ、夜會ナトノ時、道ノ明暗ニヨリテ、程好キ所ニツルコトハアリ、石燈籠ノヤウニ、下ニ棹アリテスユルコトハ、セヌコトナリト仰ラル、ソレニヨリテ存ズレハ、今ノ木燈籠ニ、環ノアルハ、如何サマニモ、ツル緣ナクテハ、アルベカラズト申上ク、

○廿二日、參候、

籠ノ花生ハ、出スコトニヤ、仰ニイカニモ出ス、尤花次第ナリ、花ニヨリテ、籠ニテナケレバ、入ラレヌ花アリ、牡丹芍藥山吹ノ類、カゴニ非レバ入ラレヌナリ、コレハ籠ヲ用ユ、昔シ遠州ガ云、トカク花ハ、織部ニハ不レ及トコロアリ、籠ノ花生ニ、牡丹ヲ五輪マデ入ラレタリ、二輪マデハ入ラルヽ、其上ハナラヌモノナリト、申タル由ヲ云傳タリ、イカニ織部ニテモ、五輪マデハ、心元ナシト申タリ、

○竹ノ釣船ハ、新調ノ一日晴ヲ用ユト仰ラレシハ、竹ノ花生ハ、掛花生ニ極リタルモノ故ニ、釣船ハタマ〱ナリ、タマ〱ノ物故ニ、古キハ用ヒヌニテ候ヤ、仰ニ、然リ、花ニヨリテ、折ニフレテ用ル故ニ、新調ヲ用テ、一日晴トス、タトヘ常修院ノ御作タリト雖モ、今日古キハ堅ク用ベカラス、形ニシテ置ハ各別ナリ、其形ニテ、新ク製スベシ、

○野花ノ類ノ、早クシホレヤスキ花ハ、朝キリテ倒ニシテ、軸ノ中ヘ水ヲ入レ、下ニテククリテ生レハ、久シクシホレヌモノナリ、白タンポヽ、菜花ヤ、蓮ノ類、サヤウニスヘシ、花蕚マデ水氣アル故也

○籠ノ花生ハ、ウツムキタルハワロシ、口ノ直ナルガヨシ、籠ノ花生ヲ下ニ置コトハ、方居士トテ、手ノ長クツキタルヲ、下ニ置テ、牡丹ヲ入テ、後西院ノ御所望ニ應ゼラレシコトヲ、一度ミタリ、竹ノ花生ヲ、下ニ置コトハ、庸軒流ニハアリ、其時ハ薄板ニテハナシ、ヘギヲシクコトト申ス、常修院殿ノ仰ニ、何トヤランイナモノナリ、ノシコンブアリゲニ見ユ、但シ所望セヨト云コトカトテ、大笑ナサル、籠ノ花生ニハ、板ヲシカヌモノナリ、

○廿五日、上御殿ヱ、一條右府公、鷹司右大將公、御成、御供

午後御成、

御床掛物、後醍醐天皇御文、前ニ大卓ニ、メノフ石ノ人形ノ作リ物、書院床ニ、ニホヒノ玉、飯後、御船ニテ御遊覽、スグニ御亭ヘ御成、

床ニ、常修院殿ノ二重筒ニ、源平桃ニ椿、

暮ニ大書院御入、琉球人ノ書畫ドモ、御覽ニ入ラル、其中ニ程順則カ書タル、萬々歳ト云一幅ヲ、御所望ニテ進ゼラル、

六ツ半時還御、

○三月二日、嵯峨嵐山ヘ御成、空眼、拙、御供、

明六ツニ、太秦ウツマサマデ御先ヘ參ル、追付御成、ウヅマサヨリ御歩行、臨川寺ノ前、三間屋ヨリ、御船ニテ御遊覽、午過マテ、大覺寺樣ヨリ、宮內卿ヲ御使ニテ、御馳走、ソレヨリマタ御歩ニテ、大覺寺ヘ御成、夕飯召上ラレ還御、ソレヨリ又御歩ニテ御室マテ還御、ソレヨリ御輿ニテ還御、拙御暇下サル、

○三日、上巳御禮ニ參候、

右大將樣御成、錦小路、夕翁、拙、晝ヨリ暮過マデ、御亭ニテ御遊覽、サマ〴〵ノ御說共アリ、

錦小路ヱ、咋日ノ御ウワサナサル、懷中ヨリ歌二首ヲ奉ル、御前ニモ、夕翁參リタル故、キノフノ御作ヲアソハス、太將樣、拙ヘ和韻仕ルベキ由仰ナリシカドモ、暮ニ及ビ還御、御暇下サレテ拙退出ス、

○六日、參候、

兼テ御ウワサアソバス源氏ノ系圖、香ノ繪ヲ、求馬ニ仰付ラレ、書付ハ、錦小路ニサセテ下サル丶ノ由ナリ、兼テ拜借ヲ願奉リシニ、料ラズモ新ニ仰付ラレテ、拜領ナシ下サル丶、御志ノホドコソ有難ケレ、香ハ傳來ノ物ナレハ、書付子孫ヱ傳フヘシトコソ覺ユレ、

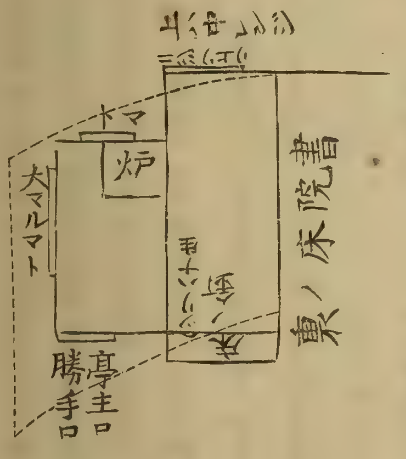
○十一日、參候、

明十二日、老母大祥ニ付、御前ヨリノ思召ニテ、女中ヨリノ仰狀ニテ、御目錄ヲ拜領ス、女中ヨリモ菓子ナド給ル、死後ノ面目身ニアマリテ、辱ナキコト云バカリナシ、草葉ノ蔭ニテ、サゾ有難コソト申上ク、

○十三日、參候、此程ノ御禮申上ケ、御夕方ヨリ御夜食マテ、御前ニ參シ、御下ヲイタヽク、

此程、大德寺ヘ成ラセラレタル御噂、マチ〳〵也、トカク今ノ世ノ、宗旦流ト云フモノハ心得難シ、咋日芳春院ヘ御成ニテ、御覽ナサル丶ニ、又宗旦ハ各別ノモノ也、先兼テ一疊ダイメノ圍居ト、御聞ナサレシ故、三人マデハイカヾト思召テ、左典厩一人ヲ召連ラレタリ、行テ御覽アレハ、三人マデハ樂ニ直ラル、、上手ナル立樣ナリトテ、御噂ノ趣ヲ左ニ記ス、タトヘハ、書院ノ床ノウシロニテ、カタハイニ屋ヲヲロシテ、ケラバノ方ヨリ入ルヤウニ、コシラヘタルモノナリ、

○コレモ兼テ聞及シニツキリ二疊ハツキクダシノモノニテ、ノキノ方ヨリ入ルヤウニ承ル、ソレハ珍シト申上ク、サレハトヨ、脇ノ方ニテノキヒキク、勝手口アキタルトキニ、ヒキヽ屋根ウラノミエテ、イトモ殊勝ナリト仰ラル、



掛物、應山公御文、澤庵ェ下サレシ歌入、
香合、
花生、ナリヘ一重、　花、カキツバタ、
臺天目、上次二服、
服紗ト茶杓トヲ、棚ニカサル、
茶入、名物ノ什物、　道安カタツキ、　袋カントフ、
茶杓、
御會席、　御膳、木地ノハンダイ、
御汁、小ツマミノ二葉計、糟コフ、
指味、ウト、クリミツハノ葉先、猪口、イリサケ、
湯豆腐、
鉢、山ノイモ鹽煮、午房ウスセウユ煮、青苔コカシ、

○床ノヲトシカケニ、釣船ノ釘ウツコトハ、今ノ宗旦流ト稱スルモノハ、外ノ方ニウツ、兼テイナコトニ思ヒシガ、果シテ内ノ方ニ打テアリ、

○床ノ三ヶ一脇ヘヨセテ釘ヲウツ、コレモ兼テ御ウワサアリシコトナリシが、此度ノ床ニハ、三ヶ一ワキニ打テアリ、コレヲ御覽アルニ、イカニモ脇デナクテカナワヌ筈ナリ、アレラヲ見テ手本ニハナルベカラズ、先床が下座床ニテ、一疊ニ三人直ラル、様ニ、拵タルモノ故ニ、正中ニ釘ウチテハ、下座ヘツカエテアシキ故ニ、三ノ一勝手口ヘヨセテ、ウチタルトミエタリ、

○亭主ノ、炭ヲスルトキ、水指ノ座ヘ釜ヲアゲテ、己ハ角カケテ直リテ、炭取焙ロク共ニ、客ノ前ニ置テ仕タル故、ドウ炭ヲハツメ、向炭アシライ、共ニヒズマシテ仕タリ、此モアルコトニヤ、可尋ト仰ラル、

○夜ニ入御前ニテ、薄茶濃茶トモニ稽古仕ル、御口ヅカラ承ルコト多シ、盡クノセガタシ、

○十六日、參候、

御記錄ノ中ニ、犢鼻巾ト云モノアリ、巾トアラハ、先ハ頭巾ノ類カ、アナガチニ、頭バカリニカギラス、アレバト申上ク、尤モアルヘキカト仰ラル、握手巾ナト犢鼻ト云モノハ、犢鼻褌ヨリ外ニハ、指當リテ思召モナシ、褌ハ肌ニチカキ下著ノ服ヲ云、犢鼻ト云コトガ外ニアレバ、夫ニテスム、犢鼻トハ、何ヲ指テ云コトニヤト仰ラル、拙、醫書ニ、膝ノ頭ヲ、犢鼻ト申ニ候、ソレ故、犢鼻ノ穴モ付ト覺ト申上ク、翌日考ルニ、犢鼻ノ穴ノコトバカリ考當リテ、膝ヲ直ニ犢鼻ト云コトハ、未見アタラズ、先書シテ上ク、重テ考申ヘキ由仰也、

○近年ノハヤリモノ、石摺ニモ出、張瑞圖ト云モノノ傳、全クシレズ、故ニ掛ガタシ、コノ頃外記ニ仰テ、テンサンヘ御尋アリシニ、ソレハ、日記故事ノ作者ト覺タリト申上ク、早速出シテ御覽ナサル、ニ、温陵張瑞圖トアリ、温陵ハ何ノ府ゾヤ、兼テ大明圖シリニ、考サスベキ由仰也、則考ルニナシ、温トバカリハ

出デテ、陵ト云モノナシ、不思議ナカラ記シテ奉リ、世ニヨリテカハリアル故ニ、暫ノ間温陵ト云タル所アルヘシト仰ラル、

○山科殿ヨリ、石州マテ御狀ニテ、土筆色ノ狩衣ト申ハ、イカヤウノ色ニヤト申來ル、昔テ古キ色ニハ、ナキコトナリト仰遣ハサル、コレニ付土筆ノ字ハ和字ナリ、ツク〲シト云、和名ヲ土筆ト書ク、土筆ノ字ハ唐ニモアリタルカト思召、尋ヌベキ由仰也、甲賀ヘ尋シカバ、ソレハ筆頭菜トテ肇慶府志、慶陽府志ニ出タリト申ス、其旨ヲ申上ゲテ考レトモナシ、近日出來ノ須知用藥ニモサヘデ、ナシ、府志ニモ、色々カワリアルニヤ、コレヲ悉尋ヌレハ、府志ニモ、名ノミ出テ、、形狀ハナシ、唐人ノウワサナリト、コレヨリ思付テ、古今和名類聚ヲ編立ツ、出來シヤイカヽ、(終出來ス今在家)

○廿一日、參候、

棗トフ、キトハ、茶杓ノカケヤウ各別ナリ、棗ニハ向フヨリカケテ前ヘヒキ、スワルトコロニテ放ツ、フ、キハ、前ヨリ向ヘカクル、服紗ニテフキヤウモ、棗ハのノ字ヲ書ヤウニマワシテ、先ノ方ニテヲロス、フ、キハ直ニフク、併カヤウノコトモ目ニタ、ヌ樣ニ、人ニ見トラレヌ樣ニスベシ、常修院殿ハシワクテ、人ニ見ラル、コトヲ、大事ニセラレタリ、

○茶筌ノ穗ヲ、茶碗ニカサルニ、ウツムケテ入ル、アヲノケテ入ル、トハ、平ト筒トノカワリト覺テ居ル、左ニ非ス、天目ニハ究テ横ニシテ、軸ヲ入テカサル、茶杓モ中ニテウツ、兎角ニ、銀ノフクリンノアルモノ故ニ、フクリンニ、アタラヌヤウニスルコトナリ

○客ヘ花所望ノ時、正客ノ花ヲシマイタルトキハ、相客ハ、亭主ヨリ先ニ見ルコトニヤト窺フ、ソレハ、正客ノ花ヲスル間ニ、亭主水指ヲ持出デ、居テ、花ノ入樣ヲ見物ス、花スメバ水ヲサシ、相客ヘ一禮シテ、先亭主見テ挨拶シ、花籠水指ヲ持テ入ル、而シテ相客花ヲ見ルヘシ、又窺フ、今時ノ人ハ、正客ヘ花ヲ所望シ、花盆ヲ置テ内ヘ入ル、花ノスミ時分、相客ノ沙汰ヲ聞スマシテ、出テ、見ル由ナリイカヽ、仰ニ、ソレハ一亭一客ノトキノトリチガヱナリ、一亭一客ノトキハ、亭主出テ、客ヘ所望シ、此間ニ茶具ノコシラヘ致スベシ、慰ニ花ヲ入ラレヨト云テ、內ヘ入リ、後ニ出テ見ルコトナリ、其トリチカヱナリト仰ラル

○夜ノ茶ハ、晝ノ茶トハ各別、何トゾアシライアルコトニヤト窺フ、仰ニ、サマデカワリハナシ、今ノヲ見レハ、全ク同シ、只燈籠ノ火ノカゲント、手水鉢ニ、ヌキスヲカケテ置コトト、手燭ノアシライナリ、手燭ナシニ庭アカリ、ニジリアガリ、ソレトシラセノ燈ノ影、コレ一ツナリ、客モヌキスヲ半分アケテ、手水ツカフヘシ、アトヲ又カケテ置コトナリ、今ハヌキスノ沙汰ナシ、前カドノ御噂ニ、夜ハ正客モ相客ヲマチアハセテ、內ロジクラカラヌヤウニシテ、內ヘ入テモマチアハセ、手燭ヲ入サセテ、床ノカケモノモ、

カハリ〳〵ニ見テ、下座ノ人、勝手口ヘ手燭ヲトモシナガラ、柄ノ方ヲ前ニシテ直シヲク、今ノ人ハ外ニテトボシチク、風ナトノ吹カ、若客カ中戸シメレハ、危キコトナリ

○一亭一客ニハ、料理ニ心得アルコトナリ、モツソウハ勿論ノコト、香物ヲ置合セテ出ス、其外ノ物モ、煮物燒物等、客ノハ面々各々ニ、器物ニ入テ出ス、亭主ノハ、一器ニモラル丶モノヲ用意シテ引テ、後ヨリ出スモノハ、皆己カ皿カ煮物椀ニ、一ツニ入ル丶コトナリ、ソノガテンニスヘシ、

○茶湯ニ、三ノ音ト云コトアリ、大切ノ器ト云、淸閑ノ席ナレバズイブン物シヅカニ、音ノセヌヤウニスル勿論ナリ、タ丶釜ノ蓋ヲ、引切ニチク音ト、茶椀ヲタ丶ミニ置音ト、茶杓ニテ、茶碗ノフチヲタタク音ト、コレ三ノ音ナリト仰ラル、

○夜ノ茶ニ、前ニ薄茶ヲ立ルコト、必シモト云コトニアラス、御前ナトハ、終ニ其式ニ御アイナサレヌコト、其筈ナリ、イツモ夕御膳後ナト、フト催サレテ、迚ノコトニ、夜食ハ圍居ニテトアルヤウナコトモ、是非御相客トモニ揃ハセラレテ、入ラセラル丶ナレハ、其式ナシ、下々ナド、客ノ遲速ナドアリテ、格式バカリノヤウナレバ、會席モ早過テ、興ナキモノト云カラ、前ニ咄ナドアル爲ニ、立ルコトモアルベキコトナリ、夜ノ茶ニハ、香ナド、一段ヨキモノナリト仰ラル、

○廿七日、參候、

此頃、和名類聚ヲ仕候、先日ノ筆頭菜ノコトヲ、甲賀熊谷ノ兩氏ヘ尋シニ慶陽府志、肇慶府志ニ、コレアル由ヲ申サル、即松岡氏ノ抜書アリト、此事ヲ申上ケ、御考ナサルレトモ、兩府志ニナシ、外ニ府志類ハ多キモノナレハ、外ニモアルヘキカ、イナ事ナリト仰ラル、兩タビ問ニ遣セシニ、即抜書モ來リシガ、益ウタガハシキコトナリ、然ニ抜書ニモ形狀ハナシ、名ノ出タルマ丶ナリト申サル、シカラハ何トシテ、ツク〳〵シヲ筆頭菜ニハキワメラル丶ニヤト問シニ、唐人ノサ申スゲニ候トナリ、此事ヲ申上テ、益イブカシサニ、此度和人ノ和名センサクシタル分ヲヨセント、存立候ト申上シニ、一段ノコトナリ、ズイフン仕立ルヘシ、出來セバ台覽アルベシ、古今ノ和名、フルキ分アツメ置レタルアルヘシ、イツゾハ御見セアルヘシトノ仰ナリ、アリガタクコソ覺ユレ、ソレニ付テ、御前ニモ、兼テ思召立ツコトアリ、十五省ノ志ヲ、物產ノ分計ヲ、一例ニヨセテ、抜書ナサルヘシト思召、其方モ力ヲ添ヘシト仰ナリ、畏リテ、是ハ別シテ私ナト難有コトナリ、御手チダイ仕ベキ由ヲ申シ上ク、コノ頃彈正ニ云付テ、ソロ〳〵サセテ見ルニ、扨モ例ホト立ニクキモノハナシ、先凡例ヲタテ、ミルガ、ツカユルコトアルベキカ、イサシラズト仰ラル、恐レ多キコトナガラ、御尤ニ存シ奉ル、此度ノ書モ、亦如此ニ候ト申上シニ、凡ソ書ヲ編テ、例ヲ立ルコトハ、シテユカネバ例立タズ、例ヲ立テザレハ、仕テイカレズ、先例ヲアラマシニ立テ、、下書トシテ、サテシテユキテ、ツカユル所ニテハ、又例ヲ立テ〳〵シテ、ユクガヨシト仰ラル、今ニハツメヌコトナガラ、御精力ヲ盡サレシ故、實見カクノ如クナリト存シ奉ル、

○フクベノ花生ト申スコトモ、御流義ニモコレアルコトニ候ヤ、仰ニ、イカニモアリ、掛花生、置花生トモニアリ、置ハ先年拜見仕候、掛ハ

如レ此也、此ニ付テ、昨日御薗意齋カ

参リテ、佐渡ノ守ヨリ、筆ノ物ヲ所望セラル、瓢箪ノ花生ニ、相應ノ文ヲトノコトナリ、形ハ如何ト問シニ、匏ノ置花生ナリト申ス、然ラハ匏ト蓬ト通ス、葫ト壺ト通ス、蓬壺ノ二字ハヨキモノナリ、此ニ百花ナトノ字ヲ取アハセテ、四時トモニ、花ノアルコトヲ書スベキカト、思召トノコトナリ、面白キ思召ナリ、

○口アル水指ハ、口ヲ何方ヘ向ケ申モノニ候ヤ、仰ニ、口アルニカギラズ、一方ヒキヽ水指モ同前ナリ、左ノ方、右ノ方トノ差別ナシニ、柄杓ニテ水ヲクム方ヲ、口ニスルガヨシ、ナゼナレハ、口アル方、ヒキヽ方ヘハ、水コボレヤスシ、コボレヤスキ方ヨリ汲メハ、コボレズ、風爐ハ水ヲ直ニサス爲ニ、釜ノ方ヘ、ゼヒトモニムクルコトナリ、○ツルツキノ茶入、テガメナドノアシライ、同前ナリ、和物ノ茶入ハ、左ニテ取ル、唐物ノ茶入ハ、右ノ手ニテトル、故ニツルツキ手ガメ、右手ニテトル方ヘ手ヲ直ストノ仰ナリ、今ノ當流ニハ、皆茶入ノ分ハ、右ニテ取候ト申シ上ク、マコトニ左アレハ、其論ハナキ筈也ト仰ラル、

○ツルツキ手瓶ナトノ茶入ニハ、茶杓ヲ、其手其ツルニカクルト申ハ、イカガニ候ヤト窺フ、仰ニ、シラヌコトナリ、ツルモ手モハヅシテ、蓋ノ上ニ、茶杓ヲカクルコトナリ、若シ手モ茶入チヒサクテ手大ナラバ、ソレニカクベキカ、忽チツルツキハ、ツルニ茶杓ヲカクルホドニゾ、唐物二十四、長盃、菱ノ盃、丸盃、角盃、ノアシライチ、近日アソバシテ御見セアルヘシ、ソレニテ、萬事ノ覺悟ニナリテ、此ハ此格〳〵ト、了簡ノツクコト多シト仰ラル、

○茶入、棗目、（マルフヽキ）ノフキヤウ、御口傳、

○茶筌ノモチヤウ、初ト後トノカハリ、御口傳、

○其ノ外モ、タテマヘニハ、書ノセテハ通ジラレヌコト、皆御口傳ト記ス、

○廿八日、保君御方、房君御方、律君御方、（初テ御社參、直御本殿ヘ御成、）御三方共、御本殿ヘ御成、午前ヨリ相詰、中下刻退出ス、關白様仰ニ、明廿九日ニハ、興福寺ノ華原磬、泗濱磬ヲ禁裏院中ヘ召サル、明後晦日ニハ、此方ヘ参ルナリ、参シテ拝見致スヘシ、アリガタキ由、御請申シ上ク、（翌夕來三日マテ御延引ノ旨仰下サル、）

○廿九日、參候、（御痔痛ニテ、御床ニナラセラル、晝時參候、御下イタヽキ退出、未下刻參候、夜マテ侍、）黄金ト云モノアリ、白金ト云フモノアリ、黄銀ト云フモノアリ、白銀ト云モノアリ、此ノ分チヲ、ハキト書タルモノハナキヤ、トクト分チカタシトノ仰ナリ、（名物六帖ニハナキコトニヤト申上ク、未御考ナサレヌヨシナリ、）アチニテモ、三品已上ハ金魚袋、三品已下ハ、銀魚袋ナトモアリ、又冠ノコトナトニ、以テ黄金ニ餝ルナドアリ、又白金ト出タル處モアリ、コレニ付テ、金魚袋銀魚袋ノコトヲ、頃日文獻通考ニテ御考アルニ、漢書ヲ引テ記セルコトニ、何トモスマヌコトアリテ、後漢書ヲ引出

シテ、御吟味アレハ、全ク漢書ノ文ヲ、文獻ニハ違ヘテ記セリ、コレ一ツニテモ、兎角ニ引用タル書ニテ、出處付スルコトハアルベカラサルコトナリ、引用ノ書アラバ、本書ニ據テ吟味セザレハ、誤ヲ傳ルコト多カルヘシトノ仰ナリ、

○頃日編集ノ、古今和名類聚ヲ持參シテ、台覽ニ供フ、コレハ珍重ナルコトナリ、精出シテ記スベシ、迚ノ儀ニ、延喜式ノ、國々ノ物産貢ノ處ヲ、ノコラズ入タラバ然ルベキカ、御前ニモ、前廉アソバセシヲ、御見セナサル、延喜式ノ本艸ノ文ヲ、御抜ナサレシ御自筆ナリ、恐レナガラ、奉レ感由ヲ申上シニ、延喜式ニカギラズ、令モナニモ殘ラズ、加樣ニ類聚アソバシテ、何卷何丁トナサレシハ、重テ此マデ御覽アリシ和書ノ分ヲ、類聚ナサレントノ思召ナリト仰ラル、

○兼テ御ウワサアリシ、眞ノ臺並天目ヲ、拜見スベキ由ニテ、拜見ス、是ハ文昭院殿ヨリ、禪閤樣ノ御歸洛ノ節、准后樣へ、進ゼラレシ物ナリトゾ、マガフベキナキハ勿論ノコト、日本ニテ數アルモノナレバ、能々見覺ユベシ、天目ハ、乾山ニテ黑キニコウダイハ、ハゲテ細キモノニスキナシ、如何樣ニモ、臺ニノセサレバ危キヤウニ見ル由申上ク、臺ハ、菊ノ花形ニテ、內ハ朱ニ金ノフクリンアリ、外ハ青漆ノ由ナレドモ、內ノ朱モクロミガチニ、外ノ青漆モ、子ズミ色ノヤウニテ、張貫ノ菊形ナリ〇〇ナドカ感心ニテ、此ウルシイロカ、ワカサ盃ノ色ナリト申上ル由ナリ、天目ノ袋ハ錦ナリ、臺ノ袋ハドンスナリ、裏ハ共ニカイキナリ、ヒボハ、天目ノ方紫、臺ノ方茶ナリ、天目ハ、內箱ハクロカキ、外ハ桐、臺ハ、內箱ハ唐桑、外ハ桐、

○青磁ノ花生、コレモ拜見シテミヲホユヘシ、キヌタ青磁ノ至極ナリ、是ハ大猷院殿ヨリ、東福門院へ進セラレ、東福門院ヨリ後西院へ進セラレ、後西院ヨリ、此御所へ進セラレシ物ナリ、後西院ノ勅銘ニテ、千聲ト號ス、擣月千聲又萬聲、ト中ス御心ニヤト申上ク、左アルヘシトノ仰ナリ、是ニ付テ、陸奥守ニアル、利休カ所持ノ、キヌタノ花生ハ、前ノ方ニテ、大ニヒキ、ワレアリテ、ソレヲカスガイニテ、トメテアリ、利休ガ物ズキトハ云ナガラ、ヤキモノニカスカイヲ打コト、心得ガタキコトナリ、景氣ニテモアルベキカ、此ワレノアル故ニ、利休カ、キヌタト名付ルトナン、響アルト云心ナリト仰ナリ、

○四月朔日、參候、

頃日、南都興福寺ノ什物ヲ、禁裏院中へ、御覽ニ入レラル、由ナリ、昔ヨリ云傳テ、華原磬泗濱石ト云、シカレトモ華原磬ト云モノ、何ニモタシカナルモノニ見タルコトナシ、白氏文集ニ、華原磬ト云モノアリ、刺ル樂工ノ非ルヲ其人ノ詞ニシテ、其下ノ註ニ、泗濱石磬ノコトヲ載テ、詞ノ中ニテ、華原石磬ヲ、泗濱石磬ニ易タル由アリ、華原モ、石磬ト出タレハ、石ノ物ト見エ

タリ、今日ニテハ、泗濱ハ石ニテ、華原ハカチナリ、何トモスマヌモノ也、外ノコトナレバ、何ノ御カマイハナキコトナレトモ、興福寺ノコト故、キノドクニ思召シテ、先一乘院ノ宮マデ、御內意ヲ仰ツカワサレケルハ、何ノ道ニモ、華原磬ト云ハ、仰出サレヌガ、然ルヘシトノ御コトナリ、御考ニハ、タマ〱白氏文集ニ、泗濱石ノコトガ出テ、、華原ノコトガ、併記シテアル故ニ、不圖中シナラハシタルトミエタリ、日本ノ記錄ニ、興福寺ノ什物ニハ、四龍皐鐘ト云名ハ、毎々出タリ、此度ノモ、全クワニグチナドノヤウニカケタル鐘ヲ、龍四ツニテ捧タリ、四龍皐鐘ト云名ハ、佛書ニハ多ク出タル名ナリ、四龍皐鐘ト云ヘキモノナリト仰ラル、白氏文集、玉海、陳氏樂書等ヲ、御見セナサル、

〇三日、參候、

先日ヨリ、御僉儀アリケル、温陵ノコトヲ、百拙ヨリ中上ラル大明總圖ニモナキ筈ナリ、大明總圖、職方地圖ナド、州縣マデヲ載タリ、温陵ハ、泉州ノ中ノ郡ノ名ニテ、隋ニ暫ク温陵ト名付テ、段々變革ノ名、サマ〱アリ、明ノ末ニ暫クノ間、温陵ト云タル由ヲ中上ゲ、且木庵ノ行狀ニ、相國ト稱シテ、詩ノ贈答ノコトアリトテ、書付テ奉ル、ソレヨリシテ御覽アレハ、泉州ノ中ニハ、大明一統志ニモ載タリ、省志人物ノ處ニハナシ、イナコトナリトハ思召セドモ、生處ニハ非ル故ニ不レ記カ、コレニ付テモ、列朝詩集ニコソ、載べキ人ノミエヌコソ不審ナレ、先日松下見櫟カ申セシ、五經大全ノ姓氏ノ處ヲモ、書テ奉ルヘキ由仰ナリ、ナニニモセヨ、相國トアレハ、御掛物ニハ、アブナキコトナキ人也ト申シ上ク、

〇午後ヨリ、左典厩カ宅ヘ、茶ニ御成、即チ御供、

待合、上御烟草盆、木地ノ桐ニテ手付、火入ハ、樂ノ黑、烟草入、木地ノ杉ニ、菊ノ枝タカマキエ

御圓座、次烟草盆、長ノ黑塗盆、火入、南京ノ染付、烟草入コマ、

掛物、有樂ノ文ダイ、　表具、ツムギ地ノキンラン寳ツクシ、上下シケ

釜、四方、　風爐 ナラ古作、

香合、堆紅、馬ニ乘タル人形アリ、紅花緑葉ノ手、伽羅

御會席、

御汁、ホシナ、ミジンタヽキ、シイタケ四ツギリ、

御皿、ヤキ鯛、イリサケ、ミル、ワサヒ、　皿、シソ、

香物鉢、チリヘ四角、手付角ヨリ角エ、

煮物、葉付ノ大根ウスク切、アチサキ五切ホト、花柚、

御酒、

御吸物、蓴菜、ヘキ、コウシノリ、カツチフシ、共ニハシヤキ、

御菓子、ヒヤシ、シンコ、杉ノヒツヘギ、青磁ノ鉢、ピイトロノ蓋チヤワン、氷サトウ、サハリ匙、

竹ハシ

御中立、

床ニ花生、伊賀、

丸ウス板、黑ヌリ、杉ノ花臺ニ、アサミ、コウホヲ、紫蘭、小刀、フキン、水次、

水指、シカラキ、尻ニテ少シハリ、口マヘノ方ニテ、少シユカミ下ル、ヌリフタ、

茶入、瀨戸ノ中古金華山ノ手、

先年拜領ノ物、袋、廣東ノヨシ、地白ニテ、アヤ地ノヤウニテ、花ツルノ紋

アリテ、細キ金ノ筋アリテ、其中ニカラクサノモヤウアリ、珍キカントフトナリ、

茶入ハ今ノ人ガ見バ、廣澤ナド云ベシト仰ラル、

○仰ニ、此袋ニ付テハ、咄アリ、先年此袋ノ切渡リテ、幅ニテ四五尺アリシヲ、三菩提院殿ト、二ツニ分テ取シカ、此筋ハ、七八寸ホト間ヲ置テ、四筋カナラデハ無リシガ、此茶入ヲ求テ、幸ニ常修院殿ヲヨビマウシテ、袋ノ御物數寄ヲ乞ケレハ、切レヲ數々御覽アリテ、此切レ然ルベシトテ、金紋ノ筋ノ、十文字ノ處ニテ、茶入ノタケ切拔テ、コレ〳〵ト仰ラレシホドニ、此茶入一ツニ、四五尺バカリノ切ノ、好キ所ハ皆トラレテ、アトハ何ノヤクニタヽヌモノニナリタリ、三菩提院殿、ニコト笑テ、ヒソカニ、我等カ切ハ、常修院殿ニハ、沙汰ナシトテ、フタリヒソカニ笑ヒヌ、其器ニアタル人ノ物ズキハ、各別ナリト仰ラル、

茶杓、瀨田掃部、

亭主出テ、、花ノ儀ヲ、御慰ニト願ヒ上ク、御會釋アリテ後、コウホ子一種、マキハヒトツ莖ツキト、大マキハバカリト、御入ナサル、

茶碗、上ハ高麗ノ新渡リ、次カラツ、

茶後書院御成、

床掛物、顏輝ノ寒山拾得、春日卓、瀨戸香爐、ホヤカケテ、

次ノ間ノ壁、二重ノ花生、杜若、橋ノ坊ノウツシノ由、宗也作、

次ノ間床、唐繪ノ海棠花、

ホシウドン、吸物、鯉、ハツキサンセウノメ、御酒、肴、海老ノヒモノ、

道具ナト少々御覽、七ツ過還御、

○四日、御本殿參候、

今日華原磬、泗濱磬、メウトウ菩薩ノ像ヲ、一乘院宮御携御入ニテ、大書院ニ餝ラル、御出入ノ者、御家來マテ拜見ス、華原磬ト云モノ、形ハ、

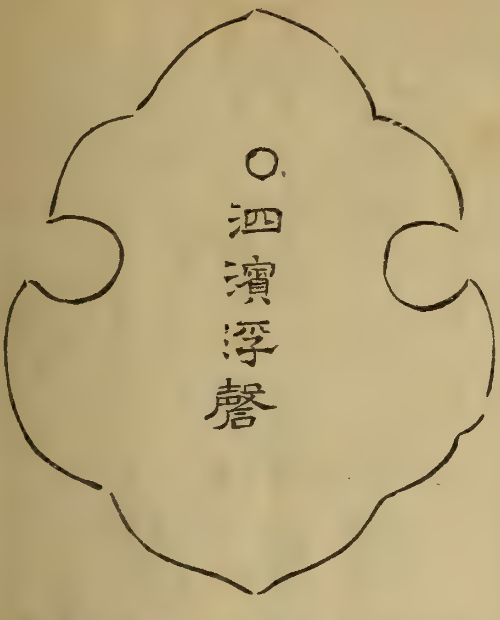
メトヘハ、ワニクチノ形ニテ、中ノ◎ノ中ニハ、蓮華ノ形アリ、四方ノカラ草ハ蓮華ト蓮葉トニテ、フタヘマデアリ、其形龍ノイロコヒレナトノ形、ソウタイノ金イロ、細工ノ嚴ナルコト、トカフ言ニノベカタシ、

メウドウ菩薩ノ像ハ

コレハ、昔ノ像ハ、往古ノ火災ニカヽリテ燒失シテ、コノ像ハ、山田道庵ト云、畫師ノ作ナリト云、古クミゴトナルモノナリ、

泗濱磬ト云モノ、形ハ、

石ノ山ナレドモ、石トハミエス、タトヘバ、シゴクミガキタル、カラカ子ノ、フルクナリタルヤウナリ、音モカ子ノ音ナリ、表ニハ常ノ文字ニテ、泗濱浮磬トアリ、裏ニ古文字カ、篆文ニテ、碧山玄玉トアリ、マンナカハヒヾキアリテ、ツキタルヤウニ、ミユルナリ、

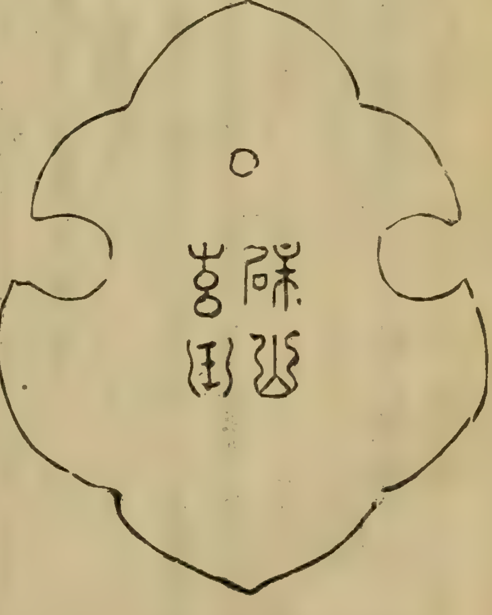


南都古梅園製墨之圖

予明治九年之春東大寺博覽會ヲ見、且此墨ヲ買得歸レ家テ後、槐記ヲ見ルニ泗濱石ノ圖、東大寺ノ物ト小異ニシテ裏ノ文字モナシ、依是ヲ粘ス、此圖ヲ信スヘシ

菅蘇居六之山人誌

同裏面



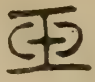
此二圖川本ニヨル

○五日、參候、

昨日ノ、什物トモノ御咄ニテ、華原ハ、磬トハ云ハレヌ物也、金鼓ト云ベキモノ也、マガフベクモナキ四龍鳧鐘ナルベシ、上ニ火皿ノ樣ナルモノヽ侍ルハ、何ゾ載ベキ爲ニヤト申上シニ、總シテアノ樣ニカケタルモノ、上ニハ、寶珠ヲノスルコト常ナリ、ソレヲ除タルモノナリ、

サテ泗濱磬ハ、書付ノ見事ナルコト云ハン方ナシ、文字ノ樣子、ドフシテモ唐ニテハ太宗時代ト見ユ、未タ階字ノ出來ヌ先ノ書法ニテ、隸字ノ體ナリ、アレニテ疑モナキ、古物ナルコトノシラル、シキメウツシニシテ、取寄タリトテ御見セナサル、裏

ニ碧山玄玉ト、篆字ニテ書タルクライナレバ、表ニモ楷字ニテカ、デカナハヌ處ヲ、隷字ニカキタルコソ、古物ノ一證ナレトノ仰也、

○サテハ楷正ハ、後世ノコトニヤト申上シニ、楷正ノ文字ハ宋ノトツト末ニ、顔眞卿ヨリ起レリ、シカラバ、次第ヲ立ルハイカ樣ニ立ルコトニヤト申上シニ、先篆文ヨリ先ハ、古文ト笹ノ葉ヤ、禾斗(クワト)ノ、ナニノト、竹ノ先ニ漆ヲツケテ、書タトアルコトナリ、百福壽ナドニアル、畫ノヤウナモノナリ、ソレヲ直シテ書タルガ篆字ナリ、ソレヲ又ヤハラゲテ書タルガ小篆文字ナリ、小篆ノ號アルガ故ニ、篆字ヲ大篆ト云トアルコトナリ、大篆ト小篆トノチガヒハ、四角ナト、圓トノ違也、タトヘハ、玉ト云字ナレハ、 ソレヲ、小篆ナレハト云類ナリ、ソレヲ又、奴隷ノ爲ニトテ、隷字ニ直シタルカ、王ハ何ノ筆畫筆力モナキモノナリ、ソレヲ楷字ニシテ、玉トシタルモノ也ト仰也、○八分字ハ、篆字ト古文トノ間ニテ、古文ノ二分ヲ存シテ、隷字ノ八分ヲ用ヒタルモノナリ、眞ト云ハ、何ノ文字ニテ候ヤ、眞ト云コトハ、筆道ニハナキコト也、眞ハ眞僞ノ眞ニテ、眞ノ篆字、眞ノ古文ト云コヽロナリ、眞行艸ト云コトハ、曾テ其沙汰ナキコトナリ、今ノ世ノ眞ト云モノハ、艸ヨリハ、遙カニ後ノモノ也、シヤ、卩ヤ、 ナド、皆艸形也、艸ヲ眞字ニマヲヘテ書タルモノ也、ソレヲ楷正ニハ、辵トシ邑トシテ、書タルモノナリ、スレバ艸ハ今ノ眞字ヨリ、先ナルコト明ナリ、ソレ故ニ、今ノ艸ト云モノニ、眞字トアハセテハ、ドフモ、筆畫ノアハヌコト多シ、忽チ、其ト云字ノ艸ヲ、 ト書ヤウナモ、ドフモ其ノ字ノ筆畫ニ非ス、アレハ篆字ノ其ノ字ガ、开ト書キタルヲ、クヅシタル、古キ艸形也、ソレヲ ト書クガ、上ノ一カ一、下ノ廾ガ ハ、共ト云字ノクヅシノヤウナモノナリ、行ト云モノハ書ヨキヤウニ、畧シテカキタルモノニテ、筆道ノ法ニハナキコトナリ、コレヲ〇〇ト云、アチニテモ、宋ニ筆道ガミダレタルト、訾リテアル也、元マデハ、丁ド古文ヨリ出タル篆字、々々ヨリ出タル小篆、々々ヨリ出タル八分、々々ヨリ出タル隷字、々々ヨリ出タル楷正ナリ、ソレ故ニ、八分トミユル書法ニ、隷書ト書タリ、隷字トミユルモノニ、八分ト書タル法アルハ、形ニテハ其樣ニ見ユレドモ筆意ガソレナル故也、コレモ又トリチカヘテ云タルモノアリ、ソレハ上カラ下ヘ、推シテ來ルト、下カラ

上ヘ、推シテ上ルトノ違也、古文ヲ改テ、篆字ト合點シタル人ノ筆法ニハ、古文ノ樣ニテモ篆字ナリ、楷正ハ、隷字ヨリ出タルト、楷正カラ書タル隷字ハ、隷字ト云モノモ、楷正ノ字意ニテ書テハ、隷字トハ云ガタシト仰ラル、筆道ノコトハ、イサシラヌコトナレバ、聞アヤマリタルコト、多カルベケレドモ、日來ニ覺悟ナキコト故、サテシモカハリタルコトカナト、恐感ノアマリ書付侍ル、

○九日、參候、

此度ノ新殿ノ造營、コトユヘナク落成ニテ、御移居アソバス、初テ拜見、此殿ハ、本堀川ノ禪閤ノ、淸水ノ間ナリシヲ、引テ立ラル、元來此御殿ハ、コノ公ノ、始終御物數寄ニテ、出來タリシコトナレバ、何モ角モ、殘ル所ナクコソ侍レ、就中ナゲシノ付鴨居ハ、皆丸太ニテアソバス、コレ三方ハ、本口ニテソロヘル故ニ、イカヤウニモナルモノ也、一方ハトテモ、末口ト本口トノ合所ニナリテ、ソロハヌモノ也、其時節ノ材ハ各別ニテヨクソロイタリト仰ラル、御椽側ノ、ヲリ口ノ鴨居ハ、二間ヅヽ通リテ、長キ椽ヲ持ユヘニ、重ミカヽリテ、大テイ六七寸角ナラデハ持テヌヲ、角ヲ二寸ホド、カキテトリテ、釘カクシヲ化粧ニ打レタリ、チヨトミレバ、付鴨居ノヤウニ見ユ、ウスクテシホラシ、椽ノハバ、六尺アマリアリテ、行當リニ、間半ノ處、杉戶ヲ二枚ニナサル、メヅラシキ御趣向ト云云、違ヒ棚ノ上ノ、袋戶四枚ハ、大德寺孤峯庵ノ直入（庵ノ名也）ニアル、琴碁書畫主馬筆ヲ寫サル、求馬、下ノ四枚ハ芳春院、二枚屛風ニ、四季ノ松ト云モノアリ、探幽筆ヲ寫サル求馬筆、主馬、孝信ノ仲子、初名ハ一信後尙信ト更ム、通稱主馬、自適齋ト號ス、慶安三年四月七日歿ス年四十〇求馬、渡邊始興、通稱求馬、平安人、初狩野風ヲ學ビ、後光琳ヲ慕ヘリ寶歷五年七月廿九日歿ス、年七十二、

○十五日、大將樣、入江樣、新殿初テ御成、參候、

○十九日、深諦院殿ヨリ、蕎麥ヲ上ラル、內々ヨリ御內意アリテ、深諦院ニモ御出、入ツ時、深如石、拙御相伴、

○廿三日、參候、

床ノ花生ウス板ヲ置コト種々ノ說アリ、拙、ガ床ハ、奧行間半ヲ三ツ一分トリタル、セバキ床ナリ、イカヾ致スヘキカト窺フ、仰ニ、床ノ廣狹ニハヨルヘカラズ、何デアラフト、其床ノマン中ニ薄板ヲ直シテ、而シテ疊ノ目二ツ前ヘヨスルカ、後ヘヨスルカニスベシト、ソレハ花生ニヨルコトニヤ、イヤトヨ、花ニヨルコト也、スクナ花ヤ、ウシロヘヨリタル花ハ、前ヘ出スガヨシ、前ニ出タリ垂タル花ハ、ウシロヘ二目ヨセタルガヨシト仰ナリ、

○醫書ニ、龍骨ト云モノアリ、何物ソ、古ヨリ諸說多キコトニ侍レドモ、畢竟ズル處、土石ノ類ノ、骨ニ似タル物ノ、龍門ノ邊ニ出ルニヨリテ、龍骨ノ名ヲ得タル由ヲ、若水ニ承リヌト申

上グ、古來、本艸家ノ書ニ、正ク龍ヲ書テアリ、是ニ付テ、類書ノ中ニ、龍ハ骨ヲ易ルトアレバ、アルマジキコトニモアラネドモ、骨バカリハ、何トシテ易ルヘキヤイブカシ、如何樣ニモ、土石ノ説テ考テ、御目ニカクベキ由、則朱禎國ガ、涌幢小品ノ説、炮炙全書ニ載ス、〇〇〇ノ説用藥須知ニ載ス、トヲ奉ル、尤ナル由仰ナリ、

右ノ龍骨易ル説ト、先日ノ琥珀吸塵ノ説ハ、何レノ書ニ出タルヤヲ窺フ、他日書付下サルベキ由仰也、

〇廿六日夜、參候、

龍易骨ノ説ト、琥珀吸塵ノ説トヲ、書付テ下サル、造化權輿、潜確類書、

龍易レ骨、蛇易レ皮、麋易レ角、蟹易レ螯、

人ハ齒ヲ易ルカ常トミエテ、七歳齒易髮長、ト見タリト申セハ、象ハ牙ヲ易ルト云ベシト仰ラル、

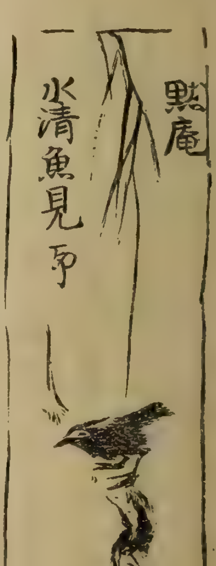
磁石引レ針、琥珀拾レ芥、物類相感志、

〇五月十八日、深諦院殿、拙、御茶下サル、〇先月已來、切々參候スレドモ、永君御方、御疱瘡ニ付、早々ニテ、御說トモ承ルホドノ暇ナシ、

午半參上、

御待合、圓坐バカリ、何モナシ、手桶、杓ナシ、

御掛物、默庵ノ繪、柳ニ五位鷺ノ墨繪ニ、疎石ノ讃、〇是ハ兼テ道安へ御ウワサアリシヲ、今日思召出サレテ、御掛ナサルト仰ナリ、由緒アル御道具也、昔奥州正宗道具ニテ、重寶ナリシ故、表具ノコト、遠州へ談合ニ遣ハサレシ、其返書モ添テアリ、遠州物スキノ表具也トゾ、繪ハタトへハ、



如此ナリ、兼テ讃物ハ、カクアルベキ物也、繪ノコトハ、一ツモナクテ、其趣アリ〱ト、カクアルヘキ樣ナリト、仰ラレシカ、今見ルヤウニテ、見事ナルコト云ハン方ナシ、

一文字、紫地ノ印金、　中、白地ノ紗ノ印金、　上下、ネズミトンス、

御棚、羽箒、香合、

御釜、クリン釜、〇是ハ深諦院ニハ、覺ラレズヤ、先年無量光院ヨリ、モライシ釜ナリト仰也、ナルホト覺奉リシヤウ也、今少シ長ク高カリシヤウニ、覺侍ルト申上ラル、ナルホト好ヲボヘ也、常修院殿へ見セシニ、下ニテ三寸切テ、底ヲ入サヽレシナリ、風爐モタノミシニ、此風爐ニ取合ヘシトテ出來ナリ、タトヘハ、雲龍ノ風爐ノヤウニテ大ニシテ、口ノ方大カタ常ノ風爐ノヤウナリ、斯アルヘキモノ也、本ノハ、先年　皇居ノ時ニ、ワレテ新寫ナリト仰ナリ、

御會席、

御汁、細蘿蔔、朝鮮鴨、柚ノ葉付、

酒漬、一鹽ノ鯛、ケン、花ガツホ、イリ酒、タデ、

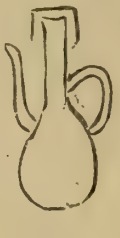
御香物、大根トフザヅケ、淺瓜一夜漬、

御食次、手付ワリ蓋、片蓋ナシ、

御煮物、ニヒヤシ　玉子入カマホコ、ナスヒ、

御吸物、ツクネイモウスクキリテ、コノワタ、　吸物椀、カコノクミ物、フチ三分許黒ヌリ、金マキヱ、內朱、琉球細工ノ由、

御菜籠、カラモノ　中黒ヌリ、
御香合、當年ワタリ瑪瑙、金ノホリ付蒔繪、
御水次、青磁ノシトク、



ヒツキリチ、口ニカケテ御出、
御菓子盆、黒クハヘヤウシ、
御菓子、青クシ、三ツ、團子黄白赤青磁ノウスキ鉢、水タメテ、米瑠璃砂糖入、木地フタ、
中立、鉦ニテ御案内、
御筒、後西院様御製、下ニテ切ステアリ、

御花、白槿二輪、

葉トモ、○花モメツラシク、入レタルコト、云ハン方ナシ、
御水指、銅ノ平水指、水指ノ上柄杓、ツマミ、方ヘシテ、外ノ前ニ竹輪、薄板ヨリ四目、水指ヨリ見通、
横薄板ヨリ見通、
御茶碗、御茶入一所ニ、御持出カザリツクラル、初ハ竹輪バカリ、本座ヘナチサレ、柄杓ハ、湯汲マセラル、時御取、
○御茶碗、コレハ應山ノ時分ノ新渡ナリ、凡百年ハカリ、
御茶入、飛鳥川、　袋　チランダ金モウル、ウラカイキ、
御茶杓、宗和、

表御床、
法性寺忠通公ノ奏狀、
二月廿五日、藤原忠通トアリ、
前ニ青磁、八卦ノ手、花生ニ萱艸、
奥ノ御床、
小栗宗旦二幅對横物、（サイ色繪）マクハウリ葉トモケイトウ何カ、
夜ニ入、四ツ前マテ、何角御咄、蕎麥ナド出、
○此ゴロ、岡崎ノ二三カ咄ニ、古筑前守ハ、古遠州ノ門人ニテハ分テ執心ナリシカ、或時江戸ニテ、筑前守ノ、遠州ヘ申サレシハ、利休、織部ト云ヘドモ、間ニハ、是ハイヤナ物數寄ナリ、是ハ何ノ由ニテ、斯ハセラレシゾト、所存ナキコトハナシ、遠州ノナサル、毎々ニ、一ツトシテ、イヤラシキコト承マハラズ、又一ニ其由アリ、御上手ハ、申モ愚ナリト申サレシニ、遠州ノ返答ニ、ソレハ貴殿ノ茶湯ニ、未タ其功ナキ故ニ、左思ハル、コトヨト、アリシホトニ、咄ト答テ退シカ、合點ノイカヌコトサニ、出入ノ町人ニソレトナシニ、遠州ヘ問セラレシカトモ、何モ知レザリシガ、頓テ御暇下サレテ、遠州ハ伏見ヘ歸ラル、筑前守ノ約諾ニ、我モ追付御暇下サルヘシ、左アラハ、必歸路ニハ、伏見ニテ御茶賜ハルヘシト、申サレシニ、如何ニモ、進上スヘシトテ、上ラレシカ、頓テ約ノ如ク、明日伏見ヲ通ル也、

御茶賜ルヘキナトアリシニ、何ガサテ參ラスベシト、約セラレシカ、其日ハ、東福門院ノ御用ニテ、上京セラレシ程ニ、家來ノ某ニ云付テ、明朝ハ、筑前守ノ參ラルベシ、庭ノ掃除ヲ初トシテソレ〱ニスヘシト云付テ上京シ、夜通シニ歸リテ、一遍庭マワリヲ見聞シテ、一段氣ニ入リシカ、圍居ニ入テ、大ニ不機嫌ニテ、筑前守ヘ、使者ヲ立テヽ、明朝ノ茶ハ、圍居ニテハ、得コソ進ズマジケレ、書院ニテ申ベシ、羽織ニテ御入アレ、我モサコソト有シ程ニ、念ナク羽織ニテ參ラル、遠州モ羽織ニテ迎ニ出、玄關ヨリ入テ、書院ヘ通シ、料理ソレ〱ニシテ、濃茶ヲモ出サレタリ、何角スミテ、筑前守問ハレシハ、今日ハ如何ナルコトカアリテ、圍居ニテハ給ラヌゾトアリシニ、サレバトヨ、昨日ハ御用ニテ、上京セシ留守ニ、今日ノコトヲ申付シニ、圍居ノタヽミカベヲ初トシテ、窓竹マデヲ不殘ウチカヘタリ、是故ニコソ、御茶ヲバ圍居ニテハ不申トナリ、ソレハイカニト問ハレシニ、サレバトヨ、口外、我等カ利休織部ナドニ不及ト云ヒシヲ、御合點候ヘ、貴殿ハ江戸ニテ、方々結構ノ圍居ノ茶ニハ、逢盡サレタリ、我等方ニテ、虫クヒ竹ニ古タヽミニテ、御茶申スベシト思ヒシニ、案ニ相違シテ、御茶申サヌホドコソ、兩人ノ衆ニ不及所ナレト、申サレタリト語ル、一段ト尤ナルコトナリト仰ラル、

○廿二日、參候、

先日ノ御茶ニ、柄杓ト引切ヲ、餝付ラレシハ、柄杓カザリト、申ニテ候ヤト窺フ、イカニモ柄杓カザリ也、大根茶入ノ袋ヲ、請ト云コトハナキコトナリ、常修院殿ナト、終ニ請レタルコトナシ、既ニ初メニ餝付テ、ヨクヨク見タルモノヲ、又請テ見ルベキヤウナシ、或ハ是ハ宗和ノ蓋袋ナリト申セハ、ドレ御見セアレト仰ラル、サモナケレハ請レヌコトナリ、此コロノ茶入ノ袋、サノミ名物ノ切ニモ非ス、定メテ、請ハル、ニテアルヘシト、思ヒシ故ニ、カザリ付ケズ、ハコビテ立テタル也、カザリツケヲハ、請ハル、詮モ立ツ、カザリツケテバ請モヨシト仰ラレシ也、

○廿三日、參候、

兼テ仰ラレシ、大明一統志ノ沿革ノコト、マス〱御不審ニ思召ス、此コロモ、萬曆時代ノ革名ヲモ、ノセテアリ、イナコトト思召ストコロニ、此コロ書肆ヨリ、古キ一統志ノ、唐本ノ至極ワロキ板ヲ、持來レリ、初卷ノ序目錄スミテ、又一ツ序アリテ、ソレニ嘉靖何年何日ニ、校合改正スト記セリ、世ニモ嬉シク、早速全部トリヨセテ收メヌ、久シキ不審トケテ、サテハ、嘉靖マデノ沿革ナリト云コト、明ニシラレタリ、世上、和版ノ一統志ニハ、天順ノ年號ニテ、天順已後ノ沿革ヲノセタレハ、必定

此嘉靖ノ年號ノ序ヲ、一ツヌキタル物トシラレタリ、重テ何ニモアレ記サンニハ、嘉靖改校ノ一統志云ト記セハ、其分ヨク立ヘシ、但シ世上ニ、人ノ合點スマジキコソ、笑シカルヘケレ、秘スヘシト仰ナリ、

○掛物カザリ、軸カザリト申コト候ヨシ承リヌ、コレハカザラデカナハヌ道具ニテ、致スコトニ候ヤト窺フ、イカニモ左也、昔ハ名物ノ掛物ニハ、大方外題アリ、外題アレハ、カザル外題ナクテモ、客方ヨリ所望シテ、表具ノテイ、如何樣ニモ、東山ナトノ物數寄ト見レハ、亭主ヘ請テ、コレハ外題アルヘシ、拜見イタシタキ、ヲロサレヨト請コトモアリ、客ヲロシテ見ルコトモアリ、カザリタルヲ、竿ヲ請テカクルコトモアリ、コレ皆名物ナラデハセヌコトナリ、仕テ益ナキコトナリ、軸カザリトテ、壁ヘ立テカケ候コトアル由承リヌ、イカヾト窺フ、昔ハ掛物トハ云ハズ、掛物ヲ軸ト云、掛物カザリ、軸カザリト云コトハイサシラズ、同シコトニ覺エタリ、尤縦ニカザルコトト、横ニカザルコトトアリ、イカフ長クテ、縦ニカザラデナラヌ軸ナト壁ニ立カクルコトアルヘキカ、總シテ横物ハ横ニ、縦物ハタテニカザル、是ニテ見ヌ內ニ中ヲシル、縦物ニ、左樣ニ大キナル物アルベキ樣ナシ、不審也、

○名物ノ茶入ハ、床ニカザルコトナリ、此ノトキハ客必ス盆ニノセテ亭主ヘ戻サズ、亭主ノ內ヘ入タル中ニ、床ヘ直シテ置コト也、先日牧某カ茶ニ、香合ヲ置テ、亭主ガ入タラバ、床ノ軸サキニ置ヘキモノカト、思フ也ト仰ナリ、

○今ノ世ニハ、唐物トサヘイヘハ、盆ニノセテ盆ダテニスル、ナキコトナリ、唐物ニテ、盆ニノスル物ハ、ブンリン、丸ツボ、肩衝、小ツボ、コノ四ツノミナリ、其外ノ唐物ハ、盆ニノセズ唐物ダテニスルコトナリ、常修院殿ニ、所望セシカドモ、其道具ナシトテ、終ニアソハサレズ、三菩提院ニハ、小壺アリシ故、御手前ニテモ、後西院ニテモ、ナサレシ故、其法ハ見知リヌト仰ラル、

○廿四日夕、參候、

新井筑後守カ、軍器考、東雅ナト、如何サマタヾモノニハ非ス、東雅ハ何トゾ其主意アルヘキコトナリ、未タ通篇見トヲサネハ、其主意ヲ知リガタシ、軍器考ハ、サテモ〳〵、日本紀已來、和書ノ分ヲ、精選ニノスト云ヘドモ、カザリタチ、ハナヤナグヒ、ナドノコトハ、官家拜禮ノ式ニシテ、武家軍用ノ物ニアラズ、故ニ其コトハ、余ハイサシラネハ、暫ク其名ヲ記シテ其コトハサシヲク由ヲ書タリ、和學ニ悉キコト、兼テ其方モ、聞及ブ處ナルニ、官家ノコトハ、官家ニ讓リテヲクコト、大器ナリト御褒美ナサル、及ハヌコトナカラ、知リタルコトハ、イラ

ヌコトニテモ、書ノセタキモノナルニ、知リタルコトヲ書ノセヌハ、一篇ノ格別正シキ故ナリ、ワヅカニ、其例カ違ヘハ、一書ノ主意タチガタシ、尤ナルコトナリト申上ク、

○凡ソ物トシテ、名ノナキコトハナシ、名アリテ物ナキコトハナシ、物アレハ必名アリ、然レトモ、何トシタ分ケニ、加樣ニハ名付ケルゾト云コトハ、和漢トモニ、究メ知リガタシ、知リ得テ何ノ益カアル、心得ガタキコトナリ、何トゾ分アルコトカ、又ソレズキナル人ハ、此コトガイカウ悉キモノナリ、悉キ程、推究メ難キコト、多カルベキモノ也ト仰ラル、

○日本ノ記錄モノニ、下圖知レヌ文字アリテ、史記漢書等ニミエヌハ、知レヌコトニシテ濟シ、或ハ日本ニテ作リタルカ、誤リタルコトニシテ濟セハ、夥シキ違ナルコト毎々ナリ、此ニハ、大秘說ノ考ヤウアリテ、知ル丶コト間（マヽ）アリ、是公ノ大秘藏ナリト仰ラル、古昔ハ、三韓高麗人、日本ヘ入マヂハリテ、其國ノ語ヲ云コト、常ニナリテアリタル也、ソレ故、史記漢書等ニナキ文字言語モ、其方言ニヨリテ、尋求ムレハ、思ヒノ外ニ、歷々トシテ出タルコト多シ、三韓ニカヽリテ、其方言ヲ求メテ知ルルコト、毎々ナリト仰ラル、（毎々拜聽スルコトナレドモ、加樣ノコトハ、外ノ人ノ梯テ、モ、及ヘカラサルナリ、）假令、傀儡子ヲ、クヾツト訓シテ、古來遊女ノコトニシテアリ、歌ニモ遊女ニ讀ナリ、而シテ遊女ノコトハ、何ニモ見エ子ドモ、古來サヤウニアルハ、三韓ノ方言ナリト見エタリ、遊女ハ、ウカレメト訓シテ、別ニアリ、又傀儡ヲ、クヽツト訓シテ、遊女ノコトニスル、方言ニヨラザレバ、決シテ知リカタシ、

○人ニハ咄シモナラズ、咄スベキ者モナシ、汝ニ語ラント、此程ヨリ思召ス、汝モ知ル如ク、今般（タビ）、親王ノ御方、東宮立坊ノ御沙汰アリテ、宮殿ヨリ、戊亥ノ方ヘ、タテ出サル丶箸ニテアリ、御儀式ノ殿共ノ、ナクテカナハヌ寢殿、大廣間、殿上車寄等、忽チ東宮節會ニ、諸卿群列ノ儀式ハ、行ハル丶ヤウニ、表向ノコトハ、自ラ御世話ナサレ子バナラヌニナリテ、先日ヨリ度々御內ヘモ御成アリ、關白ノ第ヘモ御出アリタルコトナリ、奉行ハ石井中納言也、大方ニ儀式ノ、御殿共ノ差圖ドモハ出來ヌ、內々ニナリテハ、儀式ハイラズ、勝手ヨキヤウニ、女中ノ方ヨリノ好ミニ任セテ置ケバ、色々ノ好ミドモ出テ丶、段々ニ推出シテ來レハ、表ヘツマリテ、肝心ノ儀殿ドモノ害ニナルコトアリテ、御差圖サダマラズ、色々ト御難義ニ思召ス處ニ、一昨日、御參內ノ刻、石井申サレシハ、御內々ノ御差圖ハ、スキト相濟ヌ、表向ハ、先達テ定メ置レタル通リニテ、早速ニ皆々埒明ヌト申サル、ソレハ如何ニト尋シニ、此頃、御內々ノ御差圖モ、大方ニキワマリテ、申シノ口モ、二間ヲ一ツニシ、御納戸モ、セバキヲ廣ク、御湯殿モ、クラキ故廣ゲテ、前ニ廊下ヲ

ツケナド致セハ、常ノ御殿ノ前ニ、假山（ツキヤマ）花艸等ヲ、崩サ子バナラズ、殊ニ御秘藏ノ山吹ヲ、多ク栽ラレタリ、窺ハズバ、御氣色イカヾ也トテ、大乳ノ人六條ナドノ申上ラレシニ、親王ノ御方、ツク〲ト聞シ召テ、ソレハ何故ニト勅問アリ、此度、東宮立坊ノ沙汰ニテ候、サアレハ、御道具ドモモ多ナレハ、今ホドニテハ、御狹キ故、幸ノ御次手ニ、内々ノ勝手悪キ所ヲモ、改易セシムル也、ト申上シカハ、暫ク御思惟ニテ、仰出サレシハ、春宮ノ御沙汰アレバ、程ナク位ニモ御即ナサルヘシ、サアレハ、父帝ノ御殿ヘ、御移ナサルヘシ、其上ニテ、父帝ノ改ラルヽハ格別、此御殿ハ、舊ノ新中和門院ノ御座處ニテ、殊ニ御内々ハ、常ニ馴テ御住居アリシ處ナレハ、假令イカホト御不自由ナリトモ、御勝手アシクトモ、東宮ニテ御座アラン程ハ、少シモ、改ムベカラズト、仰出サレシ程ニ、大乳人モ、六條殿モ何ト申上ベキ言葉モナク、唯感涙ニ堪ズシテ退キ、加樣〲ノ思召ノ上ハ、勝手方ニ於テハ、少シモ御好ミモナシ、表向ノ御差圖ノミ、ヨク〲吟味セラレヨ、トアリシ程ニ、數日未決ノコト、一日ニコトスミテ候、武家モ臣下モ、世ニ有難キコトニ奉存也、コレヨリ恐ロシケツキテ、表向ノ差圖モ、御覽ニ入レスハ穴賢（アナカシコ）後悔アルベシトテ、御覽ニ入シカバ、イザトヨ、見ルニ及ベカラス、申（モロシ）ノ口マデハ、女御ノ御方ニモ、常ニハ成セラレシ處ナレハ、是ヲ改ムルハ、世ニイマイマシクコソ思召セ、表向ノコトハ兎モ角モ、儀ノ調テヨキニハカライ申セ、上ヨリノ思召ハ、少シモナシト仰出サル、又々何レモ、肝ヲ冷テ感嘆シ奉ル、准后御方ニモ、世ニ御嬉シクニ、忝クモアリガタキコトニ思召ス、此御心ニテハ、後來モ御賴母シキコトナリ、御世ノ長久、寳祚ノ御繁榮、ウタガイナキモノカト仰アリ、兩人バカリ、女中方ヲハシメ、拙トモニ憚リ多キコトナカラ、落涙トメガタク、准后ノ御心中、イカバカリ御嬉クモ又女御ノ御方ノ在サバ、イカハカリ御孝行ニ、オハシマサンモノヲト、思召シメスヘシト、恐察シ奉リテ感涙ニ言ナシ、申上ルモ恐アルコトナカラ、八歳ノ宮ノ、御發明ナリ、御奇特ナリノト、申シ上ルコトニハアラス、唯々天ノナセル靈質ノ、御德義ヨリ出タルコトニテ、全ク才ノコトニ非ズ、ト申上シカハ、如何ニモ汝カ申條尤ナリト仰也、

日本ニテ、八歳ノ宮ノ御歌トテ、古今マレナルコトニ申スモ、外ノ風色ノ御歌ニアラバコソ、父帝ヲシタイマイラセラレテ、讀タマイシ故也、ソレハマダ一時ノ感情ヨリ出ツトモ云ベシ、此御コトハ、一時ノ御感發トモ云ガタシ、政治ノ第一ト云ヘシ、母后ヲシタイ在ス御心モ、八歳ノ宮ニヲトルベカラス、

○去年カ、去々年カ、伏見殿方ノ女房ノ參リテ、御伽ヲシテ、雜談ノアマリ申上シハ、後々御入内ノ御沙汰アラバ、伏見家ノ姫宮ヲ、女御ニ御召アルヤウニ、奉願ト申上シニ、何ノ勅詔モナシ、程ヘテクリカヘシ〲申上シカハ、暫ク御思惟アリテ、イザ

トヨ、未タ御幼稚ナレハ、何方ノ姫宮、姫君ヲカ、女御ニ備ヘテ好コトニヤ、惡キコトニヤ、只今ニテハ、御合點ナキ故ニ、左スベシトモ、左スベカラズトモ、今ニテハ、勅答ナリガタシト仰ラレシカバ、彼女房赤面恐懼、身ノ置處モナクテ退出スト、同シ時ノ仰也、（今年御八ツ也、去年ニモセヨ、七算ノ御年也、トカク言語ニ述ガタシ、）周ノ大庚ノ、桐葉ヲキリテ遊ゴトニ、コレヲ汝ニ封ズヘシトテ遣ハサレシヲ、周公旦ノ聞召テ、天子ニハ戲言ナシトテ、桐ノ國ヘ封ゼラレシナリ、コレハスデニ戲言アリタルヲ、戲言ナカランタメノ戒ナリ、御生付ニテカリソメノコトニモ戲言ナキコトハ、生德ノ君子ト云ヘシ、イカナル聖賢ノ君ニヤト、恐察シ奉ル、

參候、

○常陸ノ局ヨリ、文ニテ、今日ハ密々ニ河内ノ道明寺ノ、古物ドモ御覽アル、ヒソカニ七ツ時參リテ、拜見スヘシ、必ス外ヘ沙汰スヘカラストノ義ニテ、其刻參上拜見ス、　公ニモ、御道服ニテ臺覽アリ、中ニモ御櫛、御櫛箱、御文匣等、是ヲウツサル、天神自ラ書セラレシ、楊枝ノ御影、外ニ大幅ノ御神影アリ、（コレハ、アノ方ニテハ、木像ノ由、他國ニ出ル大像故、寫シ也トソ、）御劍、舍利、鏡、（面ニ、金フンニテ梵字、蓮花アリ、）御自筆ノ御經、御櫛、紫ノ御髻、御文匣、外ニ寄合書ノ緣記三卷、御小刀、（古キモノニテ、柄ハタトヘハ、蠟石ノヤウナリ、）仰ニ犀角ナルベキカ、昔法隆寺ノ小刀柄モ、眞如此ナリ、犀ニハ色々アリ、犀ナルベキカト仰ラル、存ショラズ有難キ拜見ゴトイタシ、世ニ忝キコトニコソ侍レ、

參候、

○昨日、右大將ノ御參リニテ、松下見櫟カ水筆ト申スハ、イカヤウノ筆ニテ候ヤ、窺タキ由ヲ申スト仰アリケルホトニ、ソレハ見櫟カ、常ニ見ル書ニ出タルコトナガラ、面々ノ力ヲ用ヒヌコトニハ、氣ガツカヌモノ故也、ソレハ、五雜俎ニ出テヾ、眞ナシ筆ノコトナリ、總シテ漢名ノ立樣カ、日本人ノ思入トハアチラコチラナルコト多シ、コレナドモ、眞ナシ眞アリト云處ナラバ義ハタヽズ、眞アルハ墨ニソメテ遣フ、眞ナシ繪筆ノ類ハ、水ニソヽギテ遣フ故、水筆ト云ナルヘシ、

○笏ニハ色々アルモノナリ、長短モアリ、木、玉、金モアリ、皆其人ノ身ノ長短ニヨルコト也、有レ鬚人短レ笏ト云故質（實カ）也ト仰ラル、

○六月八日、參候、

今日、二三老人ガ、參リテ申スハ、先日、有隣君ノ御茶、御機嫌ニテ、御滿足ガリ也、石ノ手水鉢ハ、御氣ニ入ケルニヤト申シ上ク、如何ニモ前ノ庭トハ各別ナリ、見事ナリト仰ラレシニ御スヱナサレヤウ、今三五寸モヒキクバ、別シテ好カラン物ヲト存ズト申ス、（先達仰ニ、有隣ノ水鉢、三寸ハカリ埋メハ、前ノカゲモ見エズシテ、好カラント仰ラル、）鉢ノスヱヤウニ

ハ、寸尺アリ、定メテ御存知ナサルベシト申ス、イナトヨ、シラズト仰ラレケレバ、兼テ申ス織田常知流ノ（一本ニ常眞トアリ）、茶人カ申セシハ踞（ツクバイ）ノ石鉢ハ、前石ニツクバイテ、仰グハ惡シ、正面ヨリハ俯（ウツムク）ガヨシ、是寸法ナリト申ス、尤ナルコトナリト仰ラル、

○此口ノ御掛物ハ、大納言公任ノ假名物也、前ニ水鉢ニヒヲ、ギト、夏菊ト、木槿トヲ入ラレタリ、言語ヲ絶ス、

○六月十日、御本殿參候、

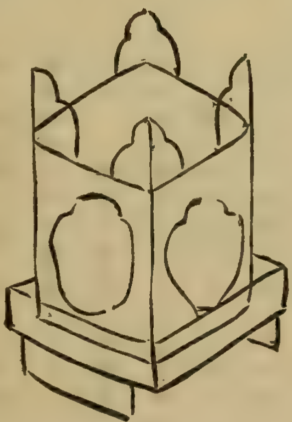
今日ハ、關白樣、御有氣ノ御祝儀アリ、内々ニ參ルヘキ由、兼テ仰ノ由ニテ、未ノ刻參上、尤モ、奥ノ御書院ニテ御目見ス、右大將ノ君、錦小路新藏人、拙ノミ也、尤モ内外ノ女中、餘多參集ス、諸卿ヨリノ獻上モノ、山ヲナシテ夥シ、仰ニ、諸方ヨリノ進物モ、大ヤウ同ジモノ也、但シ滋ノ井ヨリ、參リタルモノコソ、故實ノモノナレ、拜見スヘキノ由、仰ニテ拜見ス、折櫃二合、一方ニ餅、一方ニ干菓子也、仰ニ、昔ハ諸卿ノ集參ニテ、此折櫃ナリ、今ハメヅラシキ樣也、尤モ此上ヘ、平折敷ヲ重ネタルヲ、ツ井重ネト云、今ノ三寳ハ、ソレヲトヂツケテ、便ニシタルモノ也、昔ハ、二ツモノニテ、菓子ヲ喰テ、其折敷ヲ、後ヘ投テ捨ル故實也、階ナドノ上ヨリ落スハ、スラセテ音セヌヤウニナドスルコトアリト仰也、（聞モ及バヌ珍キコト、世ニアリガタクコソ）暮前ニ、御相伴ニテ、御料理拜嘗ス、夜ニ入福引アリ、女中スミテ、表向諸太夫衆、諸太夫ノ隱居、御近習、御出入衆、（右ノ分奥書院、）夫ヨリ、表ノ廣間ニテ、表侍衆、祐筆、坊主マテ、右イツレモ御前也、

○十一日、右御禮參上、

昨日ノ御祝儀、文匣ニ絹縮拜戴ス、

夫ヨリ、直ニ御別業參候、

昨日ノ御ウワサ也、昨日ノ獻上物ノ、御裙分ヲ進セラル、彼滋野井殿ヨリ獻上ノ、折櫃ヲモ進ゼラル、皆胡粉ニテヌリテ、松竹鶴龜ヲ記ス、



仰ニ、古ヨリ斯樣ノ器ハ、大ヤウ胡粉ヌリ也、コレヲ樣器ト云、漢ノ名ニテ候ヤト窺フ、和名也ト仰ナリ銀ノ畧ニテ、銀樣ト云心カト仰ラル、

○廿二日、御本殿參候、

昨日、御本殿ヨリ、明廿二日、御有氣ノ御祝儀ニツキ、准后樣

ニモ、成ラセラルルコトアルベシ、午前ヨリ參候スヘキ由仰ノ由、アリカタキ旨御請申上、今日參候ス、

准后様ニハ、大暑ユヘ御成ナシ、右大將様、徳大寺様御成、御慰ニ能狂言アリ、野村又三郎、御夕方、御夜食拜戴シ、初更ノ頃退出ス、

此日初メテ御祝儀獻上ス、常州長柄團扇、色カハリ三本、臺ヲ三角ニシテ上ク、御笑覧ノ由仰ナリ、

○七夕、參候、

今日ノ御會ノ題、承リシニヤト仰ナリ、未ダ承ラヌ由ヲ申シ上グ、天河落檐ト云題ナリ、定メテ近代ノ出題ナルベシ、趣向ハアルベキカ、何トモ異ナ題ナリ、類題吟味スヘキ由、仰ニテ、玉ノ井局ト、一所ニコレヲクル、秋ノ部ニアリ、冷泉政爲ノ證歌アリ、星河落檐、

あめ過る、ほとはすゞしき、星河、おつる風だに、檐の玉水

トアリ、銀河無レ聲露暗垂、ノ心ニヤト申上ク、サレバトヨ、會シガタキ歌ナリト仰ラル、

○八日、參候、

竜ト申ス字ハ、龍ト申ス字ト、同シコトニ侯ヤト窺フ、イカニモ略字ナリ、同シコトナリ、コレニ付、略字俗字ホド、氣ノ毒ナルモノハナシ、一ツニシテモライタシ、今ハ瀧ト云字モ、滝ト書ヤウニナル、

○此頃、唐本新渡ニハ、珍キ物モアリト申ス、日月燈ナト云モノ、韻鏡者ノウレシガル物也ト仰也、ソレニ付、韻鏡ト申スモノ、習得テ何ノ爲ニナルコトニヤ、日本ニテハ、音ヲ得テモ、通シ難カルヘシ、如何ニヤト申シ上ク、尤ナリ、日本ニテモ、清家ニテハ、曾テ其沙汰ナシ、菅家ニハ、專ニセラル、コトナリ、名乘字ノカヘシニテモ、益ナキコトナリ、改元ニモサシテ用ナシ、サレドモ、漢ニテ改元ノトキニ、反切ノ文字ニサハリアリテ、改ラレシコトアリ、珍シキコトト思召シテ、扱書ヲカレタリ、毎度ノ義ニハアラズト仰也、

○源順カ和名抄ハ、手柄ナリ、アノ時分、アレホドノ書ヲ會得シテ、一々ニ和名ヲ付ルコトハ、ナルマジキコトナリ、辨色立成兼名苑漢語抄ナド云モノ、一部モ遺ラヌコトコソ、念ナキコトナレト仰也、何トシテモ、和朝ニテハ、秘セラル、故書少ナク、紛失燒亡如此ニヤト申上ク、サレバトヨ、秘セラル計ニアラズ、是ハ努々沙汰ハナラヌコトナリ、アマリ和朝〱ニナリテ來テ、定家時代ヨリシテ、和朝ニテ萬事ミナ〱スムニナリ、漢ノ書ハ、イラヌニナリタルカラ、右ノ書モ、强テ用ヒヌヤウニナリテ、亡ヒタルモノ也、正シク列朝ノ國史ダモ、闕損シテ見ルベカラス、類聚國史ノ全キハ、一所ニモナキヤウニナリタリ、可

嘆哉ト仰ラル、

○十六日、　參候、

今日ハ例年ノ如ク、關白樣、大將樣、入江樣、御成、

今年、大覺寺樣ニモ御成ニテ、大文字御覽、御床ノ掛物コソ、世尊寺ノ〇〇〇ノ筆ニテ、詩歌アリ、

關白樣ノ御命ニ、七夕ノ御會ノ題ハ聞シヤト、先達テ承リヌ、題意ヲ會得シガタキ由ヲ申シ上ク、アシク心得テ、落ノ字ヲ會セヌコトアルヘシ、或人ノ歌ニ、

　あまの川、吹來る風も、檐ばより、落る手向の、袖の涼しさ、

ト云歌アリ、何トヤラン、牽牛織女ノ、落ラレタルヤウニ聞エテ、イブカシト仰ラル、

准后ノ御命ニ、類題ニノリタル氏爲ノ歌ハ、永享ノ御會ノ時ノ和歌也、其時ノ懷紙ガ、直ニ御文匣ニアリテ、見ラレタル由、關白ノ物語ナリト仰ラル、

○十八日、　御本殿參候、

准后樣、入江樣、大將樣、大覺寺樣、御成、夕方ニ拙、夕翁、二人參候、

御床ノ掛物ヲ拜見セヨ、名物ナリ、是ハ後水尾院ノ御時、或夜ノコト、妙門ノ獅子吼院殿御前ナト、御參ノ時、妙門ニ畫ヲ所望セラレヨ、何ガヨカランツトテ、彼是シテ、月ノ瀧コソ然ルベカラントテ、遊バセシナリ、妙門ノ出來給ナリ、迚ノ儀ニハ、御製ニテ、御讃ヲト願ハレシニ、夫ハ出次第トテ、御思案アリ、妙門ニハ、繪ヲアソハス、准后ニハ、其間ニアノ朱印ヲ、彫刻ナサレタル也、表具モ、其夜ノ勅製ノマヽ也ト仰ラル、

　常ほどに、月もながれず、落たきつ、瀧の音にはたてぬ物から、

畫ノ讃ニハ、如此ナラデハト仰ナリ、

○關白樣ノ仰ニ、先日ノ七夕ノ、星河落檐ノ歌ハ、世上板行ノ類題ニハ、アヤマリアリ、おつる風だにハアラス、おつるかげみる檐の玉水、也ト仰ラル、

○夜ニ入、御庭ノ木ノ枝ニ、小キホウヅキ灯燈ヲ、百カケラレタリ、御池水ニウツリテ、御坐マデ耀ク、兎角ニ風景イハン方ナシ、夕翁ノ申上ラレシハ、上元ノ百枝燈トアルハ、加樣ノコトニヤト申上ク、今中元ニ燈籠ヲトボシテ、躍リヲ催スハ、其遺風ナルヘシ、上元ニ燈ヲ點シテ、小女ヲ舞ハスコトアリト仰ラル、

○廿三日、　參候、

三十六歌仙ノ歌合ハ、橘ノ公任ノ、定ラレシモノ也ト仰ラル、

夫ニ付、入道釋阿トアリテ、烏帽子ニ狩衣ヲ著セラレタル圖ハ、如何ナル故ニヤ、有髮ノ人ヲ、入道ト稱シテ、苦シカラヌコトニ

ヤ、但シ分ケアルコトニヤト窺フ、仰ニ、總シテ百人一首、三十六歌仙トモニ、繪ハ何ノ時何人ノ付タルコト、慥ナラズ、近代ノコトニテ、分ケモナキ僻カコト多シ、釋阿ハ勿論ノコト、法性寺入道前關白太政大臣トシテ、束帶ニテ、笏ヲ持レタル圖也、貫之ハ、五位ギリノ人ニテ、四品ニ進マレタルコトハ、傳記ニハ見エズ、然レドモ黑キ裝束ニ、淺黃ノサシヌキヲ著タリ、人丸ハ、天智ノ時ノ人ナリトテ、未ダ裝束ノ定マラヌ時ニシテ、烏帽子ニテ、アノ裝束也、是ハ〇〇トヤランノ、夢ニミラレタル像ナリト云、ソレギリノコトナリ、持統ノ時ニ、アノ樣ニ、六重ガサネノアルベキ樣ナシ、然レトモ、今日ニ成テハ、天下通用ニナリテ、兒童卒僕モ、其圖ヲ見テ、其人ヲ知ル樣ニナリテ、其繪ノ上ニ押サル丶色紙ハ、所望次第ニ、書テヤラネハナラヌヤウニナル、已前モ、奈良ノ法華寺殿ヨリ、光明皇后ノ圖ヲカヽセテ、讃ヲモ書ヤウニト、賴レタリ、光明皇后ノ像ト云モノ、何ニモ見アタラズ、此方ヨリ仰付ラル丶コトハ、如何ナリ、其方ヨリ、土佐家ヘ仰付ラレヨト、申遣セシガ、程ナク、土佐家ヨリ調進ス、六重ガサネヲメサセテ、小野小町カヤウナル體ナリ、コレハ、何ゾニ出タルカト尋シニ、古來、カヤウニ書ヨシヲ申ス、其上ニ讃ヲカキテ、御所望ニ任セタリ、是ナトモ、後ノ人カ見テ、光明皇后ノ時ヨリ、アノ裝束ハアリタリ

其證據ハ、奈良ノ法華寺殿ニ、其圖アリテ、准后ノ讃マテアルカラハト云ハレンハ、イト念ナキコトナレトモ、不ㇾ及ㇾ是非ㇾト仰ラル、

〇右ノ次テニ、三十六歌仙ノ、〇〇ノ裝束ハ、直衣ナルガ、袖ノ先、裾ノマハリハ、上ト色異ナルハ、アレモ分ケモナキコトニヤト窺フ、仰ニ、アレハヒトヘノ直衣ノ重リタル色ナリ、ソレ故、上ト色異ナリ、總シテヒトヘノ色ノ物ノ、重リタルハ、色各別ナリ、コレヲ日本ニテハ、半袖ト云、一幅ノ袖ヲ、半分ヲリカヘシタルモノナリ、唐ニテハ、半幅ト云、袖スソトモニ皆、ヘリノ心ニシタルモノ故也ト仰ラル、總シテ、此公ノ物ヲ仰ラル、ニ、審カニ事ヲ究メテ、其コトニ僻シテ、好コトモアシキコトニミユルヲ、御嫌アルコトナリ、我等ゴトキノモノ、既ニ給ノ分ハ、分ケモナキコト、思ハヽ、此直衣モ、其詮ナキコトニ、思フヘキコトナルヲト、奉ニ恐感ニナリ、

〇八月三日、　參候、

此コロ中井主水カ來リテ、石見守マテ窺フハ、高尾ノ鐘ヲ三絕ト申スハ、銘ト、手跡ト、音聲ノコトニテ候ヤト窺フ、仰ニ、イザトヨ、序文ト、銘ト、手跡トノコトナリトテ、ソレ〳〵ニ書ヲ遣ス、私ノコトニモアラズ、京兆尹ヨリノ用ナリト申スト也、此ハ古書ヲ考ヘ、人ニ問フマデモナシ、求馬ガ山城名勝志ニモ載タレハ、主水ナド、別シテ見ベキコト也、重テ御對面アラバ、左仰付ラルベシト仰ラル、

○兼テ集録セシ和名モ、大方ニクミタテ候、五部ノ國史ヲ、一部ヅヽ、拜借仕タキ由申シ上ク、何時モ彈正ニ申テ拜借スベシ、併其方ゴトキ者ノ、國史ヲ見ルニハ、見樣アリ、初ヨリ、日本紀ヲ見テハアシヽ、先續日本紀ヲ先ヘ見テ、後ニ日本紀ヲ見ルヘシ、左ナクテハ、情ヲツカスヘシト仰ラル、醫書ナト見ルニ、此例多キコトナリ、尤モアルヘキコトナリ、

○九日、參候、

俗語ニ、物ノ最第一ノコトヲ、ヲモト云、其中ニテハ、コレガヲモニナル、ドレガヲモニナルト云コトアリ、此ヲモト申ス文字ニハ、何レノ字然ルベカラシヤト窺フ、仰ニ、先ヲモト云コト、シカトシタル歌書ナドニ出タルカ、急ニハ思召出サレズ、漢語ニアツルコト、總シテ和訓カラ求テハ。求得テ僻ガコト多シ、兼テ仰聞サル通リ也、ヲモト云ハ、虚ナ言ニテ、事々物々ニ付テ、アルコトナレハ、其事々物々ニ付テ、文字アルヘシ、假令人物ナドノコトナラバ、爲レ長トアルヘシ、言語文段ニテハ爲レ主トアルヘシ、艸花トシテハ、爲レ魁トアルヘシ、軍旅ニテハ、爲レ將トアルヘシ、ソレ〳〵ニ從テ、文字ハカワレトモ、皆ヲモノコトナルヘキカト仰ラル、

○雞頭花ハ、投入ニハセヌコトニヤト窺フ、昔常修院殿ノ遊バセシコトアリ、ナルホド、サビタル雞頭ヲ、ヲシメニ入ラレタルハ面白シ、大ニ見事ナルハ、立花ニサヘ、入ラレスト仰ラル、

○十二日、參候、

仰ニ、來ル十八日ニハ、東宮御方、本殿ヘ渡御ナルヘシト仰出サレタリ、目出度事ニ思召ス、近代ナキ珍キ御コト也、近代ハ急度、御外祖ニ執柄ノ家メツラシキコト故、其沙汰ナシ、昔シ御堂殿ヘ、東宮ノ御渡アリシハ、各別ノ御事ニテ、五十疋ノ競馬ヲツカイテ、御覽ニ供ラレシコト、御記錄ニアリ、近代ニテハ、後水尾院ノ、應山ノ櫻ノ御所ヘ、渡御ナリシハ、微々ノ御コトニテ、度々ナリシ、其後ハ、執柄ノ御外祖タルコトナキ故、此御家ニモメツラシ、未タ御人衆モ、シカトハ究マラズ、先刻治部大輔ガ來リテ、本殿ノ表替、掃除ノコトナト、カタノゴトク取込ノ山ナリ、東宮ヲ初メ奉リ、女中公家地下ノ役人マデ、殘ラズ御饗應ノ上、御土產ヲ進ゼラレ、末々マデ、下サレモノアリ、禁裡並ニ御留守ノ公卿女中ヘ、御贈リ物下サレ物アリ、准后ノ御方ヨリ、東宮親王ノ御方ヘモ、進セラレ物アリ、小キ御廚子棚、フンタミニ、金ノタカ蒔繪アリ、上ノ段ニ、指面ヲ一通リ、ノコラズソロヘテ、蔚翁ヲ初メトシテ、小面平太等ヲ、並ベラレタリ、重香箱ヘハ、微塵人形ヲツメラレタリ、外ニ東求院龍山ノ御事ノ遊バセシ、法書ノ卷物一卷、梅ノ折枝ニ付テ獻ゼラル、此ニ付テ不圖仰ラルハ、大事ノ故實アリ、敎ユヘシ、世ニ佐理道風行成ヲ、三跡ト云、此三跡ノ字ハ、本御堂殿ヘ渡御ノ時ヨリ、初

テ云習ハセシコト也、此時御堂殿ノ獻上ニ、佐理ト道風トノ筆跡ノ巻物ヲ獻ゼラレシガ、今一巻ヲ、行成ニカヽセテ、梅ノシモトニ付テ、上ラレショリ、世ニ此ヲ三跡ト云シコト、御記錄ニアリ、行成ノ手柄、世ニ面目ト云ヘシ、古ノ佐理道風ニナラヘテ、當時ノ行成ニカヽセラレシハ、行成カ手柄也トノミ御咄アリシガ、此度モ、此例ヲ追ハルヽナルヘシト、恐察シ奉ル、世ニアリカタキ御コトナリ、此東求院ノ御巻物ハ、長サ六七寸バカリニテ法書ニテハ、御重寶ノ物ナリ、ミスベシト仰ラル、假令ハ宀ノ下ニ、宀ノ草書ヲクズシテ、トモカク、カクモカクト、下ニ並ベアゲテ日本唐土トモニ、出處ヲ付ラレタリ、マメナルコトヲ、コマカニモナサレタリ、御几案ノ上ニ置カレテ、常ニ艸書ノ時、御覽ト見ユ、當日ハ何ゾ外ニ御ナグサミゴトニテモアリヤト窺フ、仰ニ兼テハ何ゾト心ガケシガ、此度ノ渡御ハ、私ノコトニハ非ス、式正一々天下ノ取沙汰トナルベシ、然レバ何ゴトニモセヨ、此コトアリト風説アリテハ、批判アルベシト思召シテ、ヒシト止ラレタリ、還行ノ跡ニテハ、傳奏ヲハジメ、所司儀奏ナド、參ラルベシ、此饗應ニハ、權之進ガタチ參リテ囃子ナドアルベキカト仰ラル、申モ恐レアルコトナガラ、何ゴトニモセヨ、天下ノ式トナルコトハ、此アルベキコト也、御身ノ爲ノミナラス、御上ノ御爲ニモ、然ルベカラス、初メテノ御コト、重テハ兎モ角モ、此度バカリハ、カクアルヘシト奉察、何時モノ拜賀元服ナド、ハ違テ、殊外ニ心遣ナルコト也、渡御ノ間ハ、諸卿ヲ初トシテ、末マデノコラズ、平折敷也、還御ノ跡ノ饗應ハ大臣ハ大臣、公卿ハ公卿、殿上人ハ殿上人ト、ソレ〳〵ニ膳部ヲカヘテ、三賓モアレハ、足ウチモアリ、勿論ヒラヲシキモアリ、ソレ故二段ニナリテ、別シテヤカマシキコト也ト仰ラル、

○イツモ無禪ガ咄シニ、後水尾院ノ櫻御所エナラセラルレバ、御大廣間ヘ御輿ヲカキアゲテ、下々ハイデ、後、御戶ヲ開カルル處ヘ、應山ノ烏帽子ヲユガメテメサレ、白衣ニ道服ヲカケテ、平ヲシキニ、熨斗蚫昆布ヲハサマルヽコト、每度ノ格例ナリト申シキ、

○華表ノ字ヲ、トリ井ト訓スルハ不當ト、淺見安正カ申タリ、唐ニテハ、日本ノ樣ナル神社モナシ、タマ〳〵其德ヲ稱シテ、廟祠アリテモ、夫ニ鳥居ト云モノハナシ、墓表ナドノ門ノヤウニ、衡ヲカマヘタルヲ、華表ト云、形ノ似タルヤウニテ、事ハ違タルモノ也ト申シキ、但トリ井ト訓シテモ、苦シカルマジキヤト窺フ仰ニ、ナルホト淺見ガ申ス處尤也、國史ニモ、トリ井ヲ華表ト云タルコトハ、終ニナシ、トリ井ヲ華表ト訓シタルハ、下學集ガ其初ナリ、急度トシタルモノニハ、終ニ不見、モトトリ井ト云ハ、

トシタ形ナモノヲトリ井ト云、トリイ障子ナト云モ、ツイタテニ、障子ヲハメタルモノ也、トテモ漢字ノナキモノハ、假名ニテ、鳥居ト書ガヨシト仰ラル、カナト云ハ、イロハカナノコトト覺ルハチガイ也、日本ノ萬葉ガキハ、皆假名也、鳥居トカキテモカナ也、本鳥居一ニ烏井ト云ハ、常闇夜ニ、長鳴鳥ヲ、岩戶ノ前ニテ、鳴シメタ

ルガ出處ナレハ、日本ニテハ、神門ヲ鳥井ト云ヘシ、漢ノ華表
ヲ鳥居トハ云ベカラス、
○御薗意齋ガ參リテ、今朝ノ茶湯ノウワサアリ、黑木ヲ二ツ重子
タル上ニ、木燈籠ヲノセタリ、サビテ面白カリシト申ス、我等申
スハ、クモデヲ立テ、苦シカラヌ處ナラバ、常ニ立テ、アル
モノヲ、拔カレモセマジ、上ノ御說ニ兼テ承リシハ、木燈籠ト云コト、先宗和流ニハナキコト也、アレハ、ツリ燈籠ノ
トリチガヘナルベシト仰ラレシカ、(前ニ記ス)果シテ思ヒ當リヌ、加樣ノ時モ、石燈籠ハ、トルヘキヤウナキ故ニ、晝モソノマヽ、ヲクコトナリ、木燈籠ハ、イツモ出入
ノナルモノ也、ソレニクモデアルヘキヤウナシ、幸ニ常ニナキ處ナラバ、夜ハ薪ナリトモ、
石ナリトモ積テ、上ニ燈籠ヲノセテ、明(アカリ)ナクテハ叶フマジ、晝ハ
明リモ入ラ子バ、燈籠ハナクテ、苦カルマシト申ス、意齋退出
ノ後、仰ニ、先刻ノ黑木ノ咄シハ、イナモノ也、今ハ燈籠ハ、明
リノ爲ト云ヲノケテ、景氣ノ一ツト思フ故、ナケレバカナハズ
ト思フ故也、總シテ物數寄モ、其由ナキコトハ、仕出シテモ詮ナ
キコト多シ、ソレニ付、不圖思召出サレタリ、昔在常修院殿ノ
茶入ノ袋切ヲ、後西院ヘ御所望ナサレシニ、迚ノ義ニ、蓋袋ト
モニ、此御方ニテ調進アルベシトテ、其出來シタル日ニ、公ニ
モ御出ニテ、共々ニ御遊アリシガ、飯後ニ、不圖後西院ノ勅詔
ニ、幸ニ此茶入ニテ、一服獻セラレヨ、即チ龜ガ茶屋ニ、掃除
モ出來タリ、アレニテ、菓子ノ茶湯セラレヨ、御茶ヲ初メ道具
ハ、坊城平松ヘ、云付テ、何ナリトモ恩借セラレヨ、早々ト御
所望ナリシカバ、サレバトヨ、如何アルベキヤトテ、御立アリ
テ、御茶屋ヘ御座アリシガ、程ナク御案內アリテ、後西院、無
上方院公モ、御入アリシ、時ノ花生ニ、青竹ヲクロギ柴ノ大小
黑青ヲ、マゼアハセテ、クルリト卷テ、二所ヲ藤蔓ニテクヽリ
テ、ソレニ連翹ノ大枝ト、根ジメニ花トヲ、入ラレタリ、時ニ
トリテノ御働ト云、加樣ノ時ハ、面白クテ其花今モ目ニツクヤウ
也、カヤウナレバ、又黑木モ面白シト仰ラル、若シ此咄ヲ先程
ニアソバサハ、又例ノ意齋カ、口切ノ茶湯ニ出スベシヤト思召
テ、御ウワサナシトテ、大笑アソバス、
○十九日、昨日渡御、御祝儀ニ、參候、
昨日ハ、隨分ノ御機嫌ニテ、朝モ正辰刻　渡御ニテ、御獻引ワ
タシナド相スミテ、乘馬御覽、御方ノ輿寄ノ前ヲ馬場トシテ、竹ヲワタシ叡覽ノ假屋ニ紫ノ幕ヲ引、眞中ニ御簾ヲ
下シ、前ニ椽ガワニ高欄ヲツケテ、簾外ニ准后、關白、御座アリ、乘馬ハ、左衞門、一角、甚內、新八也、
ソレヨリ御庭御覽、御泉水ノ上、山上ニハ初茸、松茸ヲ、數千本種ラレタリ、寢殿殿上マデ、御步
行ニテ還幸、御料理スミテ、御靈祭御覽、御格子ノ前ニ、神輿ヲ下シ、奉幣ナトアリ、還
幸後段出、スクニ初更前還幸ノ由、先ニ記スゴトク、上ヘ獻上
ヲ初トシテ、女中下々マデ引出物アリ、アナタヨリモ御土產ア
リ、上ヲ初トシテ、諸太夫、隱居諸太夫、近習、靑士、女中方、
ノコラズ下サレモノアリトナン、
○廿一日、參候、今日、關白樣ヨリ、御祭ノ御料理進ゼラル、御相伴、

風爐ノ名殘ト申スコトハ、何トゾ其アシライアルコトニヤト、窺フ、爐ノ名殘ト云コトハアリ、風爐ノ名殘ト云コトハ先ハナシ、風爐ノ名殘ト云ヘバ、八月九月也、古ヨリ、八月九月ハ、至極茶ノ湯ノナラヌ時ナリト、常修院殿モ常ニ仰ラル、八九月ハ、何トシテムヅカシキゾナレバ、口切ノ用意ニ、庭ヲモ、道具ヲモ、直ス時ニシテ、口切ニ間モナシ、至極仕ニクキ時也ト仰ラル、　ソレハ如何ニヤト窺フ、常修院殿ナド、毎度仰ラルル、風爐ハ奇麗ヲ第一トシテ、涼シキヲヲモトス、八九月ハ新涼ニ、ソノアシライモ仕難シ、又爐ノ樣ニモナラズ、其間ヲ料理一ツニモ、氣ヲ付ベキナレバ、最ムツカシ、常修院殿ノ、瓢ノ花生ヲキリテ下サレシ時ニ、是等ナド、八九月ニヨキモノナリ、秋ノ艸花ナド入テ面白シ、フクベナレバ、炭取ニサシアイテ、冬ハ出サレズ、水ノナラヌモノナレバ、風爐ニモ出シガタシト仰ラル、

○色紙ニ、白ノ色紙ト云フアリ、色紙ト云カラハ、白ハアルマジキモノナレドモ、色紙ト云ハ、アナガチニ、イロ紙ノコトニアラズ、地ヲシタル紙ハ、五色トモニ、色紙ト云ト仰ラル、サルニテモ、今ノ方七寸バカリナル、雲形、花鳥等ノ、泥引ナニカノアルモノヲ、色紙ト申スト覺エ侍ルハ、イカニト申シ上グ、アレヲ色紙ト云コトハ、シカトシタル國史ナドニハ、曾テコレナキコトナリ、地ヲシタル紙ハ、皆色紙也、大小廣狹ニヨルベカラズ、短尺ト云モノモソレ也、短札ニカクヲ短尺ト云、札ノ心ナリ、懷紙ト云モソレナリ、懷中ノ紙ト云心ニテ、强チニ寸法アルモノニアラズ、今ノ色紙、短尺、懷紙ノ、定リテ書法アルモノハ、逍遙院ナド其說アリ、ソレアトサキカ、昔シノ人、短尺ノハヾヲ問ハレシニ、不破關屋ノ板ノ大サ、然ルヘキカト申サレシコトアリ、シカトセヌ證據ナリ、

○同シ歌書ニテモ、榮花物語、枕艸子ナドハ、直ニ引テモ苦シカラマシ、源氏物語、伊勢物語ハ、直ニハ引ガタシ、源氏ニ何ト云タルハ、何ヲ出處ニ書レタリト、今一段ヲ引得テ證トスベシ、定家エ、伊勢物語ノ段絡ノ前後ヲ、吟味シタレバ、唯詞花言葉ヲ、玩ブノミト書レシコソ、二書ノ本據ナルベケレ、何れの御時にかありけんト書出シ、むかし男ト書出シタル、一部ノ主意ウソニテ候ト云ハヌハカリ也、其意ヲ得ベシト仰ラル、

○廿五日、　參候、

昔シノ、鈴並傳符ヲ賜ハリシコト、國史ニ見ユ、傳符ハシカト寸法モアリ、文字ニモ法アリ、鈴ハ形ドノヤウナ物ト云コト、何ニモ見當ラズ、アレコソ、漢ノ法則アリソウナモノナリ、勿論見當ラズ、ヒタモノ、是コソ古ノ鈴ヨトテ見セ來ルニ、古物ノ見事ナルモノ多シ、コトニ唐物ナドノ、見事ナルガアルモノ也、アレガ驛鈴カ、ソデナキカト云コトハ、イサシラズト仰ラ

ル、

○先日窺ヒシ三因方ノ序ニ、見レ月忘レ指ト云コトヲ、百拙ヘ御尋アリシガ、案ノゴトク佛書ノ出處ナルヲ、則チ書付下サル、ノ山ニテ拜領ス、

○晦日、參候、錦小路、百拙、

頃日世間ノウワサノ、黃檗山唐僧來朝ノコトヲ申シ出シ、次デニ當時ノ黃檗ノコト也、此唐僧モ來朝アラバ、早速參內アルヘキカト窺フ、イヤトヨ、後宇多ノ帝ノ遺勅ニテ、一切唐僧ノ分ハ、禁門ニ入ラレストテ、黃檗坊主ノ參內ハナシト仰ラル、然ラバ昔シ高麗人ノ鴻臚館白馬寺ノコト、源氏ノ君ヲコマ人ノ相セシナドハ、イカニヤト窺フ、

往古遣唐使ノアリシ時ハ、唐人モ日本人ニ交リ、日本人モ唐人ト交ル、遣唐使ノ止シ後ハ、唐人ノ禁門ニ入コトハナキコト也、後宇多ノ帝ノ遺勅ナレバ也ト仰ラル、然ラバ　後水尾院ノ、隱元禪師ヘ嗣法ナサレシハ、御對面ハナキコトニヤト窺フ、イカナ〱、天子ノ唐僧ニ御對顏ハ、絕テナキコトナリト仰ラル、

○同日、　御本殿參候、

仰ニ、此頃日光山社參ノコト、町ニテモ其ウワサアリヤト、世間コレサタニ候、タヾ不及ナガラ、例幣使ノ御方ノ御難義タルベシト、察シ奉ルト申上ク、　サレバトヨ、未ダ來年ナラデハ、キハマラヌハシレヌドモ、誰ニモセヨアブナキコト、其人ノ善不善トモ、コナタニヒヾキテ、難義ニ思召コトナリ、將軍ノ御社參ヨリ前ニ、トリコシテアルベキカ、左モアレバ幸ノコトナリ、先年ノ日光社參ノ時ハ、年忌ニテ、二條前攝政ヲハジメ、大勢下ラレテ、其年ヨリ初メテ例幣使ヲ行ハレシ故、前格モナシ、獨リ狂言ハ此度ガ初ナリ、當時關東ノ時儀ヲ知ラズ、馴レヌ人ガ不圖下向ニテ、ヤセガヲ張ラルレバ、希有ノコト出來ル、先年鷲尾ガ平伏セラレヌカラ、大躁動ニ及ビテ、此方ノ御外聞マデアシキ樣ニナリタリ、尤モ公卿ノ人、大臣ヘ對シテ間ヲ隔テヽハ平伏セヌガ法ナリト云コトナレドモ、當時ノ勢、ソレ一ツニテハスマヌコト多シ、公家武家ノ官位、各別ト立テヽアルニテ、行ヒヨキコトナリ、ソレニ馴レヌ人ニテハ過アリ、コレヨリ大ナルコトヲシテモ、アチヘ馴タル人ハ目ニタヽズ、咎メモナシ、返々モアブナキコトナリト仰ラル、何トシテモ公家ノ家料小身ニテ、平生ノ馴ル、所アシキ故ナリ、關東ガ都ヨリ遠クテ、マダカヽリタルコト也、近クハ阿方(アナタ)ニモ此方ニモ、仕ニクキコト多カルベシ、遙ニ關東ニ去テ、公武各別ト立タルコト、尤ナルコトナリト仰ラル、

○太閤秀吉ハ、匹夫ヨリ起テ天下ノ權ヲ取リ、職ハ關白トナリ、官ハ太政大臣ニ任ゼシ人ナリ、平相國清盛コノカタニテノ一人

也、其行フ處見ル處キ、及テハ、寛大至極ノ様ナレドモ、鼻ノ先ニテ事ヲ行フテ、見聞シテアノ通リナリ、當時ハ遙ニ隔テ、見ヌコト聞カヌコト多ケレバナリ、秀吉清盛ヨリモ重カルベキコト多カルベシ、大閤秀吉ノ禮ヲ三遐院ノ指南セラレシコトアリ、節會ノ御裾ニ參ラレテ、長キ間ニ情ヲ盡シテ酒盛セラレシコトナド、御記錄ニアリ、ソレホドノ人ノ、御裾ニ參リテ關白ノ職ヲ勤メント思ハレシハ、カクユラシキコトナリ、清盛ハ倘以セワヤキニテ、是セソサクノミ也、尾張ヘ秀吉ノ鷹野ニ行カレテ歸ルサヲ、禁門ノ前ヲ通リテ、後陽成院ヘ御覽ニ入タキ由ニテ通ラレシヲ、三遐院ノ招カレテ、酒ナド進ラレ、御前ヘモ召サレシカドモ、此裝束ニテハ得コソ出マヂケレト申サレシヨシ、是ナド當時ノ人ノ、及バヌリチギナル處アリト仰ラル、

○稻苗代見竹が咄カニ、大閤秀吉ノ連歌ノ席ニテ、フト其付合ニテコソアルベケレ、

奥山に、紅葉ふみわけ、なくほたる、

トセラレシヲ、紹巴カ螢ノ啼ト云證歌ハ、イサシラズト申上シニ、大ニ不興ニテアリシが、何條ヲレがナカスニ、ナカヌモノハ天カ下ニアルマヂト、廣言セラレシヲ、細川幽齋其席ニ居テ紹巴ニ向テ、イザトヨ螢ノ啼トヨミ合セタル、證歌アリ、

むさしの丶、篠を束ねて、ふる雨に、ほたるならでは、鳴虫もなし、

ト申サレシカハ、紹巴ハ大ニ驚テ平伏シ、太閤ハ大機嫌ニテアリシ由、翌日紹巴スナハチ幽齋ヘ行テ、サルニテモ昨日ハ不調法ニテ、家ノ面目ヲ失シ、何ノ集ノ歌ナリヤト窺フ、幽齋云、アレホドノ人ニ何ノ證歌所ゾヤ、キノフノ歌ハ我等カ自歌ナリ、ト申サレシ由ナリ、此ニテハなくノ緣、尤ニキコユル、サモアルベキコトナリト仰ラル、

○九月十三夜、參候、

凡ソ學問ヲスル人ニ、博學多才ト呼ハレテモ、其目ノツケ所、何ノ爲ニスルト云コトナキハ、何ノ益ニナラス、人ニ褒メラルルマデニテ、已が爲ニモ、人ノ爲ニモナラズ、此コトヲ每ニ、右大將ニ云キカスコトナリ、○○ナドノ學ナト、力モアリ才モアリテ、頃日モ、院御所ヨリ、壽字ヲ拜領セラレシが、其使ヲ待タセ置テ、壽字ヲ上ニ置テ、十首ノ詩ヲ獻セラレシ由、大將ノ咄ニテアリシ故、必シモウラヤマシがラレナ、只漢學ハ、和學ノ爲ニナルヤウニ學フヲコソ、第一トスベケレ、漢學著述ニノミ氣が付テ、面々ノ職ノコトヲ問ハレテハ、返答モナラヌヤウニテハ、其學何ノ益ゾヤ、平松、滋野井ナドノ學ハ、ソコニ目がツキテ、學バル丶故、上ノ御爲ニナルコト多シ、又内匠ナドか

樣ニ、漢學ハトモアレ、清家ニテ、推庵ガ口傳ニテ聞シコトハ、邪ガ非デモ、左樣ヨリ外ハ、目ニモ耳ニモ聞入レズ、此和語ハ、漢ニテ如此言コトナレバ、和朝ニテハ、カクコソ讀ムベケレ、コフヨムハ、アヤマリナルベシト云テモ、假令アヤマリニモセヨ、推庵コノカタ承リシ物ヲト云ヘバ、為コトハナシ、夫ニテハ日本ノ羞ナリ、一向ニ文字ヲモカラズ、日本ニテコシラヘタルコトナレバナレドモ、古昔ノ人ハ、漢學トマデナシニ唐ノ禮ヲ學デ、其コトヲ文字ニ著ハサレタレバ、其文字ガ、唐ニテ言ト、日本ニテスルト違テハ、高ガラチノアカヌコトナリ、ソレ故ニ、漢學ヲシテ、其違ノナキヤウニ、日本ノ職ノ明ニナルヤウニ、納言已上、執政ノ人ニ至ルマデ、面々ノ職分ノ明ニナルヤウニ心得ルガヨシ、昔ノ執政トヨバレシ人、サマデ傳記ハ、日本ノコトナレハ、詳ニハナケレトモ、貞信公ヲ初メトシテ、宇治殿ニテモ、博學廣才ノサタハ、努々ナケレドモ、是ヒトツニテモ知ヘシ、此間、御夜食出ル、江ノ匡房ノ學才ハ、天下ニ並ビナキコトニ、人々ノ思コト勿論ナリ、百人一首ニノリシ大納言經信ノ記錄ヲ、帥ノ記ト云テアリ、經信ハ百人一首ノ傳ニモ、博學廣才ノ由ヲノセラレタリ、其帥ノ記ニ、昔シ朝鮮國ノ病ニ付テ、日本ノ典藥頭錦小路右京カ先祖、廣成ヲ請ハレシ返簡ヲ、江匡房ニ書サレシニ、此文章本朝文粹ニモアリ、近クハ朝野群載ニモノセタリ、扁鵲何入ニ雞林之雲ニト云句

ヲ古今ノ名句ト稱スルホドノ文章ナリ、然ルニ宇治殿ハ、內覽ノ宣旨ヲ蒙リシ人故ニ、匡房右ノ文章ヲ持參シテ、內覽ニ入ラレシカハ、寢殿ニ召サレテ、匡房ニヨマセテ聞カレシガ、其書中ニ、三所マデ不審ノコトアリシカバ、匡房閉口シテ、懷中ヨリ小刀ヲ出シテ文字ヲケヅラレテ改ラレテ後、御覽ニ入ラレシ由、則其席ニ大納言經信ハ居テ、ツク〳〵此次第ヲ見ラレシ通リヲ、帥ノ記ニノセラレタリ、其言ニ、初テ宇治殿ノ廣才ヲ感ジテ、匡房ホドノ人ノ、屈服セラレシコトヲ、感ジラレタリ、今帥ノ記ニ在、コレヒトツニテモ、執政ノ人、今ノ世ホト口惜キコトハナシ、博學廣才ノ名モナキ宇治殿ガ、右ノ通リナリ、其人ノ器アリテコソ、內覽ノ宣旨ヲ蒙リテ、名ニシ負ハズト云ヘシ、見テヨメモセヌ人、內覽ノ宣旨ヲ蒙リテ、何ノ為ゾヤト仰ラル、毎度承ルコトナカラ、賤キ身ニハ、已カコトニ當ラヌコトハ、只ニ感シ奉ルノミ也、加樣ノコトハ、已カ身ニ當リテ、最忝キコトニ覺ユ、醫者ニ、學問アリカアリト稱スルモ、多クハ療治カ不調法ナルハ、目ノツケ處カチカフテ、療治ノ為ニハセス、唯利口ノ為ハカリニカ、慰ニスル學問故ニ、今日何ノ益ニナラズト申シ上ク、イカニモサコソアルベケレ、學問ノケラノ療治センサクナレハ、文盲ナルコトニテモ、オノカチタル人ホト、手柄アルベケレ、然レトモ、分ケナシニ療治スルト、分シリテ治スルトハ、其人ニ存スルノミニテ、脇カラハ、同シコトニテアルヘケレドモ、先其病人ノ直ルマデハ、安堵ハナラズアブナキコトナリ、其人ニアツラヘテ、分カラ治スルトキケバ、直ル直ラヌマテモ、先安堵ナルコトナリト仰ラル、近代ニテハ、宗白ヨリ外其人ヲ不見ト申シアク、尤サモアルヘシ、病人ヨリ外ヘ、目ノツカヌ男ナレバ、左アルヘシト仰ラル、日本ノ風俗カ、古今儒佛神トナラベテ、行ハレ來リタレハ、今日ノコラズ、佛道ノ樣ニセフトモ、殘ラズ儒者ノ樣ニセフト云コトハ、今日其筋ナキコトナリ、俗ハ今日ノナリヲ

俗トシテ、違ハヌヲ本トスヘシ、佛ヲ禮シ、道ヲ說クモ、ソレ〳〵程ノアルベキコトナリ、勢ノ叶ハヌコトヲ、是非トモニセソト思フハ、愚痴ノ至リ也ト仰ラル、

○十月六日、 參候、

凡ソ物ノ、器用不器用ハ、サルコトナレドモ、生付テ習ハネドモ其コトニ堪能ナルコトアリ、生知安行ト云モ、疑ベキコトナラズ、昔後西院ノ御時、御方違ニナラセラレシコトノアリシニ、方違ニハ、雞鳴ヲ唱テ、還幸ナルコト常ノ習ヒ也、六位ノ藏人是ヲ勤ム、若シ六位ニ、サシアフコトアリテ不參スレハ、其日ノ下﨟コレヲ勤ム、其夜モ六位ノ不參ニテ、其坐ノ下﨟ハ七條中將ナリシガ、此人兄弟衆モ多ク、末ノ子タルガ故ニ、幼少ヨリ、近衞殿ニ居住セラレシガ、幼少ヨリ學問ノコトニハ、一カド器用ニモアリ、覺エモ强シ、御前ニモ、口惜キ程ニ思召タル人也、ソノカハリニハ、世間一統ノコトハ、甚タ不器用ニモアリ、好ミモセズ、琴三味線ハ勿論ノコト、能囃子一切ノ亂舞ヲ初メ、碁將碁ナニモカモ、目ニモカケネハ、仕テモ見ス、世間ヘ出シテハ、チト不調法ナル程ノ人ガラナリ、然ルニ、其夜ノ雞鳴ヲ唱ラレシハ、勿論下地ニ稽古アルベキヤウモナシ、不圖出テテ唱ラレシ雞聲、サナガラ生ノ鳥聲也、人々感ニ堪タルホドニアリシハ、一座ノ入興ニテ、昔シノ孟嘗君モカクヤト、御戲ナリシホドナリ、ソレヨリ仲間ノ諸卿、相戲レテ、諸禽獸ノ聲ヲ唱ルニ、其顏ヲ見ザレハ、生禽獸ノ如シ、異事ト謂ツヘシ、是其夜ノ御儀ナケレバ、此雞鳴モナシ、其器用モ知レズ、スレバ人ニハ、性質ニ器用アリテモ、不仕合ニテ、一生シレヌコト多カルベシト仰ラル、

○十月十五日、 參候、

中井主水定覺ガ、常修院殿ヘノ咄シニ、昔シ加藤越中守ハ、武威ノ天下ニカクレナキ者ナリシガ、茶ノ湯ノ沙汰ハ、サマデ聞ザリシカ、或時ノ所望ニテ、金森宗和ヘ參ラレシガ、甚タ唱嘆ニテ、宗和ノ茶ハ、名人ト謂ツヘシ、我所望セシハ、全ク茶ノ儀ニアラス、其氣ノヒツハル所ヲ見ソト欲シテ也、ニヨツト炭取ヲ持テ出ラレシヨリ、一禮ヲ述ケルマデニ、スキマアラバ、鑓ヲ入ベシトネライシカ、氣ノ滿タル處、一毛ノスキマモナクテ、終ニ鑓ヲ得入レズト語ラレシガ、誠ニ御上手也ト、承リ及ヒヌト申タリケレハ、常修院殿、サコソアルヘケレトテ、大イ嬉カリ也、

○十月廿八日、 參候、

愆ノ字ヲ、順カ和名抄ニ、スミサシト和訓セリ、讀ハサアリテ音ヲ知ラズ、夫ヨリシテ、字彙ヲ初メ、正字通、字典ニモ、其字ナシ、續字彙ニ、初テ音滿トアリテ、全ク字註ハナシ、如何

ナルコトニカ、スミサシトハ付ケケント思召テ、ソレヨリ人々ニ仰テ、御考アリシニ知レデ、續字彙ニモ、篇韻ニ見エタル由ナレバ、五音海ノ篇韻ヲ考ラレシカバ、續字彙ノ通リニ出デ、、外ニハ註モナシ、近代ノ名物六帖ニ、樒ノ字ヲ出シテ、スミサシト訓シ、正字通ヲ引テ、墨工人具トス、コノ分ニテハ、スミサシニ限ルベカラズトテ、其夜ハ濟マス、翌日參候ノ折節、又トヨ、品字箋ガ手柄セリ、品字箋云、[闕字]

コレニテハ、大方スミサシトモ云ベキカ、併イトヲモ云ベケレバ、未タ決セスシテ、和名抄ノ首書ニモ、得カ、ズト仰ラル、竹冠ニシテ候ホドニ、スミサシニテ候ヘキカト申シ上グ、

併ラ篇傍ニテハ定メ難キヿ多シ、總シテノ御センギ如此、

〇同廿九日夜、　參候、

津輕殿ヨリ獻上ノ、蠟燭ヲトボサレテ、御ウツシ物ヲ遊バス、其光リ明ニシテ、油煙ナク、色白キコト、白雪ノ如クニシテ細シ、他ノ蠟燭ノ數丁ガケニタツコトナシ、奇麗ナルコト云バカリナシ、是コソ夜會ノ御茶ニ、然ルヘシト申上シニ、サレベトヨ、其爲ニ云ツカハセシ也ト仰ラル、夜會ノ茶ハ、燈ノカゲン、燭ノキリ時アリト、兼テ承リシカ、加樣ノ燭ニテコソト申上シ折節、玉井女中局名、御前ニテ、短檠ノ燈心ハ、幾筋ニ致スガ好候ヤト申上ラル、是ハ一大事ノ秘藏ノコト也、凡ソ燈心ヲ入ル、コト三條ミスジハ四スジヨリ明ナリ、五筋ハ六筋ヨリ明ナリ、七筋ハ八筋ヨリ明ナリ、兎角ニ半ニスルガヨシ、是ハ獅子吼院殿ノ發明ナリ、凡ソ燈ヲ半ニ立ルハ、眞ヲ立ルナリ、丁ニスレバ、光二ツニ分ル、故ニ眞ガ二ツニ立ツ故ニ暗シ、兩傍ヲソヘニ立テテ、中ニ一ツノ眞ヲ立ル故ニ、明ナリト仰ラル、尤ナルコトナリ、ソレヨリ、御前ノ御書寫ノ燈、七スヂヅ、ナリト、玉井申サル、

〇霜月朔日、　參候、

御違棚ニ、大手鑑アリ、是ハ昔シ、漢ノ上筆ノ名高キ圖ヲ、養朴ニ殘ラズウツサセタリ、拜見スベシトテ聽サル、高然熙ガ山水、日觀カ葡萄ヲ始トシテ、世々ノ名筆ノ圖式イト見事也、上下ノ表白ノ裏ノ見カヘシニ、東坡ガ畫山水ノ石摺ヲサシタリ、是ハ三菩提院殿ノ、大イ稱美ナリ、氣ヲ付テ見ヨ、凡ソヲシ畫ハ、上カラヲシタル物ナリ、表白ノ見カヘシ、〇〇〇埋シテヲシテ、四方カラ金ヲキセカケタリ、中モ皆畫ノコトナレバ、見返シニ、畫ニテモアルマジトテ、大ニ稱美セラレシト仰ラル、

御物ズギハサルコトナガラ、及フベキコトニハアラズ、

〇霜月六日、　參候、

明日一條殿ヘ參ラバ仰ゴトアリ、此一品ヲ持參シテ金ノハリコニ、人形チサマ〳〵ツメラレテ、申上クベキ樣ハ、若君ノ御方、御疱瘡モ順快ニテ、近々酒

湯ノ御沙汰ニテ、目出度コトニ思召ス、御容體ハ、日々ニ關白ノ方ヨリ聞召ス、先日ヨリ、御使ニテモ進ゼラルベケレドモ、只今ノ御身ガラユヘ、態ト其コトモナシ、道安ガ參ル由ヲ聞召テ、御言傳ヲナサル、由ヲ申セト、翌七日即チ參上、右ノ趣ヲ申シ上ク、表ノ小書院ニテ御對面、御烏帽子小直衣指貫ニテ、ツト參ルヘキ由仰ニテ、一ツ御間ヘ召サレ、御手ヲツカレテ、右ノ御返答ヲ仰ラレシ後、本座ニ返リテ、若君ノ御容體ヲ聞召サル、申モ愚ナリト云ヘトモ、御互ノ御禮節ヲ恐感シ奉ル、

○十日、　參候、

臺天目ニ茶杓ノ置様ヲ、今ノ人ハイカ、スヤト御尋アリ、常ノ如クニ、臺ニノセ申スト申シ上ク、御流義ニハ、茶杓ヲ茶碗ニカクルコトハ、是非モナク置所ナキ故也、幸ニ臺ヲ出スカラナレハ、臺ニノセテ出、臺ニモ盆ニモ、茶碗ハアヲノケテ置也ト仰ラル、

○盆ニ茶杓ヲキ様ノコト、世間流ノハ、茶入ヲマン中ニ置キ、茶杓ヲ客付ニ直（マスク）ニ置ナリト、申シ上ク、ソレハ茶入ヲキルトテ、キロフコト也、主付ノ方ニヲク、ヲキヤウニ口傳アリ、コレ見ヨトテ、置テ御見セナサル、如此ニユガメテナヲセバ、客ノ方ヨリ見テ直ナリ、直ニナヲセハ、客ノ方ヨリ見テユガムナリ、ヨク氣ヲ付タルモノナリト仰ラル、

○茶杓ノ茶ヲハラフニ、茶碗ノフチヲタ、クコトハ、常ノコトナリ、天目類ハ、フチヲタ、カズ、中ニテタ、クト覺ユ、天目ニカギルコトニ非ズ、フクリンモノトテ、フチヲ銀錫ノ類ニテトリタルモノハ、總シテフチヲタ、クヘカラズ、天目ハフクリンモノナレバ、勿論ナリト仰ラル、

○今ノ人薄茶ヲタツルニモ、茶入ヲ右ノ手ニテアシロフ、茶入ヲ右ノ手ニテアシロフハ、唐物ニカギリタルコト也、ソレナゼナレバ茶入ト茶筌ト並ヘタル間ヘ、手ノ入コトヲ嫌フ也、唐物ダテニハ、茶筌ヲコボシノ場ヘヨセテアレハ、間ヘ手ノ入コトモナク、唐物ノ大切ナルモノハ、左右ノ内ニテハ、左手ヨリ右手ハキクモノ故ニ、如此也ト仰ラル、

○茶杓ニ、節ナシト云モノアリ、象牙ニテモ、竹ニテモ、アルモノナリ、紹鷗マデノ茶杓ハ、節ナシナリ、利休ハジメテ、中ブシヲ仕出ス、節ナシノ茶杓ハ、利休ヨリハ入ラヌモノト云コトニ非ス、節ナシノ茶杓ニカギリテ、出ス場ガアリテ、ミダリニ出スモノニ非ス、上ニモ、紹鷗ノ節ナシノ象牙モアリ、織部カ獻上シタル節ナシモアリ、（見ヨトテ拜見ス、見ゴトナリ、）三菩提院殿ヘモ、所望セシカドモ、節ナシハ、セウ〳〵ノコトニテハ、入ラヌモノナリトテ下サレズ、是大ニ分アルコトナリ、節ナシノ茶杓ハ、盆ニカギルコトナリ、ソレナゼナレハ、是見ヨ、アヲノケテ正直（マスグ）

ニヲキタル體、唐物ニトリ合ハセテ、能恰好シタルモノ也、是ヲ茶入ニカケテハ、カヽリモセス、是非カクレハ、ウチカブセタルヤウ也、恰好モアシヽ、ソコヲ利休カ見タテヽ、中ニ節ヲツケテ茶入ニカケテ、節アルガ恰好ヨキ故ナリト仰ラル、

○唐物トサヘ云ヘハ、盆ニノスルコトニ非ス、唐物ノ中ニテ、盆ニノスルハ、ブンリン、丸ツボ、茄子、コノ三色ナラデハ、盆ニハノスルコトナシ、此外ノ唐物ハ、盆ニハノセズ、唐物ダテニスルコト也、

奥ノ御床ノ花入ニ、大水仙ヲ入ラル、（見コトナル由ヲ申上、）葉ハ今一枚モアラハ尙好カランカ、水仙ニカギリテハ、同シヤウノ葉ヲ、二ツツカフ、是ヲ水仙ノ二ツ葉ト云、

○頃日滋ノ井ヨリ、尋ニコサレシコト五品アリ、皆々大方ニ埒明タリ、中ニモ反古ノ字ノコトハ、イヂヲハリテ云ヤリシガ、大方ニ理運ト思召ス、滋ノ井ヨリノ不審ハ、古來ヨリ反古ノ二字ヲ、ホフグト和訓セリ、歷史等皆如レ此、即チ源順ガ和名抄ニ、反故ノ二字、齊春秋ヲ引テ曰、沈麟字雲槇、少清貧、以二反古一寫二書數千卷一トアリ、然ルニ頃日世ニ行ハルヽ、名物六帖ニ、北齊書ヲ引テ、披二反故紙一平トアレバ、反故トキルベキヤウナシ、披反ハ謂二披翻一、此間人從謂二故紙一爲二反古一、不二善讀一史之過也、御前ノ御思召ニ、順ホトノ人、齊春秋ヲ引テ書カレンニ、夫ホトノ疎末ハアルマジ、然レドモ今齊春秋ト云書ガナケレバ、證トスヘカラズト思召テ、沈麟ガ傳ニハ、此事アルヘシト思召テ、南史ヲ御覽アリシニ、此齊春秋ノ通リニ、全文ヲ載テ、反古ト書ク、然レハ反古ハ、反二却古紙一スルノ切字ニアラズ、古ヨリノ字ナリ、御前ノ意智ヲ通サレタリトテ御嬉ガル、

○右ノ御咄ノ次手ニ、手習ノ二字ヲ、テナライト和訓セシコトナド、至極ノコトナリ、手習ノ二字ヲ、和字ノ樣ニ覺エタルハ違也、漢字也、筆道ノ書ニ見エタリ、筆道ノ法ニ、五習ト云コトアリ、手習モ其一ツ也、眼習、耳習、口習、手習、心習ト云、心ニ習テモ、手ニ習ハザルコトハ事カナハズ、手ニ習テモ心ニ習ハザレハ、活シテ行コトアタハズ、先手ニ習テ、ソレヲ心ニ得レハ、自由自在也、シカレバ、テナライトハ能和訓セリ、筆道ニカギラス、萬事如レ此也、タトヘハ、心ニハ熟シテモ、其コトヲ仕習ハザレハ、思フヤウニ先ヘ行カレズ、手ニハ熟シテモ、其コトヲ心ニ得ザレハ、其習ヒ得タルコトバカリハ、思フヤウニ行ケトモ、ソレヲ側ニセヨトカ、左カラセヨトカ、格ニ違フト行カヌ、心ニ得テ手ニ習得レハ、心ノ樣ニ手ガ動キテ、千變萬化シテモ、ツカユルコトナシト仰ラル、（コレ萬事ニ覺悟アルヘキコト也、手ニテ先覺エヌキテ後、心ニ得ル萬事ノコト此ヲ稽古シ、熟スルヲ手習ト云、）

○濃茶ニ、初むかし、後むかしと云名ニ付テ、昔ノ字ニサマ〳〵

ノ說アリト申ス、廿一日ニ取タル茶故ニ、昔ノ字アリナト、附會シテ申スハイカヽト窺フ、仰ニサレバトヨ、無禪カイツモ申セシ、唯今ノ昔ニマサリタルモノハ茶ナリ、秀吉ナトノ時分ハシブ茶トテ、味ノ澁キヲ用タルヲ、其後製シテ白茶ト云モノヲ出シテ、又モトノシブ茶ニナリシガ、ドフシテモ、昔ノ白茶ガヨシトテ、白茶ニ極リシト也、初後ハ、初メテ芽ヲ出シタル眞ヲ、ツミタルガ初ナリ、其ワキヲ、カヽエタルヲ、二番ニツミタルガ後也、右ノ白茶ニ極リタルカラ、昔ノ初（ハツ）、昔ノ後（ノチ）ト云心ニテ、初むかし、後むかしト云也ト仰ラル、

○今ノ上流ノ茶人ノ、濃茶ヲ立ルハ、全ク茶筌ヲフルコトヲ用ヒズ、只コネマハスヤウニシテ出ス故、泡ナト立コトハ勿論ナシ、悪ク下手ノ立ルニハ、底ニ殘ルコト多シ、茶ハ好クフリタルガ味好ト存ス、久シクフレハ、茶氣ヲ脫スト申ス說ハ、イカヽニ候ヤト窺フ、仰ニ茶筌ノフリヤウハ、茶ニヨルコトナリ、初むかしナトハ、味ハ薄ク氣ヌクシ故ニ、久クフリテハ悪シヽ、茶ノ下ヲ上ヘフリタテヽ、サツト建ルガ好シ、後むかしハ、氣味トモニ厚キ故ニ、上下トモニヨクフリタテヽ、ヨク〳〵立ルカ好ト仰ラル、

○今ノ茶人、カリソメニモ、古金襴ニ、名物ガイキノウラヲ付ルコト、常修院殿ナト、イカイキライナルコト也、結構ナル物ナルホトニ名物ナルホドニトテ、用ユヘキヤウハナシ、古金ランハ未（マヽ）シ、東山ノ物ズキニテ、用ラレタル物ナレバ、左モアルヘシ、名物カイキハ、代（シロ）ノ貴キマデニテ、物ズキニ非ス、（前カトヨリ仰ニ、棗ニ古キンランノ袋ヲカクルコトモ、何ノ由ナキコトナリ、近代ノハヤリコトナリ、常修院殿ノ、常ニ是ハ茶ニ入タル道具也、茶ニ入ザル道具ナリトハ仰ナリ、名物カ名物ニ非カトハ、仰ラレズト、）

○十六夜、參候、

夜會ノ茶湯ニ、手燭ヲ出スコトト、短檠ノ置處トヲ窺フ、今ノ人、迎ニ出ルニハ、手燭ヲ持出テ、、客ノ中立ニハ手燭ナシ、コレハ如何ニ候ヤ、仰ニソレハ、御流儀ナトニハナキコト也、客ノ出ルニハ、尙以テ手燭アルヘシ、（コレニ分ケアリ、奥ニ詳ニ記之、）先手燭ハ、出シ入レト、眞ノキリ時ト、此二ツナリ、先亭主手燭ヲ持出テ、、客ヲ迎フ、客ソノ手燭ニテ手水シ、其燭ヲ入テ掛物ヲ見終リテ、其燭ヲ道具出ス疊ノ眞中ニヲク、柄ヲ主ノ方ニス、兎角手燭ヲ持ツハ、イツニテモ、二ツ足ヲ持ヘシ、手ヲ持ヘカラス、其子細ハ、纔ニ柄ヲ持テバ、必ユガム、ユガメハ蠟ナガルヽ故也、（前カトノ御咄ニ、手燭ノ柄ハ柄ニアラス、ヤハリ三本ノ足ヲ、一方ハノバシタル物也、ト仰ラル、）亭主出テ、其燭ヲ入レ、相應ノアイサツシ、眞ヲキリテ持出テ、、炭ヲスル、其燭ノ置處ハ、主ノ向ノ上ニ、角（スミ）カケテ、爐中ノ見ユル樣ニ置コト也、扨炭ヲ仕廻ト、又燭ヲ入テ眞ヲキル、（燭ヲ一度〳〵ニ、立テカユルモ仰山也、又初ノ燭バカリニテ、眞ヲキルハカリニテハ、短クナル、所詮二丁立テ、置テ、取替ルカヨシトナリ、）膳ヲ出シサマ

ニ、暗キホトニ燭ヲ出スヘシト挨拶ス、客ノ方ヨリ幸ニ、燈ニテ閑寂ニテ好シ、燭ニ及ヘカラスト云ヘハ、不出コトモアリ、出サヲハ、菓子ノ時ハ必ス出ス、其燭ヲ客持テ出テ、中立ス、亭主ムカイニ出ルニハ、別ニ手燭ノ眞ヲ、ヨクキリテ持テ出テ、待合ノ手燭ニカヘテ入ル、中入ノ後ノ燭ノアシライ、最前ノ初入ニ同シ、

○短檠ノ置處ハ、爐ノ脇ノ十一目、十二目、或ハ九目ニヲクト申ス説ノ候、トカク爐ノ檀ノ上ニ、燈影ノ分半（マンナカ）ノコル樣ニヲクト申スハ、イカヽニ候ヤ、仰ニ燈ヲ出スコトハ、全ク爐ノ爲ニアラス、燈ハ座ノアカリノ爲バカリナリ、手燭ハ全ク爐ノ爲バカリニテ、座ノ爲ニアラス、故ニ短檠ノヲキ處ハ、一座ノアカリヨキト、給仕ノ邪魔ニナラヌ處トニ、ヲクコト肝要也、但シ床ノ影ノウツリヲ、能々考フヘシ、床ノ掛物ヲ、晝ニテモ、墨蹟ニテモ、半分ニキルヽヲ嫌フナリ、大軸ノモノニテ、全ク明リニナラ子バ、一向ニ影バカリカ、一向ニ明リバカリカニスルコト也、

○夜會ノ掛物ハ大字ノモノカ、トカク、ハキトシタル物ヲ掛ケテ、燭ナラテモ、見好キ物ヲカクヘシ、食物ナドモ、其心得ニテ、骨ナキ、喰好キ物ヲ出スヘシ、

○極月六日、參候、

三日ニハ、有隣軒ヲ茶ニ招テ、水仙ヲ生シヲ、二三相伴ニ參リシガ、水仙ヲ見テ申セシハ、常知、常ニ申シヽハ、茶ニ行テ水仙ヲ褒ルニハ、葉ガ好ク出タリト申スコト、故實也ト承ルト、如何樣ニモ、水仙ノ花ニハ、指テ亭主ノ功ハナシ、尤ナルコト也ト仰ラル、（二三ハ、織田ノ常知ニ付テ、幼少ヨリ方々ノ茶湯ニ、ハヅル、コトナカリシト云、有樂流也ト、）

○平松中納言ハ、兼テ病身ニテ、籠居ナリシガ、此度入道ノ願アリテ、色々ノ理屈タラ〳〵ナリシガ、漸々ニ申上テ、首尾ヨク仰出サレタリ、サレドモ、今歳三十ノ餘ニテ、子息モ未ダ結番ナシ、定テ來三月時分ヨリハ、御番ヲモ勤ムヘシ、夫スミテ、入道センコト本意ナレトモ、上ノ事ヲ推察スルモ、上ヲ侵スニ似タリ、又今入道セバ、結番ノ札ヲケヅラルヘシ、暫クモ、平松家ノ闕戒モイカヾ也、イカヽアランヤト、此コトタラ〳〵ノ理屈ナリ、願ノ叶ヒタル上ハ、何時ニテモ、苦シカルマジキコトナリト、關白樣ニモ御意アリシヲ、倘窺ヒノ爲ニトテ、御世世殿（交野殿ノ息女、中納言殿ノ室、）ヲ關白樣ヘ遣シテ、再ヒ窺ル、中ニ、宿ヨリ急用ノコトアリ、急ギカヘラレヨト、侍從殿ヨリ云來ル、急ギ歸ラレシカバ、早入道セラレテ、於世々殿ニモ、侍從ニモ、イカイ肝ツブシ也ト、又於世々殿ヨリ、タラ〳〵關白樣ヘ、云分ケシテ申サレシト也、一昨日モ、關白公御方違ノ終リニ、御成アリシガ、入道ノ身ハイカヽ也トテ、外ヘ出ントアリシヲ、サ

マ〱ニ云テ、御對面アリケルト也、主ノ身ノ本望トハ云ナガラ、アレホトノ人ノ入道ハ、最惜キコトト、御褒美ナサル、准后樣ヨリモ、御道服ナド其外品々ノ拜領アリテ、向後ハ、御臺所ヨリ、御出入アルヘキ由、仰遣ハサル、イカイ滿足也トノ仰也、

○右ノ御咄ニハ、似ルベクモアラヌ、勿體ナキコトナガラ、私儀近年漸ク老境ニ臨ミ、日ニ病身ニナリ候ヘドモ、無祿ノ身、俄ニ隱居イタスヘキ樣モ候ハズ、何トゾ其端ヲ開テ、一兩年ノ際ニ、療治ノ身ヲ脫脚イタシタキ願アリ、先近邊ニ寓居ヲ定メ置テ、借リ藏ト名付、寢處ニイタシタキ願ニ候、春ニ至リ、志ヲ成就致サハ、願ノ筋モ候ユヘ、常陸殿マデ、御噂申ス也、此コト努々他ニハ漏サズ、兼テ御聞ヲキ下サレヨト申ス、常陸コトノ外ナルコトヨ、一安トテモ未ダ若シ、婦モ幼少也、今シバラクハ見立ヨカシト申サル、御命ニイヤトヨ、人ニ進メハナラヌコト、其志コソ尤ナレ、何モ角モスメテ、斯セントシテハ盡期ナシ、先一先少シ動キテ、終ニ脫脚セヨカシ、齒ノ脫ルモ、アタマカラ動カヌ齒ハ、脫レズ、動ケバ、脫ク便アリ、如何ニモ左樣ニシテ、跡ノ相續ヲシ、其身ヲ脫脚センハ、其方一分ノ手柄也、相續セント思テモ、相續セラレ子バナラズ、イカサマニモ、左アラバ本意ナルヘケレト、却テ御褒美ナサル、世ニ有難キ御命、心肝ニ銘ズ、御威光ユヘ、如斯ニツトメ、退去ノ志ヲ立ルモ、偏ニ御カゲ也ト申上ク、如二例年一御服拜領シテ、初更退出ス、此公ノ御器ヲ推察シ奉テモ、及カタキコトナカラ、此コトナト通例ニテハ、タトヘ御心ニハ、尤ト思召ストモ、サモアルマシキコト也ト仰アルヘキニ、急ニ思ヒ立ヨト御意アルモ、恐ナカラ有難キコト也、常陸ノ局ノ申サルヽハ、御意見コソナクトモ、異ナコトヲ御スヽメアルコソ、由ナケレトテ、後ニハ大笑ナサル、

○御前ノ御隱居モ、關東ヨリ御上洛ノトキ、スグニ御別業ヘ入御ナル由ヲ、常陸申サル、サレバトヨ、此ニハ少シ自慢アリ、本殿ヨリ、道具ヲハコバセザリシハ、年來ノ宿意也、前年ノ土用干ニ、別業エ遣ハスヘキ、御本箱、御茶器ノ分ニ、御朱印ヲ押テヲカレ、毎月御本殿ヨリノ御使ニ、一ツ二ツヅヽ、一年モカヽリテ取寄タリ、出來シタルガト仰ラル、感シ奉ル由ヲ申シ上ク、此中深ク意味アリ、下々ノ身ニテハ、尚以テ心得アルヘキコト也、感スルニ餘リアリ、

○九日、　左馬頭ヘ渡御、(午後)拙、御供、

待合、上ノ烟草盆、御圓座、手爐、次ノ烟草盃、圓座、

掛物、即之、川本作張即之、

香合、カウチ、麒麟、

釜、阿彌陀堂、養德寺ト銘アリ、

會席、

汁、ウスブクサ、子イモ、ゴマ、サンセウ、

平、ス、ナ、カモ、小鳥タヽキニシテ、

香物、菜ノ切漬、ナラツケ、南京ノ青繪手付鉢
皿、一鹽ノ鯛、玉子付ムシヌキ、杉ノ盞、竹の取手
ミゾレ酒、
吸物、松茸の徑一寸計ニ細クサキテ、フキノトウ、
菓子、栗飯餅、(川本作栗粉餅)シキザトウ、チヨロギニシメ、
御中立、
花生、遠州一重切、　花、臘梅、赤椿、
水指、備前、ヌリブタ、
茶入、黃クスリ、　袋、黑丹時代青地金襴、
茶杓、織部、
茶碗、伊丹、手燒、
書院床、默庵山水、次床、置花生、一本ニ白玉、備前黃梅
次ノ間屛風、主馬、彩色雪松雉子、亥刻還御、
○十日、御茶、深諦院殿、捆、
御待合、圓座計、手水桶ナシ、奥ノ御小座敷、
御掛物、市之カ梅ノ墨繪、陳之筒之讃、一文字、青地ノ印金、中金紗、上下、鼠地ドンス、
釜、アシヤ、宗和所持ノ由、常修院様ヨリ御相傳、
御香合、堆朱丸キ牡丹ノ模様、楊茂製、
御會席、
御汁、スマシ、鱈四角ニ切リ、細昆布二切、

皿、赤繪柿七ツ金襴手、　蚫、ウチ貝味噌付燒二切、
御平皿、麩、クルミカケ、
御吸物、フジキ味噌、ヨメナ、午房、鶉、　猪口、コノワタ、
御肴、芝川苔、南京染付鉢、
中立、御待合ニ煙草盆、手爐、前ニ幔幕、手水桶、柄杓、
御花、柳ニ水仙、　花生、備前丸キ薄板、チキ花生、

御水指、志野燒、手付口アリ、ヌリ蓋、
御茶入、古戸瀬根ヌケ、

袋、シゞラカン東、裏カイキ、
御茶杓、常修院様、
御茶碗、彌兵衛燒、黑樂東陽坊ノ寫、
御書院掛物、唐筆墨繪ノ龍大小
奥ノ御床、探幽墨繪ノ富士、
御掛花生、御手作、　花、緣萼梅、赤椿
○十一日、　律君様、御深曾木御祝儀參上、
午後御儀式拜見、未刻退出、
○先日左馬頭が、手水鉢ニサシタル湯ハ、アツスギタルニハアラズヤト仰也、覺悟不レ仕ト申ス、常修院殿、常々冬ノ手水鉢ニ湯ヲサスハ、ツメタクナキヲ專トス、手ヲ溫ル爲ニ非ズ、ソレニ

ハ湯桶アリト仰ナリト、尤ナルコトナリト、

○頃日、東宮御方へ參リテ、孝經ヲ遊ハシテ聞サル、侍讀ヨリ、獻上ノ本ノ由、貞享年中ノ版也、還御ノ後、此本ヲ召サルレトモ、今ハ此版本ナシト云、何トヤラン、文字ニ疑シキ處多シ、色々ト吟味ヲ遂テ、一本摸寫シテ獻セント欲ス、御家ニ、玄宗ノ石刻ノ孝經アリ、隨分文字正シ、此ヲ本ニシテ獻ル、伏原ヘモ一本遣ハシテ、此ニテ侍讀アルマジキヤ、文字モ吟味アレカシト、云遣ハスベシト、仰ナリ、

○十六日、石見守宅へ渡御、意齋、拙、

掛物、薩州探元給ニ、程順息カ讃、

香合、ナマリノ黒ヌリ唐物、

會席、　汁、ウス服紗、タヽキナ、カボチヤ、　平皿、ハンペト鴨ノ細キリ、青味ニヨメナ、

燒物、ホウボ色ツケ、　吸物、タマゴ白ミ、ツクヽヽシ、

菓子、モロコシ、シキサトウ、梨、

花生、マドナシ、御作、　花、白梅、フキノトウ、　水指、シカラキ、

茶入、大海、金華山ノ手ノ由シ、　袋、丹地ノ安樂庵、　茶杓、宗和、

茶椀、カラツ新渡、　暮前還御、

○十八日、　御本殿御年忘、

准后樣、左大將樣、入江樣、芳林院樣御成、拙參候、暮後退出、

○十九日、　右御禮ニ、御本殿參候、

今日ヨリ、八世君ノ御方、御疱瘡ノ御序病ニテ、廿六日ノ夜マテ平詰、廿六日ノ夜半ヨリ、律君御方御疱瘡ニテ、河原御殿ニ伺候ス、明ル廿七日、八世君ノ御方御逝去、此君ノ御コトハ、御胎内ノ中ヨリ仰ヲ蒙リテ、御養生ヲ致スノ處、七年ノ間、何事ナク御成長ノ處、思ハズモ、斯ノ御コト出來スルコトノ悲シサ、筆ニモ盡シカタク、心中ノヤル方ナキニ付テモ、玉ノ蜜モ何カセント、シキリニ悲悔ス、上ノ御心、母氏ノ心中、思ヤルモ大方ナラズ、悲歎ノ涙ニクレナカラ、上ノ仰ニ、此方ハトテモナルマシキ御コトニ醫師モ多ク集居ス、河原ニハ誰モナシ、早ク參レトノ仰ヲ蒙リテ、ナクヽヽ退出ス、

○廿七日、　今日ヨリ、律君御方御疱瘡ニテ、正月七日マテ、河原御殿ニ平詰ス、

廿九日ノ夜ノ仰ニ、八世君ノ逝去ニ付、關白出仕ノコト、御ウカヽヒニナリシカ、七歲未滿ニハ、服忌ナシト雖、スデニ舊冬廿五日、立春ナリシ上ハ、八歲カト云ノ御僉儀サマヽヽニテ、勅問モアリ、藤波、白川、吉田等モ召サレテ、評議アリシカ、ツイニ苦カルマシキ儀ニ極リテ、夜前傳奏衆ノ、本殿へ參ラレシハ、夜寅ノ刻ニテアリシ由ナリ、御上ハ勿論ノ儀、諸大夫已下一人モ不二退休一、是ハイカナルコトニヤ、七歲カ八歲カト云吟味ナラハ、年ニコソヨルヘケレ、節ニハヨルヘカラス、藤波ノ二位ナト、生テ居ラレハ一理屈云ヘキ男ナリ、イカナル故ニヤト仰ナリ、何トナク出仕ハアルヘカラス、御免アルヘキコトノ思召カ、大格七歲未滿ノ人、無服ト云コトハ、死シタル人ノコトニテハナサソウナリ、上古ノ無服ト指シタルハ、七歲未滿

ニテ、生テ居ル人ニハ、何ノ服モナシト云コトソウ也、服忌ハ、情ノ感ズルコトノ深キホト、服モ長キ筈ナリ、情ノ感ナキ人ハ服モナキ筈ナリ、シカレドモ、近代ノ通例、イサヽカ以テ違背スヘカラズ、必ヤ此コトナト、人ニハ語ルベカラズト仰也、

槐記卷第四　終

明治十五年五月
華族蜂須賀茂昭藏書ヲ寫ス
明治卅三年七月
依近衞公爵家藏本並川崎千虎藏本校正

小杉榲邨校閲
雛田千佳艮校正

槐記　巻第五

近衛豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

○享保十三年戊申正月元日、（舊冬廿七日已來、日々參候、夜ハ御宿、律君御方御疱瘡ノ故ナリ、）

○元朝ノ雜煮、ナラヒニ朝飯、拜味シテ退出ス、

○二日夜、

數寄屋圍居ノカザリニ、釜ハ常カザリトテ、動カヌモノ也、其外ハズイブン、丁ニナラヌヤウニ、指合ヌヤウニスヘシ、ソノ本ノカサリ出シノ第一ハ、花ヲモトニシテ、花ヨリシテ物ズキシ出シテ、諸事諸物ノ、サシアハヌヤウニセヨトノコトヲ、常修院殿ノ常ニ仰ラレシ由也、

○四日夜、

物ハ何カ益ニ立ヘシトモ、立マジキトモ云難シ、先年ノ大火ノトキニ、禁裏炎上ニテ、其後造營事ヲハリテ、紫宸殿ノ賢聖ノ繪ノ間ヲ、畫師ニ仰ラレシニ、奉行ノ方ヨリ、人形ノ大サヲ問ニコシタリ、紙ノハバ、書付ノコトナドコソ、悉クハアレ、人形ノ大サトイフコトハ、又人形ニモヨルヘキカ、併大方ノ準ハアルベキコト也、問ニコシタルモ、無理ナラズト思フカ中ニ、キツト思ヒ付タルコトアリ、炎上已前ノ賢聖ハ、探幽ガ書キテ、見事ナルコトナリシヲ、炎上ノトキ、今ノ新藏人カ、紫宸殿ニ走リ入テ見レトモ、左ノミ仕出スヘキ態（ワザ）モナシ、賢聖ノ像ノアマリニ見事ナルマヽ、一枚キリヌキテトリカヘリシヲ、錦小路ガ、勝手口ノフスマニ押タルヲ、思ヒ出シテ、トリニヤリテ送リシカ、大ニ悦テ、此ヲ圖ニシタリト云、

○ツボカザリト云コト、昔モメツラシキコトニテ、常修院殿へ所望セシカトモ、度々ハナサレズ、唯一度ソノ茶ニアヒタリ、今ノ流ニハ、セキモリトヤランニテ、ニジリ上リノ口ニ、ツボヲ餝ルコト也ト云、御流儀ニハナキコト也、床ニキハメテカサラレタリ、客入テ、常ノ如ク拜見シテ、亭主出テ、御壺ヲカサラレタリ、先以テ御口切ト見ヘテ、別シテ忝シ、迚ノ儀ニ、緒ツカリヲハヅシテ見セラレヨト云、覆ノアルモ、緒ノツカリアルモ、アミノアルモアリ、ソレ〳〵ノアシラヒ也、鼻紙ヲシキテ、底マデヲ見テ、亭主ヘモドス、亭主入テ口ヲ切ル、（客ノ前ニテキルト申スハ、餅ガコトニヤト窺フ、ナシト仰ナリ、）

○六日夜、

先日石州ノ茶ニ御渡ノトキ、コノ頃二三ガ話ニ、去ル方へ茶湯ニ參リテ、セイシト申茶入ヲ見タリ、織部ガ文ノソヒタルヲ

掛タリ、御存シニヤト窺フ、不レ知ト云シカ、覺エヌニヤト仰セラル、已前ニ見侍リヌ、存シタル者所持ス、大黑屋、東右衞門此ヲカリテ、此夜御目ニ掛ル、初メテ御覽アリヌト、是ヨリ又勢至ノ茶入センサクニナリテ、鴻池道億ヘ上問ニツカハサル、尤モ名物ノ名目ハアリテ、古今コレナキモノ也、勢至ト云名ハ、佛經ヨリ出テタル名也ト申セシ也、此頃應山ノ遊シタル茶ノ書ニモ、勢至ト云名物ノ銘ハアリテ、世ニナキモノトアリ、已前道億カ申セシハ、唐物二十八色ノ中ニテ、鶉ノ手瓶ノト云モノハ、眞ノ唐物ニアラズ、島物也ト申セシカ、イカサマニモ眞ノ唐物ニテナキ處アリ、上クスリニテヨク〳〵見シルヘキ由ニテ、御見セナサル、唐物茶入、上作ノ物ノ目利ニハ、底ヘ手ヲ入レテ見レハ、チョボリトシタルモノアルハ、トカクニ上作ト知ルヘシ、此大秘藏ノコト也、內ニヘラヲツカハヌ故ナリト仰セラル(近本無此條)

○七日、今日ヨリ、知君御方御疱瘡ニテ、廿一日迄平詰ス、

○廿一日夜、房君御方御熱ニテ宿ス、

先日七日ノ午、例年ノ如ク、御茶湯初ニテ、當年ヨリ、始テ左馬頭ヲメサル、コレマテ、宗也ト玄察ト一葉ト也、玄察死テ宗也一葉也、一葉死シテ宗也左馬頭也、宗也ト兩人也、午後左馬頭參テ、暫シテ宗也ヨリ書狀モテ、持病サシヲコリテ不參ノ由ヲ申上クルマヽ、石見守ヲ加ラル、カヤウノトキコソ、一亭ノ場也ト思シカトモ、左馬モ若キモノ也、ソノ上主客主從ニテハ、左馬モ迷惑スヘキカト思ヒテ、思ヒトマリヌト仰セラル、イカサマニモ、イデ一客ヲシテ見ント思ヒタラハ、此ヤウナ場ニテアルヘキモノ也、一葉存生ナラハ、遊ハスヘキカ、

○二月三日、保君御方御大病御本快後、初テ御灸、天祀中脘ニ付、常陸ノ局御膳上ラル、等佺、拙、參候、

○茶入ノ底ハ、ヨク〳〵ニ能掃テモ、未茶ノコリテアルモノ也、何心ナク入ルルト、新茶ノ中ニ古クサキ香アリテ、シダラクニ見ユルモノ也、此底ノ茶ノトリヤウアリ、常修院殿ヨリノ傳授也、ヒキ茶ノ葉ヲ入テ、ウチニテ粉ニシテハラヘバ、抹茶ヨク出ルモノ也ト仰ラル、

○四日、參候、

梅ヲ好文木ト云コトハ、何ゾニテ見當リタルヤ、先年モセンギシタルコトナルカ、又此度モ、淵翰類函ニテ見シカトモ、梅ノ下ニナシ、アレニナキカラハ、何ニモナキ筈也、好文ノ二字、唐人ノ筆ナラバ、好學ト云ヘシ、好文トハ云ベカラス、イカニ思フニヤト仰ラル、(近本淵翰作淵鑑)

○後水尾院樣ハ、立花ニ於テ、甚タンノウアル御コト也、禁中ノ大立花ト云コトハ、此御世ニコソアリケレ、主上ヲ始メ奉リ、諸卿諸家トモ、其コトニ堪能アル人ヲ撰ハレテ、紫宸殿ヨリ庭上南門マテ、雙方ニカリヤヲウチテ、出家町人ニカキラズ、其事ニ秀タル者ハ、皆立花サセテ雙ラレタリ、秀吉ノ大茶湯後ノ一壯觀ナリ、專光カ櫻ノ一色ト云コトハ、此時ヨリゾ始マリケル、投入ト立花トハ、心持モ格別ナルヘキコトナガラ、立花ノ意ヲ

知ラズシテハ、投入ハナルマシキコト也ト申シ上ク、イカニモ立花ハ、草木ノ道理ヲツメタルモノナレハ、立花ノ意ヲ知テ、投入ヲセハ好カランカ、立花ノヤウニ投入ヲスベカラス、

○立花ハヲモシロキモノニテ、ソトコレニスキ出シテハ、外ノコトハ、耳ニモ目ニモ入ラズシテ、晝夜コノコトヲ思ヒ入ルルモノ也、後水尾院ノ御傳授ヲ受テ、兼テ堪能ナリシハ、獅子吼院殿ナリシカ、或トキ後水尾院ノ、獅子吼院ヘ、立花モヨキホトニスルガ好シ、朕カ歯ノアシクナリシハ、立花ユヘナリト仰ラレシカバ、獅子吼殿ノクツ〱御笑アリテ、側ナル方ニアノ御歯ノ脱タルハ、歌ニテアシクナリタル也、立花ノ咎ニテナシト仰ラレシカ、御耳ハ遠カリシ故、主上ノ御耳ニ入ラス、衆ヲカシカリシコトナリト仰ラル、

○八日、　參候、

先日中島某が、御本殿ヨリ拜領ノ、御肴ノ廣メヲ致セシが、拙父子並ニ門人、心易キ朋友ナドヲ呼侍シが、凡テ拜領ノ肴ナドス丶メシニハ、致シヤウアルヘキコトニ候、イカ丶ノ思召ニヤト窺フ、拙方ニテモ、心易キ者トモノ中スハ、其御肴一色ヲ指身ニモ、汁ニモ、燒物ニモ致サバ、好カランカト申ス、拙カ存シ寄ニハ、カヤウノ處コソ、鉢飯ノ場ニテアルヘケレト存ス、膳ニ指身ヲ付テ飯椀ヲフセ、鉢ヲ跡ヨリ持出テテ挨拶セハ、自ラ拜領ノ辱キヲ述ブルニナルヘキヤト申上ク、仰ニ尤也、朋友ドモノ中スハ、世間通例也、ソノ方カ了簡モ、團居ナトニテハ、一段然ルヘカランカ、書院ニテ最前ノ如ク、人ノ六七人モアラバ、膳ハ精進ノ仕立ニテ、鯛ハ何枚ニテモ、丸ナガラ濱燒ニシテ、亭主初メテ禮服ニテ、此ヲ盛ランコソ本意ナラメ、拜領ノ物ニ疵ヲ付テハ、詮ナシト仰ラル、

○十一日、　御茶、上田養安、拙、

御待合ナシ、圍坐二ツ、

御掛物、隱用江 近本作 印江月 ノ詩並喝、奥ニ年號月日、九十五歲トアリ、

一文字、白地ノ印金、中、紫地ノ古キンラン、上下、ドンス、

遶花御釜、松平伯耆守カ名物ノ、チトコセンノ寫シ、

御香合、カキノ手、朱ノ丸キ、二筋ノカナガヒアリ、甲ニ青貝ノ人形アリ、

フクヘニテ御炭アリ、

御會席、御膳モミナクリ色ニシテ、フチヲ青漆ニシテ、同シ椀イトメ、中クロ外クリイロ

御汁、シラガ午房、ヨメナ、セウガ、スマシ、タレミソカ、

御皿、キンランテノイマリ、燒鯛ヲ作リ身ニシテ、イリ酒、ボウフウ、ヷサビ、

御香物鉢、奈良漬、ナスビ、ウリ、南京ノ一文字ノ丸

御平皿、ツク〱シ、パン、

御吸物、味噌、ハエカシラヲウチテ、

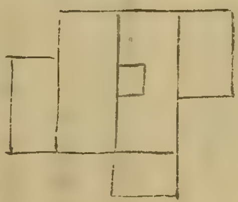
御小皿、タラノコ、花カツホ、

御菓子、青ト白トノ團子ヲ至極小ニシテ、シライト、シキサトウ、栗盆フチアツノ丸、

中立、

御待合、煙草盆ハカリ、手桶、柄杓、
御花生、宗和ノ二重、フンツクロイ、カスガイアリ、宗和ヨリノ文アリ、
御花、コフシノ一色ハカリ、
御水指、備前ノコセト、二重グスリトアリ、ヌリブタ、
御茶入、アテ手、アテノ手ニハ、二重グスリハナキモノノ由ナルニ、チキ付ニナタレアリ、カナケトマリニテ、全クアスカヲノヤウニテ、肩ニクロクスリアリ、

袋、白地ノ花ツルノ古キンラン、ウラ茶ノアカキカイキ、紫ノツカリ、茶入、水指ヨリ一目アケテ、横ハ大カタ、二目モアキテアルベキカ
御茶杓、細川三齋、
御茶碗、アタラシキ唐津、ハンスノゴキノヤウ也、
後ノ炭、常ノ如クアソハス、
御書院ノ床、龍富近本作ノユリノ畫、一文字紫地ノ印金、中ハ紋趙昌ドンス、上下金入、
青磁ノ御香爐、青鬼ノ作リモノ、手ニ臺ヲ持タル上ニカサラル、雲慶ノ作ノ由、
奥ノ床、探幽ノ山水、柱ニ高麗ノ燒物ノ花入、ツルレンゲウ、
御菓子、白マンヂウ、スイクカン、
御夜食アリ、亥刻退出、
○十二日、參候、
昨日ノ御禮申シ上ク、鉦ハ四ツト承リ候、音ハイカヽ聞ユケルヤランゾ、總シテ鉦ヲウツコト、初ノ一ツハ大キニ、ソノ響ノ止ムマデマチテ小クウチ、又響ノ止ムヲ待タズシテ次ヲウチ、又響ノ止ムヲ待テ大ニウツヘシ、常間ニソロウハアシヽト仰セラル、
○同夜、參候、左大將樣御成、
常修院樣ノ御圍居ノ圖ヲ出シテ御見セナサル、畢竟四疊ニ臺目ノ疊アル者也、アツ紙ニテ、アヒ紋アリテ、屋根ハナシニ立ラルヽヤウニシタルモノナリ、



コレハ中井常覺ニ云付テ、サセテモライタリト仰ラル、御流儀トハ申ナカラ、如此クハシキコトアルヘカラス、其次手ニ北窓ノ中ニ、常修院殿ノワスレヨシト云コトアリ、毎々同シヤウニ四角ニノミスルコトハ堅キトテ、ドレゾ窓ノ中ニテ、一處ハ一方ニ二本ノヨシヲ、一方ニ一本ニシテ下カ上カニクヽリテ、ヘコミタルヤウニアマレタリ、誤テ忘レタル心也、何某カ、常修院殿ノ窓ニハ、ワスレヨシト云コトアリト心得テ、窓ゴトニコレヲ仕タリト申ス、大ニ御本意ニアルヘカラス、ソレハ忘レ

ヨシニハアラス、覺ヘヨシナリト大笑ナサル、

○十四日、　參候、

先日有隣軒ノ茶ニ、彼岸櫻ヲ生ラレタリ、ヒトヘハ入ヤウニテ面白キモノナリ、幸ニ彼岸サクラアリ、生テ見ルベシト仰ラル、何トテナルベキヤト辭シ申シ上ク、是非致スベキ稽古也ト仰セラル、此ヲ致ス、ヲジメニハ、何ガ然ルヘカラント申上ク、總シテカヤウノモノハ、ヲシメナキカヨシ、一色ニテ立ルニ、身木ヲ見テ枝ヲトリアハセテ仕ヘシト仰ラル、因テ覺悟ス、先日ノ御茶ニ、コフシヲ生ラレシモ一色ナリ、身木ヲ見ルモノハ、枝ニテアシラウコト、御尤ナルコトナリ、アタマカラ枝ノモノハ、ヲシメニテアシラウヘキカ、

○掛ケ茶所ハ、道具疊ニ床ガツキテアリ、掛花生ナトスルニハ、水指茶入カザリ付テハ、道具多ニテイナモノナルヘシ、此時コソハコビニテアルヘキカト申シ上ク、尤也昔常修院殿ノ圍居ニ道具タヽミノ向ニ、床ノアル座敷アリシカ、其處ニテハ何時モハコビニテアリタリ、一度モカザリツケニテハ、ナシト仰ラル、

○十七日、　參候、

二幅對、三幅對ノカケヤウノ常ノ間ハ、イカホドニ致スニヤト窺フ、此モ說々アリ、昔ハ袋掛ノ釘ト、對ノ掛物ノ釘トハ、亭主々々ノ意々也ト云說アリ、袋掛ノ釘穴ハ、イクツモホリテアルヲ見テ、此亭主名物ヲ幾ツモタレタリト云コトヲ、客ノ知ルト云コトアリ、長キ袋ハ高クツリ、丸キ袋ハ下ゲテツル、袋次第ナリ、圍居ノ二ツ釘モ同シコトニテ、亭主大横物ヲ持テ掛ント思ヘハ、其掛物ノカカルヤウニ、二ツ釘ヲウツテヲクコト也ト云フ、二幅三幅ノ釘ハ、掛物ノ表具ヲ除テ、紙ノ幅ヲチキテ、中ヲ圍テ近本作開キテ掛ルモノ也、自然ト此恰好ヨキモノ也、コレニハヅレテ掛ラヌハ、ソノ掛物ノ、其床ニカヽラヌト云モノ也ト仰ラル、

○廿日、八幡御參詣、　入江樣御同伴、如石、拙、供奉、

明ケ六ツ二條ノ船入ヨリ御出船、伏見番所ヨリ御乘替、狐川ヨリ御上リ、大西坊ヘ御入、夫ヨリ御コロモ御ケサニテ、神前ノ奉幣三木御戴ソノカワラケ直ニ御懷中、道ニテ如石ニワタサル、御歩ニテ入江樣御同伴、船マテ還御、琴堂ヘ御出ノトキ、檐ニ琴ヲツルコトハ、漢ニテ椒坊ニアルコト也、日本ニテモ、琴の音に峰の松風かよふらし、ト讀メルモ是ナラン、此堂モ昔何レゾノ、椒房ヲ下サレケルコトカ、秘藏ノコト也ト仰ラル、

翌日參候ノ節、升庵外記ヲ御見セナサル、歷々トシテアリ、風琴堂ト云、瑟ニハアラス琴ノコト也、今ニモ琴ヲツリテ、風カヨヒハヨキ物ナリト仰ラル、（近本無此條）

○道中ニテ、遙ニ東寺ヲ見ヤリテ、俗說ニ一條ノ辻ト、東寺ノクリントハ、同シ高サナルコトヲ申ス、左モアルヘキコトニヤ、土地ノ高下ハイサシラズト申シ上ク、ソレハ前栽秘書ノ中ニア

ルコト也、イカニモ東寺ノクリント、一條ノ橋ト、同シ高サナルコトアリ、是ハ洛陽ノ水モリニ付テノセンサク也、下ニテ何ホト水ヲ激スレハ、上ニテ何ホドト云ツモリニ書レシコト也、俗説ニアラスト仰ラル、

翌日參候ノ節、前栽秘書ト云フモノハ、後京極ノ作カト覺ヘ、禁裏ノツクリヤウカラ、唐門ナドノコトマデ、委ク書タルモノ也、昔シ松平加賀守ヨリモ見セラレテ、實記ニマガイナクハ、外題ノ奥書ヲシテクレト望マル、マガフヘクモナク、後京極ノ時代ノ筆跡ニテ、巻二巻アリ、和ノ記錄ニ右ノコト引カレシ處々ヲ、書拔キテ證トシ遣スト仰ラル、至極委キ者也ト仰ラル、（近本無此條）

○廿二日、御本殿ヘ、當春ノ御節ニ相成、拙モ召サレテ參候、御囃子アリ、暮六ツ時還御、

○小書院御掛物、拜見スヘキ由仰ニテ拜見ス、タトヘバ唐畫ノ極彩色ニテ見事也、筆ヲ窺フ、土佐光重カ娘ノ筆也、メツラシキモノ也、光重カ娘ハ、狩野何某ガ妻也、

御仕舞囃子番組、

弓八幡、介之丞　彌市　市猪　總左衛門　猪左衛門　六郎兵衛
江口、槌之進　孫三郎　四郎兵衛　清兵衛
三輪、槌之進　孫三郎　惣右衛門　右ニ同
蘆苅、助之丞　孫市　四郎兵衛　同
梅枝、槌之丞　彌市　總右衛門　六郎兵衛
山姥、槌之進　孫三郎　四郎兵衛　猪右衛門　清兵衛
祝言、助之丞　同　猪右衛門　六郎兵衛

以上

○三月五日、參候、

昨日御室ヘ參リテ、花ヲ見物致セシカ、友梅ト云ヘル老人、提茶箱ヲ持參シテ茶ヲ立シガ、筒茶碗ノ染付ニテ侍リシ、茶ヲ仕廻ノトキ、岡崎ノ二三ガ、余カ袂ヲ引テ、筒ノ茶碗ニハ、茶筌ニ極リアリ、覺悟セシヤト云、不レ知ト對シガ、茶筌ニ節止ト云アリ、アレハ筒茶碗ノ茶筌也ト云、是ニ付、日外節止ノ茶筌ヲ獻上ノ方アリテ、御尋アリシトキ、何ノ爲ヤラント申シ上シカ、尤ナルコトヲ中タリト存ス、イカニ思召ヤト窺フ、是ハ面白キコトナリ、御流儀ニモ終ニナキコトナガラ、節止ニテナクテハ叶ハヌコト也、上ニモ仰付ラレテ、今年ノ御茶ニハ、遊バスベシト思召也ト仰ラル、

○十九日、下鴨松林院ヘ御成、保君御方御同遊、

亭坊ハ茶人也、御茶箱ノ茶ヲ下サレテ、立サセテ召上ラルヘシトテ、園ヘ御入ナサル、松林院面目、時ニ取テノアリカタサヨト申上ク、

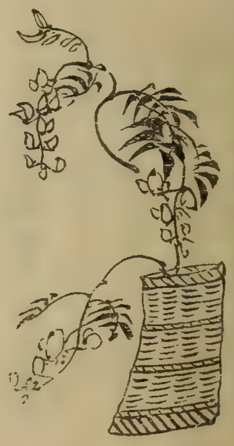
床掛物、宗阿彌、東山殿書院カザリノ圖、

釣船、紫花ノシヤガ、
水指、古備前、
茶碗、上新燒高麗、次赤ノイラボ、
香合、象牙唐物、
茶杓、徳音院支以、

雨ニヨリテ未刻過還御、

○廿二日、參候、岡崎ノ二三、拙、

兼テ蕎麥ヲ下サルヘキ間、晝ヨリ參リテ、御伽スヘキ由仰ニヨリテ、兩人參候ス、御夕方スミテ、表ニテ御茶召上ラル、書院ノ御掛物、舜擧ノ彩色ノ艸花ニ唐子ノ畫也、此ニ付テ、舜擧ナドハ名筆ニテ、正筆ハ甚稀ナルモノナリ、是ナト正筆ノ中ニテモ別シテ也、此ニ付テ唐人ノ名筆ノ、後世及トコロニ非ル所ヲ見ルベシ、此葵ノ花ヲ見ヨ、皆々見事ニハ書カズ、花ニヨリテ、昨日咲タル花モアリ、一昨日ノ花ノ見處ナキモアリ、又今日ヲ盛リナルモアリ、カヤウノ處、中々後世ノ及フ處ニアラズト仰ラル、何レモト申ス中ニ、葵ナトハ別シテ、本ヨリサキ出テ、一度ニハサカヌモノ也、シホレタルモ、サカリナルモ、マチ〳〵アルハズナリ、御座ノ間ノ床ニ、白藤ヲ生ラル、薩摩籠ノ御花生也、又翌日ノ仰ニ、此藤ナドノ下リタル枝ニ、リキミアルハワロシ、上ニカヘリ枝アリテ、下ハスポリトシタルガヨシ、返リ枝ナクバ、下ニテマガリタルモヨシ、



○奥ノ御床、尙信、前ニ金ノ花生ニ庭サクラ

○御圍ノ脇、宗和ノ棚アリ、御茶入一ツカサリ、御釜ハ、イツクヮンノアラレ富士釜也、

御前ニ御自身、御濃茶召上ラレテ後、拙ニ濃茶ヲ立テ、二三ト兩人拜味スベキ由ニテ、拙立ツ、次ニ二三臺天目ニテ、盃立ヲシテ御目ニカク、兼テ御前ニ承リシニ、少々ヅヽノカハリアレトモ、大樣カハルコトナシ、奇特ト云ツベシ、

○二三カ話ニ、二色ノ茶ヲ立ルニハ、客ニ習アリ、亭主一服立シマフトキ、客ヨリ、今一服御茶ガミユル、タマハルベシ、然ラハ白湯ヲ出サレヨトテ、所望シテタブル、二服茶ノニ混シテタブベキヤウナシト申ス、　御前ノ仰ニ、是茶道ノ習也、大切ノ事也、茶湯ノトキノ茶入ノ乞樣モ、初メ茶ノ仕廻トキ、茶入ヲ乞テ上客ノワキニ置キ、又ノチノ茶ヲシマフトキ、又棗目ヲ乞ヒ、箱モ乞テ見ルコト也ト申ス、御前ノ御説ニハ、初ノ茶ノト

キニハ不レ乞シテ、後ノ茶ヲ所望シ、白湯ヲ飮ムノ間ニ、初ノ茶入ノ仕廻ヤウアリテ仕廻、後ノ茶ヲ仕廻テ箱ニ入ル、ナリ、其時ニ、茶入箱袋トモニ所望ス、亭主茶入ヲハダカニシテ箱ニ收ム、收メナガラ箱トモニ出ス、袋ハ箱ノ蓋ヲ仰ノケテノセ、アトヨリ出ス、上客ヨリ段々ニ見テ廻シ、最前ノ如ク、蓋ノ上ニ袋ヲノセテ、箱ノ上ニ仰ノケテノセテ返ス、此作法ナリ、必ス漫リニ普通ノ茶ナトニ爲ヘカラス、上ニハ終ニ遊ハサズ、常修院樣ニテ、御茶ニアハセラレシ也、盆立臺天目モ、後西院御前ニテアリシニ、御アイナサレシ由ナリ、

○臺ノ上ニ天目アリテ、ウツムケテ茶杓ヲカケラル、御前ノ御說ニハ、臺ノ上ニ、茶杓ヲアフムケテカケラル、二三ハ、臺ニフクサヲ添テ出ス、御前ノ御說ニハ、臺アルトキハフクサナシ、カヤウノ類也、

○昔ノ茶湯ニハ、墨跡バカリニテ、歌ノモノヲ掛クルコトハ、利休ガ時分ニ、或茶人カ、利休ヲ請招シテ行カレシカ、中クグリヲ開タレハ、艸花々トシテ、飛石モミヘガタキホド也、如何ナルワザニヤト推シテ、漸々ニ艸カキ分テ入ラレシガ、鉢前ハ、イトキレイニ掃除シテアリケル故、イカニモ分アリケリト、中ニ入テ床ヲ見ラレタレハ、其家ノ重代ニ、定家ノ小色紙ヲ所持シタリシカ、此色紙ガ八重むくらノ歌也シカバ、利休モ尤モナリト感シタリシガ、此レ歌ノカケモノノ、掛初メ也ト申ス、御前ノ御說ニハ、利休カ大閤秀吉ヲ請招シテ、初テ定家ノ小色紙ヲ掛タリ、其歌ハ天原ふりさけみれはノ歌也、秀吉ノ不審ナリシニ、利休ガ返答ニ、此歌ハ日本人カ唐ニテ讀テ、月一ツニテ、世界國土ヲ兼テ、讀盡シタル歌ナレバ、大燈虛堂ニモ、ヲトルヘカラスト申シ上ショリ、歌ノモノ掛タルト御聞ナサレシ由仰ナリ、

○廿四日、進藤左典厩ヘ御成、左大將御同道、拙、午前參候ノ處、今日俄ニ左大將ハ參內ニテ、退出次第御成アルベシ、立坊ノ御役ノ御內意ト見ヘタリト仰ラル、後左大將樣御成ノ節承ル、一條樣ヲ東宮傅ニ、鷹司樣ヲ春宮ノ大輔ニ、東園日野西等ヲ、學士ニ仰出サル、由也、日野西ハ、普通ノ人品ニアラサル由仰ラル、

午半御成、

釜、小阿彌陀、風爐

掛物、信尹公御歌、信尹公ハ三藐院樣也、

御會席、

汁、ウスフクサ、獨活ブツキリ、

煮物、フキ、梅首雞、竹ノ子、　香物、ウリ、ナスビ、

燒物、一塩ノ鯛、木ノ目デンガク、木地ノヘギニ、柏ノ葉ヲ布キ水ウチ、ヘギ、梅カカ、柚ベシ、

猪口、鱠ナマス子ツケ、大將樣ヨリ拜領ノ由、

菓子、色チマキ、南京赤畫ノ角鉢ニ入、朱瑠璃ノ盞アリ、猪口ニ白砂糖、サハリノ匙、竹ノ箸、

香合、ソメツケ、

菓籠、

御中立、

花生、御作、

花、エビ子、葉三枚、花二本、

水指、備前、青ミカチニテ、コゲアリ、

茶入、利休、茶入ノ底ニ、ケラ判アリ、

袋、花ウサギ、カイキウラ、

茶杓、少庵、

書院床、花鳥二幅對、藝阿彌、前ニ宗和形、中央朱卓香爐ソメ付、銀ノホヤアリ、一ツ足ヲ前ニシテ、

次ノ間、唐物籠ノ花生、紫白ノ杜若三本、葉四五本、

次ノ床、主馬カ竹ニ雞、

四方釜、同風爐、丸棚、水指、シカラキ、ヌリフタ、

申ノ半刻還御、

○四月三日、御茶、深諦院殿、摑、

午下刻參候、今日初メテ、新圍居ニテ御茶、常修院樣御形ナリ、カコヒ一式

御待合、椽ニ圓座ハカリ、

御掛物、爲家ヨリ定家ヘ、女院ニテ除目行ハレシ人々ノ書付、定家ヨリノ返事ヲ書込ニシテ、イッチ奥ニ、晴ゆく月の、影はかわらし、さ讀る人のさすかに、トアリ、一文字、紫地寶ツクシノ古金ラン、中白地安樂庵、上下シケ、

御釜、ヒラクモ、是ハ去年津輕越中守殿ヨリ、准后宣下ノ御祝儀ニ獻上、名物ノ由也、紹鷗所持ノ釜ニテ、大ヒラクモ、小ヒラクモト稱シテ、天下ニ二ツノ名物也、大ヒラクモハ、□□ニアリ、小ヒラクモハ、津輕ニ所持ニテ、重物タリト雖、此度ノ御祝儀ニ獻上ノ由也、風爐ハ此釜ニ合セテ仰付ラレ、此釜ヲカケラルルカラハ、スキ木ニテアルベキモノヲ、五德ニスヘテオカレタリ、釜ノハシ少シシダレテ、スキ木ニテハ、恰好アシキ故ト仰ラル、

御棚ニ香合、羽箒、三ツ羽、三カ一勝手ノ方ニヨセ、香合ハ堆朱ノケボリ、

御會席、

御汁、小菜、鹽漬ノ天井守リ、盞ノ上ニ胡椒、

御煮物、スズナ葉付二切、梅首雞二切、

御香物、ウリ、御持參、御會釋ニ、麥飯ハキライニヤト仰ラル、何レモ好物ノ由申シ上ク、

サハリ飯次、手付盞ナシ、麥飯、

易リノ汁、冷汁ノ具モリ合セ、ハリグリ、花カツヲ、オロシメウガダケ、

朝鮮燒ノ手付汁次、冷汁、

易リノ煮物、蒸鯛、味噌カケ、(近本作蒸物、鯛ミソカケ)

御酒、

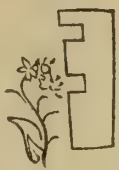
皿、冷汁ノ具不殘クミ合セ、鮎ノツケヤキ二疋、

御吸物、ウスミソ汁、蕈栗、
菜籠、底四角、口丸ノクミモノ、
御菓子、アン餅、青ハタノ粉カケ、
御菓子入、金琺瑯有蓋把碗、オランダノ焼物ナリ、先年薩州ヨリ獻上、關白様ヘ進セラル、御物數寄ニテ臺上仰付ラル
普通ニナキモノナリ、

形如レ此、コレニワクヲ仰付ラル、

中立、
御待合、煙草盆、圓座、鉦ニテ御案內、
御花生、細川三齋ノ作二重筒、下リ重、風クルマ、薄紫一リン白一輪、
御水指、ツルベ、釜ハ平、茶入ハ長、水指ノ御取合、奉レ感、
御茶入、ルイサノ春慶、

袋、遠州廣東、



御茶杓、瀬田掃部、
御茶碗、朝鮮ノ筒茶碗、青畫アリ、アンナンニ能似タリ、
表ノ御床、鎌倉ノ啓書記カ猿猴ノ水月ヲ取圖、
御花生、カラカネ、　御花、杜若紫白三リン、
奥御床、探幽カ吉野立田ノ二幅對、
御置物、鉢ニ砂ヲヒキク入レラレ石菖ヲノセラル、
此夜ノ御話ニ、昔シ烏丸ノ光廣、毎々ノ御會ニ、若キ弟子衆ニ今日ノ御會ノ御歌ハ、何レノ題ナルヤ、何ト出來シヤ、案ジラルルヤト尋ラルヽ、如何ニモ案シ侍フト申サル、何ト心得テ案シラルヽゾト問ハレテ、唯何トハナク、好キ趣ヲ讀出サント存スル也ト申サル、夫ヲ後日ニ若キ弟子衆ヘノ誡ニ、凡ソ席ニ臨テ歌ヲ案スルニ、唯バツト、人ヨリ好キ歌ヲ讀ミタキトバカリ思フテ、案スル分ニテハ、千年案シテモ名歌ハ出ヅマジ、凡ソ席ニ臨テ題ヲ得タラハ、先此題ヲ我力ニ及ブヘキカ、及マシキカト云コトヲ、アタマカラヨク覺悟シテ、迚モ我力ニ過タリト思フ題ハ、ヨマヌガヨシ、又此題ニテハ、我力ホトニハ讀メルベシト思ハヽ、題ヲ得テ、先此題ニテハ、何ヲ主トシテ讀ヘキゾト、其ヲ得タラハ、其一ツヲ工夫シツメテ、讀ヲフスヘシ、左ナケレハ、好キ歌ハ出來ズト申サレタリト、尤ナルコト也ト仰セラル、醫ノ病ヲ治スル亦如レ此、病人ヲ見テ、トテモ我力ニ及マシキト思フナラハ、治セヌガヨシ、イデ治スベキト思ハヽ、其治スヘキ筋ヲ得テ、工夫シテホスヘキコト也、只己カ力ヲモハカラス、病ヲ見テハ治スベシトノミ思フテ、ドコヲツカマヘテ治スヘシトモ、治スマシキトモ、思ハヌガ、是常ノコト也、

○又光廣ノ、弟子衆ヲヨセテ、通リ題ニテ何首モ見ラレテ、最早コレマデナリヤト問ハル、御目ニカケント存スルハ是マテ也、マダ何首ヲモ讀ミチキタレトモ、御目ニカクルホドノ歌ニアラスト申サルレハ、其何レモノヨリクズガ見タシ、思ヒノ外ニ好キ歌モアルヘシト申サレタリ、歌ニカキラズ、諸藝トモニ、我目ノツク處ガワロキト、讀ミヲフセタリト思フホトノコトミナ

ワロシ、吾ハ何トモ思ハヌニ、人ノ目ニ、作者ヨリ、其心ヲシラズシテアタルコトアリ、本ノコトニテハナケレトモ、目ノツケ處ガワロケレバ、力ヲ入ルルホト、悪キ方ニ力ガ入ユヱニ、大ニ然ルヘカラスト仰ラル、（近本無此條）

○十三日、參候、

十一日ニハ閑院宮ト、櫛笥内府ト、八條トヲ招テ、御亭ニテ御馳走ノ折カラ、八條ノ詩ヲ作ラントセラレシ程ニ、此亭ニテハ詩ハ法度ナリ、今日ハユルス也、重テハ無用タルヘシト云テ大笑ヒセシガ、若キ人ニハ奇特ナリト仰ラル、

　更陪ニ彈正親王一、上ニ准后藤公之物外樓一、

綠樹重陰屬ニ麥秋一、幸陪ニ瓊宴一上ニ高樓一、可レ憐山水無レ窮景、
却想多休物外遊、

　御唱和

背レ花眠レ月經ニ幾秋一、幸得ニ佳賓一共上レ樓、老懶何成文字飲、
望レ山臨レ水欠ニ詩遊一、

コレニテ、重ヲテ作ラヌヤウニセシト仰ナリ、

○十五日、入江様御成、夕御伽ニ參候、錦小路、拙、

七觀音ノ靈寶ノ中ニ、弘法ノ筆蹟ヲ御覽ニ入ル、マガイナキ物也ト仰ラル、弘法ノ筆ハ、東寺ニホド多キコトハナクテ、皆々紛レナキモノ也、先年若キ御トキニ、朝七ツトキヨリ、毎朝御成アリテ、明六ツヨリ暮六ツマテヅヽ、十二日ガ間ニ、不レ殘ウツシトル、平等院ノ櫓ニアル、色紙形ノ九品ノ要文ヲモ、足ヅロヲサセテ、六日程ニウツシトリタルガ、好キコトヲシタリ、東寺ノ空海ノ筆跡モ、ソノトキダニ、地ハコトノ外ニヤブレテ、見エヌ處多カリキ、今ハ定メテ見エモスマジ、平等院ノ色紙形モ、近代ノ住僧ニケシカラヌ男出テテ、不レ殘彩色シ、要文モ思フママニ認メタリ、昔ノ筆跡ハナクナリタリ、名高キ古佛共モ、皆金ヲ新クオクリ、如何ナル狼藉ノ仕方ニヤ、昔ノ筆蹟ハ、此方ニ殘レリト仰ラル、

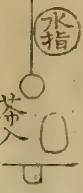
○錦小路カ申シ上ラルヽハ、近代ノ佛閣ノ開帳ニ出セシ靈寶ドモ、其數カキリナシト雖、正跡タルハ疎ナリ、御家ニアル物ドモヲ出サハ、物ヒトツニテモ、目ヲ驚カスコト多カラント申シ上シカハ、如何樣ニモ、此方ニアル御重物ノ中ニテモ、人ノ嬉シガラヌモノアルヘシ、空也ノカタカナノ（近本作カタチノ）名號ヤ、空海入唐ノトキ、アナタヨリノ書簡ニ、金胎兩部ノ曼多羅二幅ナラビニ翻譯ノ經卷、二百餘卷ヲ書寫セリ、コレハ國家鎮護ノ重物タレハ、遣唐使ニ附シテ上スノ由ヲ、書カレタル書簡アリ稀代ノ名物也トゾ、

○十九日、參候、

壁付ニ茶入ヲカザルコト、今ノ世ニテハ、風爐ノ茶ニハ毎々ス

ルコト也、汝カ流ニハ、何ト聞及ヒシヤト御尋アリ、私ニ承リシハ、常陸帶ナラテハセヌコトト承リシト申シ上ク、是レモ一理アリ、面白キコト也、御流儀ナトニテハ、大海内海ナトハ、究メテ壁付ニカサルナリ、ソレナセナレバ、大海内海ハ、濃茶入ニテハナシ、本薄茶入也、薄茶入ヲ本座ニ餝ルベキヤウナシ、丁ド大ナルモノハ、水指ノ前ニモ似合ハヌモノ也トス、棗ハ薄茶ニカギラズ、濃茶モ入ルル故ニ、却テ本座ノモノ也ト仰セラル、

○水指ト茶入トノカザリツケヲ、イカヾ聞シニヤト御尋子アリ、カヤウニ承リシト申シ上ク、併シ水指ト釜トノ



間ニ、道具ヲ置クコトハ、決シテコレナキコトナリ、ソレナゼナレハ、水指ト釜トノ間ニハ、臺子ニテハ茶巾ヲカサル場所也、カリニモ他物ヲ置ヘカラストト仰ラル、

○廿九日、　御茶、　參候、御園意齋、拙、鳥井道乙、　午半、

御待合、圓座三ッ、

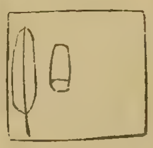
御掛物、雅經ノ色紙、タトヘハ、今ノ色紙ヨリ、少シコブリナリ、波ニ楓ノモヤウズスミ色也、雅經ハ百人一首ノ參議雅經也、色紙ハ甚マレナルモノナリ、定家時代也、俊成ノ弟子ニテ、飛鳥井ノ先祖ナリ、

歸る山、なにか　近本作なにそ　はありて、あるかひは、
きてもとまらぬ名にこそ有けれ、

御表具、一文字、白地ノ金ラン、中、カラヌイ、上下、金入ノドンス、後西院樣ヨリ御拜領ノ由仰ナリ、御表具トモ、後西院ノ御物スキ也、

御棚、香合、堆黑ニミヂンボリ、三枚羽箒、

御釜並御風爐、三日ノ通リ也、
何角御會釋ノ後、羽箒ヲ下サレテ、風爐小板等ハキテ御入、



御會席、

御汁、仙臺鴨二切、カブ付ノ菜五ッ六ッ、

御皿、鯛、鱖、酒漬、花カツホ、

御香物、鉢南京、ウリ、ナスヒ、

御引物、カンナメノ大平ノ蓋アルモノニ、竹ノ子ノケンノウ三切、大フキ三本、

御吸物、タイラギ、花柚、

御菜籠、三日ノ通リ、

御菓子、黃青白ノシライト、隨分小クシテ、御菓子入レ三日ノ通リ、砂糖入ビイドロノコップ、シンチウノサジ、カハツキヤウジ、

御中立、

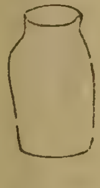
御待合、煙艸盆バカリ、

御案內、鉦、

御花生、常修院樣、

御花、大峯蓮花二リン、葉五枚ハカリ、

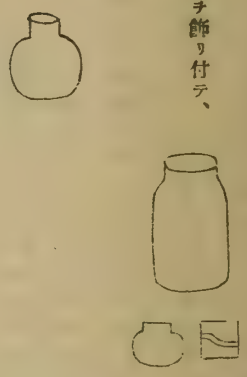
御水指、阿蘭陀、ヌリフタ、



水指ノ前ニ、青竹ノ引切、水指ヲハズシテ、茶入ヲ飾リ付テ、

御コボシ、メンツウ、

御茶入、古瀬戸ノ根ヌケノ丸壺



袋、紺地ノヒトヘツル、寳ツクシ、

御茶杓、宗和、

御茶碗、甲斐守ノ手燒、

○晦日、參候、

上野與三衞門ハ、西國ニテ名アル勇士也、其子八郎左衞門ハ故アリテ浪人トナリ、獅子吼院殿ニ奉仕ス、親常ニ申セシニハ勇士トイヘトモ、ビツクリセヌコトハ有ベカラズ、如何ナルコトヲキヽテモビツクリセヌハ、知ナキ人ハ各別、ワツカニ知アル人ハビツクリスル筈ナリ、イカナル愚夫愚婦ノ類ニテモ、燒傷(ヤケド)スレバビツクリス、灼炙スレバビツクリセズ、コレ覺悟アル故也、勇士トイヘドモビツクリス、然レトモ勇士ノビツクリハ、膝ノ下ニテビツクリス、是レ勇士ノビツクリノ仕樣ト申シタリト云、誠ニ其故アリト仰セラル、

○五月三日、深諦院殿、拙、參候、

ハコビニシテ、茶入茶碗ヲ持出ルニハ、必ス並テハ惡シ、茶碗ハ先ヘ出シメニシテ高ク、茶入ハ少シ入レメニシテ卑クスベシ、飾リ付ルトキモ、先茶碗ヲスヱテ、茶入ヲ跡ヨリカザルコト也トカク客ノ方ノ道具ヲ先ヘ飾リ、勝手ノ方ヘカサレハ、客ホサレテ間ヌクル故ナルベシ

○釜ノ鐶ヲカクルモ、勝手ノ方ヨリカケテ、客ノ方ヲアトニカクル、客ヲホサヌ爲ナリ、

○風爐ノ灰ヲスルコトハ、六ケ敷ヤウニイヘトモ、今時ノ灰ハ、サマデムツカシキヤウニモ見エス、灰ノ高下淺深曲直ハ、風爐ト五德ト、前ノカハラケトノ間ニヨレハ、兼テ定メカタシ、此ハ常修院殿ノ敎ヘ、尤ナルコト也、大秘藏ノコト也、先風爐ニ五德ヲロクニ入テ、眞中ニ灰ヲイカホドナリトモ入テ、ソレヲ四方ヘカキ出セハ、自ラ高下ノ出來ルヲ、又別ノ灰ニテ其高下ノナリニ灰ヲマキテ、キレイニスルバカリ也、前カワラケモ、灰ヲ大方ニ四方ヘマキテ、好カゲンニカワラケヲカタメテ、風爐ノ前口ヨリ、恰好ヨキヤウニ堅メテ、又前ノ方ノ灰ヲ、別ノ灰ニテ程ヨキホドニ直スコト也、前ノ灰ノ出入ハ、五德ノ右ノ方ハ角ヨリ引出シ、左ノ方ハ、五德ノ腹ニテトメル故、コレモ左勝手ナレバ、左ノ角ヨリ引出ス、灰ヲ五德ヨリ奧カラ引キ出シテロクニス、右ノ方ハ右ノ角ヨリ引出ス故ニ、自ラトマリナキカラ一面ニス、前ハソレニテ、一文字ニナルトガテンスヘシ、

マトフロハ、ツキアゲニシテ山ヲセズ、前ノ方モヒヅミヲセズ、一文字ニスル、尤灰ヲ丸クスルコトモアリ、凸ニスルコトモアルナリ、(近本無此註文)

釜ト水指トノ置合セハ、如何覺エタルヤト仰也、壁付ヨリ風爐ハ九ツ目ニス、疊ヨリ十三目ニ水指ヲ置ト覺エ候ト中上、ソレニテ恰好ヨキコトモアルベキカ、水指ノ大小長短ニヨリテ一概ニハ究メカタカルベシ、

先釜風爐ノ常座ヲ、トクト恰好ヨキヤウニキワメテ、ソノ壁付ヨリ、釜ノツマミノ眞中マデノ寸尺ヲトリテ、客付ノ方ノタヽミノ縁ヨリ、右ノ寸尺ニアハセテ、水指ノ取手ニテモ、ツマミニテモ、釜ト同シヤウニシテ、横ノ見合ハ、釜ノ鐶ト、水指ノツマミト、一齊ニスベキ也ト仰セラル、（コレニテハ、イカホト大ナル水指ニテモ、小水指ニテモ、平ニテモ、細長ニテモ、各ニ恰好ストナリ）餝リ付タル茶碗ヲトリテ、風爐ノ前ヘ直ス準ノコト、少シニテモ客付ヘヨリ過レハ、左手ツカヒニクシ、壁付ヘヨリ過クレバ恰好悪シ、釜ノ口ヘ柄杓ヲカケテ、其ユカミタル柄杓ノ柄ノハヅレヲ、客ノ方ヘハヅシテ置ヘシ、

湯スヽギチ、一遍スルコトモアリ、二遍スルコトモアルハ、イカニト、（深諦院殿御不審、）夫ハ茶碗ニモヨルコト、茶ノツキヤウニモヨルコト也、一遍ニテ茶オチズバ、二遍スヽグベシ、茶サヘ落チタラバ一遍也、但大茶碗カ、貴人ノ客ナラバ、二遍モスベシト仰セラル、（貴人ノ召上ラレタル茶碗ニテ、又薄茶ヲモ立ヘケレハ、念入ル、筈ナリ、又大茶碗ハ中ノ底マテモヨク見ユル物故カ、）

○長板ニ、風爐ノ一ツカザリト云コトアリ、今時ノ人々ノスルハイカヾ也、風爐ノ一ツカザリト云フコトハ、銅庫アル座敷ニカギリタルコト也、銅庫ナケレハスベキヤウナシ、銅庫ノ中ノ水指ヲ出サズニ、茶ヲ立ソト云コト也、御前ニモ常修院樣ノ銅庫ツキタル座敷ハアリタレトモ、一ツカザリノ茶ニハ、終ニアハセラレズト仰ナリ、

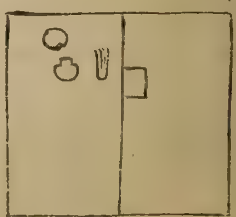
○柄杓ヲ置ニ、カザリツケト、仕廻ザマトニテ、仰側俯ノ差別アリ、先餝リツケタルトキハ、何時モ俯セテ餝ルナリ、茶ヲタテヽ又薄茶ニテモ立ルカ、假令薄茶ヲタテヽモ、又追付立ベキ筈ノトキハ、側ニカザル也、最早コレニテ立テシマウト云フトキハ、仰ケテカザル也、縦横斜ハ、棚ノ恰好ニヨルコト也、一概ニ定メカタシ、斜ニスルトキハ、柱ニテモ、角ニテモ、間ノアカヌヤウニ、三分五分マデニモスベシ、

○風爐ニ向テ座シヤウハ、右ノ足心ヲ尻ニ布テ、左ノ足ヲ横ヘ出シテ座スベシ、（庸軒流ノ茶人ノ座シヤウハ、爐トモニ如レ此ナリ、）是ニテ風爐ノヒヅミト、身ノヒヅミト相對シテ、兩ヒヅミニテロクニナルナリ、五德ノ前ノ兩足ハロクニテ、灰ハヒヅミ、三足ノ前ノ一足ハ、先ヘヨリテヒヅム、釜ハロクニカクル、風爐ノ左ノ方ハ、少シ出シメニシテ、亭主ノ右ノ膝ハ、少シ出シテスハル、

○柄杓ヲ握ル手ノ置キ處ハ、膝ニモツケズ、宗旦流ノヤウニ、アケテモ持タズ、只肩ヲ落シテ臂ヲ胴ニツケテ、手先ハ膝ニツカヌ樣ニ、柄杓ノ合ヲ横ニシテ持也、イツモ正藏カ茶ヲ立ハ、柄杓ノ合横也、今ノヤウニ、前ハムケズト云、此正藏ハ、宗旦ノ直弟子ナリ、

○ヌリフタノ水指ニ茶巾ヲ置トキハ、必袱紗ニテチヨト拭フ、其拭ヒヤウ、勝手ノ方ヘ拭フベシ、今世間ノ流、大方客ノ方ヘ拭、客付ニ座ヲ憚ル、

○風爐ノ板ハ、大板、小板、中板、丸板、木地、燒杉等アリ、半板ト云モノハ、御流儀ニハナシ、丸板ハ勝手ノモノ也、表向ヘハ出サス、大中小ハ風爐ノ見合セ、大風爐ヲ小板ニノスルトキハ、必ス茶巾ハ水指ノ蓋ノ上ニオク、小風爐ナドノ大中板ニノリタルトキハ、板ノ上ニオク、置處ハ必ス水指ト風爐トノ間ニ置ヘシ、是臺子ノ時茶巾ノセノ常座ナレバナリ、風爐先ノ小屏風ハ、必ス立ルコトニハアラズ、壁モナク兩方トモニ、フスマナドノ處ニハ、小屏風ナクレバシマラヌモノ也、又風爐ヲ前ヘ引出シテ餝レバ、尙以テ入ラヌ也、眞ノ風爐ヲ眞中ニカザリテハ、屛風ヲ立ルコトアリ、是ハ又格別ナリ、眞ノ臺子ハ一通リ又格別也、今ノ世間流ノ、四疊半ノ座シヤウト、御流儀トハ、各別也、四疊半ノ居リヤウハ、向フキリト同シヤウニ居ル、道具ハ大目ノカザリトハ、アチラコチラナリ、是ニテ柄杓ヲ、道具タタミノ中ヘイルルコト、ヨクキコユル也、四疊半ニカキリテ、内ヘ入ル、コトハ、兼テ不審ナルコトナリシ、



○御書院ノ御床ノワキニ、二疊敷ノ處アリ、何時モ夏ハ此處ニ風爐ヲカサラル、深諦院殿所望ニテ、恰好ヲウツサル、地シキ居ヨリ天井緣マテ六尺五寸、但カモ居ノ下羽ヨリ、上ノ廻リフチマテハ八寸五分、廻リ緣面カケテ一寸一分、書院ノ方ハ丸太ニテトム、天井板長ヘギ、紫竹ノオサヘフチ六本、御勝手口ノフスマ、上半分ハトリノコノ白、引手ヨリ下ハ、金ニ菊ノサイ色ノ張付、二枚ノモヂリ本間也、横ノマナカハ御床ニテ、殘ルマナカニ窓アリ、高サ一尺七寸、横ノマナカバノ方、上四枚ノ小ブスマ、下ノ方四枚ノフスマ、中ハ三枚ノチガヒダナ也、上ノフスマノシキイカモイ、一尺五分、中段二尺二寸、下ノフスマシキイ、カモイ、二尺二寸、フスマイツレモ、金ニ彩色ノハリ付也、

○棚ヲカザレバ、水指ハ何時モ取入レズ、水切ルレハ水次ニテサス也、四疊半ナトニ棚ヲカザルハ、初座ヨリカザル、水指ハ入ルルコトモアリ、入レヌコトモアリ、香合羽箒トカザルコトモアリ、

○茶碗茶入トカザリ付タルトキハ、中座ニ居テ、先引切柄杓ヲ直シ、次ニ茶碗茶入ヲカザリツクル、遠州流ニハ、棚ノ前ニナホリテオロス、宗和ハ中座ニ居テオロス、

○蓋置ノ置キ處ハ、必ズシモ三目ニカギラズ、蓋ノ大小ニヨリテ、蓋ノヘリヘモ板ヘモ、カカラヌホドニ置也、

○茶碗ト茶入トノ置合セハ、間ヲ三目トモ、四目トモ、三目半トモ云、トカク茶碗ノ緣ノ、目通リカラ見通シ、三目半ト合點スベシ、（半ハ茶筌ノ置キ處ナリ、前ニシルス通リナリ、）

○道具ノアツカヒハ、凡テ道具ト道具トノ間ヘ、手ヲ入ルルコトヲ嫌フ、ソレ故茶杓ヲ取ルニモ、茶碗ニアルヲトルト、茶碗ニ置トノトキハ、本ヲ持テトリアツカフ、中ニテトリアツカフトキハ、中節ノ處ニテアツカフ也、

○茶杓ヲトリアツカフハ、兎角ニ先ヲアゲメ、本ヲサゲメニシテアツカフガヨシ、

○中座ニ茶碗ヲ置ノ準ハ、釜ニ柄杓ヲ斜ニカケテ、其トマリノ通リニオクナリ、

○茶杓ヲフクハ、初メハ先バカリヲフキテ、柄ヲフカズ、後ハ先ヲフキテ、茶ヲハラヒ、又本ヲフクガヨシ、コレ故客ニミスルトキハ、フカズニ出スニテ候ヤト窺フニ、左也ト仰ラル、初ハ合ヨリ外イラズ、後ハツカイタルモノナレバ、フキテ仕マフハズナリ、

○膳ニ水ウツコト、今ハ風爐トイヘハ必スル、常修院殿ノ仰ラレシハ、既ニ夏初ニ水ヲ打テバ、極暑ノトキハ、モハヤスベキヤウナシ、用捨アルベキコト也ト仰ラル、

○茶入ノ袋ヲ開クハ、初メニ先ノツカリヲノバシテ、次ニ前ノツカリヲノバシ、又再先ヲノバシテ、スグニ右ノ手ニテ茶入ヲ取リ、左ノ手ニモチソユル、便ヨケレバナリト仰ラル、（前ニ客ヲホサヌト仰ラルルモ亦同前、）

○茶杓ヲフクハ直ニフカズ、少シ子ヂルヤウニシテ、節ヲ持チ、茶入ニカクルト、（私ニ棗ナドノトキモ如此カ、重ネテ窺フベシ、）

○茶筌ヲ持ツハ、初メハ皆軸ヲ持ツベシ、仕廻ノトキハ、軸ヨリスベラスヤウニシテ穗ヲ持ヘシ、用ナケレハナリ、

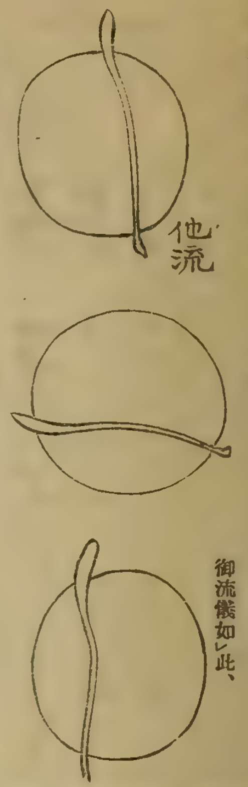
○柄杓ヲ釜ノ口ニ置クハ、初一度ハ正直ニヲクト云ハ左ニアラス、置柄杓、切柄杓、引柄杓ト云コトアリ、置柄杓ノトキハ、釜ノ正面ニ合ヲ置テ斜ニ取テ置柄杓ニアシラヘ本、自ラ正ニナル也、ロクニナルハ、置柄杓ニガキルコト也、其外時々也、先置柄杓常ノコト也、

○茶筌ウチヲスルコト、初ニ二度ハ茶碗ノ脇ヘヒキ、後一度ハ前ヘ引テ先ヲミル、

○茶巾ヲ取ルハ、茶碗ノ湯ニテモ水ニテモ、コボシヘアケテ後ニ取ルヘシ、茶巾ヲトリテ、茶碗ノ水ヲアクレハ、右ノ手間（ヒマ）アリテ客ヲホスガ爲ナリ、

○濃茶立ノトキ、茶杓ノカケヤウ、他流ト全ク異ナリ、他流ニテハ縱ニカクル、御流儀ニテハ横ニカクル也、縱ハ茶杓ノ常座ナレ

ハ也、



○引柄杓ニシテハ、何トシテモ、合動キテ音アルハイカニ候ヤ、
引柄杓ハ、二調子ト云テ音アリ、合モ入ルモノナリト仰ラル、
○柄杓ノ柄ヲトルバカリハ、正直ニセズ、トカクニ柄上リニ、合サガリニスル是常也、釜ノ口ニカケタルヲ取トキバカリハ、柄サガリニ、合アガリニ取ル也、（本柄杓ノ柄ニ、ヒヅミアルモノ故ニ、下ルカ上ルカニテロクニナル、初ハ柄ヲアグルニテロクニナル、釜ヨリシテヲロスニハ、柄ヲサグルニテ又ロクニナルナリ、）釜ニカケタル柄杓ヲトルニハ、必ス柄ノ先ニチヨト指ヲソヘテ取ヘシ、（アタマカラトレハ、握ルヤウニテ、手付要本、（釜ニ、ヨリ以下近本ニナシ）
○茶入ニヨリテ、袱紗ノフキヤウ有レ之コトニ候ヤ、仰ニ別ノ子細ナシ、何時モ正藏カ話ニ、今ノ人茶入ヲフクニ、キリ〳〵ト何遍モ廻ハスハ、宗旦ハセサリシコト也ト申シキ、畢竟手ノ跡ノツキタルヲ拭フ爲ナレハ、瓢簞ヤ、肩衝ヤ、丸壺ナトノ類ハ下ノフクラバカリヲフキテ、上ハフカヌガヨシト仰ラル、
○四日、參候、
近代ニテ、養朴ハ探幽已後ノ上手也、日ノツケ處ガチカヒタルモノ也、主馬ナド、近代七十ヲ越テ、專ラ艸筆ニテアラク書クハ、探幽ナト行年カキニナリテ、アノ格ニテアリシヲ覺テ書ナルヘシ、養朴ハ老後ニ至ル程、書カ委シクナリテ、死スル一年前ニカヽセタル三幅對ハ、至極精シキモノ也、トテモ探幽ニハ及マジキト思タルガ、探幽ト云ヘトモ、老後ノ筆力ハ不快ニ思ヒタルカ、何ニモセヨ、似セモノニハアラズト仰ラル、
○永信ハ、下手ノヤウニ云ヘトモ左ニアラズ、出來物ニナリテハ及バザル處アリ、是モ探幽カ主馬カノ書ノ筆力ヲ見テ、迚モ及ブマジキト思ヒタルカ、己カ一家一分ノ風ヲ書出シテ、形ハ少シモ似ヌモノ也、是永信ガ器量也、
○六日、參候、
昨日左大將樣（鷹司）ノ御成ニテ、見樂ニ相撲ノ詩作レヨト申セシカ、如何アラント申シキト云ハレショリ、相撲角力ナド、皆古キ文字ナルガ、續日本紀等毎々コレアリ、何レノ世ヨリカアル文字ナラント、夫カラシテ事物紀原、文獻通考等ヲ考ヘラル、ニ、相撲ハ今ノ角力ナリトアリ、スレバ今トサセバ、相撲ノ文字ハ古キナルヘシトテ、マシクラニ、彈正グルミニ考ラレシガ、又アチニテモ心カケラレヨト云シニ、今朝不圖思ヒヨリテ、鼻ノ先ナル順カ倭名抄ヲ、考ザリシコソトテ出セシニ、相撲見ニ于晋書一ト記セリ、サテコソト大平御覽ニテ考ミレバ、歷々トシテ晋

書ニ出ヌレバ、古キ文字ナリ、返スヾモ順ト云人ハ、只人ニハアラス、百人一首ニノリテ、歌ハカリ讀タル人ニハアラストテ、彈正トモニ感シタリト仰ラル、

○七日、參候、

茶杓ヲ持テ、茶ヲクムマテノ間ハ、仰ケテ持ヤ俯セテ持ヤ、遠州流ニハ、客ノ方ヘ皮目ノミユルヤウニシテ、持候ト申上ク、御流儀ニハ、皮目ハ内ヘ、ケヅリ目ヲ外ニスル、已ニ茶ヲクミテ後ハ、茶入ノ蓋ヲ持ソヘテ、持ツ時ハ全ク仰ケテ持ツコト也、若シカノ皮目ナキ處ニ、茶ノ付タランヲ慮リテ也、

○棗ノ外、フヾキニテモ、中次ニテモ、甲バカリヲフキテ、脇ハフカヌコト也、何故ト云譯ヲシラスト仰ラル、

○板ノ下ニハ、必ズ釜敷ノ紙ヲシクヘシ、二三枚モ重ヲテ、外ヘ見ヘヌホドニスヘシ、左ナケレハ塗物ユヘニ、風爐ヲ直ス度毎ニイヂル、コレ秘藏ノコトナリト仰ラル、(板近本作小板)

○釜敷紙ノ寸法、今ノハ大也、御前ニハキリテ、御寸法ニ合セラル、由ニテ、則拜領ス、(紙數並ニチリカタ前ニ記ス不詳也、)兼テヨリオシヲカケテ置ガヨシ、ソノ紙ヲ置ニ、今ノ人ハ態トユガメテ置、是必ユガメルコトニアラズ、紙ヲ投ヲタルナリニシテ、自然ニ正直ニナキ形ヲ本トスルコト也、

○風爐ノ七ヒヅミト云コトハ、風爐ノカザリヤウ二ツ、(前ヘヨスルト、口ヲヒヅムト、)身ノヒヅミ、灰ノヒヅミ、五德ノヒヅミ、柄杓ノヒヅミハアヅカラズ、身ノヒヅミト相對シテ正直ナレハナリ、(近本釜ノヒヅミヲ加フ)柄杓ヲ初度ハ正直ニスト云、左ニアラス、置柄杓ニスレハ、自然ト直ニナルト云モノ也、(近本無此條)

○雲龍釜ヲ、大風爐ニカクルト云コト、古ハ有レ之由、常修院樣ニモ御物語也、終ニアソバシタルコトハナシ、

○炭ヲサスト云コトアリト云、此ノ大風爐ニ雲龍ナド掛テハ、サスベキコトカ、極暑ノ時ナド火ヲ少クシテハ、釜モ小サク、炭モ脇ヨリサシクベテ仕廻コトアルベキコト也、此時ナト、炭ノ入レ物アルヘキコト也、大キニナキ炭ヲ、ホウロクナドニ少シ入レテ、出スヘキカト仰ラル、至極面白キコト也、極暑ノトキ炭ノ間、客ヲマタスモイナモノナリ、

○スキ木ニ寸法ハナシ、釜ニシタガフ由也、常修院殿ニ御賴ミ申セシカハ、釜ヲコセヨ、釜ニテ拵テ下サルヘキ由ニテ、モラヒシト仰也、サレハ釜ノ大小ニヨリテ、木ノ長短コレアルコトニテ候ヤト窺フ、緣ノ廣狹ニヨルコトト見ヘタリト仰ラル、スキ木シキ木ト申スコト候ヤ、仰ニ、スキ木三本ト云、是モ今ハ桐ニテスルソウ也、古ハ厚朴ナリト兼テ仰ラレシ、長山公ノ御聞書ニ、宗旦傳ナリトアソバス、

○風爐ハ正丸ナル物ノ、口ニテカケタルモノナレハ、前ノ方丸ミ

少キガ爲ニ、トカクニ前ヘヨリメニスル、然ルニ窓風爐ハ、大方ニ板ニ正直ニスヱ、少シハ前ニヨス、

○御流儀ニハ、大板、小板、中板アリ、半板ト云モノハナシ、カノ長山公ノ御聞書ニハアリ、

○水指ノ蓋ニ水ウツコトハ、堅クセヌコト也、水指ニ水ヲ入ル、ニモ、塗蓋ハ、水指ノ水ノツカヌホトニス、共蓋ハ、水指ノ水ノウラ一パイニツクホトニス、ヌリフタト共フタト、アシラヒ違候ヤ、仰ニ不レ違、

○袱紗ノアシライ、御前ニテ、薄茶ヲタテタルトキ、私宅ニテ點ルト、他所ニテ所望ナドニテ點ルトニテ違フ、私宅ニテハ必腰ニハサミテ立ル、他所ニテハ腰ニハサヾズ、疊ニオク、尤ナルコト也、私宅ニテハ亭主タル者ノ一ツノ佩物也、他ニテハ左ハナキ筈也ト仰ラル、

○茶入ノ蓋ト、棗ノ蓋トノ置處ニ差別アリ、棗ノ蓋ハ、茶碗ト人トノ間ニ置ク、茶入ノ蓋ハ、茶碗ヲハズシテ間ニ置ク、

○塗板ト、木地ノ板トハ差別アリ、金風爐ハ、イツモ木地ノ板ニ置ク、土風爐ハヌリ板ニオク、風爐ノ板ニ丸キアリ、アレハ畢竟勝手也、御前ニモヤキ桐、ヤキ杉ノ板アリ、金爐ニヲカル、木地ノ部丸板ノコトハ、道億カ說ニハ、圓ク角々ト云コトハアリ、圓角々々ト云コトハナキコトナリ、タトヘハ丸キ釜ヲ、四角ノ風爐ニカケテ、又丸キ板ヲスユルハ圓角也、四方釜ニ丸風爐ニ角板モ圓角ナリ、丸キ釜ニ丸キフロニ角ノ板ハ、圓角ニアラズト申サレタリイカヾ、

○額ト云文字ヲ、今ノ世ニ文字ヲ書テモ彫テモ、看板ノヤウニシタルモノヲ云ハ、本意ニアラス、額シテ何々ヲ賜フ、何々ト額ス、何々ト云テ、上天子ヨリ、何々ヲ免シテ賜ハルコトヲ額スト云、今敕額所ト云モノ世上ニ多シ、勅筆ノ額ナケレハ、絶タルカ滅シタルカト思ヒテハヅルハ、文盲ナルコト也、昔ハタトヘハ其寺ヘ何ト云寺號ヲ賜ハルヲ額スト云、正シク續日本紀ナトニ、賜二何號一使二道風書一レ之ノ文アリ、勅筆ノ意、今ノ世ニ所レ稱ノ額ト云文字ハ膀也、是ニ付テ東寺ニ、常額ノ僧ト云モノアリ、每度院家ト訴アリ、常額ノ僧ノ院家ノ僧正ト並ブベキ子細ナシト訴フ、御當職ノ節、此文ヲ見セラレテ以來、グツトモ得不レ言、古ハ正月ヨリ何月マテハ、コレ〳〵ノ僧、此處ニ詰テ此ヲ行フヘシト、勅シテ定メラレテ、其人數ヲ書付テ、高ク揚テ記サル、其僧ノ中ニハ、大僧正モアレハ平僧モアリ、モトヨリ勅裁ニテ定メラルル上ハ、定額ト云僧ニカギラズ、右ノ品ニテ勅裁アル馬ヲ、定額ノ馬ト云ヒ、定額ノ內侍アリ、僧ニカギルベカラズ、東寺ノハ、古ヘ其定額ニ撰ハレタル僧ノ寺ヲ、定額ノ寺ト云、定額近本作常額

○十四日夕、參候、

昨日一條右府公、東門跡ヘ御成ノ樣子、委細ニ御聞ナサル、又
昨日上田養安、御茶ヲ上ケシ樣子、委細ニ仰下サル、
○風爐ノ向ノ疊ノアキハ、如何程ニ仕ルコトニヤト窺フ、仰ニトカクニ小板次第、ワキノカベ付ヨリ、九ツ目ニ小板アレバ、向フノカベツキヨリ十一目ノ曲尺ニ、小板ヲナホス、ワキノカベツキヨリ十一目ナレハ、向フノカベツキヨリ十三目ノ位ニナホス、二ツ目ハ疊ノヘリニカクレテアル故也、故ニウチミニハ、脇ヨリモ向ノ方、アキスギタルヤウニ見ユ、
○廿日、　御園意齋御茶獻上、上田養安、拙、御供、
午過御成、
待合、上御烟草盆、上御圓座、　樣、次烟草盆、次圓座二枚、
掛物、遠州ノ文、一文字今織、上中下紙、是文ハ、先日上田御茶ノ時ヨリ思ヒ付テ、新ク表具アリ、
御庭出來之由一段に候、御隙に候へば御光駕待入候、瀧本へも申入候〱、今庵ゝ宗甫、時ニトリテ面白シ、
香合、利休カタノ由、書付アリ、杉ノ曲物木地、內クロヌリ、甲ニ眞鍮ニテ、蝿ト蜘ト青貝ニテ小虫アリ、
御會席、
汁、小イモ至テ小、五ツ、
皿、玉子ノ白ミ細キリ、イリサケ、サヽケ、豆腐湯波、
煮物、一夜鹽鯛、センバ、
吸物、ナシ、生干ノカラスミ、(近本、片木(ヘギ)ニ、トアリ)
菓子、串サシ團子、水ツケ、ビイドロニ白砂糖、

御中立、
花生、風早故中納言實種、カツハリ、　花、ヒルカホ、

水指、青磁、ヌリフタ、
釜、アラレ、

茶入、性不知、ヤケギレノフクロ、
茶杓、佐渡守、
茶碗、先日修學寺ニテ燒セラルルノ由、
茶後奥座敷ニテ御話アリ、
意齋ヘ紋紗ノ八德ヲ、今日ノ御引出物ニ下サル、
○廿二日、　參候、
明日ハ岡崎ノ二三ヲ茶ニ招キ候由ヲ申上ク、花ハ下サルヘキノ由仰也、翌朝林彈正ヨリ、白赤ノ木槿ヲ拜領ス、
○ツルベヲ出スヘキト存、茶筌カサリニ致シタキ由ヲ申上、苦シカルマシキ由仰也、二三ガ茶杓ヲ出スヘキナラバ、皆具カザリツクタラハ、然ルヘカラントノ仰ナリ、
○廿八日、　參候、
頃日、朋友ノ者來リテ、先日ノ二三カ茶ニ出セシツルベハ、見事ノ由承リ及ヌト申シキ、夫ハ面目也、近日ツルベニテ、御茶

申スベシト申シタリ、若シ此客ヲ得タラハ、又先日ノ如キ、水指ノカサリニテモアルマヽ、此度ハ水指ハ他ノ物ニシテ、ツルベニ花ヲ生テハ、如何アルヘキヤト申シ上ク、仰ニ如何アルベキゾ、水指ノツルベヲト所望スル人ニ、其ツルベニ花ヲ生テハ何ノ詮ナシ、本水指ナルモノヲ借テ、花ヲ生タルモノナレバナリ、カヤウノトキコソ、水指ツルベノ、一ツカサリナルヘケレト仰ラル、

○一ツ餝リト云フコト、先普通ニハセヌコト也、釜ハ常ノカサリニテノケモノ也、今ノ世ニ、香合ヲ一ツカサリニスルコトハ、其由ヲ知ラズ、トカク掛物、羽箒、香合トカ、先ハ三ツカサリノモノ也、香合ノ一ツカサリハ、壺ノトキバカリ也、唐物ノ茶入バカリコソ、盃ニノセテモノセズモ、一ツカサリニハスルコト也、其外ニ一ツカサリト云コトハ先セヌコト也、ツルベヲ一ツカサリニセハ、初手ニ花ヲ生テ、後ニハ何モナク、ツルベヲ一ツカサリ付クハ然ルヘカラン、跡ハ茶入ヲ仕込ニシテモ好カラン、近本作、花入ヲ仕廻ニシテモ好カラン

○六月朔日、　參候、

晝ノ御相伴ノ後、御前ニ萱草ト酸醬トアリ、生テ見ルヘキノ由仰也、畏テ生ク、仰ニ置花生ニ花ヲ生ルコトハ、少シニテモ花生ヨリ、葉モ花モ下リテハ詮ナシ、花生ヨリ下リテモ苦シカラヌ物ハ、柳一色也、藤ハイカヾト問ヒシカド、ソレモナラズト、三菩提院ノ仰ラル、垂ルル程ナラハ掛花生然ルベシ、萱草ノ如キモノハ、莖短カニ生ルガヨシ、若莖長ニ生レハ、葉ニテ莖ヲ包メハ又莖短ニ見ユ、

○花ハ、生花ノ生タル形ヲ、生ルガヨシト兼テ承ル、萱草ハ花高ク葉ヒキク候ヲ、花ヲヒキクシテモ苦シカラヌコトニヤト窺フ、苦シカラス、杜若トアヤメハ花ヵ似テ、若アヤメノ杜若ニナリ、梅ノ桃ニナランヤト云爲ニ、花ノ高下ヲ吟味ス、左ナキモノハ、花ヲヒキク生ルコトモアリト仰ラル、

○籠花生ハ、御床ニ直ニ置カル、籠花生ノ籠ニハ、少シモ水ヲセヌカ習也トモ、花生ニハ水ヲスル也、

○ツルベハ直ニ置也、薄板ナシ、四角ナル花生ニ、四角ナル薄板ハイカヾトテ、盃ヲ覆テ置候由ヲ申シ上ク、盃ハ仰ケテ置クベシ、桃底ノ花生ナト、盃ヲ仰ケテヲクガ故實也ト仰ラル、

○先日ノ道正庵カ茶ニ、薄ヲ生タルコソ珍シケレ、若シスヽキヲ取合サバ、菊ナドニハ苦シカルマシキヤト窺フ、イカサマニモ苦カルマシキ也、昔シ三菩提院殿ノ、川原ナデシコニ薄ヲ生ラレタルガ、唯一度見シマヽ也、撫子モ見事ノ大輪ヲ、コサ〳〵十六七輪モヲシメニシテ、薄ヲ入ラレシハ最興アリテ、面白ク覺タリト仰ラル、近本作六七輪

○三日、　參候、
頃日茶友ノ來リケルニ申シシハ、同客同亭ニテ、二日ヅヽ續テ茶ヲシテ見タキモノ也ト、如何ニモ面白カルベシ、イザシ玉ヘ爲テ見ント、然シ行ニモ呼ニモ、主モ客モ工夫アルベシト申シキ、思召イカヽト窺フ、仰ニ何トアルベキカ、二日ツヽケント思ハヾ、前日ニ後日ノコトヲヒカヘタリ、遺シタリ爲ルナラハ、重クナリテ、客ニ見付ラルヽコト多カルヘシ、不ㇾ若シツベイガヘシニ、四日續ケテセバ、主ノ器モ客ノ器モ知ルベシト仰ラル、眼目ノ付處ノ違タルコト如ㇾ此、九仭ノ不ㇾ可ㇾ及モノ也、獨吟ノ連句ニテモ、連歌ナトスルハ、先ハ器量ノコトナレトモ、獨吟ト云コトニテ、前ヲ仕易ルコトノナルゴトシ、毎度ナカラ感心シ奉ル、

○釣瓶ノ水指ニハ、蓋ノ上ニ芥子トヤラン、粟トヤランヲ蒔コトヲ、習ニ致スト云コト、御流儀ニモアルコトニヤト窺フ、イサシラス夫ハ定テ、蓋ノ取リヨキ爲ナルベシ、蓋ヲ取ニ習アリ、片一方ヲ少シサゲメニシテ引、片一方ヲ少シアゲメニシテサシコメハ、蓋ノヒツツクコトナシ、是習也ト仰ラル、

○鹽山椒ヲ膳ニ付ルコトハ、殊ノ外ニ分アルコト也、大秘藏ノコトトス、茶湯ニテ鹽山椒ヲ付ルコトハ、普通ニハセヌコト也、初テ得ル客ニハ必スルコト也、常修院殿毎度カタフナサレシコト也、書院ノ振舞ニハ、添物モ多ケレハ、此ニテ鹽梅アシクトモ、彼此ニテ好コトモアリ、茶湯ハ只一汁ニ二菜ノモノナレハ、ソノ鹽梅ノ初客ノ氣ニ不ㇾ入バ、食フヘキモノナシ、初客ノ鹽梅ヲ不知カ爲也ト仰ラル、

○五日、　參候、
昨日ノ茶湯ノコトヲ申シ上ル次手ニ、茶入ノ蓋ハ、唐物蓋ニテ候ト申シ上ク、ソレハ如何體ノナリソト御尋アリシ程ニ、

カヤウノモノニ候ト申シ上ク、御流儀ニハ、カラモノ蓋トテ、形ヲ究テアルコトハナキコト也、イカヤウノナリニテモ、茶入ノトリアヒニテ、此形ノ茶入ニハ此蓋トス、唐物フタト云ハ、唯一色ナラテハナキコト也、ソレハ形ニハアラズ、形ハイカヤウニテモ、ウラハリノ處ヲ、木地ニスルヲ唐物蓋ト云、是大秘藏ノコト也、人ニ不ㇾ可ㇾ語コト也、今ノ世ニハ象牙ヲ惜ンテ、迚モウラハリハ見ヘヌ處ユヘニ木地ニスル、ソレハ各別也、唐物ノ蓋ハ、木地ニスルガ本式也、ソレナゼナレハ、盆ニヲクトキ、象牙ノヤウニカッチリト云ハズ、ボットリト音スル爲也、常修院殿殊ノ外ニ、大事ニナサレシコト也、人ニ不ㇾ可ㇾ語、

○九日、　參候、
先日野村某ヲ、茶ニ呼ト云シハ、何時ノコトゾ、兼テ仰アリシ、

大海ヲ下サルベシト思召テ、出シ置レシカ、緒ツカリノ古キハ御流儀ノ樣ニモナサニ、新ク成シ下サル由ニテ、拜領ス、世ニアリカタキコトニテ拜受シ、且緒ノ結ビヤウヲ御傳授アソハス、新古共緒ツカリヲ下サレテ退出ス、近日此ニテ茶致スヘキノ由申上ク、

○野村某ヨリモライシ、赤ノ丸ナツメニ、御前ノ袋ナシ下サレシマヽニ、是レヲ出サント欲ス、然ラハ薄茶ハ、大海ニ入ルヘキカト存スルノ由ヲ、兼テ申シ上ク、

今日ノ仰ニ先尤也、左ヤウニ致シテ、跡ニテ新兵衞カ存ショリヲ聞ヘシ、頃日モ思召スニハ、常修院殿ニ談合セハ、如何ト仰ラルヘシ、其子細ハナツメニ濃茶ヲ入ル丶ト云ハ、古今棗目トフブキト、此二色ニカキリタルコト也、其外ノナツメニハ、濃茶ハ入レズ、スレバイカニモライシ物ナレハトテ、右二器ノ外、丸ナツメニテハアルマシキモノ也、常ノ茶入ニテ濃茶ヲ立テ、跡ニテ進ジタキ薄茶アリナド云テ、右ノ丸棗ヲ出サルヘシ、兼テ仰ラレシ、棗目ハ茶入ノ挽器也、本ハ大海内海ナトニ入テアリシヲ、直ニ引家ニ入ショリ事ヲコレリ、スレハ茄子、分輪、肩衝、此三色ノ引家カ、棗目トフヾキト也、サル故ニ此二ツナラデハ出サス、其中ニモ茶入ノ根本ハ茄子也、茄子ノ引家ガ棗目ナル故也、分輪一本文輪

○大海ニテ茶ヲ致スコトモ、コレアルコトニヤト窺フ、イカニモアルコト也、此時ハカザリ付ガチガフ、數會同客ナトニテカ、又ハ夜會ナトニテ出スコトモアリ、始メヨリ棚ニカサルコトモアリ、兎ニ角カサリツケハ、勝手ノ壁付ニカサル、今ノ人ノ茶入カザルヤウニス、コレガ本濃茶ノ入レモノニテナサニ、茶入ノ常座ヲハヅシテカサルト云モノ也、今ノ人大方、茶入ヲ壁付ニカサルハ其由ナキコト也、

○ルイサノ盞ノカサリバカリハ、必ス仰ケニスルコト、常修院殿モ其由ヲ知ラス、傳授モ得サリシガ、是ナト唐物ニテハアリナカラ、唐物ニテハナキ、アシライナルベシトハ思召セトモ、左樣ノ御傳授モナシ、右ノ通リニナサルル也ト仰ラレシ也、

○常修院殿ノ、茶道ヲ大切ニナサレシコト、ヨク〳〵ノコト也、公ト三菩提院樣ト御願ニテ、臺子ノ茶ヲアソハス筈ナリシカ、俄ニ御器物ニ調ハヌモノアリトテ、明日ノ今日ニナリテ、由ナク止ラレタリ、跡ニテ聞クハ、奈良ヨリ常信院カ上リテ參リシ故ニ、若シ一門ヲ召連ラルヘキカト、思召シテノコト也トゾ聞エシ、御流儀ニテナキ人ノ前ニテハ、一言モ仰ラレタルコトナシトゾ、

○十三日、參候、

一輪ヲ生クルコト、ソノ理ヲ知ラス候故、生テ面白シト存スル

コト稀也、世間ニ、窓アル花生ノ中ニ、花ヲ生ルヲ一輪ノ樣ニ申セトモ、惡クスレハ、花カイツキタルヤウニテ、不二面白一候ハイカヽト窺フ、　仰ニ總シテ一輪ヲ生ルハ、枝ヲ生ルト合點、スベシ、椿ナトノ花ノ枝ニ、好所ヲ得テ咲タルハ稀ナルモノナリ、好枝ヲ生テ其枝ニテホドヨキ處ニ、花ヲ入ルレバ好シ、根シメナトニ、花ヲ入ルレハ、マドノ中ニナルコト、自然ナリト、

此春御前ニテ、彼岸サクラヲ入レジニ、カヤウノ枝ニ、タテソヘハアシシ、枝ヲ用ヒタルカヨシト仰ラレシト一也、

○十六日、　參候、

三幅對ノ掛物ヲ、一間ノ床ニ掛クルトキ、法ノ通リニハカヽリニクキコト多シ、是ヲ掛ラレヌト申スニテ候ヤ、但シ細キモノバカリヲ掛ルコトニ候ヤ、仰ニ一間床ニ三幅對ヲカケルコト、法ニナキコト也、一間半以上ノ床ナラデハ、掛ヌが法也、細キモノハ、偶カヽルモアルヘケレトモ、面白カラヌモノ也、ソレ故三幅對ノ掛物ニカキリテハ、リンホウハナキモノ也、皆トウホウ也、上下ニモハヤシク類ハセヌカ法也、昔シヨリミナ純子金ランノルイ也、ソレナセ故ナレハ、大抵三幅對ト云モノハ、小床ノモノニアラス、書院ノ道具也、書院床ノ大ナル處ニ細キモノヤ、サビタル表具ハ居ヌモノ也、東山ノ名物對ノモノノ類ノ表具、ミナドンス金ランノ上下也、

○十八日、　參候、

近日存シ立コトノ侍リテ、舊宅ヲシツライ申サント存ス、拙モト茶氣不レ存ヲリニ建テタル座敷ノ、四疊半ヲ三疊ニ致シ、カヤウ〳〵トアラマシヲ申シ上ク、　仰ニソレハ仕樣摸樣ノアルヘキコトゾ、漫ニスヘカラストテ、翌日　御手ツカラ御差圖ヲ拜領ス、御尤モナルコトハ申スモ愚カ、面目世ニアリカタキコトニ覺ヘテ、此冬ノ口切ヲ此座敷ニテ仕ラン由ヲ中上ク、

○廿一日、　參候、　錦小路、拙

錦小路カ申上ラルニ、色ハ限リナキモノニテ、文字モソレ〳〵ニアルベキコトニ候、アカキ一通ニテモ、赤モ、絳モ、紅モ、赬モ、丹モ、赭モ、朱モ、候ヘハ、ソレ〳〵ノ差別アルヘキニテ候、

仰ニ、夫ハ先年荒井カ申上シニ、木下順庵カ說ニ、色ノ文字ニナリテハ、詩人文人ノ言ハ何ノ益ニモタヽス、假令ハ天ヲ蒼天トモ、青天トモ云、竹ヲ翠竹トモ、青竹トモ云、處々ニテ差フ、何トシテ差フト云分ハナシ、色ハカリハ言ヲ以テ傳フヘカラス、是此色ト見スルヨリ外ハナシ、夫レ艸木ノ色ハ、古今ノ變ナキモノナレハ、艸花ノ色ヨリ外ハ、賴ニシガタシト申シキ、此名言也、夫ユヘ先年道安ニ云付テ、本艸綱目ノ色字ヲ拔出サセタリト仰ラル、

○又申上ラレシハ、御前ナトニハ、御慶賀ナト、申ス文字ハ、定メテアソハサヌニテ有ヘシト、仰ニ、先公ノ御覺ナサレシヨリ終ニアソバサズト、拙其故ヲシラズ、如何ト錦ヘ問、當今ノ御諱ヲ慶仁ト申上クル故ナリト、

又仰ニ、先年御所望ニテ、孝經ヲ書テ上シニハ、慶ノ字ヲ除テ書マシキヤウモナシ、清朝ノ人ハ黑クヌリテ置ク、アレモ猥藉也、カヤウノトキハ畫ヲ一ヅヽ添テ書コト故實也、虞世南カ中宗ノ諱ヲ避テ、顯ノ字ノ連火ヲ五ツウツタリト云、是故實也ト仰ラル、二ノ名ハ、一ツ宛不レ諱ト申セトモ、近代天子ノ御諱ニ、仁ノ字ハ通レリ、スレハ上ノ一字ヲ、御諱ト立ヘキコト勿論也、又臨（臨近本作昭川崎本作皓）文ニ不諱ト云ハ、畫ヲソユルコト尤ナル御コトナリ、

○廿二日、　參候、

此度　東宮御殿ノ繪共ヲ御覽アリテ、探幽ハ（探幽近本川崎本幷作探山）イツモヨリ出來シタリ、誰ノ筆ソ杉戸ニ西王母ヲ書タリ、其顏ハ浮世繪ノ顏色ニシテ、服ハ仙服タリ、假令ハ日本ノ美童唐服ヲ著セルカ如シ、美シク書カント思フアヤマリヨリ起レリト仰ラル、御前ニ如石拙侍リ、御尤ナル御コトト感ス、如石申シ上ラレシハ、清水ノクサスリ引ハ、如何樣ニモ見コト也、五郎カ刀ヲ持シ手ノ中ニ柄ハナシ、朝比奈カ鶴ノ丸ノ素袍ノヒタヲカマワス書キタルコト、古今ノ評ナリト申スト申上ラレシカバ、其評ナド大俗論也、アチノ畫ノ評ニモアルコト也、サヤウノ評ハ畫ニハナキコト也、左ヤウニ理屈ヲ立テテ書クハ、始ヨリ畫ノ精神ハナシ、生ウツシトテ、花鳥ナトノ生タル物ヲ前ニ置テ書ヲ生カキト云テ、ウツシヱニスルニハ、曾テ精神ノナキモノ也、總シテ畫ハ、筆力精神ヲ專トスル故ニ、理屈ヲ跡カラツケテ評判スルハ、畫ヲシラヌ批判ナリト仰ラル、

○七月九日、　參候、

今朝筑後守ヨリ到來セシ、白蓮二花靑荷二葉ヲ捧ケタルヲ、御床ニ唐金ノウスハタニ御生アソバス、

此花生ヤウノコト、先達テ御傳授ヲ受ク、ウスバタノ中ヘ竹ヲ仕込テアソバス、御尤ナルコト也、巻荷ノ子・シヤウヲ御口授ヲ受ク、此ナド二花ニ二葉ナラテハ、ナキ故ニ、如レ此アソバシタレトモ、二花二葉ハキラフコト也、又ワロキモノ也、是ナト後ニ今一葉モアラバ然ルヘカランカ、總シテ花一ツナラハ葉二ツ、花二ツナラハ葉三ツカ好モノ也、古ヨリ三花三葉四花四葉ト云是也、（予毎ニ不審ニオモヘリ、花三ツモ、葉四ツモ、入レ子バナラヌコトアリ、異ナルコトト思ヒシカ、サテハ三花ニ三葉、四花ニ四葉ト云コトナルモノヲト、初テ覺悟ス、）六花六葉モ同シコト也、水仙ハカリハ四葉ヲ生ルコト、古今ノ通例ニテ、少シモ不レ苦也、水仙ノ四ツ葉トテ、四ツガ水仙ノ生葉ノ形也、四花ニ四葉モ、曾テカ

マハヌコト也、是立花ニモ習ニス、胡蝶花（シヤガ）ノカタバトテ、胡蝶花ニカキリテハ、葉ヲ一方ヘノミ出ス、射干ヤ杜若ノヤウニスルコトハナキコト也、此モ胡蝶ノ生花カ、フト東ヘサセハ盡ク東ヘサス、西ヘハ一本モサヽヌモノ故ナリ、立花ハ、凡テ如レ此道理ヲツメタルモノ也、

○昨日ノ仰ニ、朝顔ヲ生ルニハ傳授アリ、大秘藏ノコトトス、人ニ漫ニ不レ可レ語、モロ〳〵ノ花ヲ生ルニ、水ヲセヌト云コトハナキコト也、水ヲシテ生ル、朝顔ハカリハ、少シモ水ヲスルコトヲ嫌フ也、ソノワケハ少シニテモ、アレガ手ニ持テ出タル水氣ノ外ニ、此方ヨリ水カヽレハ、花ハソレダケ色ガ變ル、葉ハ必スタレテ形ヲ損ス、先ハツボミヲ宵ニ生テ、少シモ水ヲセヌガ習也、是ハ殊ノ外ニ、花ニ秘事ニスル事ナレトモ、フト御口スベリテ、御話ナサレタル由御物語ナリ、

○古ヘ後西院ノ御時、古筆ノ手鑑ハヤリタルコトアリテ、千枚手鑑ヲ御仕立ナサルニ、冬良ノ短尺カ絶テナキモノ也、冬良ハ一條家ノ一代ニテ、禪閤兼良ノ子也、アリソウナモノナルニ、歌ヤナラサリシカ、殊ノ外ニ稀ナルモノ也、一條家代々ヲ押サレテ此一代ノ闕タルヲ氣ノ毒ニ思召テ、方々ト尋ラレシカトモ出ザリシガ、或トキ古筆ノ了眠カ方ヘ、短尺ヲ數十枚持來リシ中ニ冬良ナラント思フヲ所望シタリケレハ、何人ノ筆跡ニヤト先ヨリ尋ヲシニ、ワザト色ヲサトラレジト、久二良トアレハ定メテ町人フゼイノ歌ナラント、取テ上ヘ捧テ過分ノ祿ヲ給リケリトナン、了眠カ此ハタラキ故、茶モ上手ナリシ、冬良ノ二字ヲ、卒爾ニ久二良トハ、賢クモ紛シタリトテ大笑ナサル、吉田ノ兼好カ短尺モ、甚マレナルモノ也、大猷院ノトキニ、天下ノ手鑑ヲ集ラレシカ、兼好ヲ四天王ト云ヘリ、頓阿ナニカモ揃テ、兼好ノ無キコトヲ殘念ニ思テ、方々ト尋ラレシカ、高野ニアリト聞召テ召サレシカ、案ノ如ク十枚トヤラン揃テ持參シ、何ニモアレ過分ノ祿ヲ拜セント思ヒシカ、不レ殘カヘサレタリ、手鑑ニハ、和歌四天王ノ處ニ兼好カ場ヲアケテ、在二高野一ト記ルシオカレシ、凡ソ天下ノ内ニアルモノハ、皆公方家ノ御所持ナリトノ給シ由ヲ聞ク、イカサマニモ大智（智近本作器）ト云ヘシト仰ラル、

○十二日、參候、

長嘯子ハ歷々ノ者ト見ヘタリ、中井定格カ話シニ昔シ春日ノ局ノ上洛アリシトキ、板倉周防守ノ誘引ニテ、祇園清水ヘ參ラレシカ、定格十三歲ニテ、駕籠ニテ供シタリシカ、瀧ノ下ノ腰掛ニ並居テ、飛泉ヲ詠ラレシニ、熊野比丘ノ瀧ニ脚ヲ洗ケルカ、春日ノ局ヲ見テ、如何ニヤ久シク御目ニカヽラヌコトヨ、御上リト承リケレトモ、今熊野ヨリ上リケル故ニ、未タ參ルコトモ侍ラスト申セシニ、サレバトヨ、此尼ハ由アリテ懇ニスル者也、

京ニテハ建仁寺邊ニ、彼等カ居住ノアリケル由、ツヰニハ周防守ニ目ヲカケテ玉ハレカシ、彼ヲ見テ思付タルコトノ侍リ、長嘯樣ノヲハシマス靈山ハ、程近カルヘケレハ參リテ申サメトテ中井ヲ連テ參ラル、周防守ハ今日ハ東門主ノ振舞ニテ、祇園林ニテ待請申ス由ナレバ、御先ヘ參ラントテ立別ル、扨長嘯子ヘ參ラレシニ、長嘯子ハ紙子ニテ椽ガワニ立出テ、ヨクコソラ參レタレ、爰ヨリモ二階コソ美景ナレ上リ給ヘ、茶ヲモ振舞ケレトモ、其方ノ茶コソ上品ナラメトテ、茶辨當ヲモ二階ヘ上ゲテ共々ニ興セラレシが、周防守ヨリ度々ノ使ニテ、東門主ノ待兼給フニ、早ク參ラセ給ヘト申セシ程ニ立カヘラレケルカ、ソノ體只春日局ノ爲メニハ主人ト見ヘタリ、サテ祇園ニ參ラレシカバ、林ニノコラズ疊ヲシキテ、杉折ノ提重ニテ、饗應ノ夥シキコト云ハン方ナシト、錦小路ノ申セシカハ、上ニモ左コソハ聞ツレト仰ラル、

○八月六日夕、參候、例年如レ此、

イツソヤ御話アソハセシ、古キ假名ノ書一卷ニ、文字ヲ付テクレヨトテ、所望セラレシホトニ、披テ御覽アルニ、假名ハ假名文字ユヘ、讀ハヨムグレーモ通シ難シ、サレトモ新シキ物ナラハ讀マシケレトモ、サスカハ古キ物ホトアリテ、ソロ〳〵ヨメハ、文字ノ格ニテ文字カツクホトニ、ソロリ〳〵ト頃日マテ、通篇ツケヲホセタリ、イテ與書ヲセント思テ、書カヽリシカ、假名文字ト云コトヲ、漢字ニカヽント思テ案スレトモ出テス、廣瀨某カ申スハ、國字トカケカシトイヘトモ、國字トハカヽレマジ、眞名ニモセヨ、假名ニモセヨ、文字ハ漢ノ文字也、和國ニカキリタル文字ニアラス、假名ト云文字モ、万葉書ニテ、アナカチ極リタル文字ニモアラズ、加奈ト書テモ同シキコト也、自體假名ト云文字モ、義理ハナシ、名ヲ假ルノ義ニアラズ、聲ヲ假トハ云ヘシ、名ヲ假ト云ヘカラス、伊呂波假名モ和字ニアラス、草ノ艸書ナレハ、是以テ漢字也國字ニアラス、國字ト謂ヘカラス、

○伊呂波假名ト云モノハ、空海ニテ候ヤ、仰ニいろは假名ハ、護命僧正ノ作ニテ空海ニハアラズ、護命僧正、日本ノ人ノ言葉ノ聲ヲ、同シ文字ノサシアハヌヤウニ歌ニツクリテ、いろはにほへとちりぬるをト爲ラレシナリ、片假名ハ一向舊キモノニテ、是ハ全クいろはノ爲ニツクリタルモノニアラス、是ハ文字ノ符合ナリ、平假名ノいろはアルカラ、イロハニシタルモノ也ト仰ラル、

○頃日左大將ノ、舊キ立花ノ書ナリトテ見セラレシカ、如何樣ニモ永祿ノ頃ノ書ニテ、殊勝ノモノ也、大體ハカハリシコトモナキカ、其ノ中ニテ大秘藏ノコトヲ見出シタリ、立花ノコトニ付

テ竹ノ掛花生ハ、岸ノ崩レタルヲ見ル花也ト云ヘリ、尤ナルコト也、サスレハカク花生ノ花ニ、ウツムキニ生ヘキヤウナシ、又ホソクチハ（ホソクチハ、今ノ置花生ノコトナリ、）枝ヲ生ルモノ也、（眞ヲ生ヘカラスト云コト、）釣リ花生ハヒカヘヲ不用ト云ヘリ、是ハ立花ニハ、究テヒカヘト云コトアリテ、ツリアヒヲ吟味ス、眞ニ小眞ナガシニヒカヘ（右ニナガスレハ、左ニヒカヘアリ、）ト云コト、是常ノ習也、釣舟ニハナキ筈ノコト也大ニ秘藏スヘシト仰ラル、

○九日、　御本殿渡御、（拙御供、）

小書院御掛物、（妙惠ノ文、）前ニ古代ノ卓ニ金ノ孔雀香爐、御居間御床掛物、（近本有光悅ノ歌四字）

○七月、（初旬ヨリ移居ノ思ヒ立コトアリテ、參リテモ殘暑ノウロリノミ、且又心ニカカルコトノミニテ、筆記セサリシコトモ多カリ、拜聽ノコトヲ記サヽルモアリ）

○八月、（此月中旬ヨリ病氣ニテ、久シク不㆓參候㆒其ウチニ、保君御方御不豫ニテ、終ニ九月十日ノ夜、カクレマシマス、御誕生已後ノ御馴染ニテ、今ハノ限リマテ見トトケ奉リシニ、悲シサ申スモチロカ、御前ノ御心中、常陸ノ局ノ心入マテ、推ハカルニ言語ヲ絕ス、其夜モ直ニ御宿申、明ノ日ヨリモ、日々夜々御前ニ出テ、申上クヘキヤウナク伺候シテ只默スルノミナリ）

○九月十二日、　參候、

逍遙院ノ時分ノ歌、

　大かたに、みれはこそあれ、雲は雲、
　　花は花なる、みよしのゝ山、

逍遙院ノ歌ニ、

　雲は雲、花はとも、ふきわけよ、嶺こす風の、心ありせは

右ノ二首ヲ後水尾院ノ御評ニ、逍遙院ノ御歌スクレタリトノ仰也、吉野ノ花ヲ雲ト見ル古キフマヘヲ、斯ク新シク云ナセル樣コソトアリシ由、

○泊如ノ谷響集ノ中ニ、鸚鵡貝ノコトヲ、或儒者ニ問ケレハ、ソレハ太平廣記ニ見エタリト云シホトニ、太平御覽、同廣記ヲ見シカトモ其コトナシ、千卷ニ及フ書ユヘニ、ヨモ一々ニクル人モアルマシキト思テ云シカ、但シ覺ヘチカヘタルカナルベシ、トカク廣博ノ書ヲ、出處ニハ引カタシト仰セラル、

○言語同斷ト申ス語ハ、絕㆓言語㆒ノ義ナルベシ、（外記ニ問シカ、莊子ニ出、言語道斷ト書由ヲ申ス、）イカニモ言語道斷ト書テ、楞嚴經、並ニ法華經ニ出ル由、御直筆ノ御拔書ヲ拜見ス、

○宇治ノ惡左府ハ聞ユル博學ノ人也、常ニ車ニ駕セラルヽゴトニ、太平御覽ヲカヽサス見ラルヽ由ヲ、少納言信西ヘ語ラレシカハ、信西カ申スハ、太平御覽ノ類ハ、物ヲ考ヘ事ヲ證スルノ書也、故ニ時ニ臨テ考讀スル處ノ書ナリ、アタマカラ熟讀スルノ書ニアラズト云、清原ノ賴業ヘ尋ラレシカハ、イカニモ御覽アリテ害アルヘカラスト申、兎角スルホトニハ遍ク見終リテ、故事ハ殘ラス暗記シタル由ヲ、台記ニ記サレタリ、（イカニソレホドノ御人ノ、アレホトノ御アリサマコソ、不審ナレト申上シニ、サレハトヨ朝廷ノ衰ハコレヨリ起レリ、サルホトニ惡左府ト申スト仰セナリ、）

○十四日、參候、
水指ニ口ノアルモノハ、必ス釜ノ方ヘ口ヲ直スト覺エ候、當世ノ流ニハ、客ニウシロヲムクルトテ嫌ヒ候、口アルモノハ水サス爲ナレハ、釜ニ向ヘキモノト承ル、仰ニ口アルモノハ、必ス釜ニ向トノミ承リタルカ、ナルホト左樣ニ候、仰ニ口アルモノニ二色アリ、木地ノ片口ヤ、藥鑵ノ類ノサシ出テ、口ノアルモノハ釜ニ向フガヨシ、又口ハアリナカラ、燒物ノカタクチヤ、スリハチナドノヤウニ、必ス其口ハ用ヒヌトモ口アルモノアリ、ソレハ釜ニカマハス柄杓ヲ口ノアル方ヨリ、口ノナキ方ヘ汲マルル樣ニ直ス、ソレナセナレハ、口ノナキ方ヨリ口ノアル方ヘ汲メハ、水コボル、カ故也ト仰ラル、毎度仰ヲ承テ感シ奉ル、コレモ前カトウカガイシコト也、口アルモノハ釜ニ向フガヨシト仰ラレシ、一通リヲ覺ヘ居タリ、深ク入リテ承ラハ、イカナルコトカアラント、最奥ユカシクコソ存候ヘ、

○今ノ世茶入ノ挽家ニ、至極ニ結構ヲ盡シテ、袋マテ美麗ナルアリ、ヨキ形ナルヲ棗目ノカハリニ、薄茶ヲ入レテ出シ候ハ、イカカ侍ラント伺フ、　仰ニイカニモ昔ノ故實ハ、ソノ筈ナルコト也、宗和ノ物數寄ノ挽家ハ、ソコト目ヲ付テ、隨分薄茶入ニ用ヒラレヌヤウニ、拵ラレタリト仰ナリ、

○宗和ノ說ニ何ニテモ形ヲ利休々々ト云ヘトモ、利休ノ形ノ今用ヒラレヌモノアリ、强テ用ルハ通屈ナシト云ベシ、今ノ世ノ湯盃ノ形ナド、古ヘ利休ノトキハサゾアラン、今ニテハ全ク鷹ノヲトシ盃ノ形ニ少シモ違ハズ、ソレ故京大阪ノ道具屋ニ、美ヲ盡シタル恰好ノ湯盃ハ、多ク鷹ノヲトシ盃也、若シ左ニアラズトモ其嫌アレバ、其ノ形ハサクベキコト也、故ニ宗和ノ形ハドチラヘドウコクテモ、ヲトシ盃ノ形ニ似ヌヤウニ製セラレシト也、尤ナルコト也ト仰ラル、

○後水尾院ハ、仲和門院ノ畵像ヲイク通リモ書サレテ、其中ニテ一ツチ美キヲ是ニト極ラレシカバ、女中ノソレハ一ツチ似モヤラズ、是コソ能似タレナド申サレシカバ、百年ノ後ハ誰知リ覺エ見覺ヘタル人モアルマジ、斯ク美キ御有樣ナラント思ハンコソ、イミシカルヘケレト御詔アリ、

○後水尾院ノ御影ハ、御グシヲ妙法院ノ堯恕親王ノアソバシテ、御衣紋ヲ探幽ニカ、サレシ由、御製集ニ見エタリ左ニテ候ヤト窺フ、　仰ニイカニモ左ノ通リ也、ソレヲ永初ガ本朝畵傳ニ近本作永納ガ本朝畵史探幽ヲ召シテ御影ヲカ、サレシコトヲ載テ、御首ヲ堯恕親王アソバセシコトハ載セザリシ、央能近本央作英ガ生テ居バ書スベキモノヲト仰ラル、

○十九日夕、　參候、
泊如ガ谷響集ニ、四百四病ノ目ヲ擧テ、何ノ經ニ出タルヤト問ニ答テ、諸經ノ中ニ往々說レ之ト、智度論ノ說ヲ引テ且釋曰、四百四病者、四大爲レ身常相侵害、一大中百一病、起冷病有二二百二一

水火風起、故熱病有二一百二一云々、近代醫書雖レ有二四百四病之言一而無レ擧二別目一、蓋取二佛經一矣ト記セリ、諸經ト指スハ何レノ世ノ經ニヤ、智度論ハ何時分ノ書カ存ゼヌドモ、唐ノ孫思邈ガ千金方ニ、四百四病ノ類ヲ擧ク、然レドモ一百一病ハ何、一百一病ハ何ト、ソレ〳〵ニ別目ヲ擧グルコト彼ノ經ノ如シ、不レ知泊如千金方ヲ見ラレズヤ、是ニ付テ存ズルニ凡ソ儒者ノ佛者ヲ叱リ、佛者ノ儒者ヲ叱ル、ミナ僻ガゴトトコソ存ズレ、己ガ學ビ得タル處ヲ本トシテ、己ガ自得スルハ各別、他ノ道ハ學モセズシテ、他ノ道ヲ譏ルベカラズト存ズト申シ上ク、　仰ニイカニモ左アルベシ、我道ニ得タル處ヲ記シテ、是々ノコトハ此經ニミユトノミ書ベキコト也、泊如ハ近代ノ博識ニシテ一宗ノ碩學タリ、六時ノ鐘ノ數ノコトヲ、延喜式ヲ引テ載タルガ、何如ナル故ニ午ト子トハ九ツ、巳ト亥トハ四ツウツト云コトヲ謂ハズ、ソノ後五行大義ヲ見レバ、イヤトモヲフトモ云ハレヌコト也、サレドモ言語文字ノ間ニテ紛ハシク、會得シガタキ故、圖ヲサセテ置タリ、是ミヨトテ御ミセアソバス、泊如コノ五行大義ヲ見バ、ヨモ載セザルコトハアルベカラズ、見ズヤイナヤ覺束ナシ、五行大義モメツタニ、澤山ナラス書ナレドモ、ヨモミヌコトハアラジ、イカヽト仰ラル、

○信範ノ人車記ニ、雨祈リヲ知足院殿へ仰付ラレシニ、日時勘文ヲ誰ニカ仰スベキトアリシヲ、知足院殿中サレシハ、風雨ノ祈ニ日時ノ勘文ハナキコト也、思召立タル日コソ大吉日ナレト申サレテ、即日行ハレシガ、天感アリテ、知足院殿ノ、腰マデツク程ノ洪水ヲナセシガ、雨風ヲモ水ヲモ厭ハズ、龍腦ヲツカンデ天ニ謝セラレタリト云コトヲ、信範ノ感心シテ、知足院ノ返答ヲ褒ヲカレタリ、知足院ノ初テ云出サレタルヤウニ記セリ、此コト宋史ニアリ、宋ノ憲宗ガ雨ノ祈ニ、御幸アルベキ由仰出サレタリシガ、今日ハ大惡日也、行幸アルベカラザル由申スモノ侍リシガ、李德祐ガ表ヲ奉リテ、天地風雨ノ祈ニ日時アルベカラズ、民間ノ憂ヲ思召シテ天ニ祈ラレンニ、呼吸ノ出入ヲモ待ベカラズ、ソレニ日時ヲ考フルハ早已ニ人意ニ渡ル、天感アルベカラズト云、是ニ因テ即時行幸アリテ、天感アリテ雨降リシコトヲ載セタリ、知足院殿モ此コトヲ蹈デ申サレタルナラン、毎度云ヤウニ和學ノミノ人、惡クスレバ漢ニアルコトヲシラズ、日本ノ手柄ノヤウニ云コト多シ、用捨アルベキコト也ト仰ラル、

○廿一日夜、　參候、

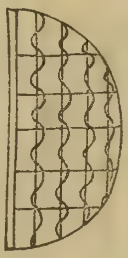
獅子吼院殿ノナサレシ、僧傳配韵ハ、利口ナルナサレヤウ也、タトヘバ某ノ傳ハ、高僧傳ノ何十何卷ニ見ヘタリ、又何ノ何丁ニ見ヘタリトシテ、其傳ヲ擧グルニ不レ及、本艸ノ萬寶針總ノ如シ、凡ソ書ヲ

見テ、重ネテノ爲ニ抜書センニ、如レ此スルホドヨキハナシ、悪ルク心得テ不レ遺アゲントスルト、驚破イルトキニ一々ニ考盡スベカラズ、僧傳ハ數千巻ノ書ヲ、纔廿巻ニテ、スムヤウニセラレタリ、何ニモセヨ用アラントキ、早ク考出サル、ヤウニシテヲクモノゾ、廣博ナルハ却テ害アリ、第一ニ其書ニアヅケヲク是一ツ、第二ニ迚モ其書ギリニテ、本書ヲ考ザレバアブナキコト也、水戸ノ黄門ノ類典ハ、隨分和書ノ記錄ヲアツメラル、ダクヨセテ、假令ハ其節會ニアヅカルコト、不レ遺アゲラレタレバ遺ル處ナキヤウナレドモ、イデ急ニ入トキ考ヘントスレバ、五百巻ト云フ廣博ノ書ニテ、其一事ヲ考フルニ、數百ケ條ヲ讀畢テ後考ヘアタル、イデ入コトハ一行カ二行ノコト也、御前ノ毎々關白公ヘ仰ラル、ニモ、類典ニアヅケラル、コトナカレト仰ラル、御前ニアソバセシ諸記錄ヲアツメテ、節會ニアヅカルコトヲ、中ニテ本文ノ入用ノコトバカリヲ記サレタル故、書ハカサビクニテ、知レヌコトハ早ク知レルヤウニナサレテ、關白公ヘ贈ラレシト也、類典ハ委シイト云サマニ、同シコトヲ數度モ書テアル故ニ、一處ニヨセテハアリナガラ本書ヲ見ルニ齊シ、ソレガ實ハ自分ニ其コトヲナサレヌカラ也ト仰ラル、毎度ナガラ此コト尤切ナルコト也、醫學ノ廣キ人モ已ガ好ムトコロヲ抜クカ、又ハ備テノコサヌヤウニスルカ、イデ入ト云トキハ生死反掌ノ急用ニソロ〳〵考フベカラズ、簡約ニシテ萬卷ノ醫書モ目前ニ考出サルヤウニスベキコト也、コノ御意ヲ以テ抜書セント欲ス、

○世間一統ニ、圍居トサヘイヘバ必ズユガミ柱ヲ立ルコト如何ナル譯ニヤ、定メテ田舎山居ノ、アルニマカセタル風流洒落ナラント存ズ、ソレ故拙、此度ノ圍居ニ、ユガミ柱ヲ忌ミテ直ナル柱ラ建タリ、而シテ後ツク〳〵詠メテ初テ感ズ、昔人ノ仕置タルコトノ、後世用テ不レ止ハヨクヨク譯アリテノコト也、壁トマリノ木世間流ハ大方、一尺三寸バカリ、宗和ノ形カ、准后ノ御圍居ハ一尺九寸三分、ヨリ上、正直ニ細クシテ壁土ヲ見ルコト多ク、下ガ明タレバ何トヤラン、上ガアキタルヤウニテ、スマヌモノ也、ユガミガ入レバ、壁止リノ上ガ壁土格別ニ細ク、上ニテハ又ヒラキテ、色々ニ廣狹ガアル故ニ正直ニモナシ、細長ニモ見エヌ故ニテハ、アルマジキヤト申シ上グ、如何樣ニモ左アルベシ、ソレモ直ナルヲ仕テ見テ、覺ヘタル實見也ト仰ラル、

○此ゴロ世間流ノ茶人ノ申スハ、客付ノタ、ミヲ、一疊ニ三人直ラルルヤウニシクベシ、半疊ヅ、ナラベ敷テ、縁ヲ隔テ、直ルコトヲ嫌フト申スハ、イカヾ侍ルヤト窺フ、仰ニシラヌコト也凡朝廷ニテ參集ノ時モ、避席トテ一疊ヲアケテ、大臣ノ座ニ備ヘ、納言ハ其席ニ入ルコト不レ能、モシ大臣ノ三人モ列座シテ一疊ニ居餘レバ、縁ヲマタゲテ納言ノ座マデ及ブコトアリ、書院ノ振舞ニ數人居ルニモ、縁ハ避ガタカルベシ、床前ノ疊ニ床ヲキリテ、半ノ方ヲ敷クコトハ、決シテアルベカラズト仰ラ

ル、
○廿二日、參候、
此度圍居ヲ建ルニ付テ、窺フ品々、天井ノ高サ、疊ヨリ廻リ緣ノ下端ヘ、五尺八寸三分、（拙ガ圍居ツキクダシユエ、床ノ處ニテ七尺四寸七分アリ、イカヾト窺フ、仰ニ五尺八寸三分ノ處ニ竹ヲウチテモ、木ヲウチテモ、天井ノタルキオサヘノ、廻リ緣ヘ間ナクテイナモノ也、御前ニモ先年左ヤウノ處アリケルガ、五尺八寸三分ノ處マデヲ、何ゾ紙ニテハリタルガヨキモノ也ト仰ラル、如レ此ニス、）
角棚寸法、高サタヽミヨリ上ノ棚ノ上端マデ二尺八寸一分、下ノ棚板上端ヘ二尺一寸四分、
上ノ棚、大サ一尺二寸二分、幅九寸七分、下ノ棚大サ一尺三寸巾九寸五分、二重トモ板ノ厚サ四分、同ハシバミ巾五分半、中束（二重ノヲリ木）大サ四分三厘四方、但ツリ竹カキ竹四分一、
ユガミ柱ノトマリ、地シキイ柱ノフトミシダイ、壁ドマリノ木（メントモ、）八分、巾ハ地ジキイト同シ、此度ノユガミバシラハ、竹ニセヨカシト仰セラレシヨリ思ヒ付テ、直ナル柱ヲ遣イタリ、前ニ記ス如ク壁ノ處マコモ、天井ノ廻リブチヨリ下六尺一寸七分アリ、其ノ上ノユガミ壁ノ處ニテ又一尺五寸八分ノ壁付アリ、都合七尺七寸餘アリテイナモノ故、中ニ窓ヲキリテ、下地ヨシニイタシタキ由ヲ申上グ、イカヾアルベキ、終ニユガミ柱ノカベニ窓ヲキリタルヲ見ズ、他流ニモアルコトカ可ニ尋問一、スベテ窓ヲキルハ、アカリノ爲トカ、何トカ由ナクテハセヌコト也、ホラドコナドノ小壁ニ、窓ノアルサヘ好モノニアラズ、且上ハカベ、下ハユガミ柱ノトマリニテ、眞中ニ窓ヲ明タランハ、長キカケモノノ形ニ似テ、其側ニ掛物ヲ掛タランハ、異ナモノニテアルベシ、明ヌニハ不レ若、モシ明ルナラバ、何トゾ明ヤウアルベシト仰ラル、因テ前日ノ窓ヲ崩シ、ユガミ柱ノキワヘヨセテ、細クアケテ柱ニハ土ヲツケズヨシ竹ヲツキツケニシテ、ウシロハ壁ヲ用ヒ、假令



如レ此仕候ヘバ、形モサシアイナク、ユガミハシラノ形ニ、窓ヲアケタルヤウニテハ如何アルベキヤ、短檠ヲ外ニヲキテハ内クラキ爲メニ、アケタル窓ト申シテハイカヾ侍ラント申シ上グ、イカニモ左ヤウノ云タテアラバ苦シカルマジキカ、窓ハ風爐先ヲスルコトナラヌユエ、脇ヘユヅリタリトモ云ベキカト仰ラル、
○廿三日、　參候、
古ヘ節會ノ陣ニ敷カル、シキモノニ、二色ノアヤセン内（川崎本内作代）ト云コト毎々出タリ、然レドモ近代ハコレナキニ因テ、氈代ヲシカル、由江次第ナドニ出タリ、（氈代ト云物、今ナリモノニシテ、花形ナド有物也、）古昔ハ渡リテ今ハナキモノトノミ覺テ、强テ吟味スル人モナシ、氈代ト云物ハ全ク今ノ毛氈ニアラズ、短キ毛ニテ織テ色々ノ花形ナドア

ルモノ也、先年法隆寺ノ重物ノ中ニ、太子ノメサレシ御夜著フトント云モノ、一クヽリニシテアリ、是即二色ノ綾氈内也、此三ツ一クヽリニシテアリ、千五百年來全ク存スルコト、是ハカリハ漢ニ讓ルヘカラスト謂ヘシ、然ルニソノ後、漢渡リノ氈ト云モノ持來リテ御求アリ、タトヘハタヽミ一疊ノ大サニシテ、先年御覽アリシ、法隆寺ニアリシ氈ニ少シモ違フコトナシ、大ニ御重寶ニテ御本殿ニアリ、是ニ付テモ古物ハ見タキモノ也、見ヲキタレバコソ夫ト知ラルレ、見ザレバ夫レニテアルベシト推量ニテハ極メガタシ、法隆寺ノ重物ハ、孝謙天皇ノ御宇ニ、太子ノ御物ドモヲ寄附セラルヽニ、此等ノ物ハ太政官ノ人衆阿部仲麿ヲ初トシテ、歷名ヲ乘テ是々ノモノヲ寄附セラルルトノ一札ヲ添ラレタレバ、是ホドタシカナルコトハナシ、是ニ附テモ東大寺ノ重物ヲ見ルベキトコソ思ヘ、是モ先年開封ノ節ニ下ラント思召テ、御暇マテ事故ナク濟タリシカ故障ニテ得下ラズ、今ニ殘念ニ思召ストノ御コト也、サレドモ三菩提院殿ヲ賴テ、ノコラズ寫シヲキタリト仰ラル、法隆寺ノ重物、上洛ノ節御本殿ヘトリヨセラレテ、ユルユル見物ス、不殘圖シテ置タリト仰ラル、

○十月六日夜、　參候、

近衞家ハ歷代モ久シク、記錄モ紛失ナク相續アルコトハ誠ニ幸甚ト云ベシ、正シク御堂殿ノ御直筆ノ記、三十八巻ト云モノ今ニ傳ハリテ、諸ノ公事節會ニコトカヽヌコトハ辱ナキコト也、世ノ降リ、人其其家ニ生タル人ウカト心得ベカラザルコト也、歌ニテモ、逍遙院時代マデノ粉骨器量、格別タルコト申スモヲロカ、御家ニ在テハ三藐院程ノ人ハ又アルマシ、世ノ人ハ唯人丸ノ讃、カヽレシマテノヤウニ覺ヘテ、指シテ稱スル人ナシ、拔群ノ才希代ノ器ト云ベシ、三藐院ノアソバシタル、記錄ホト委シキコトハナシ、彼御堂殿ノアソバセシ三十八巻ニ、カタハシカラ頭書ヲナサレテ、今ニモアレ公事節會ノ行ハレンニ、一ツトシテ事カヽヌヤウニナサレヲカレタレバコソ、今日何ゾコトヤウナルコト出來テモ、セメテビクトモセヌハ全ク三藐院ノ力ナリ、ソノ三藐院ノ時、セメテ唯今ノ十分カ一ノ朝廷ニモアラズ、三藐院ノ一生ニ終ニ入ルコトノアルマジキコトノミ也、二百年來ニテ、今日ノ朝廷ホド盛ナルコトハナシ、サレハコソ絕タルヲツキ、廢タルヲ發シ、少シモコトノカケヌハ三藐院ノ御カゲ也、サレバ萬世ノ爲メニ考ヲカレタリト云モノ也、ソレサヘアルニ、サシアタリテイルコトヲ、學ハントモ考ントモヲモハズ、今日ノ人何ト謂ベキヤトト仰ラル、毎度ナガラ深感肝ニ銘スト云ベシ、醫者ノ醫學ヲシテ、入ルコトハ一生ニ幾度ト云ホドノコト也、シカルニ醫トシテ醫ノコトヲ學ハ、入ルコト入ラヌコトニ、日ノツカヌ筈ノコト也、何トシテモ事ニ行ハレ、爲ニナルコトナラバ、學ハント目ノツクハ、ツカヌヨリハマシ、大器ニハアラズ、己カ家ノコトハ、入ル入ラヌニカギラヌハヅナリ、

○一條殿ハ當世ノ才也、朝家ノ御爲ニ、クツカフナルコト也、此度春宮ノ傅ニナラレテモ、何角云出サルルホドノコトミナ一器量アリ、イヤト云ハレヌ理屈トモヲ云出サル、奇特ノコト也、ソレト云モ圓成寺殿（兼輝公）ノ力也、圓成寺殿ハ近代ノ才人也、ヨク覺タル人也、此人ノ當職ノトキ、御前ニハ内府ニテナラセラレタリ、故ニ常々御出會アリシガ、別シテ氣ニ入リニテ何角問答アリシト也、正シク文庫ハ親子（川崎本親子作炎上）ノトキ燒失ニテ、記錄ハ一巻モノコラズ、然ルニ圓成寺ノ一代ニ、今ノ世堂上ニ名ノフレタル記錄ノ一條家ニナキハナシ、タツタ圓成寺一代ニ集リタル分ナリ、誠ニ汗牛充棟ト云ベシ、此力ヲ見テ知ルベシト、今ノ兼香モコレアレバコソト仰ラル、

○八日、參候、

世上ニ曲水指（マゲ）ト云モノアリ、御流儀ニモコレアリヤト窺フ、コレナキ由仰ラル、利休カ百會ニ、マゲモノ、水指ト云是ナルベシ、

○其水指ノヲキヤウノコトニ付テ、先ハ上流ノ者ハ、一ツ足ヲ前ニシテ二ツ足ヲ後ニスル、自ラトヂメモ先也、ソレハ庸軒流ノ茶道ニ、一足ノ方ニトヂメ付テ、二ツ足ヲ前ニスルアリ、是ヲ問ヘバ、風爐ノトキ用ユルモノ也ト云、風爐ノ脚ガ一ツ足ヲ前ニスル故ニ、二脚ヲ前ニスル爲ニ製スト云、是ヲ上流ノ人ニ問ヘバ、何ノ役ニタヽズ、ソレナドウラヘカヘルト云モノ也ト云、シカレドモ道具ノヲキアハセバコヽ一ツナレバ、全ク無理トハ申シカタシ、然シナガラソレホド六ケシキモノヲ、是非トモ風爐ニ出スハ何コトゾヤト申シ上グ、イカニモ左アルベシ、マゲ物ノ水指ノ脚ニハ、ツキヤウカハリタルコトアリ、氣カ付タルヤト仰ラル、曾テ氣ノツカヌ由ヲ申シ上グ、氣ヲ付テ見ルベシトヂメノ處ガ、全クウシロニモ前ニモナラヌヤウニ付テアリ、利休ノ物ヅキナルベシト思召シ、アノ水指バカリハ、ヒツメテ直ス爲ナルベキカト仰ラル、

○ツヽギリノカサリ付ニ、切タヽミノマンナカニ水指ヲ、キテ、茶入茶碗ヲ爐縁ヨリ見通シニ、ハヅシテカザルガヨキヤ、カケテカサルガヨキヤト伺フ、仰ニ先水指ノヲキヤウハ、釜ト見合テ、釜ノツマミノ通リニ、水指ノツマミヲ直スハアシシ、風爐ノトキハ是非トモニ、釜ノツマミノ通リ也、爐ノトキハ爐先ニハメ板アリテ、水指ノ座ノタヽミハ、ハメメ板ダケノビテアリ、故ニ釜ノツマミト見通シテハ、切目ノタヽミノノビタル詮ナシ、此トキハタヽミノマン中ヲ水指ノヲキ處ニシテ、ツマミニハカマハヌガ好也、コレ習也、細キ水指モアリ、フトキモアリソノ見合也、

○水指ニ手ノアリ、又ハ口ノアリテ廣狹アルヲ、手トモ口トモニロクヲ定メントスルトモ誤也、只水指ハ手ニモ口ニモカマハズ、

身ノ正中ヲタタミノ正中トスルコト是常ノ習ナリ、故ニカザリツケモ細キ水指ナラバ、一向ニ爐フチノ見通ヨリ内ヘ入テカザル、フトキ水指ナラバ、一向ニ外ヘ出シテカザルガヨシ、内外ヘカケテカザルコトハセヌコト也、ソレモ茶碗茶入トモニ、ヨフダイヲ、ヲモニシテ云コト也、ヒラキタル縁ハカマハヌト仰ラル、（此段ナトノコト、世上ノ茶人モ知タルコトニヤ、イトクハシキコトナリ秘スベシ、）

○十日、　參候、

先日深諦院ノ問ハレシニ答ヘシ、爐ノ釜ヲ風爐ニカケ、風爐ノ釜ヲ爐ニ下スコトハ、苦シカラヌコトニヤト、常修院殿ノ常ニ仰ラレシ、風爐ノ釜ヲ自在ニテモ、クサリニテモ、爐ヘヲロスコト是常ノ習也、爐ノ釜ハ譲ニ風爐ニアグベカラズトノコト也、雲龍バカリハ、風爐モ又格別ニアリテ風爐物也、今ノ世ハ爐ノ大釜ヲ、ワリナク風爐ニカクルホドニ、大火ニアラザレバ煮ルコトナシ、何ト謂コトゾヤ、

○十日夜、　參候、入江樣御成、御香一座、

窓ナラビニ簾カケノ釘ハ、座ナシノモノ也、壁ヲヌラヌ中ニヨクウチテ裏ヲカヘスベシ、マタ花生ノ釘ハ動クコトナシ、窓障子ハ風ニテモマルル故ニ、エテハクツロキヤスシ、壁ヲヌリ上テ障子ノサン一ツバイニ、動カヌホドニスベシ、

○戸障子ノキシムハ、胡桃ノ油ヲヌルコト常ノコト也、世上ミナシキイニスル故、先ハムサクモナリテ不レ宜、戸障子ニヌリテヨク拭ヘバ、シキイニハ少シモウツラヌモノ也、此常修院殿ノ大秘藏セラレシコト也、

○平田内匠ガ親ノ推庵ガ、職原抄ノ講釋ニ、鑄ニ改鏡劒ニトアルヲ、鏡コソ鑄トアルベキヲ、劒ヲ鑄ルトハ云マシキコトナレドモ、大凡カヤウノ文勢ハ、上ノ文字ヲヲモニアシロフコト也、是詩經ノ公劉ノ篇ニ、弓矢斯張、干戈戚揚、トアルニテ見ルベシ、弓ヲコソ張トハ云ヘ、矢ヲ張トハ云ハネドモ、弓ノ字ヲ重ニ語ル故也ト云ヘリ、然ルニ親房ノ心ハ左アルニヤ、劒ヲ鑄ト云ハズニ何ト云ベキカ、漢ノ書ニハ皆劒ヲモ鑄ト書ケリ、推庵カ論ハ何トアルベキゾト仰ラル、

○十四日、　參候、

仰ニ栗ノシブカワト云文字ヲ覺タルヤ、順ガ和名抄ニ扶ノ字ヲ書テ候、訓蒙圖彙ニハ扶ニテ候ト申シ上グ、本草栗ノ條ニ、扶ヲ擧テ殼内粗薄皮也ト記ス、然ラバシブカワニ紛ナシ、サラバ胡桃ノシブカワモ、榧子ノシブカハモ扶ト云ベキヲ、栗ニカギリテ扶ト云ハ何ソヤ、ソレヨリシテ字典、正字通、品字箋ノ類ノ註ヲ御吟味アルニ、澁皮ト云オモカケモナシ、扨ハ栗ニカギリタル醫書ノ字遣ト見ヘタリ、凡果實ハ殼實核仁アリ、殼ノ中ニ實アリ、實ノ中ニ核アリ、核ノ中ニ仁アリ、栗ノ殼ハ、栗刺（イガ）

ノ中ベラニ、四界ニ破裂シタルモノ是殼ナリ、紫色ニシテ堅キ皮ハ、殼ニ似テ殼ニアラズアレカ扶也、其證ハ凡ソ諸果ノ澁皮ハ、核ニ付テ皮ニハツカズ、栗バカリハ皮ニ付テ殼ニツカズ、カチグリヲ見テ知ルベシ、生ニアラザレバ核ニツカズ、榧ナドハ核ニ付テ殼ニツカズ、他果ニハ異ナル堅實ナル皮アリ、故ニ栗ニカギリテ扶ノ字アリト見ヘタリ、頃日　御前ニ御記錄アソバスコトノ侍リ、陣ノ座ニ菓子ヲ出サル、五種ノ中ニ、栗ハシブカハヲサリ、榧ハシブカハヲ不レ去ト云コトアリ、是ニ付テノ御詮議也、然レバ栗者去ニ扶及粗薄皮一、榧者不レ去ニ粗薄皮一トアソバスベシ、紛ナカルベシト仰ラル、御考ハイツモ如レ此、扶ヲシブトヨマバ、ソレニテスムベキニ、他果ニナキマテノ御吟味ハクハシキコト也、

○吟味ト和ニ云ハ穿鑿ノコト也、漢字ナリヤ和字ナリヤ、和字ナリトモ古キ詞ニヤ、遍ク儒釋ノ人ニ御尋アリ未レ知、

○十七日、　參候、

今ノ世ニフスマト云ハ、下地ヲ段々ニ張リテ、上ヲ鳥ノ子ニテモ、唐紙ニテモ張タルモノヲ云、大抵カタ面ニ張タルモノヲ障子ト云、兩面ニ張タルモノヲ襖ト云、今ノ所謂太皷張也フスマハ兩面紙ノ儀也ト仰ラル、此度私第ノ圍居ノ勝手ノ方、一間ノ處ニ三枚襖ヲ入ルヽニ付テ、二枚ヲフスマニシテ、一枚ノ亭主口ヲ太鼓張ニ致セシガ、何トヤラン强テカマウタルヤウニハベリ、不レ若三枚トモニフスマニシテ、一枚ハ白地ニ張テ色ツキバカリニテ、亭主口ノ意ヲ知ラスベシト存スル由ヲ申シ上ク、仰ニ色ツキサヘイラヌモノ、三枚トモ同シ色ニシテ襖トシラスガ好、引手ニアグミ申ス由ヲ申ス、イカサマニモ、常ノ引手ニモアルマジ、又太皷バリノキリカケモ、フスマニハイカナリ、終ニ例ハナキコトナレドモ細ク長クシテ、張リコムガヨカランカト仰ラル、此トキニ大抵襖ト云モノハ、今ノ太鼓バリノコト也、今ノフスマヲ立ルカラハ、タイコバリニハアラズ、フスマニテ候トイハヌバカリニ、引手ヲ付タキモノナリ、

○兩面ノ文字、漢ニテ出處甚タ稀也、片面半面ノ文字ハ多クテ、兩面ノ字ハ多ク見當ラズ、古ヘヨリ和ノ古キモノニモスクナシト仰ラル、半面ト申スモ表裏ノ義ニテハナキカ、美人半面ナドハ、顏ノ竪ニ半分見ヘタル義ニテ候ハズヤト申上ク、イザトヨ表裏ノ義ニモ、半面ト書タルコトアリ、扇半面ナドアルハ表カ裏カノコト也、和ノ古キモノニモ、兩面ト云ハ、太皷カ皷ナドナラデハナキコト、然レバアノヤウニ、フト表裏ヨリ、合セタルモノナラデハ、兩面トハ云ハヌカ、今ノ太皷張ハ、縁ヲノコシテ兩面ヨリ張タルモノヲ云、太皷ノ義カ、縁ヲノコサズハリマハスハ、太皷ハリニハアラズ、

○日外今大路治部大輔カ郢曲ノ文、もろこしの佐國は、花に身をすつト申、佐國ト云人、漢ニコレナキ由ヲ申シ上テ、何ヤラン誰人ノ考トテ、上覽ニ備ラレタルコト侍リ、此間泊如ノ谷響集ニ、此事ヲ擧テ、或謂日本中古有ニ佐國者一、太愛レ花、疑偶誤レ之謂ニ唐人一歟、余近讀ニ林氏史館茗話一曰、大江佐國太愛レ花云々、ノ義ヲ擧タル由ヲ申ス、仰ニナルホド佐國ハ、日本ノ者ニテ、大和國芳野住人也、モロコシト云ハヨシノノコト也、モロコシノヨシノトツヾケテ、吉野ヲモロコシト云タルコト多シ、モロコシ

ノ、ヨシノノ、、佐國ト云ベキヲ、ウタイノ語路ニテツメテイヒ
タル也、アナガチ誤トモ云ベカラズト仰ラル、
○廿五日、嵯峨ヘ御成、右府樣、入江樣、玉ノ井、笹、拙御供、
○廿六日、大德寺芳春院御成、拙一人御供、
午前御成、
待合、上ノ大圓座、御タバコ盆、次ノ圓座、タバコボン、
掛物、竺田墨跡、表具織部殿好、
釜、利休所持、マリカマト云、

香物、青貝ノ黑ヌリ、鯉魚ニ波ノモヨウ、
御會席、
汁、フクサ、カブラ菜、少シ、
猪口、栗ノ靑アヘ、
煮物、湯ドウフ、
壺皿、豆腐ノユバ、岩ダケ、
醴酒、
吸物、赤ミソ、シメジ、柚、
菓子、ワラビモチ、ユバアブリ、
御中立、
花生、片桐石見、花、寒菊、赤椿、
茶碗、那波九郎右衞門手燒、
茶杓、石州、
茶入、シノヤキ、車輪ノ形、袋、ドンス、
書院掛物、
御菓子、白マンヂウ、
庭ニシキ松葉アリ、カヤウノ處ニテハ尤也、總シテ松葉ヲシク
コトハ、織部カ仕タルコト也、利休モ尤ナリトテ、習テ仕ケル
ト仰ラル、
○爐ノ角ヲカクコトハ、金森法印カ仕出シタルト也、炭ノゼウト
云モノカ飛テ、角ノカタワキノ方ヘヨルモノ也、ソレ故ニソノ
ゼウヲツヽキコムタメニ、角ヲカキタルト云ト仰ラル、
○廿七日、御茶、午前、拙、大町淳庵、鳥井道乙、
御待合、圓座計、石見殿御案內、
御掛物、王元昌カ梅ノ畵ニ、容庵ノ賛、金入一文字印金、中キンシヤ、上下ドンス、
御釜、アシヤ、野馬ノモヤウ、イシメフタ、
御棚、香合、布袋、朱金ノ手、野雁ノ羽箒、
御會席、
御汁、生鱈、クモワタ、
御煮物、大根ノフロフキ、山ノ芋カケ、靑ノリ、
御燒物、鴫、ヒラタケ、柚ノ杉ヤキ、

御香物、ウリナラヅケ、大根一夜ヅケ、楓シキ、右二色、手付提物ニ入、
御猪口、ウルカ、赤給ノゴス、
御吸物、ユリ根、ヨメナ、
御湯次、ヌリモノ、水次、染付カウチ、香煎入、志都呂ヤキ、
御菓子、カステイラムシ、クロクワイ、
中立、
鉦ニテ御案內、四ツ、
花生、古キ鐵ノ鑰、　花、赤山茶花、イノコヤナギ、
鑰ヲ花生ニスルコトハ、宗和ノ物數寄ノ由御物語也、ハシメテ拜見ノ由ヲ申シアグ、サレバトヨコノジヤウハ、此度春日ノ造營ニ付、神庫ノ古物ヲ改メラレシホドニ、モラヒタリト仰ラル、
御茶入、アスカガハ、盞袋共ニ常修院樣御好、　袋、ニシキモツル、珍キモノヽ由也
茶杓、宗和、
御茶碗、唐津、
七ツ過相濟、
○廿九日、　加茂松林院ヘ御成、拙、進藤左馬頭、
待合、上ノ圓座、ガマニコヴライヘリ、上烟草盆、杉ノ木地、次圓座サヌキ、次ノ烟草ホン、
掛物、九々老人徑悟（近本川崎本幷作經語）トアリ、東福寺ノ佛日禪師ト云人也（了庵）（圭悟）、雪舟ト同シク八十一ニテ渡唐シテ、九十一ニテ歸朝セラル、九十六ニテ遷化ノ由、アチニテノ作ニテ哉旦ノ和韵ナリ、
釜、丸カマノキリカケ、
棚、ナニモナシ、

會席、
汁、ツマミナ、トウガラシ、柚ミソ、平皿、
煮物、湯豆腐、イモカケ、
御肴、ギンナン、シキミソ、ソリノハシヤキ、
吸物、松露ニセリ、
菓子、寒サラシノモチ、シキ砂糖、香茸ニシメ、
御中立、
花生、佐久間將監、　花、寒菊、白椿、
臺天目、茶入、共ニカザリツケ、
天目、樂ノ新、臺、カラモノ、
茶入、ナツメ、利休ノ判アリ、　袋、有樂ドンス、
茶杓、一阿彌、秀吉ノ醍井ヲ摸シタルモノ也、
茶碗、長次郎ノ黑、遊行ト云銘アル由、
後ノ菓子、唐物コマノ食籠、ヤウカン、サヽゲマンヂウ、
薄茶入、インヘノ大ビヤウタン、ハダカニテ、
申ノ半刻還御、
○十一月三日、　左馬頭ヘ渡御、石見守、拙、午半、
待合、請次タハコボン二ツ、圓座二ツ、
掛物、文覺ノフミ、一文字インキン、中ヌイシヤ、上下シケ、
香合、

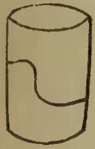
會席、
汁、フクサ、チサ、ムドメ、
平皿、白魚、ナメ、　猪口、コノワタ、
燒物、小鯛ノ尾頭ヲウチ、腹内ニミソヲツメ、ツケアブリ、
吸物、ヨメナ、ツク〴〵シ、
御中立、
花生、常修院樣ノ一重、　花、白梅、赤ツバキ、
水指、イガ、
茶杓、ハヂフチ、
茶入、ツバキ手ノシユンケイ、拜領、
茶碗、新淸水ヤキ、クウゲンハカマノウツシ、
表床、圭馬ノ畵、孔子駕ニ麒麟一ノ圖、拜領、
御菓子、アマボシ、ヤウカン、
香爐、コヒキ、春日卓、
手鑑、兆殿主ノ二十八祖ノ圖、（近本作兆殿子）
暮前還御、
○四日、　宗也御茶獻上、上田養安、拙、
掛物、高泉和尙自畵自讃、拜領物、
香合、靑貝唐物、
會席、

汁、ナシ、
飯椀、大根ノアヘモノカケ、
平皿、鱈ノヒトシホ、クモワタトモ、センバ、
燒物、キスゴ骨ヌキ色ツケ、
吸物、ナメ、
御中立、、
花生、澤庵和尙、銘アリ、　花、ハリノキ、ツバキ、
水指、
茶入、サツマ、　袋、白地古キンラン、
茶杓、利休、
茶碗、手作、
○十三日、　深諦院殿ヘ御茶、拙一人、
御待合、烟草盆、手爐、
掛物、定家ノ懷紙ノ下書、是ハ後水尾院ノ御物ニテ、宗和ノ表具也、一文字茶地キンシヤ、中コンヂノキンシヤ、上下白地ノキン入ドンス、
棚、香合、角環、
御香合、ミヽヅクノ香合トテ、有樂ノ所持ニテ秘藏アリシヲ、應山公ヘ上ラレシヲ、後西院ヘ獻セラレシヲ、再ヒ准后ヘ進セラレシ御道具也、如此名高キ由ナリ、
御釜、先日ノ、
御會席、
御汁、ケシニ、小エビ、

御平皿、小サキ一テウ豆腐、アツクシテイリザケ、トウガラシ、
御燒物、鮭ハララゴ共ニ、ミソ醬油カケテ、
猪口、カツチタヽキ、
吸物、白魚、フキ、
御菓子、トウキビ、アンカケ、ニンジン醬油ニテイリ、
御中立、
鉦ニテ御案內、
花生、常修院殿オリワケノ一重、
花、柳、ソメワケノツバキ、

御水指、南バン、

御茶杓、金森法印、コレハ甚珍キモノナリ、宗和ヨリ御傳來ノヨシナリ、
御茶碗、仁淸、



御茶入、サカイシユンケイ、　袋、モウル、
表ノ御床、雪村ノ布袋、
御花生、鑄口ト云フ鐵ノ花生、　花、白梅二枝、
深諦院殿所望ニテ、四疊半ノ茶御タテアソバス、初テ拜見ス、
世上ノ四疊半トハ大ニカハレリ、
御釣釜、休臺ニ、唐物カゴノ三角ノナツメ、　袋モウル、
棚ニ薄茶ヲ建ベキ由仰ニテタツル、
○凡ソ棚ヲ置テ道具ヲナヲスコト、ソノ棚ヨリ外ヘ出ヌヤウスルコト也ト仰ラル、
○三角ノ茶入ハ二ツノ方ヲ前ニス、香爐ノ格也ト仰ラル、角環ノコトハ大秘ノ事也、釜ニヨリテ用ユ、釜ノ環付ノ大ナルハ、丸キ環ニテハユブル故ニ角ヲ用ユ、唐物ニモアルモノ也、
○十六日、　御本殿御口切、准后樣、內府樣、入江樣、
御囃子アリ、權之進、
立田、權之進　市左衞門 金七　次郎兵衞 善助
江口、同　市次　善次
亂、同　市次　金善
仕舞數々アリ、金七野守ノ一調アリ、
○十七日、　西王寺ヘ御成、百拙、拙、
待合、上御烟草盆、桐ノ白地、樂ノ火桶、

掛物、雪村ノフミ絵ノコトアリ、珍シキモノノ由、一文字白地キンシヤ、中コン、上下茶シケ、

棚ニ香合、羽箒、香合染付、シボリヨシ、

釜、ミゴト、

會席、

汁、燒カブラ、タヽキ菜、ウド、

皿、ヨメナ、ツクシ、人ジンチロシ、午房ノ細キリ、シラガクリ、アタヽメイリサケ、

香物、ナスビ、大コンクキ、

平皿、ツマミブノ油アケ、ヒラタケ、

片木、チシクワ井ニ、青ノリカケ、湯バノアブリタル、

菓子、サヽゲマンヂウ、

御中立、

花生、今宗佐ノ一重、花、ヤナギ、フキノトウ、

水指、セト、ヌリブタ、

茶入、紹鷗ナツメ、袋、ドンス、

茶碗、朝鮮ノ新渡、

茶杓、少庵、

表ノ床掛物、子昂ノ墨跡、前ニ備前ノ花生、瓢簞ニ、白梅、赤椿、

料紙硯箱、青貝、

申ノ半刻還御、

○十八日夜、　岩君御方御色直參候、

昨日ノ西王寺カ茶ハ、殊ノ外ニ出來タル由ヲ申シ上グ、サレハトヨ出來シタリ、カハキ茶巾ヲ、水指ノ蓋ヨリ落シツルトキ、イカニ仕侍ルト思シカ、蓋ヲ仰テノセ、久シク隙ヲ入テ、ヌリ蓋ヲヌラシ、蓋ヲ俯シタル上ニノセ、シボリ茶巾ニシテ出テ建タルハ、殊ニ出來シタリト存ズ、茶巾ニハ色ノナキモノナレバ、外ニスベキヤウアルベカラズト申シ上グ、御流儀ニハ、色茶巾ト云フモノアリ、カヤウノトキ入者也、載スルニハ必ス片口ノ蓋ヲカタムケテノスルガヨシ、總ヂテ茶ヲ立カヽリテ、亭主ノ立ハワロシ客ヲホスカ故也、タヽズシテ勝手ヘ茶巾ヲ請タルトキ、片口ノ蓋ニノセテ出スガヨシ、昔シ三菩提院ノ御茶ニ、話ノウチニ茶碗ニ茶巾ヲ入ナガラ湯ヲ汲レシ故、イカヾナサルヽコトゾト思シニ、ソノマヽ撤テ勝手ヘ請ハレシニ、色茶巾ヲ片口ノ蓋ニ入テ、出サレタルコトヲ見タリト仰ラル、

○廿四日ニハ、鷹司ノ内府ノ拜賀也、同廿五日ニ、御本殿ニテ、父子同胞ノ拜ト云フコトアリ、拜見ニ參ルベシ、關白ヘノ拜ト、入道ヘノ拜トニハ少シ差別アリ、御上ニモ渡御ニテ拜ヲ受ケラル、必引手物アルコト也、馬車劔衣又ハ樂器、又ハ書物ナド引

カル、コト其例多シ、此度モ少シ御物數寄アリテ、十三經ヲ進ゼラルベシト思シ召也、古ヘ高倉院ノ行啓ニ清盛入道ノ、新渡ノ太平御覽ヲ引カレシト也、此レ太平御覽ノ、日東ヘ渡リ初メナルベキカト仰ラル、

○廿日、岡崎ノ百拙ニ御成、旭峰、拙、此日雨雪霏々、

待合、烟艸盆、請次、烟管ナシ、笠請次、

圍居、二疊表カヘ、

掛物、寂室墨跡、

丸釜、

香合、オランダ、（一本ニナシ）

會席、

汁、ヨメナ、ウド、

皿、クワ井青アヘ、ハリグリ、

平、マキユバ、小梅ボシ、

片木（ヘギ）、ノリハシヤキ、

吸物、水ゼンジノリ、

猪口、アタヽメ酒、

菓子、カキ餅モドシ、栗子餅、シキザトウ、カチグリモドシ、チヨロギニシメ、（近本並川本作栗子餅）

御中立、

花生、江悅、（近本作光悅）　花、レンギヤウ、赤ツバキ、

水指、二本松燒、ユビツナリ

茶入、シマモノ、　袋、タケノフシ、拜領物、

茶杓、少庵、　湯盃、クリ、

茶碗、肥後燒、　水次、セト、

表ノ床、　香煎入、織部瓢簞大、

掛物、張瑞圖、　違棚、香爐青磁、香盆クリ、

○廿七日、御本殿參候、

一昨日廿四日、鷹司ノ左大將ノ、內府ノ拜賀ヲ遂ラル、翌廿五日、關白准后ヘ、父子同胞ノ拜禮アルベキノ處、雨儀ニ依テ御延引、今日ニナサル、辰ノ刻御本殿ヘ御成、拙モ拜見ヲユルサル、入江樣、知君御方、貞君御方、御一所ニ、簾中ヨリ拜シ奉ル、中門ニテ御輿ヲ下ス、宸殿ニハ不殘御簾ヲカケ渡シ、正面ニハ關白ノ座ヲカマヘ、二疊臺ヲシキ御蓐アリ、後ノ屛風三方ニ立ラル、左ノ座此ヲ政所ノ御座ト申スノヨシ、モヤヲカザリ、是ニモ同ク二疊臺ヲシキ、後ニ屛風アリ御蓐ヲシキ、宸殿ノ椽側ヲ、中次ノ殿上人進テ正面ニテ揖セラル、首笏ニイタル、中門ヨリ御進ミ、宸殿ノ正面白砂ニ直立、隨身一人、諸大夫一人、御笏ナシ伏拜三度、御膝ヲツキテ、稽首セラル、又初ノ如ク還御ナル、

又申次ノ殿上人、別人、正面ニ蹲リテ拜揖シ、舊ノ如ク退ク、又中門ヨリ進マセラル、此度ハ笏アリ、御供如レ前、宸殿ノ正面白砂上ニ直立、此時殿上人御簾ヲ捲ク、正面バカリ、關白御座ヲ立レテ、階ヲ下リ對立、內府ヨリ先平伏シテ立タル、關白又答拜平伏、內府又平伏、關白又平伏、已上二拜ツヽ、關白ヨリ先拜揖アリ、御頭笏ニ至ル、內府亦拜揖、關白又拜揖、內府亦拜揖、關白又拜揖、內府亦拜揖、已上三度、關白復本ノ如ク還御アリ、內府モ亦ツヾイテ歩マル、關白北ノ階ヨリ進デ紫宸殿ハ東向也、上ラル、內府ハ南ノ階ヨリ進テ上ラル、階ヲ盡シテ座シ、踞ヲタ、ミテ緣側ヲ南ヘ進マル、南ノマカリカトニテ又座シテ、踞ヲタ、ミテ西ニ向テ歩マル、內府モ又如レ此、宸殿ノ西ノ間ヲ一間御簾ヲ半捲上タリ、夫ヨリ宸殿ノ中ニ入ラル、宸殿ノ南ノ間ニ、東ノ上座ニ南向東上二疊臺ヲ敷カル、御褥ナシ、又北向東上ニ一段下ケテ二疊タイヲ敷カル、關白北ノ上座ニ座セラル、南向東上、內府南ノ座ニ著セラル、北向東上、殿上人御引手物ヲ持出テ關白ニ奉ル、關白ヨリ內府ニ給フ、內府座ヲ立テ進テツマ紅ノ扇ノ上ニノセテ退キ、元ノ座ニツキテ拜戴アル、殿上人進テ取レ之、儀畢テ夫ヨリ小書院ニテ御獻アリ、（近本並三本踞作裾、北向東上作北面東上）ホウサウ、カベノコシ、左馬頭御銚子、兵部大輔御加、儀畢ル、御書院ノ一軸ハ、宇治殿頼通公御自筆ノ日記、元日節會ト書キ出シ□□トアリ、御箱ノ書付、月輪ノ御筆ノ由、奥ニテ准后樣、關白樣ヘ御目見エ、仰ニ入道ノ拜ニハ笏ナシ、天竺ノ禮ナレハ也、拜モ三度スル、三拜ノ儀是亦竺禮也、大カタノ人ノ不レ知コト也ト仰ラル、凡此禮ノ絕タルコト五百年來ヲ再興セラレテ、准后ノ御トキヨリ始ル、大方鷹司ノ兼平マデニテ、其後ハアルベカラズト仰ラル、有リ難キコト謂ハン方ナシ、

○十二月十一日、　安平次主殿、御茶ヲ指上グ、拙一人、御供、

掛物、鷹司故殿下自畫自贊、

待合、烟草盆バカリ、竹ノ子笠、

香合、紫檀黑檀、唐木ヲヨセ、八角ニシテ、青貝ニテ尾長鳥ノモヤウアリ、蓋水牛ノルイ、

釜、

會席、

汁、ウスフクサ、ウトメ、藻ツク、

煮物、玉子ノフノヤキ、細キリニシテウンドン仕立、フタノ上ニ、從葉ニワサビアリ、スンコロクノ水次ニ、シタジ汁ツキテ出ス、

杉ノヘギ一重、上香物、キサミテ皮トリテ、ウリ、ナスビ、下青葉ノカイシキアリ、青グシ、鯛ノトウガラシミソヅケアブリ、

吸物、壺皿ニテ松露、フキノトウ、

菓子、ワラビモチ黑ゴマニコガシ、シキザトウ、

御中立、

花生、樂、利休ノ所持ニコザルト云テアリ、是ハ伊賀燒ナリ、ソレヲ樂ニテウツシタルモノ也、

花、ハリノ木、ナダヲノ花葉トモ、

水指、セト、

茶入 拜領ノルスン、　袋、サラサ、

茶杓、庸軒、

茶碗、太郞坊ノツヽシ、彌兵衞燒、新、

茶後ニ主殿ニ逢テ尋ヌシニ、煮物ノウドン料理ハ、自體ハ白魚ニセント思ヒシニ、今日コザリシコトノ殘念サヨト申、御前ニモ殊ノ外御賞美也、炭花ハ先日ヨリノ出來也ト仰ラル、總ジテハナノコトニハ、置花生ハ似合ヌモノト仰ラル、先達テ主殿申セシハ、今日ハ御相伴ノ數モ知レザリシカバ、懸花生ニセント思ヒシニ、存ノ外ニ拙一人故ニ、下ニ置テモ苦シカルマシト思テ置タリト申ス、

○其夜ノ御話シニ、今ノ世ニ總ジテタキモノノ香ヲ、嗅コトハナキコト也、タキモノハ種々ノ合セモノニテ、常ニ嗅テ香ノ好惡ノコト、シル、モノニアラズ、燒カザレバ知レヌモノ也、風爐ノ茶ニ伽羅ヲ入テ出シタルハ、嗅クコト也ト常修院殿ノ仰ラル、其方モコチノ流ナレバ、兼テ左ヤウニガテンスベシト仰ラル、

○總ジテ內路次、外路次ノアルトコロ、大ヤウ外ロシハ蹈石アル近本作ナキ處アルモノ也、常修院殿御屋シキナドソレナリシガ、サヤウノ庭ニハ、外路次ハ少シモ水ヲウタヌガヨキコト也、內路次ハ格別ニ水ヲスベシト仰ラル、

○鷹司內府樣房凞公ノ御尋ニ、雨ノトキノアシラヒハアルモノニヤト、仰ニ手水鉢ノ蓋ニ、竹子笠、路次ゲタ等也、ソノ外ハアルベカラズ、總タイニテ、雨ノ日ノ心持ハアルベキコトト仰ラル、

○此間ノ棗ノ茶ハハラヒ中タリ、ノコリテハ客ノ見ル處アシカルベシト存シ、サヤウ致シタリト申シ上グ、仰ニソレハ惡シキシヤウ也、總ジテ茶ヲノコラズ、アクルト云コトハナキコト也、棗ニテモ少シツヽ、好ホトニノコスベシ、今ハ客カラ御ハラヒ候ヘト申ス、ハラハザレバ茶ヲシムニ似タリト、內府公ニモ仰ラル、仰ニソレハ聞カヌカホニ立タルガヨシ、茶ヲノコラズアクルコトハ、大棗目ト、ルイサトニカギリタルコト也、其外ノ茶入ニ、ノコラズアクルト云コトハ、絕テナキコト也ト仰ラル、大棗ハイツソヤ御話ノアリタル、織部カ初テノコラズアケタルヨリ、利休モサセラレタリト申ス、ルイサハ內ヘ藥ノカヽリタルモノナレバ、茶ノ不殘ガヨシト仰ラル、

○今ノ世ノ宗旦流ト云モノヽ、湯ヲ汲テコボルルコトヲ不厭、コボスヲ本トスルヤウニ覺エタルハイナコト也、秀吉ノ天下ノ宗

匠ヲ定メシトテ、利休ト、宗汲近本作及、ニ茶ヲ立サセラレタルニ、互ニヲトラヌ名匠タリ、唯宗汲ハ一滴ヲコボシタリ、利休ハコボレズ、此ヨリ外ニ負モ劣モナカリシホドニ、利休ヲ天下ノ宗匠トキワメラレタリト云本文アリ、スレバコボスヲ本トモ云ガタシ、且イカヤウニシテモコボレヌ筈ノコト也、總シテ茶ヲ碗ニ入テ、其ノ眞中ヘ湯ヲ汲メハ、茶ノ末必ズ四邊ニ散テ見グルシ、必ス碗ノ側ヨリ入レテ、湯ニテ茶ノ浮キアカルヤウニスルヲ本トスレハ、自ラ茶ノコボルヽト云コトハナキ筈也ト仰ラル、

○十五日、　參候、

常陸ノ局ニ逢テ、香嚴院君ノ贅物ヲ返上ス、頃日御贄ノ和解ヲシテ遺リケルヲ、不ㇾ料モ　御前ノ御覽ニ入ラレケルトナン、ヨクモ丁寧ニ致シタリ、斯アルベキコト奇特ナリト、御賞美アソバセシトノウワサニテ、彈正ニモ見セヨト仰アリシ故見セタリト申サル、人ニナ御ミセソトコソ申ツレ、ソレハ有難キ仰ナリト恐感ス、

○來十七日ハ、東山院ノ御國忌也、御供養ノ諷誦並御願文ヲ、台筆ニテアソバセシヲ拜見ス、蠟引ノ白紙ノ、上下一寸バカリハ裏ヨリ折カヘシガ紅ニススタク色ノ紙ニテ、ソノ上ヘ金銀諷誦ハ銀箔、願文ハ金箔、箔ニテ、五分四方バカリノ四角ナルヲ蒔タルモノ也、文章ハ菅家ノ衆ヨリ調進ノ由也、

○十九日、　御本殿年忘御成、拙、御供、

○廿一日、　鷹司内府公房煕公十九歲へ御茶參候、治部大輔、拙、

正午、御對面、スグニ可ㇾ通ノ由仰ニテ、主計頭案内ニテ參、御圍居此度新ラシクシツラハル、奇麗ナルコト中スモ愚、諸事御指圖ニテ出來タリト承ル、三疊也、

御掛物、定家ノ歌、タトヘバ色紙ホドノ紙ニ、カタヨセテ書タルウタナリ、

御棚、　香合、　羽帚、　香合ハ、獅子ニ梅花ノ堆朱、裏ニ起成(近本作張成)トアリ、准后ノ御ウハサニ、堆朱ノ至極ニテ、裏マデカヽリタルハ、稀ナルモノノ由仰ナリ、

御會席、

御汁、ウスフクサ、ヨメナ、ナメ、

御平皿、サケノ鹽引、センバ、柚ノ細キリ、雁、

御重箱、御持參ノカマボコ、

御吸物、玉子ノニヌキ、輪切ニシテ黃ミナシ、フキノトウ、

中立、烟草盆、

御花、臘梅、赤玉椿、　御筒、一重、ナタメアリ、准后樣御作、阿波ノシホ竹、

御水指、ナンバン、

御茶入、ヒロサワ、　袋、廣東、

御茶杓、宗和、

御茶後表ノ御居間ニテ御對面、御菓子御薄茶下サル、

御床、尙信ノ竹ノ畫、准后樣ヨリ進ゼラルヽノ由、前ニ琉球細工ノ卓ニ鐵ノ香爐、

中ノ刻御暇下サレ退出ス、
○廿三日、右御禮ニ參候、主計頭マデ愚作ヲ獻ス、

臘月念二、恭蒙
台命、陪侍
槐庭、
公手親烹佳茗、以賜其餘、不堪畏伏、裁鄙詞一章、陰寄金
部郎中、以拜其辱、

壺中天地與雷公、　龍炭放華氣吐虹、
一碗清香恩徹骨、　三冬氷雪醉春風、

法眼道安再拜、

松下見櫟マデ御覽ノ由仰下サル、准后ヘモ御覽ニ入ラル丶ノ由仰ナリ、
○廿五日夜、貞君御方御不豫ニ付、關白樣ニ宿ス、御夜食御相伴、御傍ノ老女ノ申サル丶ハ、昔ハ關白料トテ、五百石ツ丶御職料ノアリシヲ、近代ニテハ鷹司樣マテ其コトアリシヲ、故ノ一條ノ殿下ノ時ヨリ、辭セラレテ止ケルトナン申スト、語ラレケルヲ御聽アリテ、莞爾ト御笑アソハシテ、得テハ俗間ニアノヤウニ覺テイル、大ナル誤リ也、關白ノ職料ナラハ、五百石ヤ千石ニテハウケラレモセマジ、鷹司家ハ猪熊殿ノ後胤絶テ、久シク子孫斷絶アリシヲ、信長ノトキ二條家ノ君達ヲ一人、申シ承ケテ養ヒヲカレシガ、成長ノ後何ニカナリタク思召ト尋ラレシヲ、公家ニナリタキ旨ヲ仰ラル、幸ニ鷹司ノ稱號ノ明タルコソトテ、五百石進ゼラレテ五家ノ列ニ入ラレシコト也、鷹司ノ□□ハ、常憲院ノ外舅タリシ時關白ニナラレシヲ、家料ノ小身ナルヲ思ヒヤリテ、關白轉任ノ折カラ、五百石ヲ賜ラレテ當職ヲ勤メラレシガ、辭退ノ折カラ家料ノ上ヘ重ヲテ、千何ト云ホドニナラレシコト也、關白轉任ノ折カラエヘ、關白ノ職料カト人思ヒケルナリ、全ク左ニハアラズ、常憲院ヨリ何ガナ恵タキ折カラノコト也、左アレハトテ、二條殿ヨリ請ルベキ子細ナシ、是ヲ悪シク心得タル人ノ誤リテ云コト也ト仰ラル、
○大晦日、如例年暮過ヨリ參候、
仰ニ除夜ニ珍キ談合ナレドモ、其方コト兼テ願ノコトハ、入江殿ヨリ御聽ニ達シ、君達ノ御匙ヲ、改メ仰セ付ラルベキノ條、上ニモトクト御簡便アソバシテ、此上是非ニト仰付ラルベキ子細ナシ、追テ仰付ラルベキガ、ツキモシホモナク仰付ラレンニハ、人ノ思ハンニモ何ナル故ニ、願ヒタルト思フ人モアルベシ、又ハ願ヘバトテ仰付ラル丶モ、異ナモノナリト謂ハン、所詮ソノ方ガ今一應、タトヘバ、姓名トモニ嗣子ニ讓ルトカ、身ノ脱脚セシトキニ、如此ノ折柄ナレバ、御匙ヲモ他ヘト願ハバ、何條コトノアルベキ、左モナクバ次ノ匙ヲウケトル人モ、何ノ由モナ

クバ先ハ領承セマジ、仰付ラレテ領承セヌトキモ、異ナモノ也トソト思慮スベキノ由仰ラル、アリガタキコトハ申モチロカ、アマリニ勿體ナき御コト申上ルニ言葉ナシ、サリナガラ抑此コトヲ願ハジメシハ、當六月ノ末ノコト也、私ノ隱居イタセシハ七月也、隱居ノ期ニ當テ右ノ願ヲ立タクレドモ、若君御方御誕生、コレニモ御七夜ノウチ、醫者ドモトモ論談イタスコトノアリ、次テハ香嚴院樣ノ御不豫ヨリ、終ニカクレマシマスニ付テモ、互ニアタリサワルコトノアリテ、入江樣ニモ仰出サレザリシコトナリケラシ、隱居ヲ申シ立テヽ、願ヒ奉ル期ニ仕リタクコソ侍レ、又次ノ醫者ノ御請ハ、イカサマニモ不圖承リテハ如何存スベキヤ、所詮ヒソカニ內意ヲ申シ通シテ、得心ノ上申シ上クベシ、其折カラニ仰付ラレバ、何ノ子細カ候ベキト申シアゲシカバ、仰ニ入江殿マテノ願ノ書付ニモ六月トアリ、尤モサコソアルベクレ、內意ノコトモ左アラハ春ニモナリ、萬事スミテヒソカニ申シ通スベキノ由仰アリ、有難キ由ヲ申シ上グ、年來ノ本望ヲ達スルノミカ、殘ル處ナキ仰ゴトノアリガタサヨ、時コソ多キニ、一年ノ除夜ニ身ノ目出度コトヲ、承リツルコトノ辱サヨト申シ上グ、

御例ノ如ク御香一座アリ、御夜食御相伴、戌ノ下刻退出ス、

槐記卷第五　終

明治十五年四月廿五日
華族蜂須賀茂韶藏書ヲ寫ス、
明治卅三年七月
依近衞公爵家藏本並川崎千虎氏藏本校正

小杉榲邨校閲
雛田千佳貝校正

槐記　卷第六

近衛豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

享保十四年己酉正月元日

○例年ノ如ク御賀ヲ申シ上グ、御手ヅカラ熨斗鮑昆布ヲ拜戴ス、

○二日、　參候、

○昨日ノ御床ノ掛物ヲ拜見ス、祝言、

　守るてふ、五の常の、道しあれは、
　　六十あまりの、國もうこかす、(近本常作道)

後水尾院ノ御製也ト仰ラル、　御歌ヲ感シ奉ルモ、却テ恐レアルコトナカラ、御製ナラデハナルマジキコトナリ、何ク何方ニアリテモ、御製トナラデハキコヘスト申シアグ、　仰ニ總シテ宮人ノ詩歌ハ、巧拙善悪ハトモカクモ、宮人ノ詩歌カ、凡下ノ人ノ詩歌カト見ユルコト第一也、イカニ巧ナリトテモ、宮人ノ詩歌ノ、凡下ノ人ノ趣向ナルコトハアルベカラズ、ココヲタシナムベキコトナリ、其方ガ申ス如ク此御製ナド、天子ナラデハアルマヂキコト也、(近代ノ詩此類多シ、ソレ〴〵トサシテ仰ラル、)後水尾院ノ御時、アル初心ノ公家衆ノ、心なき身にもあはれはノ歌ヲトリテ讀マレシヲ叡覽アリテ、西行ホドノカナクテハ、心ナキトハ云ハレマジト、御評アリシト也、尤ノ御コト也ト仰ラル、

○七日、　御茶ノ湯初メ參候、二三、拙、

午半、(御居間ノ奥ノ御圍居ニテ、御話アリハスヘキノヨシ、直ニ通ル、)

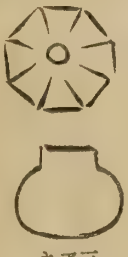
御掛物、後小松院ノ宸翰、(御詠草トミヘテ、御歌八九首アリ、第一ニ水若栄ト云題ニテ、七種ノ御詠アリ、今日ノ御茶事ニ、ウツテツケタル御カケ物ナリト恐感ス、)

　さめわひぬ、つむき數は、七草の、またふたはにも、見へぬ雪間を

第二柚紅葉、第三ハ初逢戀、御詠ノ肩ニ御點アリ、正親町院ナトカ、一文字靑地金襴、中ハ白地金ラン、イヅレモ遠州時代ノ金ランナリト仰セラル、上下ハ錦ナリ、蜀江カ宸翰ナトニハ、錦相應ナリト　仰ラルフウタイヨリ、中マテノ間、二三分バカリトミユ、

御釜、

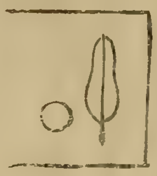
此釜ニハ由來アル由仰ラル、舊此釜ノ蓋、コトノ外ニ昔キモノヽ上作モノナリ、コレヲ宗和カ所持ニテ、此蓋ニテ、釜ヲイサセタシ、如何樣ノ形チシカルベカランヤトテ名アル弟子衆エヲヽセテ、切形ヲサセラレシガ、イツレモ蓋ノ形カ、八角ナルニ付テ、釜ニモソノ意ヲトリテセラレシヲ、宗和ノ物ズキニテ、ナニトシテモ八角トサシアウハ惡カラントテ、何トモシレヌ形ノ、終ニナキ形ニセラレタリ、環付モ形ノシレヌモノニセラレタルガ、宗和ノ好也ト、イカイ秘藏ニテアリシヲ、寺田無禪ニヤラレテ、無禪ヨリ、御所エ上ラレシト也、此蓋ハ殊ノ外名高キモノ也、其頃細川ニ八掛(八掛近本作八卦)ノ蓋、金森ニハ八角ノ蓋トテ、天下ニタレシラヌモノナカリシト也、



三寸バカリアルベキカ、唐金ニテ八角ノカド、スコシシノキアリテ、甲ノ肉ヲキ、言ンカタナシ、釜ノ口ニテ、少シコシキアリ一分バカリナリ、

御香合、堆朱、唐松ニ鶴ノモヤウ也、唐松ヲウラヘカケテ、ヒシトホリタル中ニ鶴アリ、最コマカナル細工也、形モ角(近本作七角)ニテ貝ノ口也、ツイニアルマジキ形也、仰ニ楊茂也トテモライシカ、御所ニ正眞ノ楊茂アリ、ソレホドニハナキカト思召トナリ、シカレドモ大ニ古シト仰セラル、

羽箒、



御炭、イツモナカラ、心目ヲ驚カス、

御會席、

御汁、ウスフクサ、ヨメナ、淺草ノリ燒テ、

御平、生鯛、四角ニ切、ムシヌキテ、葛アンカケ、蓋ノ上ニスリワサビ、アンカタヨセテカケテアリ、

御坪、ホダハラ白豆、是ヲ福貴ト云テ、御所ニ久シク節分ニアリ、毎年今日之ヲ出サル、御佳例ナリ

御香物鉢、染付一文字、マン中ニ吉文字、ワキ花カタノモヤウアリ、青葉ヲシキテ、整付カブラ皮ヲトリ二切、ナラツケノ瓜ノ香物、

御吸物、鶴二切、金襴手ノ蓋茶碗ニテ、是ヲ出サル、白髮大根、

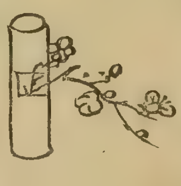
御菓子、砂金袋ノ形ニシテ青餅、栗ヲ平ニ切テ一ツ、唐物ノ菓子入、四角、

中立、

御待合、御書院ノ次二疊ジキ、後ノ御屛風、蘆雁ノ畫讃、養朴也、火鉢バカリ、兩人トモタバコヲ不好ヲ、御存ジノ故ナリ、

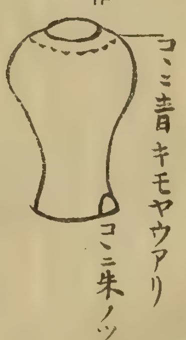
林彈正ヲ以テ、御書院ノ障子ヲ開テ、緣ツタイニ待合マデ參ラレテ、勝手ニ通ベキノ由仰也、拜伏ス、是ハ二三ガ老人タル故ニ、庭ヨリ御迎ヲ出サレバ、必定地ニ下テ、拜伏スベシト、思召テノコトト思案シ奉ル、(一本是ハヨリ割註ナリ)

御花、紅梅、福壽艸、



御筒宗和ノ二重切、内ヲ黑漆ニテヌリ、粉ニテ波ニ龜ノ摸ヤウアリ、所々カスガイアリ、御花ハ毎々心目ヲチドロカスレバ、今更ニ申モナロカナレドモ、今日ノ御花ハ、又類アルベシトモヲモハレス、二三手ヲ打テ感シ奉ル、

御水指、カントン、(近本川崎拚作アンナン)蓋、常門樣、



御茶碗、

樂ニテ、土ヲミルヤウニ、仰付ラル、

御茶入、瀨戶春慶、

春慶ト云名ニメデ、初茶湯ニ出シタリト仰ラル、

袋、アサギ地、石ガキコモンニ、梅ノ花所々ニアリ、石川ドンスト云ト仰ラル、

御茶杓、

フシドマリ也、是ハ細川三齋ノ茶道ニ、一齋ト云モノアリ、ソレカ長壽ノ者ニテ、百歲ノトキ、此茶杓ヲケヅリテ獻上ス、目出度毎年出サル、名ヲモ一齋ト云ヲ易テ、百齋ト云ケルト也、五十年バカリ以前ナリト仰ラル、

二三後ノ御炭ヲ願ヒ奉ル、又類ナク見コト也、薄茶ハ奥ニテ、下サルベキ由ニテ罷出ツ、奥ニテ御菓子、白マンヂウ、シタヽメグリ、諸ナドアリ、名香ヲ拜聞

致タキ由ヲ、二三申アグ、六十種ノ中中宮壺中月、ナド出シテ聞サル、

夜ニ入御方違ニ、表ノ御圍居ヘ渡御、三方ノ君樣同ク御成、常陸玉井御供、私ドモニモ御供仕ベキ由ニテ、御祝儀ノ間相詰ル、御流拜戴ス、又奥ヘ御供、御夜食御相伴、亥ノ刻前退出ス、

○二三申上ルハ、瀬戸ノ大茶入ニハ、アシライアルコトニ候、御存知アソバシタルヤト、仰ニ大茶入ノアシライハ御存知也、瀬戸ニカギルコトハイザシラズト　仰ラル、二三申シ上ルハ、諸ノコト宗旦流ノ人ニ間ヘバ、古來左ヤウニイタシ來ルトノミ云テ、其分ヲ語ラズ、本ハ皆分ヲ知テ致シタルナラン、モロ〳〵ノ茶入ハ、ミナ左ノ手ニテ直ス、唐物ニカギリテハ、右ノ手ニテアシロウ、是常ノコト也、（私ニ云常ノコトニアラス、今ノ茶人ミナ右ノ手ニテアシロウ）瀬戸ハ和物タリト云ヘドモ、大茶入ハ必右ノ手ニテ持、コレ亦常ノコトナリ、ナゼナレバ大キナルモノ、左ノ手ニテハ危キ故ナリ、左ノ手ニテトレバ、茶筌ノカサリ常ノコトナリ、右ノ手ニテトレバ、茶筌ト茶入ノ間ニ、手ノ入ルコトヲ嫌テ、茶筌モ亦唐物ノゴトクスト申ス、尤ノ儀ナリト仰ラル、（先年上ヘ、唐物ノ茶筌ノコトヲ、ウカヽヒシカバ、唐物ハ尊キ故、並ヘテハカサラズ一ツカザリニスト申ス、尤ノ儀ナリト仰セラル、）

○クリブシノ茶杓ハ、大ニアシライアルコトナリ、此ハ大秘藏ノコト也、二三ニ尋子テ見ヨト仰ラル、二三申スハ、凡ソ茶杓ハクリブシニカギラズ、茶入ニヨリテ、相應不相應ノアルモノナリ、クリブシモ相應ノ茶入アルベシ、クリブシニカギルコトハ不レ存ト申ス、承リタキ由ヲ申シ上ク、大秘事ナリ必ス人ニ語ルベカラズ、大根本クリブシト云モノヲ、利休カ拵ヘタルハ、肩衝ノ大茶入ノ爲ニシタルモノナリ、肩衝ノ大茶入ハ、口ハチイサクテ、肩ニ幅アリテ、勢ノ高キモノ故ニ、常ノ茶杓ハ何分ニモカヽラヌ故ニ、節ノ處ニテクリテ、カヽルヤウニシタルモノナリ、夫故ニ御所ニモアレドモ、終ニ出サレタルコトナシト仰ラル、節ナシノ茶杓ヲ盃ニカサルコト、先年御ハナシアリ、盃ニクリブシナド、大ニイラヌモノナリト仰ラル、

○今日、ショハノ袱紗ヲ出サレタルハ、定テ福壽ノ文字ノ、メデタキ故ニ出サレタルカト窺フ、仰ニイカニモ左ナリト仰ラル、二三申スハ、ショハノ袱紗ハ、ヒトヘノモノナリ、是ハアハセニ仰付ラレタルハ、御物ズキニヤト申シ上グ、イカニモ左ナリト仰ラル、サテウスキヨキショハナリ、アハセニテモ一重ノヤウナリト感シ奉ル、

○八日朝、　昨日ノ御禮ニ參候、

右ノショハヲ、アハセニナサレシコトニハ故アリ、自體ショハノフクサヲ、一重ニスルコトハ、何トシタル分ナレハ、ショハハ必兩面ノモノナリ、故ニ必スヒトヘニス、此ショハハ福壽ノ

文字アル故ニ、裏ヨリミレハ左文字ニナル故ニ、アハセニシタリト仰ラル、

○唐物ニカギリテ、シヨハチツカウト云コトニテモ、ナキニ候ヤトウカヾフ、左ニテモナシ、

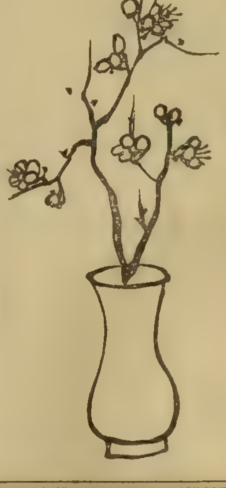
○勅筆ノカケ物ニハ、日本ノ切レニテ、今織類ヲツカフト申スハ、イカニヤト窺フ、全クナキコトナリ、昔ヨリノ表具ニ、何程モ唐物アリ、象牙ノ軸ヲモ忌ム人アリ、曾テソノ沙汰ナキコトナリ、天子ノ象牙ヲ忌ベキ由ナシト仰ラル、牙ノ笏サヘアリト申シ上ク、イカニモト仰セラル、

○常門ノ毎々仰ラル、ハ、今ノ客得テハ勅筆ト云ヘバ、先巻カレヨト挨拶ニアフハ、イヤナルコトナリ、纔ニ其憚リアレバ、平人ノ家ニ、勅筆ヲ所持スルモ不屆也、虚堂大燈ノ墨跡ノ前ニテ、魚肉ヲ食ヒテモ其憚ナキハ、床ノ縁ヨリアチラハ、トント各別ト立テ、アレバ、預ラズト仰ラルハ、尤ナルコトナリト仰ラル、

近本虚堂、大燈、作輝堂、大堂、

○十二日、參候、

昨夜（近本昨日）去ル方ヨリ獻上ノ由ニテ、カクレ家ノ蓋ヲキヲ拜領ス、御膳ノ上ニテ御酒ヲ戴キ、表ニテ御茶ヲ戴クノ次テニ、白梅ヲ一種生ルコト候ヤト窺フ、如何ニモアリト仰ラル、ソレハ百輪アラントモ、一輪ヲ生ル心ニテ候ヤト窺フ、イカニモ枝ヲ生ルコト故、枝ガナキモノナリ、表ノ 御床ニアソバス、拜見スベキノ由ニテ拜見ス、其姿言語同斷ナリ、根シメヲ、前ヲキノヤウニ、ナラヌヤウニ生クベシ、梅ヲ生ルニ、立花ニテ言コトナリ、投入ニテモ其心ナリ、一花百花ヲ生シ、一花百花ヲ損スト云コトアリ、枝ヲタメシテ、已ニ開テ間ノアル花ト、アチラムキテ背ケル花トヲムシレバ、何時モ枝新シクナルモノナリト 仰ラル、



○近日、深諦院殿ヲ茶ニ請ス、御前ナドノ御待合ニ、ツイニ烟艸盆ヲ初ヨリ存セルコトナキハ、御次ニテ待合セテ通ル故、ナクテモ不レ苦コトナリ、拙フゼイノ狹宅、コトニ遠來ノ客ナドニ、烟艸ヲ呑人ノ盆ナクバ、本意ナカランヤト窺フ、

○仰ニ、常修院殿ノ流ナレバトテ、烟艸盆出サズト云コトアルベカラズ、大方ニ待合ハナシ、書院ニ通リテ、サラバトテ入ケル故、待合ニハカザリツクナカリシナリ、硯箱トテモ同コトナリ、左ヤウニセバキ處ニモ、烟草盆硯箱トモニアルベキコトナリ、請次ノ烟草盆ヲ、一ツ出スコトハイヤナルコトナリ、イカニヤト窺フ、尤ナリ、仕ヤウアルベキコトナリ、　去ル者ノ中スハ、初

メニハ上ノ盆一ツ出シテ、中立已後、次ノ盆ヲ出シテハイカヾト申、仰ニソレモイカヾ、手アブリト烟艸盆ヲ兼テ一ツ出シ、次ノハ紙ニ烟艸ヲ包ミ烟管二ツヲ載テ、下座ニ直シ置テハイカガアラン、火鉢ノ火ハ通用ニシテ、苦シカラヌモノナレバナリト仰ラル、御尤ノ御コトナリ、廿六日ニハ左致スベシト申シアグ、

○前カド柄杓ヲ釜ニカケテ、疊ト柄トノスキヤウノコト、四分ト覺ヘ候ハイカヾト窺フ、仰ニソレニ寸法ハナシ、大指ノ次指ノ節タケニスルコトナリ、

○炭モ胴炭ハ、七寸ニスルコトハ遠州流ナリ、御流儀ハイカヾト窺フ、仰ニソレモ寸法ナシ、輪炭ハ初後トモニ先ハツカハズ、折ニフレテ遣フコトモアレドモ、姿ノカハラヌモノ故ニ、强テ不レ好ト、常門ノ仰ラレシトナリ、

○十六日、參候、

大覺寺御門跡、御逝去ノ御コトヲ承リ、驚駭シ奉ルノ趣ヲ申シ上グ、上ニモ如レ此アルベシトモ、思召寄ザルノ旨ヲ仰ラル、御穩便ニナラセラル丶ノ旨ヲ承、御夕方ノ御相伴ヲ仕リ、暮マデ陪侍ス、

○サルニテモ、昨夜踏歌ノ御節會ヲ、透墻(スイガキ)ノ外ヨリ拜見仕ル、殊勝ナルコトハ、申スモヲロカナリト申シ上グ、仰ニサレバトヨ、此度ノ凶左右モ、マダシ好時分ニテ、公事ドモ大方ニコトスミ、關白ノ勤モ、內府ノ內辨モ故ナク相スミテ、此上ノコトト思召ス、昨夜ノ內辨ハ一條殿トナリ、關白公出ラレズシテモ苦シカラヌコトトナリ、昨夜ノ體ハイカヾアリシゾ、上ノ御當職ノ折カラハ、庭上ニサシテノ警衞モナク、雜人マデ入コミテ拜見セシコトナリ、今ハ嚴儀ナルコトナリ、ソレトモスイガキノ外ヨリモ、見ユルヤウナルハ勿體ナキコトナリ、正面ハ出御タレバ拜シコソセネ、雜人モ詠メ奉ルハアルマジキコトナリ、炎上ノ後、造營ノトキニ、築地ヲ十五間南ヘヒロメラレシハ、今一ツ中門ヲ立ントノ思召ニテ、紀伊守ヘ仰下サレシカバ、紀伊守モ納得ニテ請合シガ、何トシテカ今ニ不建、今一ツ中門アレバ其門ヲ開テ、外門ハ不開アリソウナルコトナリト仰ラル、公ノ御力ニテ建タルコトハ許多ナリ、

○ソレニ付テ、去年霜月ニ年暦ヲ獻ゼシ初メニ、正月十六日蝕ノコト、卯ノ上刻マデトアリシホドニ、定メテ御僉議アルベシト思テ、ホチ〳〵ト考ヘオキタレバ、案ノ如ク此コトニ及ビシホドニ、公ノ御考ヲ關白公ヘ進セラレテ、ザット相スミタルトナリ、先十六日ノ曉カケテ蝕ノアルコト、古來甚ダスクナキコト也、天平寶字二年ニ此コトアリテ、十五日ニナリタル例一ツ、今一ツ此例アリ、漢ニテハ朝野僉載ニ此コトヲノセテ、十四日、十

五日、十六日、三日共ニ用タルコト其例アリ、然レドモ全文ヲ見ソト思テモ、今ノ僉載ハ說部(近本部作郛)ノ中ニアレドモ、ワヅカナラデハナク、全書ニテナキ故カ此文ナシ、淵鑑類函ニアルベシト思召シテ、考ラレシカドモナシ、天中記ヲ考ラレシカバ、始メテ朝野僉載ノ全文ヲ載テ、三日トモニ用ラル丶例明ナリ、和漢トモノ例如此ナル上ハ、前日ニチヾメテモ苦シカラヌコト明ナリ、但シ十六日ノ晝ニテハイカヾトアリシカドモ、尤晝ノ節會モ亦常ノコトナリ、アルマジキニハアラヲドモ、月ヲ帶テ踏歌スト丿本文アレバ、イカニシテモ晝ニハトリカダシ、十七日ハ東山院ノ國忌也、十五日然ルベシト申シ上ラレシトナリ、院ノ御所ニモ殊ニ御褒美ニテ、和漢トモノ適例ヲ申上ラル丶條、奇特ニ思召ノ由、一條殿ニモイカイ感心ニテ、朝野僉載ヲカリタキ由ニテ、關白ヨリ寫シ進シ申サレケルトナリ、總シテカヤウノコトヲ、アチカラ僉儀ニ遇テ考ルハ毎々ノコトナリ、僉儀アルベキコトハ、前ニ考ヘ置ベキコトナリト仰ラル、總シテ此公ノ御考如此、不思儀トモ言語ヲ絶シ奉ル、

○十六日夜、　參候、

今日吉田某ガ許ヘ、茶湯ニ參リシコトヲ申シ上グ、ソレニ付表具ノトリアイト申スコトハ勿論、色ノ同シ切ヲ、一文字ト、上下トニツカヒテハ、色ヲ隔ルニ似タリ、カヤウノコトヲ、取合ノアシキト申スニテ候カト窺フ、勿論ソレナドモ不レ可レ然、先一文字ヲフウタイニ遣ヘバ、又其色上ニシテハスマヌモノ也、カヤウノトキニ、中フウタイト云コトアリ、昔ヨリ茶入遠州、表具片桐トテ、石州ハ表具ノ取合ノ上手ナリト云傳フ、總ジテ表具ノトリ合ト云コトハ、第一ニ一軸ノ筆者ヲ吟味シテ、此人ハドレホドノ服ヲキルベキ人ゾト工夫シテ、其人ニ相應ノ切ヲツカフコト、是第一ノコト也、今ノ人澤庵、江月、利休、宗旦ニ、古金襴ヲツカフトハ何ゴトゾヤ、不相應ハ勿論、イト文盲ナルコトナリ、古キ表具ニ、左ヤウナルハ一軸モナシ、又紙ノ中上ニテ、一文字ニキリタテタルヤウナルニハ、一文字ヲ入ルレバ同シヤウニテ見ニクシ、左ヤウノトキ、中フウタイニスルコトアリ、

○凡ソ表具ニ三幅對、二幅對ニハ、必スソレ〳〵ト定リタルアリ、常修院殿ノ、奈頁ノ松屋ガ名物ノ、徐凞ガ鷺ノ畵ヲ御覽アリテ、是ハ二幅對ノ筈ノ表具ナリ、イナコトニ一幅ノ名物トハ、稱シヌルゾヤト仰ラレシカ、後道億(川崎本作僊)ニ此コトヲ話シタレバ、肝ヲツブシテ今一幅ハ去方ニアリ、サテシモ何トシテハ知リタモフヤラント、申サレタリト仰ラル、

○前カド承リシハ、勅筆ノ上下ナドニ錦ヲツカフ、一段ヨキモノナリト仰ラル、正月七口ニ召レシトキ、後小松院ノ表具上下錦

ナリ、

○三幅對ハ兼テ仰ラレタルヤウニ、二十七通リアルモノナリ、コレ見ヨトテ雛形ニテ拜見ス、銘肝ノ至リナリ、是ハ後西院ノ御時、常修院殿ニ仰セラレテ不レ遺寫サセラレタリ、即チソノ畫ヲウラニ書ノセラレタリ、古今ノ變ヲ盡シテ、是ヨリ外ハナシト仰ラル、

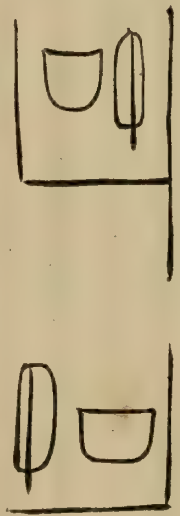
○對ト云文字ハ、二ツアルモノヲ申ス、二幅、四幅、八幅對ト、ナリタルト申スハ實ヤト窺フ、二幅對ノ始リハ〇〇〇、三幅對ノ始リハ〇〇〇、四幅對ノ始リハ〇〇〇、八幅對ノ始リハ、東山ノ玉澗カ八景ヨリナリ、

中尊ニハ、必ズホソカチノ入ルモノナリ、

○臺表具ノコト、誰モ知ルモノナキモノナリ、先年御所持ノ雅經ノ色紙ヲ、常修院殿ニ頼ミテサセテモライタリ、至法（一本至法作正法）ノ由ナリ、今見テモ各別ナルモノナリ、色紙ヲ中ニヲシテ、上ヲ二ツニ下ヲ一ツ半ニシテ、兩方ヲ色紙ノ半分ヅヽニスルコトナリ、小ハ、リンホウヨシ、大ハ、トウホウナリ、リンホウト、トウホウトハ、細キ掛物ヤ、小サキモノヲチノバス爲ニスルコトモアレドモ、大德寺ナドノ大幅物、多クハトウホウナリ、

○廿日、參候、

昨日ノ朝ハ雪氣ニテ候ユヘ、棚ニカサリシカドモ、晝ヨリ晴タリシカバ取入テ候ガ、香爐ヲカザルニ付テ、存外ユキアタリ候、兼テ承リシ三ツカザリノコト、香爐バカリニテハ、二ツニナリ候ハイカヾニヤト窺フ、必ズ羽箒ヲソユルモノナリ、羽箒ヲソユルコトニ付テ、近年誰レカ茶ニモ、必ズ羽箒ヲユガメテカザル、ユガメテカザルニハイカフ譯ナクテハセヌコトナリ、羽箒ヲカザルハ、三ツカザリニセント云コトナリ、ワヅカニユガメバ、香合ニモセヨ環ニモセヨ、一ツカザリニナルナリ、タトヘバ床ニ香爐ヲカザルトカ、壺ヲカザルトカ云トキハ、棚ニ羽箒ユガメテカザル、ソレハ環ニモセヨ、ナニニモセヨ二ツモノニテ、一ツカザリニセント云コトナリ、羽箒ニ右羽左羽ト云コトアリ、羽ニ左右ノアルハ、フクベカザリニ必ズイルコトナリ、フクベヲカザル棚ノカベ付ヲ考ヘテ、羽箒ハゼヒトモカベ付ニカザリ付ルモノナリ、棚ヲ亭主ノ左ノ方、勝手ノ棚ニカザルトキハ左ノ羽ヲ用ユ、亭主ノ右ノ方ニ棚ヲカザレバ、カベトモ（近本トモ作付）右ノ方ユヘニ右棚ヲ用ユ、



○廿四日、內府様ヘ御成、拙參候、

內府公ノ御尋ニ、今ノ人柄杓引切ヲシマウニ、棚ニ上グルハ、

跡ニ薄茶ヲ立ル爲カ、仰ニ、柄杓引切ヲ、棚ニシマフコトハ終ニ不レ聞、合點ノユカヌコトナリ、コボシヲ入レ、茶碗水指マデヲシマフテ、柄杓引切バカリヲ、殘シオクベキヤウナシ、水指ハ後炭ノフクベノ害ニナル故ナルベシト思フカ、合點ユカヌコトナリ、

○二重ノ棚ニ香爐ヲカザルハ、上ニスルガヨキヤ、下ニスルガ好ヤト御尋ナサル、仰ニ盆ニノル茶入ハ上ノ棚ニカザル、常ノ香爐ハ下ノ棚ニカザルナリ、

○香ノ茶ハ、必ズ聞香爐ヲ不用口ヨセカ、スペリ口ヲカキアケ灰ニシテ、銀ヲシカズ直ニ燒ナリ、客ヨリハ、古キ御香ニ候ナゾ、火布ヲシカレズヤナド挨拶ス、若シ名香ハ、必ズ銀ヲシキテ燒ナリ、銀ヲ敷ホドナレバ、亭主チト續ガレ候ヘト云、客固辭スレバ、其通リニシテ入ルガヨロシ、シカレドモ、續グヘキカト云ヘバ、亭主勝手ヨリ、香盆ニ香箸木箸並ニ銀盤ニ入レ、燒カラ入レマデヲノセテ持出、サイゼンノ銀ヲヲロシ客ノ前ニヲク、客銀ヲトリ香ヲ燒テ亭主ニ廻ス、亭主香爐ヲトリテ、棚ニテモ床ニテモ直シオク、此トキハ燒物ヲ燒カズ、香爐ヲ入ルレバ燒物ヲタカズ、席ニ香爐アレバ、タカズト合點セラレヨ、

○フクベカザリト申コトハ、設ニハセヌコトニヤ、打チツヅキテ茶事ノアルトキ、同ジカザリモ古メカシト思フカ、但シ先ノ人ヨリモロウトカ、由アレバ必ズスルコトナリ、此トキハ棚ニカザル、昔シ常修院殿、カヤウニシテミセタテスルコト、キツイ御キライナリ、壺ノ茶ヲ所望セシカトモ、ナサレザリシガ、後西院ヨリ、御銘ノツホ拜領ノ御禮ニ、ツホノ茶アリテ御覽アリ、其後ハ三菩提院、アソハセシヲ見ルト仰ラル、

○今ノ人、フクベニ香合ヲノセテ出ルコトハ、決シテセヌコトナリ、フクベカザリニ限リテ、上ニ香合ヲノス、必ズヤキモノ、香合ニカギル、ヌリモノハセヌコトナリ、內府公ノ仰ニ、今ノ人ノスルモ、此マギレカト仰ラル、左モアルベシト仰ラル、フクベノ炭ハタクミヤウアリヤ、仰ニナシ、

○手フクベナドハ、カザリテヨキモノナリ、手フクベニ習アリ、多ハ手ヲタテニ直ス、ソノ爐ノ方ヨリ、炭ヲ出スハ甚ダナキコトナリ、手ヲ隔テタル方ヨリ炭ヲトルナリ、得テハ手ノ上ヲ越サセテクベルハ、又本ノコトニアラズ、ソレ故フクベヲ切タヽミニヲクハ、何時モヒツメテヲクガ習ニテ、炭モヌキ出シサマニ、我方ヘ出シテ爐ニ入ル、習ナリ、

○ツヽギリノ爐ノ中柱ニ、袋カクノ釘ヲ打ツ穴ヲ彫ルニ、爐ノトキハ袋ヲカクヌガヨシ、風呂ノトキハカクベシト申ス者ノ侍ベリ、イカニヤト窺フ、仰ニ尤左アルベキカ、左アラバ何方ニオクベキヤ、仰ニ水コボシノサキ、水指ノ間ニオクベシ、棚ヘ上

ルハイカヽ、仰ニ棚ニアグベキモノナリ、シカレドモ終ニキカズト仰ラル、今ノ人柄杓ヲ棚ニシマウコトモ、終ニ不聞ト仰ラル、柄柄ヲ棚ニカザルコトハアルコトナリ、本上ノ棚ノヒロサ長サハ、柄杓ヲ以テ準トス、香ノ茶ノコトヲ窺フ、此コト廿四日ノ記ニ記ス、ナラヒタキモノナリ、

○昨日ノ茶ニソヽウヲ仕リ、茶筌ヲコがシ候ユヘ、勝手ヘ請テ色ガハリノ茶筌ヲ、遣イタリト申シ上グ、ソレハ先年三菩提(サンボダイ)院殿ノ、御茶ノトキコガサレシトキ、其座ニテスヽイテ遣ハレシガ、ソレハ茶後ノコトナリシ、茶前ナラバ御上ニモ、取替ユベシト仰ラル、（下座ノ客、其マヽ御遣候ヘト申シタリ、仰ニ、上客ニテナクハ、イカヾ、）

○春ノ茶ノ料理ニハ、必青物ヲツカフコトハ、此流ニイカフ大事ニスルコトナリ、（イカサマニモ、冬ハコスコシ、）先年常修院殿ノ、後西院ヘ御茶ヲ上ラレシトキ、冬ナガラ節分ヲ過タルホドニトテ、青アヱヲ出サレタルヲ、後ホト由モナケニ問テ見ヨト、仰コトアリシホドニ、茶後ニ尋子シカバ、常修院殿ノ後西院ヘ、内府（此時公内府ニテアラセラル、）ノ珍キコトヲ尋ラレ候ト申ス、（後西院、目クハセシテ笑ハセラル、）ソレハイカヤウノ義ゾヤ、今日ノ青アヱハ、何トシテゾト問ハレシホドニ、春ノ茶ニハアチズトカ、アチアエトカ、必青キモノヲツカフガ、習ニテ候ト仰ラル、大秘藏ノコトナリト仰ラル、（イカサマニモ冬ノ料理ニアチズハ、勿論アチアエモコスゴキモノナリ、又青キモノモ、菜ヨリ外ハナキハズナリト仰ラル、イカサマニモ、春ハ若菜ツムテフ、青キモノハハンナリトスベキト申シ上グ、）

○二月八日、　御本殿ヘ御成、御床ノ掛物、養朴ガ南殿ノ賢聖ノ屛風ノ寫シナリ、此日京兆尹ノ參ラレテ、御對面ニテ寛々御物語アリ、御下ヲ下サル、（御園意齋松平石見、（近本、川崎本、並作松下））御居間ノ御掛物、三菩提院ノ御筆山水、暮過還御、

○二月十六日、　入江樣御成、（拙、右京大夫、）夜ニ入テカケ物ノ御香アリ、水鳥（常陸ヨリ出サル、）手拭、色唐紙、（於佐衞ヨリ出サル、）紅花猪口、唐子人形、四トセ、（右京ヨリ出サル、）色紙、唐錦、（御前ヨリ出サル、）伽羅、栗、ミツヤナイ、犬ノコヱ、（道安ヨリ出、）蓋茶碗、ハイ〳〵、（入江樣ヨリ出サル、）盃、二枚、カク物卅六本（櫛、系本、（近本、本作木））先日ノ仰ニ、總ジテカケモノヽ、名ニハ、好惡ハ勿論ナレドモ、惡クスレバナゾニナリタガル、ナゾニナラヌヤウニ、工夫スベシト仰ラル、

○十八日、　參候、御前ニテ薄茶ヲ建下サル、仰ニ總ジテ棚ノアルトキニ、茶碗ニ茶杓ヲ置テ、茶杓ノ先ノ、棚ニツカヘヌホドヲ、準トスベシト仰セラル、衝釘（近本作ニ衝下シー）ノ屋根裏ニ、船ツルコトハナキコトニヤト伺フ、苦シカルマジト仰ラル、釘ノウチヤウハイカヾ、サレバトヨ、ヒルカギハウチニクカランカ、ヲトシカケノ折釘ノ格ニ、前ニムケテ打テハイカヾ、ナルホド好カラン、イナヅマニシテウチテ

然ラン、

○今ノ人風爐ノ茶ニ、伽羅ヲ燒スコトハ心得カタシト、無禪ガ常ニ申シキ、宗旦カ應山ヘ參リテ、御物語ヲ申シ上ゲシ序ニ、風爐ノ茶ハ、イカホド出シケルニヤト、仰アリシニ、宗旦ガ最早今一兩度ナラデハナラス候、伽羅ガナクナリタリト申タリケレバ、夫コソトテ伽羅ヲ下サレケルトナン、ソレホドノワビ人ニテモ、風爐ニハ伽羅ヲ燒クルニ、今ノ人ノ古金爛ハ愛シテ、伽羅ヲツケボシニ易ルコトハ、何ゾヤト申シキ、

○世ニ用ユルカクレガト云コトヲ、先日モ申シケレドモ、外ニ人アリシ故ニ仰ラレズ、今ノ人五德ノ蓋置ノ名ヲ、カクレガト云ト覺ヘタルハ、大ナル僻事(ヒガゴト)ナリ、ソレハ五德ノフタヲキト云也、臺子ノ七カザリニ、風爐、釜、水指ヲ初トシテ、ミナカネノモノヲ用ル、柄杓ハ柄杓立アリ、茶筌ハ茶筌ノセアリテ、蓋置バカリハカザリツクル處ナシ、モロ〱カザリツケテ、亭主ノ持出ルモノハコボシバカリナリ、ソレ故フタヲキヲコボシノ内ヘ入込テ、出ルヲカクレガト云、コボシノ内ヘ入テミヘザレバナリ、イカサマニモ是バカリハ、カザリツクル處アルマジ、蓋置ト名ノツキタルモノヲ、又フタモトラズニ、カザルベキヤウナシト申シ上グ、夫モソウ、マヅカザラレマジ、ソレ故ニ、カネノフタヲキヲ、コボシヘクミタルヲ、カクレガト云カラシテ、カネノモノヲカクレガト云、五德ノ名ニアラズ、此御流儀ノ御傳ニテ、大秘密ノコトナリ、必ズ他人ニカタルベカラズト仰ラル、

○廿四日、參候、

御居間ノ掛板ニ、ガツパリノ花生ヲカケラレテ、緋ボケニフキノトフヲ入ラレテ、仰ニ汝ガ參リタラバ、此花ヲ見スベシト思召テアソバシタリ、拜見スベキノ由ニテ拜見ス、何トナク見ゴトナル由ヲ申シ上グ、

如此ナリ、是ニテハボケニハアラズ、梅ノ枝ノ形ナリ、同ジコトニテ下ノ枝ヲトリテ、上ノ枝バカリニスレバボケニナル、此味ヲ知ルベシト仰ラル、

如此ノ味ヲ、トクト拜見セヨト仰セラル、

○今時ノ茶湯ニ得テハ花ヲ贈ルコトアリ、此ハ何ト會釋シテヨカラント、思フゾト仰ラル、先モライタルモノヲ挨拶セズシテ、中立マデ待モイナモノナリ、已ニ相客モアルモノナルニ、云出シテハ猶イナモノナリ、何トアルベキカ、先花ヲ生テ禮ヲ申シ、中立ノ後、掛物ヲカケ申スベキヤト申シ上グ、イカニモ先左ニテアルベシ、然シ花ノ二三種モアルトキハ、ソノ中ニテヨリテ、

一種二種ヲ用ンモイカヾナリ、一向ニ四五種モアラバトモカクモナリ、タヾ先ヨリ贈リタルマヽニテ、床ニ直シオキテ禮ヲ云、花數モアレバ客ニモ御生アレカシト云カ、但シ迚ノ義ニ、御亭主入ラレヨカシト、客ヨリ所望スルニテアルベキカ、花生モ、籠トカ二重トカ、花ニヨリテ、亭主ノ物ズキアルベキコトカトト仰ラル、毎度ノコトナガラカヤウノコト氣ノツカヌコトニテ、アトデハ奉感コトノミ多シ、

○二月廿六日、　大德寺龍光院ヘ渡御、旭峰、拙、

待合、客殿ノ脇十二疊、衣桁、硯箱料紙、東山時代、

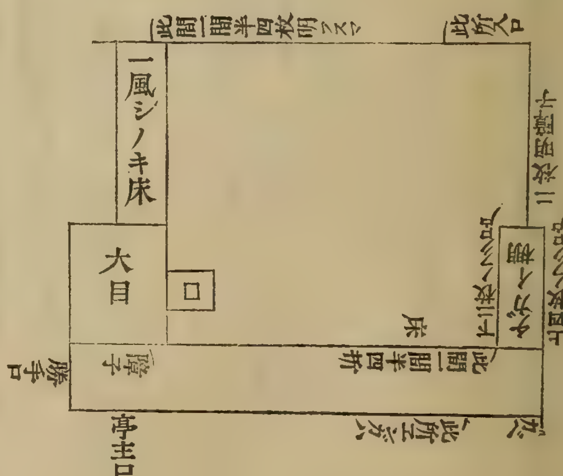
火桶、深草ヤキ、ヘギニノセテ、

煙艸盆、木地、

火入、七寳ノ八角、青竹灰吹、

奉書、烟草入、烟管一本、吸口ヲ奉書ニテ包、次、キンマタバコボン、セトノ火入、青竹灰吹、トサカミタバコ入、銅ノ手アブリ、

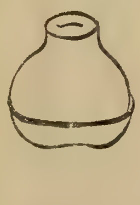
圍居、四疊半ニ、大目ノ疊ヲ入タル座席ナリ、書院ノ奥ナリ、客殿ノ待合ヨリ椽ツタヒニ行ク、



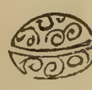
床ニ初手花、遠州ノ二重筒、

花、コブシ、赤椿、

釜、アシヤ、

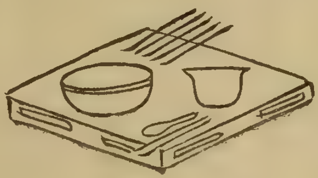


棚、グリノ香合、グリノ中ニテ、至極ノ由、



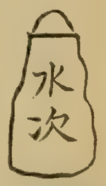
會席、
御膳、木地ノ杉、唐胡桃足、
御飯、モツサウ、
御汁、針栗、針生姜、アサ草ノリ、

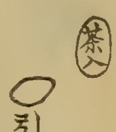
金色（カナイロ）ノ汁次、
皿、南京赤繪、コンニヤク細切、ウコギ、溜リ、イリザケ、キンカン、
平皿、ヤキドウフ、ワサビ、ミソカケ、
湯盃、ヌリ湯桶、青磁水次、手燒ノフリ出シ、
御菓子、椢ノ粉ニマブシタル、トウキビモチ、盆木地杉、菓子入唐物、唐物食籠、次唐物蒔繪、盆杉バシ、



御口取、ゴズノ鉢ニ入、煮シメ、木ノ葉ナシキ、クロ木ヤウジ、
御中立、
待合如初、掛物、御染筆、
棚、臺天目、フクサ、茶碗、
水指、南蠻、茶筌、カザリ、

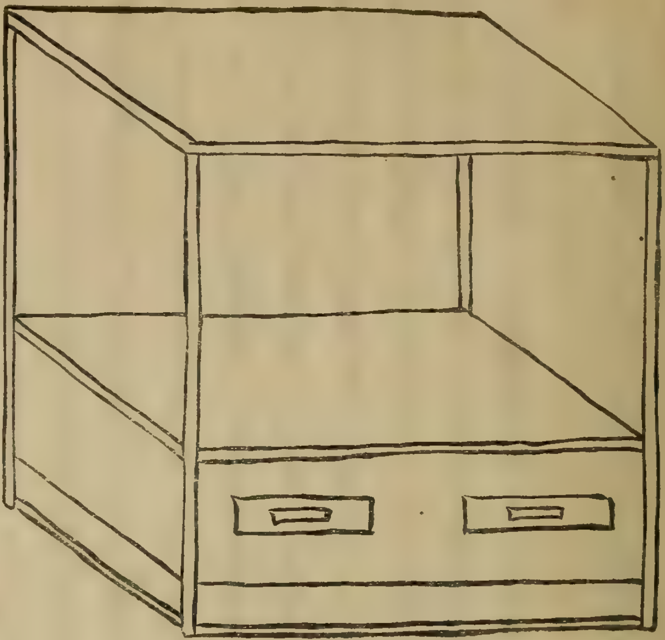
茶入、水指ナハズシテ、





引切、カザリ、南京ノ染付、遠州ノ好ニテ、大唐ヘアツラヘツカハセシ由、引切ノ形ニ少シモカハラヌシボリ手ニシテ、詩二句アリ、
上ノ茶碗、肥後ヤキ天目、
次ノ茶碗、カタ手、
茶入、古瀬戸、袋、清水切、裡、遠州カイキ、蘆邊ト云遠州ノ銘、箱ニ自筆ノ書付アリ、
茶杓、常修院樣筒共、
茶碗ノ臺、木地ノ臺ニテ、遠州好ミ、七ツノ數ノ中ナリ、ソノ一ツ、道正庵ニコレアル由ナリ、外ハ白檀ノヤウニテ、中ハクロヌリナリ、
羽箒、遠州ノ作三枚羽、箱、自筆ノ書付アリ、鵠、はつ春、元黑羽箒ト表ニアリ、蓋裏ニ
はつ春の、初音のけふの、玉箒、手にとるからに、ゆらく玉の緒、トアリ、
後ノ炭御所望ノ間、書院ノ床ニ、松花堂ノ彩色草花ノ畫二幅對、遠州表具、前ニ青貝唐物ノ卓、

後御菓子、白ヤウカン、クシガキ、八代蜜柑、
醴酒、
申半下刻還御、御所望ニテ、此寺ノ什物ノ引出シ棚ヲ御覽ナサル、拙ニモ拜見スベキ由ニテ拜見ス、



○三月四日、　雨天、道正庵御茶獻上、御前、拙、恕軒、

待合、御烟艸盆、次烟艸盆、
腰掛、圓座、請次三ツ、

掛物、梅道人カ竹ノ畵、自畵自贊、一文字ドンス、地ノ白ニ銀爛、中、白地ノ金紗、牡丹ニ蝶、上下、子ヅミドンス、横物、宗和好ノ表具ノ由、
御前ニモ、コトノ外御褒美、

香合、交趾ノス、メ、

釜、無紋ノアシヤ、

會席、

汁、フクサ、タンポヽ、タイラギ、

皿、ヨメナ、シラガクリ、イリサケ、ツク〳〵シノヒタシモノ、

平、スクヒトウフ、アンカケ、

四角皿、キスゴノ細ヅクリ、青酢ナマス、

吸物、松露、

菓子、青餅、水栗、

御中立、

花生、南蠻燒物、

花、ヒボケ、フキノトウ、

水指、スンコロク、

茶入、シノヲリベ、

袋、ヤケキレ、時代金紋、アシノモヤウ、新シク仕立テラレタリトミユ、

茶杓、舟越伊豫守、

茶碗、朝日燒、ケカゲンバカマノ手、

後、薄茶御所望、

菓子、サガノマンヂウ、

七ツ半還御、
今日ノ茶ハ、イカウ出來タル由、御褒美ノ次手ニ、評ヲ申シ上テ承ル、掛物ヲ第一ト思召ノヨシ、

○柄杓ヲ青竹ニテ致シタルハ、定テ淸ヲ專ニシタル意カ、引切モ青ク、柄杓モ青ク、イカヾニヤト申シ上グ、　仰ニ、青竹ニスルコトハシラスコトナリ、總ジテ茶筌ナド、青竹ヲ用ルコトイカガナリ、生ノ竹ハ必油氣アリテ、湯ヲ汲タルトキ必香氣アルモノナリトテ、昔ヨリモ宗匠達ノ仕ラレヌコトナレバ、其分アルベキカ、新ヲ用ルハ青竹ナラズトモ、淸カルベシト申シ上グ、

○先日能玉ガ圍居ニ棚ヲツルコト、由モナク中ニツリテ角ヲカキ、一本竹ニテツリタルハ、危キモノニ候ト申シ上グ、仰ニソレハ取チガヘカ、三菩提院、常修院殿ノ、河原ニ暫ク偶居ナサレシトキニ、上ノ御屋シキノ普譜ノ間ニテ、始終ノ御座所ニテモナカリシカバ、椽側ヲ圍テ一ロ切ナサレ、一方ハカベ、一方ハ障子ノ處ナリシカバ、鱗形ノ棚ヲツラレテ、ソノ角ヨリ一本ノ竹ニテモタセラレタリ、是ハカクナケレバナラヌ處ニテ、假ノスマイナレバナリ、左樣ノキツト圍居タル處ニテハ、イカヾト仰ラル、

○茶入ノツカリヲ、右ノ手ニテ引出シ申シタルハ、終ニコレマデ見申サヌコトニ候ハイカヾト申シ上グ、仰ニソレニテハ、袋ガウラニナル筈ナリ、合點ノイカヌコトナリト仰セラル、

○九日、　山本恕軒御茶獻上、拙、道正庵、
鷹司内府公御押懸、
待合、圓座請次四枚、竹ノ子笠四蓋、
掛物、雪舟、福祿壽、一文字雲雀ノ安樂庵、中ナシ、上下ドンス、
釜、天猫、
香合、朱ヌリノホリ物、キンマノ手、牡丹カラクサ、
羽箒、
會席、
汁、（フクサ）モヤシ、子イモノコグチ切、
皿、鯛ノ生盛、防風、ナマス、イリス、
平皿、ヒヨドリ、フキ、（一本ヨセトウフ）
吸物、（フクサ）ヤキアユ、サンセウノメ、
菓子、モロコシ、カウタケニシメ、
御中立、
花生、御作、　花、コブシ、白桃、
水指、信樂、
茶碗、朝鮮、
茶入、イセ春慶、　袋、白地ノ寶ヅクシ、古金襴、
茶杓、ナリベ、

後御菓子、ツヽマミヤウカン、
茶入、棗、宗旦、宗左ノ判アリ、
薄茶ヲ上グ、還御中ノ半刻、
○今日ノ茶ノ湯ノ評ドモアリ、其次デニ茶杓ノアシライ珍ク存ジタリ、已ニ茶ヲ入テ、又フクサニテノゴイテ、茶入ニカケテ後ハ、モハヤヌグハズ、カヤウニモ致スコトノアリヤト伺フ、サレバトヨ、アレハチト、トリチガヘニテハナキヤ、盆ダテノトキハ、尤モアソコニテ拭フコトナリ、茶ノツキタル杓ヲ、盆ニハオカレヌ故ナリト仰ラル、ソレニ付テ先日能玉ガ、茶入ノツカリヲ右ニ引タルモ、トリチガヘナルベシト思召ス、小壺ノアシライトテ、小キ茶入ハ、下ニテ兩手ニテ、コト〳〵シクアシロフモイナモノナリ、左ノ手ニ袋グルミニスベシ、右ノ手ニテ先ノ方ヘツカリヲ引、兩方ノツカリヲモ、右ノ片手ニテノブルコトナリ、ソノ取チガヘナラント思召トナリ、
○棚ヲ竹一本ニテマン中ヲツリタルモ、料見違ナルベシ、常修院殿ノ御殿普請ノ間、一トセ河原ノ屋敷ニテ口切ノアリシトキ、書院ノ椽側ヲカコハレテ、棚ヲツラレシトキ、壁ハ一方ナラデハナカリシホドニ、ソノ棚ヲ鱗形ニシテ、棚ノ角ヨリ竹一本ニテツラレタルコトアリ、本ノコトニアラズ、ソノ所ハ、左ナラデハナラヌ處ユヘナリ、此取チガヘカト仰ラル、
内府公初メ、拙並ニ御近習、ミナ〳〵廻リ立アリテ、御前ニモアソバス、次デニ、茶筌ト茶巾トヲ一所ニ持テ、茶碗ニ入ル、コトアリト仰ラル、ソレハ何ト致シタルコトニヤト伺フ、大事ノコトナリ他言スベカラス、唐物茶入ノトキハ、茶筌ノ置所カハル故、茶巾ヲトリテ、又茶筌ヲトレバ、手兩方ニヒラキテ、便宜アシキ故ナリト仰ラル、大切ナルコトナリ、
○十三日、 御本殿ヘ二條左府公、一條右府公、鷹司内府公御成、拙御相伴、
午前後御成、酉ノ刻還御、
○十八日、 御別業ヘ一條右府公、鷹司内府公御成、意齋、拙、
御床、法性寺殿奏狀ノ艸稿、
昔ノ人ノ厚キコトヲ可レ見、コレハ法性寺殿ノ奏狀ノ艸ナリ、凡テ文ノウツシヲ、假初ニモ草稿ノナキコトハナシ、コレモソノ一ツナリト仰ラル、
暮ニ及テ還御、
○廿日、 御別業ヘ二條前關白公御成、意齋、拙、
少時ニテ還御、近日御落飾ノ儀ニヨリテト風聞ス、
○廿二日、 參候、
昔シ三光院ノトキ、和歌ノ評ヲセラレシガ、實條、也足ナド、皆々歷々ノ衆ヲ集メテ、同題數百首ノ歌ヲ一筆ニ記シテ名ヲカ

クシ、三光院ニ點ヲ請ハレシ時、其中ニテ一首ニ點ヲ掛ラレシハ、也足ノウタナリシカバ、不覺ソレコソ我等ガ歌ナレ、辱シト申サレシカバ、三光院殿ノ仰ニ、ソナタガ歌ナリトヤトテ、小刀ニテ點ヲケヅリテ、思付ヨロシク候ト褒メラレシカバ、其座ハ赧然トシテ赤面セラレシガ、老後マデモ、師ノ恩ハアダニ思フマジキコト也、ソノ時ノ點ヲ削ラレシ故ニコソ、今日ノ集ニモ撰バルレ、アリ難キコトニコソト、一生忘レズシテ申サレシトコソ聞ツレ、總ジテ師ノ門人ヲ導クコトハ、ソノ筋アルベキコトナリ、イカニ才アル人トテモ、ソノ師ニ逢ハズシテ、一生本意ヲ遂ルコトハナルマジキコトナリ、師ノ導キニヨラズシテ、成ルコトハアルマジキコトナリト仰セラル、

○余右ノ師ノ説ヲ拜聽シ、身ニシミ〳〵ト有難キコトニ思ヒテ申シ上シハ、私一生ニ大不審ニ存ゼシコトヲ錄シテ一冊トシ、錄疑ト名付ヲキ候、第一ノ不審ヲ一書トシ、御目ニカケ申シ度、シルシヲキ候ヘドモ、チト折アシクテ延引仕リ候ガ、只今ノ御説ヲ承リテ、思過半ト存ジ候、何業何藝ニテモ、一日勤メタルモノヨリモ、一月勤メタルモノハ其功アリ、一年習タルモノヨリモ、十年ツトメタルモノハ、其功アルコトハ、何ノ道モ同シコトニ候、尤モ其志ナキハ、百年モ同シコトナリ、シカルニ醫業モ亦一藝ナリ、病人ニ望デ生死ヲ期スルニ至テハ、五十年勤習シタル人モ、昨日今日勤習シタル人モ同シコトナリ、尤モ才ノ罪カト存シ候ヘドモ、近代ニテハ御存ジノ、村上宗白ガヤウナルモノハ、前代ニモ覺エズ、又此後モ出ツラントモ覺エズ、シカレドモ其生死吉凶ヲ決スルノ際ニ至テハ、生質ノ才德ホドニハ存ゼズ候ハ、イカヾヤトバカリ存ゼシガ、サテハ師ノ導キヤウノ惡キ故ニテコソ侍ラメ、宗白ホドノ才德ノ者、其師ニダニ逢候ハヾ、究テ也足軒ホドノ治法ハ、知ルベキモノゾトコソ、存ジ候ヘト申シ上シカバ、仰ニ尤モ左モアルベシ、シカシ藝ニ大小巨細アリ、コレハコレホドニテ、コレマデニ[illegible]キツクト云、キハマリアル藝モアリ、又コレホドニツメテ、ソレヨリ先ハ、キワマリナキ藝モアリ、醫藝ノ生死ヲアイテニシ、天文者ノ迅雷地震火暴風ヲ、アイテニスルヤウナモノナリ、日月ノ行度、晝夜ノ長短ヨリ、閏餘寒暑ニ至テハ、寸分モチガフ所ハナケレドモ、迅雷暴雨ヲ知ルヲ究ハマリトハ云ガタシ、殊ニ醫ノ生死ヲ決シタル、先賢ノ仕ヤウモアトカラ見テ、コレハコウ、アレハア、ト、跡ヨリ見テ論ジタルモノナレバ、先ニコノ理ハ死ノ筈、カノ理ハ生ノ筈トハ究メガタク、コレヲ藝ノ期トハ仕ガタカルベシ、畢竟スル所、變ヲアイテニシテ、藝ノ熟處ヲ知ラント欲スルハ無理ナリ、醫道一通ノ義理ニ於テ暗カラズ、ソレヲ用テ驗アルト驗ナキト、生ト死トハ、勿論才ノ罪ニモヨルベタレ

ドモ、是ヲ醫ノ藝ノカギリトハ云ガタシ、又一通何藝ニモセヨ、アタマカラ其極ニ至ルコトヲ、自然ト覺エタル生徳モアリ、ソレハ又今日ノ論ニアラズ、同シ一藝トイヘドモ、生死ノ天變地化ヲ、アイテニスル藝トヲ、同シ口ニハ論ジガタカルベシト仰ラル、

○坊城入道淨光ハ、又今ノ世ニアルベキ器ニアラズ、御前ノ十一二ノ御時、後水尾院ノ御前へ御出アリシニ、淨光ノ膝ノ上ニ抱テ、此入道ガ申コトヲ、ヨクヨク御覺へ候へ、攝關ノ君達ヲアサウリトコソ申セ、御幼少ノトキハドレ〱モ御器用アリ、各別ナリトテ賞翫スレドモ、漸々御年ノタクルニ隨テ、サシテカハルコトモナク、後ハタレトリアゲテ、申シ出スコトモナキヤウニ、ナリユクコトコソ本意ナケレ、カマヘテアサウリニナラセ給フナト申サレシ、我ニ向テソレホドノコト云人モ誰アラン、各別ノ器ナリト仰ラル、

○先日ノ、大徳寺ノ龍光院ニテ、大玄ガ湯口某ヲ呼タリシトキニ、此寺ニハ羽箒アリト、聞及タリシ故ニ請タレバ、先ホド出シタル箒コソ、名物ナレトテ、遠州ノ羽箒ヲ箱トモニ見セラレタリ、假令バ前ニモ聞及タレバコソ請モシツレ、出シモセラレタレ、前ニキカズバ、請モセマジ、出シモナルマジ、遠州モ百年已前ノ人ナレバ古物ナリ、名物ト云フモ苦シカルマジ、書院床ニ箱ヲカザラレタラバ、客モ亦氣モ付ベシト申タリシハ、イカヾト申シ上ク、仰ニイカニモサアルベキコトナリ、イカサマニモ、客ノ氣ノ付ヤウニハ仕形アルベシ、サリトテ箱ヲ床ニカザルモ、客ニ請ヘヨトイハヌバカリナリ、御前ニナサレバ、初手ニ香合ト一處ニ、羽箒ヲカザリテ、ソレヲヲロシ、爐ノミヲ掃テ又一所ニ棚ニ上ゲ、座箒（箒、近本作席）ハ勝手ヨリ、他ノ羽箒ヲ出シテ掃ヒナバ、羽箒ガ一ツノカザリトナリテ棚ニノコル、（モロ〱ノカザリニ、羽箒ハノキモノナリ、）客サテハ此羽箒ニハ、由緒アルベシト思フハズナリ、是ニテハイカヾアルベキヤト仰ラル、憚リ多キコトナガラ御尤至極セリ、羽箒ヲ棚ニモドシテ、カザルコトハアルコトナリト、前カドモ承リシコトナリ、茶入カザリノトキハ、必ズ羽箒ニテハキ入テ、又棚ニモドシテカザル、コレハ棚ニ茶入一ツニナルハ、一ノカザリニナル故ナリト仰ラレシガ、コレナレバソノ據モアリテ、一段面白カルベシト仰ラル、

○廿七日、内府樣御成、（晡、見櫟、）

御床掛物、（小松内府重盛、）　次ノ御床、（唐畫、）

御亭ノ床、（楷木假山、）　同棚ニ記二卷、（楷木假山ノコト前ニシルス、）

○廿九日、内府樣へ御成、（晡、見櫟、）

御床掛物、（法皇樣御感狀、）

房輔公ハ近代ニテ、威儀ノ名譽アル御方ニテアリシガ、不時ニ

法皇ニ參ラレケルニ、練並ニ召音等節會ノ威儀ヲ、御庭ニテ御所望ノアリシヲ、束帶ニモアラズ、直衣姿ニテハ如何トアリシヲ、達テ御所望ノ上勤ラレシトキ、御感ノアマリ、下サレケル御書ナリト仰ラル、鷹司前博陸侯トシテ、九月廿二日、御判アリ、鷹司家大重物ノ由仰ラル、

御料理御菓子マデハ、御書院ニテ召上ラレ、御茶ハ御圍居ニテ上ラル、御書院ニテ御父子樣、拙、見櫟ノミ、

御圍居、花生、常修院樣、　花、白藤一色、見事言語ヲ絕ス、

水指、備前、　茶入、萩燒、　袋、モウル、

茶杓、朝山修理、宗和門入、

又書院御出、最前ニハ准后樣、上ノ一間ヲヨケラレテ、中ノ間ニナラセラレ、近ク談サント仰ラル、

後ハ御床ニ掛物ナシ、遠州ノ香棚ニ、青磁ノウキボタンノ香爐ニ、御香爐寄カキアゲ、灰ニ火シキナシ、御香堆朱ノ香合ニ御香、下ニ堆黑ノ盆ニ香箸、火箸立ニ、御道具、カタハラニ、ナンバンノタキガラ入、此トキニ、一軸ノ勅筆ヲバハヅサレテ、飾ヲ改メラレタルコトヲ、憚リナガラ感ジ奉ル、准后樣ノ御言葉ニモ、コレニテ居ヨシト仰セラレタルヲ、存ジアハスレバ、最前ニ近クヘヨリテ、談サント仰ラレケルモ、若シ此勅筆ノ故カトコソ存ジ奉レ、

○此日サキダチテ、河原御殿ヘ參リケルニ、初テ御風爐ヲ出サレテ、今日ハ主殿ニ、灰ヲ仰付ラルベシト思召スト云、次デニ灰ノコトヲ承ル、總ジテ風爐ヲ小板ニ直スコトヲ、上ヨリナガメ渡シテ、準ヲ定ルト必イガムモノナリ、三ツ足ノアトサキ、脇マデヲ定メテ、風爐ノ出入ハカマハヌコトナリ、左ヤウニスレバ、大方前ヘ出過ルヤウニ見ユルモノナレトモ、ソレハ前ガカケテアル故ナリ、出過ルニアラズ、

○ヒヅミノコト、小板ハ直ニ、風爐ハヒヅミ、五德ハロクニ、灰ハヒヅム、マドブロハ灰ヲモヒヅメズ、五德ノ直シヤウハ、尤モロクヲモトハスレドモ、釜ハ少シ前ヘカタムクガヨシ、仰ムクヲ大ニキラウ、灰ノ高サハ尤モ時ニモアレドモ、五德ヲ三分ノ二、ウヅムヲ常トス、トキニヨリテ平釜大釜ナドニ、二分モヒキクスルコトモアリ、サテ風爐ノヒヅミヤウ、客付ノ方ヘヒヅムベシ、假令ハ客亭主ノ右ノ方ニアレバ、風爐ヲ亭主ノ左ノ方ヲ少シヒキイタシ、右ノ方ヲサキヘヨセ、灰ハ亭主ノ左ノ方ヲ、五德ノ腹ヨリ付出シ、右ノ方ノ五德ノ角ニテトムル、此トキハ灰ヲ五德ノ右ノ方ヨリツク出シテ山ヲナシ、五德ノ左ノ方ニテトムル、又マドブロナドハ、五德ノ兩方ニテ、直ニトメテツク出シ、モトメモ同シヤウニスル、山谷ヲスルニモ先ヅ前（ケダシ）ヲ高クシ、向フノツメノ處ニテ、山ノ兩方ニ立ヤウニハセヌコトナリ、一方ニ山ヲ見テ、一方ニハ其ナダレヲミルガヨシ、大抵ニコノ山谷ヲ、ワザトコシラヘタルモノニハアラズ、風爐ノマン中ニ灰ヲ入テ、ソレヲ四方ヘカキアゲタル形ノ、自然ニ高下ニナリタルモノナレバ、其心持ニテスベシ、サテカキアゲノ灰ハ、風爐付ノ方ヲ短クスル、常ノ灰ハ、風爐付ノ方ヲ多クス

ル、カハラケノウラヲモテノ灰ハ、少シシメリタル灰ニテヨクカタメテ、其上ニ灰ヲマケバ自由ニナル、此大秘ナルコトナリト仰ラル、

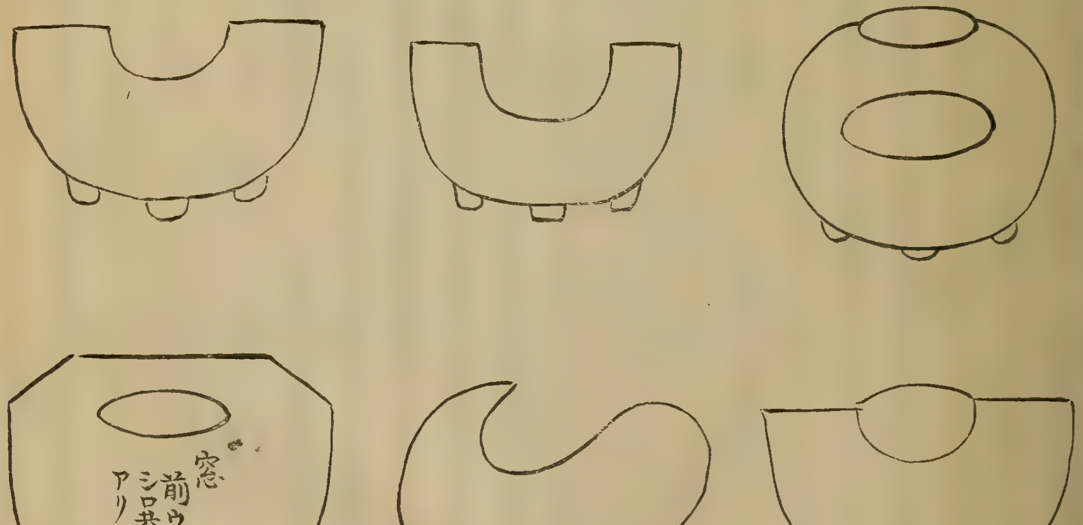
○晦日、　參候、

御床ニ白藤ヲ生ラル、凡慮ノ及ブ處ニ非ズ、

○風爐ノ柄杓ハ、合バカリヲ濕シテ置ガナラヒナリ、柄ハヌラセバ色カハル、合ハ濕メレバ重リカヽリテ、釜ニカケヨキ爲ナリト仰ラル、

○四月七日、　內府樣御成、拙一人、今日ハ兼テヨリ、御約束ニテ、風爐ノ灰ヲアソバス、潜ニ拜見ス、　宗和

形ノ風爐ハ七ツアリ、一々拜見ス、



○初メノ窓ノ一ツアル風爐ヲ、長板ニカザラル、此形甚タメヅラシキ形ナリ、故ニ每々ハ出サレス、灰ノ仕ヤウカラ、炭カラニ習アルコト故ニ、出サヌガ好ト仰ラル、釜モ是ニトリ合セテ、後西院ヨリ御拜領之由也、釜ハタトヘバ、中雲龍ノ形ニテ、環付ハ竹ノ節ナリ、風爐ノ口ニヤウ〱釜ノ入ホドナリ、五德モソノ口一ツパイノ小五德ナリ、此風爐ノ灰ハ、前ノ方ヲ五德ニカマハズニ、風爐ノ脇カラ脇マデ、一文字ニツケテ、サテ其外ニ遠山ヲツクル、山モナルホドヤハラカニツケタルガヨシ、サレトモ向ノ方ノ前ヨリヒキキヲ嫌フナリ、土器ハウヅミテミセヌナリ、

○六ツ目ノ風爐ハ、前後トモニ窓アリテ、上ハ緣アリテ、スキ木ニテカクルナリ、此灰ハ前後トモニ、一番目ノ風爐ノ、灰ノヤウニ、前後一文字ニシテ山ヲセヌナリ、ナゼナレバ、前モクチバカリ、上モ端ノアル釜ニテ、火氣ノヌケドコロガナキ故ニ、後ニモ口ヲ開タルモノナリ、灰トモニ其心ナリ、三ツ目、四ツ目ノヤウナル風爐ノ灰ハ、山ヲヒキクナル樣ニシテ、前ノ方モ平ニスルナリ、紅鉢ノ灰ハ又格別ナリ、コレハ四方カキ上ゲニシテ、土（一本土作上）付ノ方ヲ少クナダレヲ多クスルナリ、

○一番目ノ一ツ窓ノ風爐ニ、立炭ト云コトアリ、大ニ秘藏ノコト也、必不㆑可㆓他言㆒、總ジテ炭ハ風爐ニハ、長炭輪炭ヲツカフニモ、皆橫ニツカウ常ノコトナリ、此風爐バカリニ限リテ、炭ノ木口ヲ上ニシテ、タテニ深クウヅム、炭ヲマン中ニ一ツ入テ、外ニ炭ヲヽク、此習ナリ、仰ニ尤ナルコトナリ、口ハセバクテ窓ハ一ツ、五德ハ小キ故ニ、所詮炭ヲ多ク入ル、コトハナラズ、故ニ大炭ヲタテニシテ入ルレバ、炭ヒトツニテ火氣ツヨキ爲ナリ、

○總別灰ノ仕ヤウノコト、先初メニ風爐五德ヲスヱテ、ソノ眞中ニヨシトオモフホド灰ヲ入テ、扨カワラケヲ定メ、（五德ノスヱヤウノコト、末ニ見ユ、土器ノサダメヤウ亦同、）ソノ眞中ノ灰ヲ、匙ニテワキヘカキアゲタルナリ、自然ト山ニナリタルモノナリ、ワザト拵ヘタルモノニ非ズ、サテ土器ノウチソトヲ、ヨク堅メテ推付々々シテ、灰ハ前ニテ、五德ノ三分ガ二ヲ埋ム、灰ノヒヅミハ、五德ノ腹カラ、五德ノ角マデ、眞一文字ニツクル、左右ノカハリアリ、左ノ方腹ヨリツケソムレバ、右ノ方角マデニテトムルモアリ、風爐ノ脇土（土近本作上）マデ付ルモアリ、ソノ左右ハ客付次第ナリ、亭主ノ左ノ方客付ナレバ、亭主ノ右ノ方ノ、五德ノハラヨリツケソメテ、左ノ方ノ角マデツクル、兎角客ノミコミ、灰ノ付シマイノ、見ユルヤウニスルコトナリ、サテ前ノ灰ハ、カヘシ灰トテマキザマニ、下カラ半分ホド一通マキテ、土ツキノ處ヲ羽ニテハキカヘス、コノハキカヘシノ羽トミエヌヤウニスルコトナリ、化粧灰ハ、半腹ヨリ上ヲキザミテヲロス、漸クニ出來タルトキ、風爐

ノ両脇ヲ外カラ手ニテタヽク、タヽケバ灰ガヅリタイホドヅリテカタマル、サテ化粧ヲスルナリ、化粧ノ仕ヤウ筆頭ニ盡サレズ口傳ナリ、サテ山ヲモノコラズ化粧シテ後、中ノ炭ノヲキヨイヤウニクツログルナリ、灰ノツケダシハ、随分五德ノ本ノクツログヤウニ谷ヲスヘシ、

○五德ト土器トノ上ノ明キ、一寸一二三分マデナリ、五德ハ爪カラ爪マデ、直ニ準ヲワタシテ明キヲ見ルベシ、

○五德ハ風爐ノ正中ニスヘテ、釜ノ四方ノ明キノ、同シホド明クヤウニスベシ、サレドモコヽニ少シ心アリ、正直ニスヘテ後、二分バカリ先ヘヨセテ、釜ハ四方ノ明ヲ同シヤウニスルト、必ズ釜少シ前ノ方ヘカタムクヲ正直トス、仰ムクヲ嫌フナリ、

○釜ノスヱヤウハ、イカケノツギメト風爐ノ肩ト、同シヤウニソロフヲ嫌フナリ、一向ニ上ヘ出ルカ、一向ニ下ヘ入ルカヲ本トス、キリカケノ釜ハ、二三分モ上ゲテカケタルガ好ナリ、

○置花生ノ花ハ、大方ニ一色ナルモノニテ、根ジメハコレナキモノナリ、カケ花生ハ必ズ根ジメナケレバ叶ハズ、

○茶入ノアシライハ、爐ニテモ風爐ニテモ、水指ハ左ニテモ右ニテモ、皆左リノ手ニテアシロウナリ、風爐ニテハ必水指ガ、客付ナルモノナレバ、亭主ノ右ノ方ニ、茶入茶碗トモニアルナレバ、右ノ手ニテナヲシソウナモノナレドモ、コレモ亦同シク左ノ手ニテアシロフナリ、右ノ手ニテアシロフ道具ハ、道具ニテキワマリアレバナルベシト申シ上ク、内府公ノイカニモ、左アルベシト仰セラル、

○凡ソ花ヲ生ルニハ、必ズ先ヅ花ノ面ヲシルコト第一ナリ、必ズシモ面ヲ前ニセヨト云コトニハアラズ、ワキヲ見テモ、面ヲワキヘシテモ、正ヲ第一ニシテ、面ヲシリテ生レバ好ナリ、

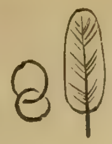
○燕尾（イチハツ）、カキツバタ、水仙ナドノヤウナルモノヽ、葉ヲ生ルニハ、別シテ葉ノムキト、葉ノフチヲ見ヌヤウトニ氣ヲ付ベシ、根本ニテ折レバ、自由ニタメラルヽモノナリ、タヾ生テ葉ノフチヲ見ルヲ甚ダキラフナリ、葉ノウラヲ見ルハ、ソレ／＼ノ花ニヨリテ苦シラズ、コトニイチハツナドハ、生花モ葉ノウラヲ見セテ咲モノナレバ、ソレハ少シモ苦シカラズト仰ラル、

○置花生ノ花ハ、必ズ堅クナリヤスキモノナリ、カタクナラヌヤウニスベシト仰セラル、

○風爐ノ板ノナヲシヤウハ、壁付ノタヽミノ目ヲ、五ツ目カ七ツ目カ、ソレハ大板中板ニヨルベシ、向フハタヽミノ目六寸バカリナリ、タヽミノ目二ツガ大要一寸ナリ、ソレ故ニ六寸ニスレバ、横ノ寸ヨリ二目ホド多シ、横ハタヽミノヘリヲ除テ數ヘル、向ハヘリナキ故ナリト仰ラル、（タヽミノ目ハ、五ツト九ツトナリ、大風爐ハ五ツ、小フロハ九ツ、向フモソノ次第ナリ、）

○ユガミ柱ト、壁付ノ柱トノ間ガノビタルモアリ、右ノヤウニスレバ、マン中ニ風爐ガ居リテ、脇ヨリノ見通ガ正スグナリ、私ノ中柱ハ、一コマノ間ナレバイカガト窺フ、サレバトヨ左ヤウノ所ハ、向フハカマハズ前ノ方ヲ、柱ギリ一パイニ出シテカザルヘシ、左スレバ茶入茶碗ハ、柱ヨリ外ニ出ルナリ、一向ニ内ヘ入ルカ、外ヘ出ルカヾ好シ、マタグルハアシシ、

○棚ノカザリハ三十品モアルコトナリ、同シ環羽箒トテモ、



トカザルコトモアリ、

トカザルコトモアリ、茶入ト羽箒トカザルコトモアリ、香合ト羽箒トカザルコトモアリ、ソノ品ハ兼テハ定メガタシ、又必シモ此トキハカフト、定ムルノミニモアラズ、茶入ヲカザルコトモソレナリ、唐物デナクレドモカザルコトニテ候ヤ、イナトヨセトニテモカザル、尊ブモノバカリニモアラズ、タトヘバ數會ウチツヾクカ、他ニ行テ又呼トキナト、同シカザリハアクドキ故ニ、カエテモカザル、假令バ他ガ環羽箒ナレバ、此ハ香合羽箒トカ茶入羽箒、引切（此處川崎本、五德ノカヘシロ傳ナリノ十字アリ、）柄杓トカ、カザルナリ、

○蓋置ノコト、カヲノモノニテ、□□□ホヤカクレガナド、ソレソレノアシライアルモノナリ、カクレガハ一ド々々ニテ、釜ノフタヲオクトキハ仰ムケテ、柄杓ヲカクルトキハ俯ニスルナリ、此習ナリ、柄杓モ正中ニハカケズ縁ニカクルナリ、ホヤハフタヲシテ出ル、釜ノ蓋ヲオクカ、柄杓ヲカクルトキハ、蓋ヲハズシテ仰ケニスル、コレモ臺子ノトキハ、一度々々ニテフタヲスル、常ノトキハ初メト終リトナリ、

○灰ニ遠山ヲスルコトハ、ワザト作リテコシラヘタルモノニ非ズ、先初ニ五德ノ中ヘ思フホド灰ヲ入テ、ソレヲ灰スクイニテ、四方六方八方ヘ、カキアゲタルナリノ、自然ト高低ガ出來ルナリニ山ヲ作リテ、ソノ上ヲ嶮岨ニナキヤウニ、カタクナラヌヤウニ化粧灰ヲスルコトナリ、ソレガ大風爐ニハ七ツ、小風爐ニハ五ツハ自然ニ出來ルト云フモノナリ、丸ガタヤ、キリコミハ、土付ヘヨセテ灰ヲスル故ニ、自然ニ山ヲシテモミエズ、故ニセヌナリ、

○山ノ高低ハ、自然トハ云ナガラ、前ノ灰ヨリ低キハアシヽ、向ノ山ハ前ノ灰ヨリハ、高メニセヌト形アシヽ、向ノ一ツ爪ノ、五德ノ足ヲヘダテヽ、兩方ニ山ハセヌモノナリ、一方ニ山アレバ、一方ハナダレヲミルヤウニスベシ、（一ツ近本作灰ノ所）

○前土器ヲ堅ムルニハ、常ノ灰バカリニテハカタマラズ、スコシシメリ灰ヲ用テ堅メタルガ好、是大秘藏ノナラヒナリ、コレデ

土器モカタマル、前ヲカキタルトキモ、灰ガズラズシテ好ナリト仰セナリ、軸足乳足ハ、何風爐ニハ何足ト、中ス定リハナク候ヤ、仰ニソノ差別ハナシ、

○長板ノ道具ノカザリハ、常ノ風爐ノカザリトハ各別ナリ、此ハ大秘藏ノコト故ニ、必ズ〳〵人ニ不レ可レ語、ソレ故今日モ、マド風爐ト長板トハ、陰ニカザラレテ御見セナサル、總ジテノカザリハ、座席ヨリシテ寸尺ヲキハムルコトナリ、假令バタヽミノ目イクツメノ所ニ水指、イクツメノ所小板、何寸ノ處何トキハメテユクコトナリ、長板ハソレトハアチラコチラニテ、道具ノ寸ヲキハメテ、假令風爐ノ前後一寸五分ナレハ、ワキノアキモ又一寸五分ニシテ、中ハカマハズ、水指モ前後ノ中ニ据テ、ソノアトサキノアキノ寸ホド、長板ノハタヲアクル、コレモ中ヲカマハズ、尤モ水指ニハヨレドモ、先大テイ是ニテハ、中ガ明キスグルヤウニミユレドモソレガ好シ、ソノ中ニ、柄杓立ヲナヲスコトモアリ、ナヲサヌコトモアリ、前ニハ茶巾置ガアル筈ホドノ分寸ユヘ、アキスグルコト毎ノコトナリ、コレハ是大秘事也ト仰ラル、

○灰ノスクイヤウノコト、灰焙ロクニ化粧灰ヲ入テアルヲ、輕ク一遍ナラシ、ソノ先カラウスウススクヘバ、ナミヨリタル灰ガ匙ニタマルヲ、スクイシマイノ方カラウツシテツクルナリ、ツケヤウハスグニツケズ、ナヽメニツケサガルガ好、サスレバ漣波ノヤウニナリテズラヌナリ、

○灰ノマドノトリヤウ〔マドノトリヤウ之七字、近本川本作ニトマリ一〕ノコト、正面ヨリスクフト、脇カラ脇ヘスクヒトルトアリ、衝立タル風爐ノ灰ハ、正直ニカキアゲテスル故ニ、横ニスクヘバ灰ガ自然ニヅリテ、窓ガ出來ルヲ本トス、丸形ヤ切込ナドハ、灰ヲナルウスル故ニ、ヨコニトリテハヅリモセズ窓モアカヌ故ニ、前カラトリテ窓ヲアクルナリ、

○内海、大海ハ、大小ノ差別バカリニテ、同シアシライナリ、大海ハ元來引ダメニテ、本茶入ニアラズ、〔東目ノ茶湯ナドノトキハ、必後ノウス茶ヲ、大海ニテ建ル〕コトヲ兼テ承ハル、内海ノ茶湯ト云コトアリ、承リタルヤト内府公仰ナリ、イヤ未ダ承ハラズト申シ上グ、是又大事ノコトナリ、大海ノ茶ノ湯ト云コトハ、元來大海ハ引溜ナル故ニ、茶入ノ座ニハヲカヌナリ、今世間ニ勝手ノ方ニカザル、座ニカザルナリ、ソノ心ニテ急度兼日ヨリ約束ノ客ニ、大海ヲ出スコトハナキコトナリ、不時ノ茶ニ押カケナドノトキ、不時ノ會ニヒキダメソノマヽ用ルノ心ナリ、ハダカ茶入ナドモソノ心ナリ、極暑ナドノトキ、不時ノ押カケニ用ルコトナリト仰ラル、

○此夜スヾカケノ花ヲ、内府公御生ナサル、先コレモ見コトナルコトナリ、後奥ニテ公御生ナサル、内府公甚タ御感心ナサル、

○九日、入江樣へ御成、治部大輔、玉ノ井、拙、

櫻ノ御所ノ藤ノサカリヲ御覽、午時御成、申下刻還御、御床ノ御掛物、大明院樣御筆、日光先門、墨畫ノ雁、御判 如レ此ナリ、仰ニ日光先門ノ御諱ハ、公辨ト申シ侍リシガ、御判ノ形ヲ公ベントカヽレタリ、ヘノ字ノニゴリ、ハタラキタリト仰ラル、

○治部大輔申上ラル、ハ、タヽライト申ス卿ノ生ヲ、樂人ノカザシニサスコトヲ、たらひの生花トアリシ故、たらひニ生ル花ト心得テ、久シクたらひノ器ヲ尋シガ、左ニハアラズたゝらひノ生花ト申スコトノ由也、タヽラヒハ何ノコトカト、カネテ撰ヲキタル、和漢異稱字類ニテ考ヘ翌日捧レ之、

○字サシト云字ノコト、先日滋野井殿ニテ松下見櫟、堀正脩ドモニ、樀ノ字ニテ候由ヲ申上ゲラル、字書ノ體サシテソレトモ、見分ケガタシト申サル、角筆ト云ヲ、タシカニ字サシノコトニ、記錄ドモニ記サレタレドモ、漢ノモノニ出處ナシ、兼テ承リシコトナリト治部申上ラル、漢ノ出處アルベシ考ベシト仰ラル、名物六帖ニハ、經橈ト出シテ事物紀原ヲ引タリ、御前ノ御考ニハ牙簽ト云モノ、タシカニ字サシト見ユレドモト仰ラル、

○十三日、左馬頭宅へ御成、内府樣御同伴、拙、

奥ノ圍居、書院ノ椽待合、椽ニガマムシロ、疊ノ上御烟艸盆木地二ツ、

椽ニ御刀掛、

掛物、宗達墨畫、ナデシコニ杜鵑、

香合、染付、

釜、百會、

風爐、丸形、

會席、

汁、ウスフクサ、蓴菜、イハタケ、

皿、鯛ノ細切ヲツケワサビ、ケン紫蘇、イリサケ、

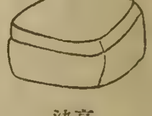
香物、鉢、ナンキン、ウリ、ナスビ、

煮物、小鴨、松露、ウドシラガ、

吸物、サキエビ、花柚、スマシ、

肴、淺草ノリ、メザシ、

菓子、青白團子、白サトフ、



高麗鉢ニ入、サハリサジ、
染付ノフタ物、青竹ハシ、

菓籠、唐物クミカゴ、

御中立、

花、アザミノ紅、

花生、備前、

水指、シガラキ、

茶入、夏山春慶、

袋、チランダ銀モウル、

茶杓、啓主座、

茶碗、朝鮮新渡、

書院床、尙信、四睡ノ三幅對、春日卓、ヒシチ香爐、

次ノ床、唐物カゴ、覆盆花、シロ、

茶後何角御物語次手ニ、ムクロ形付ト云ハ名物ナリ、首ナキ故ト云、織部カ誰トヤラン茶湯チシテ後、秘藏ノ茶入チ茶道ニ仕廻ハサレシニ、指チ入テ中チフキテ、此指ノ何分ニモ出サリシカバ、口チタヽキワリテ指チ出シ、茶入袋トモニ主人ノ前ニ持出テ曰、茶入ト人間ノ首ハ、ヨモ御カヘハ候マシト申ケル由ニテ、此茶入名物記ニマデノリケルトナン、

○左典厩ノ申サレシハ、此ゴロ御染筆ノ掛物ノハナシチ聞ケルニヤト、未ダ承ラズト申シ上グ、仰ニ百拙ガ執次ニテ、去方ヨリ繪ノ物チ所望セラル、唐紙チ捧ンモ恐アリ、又御書チ拜領シテ後表具ノ柄モ、相應不相應モハカリ難シトテ、全キ表具チシテ、中チ白紙ニシテ請フ、終ニタメシニモキカス、今マテモナキコトナリ、ニクサモト思ヒテ、竹ニ月ノ畫チ書タリシカ、月ノクマチ、一文字ヨリ中マテカケテ書ヤリタリ、イカニモ表具チ仕ナチスコトハナルヘカラスト仰ラル、左馬ト兩人感ジ奉ル、總シテ此公ノ御器、今サラニ申スモ恐アレドモ、凡慮ノ及ブ處ニアラズ、イデ表具シテ所望スルホドノ人ニ、表具シテアソハスホドノ、返報ナクテハカナウマジ、後代ノ龜鑑トモナルベキコトナリ、

○宗達ガ畫ハ影坊子チウツシ得タルモノナリト云、尤ノコトナリト仰セラル、

○十四日、參候、

先ヨリユハセタル羽箒ドモチ御目ニカク、幸ニ一本御手ツカラ

御細工ニテ拜領ス、アリ難コト面目餘リアリ、茶湯ニ出シテ此アシライヲ致スベシト存ス、

○先日拙ガ申シ上タル、ノゾクト云字ノコト、此ニテアルヘキト思召ストテ、字典ノ闚ノ字ヲ御見セナサル、窺ノ字ト同シ、古書以レ管闚レ天トモアリ、此注ニモ竊而視トアリ、ドウシテモヒソカニ見ル心ニテナケレバ、ノゾクトハ云ハレマジト仰ラル、

○長板ノカザリハ、モト臺子ヨリワリ出セルモノナレバ、臺子ノ心ニテカザリ付ルト、覺エテイレハ違フナリ、イカニモ臺子ヨリワリ出セバ、臺子ノワリニチガフコトハナキ筈ナレドモ、臺子ノ長板ニナリタルハ、ナゼ長板ニシタルゾ、長板ノカザリモ、臺子ノカザリモ、同ジコトニシテハ其詮ナシ、長板ニナリタルカラハ、長板ノカザリニシテ、ドフモ臺子ニナラヌコトヲ、スルニテナクレバ、長板ノ本意ニアラズ、ソレナゼナレバ、臺子ニハ柱ト云モノ四本アリ、長板ニハナシ、ナキカラハ、水指ト前トノ眞中ト云トキモ、臺子ニテハ、柱ヲ除ケテノ眞中ナリ、長板ニテハ柱ナキ故、水指ト前トノ眞中ナリ、コレ長板ノ秘事ナリ、イヤトイハレズト仰ラル、此段ノコトナド、世上ノ見トハ格別ノコト、又々凡慮ノ及ブトコロニアラズ、ヨク習得ラレタルモノナリ、大方ノ人ガ長板ハ臺子ノワリカラワリ出スト知ルガ先大ナルコトナリ、其上ニハヤウヤウニ臺子ノ天井ヲノケテ、下ノ板ヲ用タルモノナレバ、上ニカザルモノヲ、下エヲロスト云マデナリ、柱ヲノゾクト存スルトニテ、五分ヅヽノチガイアルト云コトハ、他人ノ知ル處ニアラズ、

○十六日夕、　參候、

御床ニ杜若ヲ生ラル、拜見スベキ由仰ナリ、

○二條行幸ノ圖ヲ拜見仕ルニ、攝家ノ御方々皆騎馬ニテ侍リ、應山公バカリハ御車ニテ侍ルハ、關白ハ又各別ノ御コトニテ候ヤト窺フ、イカニモ何時モ大臣ノ騎馬ノトキハ、關白ハ御車ナリ、左右ノ大臣ノ歩儀ノトキハ、關白ハ騎馬ナリ、此大法ナリト仰ラル、

先日ノ行幸ニモ、關白公ハ騎馬タルベキノ由、一條ノ右府公ノ御進メアリケレトモ、メサスト承リシハ、サテハサルコトノ侍ルニコソト申シ上シカハ、一條殿ノ思召ハサアルコトナルヘシ、御前ニモ御談合アリシカトモ、此度ハイラサルモノ平トテヤメタリ、先年ノ御遷行ニハ、公ノ攝政タリシトキ故、騎馬ニテ供奉ナサレシカ、此度モ馬ニテ供奉セラレンニ、何條コトノアル

ヘキナレトモ、路次モ近シ、又攝關ノ差別モアリ、時節場所モアルヘキコト、由モナク序モナクテ、目ニ立コトハイラサル物カトテ、止ラレタリトナン、

○板倉周防守ハ、如レ斯茶人ニテ、應山公ニモ御心易ク參リ通ヒテ、京兆ノ尹タリシトキハ、茶湯ニナラセラレタルコトモ度々ナリ、自身ニ茶臼ヲカマヘテ、茶ヲ挽コトヲ好ミタル人ナリ、或時應山公ノナラセラレタルニ、周防守カノ待合ニテ、例ノ小臼ニテ茶ヲ挽キカヽリ居テ、此茶ハ後ホド御前ニ奉ル濃茶ニテ、挽キカヽリ居ルナリ、早クモ成ラセラレタルコトノ面目ナサヨ、某ハ勝手何カノ見ツクロヒヲ致ベシ、御慰ニ此臼ニテ挽テ御覽アレカシトテ、臼ヲ指上テ勝手ヘ入ラントセラレシヲ、御呼カヘシナサレテ、是ヲヒカセテ防州ガ茶ハ、時ノ關白ニ挽カセタリト、人々ニ咄サントノ巧ミカト仰ラレシカバ、防州モ首ヲカヽヘテ、是非モナシ、アリヤウハ左思ヒ付タル茶湯ナルヲ、イシクモ見付ナサレシコトノ口惜サヨトテ、大笑ニナリシトナリ、

○今ノ世ノ茶人ト云モノ、道具ナニカニハ氣ヲ付レドモ、肝心ノ茶ヲ吟味スルコトガ餘所ニナリテアリ、昔ノ人ハ、茶ヲ第一ニ吟味シテ、ソノ心持種々樣々ノ計略アリ、宗和ガ申タリシハ、眞壺ノ外ハ錫壺ナルガ、錫モ壺ハワロシ、錫ノ中次ガヨシ、錫ノ大中次ニ葉茶ヲ入レテ、ヘルホドヅヽ中ヘ入子ニシテ蓋ヲシテ實スレバ、茶氣不レ脫トナリ、尤ナルコトナリ、茶ハトカク實スレバ氣不レ脫、クツロゲバ脫ス、周防守ナドモ、茶ノ袋ヲ大切ニシタリシガ、一袋ノ茶ノヽコリタルニハ、赤小豆ヲ入テ袋ヲ實スルガヨシト申タルトナリ、御前ノ御壺ハ小クシテ、二月ニ皆アク樣ニセラレテ、ヘルホドヅヽハ、古キ茶ニテツメラルトナリ、御前ノ御茶ハ各別ニシテ、他ノ大名高家ノ及ブトコロニ非ズ、

○茶筌カザリヲ窺フ、仰ニ三通リアリ、シボリ茶巾ニシテ、茶筌トナラベテカザル是一ツ、

常ノ通リノ茶巾ニ、ノセテカザル是一ツ、

水含ミタル茶巾ニ、倒ニ飾ル事アリ是一ツ、

水ヲフクミタル茶巾ヲ、ヌリブタニカザルコトハナキコトナリ、シボリ茶巾ハ、トカク共蓋ノモノナリ、是ハ兼テ茶筌カザリヲイサセントテ工ムコトニモ非ズ、必ズセデカナハヌコトモアリ、又水指ニヨリテ、是ハ茶筌カザリニ然ルベカラント云ガアルモノナリ、タトヘハ蓋モ大キニ、ハヅキモ蓋一パイニシタルヤウナルハ、茶巾ヲハヅキヨリ先ニ置テ、茶筌ヲ先サガリニオキタルガヨシ、（近本作先カザリ）常ノハヅキハ、常ノ茶碗ノヤウニカザルモヨシ、フタニヨリテマタ並ベテカザルモ好シ、シカト一定ニハ仕ガタシ、ツルベナドハ如何、ツルベハ取

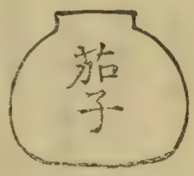
ル方ノ蓋ニカザルガヨシ、（總テ茶入ノ蓋ハ、茶入ノ形ニヨツテソレ〳〵ノ形アリ茄子ノ蓋バカリハ瓢フタナリ、）

○十九日、　內府樣御成、拙、

今日ハ、唐物一通リノトリナヤミヲ敎授アルベキノ由ニテ、先一通リ拜見ス、以上七通リナリ、

茄子、文林、肩衝、圓壺、樽、驢蹄、柑子、瓜、水滴、コレラハソレ〳〵ノアシラヒアルモノナリ、

手瓶(テカメ)蔓付(ツルツキ)、先コレヲトリナヤミ覺エベシトテ、　內府樣へ御傳授ノ御相伴ス、仰ニ茄子ト文林トハ、肩ト尻トノ差別ナリ、少シ肩アリテ、尻ニテコケタルハ文林ナリ、肩コケテ、尻ニテフクラアルハ茄子ナリ、



唐物ノ形ハ以上十七ナリ、此一通リハアシラヒアルモノナリ、此形ハ　後西院ノ御時、御室ニテヤカサレテ、蓋袋トモ　後西院ノ、御物好ニテ仰付ラレテ、此御所ニ進ゼラレシ御道具ナリト仰ラル、其中茄子、文林、肩衝ノ三ツハ盆ニノルモノ、其外ハ盆ニハノラズ、只唐物アシラヒナリ、盆ハ未ダ御傳授ナシ、唐物ハ凡テ何ニテモ、取トキハ兩手ニテ是ヲ取リ、置トキハ右ノ手ニテ之ヲ置ク、ソレ故風爐ニテモ爐ニテモ、右左ヲカカマハズ、茶入ハ是非共左ノ手ニテアシロウハ是ガ爲也、

○蔓付ハ、割蓋ト又平大蓋ト、二通リアルモノ也、

蔓付(ツルツキ)

割フタ

大フタ

蔓ノ上ニテトマリタルハ、何時モ割蓋ノ物也、下へサガリテ蔓ノ付タルハ、大蓋モアルモノ也、先割蓋ノ時ハ、茶碗ヲ前ニ引、次ニ兩手ニテ茶入ヲトリ袋ヲトク、茶入ノ袋ニ入レヤウノ形、昔ハ蔓ヲ縱ニシテ、袋ノ縫目ノ處ニテ蔓ト蔓トヲ見タコト也、今者蔓ヲ横ニシテ袋ニ入ル、形如斯、

袋ヲトクトキハ、常ノ茶入ノ通リニ、緒ツカリヲ解テ、扨袋ヲ縱ニナホス、（古風ヲ存スル乎、）而シテ右ノ手ニテ取テ、左ノ手ニ渡シ、左ノ手ノ裏ニ平カニナホシ、右ノ手ニテ上カラ鷲ツカミニ茶入ヲトリ、袋ヲ左ニ、茶入ヲ右ニ引分テ、直ス時ハ蔓ヲ先ヘ縱ニタヽミニ置キ、袋ヲサバキテ袋ヲ本座ニ直シ、又兩手ニテ茶入ヲ取、左ノ手ノ平ニスヱ、右ノ手ニ袱紗ヲトリ、常ノ如ク蓋ヲ拭テ、スグニ其袱紗ヲ下ゲサマニ、右ノ手ノ中ヘ、茶入ヲ袱紗ト共ニノセテ、左手ニテ茶入ヲマワス、一遍マワリテ右手ヘウツシ、袱紗ヲ常ノ所ニ置カ、腰ニ挾テ、而シテ又左手ヨリ、右

手ヘ取直シテ、茶入ノ本座ニ直シ、茶杓ヲカクル如レ毎、茶杓ハ、兎角ニ割蓋ナレバ取ル方ノ蓋ニオク、（取ル方ノフタニハツマミナシ、取ラヌ方撮ミアリ、）サテ茶筌ヲ直シ茶巾ヲ直シ茶碗ヲ直ス、其法如レ常、サテ茶ヲ扱フトキハ、茶杓ヲ右ノ手ニテ持ナガラ、左手ト兩手ニテトリ、左ノ手ノ上ノ平ニノセ、（ノセサマ、撮ミヲ左ノ方ニスルナリ、）撮ミナキ方ノ蓋ヲ、茶杓ヲ持チナガラ開テ、蔓ヲゴサセテ、仰ケニ撮ミアル方ヘ重子、左ノ手ノ大拇指ニテ、片蓋ノ裏ヲ押ヘテ、茶ヲスクフナリ、茶ノスクヒヤウニ習アリ、一スクヒハ常ノ如クニスクヒ、二スクヒメカラハ前カラサキヘ扱フベシ、先カラ前ニ扱テ、幾度モスクフテ茶碗ニ入ルヽナリ、扨又初ノ如ク、蔓ヲコサセテ蓋ヲシムルナリ、茶杓ノカケ所ハ、右ノ手ノ方ノ蔓ヨリ外ヘハヅシテカクル也、（總ジテ茶杓ヲカクルハ、ツマミヲハヅシテ、客ノ方ニカクル、若シ巣アレバ巣ヲ客ノ方ニス、）是ハ是非ツマミナキ方ニカクル也、若シ大方ノ一ツ蓋ナレバ、盤胴ト同シコトナリ、其時ハ蓋ヲトリテ仰ケニシテ、タヽミニ置ク、茶ノスクヒヤウハ上ト同シ、蓋ノアシラヒハ、丁ド擂茶（ルイサ）蓋（ブタ）ノアシラヒト同シコトナリ、

○手瓶ノアシラヒハ、毎ノ如ク兩手ニテ茶入ヲ引寄、袋ヲトキ、（是モ昔ハ手ノ方ヲ、袋ノ縫目ノ方ニシタル由ナリ、）手ヲ前ノ方ニシテ假座ニオキ、袋ヲ本座ニオキ、右ノ手ニテ茶入ヲツカミ取リ、左手ニノセテ袱紗ヲトリ拭フ、シマウトキニ左ノ手ニテ手ヲ撮ミテ、右ノ手ニテ上カラツカミ、本座ニ直ストキハ、手ヲ水指ノ方ニシテ飾付ルナリ、茶杓ハ常ノ如ク蓋ニカクルナリ、蓋ニノセズ、手ニカクルト云一説アリ、ナルホドナキコトニハ非ズ、御形ノヤウニ、口カラ手ノ付タルハ、蓋ニカケタルガ好シ、手一段サガリテツケバ、手ニカクルコトモアリ、

○樽ノアシライハ、圓座ノモノト云テ、凡テ尻ニ、 ト如此ナルナリノアルハ、必ズ底ヘ少シモ手ヲモ指ヲモ、カケヌガ習ナリ、是一ツニテ外ニカハルコトナシ、

○水滴ハモト口ノアルモノ故ニ、口ノ下ニナラヌヤウニスルコレ習ナリ、大カタ口ヲフサイデアルモノナリ、口ノ下ヘナラヌヤウニ、フキモ仕廻ヒスル故ニ、口ヲ上ヘスルナリ、

○柑子ト瓜トガ、ヨク形ノ似タルモノナリ、瓜ハ筋ノ方ヲ前ニ正面ニスル、柑子ハフクラノ方ヲ正面ニスル、是習ナリ、妙ナコトハ、古今ノクスリダチ、自然ト瓜ハ筋ノ處ニクスリアリ、柑子ハフクラノ處ニクスリアリト、

柑子、

瓜、

如レ此

○驢蹄ハ口作リ一ツ也、凡テ 如レ此ツクルヲ驢蹄口ト云、茶ヲ扱（スクヒ）テ後、必ス口ノウチヲ拭フ是習ナリ、

○五月朔日、　內府公御成、拙、

二條前關白公去廿八日落飾ノ由ナリ、法號ヲ圓覺ト申シ、院ノ名ヲ敬信院ト申ス由御ウワサニテ、唯今ニテハ何ト稱スルコトニヤト仰ラル、內府公ノ仰ニ、今日一條ノ右府ノ、二條ノ左府ニ此コトヲ尋ラレシガ、左府ノ仰ニ、近代ノ應山、惠覺ナド申スト同例ニテ、圓覺ト稱スルノ由ヲ申サレシト仰ラル、好キ例ナリ、右府ノ問モ尤ナリト仰ラル、程ナク大閤ト申スベケレバ、暫ノ御事也ト云々、

○仰ニ、近代大閤ト申スコトヲ、關白ノ父ハ必ズ左申スヤウニナリタルハ、キミワルキコトナリ、上古ハ太政大臣ノ入道ヲコソ、大閤トハ申シツレ、太政大臣ヲ閤下ト云、近代ハ關白ノ父ヲサシテ、凡テ大閤ト云、閤モ漢ニテハ閤下ト云ナリ、

○奧ノ御床ニ、土佐ノ畫ヲ掛ラレタリ、ソノ上下ノ絹、白地ニテ菊花ノ色離(マガキ)ニミダレサキタルヲ織タル切ニテ、珍ラシキ摸ヤウナリト申シ上グ、仰ニ、コレハ大閤秀吉ノ大佛供養ノトキ、童ニキセラレタル裝束ノ切ナリ、ノコラズ大佛ヘ寄附セラレタリ、獅子吼院ノ御時、人々ニツカハサレテモライタリ、今モ大分アルベシ、朝鮮征代ノトキノ裝束モ寄附セラレタリ、唐冠唐衣裳ニテ、異ナルモノナリト仰ラル、

○二十七通リノ表具圖、內府公ヘ寫サルベキノ由ニテ、御渡ナサル、ノ序ニ拜見ス、(先日モ鳥渡拜見ス、)コレハ六十四卦ノ如ク、變ヲ盡シテコレヨリ外、又スベキヤウナキマデヲ、ツメタルモノナリヤト窺フ、ナルホド左ヤウナリ、コウ〳〵シテモハヤコレヨリ外、スベキヤウナキトツメタルモノナレドモ、妙ナモノニテ又アレバアルモノナリ、公ノ御若年ノトキ、唐筆ノ□□ガ風ノ梅、雪ノ梅、月ノ梅ノ三幅對ヲ御表具ナサル、先ヲビタヾシク大ナルモノナリ、タトヘバ幅ハマナカホド有テ、縱モ長キモノニテ、上下ノツマリタルニ、中コベリマテシテモ、イナモノトヲモイテ、中ナシニ小ベリバカリニシタリ、是コノ二十七通リノ外ナリ、尤ナル仕樣ナリトテ、三菩提院ニモ、此二十七通ノ內ヘ書コマレタリ、ナキト云モノニモ、又アルモノナリト仰ラル、

○四幅對ノ中ハ、カハルコトナシヤト窺フ、サレバトヨ對々ニシテ四ツナラベタレバ、カハルベキ樣ナシ、同シク一樣ニスルコトナリ、昔シ後西院ノ御トキ、四季ノヤナギヲ書サレテ、四幅對ノ表具ニセラレシトキノ圖ヲ、寫シヲキタリト仰ラル、(イカサマニモ)
(四幅對ハ何モ由ナクテハ叶フマジ、大德寺ノ猿鶴龍虎モ是ナリ、)

源順ガ倭名抄ニ、諸獸ハアリテ牛馬ナシ、別ニ船車ノ部ノ次ニ、牛馬ノ部ヲ擧タルハ、何ト致シタルコトニ候ヤ、仰ニ古記大ヤウ如此、車馬トツヾキテ、カザリノ具ニヨセタリトミヘタリ、シカラバ鷹モ左アルベキコトナレドモ、是ハ羽族ノ類ニ入ル者

ニヨリ如此ト仰ラル、又鷹ヲ別ニ出シタル本朝ノ書モ、コレアリト仰ラル、

〇四日、御茶、内府公、拙、淳庵、正午、

御待合、圓座、請次、三ツバカリ、

御掛物、東山義政、御先祖ノ御方へ、參リタル文ナリ、

世上之事萬不及成敗令退屈不被存寄候云々御在判、

一文字紺地金襴、中チランダ、上下蜀江錦、

御棚、紅花緑葉ノ香合、鶴ノ羽箒、

御風爐、丸形、

御灰、山五ツ、前ナデカタ、一方ヨリツケタシ、ツケマハシニシテ、前へ引出シトシテ、

御釜、天猫ノ由、唐金蓋、

御會席、

御汁、仙臺壚鴨、竹ノ子甘皮、防風ノ芽、スマシ、

御香物、瓜、茄子、香物カタワキヘヨセテ、

手付割蓋ノ重ニテ、木ノ目豆腐、シソ一枚、

御皿、サヨリ、鯛、キスゴ、三色ノ醋漬、イツモアナタニテノスヅケハ、コノ方ヨリ生醋ヲ、堺へツカハサレテ、堺ニテ生魚ヲ沖漬ニス、

御吸物、タイラギ、コブノリ、

茱籠、竹ノクミモノ、内黒ヌリ、

火箸、眞鍮ノチヂ、

御菓子、カシワモチ、ムキグリ、

御中立、烟草盆、請次二ツ、

鉦、大一ツ、中一ツ、小二ツ、以上四ツ、

御花、サユリ、ザクロ、

筒、宗和、

御水指、イガ、トモフタ、柄杓カザリ、

御茶入、ニ紅ノ大津袋ニ入、勝手ノ方カザリ付、セトノコブリナル皆口ナリ、胴ニろノ字アリ、仰ニ夕べフトコヽロミノ茶ヲ、宇治ヨリヲコセタルマヽ、フト思召ヨリテソノ茶ヲ出サル新茶ナリ、ソレ故ニコノ茶入ヲ、又思召ヨリテ出サル、コレハハンドウニテモ、ミナクチニテモナキ形ニテ、昔ヨリコレアル小形ノモノナリ、傳ヘテ云ハ、昔シ十種ノコヽロミノ茶ヲ入レテ、いヨリさマデノ器ナリ、ソレ故ニコノ書付アリ、今ノ世ニ、いノ白ナニカトノ書付モ、コレヨリナリトノ仰ナリ、〇茶後ノ御話ニモ、イカニシテモ形モ小シ、コヽロミノ茶入トアレハ、本座ニハイカヾ、袋モイラヌモノト思テ、ニハカニ昨夜コノ袋仰付ラレタリ、尤モ常修院殿ノモノガタリニモ、太平記時代、十種ノコトアリト仰ラル、コノ茶入ノフタ袋モ、常修院殿ノ御物ズキニテアレドモ、袋ヲワザトハズシテ出シタリト仰セラル、

御茶杓、後西院ノ勅作、

御茶碗、朝鮮ノ新渡、

表ノ御床、玉潤ガ霧ノ瀧、前ニ唐金ノ花生、花菖蒲、

生菓子ナド出、薄茶下サレ、淳庵ハ申ノ下刻退出、内府公夜マデ御成、

○大津ブクロト云モノハ、タトヘバフクサノ兩角ヲ折テ、ヌイツケタルモノナリ、アシライハ茶入ノ中ニテ、一ヲリヲリテムスブ、一重ムスビニモ、マムスビニモスル、此フクロ大小アリ、常ノフクサヨリハ少シコブリナリ、大ハ紫、小ハ紅ナリ、アシライハ常ノ茶入ノ如ク、引ヨセテムスビヲトキ、右ノ手ニテ茶入ヲヌキ出シザマニ、左ノ手ニテカタハシヨリタヽミテオク、是アシライナリ、

○上ノ茶入ノ尻ニ、書付ノアルガアルモノナリ、昔シ利休ガ書付ナリトテ、御覽ナサレタルコトアリ、先日有隣軒ニテ出サレタル茶入ノソコニ、宗旦ノ書附アリ、是書付ノ仕ヤウ、カハリタルモノナリ、タトヘバ茶人ノカザリ付ノ景ヲ前ニシテミレバ、書付ハ横ニカイテアリ、利休ガ書付ハイクツモ皆ソレナリト、常修院殿ノ仰ニ、唐物ノカキツケハミナ横ナルモノナリ、利休ガソレヲシリテ仕タルカ、不レ知シテシタルカ、イヅレ尤ナルコトナリ、茶入ノカザリノヤウニシテ、仰ケテ書付ヲ見レバ、横ニカケバ直ニナル、カザリツケノヤウニ書ケバ、仰ケテ手ガヲジレテバ、直ニナラヌナリト仰ラル、龍安寺ノ庭ハ相阿彌カ作ニテ、虎ノコワタシトヤラン名高キナガラ、私ティノ者ノ見テハ、好惡ノ論ハ及ガタシ、一向上ノコトニヤ、又金閣寺ノ九川百海ノ庭ハ、（近本作八海）ソレトハ各別ニテ、巧ヲ盡シタルモノトハ見ヘナガラ、堅キモノナリト申シ上ゲシカバ、御前ニモ兩處トモニ御覽アリ、大德寺中ニモ、相阿彌ガ作ノ庭アリ、今日ヨリ見テハ、合點ノイカヌモノナレドモ、ソレニモイカフ法ノアルコトノ由ナリ、昔シ聖護（近本川埼本、共作照高、）院ノ道晃親王ノ、獅子吼院ヘ御話ニ、淀ノ眞齋ガ作リ庭ハ、世ニモイヤナルモノト存ゼシガ、今度峯入致シテ、始メテ覺悟イタセシコトノ侍リキ、大ティノ奥山ニハナキコトナリ、今一トウ峯ヲ分ケテ、深山ノ深山ヘ入タルトキ、谷ノ樹木ノ體、今ノ手ヲ入テ作リタル、ツクリ樹ト少シモチガハズ、ワザト丸クモ方ニモツクリタルヤウナリ、コレヲ以テ彼ヲミレバ、昔ノ人ノ深山ノ深山ヲ、コヽニ寫スコヽロニテ、致シタルモノニヤト仰ラル、スレバ龍安寺、金閣寺ニモ、左ノコト侍ルニヤト仰ラル、拙畏リテ、サテ〳〵御尤ノ御コトナリ、拙先年阿克君ノ御供ニテ木曾路ヲ經テ、寢覺ノ床ヲ見侍リシ、巖石ノタヽミタル體、全ク石庭ニコトナラズ、スレバ是モ却テ幽谷ノ幽谷ヲ見テ、ツクリタル物ニヤト申シ上ゲシカバ、サレバ〳〵先年泰隨ガ、ヲザメノ床ハ今ノ作リ石庭ノ自然ナルモノナリ、是ニテハシカラレモセズト申タリシガ、ナルホドニモ左ナリト仰ラル、

○十八日、御本殿、若君御方御色直、御料理下サル、薩摩細布拜領、御客滋井殿御夫婦、今大路治部大輔、

内府樣、入江樣御成、拙參候、

○風爐ノ茶湯ニハ、亭主口ノ戸ヲタテヌコトアリ、此コロノ御茶ニモタテラレズ、ヲボヱアリヤ、先一ツ羽ノ箒ヲ出サントシテ、先棚ニ三ツ羽ノ箒ヲカザルトキハ、勝手口ノ戸ハタテヌガヨシ、先出デ、棚ヨリ香合羽箒ヲ下シ、釜風爐ノマハリヲ掃テ、ソノ羽箒ヲ勝手ヘ入レザマニ、灰ノホウロクニ、一ツ羽ヲノセタルト引カヘテ出ス、ソノ爲ニ勝手ヲ開キオクナリ、先ハアツキ時分ニテ、開キヲキテモ好シ、羽箒ノ二ツ、一塲ヘ出ヌヤウニトノコトナリト仰セラル、

○コノ頃三木某ガ茶ハ、左勝手ノ故カ風爐ヲ客付ニ出シタリ、是ハイカヾト申シ上グ、决シテ御流儀ニハナキコトナリ、勝手口ハ何方ニモセヨ、風爐ハ是非トモニ壁付ニ置ナリ、サレバ左勝手、右勝手ノアシライアリ、風爐ヲ、キカヘテハ、左右ノ勝手ニ不レ可レ及ト仰セラル、

○内府公ノ御尋ニ、ナツメニテ茶湯ト云コトハアルコトニヤ、仰ニナキコトナリ、又ナツメノ茶湯ト云コトハアルコト也、コレハ利休マデハナシ、織部カラナリ、（コレハイツゾヤ御話ノ、大ナツメノコトナリ、）大棗ニテ茶湯シタルコトハ、織部ガ初ニテ、ソレカラスルコト故ニ、ナツメノ茶湯ト云コトハ、大棗ニカギリタルコトナリ、他ノ棗ヲツカフコトナシ、イデ棗ニテ茶湯ヲセントテ云ハイカヾナリ、今ノ世ノ、棗ニ古金襴ノフクロヲカケテスルハ何ゴトゾヤ、大棗ニテモ袋ニ入テ茶湯ニハ出サズ、ハダカニテ出スナリ、總ジテ大棗、大海等ヲ出スコトハ、不時ノ茶ノ湯ナリ、カマヘタルコトニハアラズ、コトニ大棗ナドハ、人ノ許ヨリ茶ナドモライタラントキナドハ、一服ギリニ立ルナド面白カルベシ、トテモ大棗ノ茶ハ、ノコラズアケテノコサヌガ法ナリ、サレバカヤウノトキスベキカ、

○茶桶ノ茶湯モ、イデトカマヘタランハイカヾ、仕樣アルベキコトナリ、先日大森某ガ茶桶ノ茶モ、一通リハキコエタルヤウナレドモ、ソレハ（此コト前ニ記セリ、）茶碗カラ茶桶ヲ、物好キタルト云モノナリ、主意タガフベキカ、モト茶二種ヲ二器ニ入ルルコトノ爲ニ、拵ヘタルモノナレバ、茶カラ物ズケバ尤ナリ、茶碗カラ物ズキテハ、本意ナルベカラザルカ、先日内府ヘ茶ヲ進ゼラレシトキナド、茶桶ニテモ苦シカルマジキヤト仰セラル、

○圍居ニ二幅對ノ釘ウツコトヲ、内府公御尋ナサル、サレバトヨ公ノ御圍居ニモ、二幅對ノ釘アリ、是モ寧一山ガ、應無所住ノ二幅對ヲ、カケラル、爲ウタレタルコト、ソレ故其カケモノ、カ、ルヤウニ、掛物ニアハセテ釘ヲウチタレバ、又他ノ二幅對ノ掛物ヲカクルコトハナラヌコトナリ、總ジテ昔ノ人ハ袋カケノ釘サヘ、己レガモチタル名物ノ緒ツカリニ合セテシタル故、

客先コノ釘穴ヲ見テ、コノ御亭主ニハ、名物ヲ幾ツモ、タレタルソウナリト、感ジタル由ナリ、マシテ掛物ノ釘ハ、イヂラサレテハ一幅ナラデハナキコトナリ、總シテ二幅對ノ掛物ニハ、二幅ニセネバナラズ、故ニ二幅ニシタルモノナリ、龍虎ト云ヘドモ、必ズ二幅ニ限ルベカラス、御前ノ一山ナド、一幅ニテハドフモキコヘズ、二幅ナラデハ全備セヌ故ナリ、

○六月六日、參候、(是ヨリ後集第四)

今日御園某ガ茶ニ參リタル話ヲ申上グ、ツルベノ水指ヲ、客付ノ方ノ蓋ヲトルヤウニ、カザリ付ラレタリ、茶ノ後ニ拙ニ薄茶ヲ望マレシ故、ツルベノ置ヤウヲ直シテタテ申候、アノヤウニモ置コトニ候ヤト窺フ、ソレハナキコトナリ、凡テ手ノアルモノヽ手ヲコヘテ、柄杓ヲツカフト云コトハナキコトナリ、茶入ニテモツルツキハ、茶杓ヲコサセヌナリ、手フクベモ、手ヅルヲヘダテヽハ、火バシヲカザラズト仰ラル、

○鳥ノ羽ノカサネヤウニテ、雌ト雄ヲシルコト、諸書ニノセタルコトナリ、左覆レ右者雄也、右覆レ左者雌也ト云ヘリ、コレガ必シモ、アフコトニヤ、タメシ見ルベシト仰セラル、サシアタリテ雁ノ類モ、羽ニ替リナクレバ見知ルベキヤウナシ、鷄雉ノ類ハ、皆々雌雄ワヅカニテモ羽重リナシ、スレバ右ノ羽ノ重ニテ知ルモ、タメスベキヤウナシ、イヅレモ心ガケテシルベシ、衣裳ノヌイメノヌイヤウニ、メドリハ右ニヌフ、ヲドリハ左ニヌフト云コト記録ニアリ、若シ違ナキコトナレバ面白キコトナリ、忽チ左ノ右ヲ、フテヌフト、右ノ左ヲフテヌフトノ差別ナリト仰ラル、

○今ノ世ノ人、ツルベト云ヘバ、夏ノミ出スヤウニスル、左ニハアラズ、常修院殿モ毎度左仰ラレキ、スヾシキ爲ト云コトニアラズ、茶モ春ニナリテ、同客數會ノ跡ニテ、コトニ世間モホツトアタヽカニナリタル時節ナド肝要ノトキナリ、先風爐ニハ大ヤウトリアハスモノナリ、向フヅキニ四角ノ板アリテ、又四角ナル小疊ニ、四角ナル水指ヲ入タルモ、アマリニダメナルモノナリ(一本作カザリニアクドキモノナリ)ト仰セラル、

○十三日、淮后樣、内府公ヘ御成、拙、朝五ツ時、

御掛物、後小松院宸翰、(タトヘバ、紙ノ縱二寸横三寸バカリニ、一方ニ双六盤ヲ黑ニテアソバシ、一方ニ御歌ヲ四クダリニ細字ニアソバス、又紙ノ縱横二寸バカリナルニ、下ニ柴垣ニ上ニ細字ノ歌ヲアソバス、題(川本作紙)表具ナリ、(近本作表名))

御風爐、奈良、　御釜、アラレ、

御香合、クリ、

御會席、

御汁、靑瓜ノ皮目ヲシラガニシテ、ツケシメジ二ツ、スマシ、

御平、イリコ、ミソカケ、

御皿、鯉ノサシミ、

御吸物、淺味噌、(近本作薄ミソ)海老、柚、

御菓子、水ドリノモチ、シキザトウ、ムキグリ、

御中立、小椽、御烟草盆、圓座上下二ッ、

御花生、樂壺、長ノウス板、

御花、木香花七リン、葉二枚、

御水指、朝鮮丸形、ヌリブタ、

御茶入、セト、イモノ子、

袋、モウル、

御茶杓、遠州、

御茶碗、萩、

書院御掛物、永眞瀧ノ畫、二幅對、

違棚、御手鑑、押唐金ノ麒麟、長州細工彫物ノ硯箱並ニ文箱、

四ッ時還御、

○廿五日、　參候、

銀ノ生ニテ、精粹ナルモノヲ南鐐ト云、近クハ東鑑ニモ南鐐南鋌トモ出タリ、モソット舊キ記錄ニモ記セリ、和ノ文字ニヤ、何トヤラン漢字ノヤウニモ見ユ、覺ヘズヤト仰ラル、此ハ此前ニモ、入用ノコトアリテ、考ヘタルコトノ侍リシガ、タシカナル出所アリヤイナヤ覺ヘ申サズ、先下學集ニ南鐐ト出シテ、鐐ノ字バカリノ註ヲノセタリ、訓蒙圖彙ニハ、和俗ニ南鐐ト云ト、シカト和字トセリ、順ノ和名ニハ、南鐐ノ文字ハナシ、本綱等ニモミエズ、貝原ガ和爾雅ニ、南鐐南鋌一作鋌、ノ字ヲ出シテ出處ハナシ、出處ナケレバ漢字ト見ヘタリ、近代名物六帖ニハ、鐐ノ一字ニナンレウト和訓セリ、何レニモ漢ノ出處アルベキコトナリト、堀禎介ガ方ニモ尋ニツカハセシガ、ナルホド此方ノ文字ニテハナシ、出處シカト覺エズ、文獻通考ナドニアリシニヤト申シ上グ、南金ト云文字モコレアル由、其ノチアレコレ御尋アリケレドモ、未ダシカト知レス、

○又記錄ノ中ニ、箕居弓居ノ文字アリ、覺エズヤト仰ナリ、若シ按摩ノ書ナトニハナキヤ尋ヌベシト、北村利近本作租旦ヘ問ニツカハセシガ、覺ヘズト申ス、禎介ヘモ問ニツカハセシガ、弓臥トハ出タリ、弓居ノ字ハ覺エズ、弓居トハ申スマジキ由ヲ申シ上グ、

○七夕、　參候、百拙、拙、

百拙ノ話ニ、此コロ南都ニテ茶湯ニ參リタリ、古風ノ山ニテ、色々カハリタルコトノ侍リケル中ニ、一軸ハ松花堂ノ布袋ノ畫ニ、遠州ノ讃ノアルニテ候ガ、畫モ讃モ菱形ニテ、表具モヒシニ致シタル、尤モ遠州ノ好ナル由ナリ、メズラシキコトニ覺エタリ、タトヘバ、

如レ此ニテ、一文字モ中モナシ、マハシニヒシナリニシテ、上下ヲキリコシタルモノナリ、畫モヒシナリヲロクニタテ、書タレバ、讃モヒシナリニカヽレタリ、風帶ハヒトツフウタイナリト申シ上ゲラル、メヅラシキコトニ思召タリ、サスガニ遠州ノ物ズキナリ、總ヲテ一ツ風帶ニスルコト、當世ニ柱カクシナドノ細キモノヲ、一ツ風帶ニスルコトハ其由ナキコトナリ、御前ニモ獅子吼院ノ畫ヲ、常修院殿ニ表具ヲ御タノミアリシニモ、風帶ハ二ツ也、此度ノ百拙ガ話タリシ一角ノアルモノハ、二ツ(一カ)風帶ゾノ由アリ、カヤウノ表具ハ、一風帶ニテナクテカナハヌコトナリ、面白キコトナリ、四角ノ角ヲ立ルカ、キボウシナリノモノナドハ、カヤウナクテカナハヌコトナルベシト仰ラル、

○柱カクシノ掛物ヲ、カリニモ床ニカクルコトハ其由ナキコトナリ、柱カクシト云モノハ、書院カザリノトキノ眞ノ道具ナリ、書院カザリニ、床柱ニヲリクギヲ二ツウチテ、一ツハ環鐘釘ト云、一ツヲ訶黎勒(カリロク)釘ト云、東山ノ書院ノ法如レ此、書院ノ床ニ環鐘ヲツリテ、其撞木ヲカクル、又訶黎勒ヲカクル、(客ニ毒物アルトキハ、訶黎即チワルルト云、)若シ撞木モ、訶黎勒モカザラヌトキハ、柱カクシノ掛物ヲカクル此定法ナリ、

○汝ガ此コロ見セシ茶湯ノ書ニ、風爐トクドトハ差別アルコトヲ云ヘリ、面白キコトナリ、奈良風爐ノ外ハ、クドヽ云フベキモノナリ、コレニハ灰ヲ用ヒズ、小砂ヲ入ルヽト云ヘリ、尤ナルコトナリ、

○御前ニモ琉球ノ風爐ヲモタセラレシガ、口ノ前ニサシ出タルモノナレバ、灰ヲ入テ前ヘ出シテモ詮ナシ、灰ヲ入レヌモ又詮ナシ、何トゾ仕ヤウアルベシト思召ケルガ、マコトニ左アルベキナリト仰セラル、

○二幅對ノ掛物ハ、表具ノ仕ヤウアリテ、一幅ハカケラレヌヤウニシタルモノナリト、兼テ仰ナリ、是ハ何方ニテ見申タリトモ、見チガヘゾモナキモノナリ、三幅對ノ中ヲハヅシテ、二幅カケ

タルハ、二幅對ノ法ニアラザレバ、是モ見ヲホスベシ、三幅對ノ兩脇ヲ、一幅ハヅシテ掛タランニハ、一幅物ト異ナルコトナカルベシ、イカヾト窺フ、仰ニナルホド異ナルコトナシ、然レドモ二幅對ノ畫ハ、一幅ハカケラレヌモノ故ニ、二幅對ニシ、三幅對ノ畫ハ、一幅ハカケラレヌモノ故ニ、自然ト三幅對ノ一幅ナルコト、イチジルシト仰ラル、

○十六日、關白樣、入江樣、鷹司樣、法輪院樣、御成、意齋、拙、

○十八日、御本殿ヘ御成、意齋、拙、

御床ノ掛物、明惠ノ文、雪舟ノ御屏風、一双ハスヽキニアサガホ、一双ハキヽヤウ、ヲミナメシニ芭蕉、是コソ又ルイナキ、雪舟ノ墨畫ニテアレ、拜見スベキノ由仰ナリ、

○廿二日、參候、夕方ヨリ夜マデ、玉ノ井、御肴獻上、

此日猪熊攝政ノ辭表ヲ、御本殿ヨリ來ルヲ、折節御前ニテ拜見ス、此ニ付テ大密々ノコトアリ、此ニ記スコトアタハズ、コレコソ猪熊殿ノトキノマヽニテ今ニ存ス、恐ラク他ニハアルマジキ物ナリトテ、御自負ナサル、此ニ付テ辭表ハ多ク謝表ハ少シ、文苑英華等ニノセタル文モ少シ、コトニ今ノ入道ノ表文ハナキ筈ナリ、已ニ事ヲ謝シテ後捧クベキ表ハ、ナキ筈ナリ、准后ノアソバスハ既ニ御落飾ノ上ハ謙言、臣僧眞覺、誠惶誠恐ト、アソバスコトナレバ、全キ當職ノ人ノ辭表トモ事カハルベシ、又僧ノ表文ハ却テ多クアレドモ、准后ノ御身ニテ、性靈集ナドニノリタル弘法ノ文ヤ、ソノ外ニテモ、平人ノ僧徒ノヤウニモアルマジキコトナリ、平ノ公家衆ノ入道セラレヌルモ、違フベシ、今ニテハ、二條殿カ后ナリト仰ラル、且文章モ一向ニ、初ヨリ一文章ト立ツカ、詩ノ序ナドナラバ、全キ漢文ニテモアルベシ、表文トアレバ、自ラ日本一體、古來ノ辭表謝表ノ趣ニアラザレバ嬉シカラズ、此間ガムヅカシキコトナリ、イツモ仰セラルヽヤウニ、昔ノ人ハ自ラ文章ガ我物ニナリテ、文字ハ漢字ヲ用テ、云タキコトハ日本ノ人ノ云タイヤウニ云タルガ、今ノコリタル辭表ノ文ナリ、今ノ文ハ、全ク漢文ニナライタルバカリニテ、日本ノ風體ハナシ、サレバ全キ唐人ニテモナシ、唐人相撲ノ狂言ヲ見ルヤウニ、見タ處ハ全ク唐人ナレドモ、人ハ日本人ナリ、日本ノコトヲ漢字ニテ、カキタイヤウニカクニテアラサレバ、本ノコトニアラズトイヘバトテ、奉レ存候ニテモアルマジ、此間ヲ書コトガムヅカシ、古ノ人ハ自ラ和漢通用シテ俗文雅文ノ差別ナキ故ニ、格別ナルモノナリ、此猪熊殿ノ辭表ナドヲ見ヨ、格別ナルモノナリ、尤猪熊殿ノ作文ト云ニハアラズ、大臣ノ表文ハ儒家ノ人ニ仰テ、文章ヲ綴ラセテ下書ヲ台覽ニ備ヘ、コレハ公ノ主意ニ違フ、コヽハカヤウニト好マレテ、サテ能書ノ人ニ清書サスルコトナリ、直ニ大臣ノ人ノ書クト云コトハナキコトナリ、此猪熊殿ノ文モ、儒家ハ唐橋ノ常行ガ文章ニテ、書ハ行能行成ノ孫ナリニカヽサレシト

ゾ、一封ハ常行ガ筆ニテ下書ノ體ナリ、謹言トバカリアリテ官位職領モナシ、闕字（近本闕字ノ二字ナシ、）奥ニモソノ通リナリ、清書ノ方ニハコト〳〵クアリ、紙ハ檀紙ニテ、文字ノ大サ七分バカリモアルベキナリ、紙ノタヾレ、虫クイタルアリサマ殊勝サ、全キ古物ヲ今ミルコトノ不思議ニ侍ル、勿體ナキバカリナリ、終ニ表具ヲモツケラレズ、古ヨリ如レ斯ニシテ、箱ニヲサメヲカルトナリ、サテ文中頓首誠惶ノ文、初メト中段ト終ト三處ニアリ、三處ナガラ死罪死罪ノ字ヲ用ラル、此度后ノ謝表ニハ此文字ヲ除カル、辭表ハ此迄ノ官職ノ、其人ニ當ラザルノ罪ヲ謝シテ、辭セラル、文ナレバ尤ナリ、唯謝文ニ死罪ノ字ハ、アタルベカラズト思テ除キタリト仰ラル、申モヲロカナルコトナガラ、何ゴトモ御表文ノコト、人ノイザシラヌコトナレバ、是非ヲ論ズルコトモ辨ヘズ、當世ノ人ノ表文ヲカクホドノ器ヲミズ、タトヘカ、レタリトモ是迄ノ御心付アルベカラス、アリガタキ御志ヲ恐感シ奉ル、

○八月廿四日、入江樣、內府樣御成、（今日ハ上ノ御殿ヨリ、神事ノ御膳ヲ進ゼラル、例年十八日タリトイヘドモ、後水尾院御遠忌ニ付テ御精進ナル故ニ、今日マテ御延引ト云々、）內府公ノ御尋ニ、硯屛ノコトヲ先日仰ニ任セ何某ニ申セシガ、何ゾ古キ詩文等モコレアルコトニヤト申シキ、仰ニ硯屛ハ東坡ヨリ、何誰ニヤラン贈タルガ初ナリト、覺エタリトテ御考ナサル、洞天聖錄ニ、硯屛ノ始リシコトヲ記シタリ、是ノミナラズ東坡ヨリ山谷ニ贈タリトヤラン、山谷ヨリ東坡ヘ贈リタルヤランノ詩アリト覺タリ、考ヨト仰ニテ、內府公ニモ、拙モトモニ彼是ト考ル中ニ、圓機活法ノ硯ノ次ニ硯屛ヲ出シテ、東坡ノ五言絕句ヲ載セタリ、サラバトテ、蘇文忠公全集ヲ考合サセラル、ニ、アリ〳〵ト東坡ヨリ范純父ヘ、硯屛ヲ贈リシ詩ヲ載テ、活法ノ詩ト同ジ、併シカレハ古風ノ長篇タリ、活法ニハソノ中四句ノミヲ切テノセタリ、是ニテ活法ナド、凡テ雜書ノ賴ミニナラヌコトヲ可レ知、他書ヲ此書ニ用タルコトヲ、本文ナシニ引キ用ルハアブナキコトナリト仰ラル、

○內府公ノ仰ニ、今度有卦ノ御祝儀方々ヨリ、何角ノ獻上ノウチニ、竹硯ト箱ニ書付アルモノアリ、蓋ヲ披テ御覽アレバ、正シク竹ノ表ニ海ヲホリテ、二ツワリニシテ、ウラ並ニ木口ハ、漆ニテ塗タリト仰ラル、仰ニソレハ面白キコトナリ、終ニ御覽アリタルコトハナシ、木硯、竹硯、トモニ唐ニハアルコトナリ、竹硯ノコト說郛ノ硯譜等ニアルベシ、內府公淵鑑類函ヲ考ヘナサル、廣南ニハ竹多ク、彫テ硯トスルコトヲノセタリ、ヨクモ御暗誦アリタリト奉二恐感一、

○三夕トテ、今世間ニモテハヤスハ、後陽成院ノ御時ヨリ始レリ、アレハ、何レヲ中、何レヲ左右トシテ、掛物ナドニハ致スコトニヤト仰ラル、仰ニアレハ浦ノ苫屋ヲ中ニ、左ヲ槇立山、右ヲ

鴫立澤トスル、左右ヲ僧ニシテ、中ヲ公家ニシタルモノナリ、
强テソノ説ナシト仰セラル、

○廿七日、　入江様、内府様御成、（常陸局、今日有卦ノ祝儀ニ御膳ヲ上ラル、）
今日ハ茶具圖繪ヲ以テ、御道具ト寸法ヲ合セ、御覽可レ有ノ由ニテ一々引合サル、少ヅヽノ違ノアリ、清書シテ差上ベキノ由ニテアヅカリ歸ル、清書ノ寫シハ末ニ擧グベシ、

○御花生ノ切形ノコトヲ御尋アソバス、仰ニ花生ハ先ヅ竹ヲ見立テ、是コソ前ニナルベキ勢ナリト思フ方、トクトキハメテ、上ヨリ下ヘ墨ウチヲシテ、長短ハ心次第ニキハメテ、正直ニ縄墨ヲヒク、ソノ上下ヲ正直ニ切ル、（切レ口ハユガミテモ無レ害、）而シテ輪ノ長サハ一寸七分、一寸八分、コレ先大テイナリ、ソノ上ノアマリノ竹ノ長サ、節アレバ八分、節ナケレバ七分半ナリ、竹ノウラモ壁付ヲキハメテ、上ト下トニテ壁ヘツキテロクヲ立ル、若シ中段ノ節が、節ナクテモ張出タルトコロハ、削リトルコトモアリ、上下ハ少シニテモケヅルコトハナキコトナリ、ソノ爲ニ初メニロクヲキハムルナリ、釘穴ノ彫リヤウハ、四角ナヤウニシテ角ヲトル、

寸法ハ長ミ六分横四分ニ弱、竹ノ上バヨリ釘穴マデ長サ九分、向フノ行當リノ竹ノ幅ハ、丸竹ヲ四ニ分ツテ、一ツ分ヲ行當リノ幅トス、メンノトリヤウハ世間ノ流ハヒヅメテトル、（私ニ云世間ノ形ハ、三角ニシテ一ツ分殘ス、）御流儀ノメンハ、正直ニカクメンヲトリテ、ロクハ竹ノ筋目ニシタガフ、竹ノ目ニユガミアレバ、ソノユガミノヤウニ切ル、先大テイハ此ノゴトクナリ、ソノ上ハ竹ノ形ト摸ヤウトノ見聞ニ從テ、少ヅヽノチガイアルト知ベシ、窓ナシ一重二重ミナ如レ此、鶴頭（近本作首）ト云モノ、ガツハリト云物アリ、コノキリカタハ又格別ナリ、

○時分カラ雁來紅ノ最中ナリ、コレラモ花ニシテ生ベシヤト御尋ナサル、仰ニ昔シ常修院殿初メテアソバシタリ、ソレマデハナカリシコトナリ、葉ケイトウヲ根ジメニシテ萩ヲ生ラレタリ、ハケイトウモ本ノ花ニアラザレハ、正花ヲ生ルモイカヾナリ、尾花ノ類當然タルベシト仰ラレタリト、サラバイカヤウノ姿ヤラン、アソバシテ御ミセアルベシト、サレバトテ藤組ノ花生ニ、萩ト葉雞頭ヲ遊バス、言語ノ不レ可レ及處ナリト、内府公御感ナサル、御床ノ角柱ニ掛ラル、

○薄板ノ内ニ、ソロリ板トテ、宗和流ニカギリテアルモノナリ、他ニハ決シテナシ、人ニ對シテハ丸ノ小薄板ト謂ベシ、寸法別ニ記レ之、コレハソロリノ花生ニカギリテ截スル板ナリ、シカレドモ御前ニモ終ニ出サレズ、ソロリノ時近本作寸法ハ盆ヲ用ラルヽナリ、世上ニテ左ニ云ガユヘナリ、盆ニノセズニ是ヲ出セバ、此分ケヲ人ニ知ラルヽモイヤナリ、且盆ニノスルコトヲ不レ知トテ笑フ、覺ヘテ居テ出スマジキモノナリ、

○晦日、　參候、

此ホド香屏風ト云フモノヲ求得タリ、蒔畫ノ體何トナク大閤、信長ナドヨリモ古クミユルナリ、左ニテ候ヤト窺フ、仰ニイカニモ信長ヨリモ古シ、東山ナドヨリハ後ノモノナリ、コレラノ類、カヾミノ巣ナドニ多キモノナリ、時代ノミ古クテソノ頃ノ麁相モノナリ、結句コレヨリワカクテモ、結構ニ仕タテタルモノ、時代ハ若クテモ好。コノ古ビニテケツコウナラバ、何カアラント、ソレヨリツラ〱ミレバ、地アイ繪ノテイタラクソヽウノモノナリ、古ノヨメ入道具ナリト仰ラル、

○六經圖ト云モノハ、類書ノ中ニモアリ、又大ニ本ノハナレモノニモアリ、世上ニカクレナキモノナリ、七經圖ト云モノヲ存ゼシヤト仰ラル、何トシテ存ズヘキヤ、六經トコソ申スベケレ、七經トハメヅラシキ稱號ナリト申シ上グ、此書ハ御所ノ御文庫ノモノニテ、近代ニ儀禮圖ノ一冊ヲ添タルモノナリ、ミナ類聚シテ便約ナルモノナリ、晝夜コレヲ御自筆ニテ寫サル、御所ノ御物故ニ、人手ニ掛ラレズ、晝ハ御暇ナシ、晩方參ルベキノ由仰ナリ、

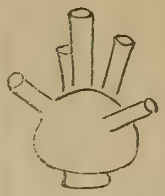
○九月四日、　晩ヨリ參候、夜半マテ、

東宮立坊ノ節滋野井ヨリ、房官ノ者ノ表文等ニハ、臣ト稱シテ苦シカラヌコトニヤ、但臣トハ稱スマジキコトニヤト問ハル、令ノ集解ニ、東宮房官ノ人、臣ト稱スベキコト、唐朝ノ禮ナル由ヲ記セリ、唐朝ノモノニモ畧出タリ、宋朝以後ノ書ニハ見當ラネドモ、日本ノ禮ハ、唐禮ヲ專トスルコトナレバ、臣ト稱シテ全クアヤマリナラズト仰遣サレシか、物ハ何ニテモ廣ク見ベキコトナリ、此コロ賓退錄ノ中ニ、宋朝ニ太子ノ臣ト稱スルコトヲ許サレズ、ソレヨリシテ春宮ノ房官ノ、臣ト稱スルコトヲ廢セラレタリト記セリ、コレニテ唐朝ニ用タルコトイヨ〱慥ナリ、カヤウノコトホド面白キコトハナシ、コチラカラ合セズニ、アチラカラ合フコトニアラザレハ、本ノコトニアラズ、宋朝ニ廢セラレタルニテ、唐禮ノタシカナルヲ日本ニハ用ユ、集解ニモソレヲ載セラレタリ、是等ノコトドモ、近キ書ナレバ御覽アルベクレドモ、此不審ナキトキハ徒ラニ看過ナサルベキコトナリ、下地ニ此コトノアリタル故ニ、ヒトシホニ思召シテ、滋野井ヱ仰遣ハサレタラバ、何ホドカ嬉シガラルベシ、未ダ仰ツ

カハサレズト仰ラル、

○九日夜、　參候、

先日深諦院ヨリ贈ラレシ、南京赤繪ノ一物、何トモ名付ベキヤウナキ物ナリシガ、タトヘバ、丸ミ一(近本作三)尺二三寸モアルベシ、德利ノヤウニシテ口長ク細ク、又六方ニ同シク口長キモノアリ、カタハコノコロ知レタリ如此、楷建ト云モノナリ、アノ方ニテ、唐人饗應ニ何レモ團圝(クルマザ)ニ居テ、眞中ニ此器ヲ置テ、箸ヤ匙ヤナニヤヲ、立テヽヲクモノナリ、ソレ故ニ四方ノ口ハ、斜ニツキタルガ尤ナリ、唐人グチニテハ、シツホコト云トナリ、



○先日廣瀨某ガ話ニ、江府ノ荻生ヨリ、廣瀨ニ贈リシ書簡アリ、廣瀨ガ姓ハ源氏ナリ、荻生ヨリ原氏ト書タリ、其意漢ニハ源ヲ姓氏ニ用タルコトナシ、故ニ原ト書タリト、仰ニコノコトイカヾ、アノ方ニモ源ヲ姓ニシタル人アリ、□□□ニ見ヘタリ、然レドモタトヘアノ方ニ源ノ姓ガナクトモ、日本ニ四姓ト立テ、アルカラハ、日本ノ人ニヲクル書簡ニ、書マジキヤウナシ、荻生ホドノ者ノ左アルベキヤウナシ、サレドモアマリニ漢文ニノミ心ヲ入テ、和ト通用ノ意ナキモノハ、カヤウノ理屈ヲ知ラヌコトアルベシ、和ノミニテ漢ヲ知ラザルモ、倘以テ文盲ノコト多キハ勿論ナレドモ、和ヲシラザル漢學ニ僻ナルモ、カヤウノコトアルベシ、

○アノ方ニテ厠ニ行コトヲ上厠ト記ス、アノ方ハシキカハラニテ、常ニ席ヲ設ケテ座ス、故ニ常座平地ナルガ故上ルト書ナリ、日本ニテハ上ラヌホドニトテ、上厠トハカヽズトハ云ハレマジ、右ノ趣ナリト仰ラル、

○十二日、　內府樣御成、江戸ヨリ初鮭進ゼラル、御夜食御相伴ニ參ルベキノ由ニテ參候、

今日壺ノカザリヲ御傳授ナサル、側ヨリ是ヲ拜見ス、壺ニ乳縄ニテカザルト、網ニテカザルト二通リアリ、乳縄ハ眞ナリ、アミハ草ナリ、乳縄ト云ハ、紫ノ組糸ノフトサ、渡リ三分バカリナルモノナリ、アミハ二筋ノクミアミナリ、乳縄ト云ハ四ツノ乳ニ、二筋ノ縄ヲ二ツニ通シテ、マムスビニ結ブ、兩方ニテ二筋ノ縄ノ先、ワナニナリテ四筋トナル、圖ノ如シ、乳ニ縄ヲツクルハ、ソレヲ提テ持アリク爲ナリ、シカレドモ大事ノ壺ヲ提テ若シ乳ノヲツルヲ憚テ、網ニスル、ソレ故ニ、乳縄ヲ眞ニ、網ヲ草トスルコトナリ、

ソノワナノ四筋二筋ノ縄ヲ、蓋ノ上ニテマムスビニスルナリ、左ノ圖ノ如シ、

壺ノ前後ハ景次第ナリ、口覆ハ蜀江ノ錦也、トカク錦ヲ用ルナリ、若紋ノアル錦ハ仕樣アルモノナリ、御前ノ蓋ハ常修院樣ノ御好ナリ、壽ノ字ノ紋ヲ、甲ノ眞中ニナルヤウニトリテ、四ツノ端ニ同ジヤウニ、紋ノスワルヤウニ切ヌキタルモノナリ、コレヲ見テキレヲ褒メ、切ヤウヲホムルコトナリ、口覆ノ結ビノ緒モ、前ノ方ニテマムスビニスルコトナリ、今時ノ人ハ、口蓋ヲトキテ御見セ候ヘト、所望スルコトハナキコトナリ、アミノヲナヲトキテ、御見セ候ヘト所望スルコトハアリ、ソレモ時ニヨルベシ、サテツボカザリト云コトハ、昔ハアリタルコト、近代ハメツラシキコトナリ、闕ノ戸カザリト云コトアル由世上ニテ闕モリト云、ナレドモ、ツイニ御前ニモソノ茶ニハ、御アヒナサレズトナリ、ツボカザリノ茶ニハ、御アヒナサレシ由ナリ、常門ノ仰ニ、上ツカタナド御自身ニ、壺モテアツカイ入ラヌコトナリ、相伴ノ人ノ功者ニサスベシトナリ、地下ノモノハ正客自ラスベキコト、勿論ナリ、常門ノ仰ニモ、闕ノ戸カザリナドハ、セヌガヨキナリト仰ラレシトナリ、昔ハコトノ外ニ、壺ガ大キニアリタル由ナリ、今時ノ眞壺ノ一斤ヤ二斤ナド入ハナキナリ、夥シク大ナル壺ナドハ、小床ニモカザラレマジ、闕ノ戸ニカザルモ面白カルベシ、小キ壺ヲ闕ノ戸ニカザルハ、何ノ益ナキコトナリ、サテ若シ闕ノ戸カザリノトキハ、ニヲリ上リヲ開テ、中ニ壺ヲ横ニシテカザルコトナリ、眞ロクニシテハカザラヌナリ、コレモ尤ナルコトナリ、大ナル壺ヲヨシ〱トカザルモ異ナモノナリ、由モナキ壺カザリアルベカラス、コトサラ茶立口、勝手口、一所ニ用ル處ナドニテ、壺カザリ尙以テ無用ノコトナリ、コノトキハ客ノ分ハ、戸ヲ開キテ是ヲ見物シ、一人〱カハル〱ホメテ、客ノ中ニ宗匠アラハ、正客ノ人ヨリ挨拶シテ、壺ヲ正スベキ由ヲ云、ソノ人中客ナリトモ下客ナリトモ、罷出デ、壺ヲ床ヘ直ス、壺ヲ直スハ、床ヘナヲスコトモアリ、疊ノマンナカヘ直スコトモアリ、而シテ客ミナ入テ、亭主ヘ壺ヲヲロサレ候ヘ、トクト拜見イタシタキ由ヲ申ス、亭主コノトキサアラバ御目ニカクベシトテ、亭主口ヲタテ、內ヘ入テ勝手口ヨリ出デ、壺ヲ床ヨリヲロシ、タヽミノマン中ニヲケバ、ソノマヽ、乳ナリニテモ網ニテモハヅシテ、ソレヲ勝手ノ方ヘカリニヲキ、壺ヲモトヘ直シ、サアラバ御覽候ヘトテ勝手口ヘ引退ク、皆々ウチヨリテコレヲ見ル、廻スコトハナシ、ウチヨリテ見ル、口覆カラ壺ノ景、サテハ乳ノ付ケ樣マデハ、蓋ヲアケテ見物ス、名物ノ書付カ判カアリヤト問テ、アリト云ヘバ壺ヲ横ニ抱ヘテ、壺ノウラヲミル、サモナケレバウラヲミズ、何レモ拜見シヲハリテ、見ゴトノ由云テ一禮ス、コノトキ亭主アミヲ肩ニカケテ、左勝手ナレバ左ノ肩、右勝手ナレバ右ノ肩、ツボヲ抱キテ入ル、壺ヲ兩ノ手ニテ持コトハセヌ

コトナリ、壺ハゼヒトモ一方ノ手ニテ抱キ、一方ノ手ヲソヘテ持モノナリ、右勝手左勝手、上ト同前ナリ、コレモ勝手口ヱ入ル、今ノ人勝手口ニテ、壺ノ口ヲキル由ナリ、コレモ入ラスコトナリ、持テ入ベシト常門ノ仰ラレシ由ナリ、

○フクベカザリト云コト、棚ニフクベヲカザルナリ、通例ニハセスコトナレドモ、夜會ナドニ茶後ニモユルリト話サレヨト云心ニテ立居セズ、スグニ炭ヲモ次グタメニカザルコトナリ、コノフクベヲトルトキニカギリテ、膝ヲ立テテハ取ラズ、通例ミナ棚ノ物ハ膝ヲ立テ、コレヲ取ル、瓢ニカギリテハ立テトル、此一ツノ作法ナリト仰セラル、

○向ダテノ一式御傳授、

瓢ヲ持テ出ル、フクベノカザリニ、今時ノヤウニ香合ヲ入ル、コトハ、決シテセヌコトナリ、フクベカザリノトキバカリナリ、ソノトキハ燒物ノ香合ヨシトナリ、○火バシハ、中分ヨリハ五分バカリ、先ヘ出シテカザル、○環ハ、火バシヘハマタ平ニカザル、○羽箒ハ、フクベニカザラヌトキハ、フクベニ持添テ出ル、持添ルニハイツニテモ勝手ノ方ヘ、モチソユルナリ、(火箸、環ヲ、フクベニカザルハ、何時モ余カ右ノ手ノ方ニナヲス、コレハ向キリニテモ、大目キリニテモ、同シコトナリ)、切疊ノ正中ニ置ク圖ノ如シ、○次ニホウロクヲ持テ出ル、ホウロクノ中ニ、匙ヲ入ル、ニハ、アナノケテ出ル、ハイリサマハ伏、ホウロクハ、我身ヨリ勝手ノ方ヘ寄テ置ク、圖ノ如シ、○茶建口ノ障子ヲ閉ヅ、○我身ヲ爐ノ方ヘニジリヨリテ、釜敷ヲ置キ釜ヲアグル、釜ハフクベノ次ニ、壁ツキヘヨセテチク、釜ヲ置ハ、イツニテモ少シヒヅメテチクナリ、

○サテ瓢ヲ爐フチノ際ヘヨスル、○ホウロクヲ、爐ブチノスミニカケテ置、○火箸ヲ落シ炭ヲ直シ、灰ヲマキ炭ヲスル、炭スミテホウロクヲ本ノ座ニ置キ、羽箒ニテ爐フチヲハキ、ソノ羽箒ヲ右近本作左ノ方ニ假ニ置、(今ノ世ニ火箸ニテ灰ヲ直セシ跡ニ羽箒ニテ火箸ヲ掃フコトハナキコトナリ五德ノ爪ニテタ、クコトハアリ)羽箒ハ、右ノ方ニチクト雖、ホウロクヲ持テ入トキハ、必ズ左ノ方ノフクベノ前ニナヲシテチクナリ、コレヲ忘ルヽモノナリ、忘レヌヤウニスベシ、サテ羽箒ハ、カザリノ外ノモノナレバ、イツニテモ正ロクニハチカヌモノナリ、ヒヅメテチク、

○湯ヲ持出デヽ湯杓ニテ水ヲ次ギ、釜ヲカケテ環ヲヌキ、フクベノ上ノ火箸ニカケテ持入ル、羽箒ヲ殘シ、又出テ羽箒ニテハキテ入テ、又出テフクザニテ、釜ノ蓋ヲアケカケテ退キ、挨拶シテ茶ヲスベキヤ否ヲ問テ入ル、

半田ヲ出ストキハ、ハンダハフチ一パイニ、ソコトリ火バシヲカケテ出ル、○ソコトリハイツニテモ、右ノ手ニモチソヘテ出ル、○長火箸ニテ炭ヲアケテ、ソコトリニテソコヲトリ、ソコトリニテ、ハンダヘアケザマニ、ハンダノ灰ノ中ヘツキコミテ、少シ先ヘツクヤウニシテ、前ヘ引サマニ、ハンダノ灰ヲ、右ノ火ノ上ヘ引カケテ、ソコトリノ先ヲ、ハンダノフチヘモタセカケテ、柄ヲ前ノ方ヘチトシテチク、炭多クテ、ソコトリ火バシノカケニクキトキハ、ハンダニモチソヘテ入ルベシ、

○凡ソ二重棚ハ、何ニテモ下ノ棚ニカザル、上ノ棚ハ、フクベカザリ、柄杓カザリバカリナリ、柄杓ハ、ユガメテカザル、直ニカザルコトハナシ、棚ニヨリテ先ニ穴ヲアケテアリ、ソレハ柄杓ヲロクニカザル、ソノ外ハ必ユガメテカザルナリ、ユガメヤウハ合ヲカベツキノ方ニ、ツリタケノ處ニ柄ヲ置クナリ、ソレ故棚ノ長ミハ、柄杓ノ長ミニスルナリ、柄杓ノ合ノムケヤウ、初ハ伏シ、中ハ横ニ、後ハ仰ニスルナリ、

○路次ノ柄杓ハ、茶湯ノ柄杓ニ同シ、正客手水鉢ニムカイテ、亭主ノナヲシヤウヲヨク〳〵見置テ、手水ヲツカイテ後、柄杓ノ合ヲ横ニシテ、次客段々先々ノヤウニシテ、末客又初メノ亭主

ノ、ナヲシヲキタルヤウニスルコトナリ、

○茶入ノ一ツカザリハ、水指ノ正前ニ直スナリ、凡ソ物ノ前ニカザルハ、イクツニテモ一處カザリニナルナリ、茶入バカリハ一所ニハナラズ、一ツカザリニナルナリ、コレハイカヾワケアルベシ、ワキヨリミルニヘニ、水サシト一ツカザリニハナラズ、

○大水指ナドニハ、茶入ヲ前ヘカザルコトハナルマジキカ、細キモノハ前ヘ飾コトアルベシ、凡テカヤウノ尺寸ハナキモノナリ、大カタサヘヨク合點スレバ、カザリハイカヤウニナリトモ、ソノ準則ヲ合點スレバ能ナリ、

○風爐先ノマドノシキイハ、柄杓ノ合ノロクヲカヽユニス、高下トモニ合ヲロクニス、

○手ノアル水指ハ、手ノハリハカマハズニ、水指ノ胴ヲ切タヽミノ正中ニ、ナカズミニスルナリ、手ト口トニハカマウベカラズ、

○茶碗カザリハ、一カド茶碗自慢ニテスルコトナリ、必茶入ノ座ニカザル、茶入ヲ合セテカザラズ、引切ナド然ルベキカ、茶入トモ棗ナド入テ、茶巾茶杓ヲ水指ノ上ニカサルコトモアリ、袋ニ入タル茶入ナドカザルベカラズ、茶入ヲヨクアシラヘバ、茶碗カザリノ詮ナシ、茶入ヲヒキクアシラヘバ、自ラ茶碗貫クミユ、

○口ノアル釜ハ、口ヲ客付ノ方ヘムクル、

○床天井ノ高サ六尺二寸五分、竹釘カハメヲ下ニシテ打ナリ、床ノ上ブチヨリ九分シタニ打ナリ、ハヲハ二分五厘、釘ノ上角ト床ノ上ブチトノ間ナリ、

○金具ト内マサリトハ別ナリ、其ノウラヲモテトモニ、金ニテクミタルヲ金具ト云、内バカリ金ニテクミテ、表ハ文ヲシタルヲ内マサリト云、近本、クミタル、作ダミタル、内マサリ、作内サマリ、

○廿日、　參候、

唐ニテモ日本ニテモ、朱印ノアルモノニ朱印ヲ押シテ、文字ヲカキタルモアリ、文字ヲ書テ朱印ヲ推タルモアルモノナリ、面白キコトナリ、タトヘバ太政官ヨリ、天下ヘフレナカシセラル文書ノ類ハ、朱印ヲ押シテ後、年號ニテモ文言ニテモ書ス、コレヲ外印ト云、印モ太政官ノ印トアルナリ、又太政官ヨリ上ヘ奏シタル文書ニ、天子ノ上覽ヲ經テ、イカニモ此通リニ下スベシトテヲサルルヲ、內印ト云、コレハ文字ノ上ヘ朱印ヲ押サル、コレハ天皇ノ璽トアリ、

○閏九月四日、　參候、

頃日　主上ヨリノ御尋ニ、シギト云文字ヲ、鴫ト書コトハ古今ノ通稱ナリ、然レドモ鴫ノ字ハナキ文字ノ由ナリ、サラバ和名抄ニハ、一名田鳥ト記サレケル上ハ、田鳥ト遊バスベキヤト申上ゲシガ、追テ思召ハ、定家ノ一字題ニ、鴫ト記サレケル上ハ、一字ニテシギト云文字アルベシト、和名抄鴫ノ下ニ鷸、野鳥ナリト、玉篇ヲ引テアゲラレシ上ハ、鷸ノ字然ルベキヤト思召セ

ドモ、今一應考モアルベシ、古今ノ說ヲモ考ヘ上ベキ由ヲ仰下サル、多編以下世々ノ說々ヲ參考スルニモ、皆鴫ハ俗字ニシテ、鵺ノ字ヲ正字ト云說ノミナリシガ、不圖藤田某ニシギノ噂セシヲ、田付某ニハナセシカバ、日本記ノ一卷、十七丁ノウラニ、雛ノ字ヲ之岐ト訓セシ由ヲ、云ヲコセシマヽ、古今之說々ノ初ニコレヲ擧テ、一冊トシテ献二上之一、別ニ一冊アリ、

○十三日、　內府公ヘ御成、掴、

午半刻、於二奥小書院一御對面、直ニ御迎ニテ圍居ヘ御入、

御掛物、竹門良恕親王御文歌入、

御釜、蘆屋地紋アリ、

御香合、堆朱、牡丹カラクサ、大ブリナリ、

御會席、

御汁、フクサ、豆腐、ユバ、イワタケ、

御煮物、タイラギ、セリ、

御燒物、杉ノヒツヘギ重箱、カマボコ四切、

御吸物、キスゴ、フキノトウ、

御取肴、山ノイモ鹽煮、カラスミ、

御菓子、クズ子リ、クロゴマ、シキザトウ、

御中立、

御待合、土佐將監光信ガ極彩色竹ノ畫、金屛風一双、御烟草盆、

御花生、常修院樣一重、

御花、紅白椿三リン葉四枚、

御茶入、仁淸、

御袋、今織ドンス、

御茶杓、吉首座、大ガイ、

御茶碗、萩、ハナミシマノ手、

奥御書院、掴、見櫟、

御床二幅對、洞雲彩色、一方牡丹、一方キク、

紹鷗棚、上ニ內海、口覆アリ、下ニ茶碗、棗、

御釜、京、アシヤノ由、

御書院御掛物、洞雲山水橫物二幅對、前ニ金ノウスバタ、花生水仙、

酉ノ上刻　還御、御ウドン、御菓子ナド出ル、

○今代ノ茶湯ニ、袋掛ノ釘ニ羽箒ヲカクルコトハ、ナキコトニ候ヤト窺フ、仰ニナキコトナリ、此釘ニ、外ノ物ヲカクルコトハ

絕テナシ、

○十七日、　下加茂松林院ヘ御成、旭峯、拙、未前、

待合、上ノ御床ガマムシロ、高麗ベリチトリテ、上ノタパコボン、次ノタパコボン、圓座二ツ、

掛物、春屋ノ墨跡、林際云、欲衣錦繡千重、思衣（雖日、思衣疑思食）、百味具足、春屋叟ト仰アリ、

釜、平丸環付アマヅラ、

香合、樂、

會席、

汁、フクサ、アツメ大コン、午房、ナメ、

猪口、ニンジン、ホロ〳〵、

煮物、トウフ、ワサビ、此豆腐、カヤノアブライリチモトメアンバイス、

御酒、ビゼン德利、

肴、　　吸物、セリ、チヨロギ、

菓子、山ノ芋、シキザトウ、コウタケニシメ、

御中立、

御花、白梅赤椿、　　花生、橋ノ坊ノウツシ、カウシン宗佐ノ作ナリ、

御水指、ナンバンヌリブタ、

御茶入、車軸、藤四郎春慶、袋カントウ、　　御茶杓、ガマツ飛彈、

御茶碗、上新、次コヒキ、　　後菓子、食籠ニ葛マンヂウ、羊羹、

黃昏還御、

○二十一日夜、　參候、常陸、玉ノ井、他出ニ付、

賓退錄ヲ校合アソバス、末ノ諸國貢獻ノ處ニ、藥名多シ、普通ノモノニヤ、一覽シ申シ上グヘキノ由仰ナリ、畏テ拜見ス、水馬二十枚トアリ、水馬ハ黽虫ノ異名ニテ、池澤ノ中每ニ存スルモノナリ、何ノ貢スベキモノニアラズ、考ベキ由ヲ申ス、又海馬ノ一名タル由ヲ申シ上グ、本艸備考ニテ考之、又烏蛍魚骨二十枚トアリ、蛍ノ字字書ニ不レ見、蚩ノ字ハアリ、蚩ノ字ニ同シトアリ、考フベキノ由仰ラル、歸テ和漢和名ニテ考レ之ニ、和名抄ニ一名小蛸虫トアリ、然レバ小蛸ノ字ノ略ナリトシテハイカヾト申シ上グ、尤ナリト仰ナリ、小蛸魚骨ハ烏賊魚骨也、イカノコウナリ、

○二十二日、　御本殿御口切、准后樣、入江樣、鷹司樣、三門樣、近本作三寶院樣、川埼本作玉門樣、

小書院御掛物、當今樣勅筆、前ニ、唐物青貝ノ卓、同鐵ノ鶴ノ香爐、

南閣（川埼本作圓）堂のあさに、舍利の出現しけるを視て、

おさまれる、世のよろこびの、しろしにて、妙なる玉の出しさぞおもふ、

御居間、御床、安信二幅對、前ニ鐵ノ花生、紅梅、白玉、

御囃子、

葛城、　川勝權之進　西村權左衞門 羽倉五郎右衞門　片山新六 宮田加十郎

江口、　同　北脇善介 中尾五郎四郎　藤田六郎兵衞

熊野、　同　北脇善介 羽倉五郎右衞門　藤田六郎兵衞

安宅、　川勝齊之進 (近本作助之丞)　西村權左衞門 中尾五郎四郎　宮田嘉十郎

邯鄲、　川勝權之進　北脇善介 中尾五郎四郎　片山新六 藤田六郎兵衞

御中入、

一調、

蟬丸、　權之進　獨吟、　善介

松虫、　十郎兵衞　五郎四郎

仕舞、

半蔀、權之進、　立田、助之丞、　杜若、權之進、

三輪、助之丞、　土車、權之進、　殺生石、同、

海人、助之丞、　橋辨慶、權之進、助之丞、

○十月八日、　御本殿參候、

關白公ノ仰ニ、昨夜ハ先日勅筆ヲ叡覽ニ備ヘシ、御茶御菓子ナドヲ上ゲシ、十種香ナドアリテ夜半ニ及ブ、御心遣ニテ、御クタビレアソバシタル由ヲ仰ラル、前ニカヤウノコトノアリシニハ、御掛物バカリナリ、此度ハ御ナグサミノ爲ニ、カザリモノヲセシガ、勅筆ニマカセテ春日ヲマイニシタリ、春日卓ニ鹿ノ香爐、奈良院ノ春日法樂ノ、手鑑ヲカザリタリ、御客ハ、禁中樣、東宮御方、尹宮、一乘院殿、内府公、前内府公ナリ、

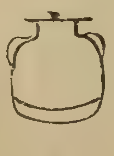
十炷香ハ、香久山、白菊、十文字、也、

○十一月十一日、　御別業ヘ内府公御成、拙、淳庵、

御待合、　圓座請次、

御掛物、　梵竺僊、一文字茶地金紗、上下シケ、此表具織部作、　中紫地印金、

御釜、　天明、(近本作猶)三菩提院殿ヨリ進上、　モズマ形、



御棚、　ションスイ、(近本作祥瑞)鷹ノ香合、

御會席、

御汁、　菜ノコマ〴〵、竹輪カマボコ大二ツ、

御煮物、　ウツロドウフ、タマゴノ黃ミ、スイノゴシ、

御壺皿、　鴨二切、ナメ、

御吸物、　山ノイモヘギメ、コキノコ、

御菓子、　ワラビモチ、白ナタマメノ、スイノゴシニテコガシ、青竹ハシ、

御中立、御用ニテ暫ク間アリ、麩ノニシメ、青竹ノ串ニテ、鉢ニ入出ル、

御花生、宗和慈ナシ、　御花、寒菊、

御水指、備前ノ片口、ヌリブタ、

御茶入、ヌメリアスカ、　袋、サランダモウル、

御茶杓、利休、コレハ應山公ノ御時、利休ヨリ獻上ノ茶箱ニ入ル、

御茶碗、彌兵衞、樂燒、

御亭ノ下床、可漢(近本作溪)ノ山水、掛板、

御勝手屏風、諸宗佾ノ筆、

御二階ノ床、アメチマキノ花生、連堯シホリツバキ、

御薄茶下サレ黃昏退出、

○十九日、　左馬頭ヘ御成、內府公、拙、

待合、御烟艸盆二ツ、セウギニ圓座一ツ、

掛物、春乘坊重源、廣元朝臣、仰ニ、此廣元ハ鎌倉ノ右大將ノ時分ニ、書記ノ職ニテ、カクノゴトクノ博學多才ノ儒者ナリ、即チ東鑑ハ此人ノ日記ナリ、大江廣元ト云、

寄進云、

盂蘭盆經一卷、

獅子香爐一口、

玉簾一雙、

現在父母福樂百年、

亡母人母近本作七世父母、得見、

建久三年八月十日、

造東大寺沙門重源、判アリ、

香合、キンマノチシドリ、

釜、丸平、

會席、

汁、ヨメナ、山ノ芋ワギリニシテ二切、

煮物、鴨三切、ナメ六七ツ、アハビノホソギリ、

皿、鯛ナマス、黑クラケ、コレハ、新圖居弘メノ故ナリ、

吸物、モヅク、柚、　肴、ハシヤギカツホ、フキミソ、

菓子、小キマンヂウチムシヤキニシテ、

御中立、

水指、イガ、小ブリナリ、

茶入、

大茶入、朝日シュンケイ、大茶入ノアシライアリ、

袋、フシタ子ドンス、　茶杓、佐久間將監、

茶碗、吉左衞門、黑樂、

書院床掛物、顔輝、寒山拾得、

奥羽軍記ノ巻物御覽ニ入ラル、此巻物ハ、本處ハ因州ニアリテ、大故代ノモノナリ、依テウツサセラル、コレハ又ウツシナリ、書記ハ錦小路、畫ハ求馬ナリ、

御夜食、

暮ヨリ權之進、十郎兵衛、二郎右衛門、源介、間ノ久二郎ト云侍士一挺ヲウタル、

色付御膳、デンボヤキ、タマゴハンヘンカキ入テ、

吸物、鯛、イワタケ、

燒物、ホウボウ、

煮物、大コンフロフキ、セウガミソ、

夜半後還御、

○廿日、參候、

昨日ノ茶湯ノ御ウワサトリ〲ナリ、大茶入ノアシライノコトヲ申上グ、仰ニ朝日春慶ノ類ハ、大ナルホドヲ尊ブ、御前御所持ノハ、昨日ノ茶入ニ今二カサモ大ナリ、ソレ故左ノ手ニテ横ニハトラレヌナリ、大茶入ニカギリテハ、右ノ手ニテ上カラ鷲ヅカミニトルコトナリ、コレ習ナリト仰ラル、尤ナル御コトナリ、サナケレバハナハダ危シ、ソレ故ニ唐物ダテノ如ク茶筌ヲハヅスナリ、左ナケレバ、筌ト茶入トノ間ヘ手ガ入故ナリ、昨日ノ茶入ニハ、マダ蓋ガ大ニシテ茶杓ガカケラルヽ、甚ダ大ニシテ蓋ノ小キニハ、杓ノカヽラヌアリ、コノ故ニ大茶入ニハ、茶杓ノヲキ處ナキモノナリ、ソレ故大茶入ノ、茶杓ノカヽラヌホドナルハ、盆ニノセテ茶杓ヲ盆ニオクガヨキナリ、此等ノコトハ大茶入ノナライナリト仰ラル、

○手水鉢ニ柄杓ヲ置コトハ、其日仕フヘキ鉢ニノミカクルガヨシ、左ナケレバ客ニマヨヒアリ、常修院殿ナドノ庭ニハ、書院先ノ石鉢ニマデ、柄杓ヲトリヲカレテ、茶後ニノセラレタリト仰ラル、

○世間ニ何ゴトニモセヨ、スルホドノコトヲ利休々々トイヘドモ、利休ヨリ後ニ出來タルコトモ多シ、左馬頭ノ庭ニ松葉ヲシカレタルヲ御覽アリテ、シカ庭ニ敷松葉シタルコトハ、織部ヨリ始レリト云、客ヲ口切ニヨビタルニ朝ノ寒氣甚シキニ、土地コホリテ霜柱ノタチタルヲ見苦トテ、松葉ヲシキタルト云尤ナルコトナリ、爐ノ角ヲカキタル事モ、利休ノトキハナカリシコトナリ、コレハ金森法印ガ利休ヲ呼デ、爐ノ釜ヲカケタレバ、火氣ニテ白キヂヤウノ多ク散タルヲ、火箸ニテ四方ノ角ヲツキ、穴ヲアケテ火箸ニテカキナデケルガ、輕浮ノモノ故クボキ處ニタマリテケルヲ、利休ガ見テ尤ト思ヒホメケルガ、重ネテ利休ガ法印ヲヨビケルトキニ、始メヨリ四方ノ角ヲカキケルトナリ、故ニ角ヲカクコトハ金森法印ヨリ始タルト云、御ハナシヲキクゴトニ、感ジ思ハサルコトハナシ、一ヲ聞テ二ニ通ズルコトモタマタマアリ、コノ松葉ノコトヲキ

キテモ、コノワケアルコトヲシリテハ、ミダリニハスマジキコトナリ、トカク何ノモノズキニテモ、ソノワケアリテノ物ズキハ、万事ニ通ズルコト多シ、分ノナキハソノコトニハ面白クテモ、ワキヘ通ジガタシ、若シ譯アルコトヲ、ワケヲシラズシテ覺エタルハ、物ズキニ大ニ間違アルベキコトナリ、コノ松葉ノコトニテモ、風爐ナドノ落葉ノナキ時分ノ、土地ノソコヲモセヌトキハ、スマジキナリトコソヲモヘ、

○廿二日、參候、

先日　内府公御成ノトキノコトヲ御話ニ、先日ノヤウニ客ヲ待合ニマタセタルトキナドハ、後ヲハコビ茶湯ニスルガヨキナリ、先日モ左セント思ヒタレバ、留主ノ中ニスデニ、水指ヲナヲシヲイタリ、入レント思ヒタレバ、疊ニ水指ノアトツキタリケルホドニ、其儘ニヲキタリト仰ラル、

○今日有隣軒ヲ茶湯ニテ招ル、ガ、チト思召入アリテ、花ヲ先ニナサルルナリト仰ラレシホドニ、ソレハイカヾト申シ上グシカバ、サレバトヨ今日ノ掛物ノ設、英一山ガ二幅對ヲカクベシト思ヘリ、ヨク〱思ヘバ二幅對ヲカケタル跡ニ、ソノ眞中ノ二ツノ間ヘ、花ヲ生ルト云モイカヽナリ、ソノ上ニ對ノニギヤカナル跡ニ、サビシキ花ニテモアルマジ、所詮花ヲサキヘ生テ、イカニモサビタル花ヲ一輪生ベシト思召ナリ、中立ノ後ニ此掛物ヲカケタラバ、ニギヤカニテ面白カルベシト思召ナリ、アトノ茶湯モ、ハコビニアソバスベシト思召ナリ、掛物ヲ二幅ナラベテカケテ、水指茶入トカズ〱ナラベテハ、ゴタツキテヤカマシカルベシ、夫故ニハコビニアソバスヘシト思召トナリ、先日ノ茶湯ニハコビニアソバスガヨキナリト仰ラレテ、又今日ノ茶湯ニ、ハコビニアソバスベシトノコト、相違ノヤウニテ、同シ趣ヲ識得シテ感心ス、

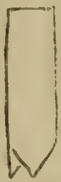
○一輪生ノコトヲ伺テ曰、先年モ一リン生ノコトヲ伺ヒシガ、大切ノコトノ由ヲ仰ニテ候、次手ナガラウカガイ度由ヲ申ス、仰ニ一リント云モノト、一枝ト云モノアリ、一輪ハ花ヲ生ルナリ、一枝ト云ハ枝ヲ生ルナリ、花ヲ生ルト枝ヲ生ルトノ差別アリ、昔シ利休ガ桃底ノ花生ニ、桃花ヲ生タルコト是一枝ノ初ナリ、桃底ハ今云ソロリ是ナリ、枝ハ木ノ枝ナル故ニ、ソロリナドニ（川本作、桃ハ木枝アル故ニソレナリニハ入ガタキモノナリ）入タキモノナリ、桃梅寒菊ノ類ノ、木ノ本ニ花ノアル枝ヲ、見立テヽ入ルレバ好モノナリ、根ジメニ花ガナル故ナリ、木ノ本ニ花ガナクテ、梢ニ花ノ多キナドハ、根本モアラハル、ソロリニイラヌモノナリ、コレハ枝ヲ生ルトキノコトナリ、一リンノ花ヲ生ルニ椿ヤウノモノヲソロリニ入タルハ、フタヲシタヤウニテ甚ダ見苦シキモノナリ、ツバキヤウノ花ハ、イカニモ口ノ廣キ花生ニ、水ヲ見テ入ルヽガヨシ、是花ヲ生ルナリ、今日ノ花ヲ内見スベキノ由、仰ニテ拜見ス、凡慮ノ及ブトコロニアラズ、ウキボタンノ青磁ノ御花生ニ入レラル、花ハシボリノ椿ナ

リ、表ノ御床ニハ、籠ノ掛花生ニ水仙ヲ入ラレタリ、ソノ姿又
近年拜見セザル處ニシテ、甚ダ見事ナルコト言語道斷、

青磁花生

○先日ノ御話ニ、路次ノ柄杓ハ、亭主ノナヲシ置クモノナレバ、
氣ヲ付テ本ノゴトク直シヲクコト勿論ナレドモ、初手ハ先ウツ
ムクニシテヲクモノナリ、ソレヲ上客ノツカイタル後ハ、横ニ
直シヲクモノナリ、次客ハ上客ノ直サレタル如クニシテ、末座
ノ人、又亭主ノ直シヲキタル如クスヱヲクモノナリ、（コレ路次ノコトニアラズ、ヒサクノカザリノトキニ、御傳アリシコトナリ、柄杓ノカザリカクノゴトシ、）
○廿六日夕、　參候、
コノ頃ヨリ御吟味ニテ、細工ニスルトウト云モノハ、漢名ヲ何
ト云ニヤトテ、アレコレ御僉議アルウヘニ、松岡ガ用藥須知ノ
考異ニアゲタルハ、蕀藤ノ字ナリ、朱氏ノ奇談ニモソノ通リナ
リ、大和本艸ニハ、桃竹ヲトウト云ヤウニ書タリ、用藥須知ニ
ハアヤマリトス、何故ニアヤマリトスルコトゾ、御尋アルベキ
ノ由仰ナリ、蕀ノ字ニ正字通ヲ引テアレトモ、正字通ニ蕀ノ字
ハ、ナキ字ナル由ヲ載タリ、字典ニ正字通ヲアヤマリトス、齊
民要術ヲ引テ、蕀藤ノ形狀ヲ載ス、齊民要術ニハ藤ノ類ニ載タ
リ、藤トハ云マジキモノナリ、竹ノ類ト云ベキモノナリ、名物
六帖ニ、トムシロノ字ニ桃笙ノ字ヲ用テ、桃竹ニ作ル由ヲ載タ
リ、イカサマニモ桃竹ト云トモ、イヤトハ云ハレヌカト申シ上
グ、兎角今一ツ蕀ノ字ノ註ノ明ナルモノ出ヅレバ、タシカナル
ベシト仰ラル、（長州細工ノモノニハ、籐組ト書クヨシナリ、籐ノ字、正字通、蔓生似レ竹、又竹器トアリ、イカサマ籐字可レ考コトカ、）
○頃日或人ノ申セシハ、今ノ人ノフミニ如レ仰トカク、仰ノ字ノ眞
字ヲ知リタルニヤト、イカサマニモ氣ノ付カヌコトナリト申上
シカバ、アレハ命ト云字ヲ、引分テカキタルモノナリ、人篇ニ
印トアルヲ、人ヲ上ニシテ印ヲ下ニスレバナリト申スニテ候、
サ候ヤト窺フ、仰ニ僻事ナリ、仰ノ字也、即チヌキヲカレタル
由ニテ御ミセナサル、正字通並ニ通雅等ニ、上ヨリ下ヘ下知ノ
詔ヲ、仰ト云由ノ字註アリ、日本ニテ續日本紀等ニ、仰何々州
郡云々トアル、コレニヨク叶フト仰ラル、（毎度ナガラ和事ヲ、漢事ニテ考ラル、コトハ、ソレソレニヨク氣ヲ付ラル、此等ノコト氣ノツクマジキコトニテ、ヨクモ御氣ヲ付ラレタリト、奉二恐感一ノミ、）
夜ニ入御香二座、四ツ時退出ス、
○十二月朔日、石見守へ渡御、內府公、拙、午半
待合、何モナシ、

掛物、䄷清、山水、
香合、コマノ手、紅白ケボリ、
會席、
汁、コマ〳〵ウド二切、
燒物、鯛カケシホ、
煮物、ヒラタケ、鴫、柚二切、
吸物、白魚、
肴、カラスミ、
菓子、赤イモノ粉、カンザラシチクヅ子リノヤウニシテ、シキザトウ、
御中立、
花生、宗和ノ慾ナシ、慾ナシト尺八トノ差別アリ、末ニ記ス、



花、黄梅、シボリノ椿、
水指、備前インベ、トモブタ、コレハ先年拜領ノ由、遠州所持ノ旨末ニ書付アリ、

茶入、柿、花山作、（川本作金山）袋、丹地ノチ、チギリ、
茶杓、御作、〇一本金山作、
茶碗、シドロヤキ、
後菓子、白マンヂウ、
後ノ炭ヲ道安ニ請ハル、致スベキノ由仰ニ因テ置レ之、七ッ半時還御、

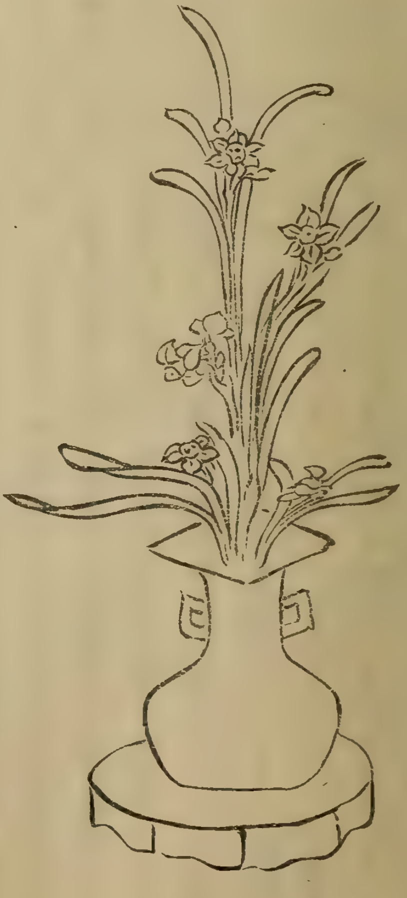
○内府公ノ御尋ニ、今日ノ道安ガ置タル炭ハ、イカガニ候ヤ、仰ニ今日ノヤウニ、亭主ヨリ客ヘ炭ヲ請フトキハ、二様ノ差別アリ、道安ガ其心得ナキ故ニ仕ヤウアシシ、先一通リハ今日ノ如ク、亭主ノフトコロヨリ、釜シキヲ出シテ釜ヲアゲ、サテ炭ヲト所望スルトキハ、炭ヲシテ後ニ亭主ヘ會釋シテ、亭主ニ釜ヲカクサスルガヨキナリ、左ナケレバ釜シキノ、ヲサメヤウガナキモノナリ、又一通リ、炭トリニ釜シキマデヲノセテ出スカ、客カマシキヲ出シテ、釜ヲ客ガアゲタルトキハ、後ニモ釜ヲカクテ退クガ法ナリトノ仰ナリ、アリガタクモ恐感シ奉ルバカリナリ、

○炭ノヲキヤウハ、イカヾニ候ト仰ラル、仰ニ亭主ノヲキタル炭ヲミダリニ動カサヌヤウニ、オクトバカリ覺ヘテハチガフナリ、亭主ノ力ヲ入テヲキタル炭ハ、ウゴカサヌヤウニシタルガ好ナリ、胴炭バカリハ、サシテ亭主ノ上手下手ニモ及バズ、是非トモニ其場所ナラデハ、ヲカヌモノナレバ、是バカリヲイロイテモ苦シカラズ、サレドモ此炭ガ黒クレバ、少シアヲムケテ火ニナリタル處ヲ、上ノ方ニシテ私ノ炭ヲオケバ、格別ニアラタマリテ本意モタチ、私ノ炭ノカヒモミユルナリ、今日ノ道安ガ炭ノヤウニテハ、最前ノ炭ト、カハリナキヤウニテ面白カラズ、第一初手ノ炭ト、模様ノカハルヤウニスルコト、第一ナリ、初

後ノ炭モ同シコトナリ、今日ナドノ道安ガ白炭ノアシライ、全ク初ト同シコトナリ、初ニ本ニアシライタルハ、必ズ標ノ方ニシ、初メニ標ニシタル方ヲ、必ス本ノ方ニスルヤウニアシラヘバ、自ラ姿モカハルナリ。サテ炭ハ第一ベタリトナラヌヤウニ、インガリトナルヤウニヲケバ、ヲコリモ早シ、見聞モミゴトナリ、第一白炭ノベタリトシタルハ、何ノ詮ナキモノナリ、インガリトオクヤウニスベシト仰ラル、（インガリ、川本作ヤンワリ、近本作キツカリ、）

○内府公ノ御炭ヲナサル、下火ハナハダ多クテアリシヲ、中ヘカキヨセテアソバシタリ、ソノ後御前ニ又アソバセシハ。カヤウノ大火ノ下火ハ、先二處ホドニカキワケテ、其間々ニ今オクスミヲ置ケバ、自ラ姿モ好ク、置ヨクモアルト仰ニテヲカル、御尤ナルコトハ勿論ナリ、サテミゴトナル御コトナリ、

○此日水仙ノ一色ヲ、御書院ノ御床ニアソバス、兼テノ仰ニモ、水仙ノ一色ニハ、コトノ外ニ習アルモノナリ、イツゾハアソバシテ、御ミセアルベシト仰ラレシガ、今日初メテ拜見セシコトソアリ難クレ、ソノモヤウハ留テシラヌコトナレバ、ウツスベキヤウモナシ、



唯ソノ一トカブ〳〵ヲウツシテ投入ニ用ヒバ、絶勝ナルベキコトニシテ、サテ合セテミタルトキニ、トカフイハレヌ見事ナルコト、タトヘバ一畫〳〵ノミゴトニシテ、サテ一字トナリタルトキノ見事ナルガ如シ、

○仰ニ、立花ノ大事ノ第一番目ハ、コノ水仙ノ一色ナリ、總シテ立花ノ大事ヲ傳授スルコトハ、何々ノ枝ヲ自由ニスルト云ヘバ、ソノトキニコレヲユルスト云コトアリ、先松ノ前ヲキニスル枝ニ、ウラヲモテト云コトアリ、ソノウラヲモテヲシルトキニ、松ノ一色ヲユルス、水仙ノ味ヲシリタルトキニ、此ノ水仙ノ一色ヲユルス、尤ナルコトナリ、左ナケレバユルシテモ詮ナケレバナリ、此水仙ノ一色ノナラヒニ大々ノ秘事アリ、其方少シニ

テモ立花ノ心アレハ、中々ニ云コトニテハナクレドモ、迚モシラヌ故ニ仰キカサル、水仙ノ一色ニハ、シヤガノ葉ヲツカフコト、是大々ノ秘事ナリ、必シモ人ニ洩スコトナカレ、此ノ一色ニモ、此葉ヲツカイテアリ、見ベキ由ニテ御指サシナサル、コノ葉ノ出シドコロニヨリテ、上手下手モミユル也、此葉ナクテカナハヌモノナリ、此分ケヲガテンセバ、投入ノ爲ニモナルベキコトナリ、凡ソ水仙ト云モノ、葉ハ、百枚アリテモ同シ出ヤウノモノナリ、ソレヲコノ立花ノ七カブニ仕フ、ソレ〳〵ワカルヤウニ仕フコト、先第一ノコトナリ、サレドモカヤウニ七カブニ仕フテ、ソノ間ノスキタル處ニ、水仙ノ葉ヲ用レバ又同シモノニナル、シヤガノ葉ハ、ソレニ用ヒテ何分ニモ似ヌモノナリ、ソコヲ古人ガミタテヽ、シヤガノ一枚葉トテ二枚モツカハズ、只一マイヲツカフコトナリ、ソノツカイヤウニハ、上手下手モアリ、右葉左葉ノ差別モアリ、前置ニハ必金錢花ノモノナリ、コレモ水仙ノ葉ハ何枚モ同シコトナリ、金錢花ハスツポリトシテ、ドチヘモツカヌモノヲ、用ヒタルガ主意ナリト仰ラル、

○窓ナシノ花生ト、尺八ノ花生トハソノ差別アリ、他流ニハ曽テソノ差別ナシ、宗和流ニハソノサタ第一ノコトナリ、凡ソ一重二重ハ格別ナリ、輪ノナキハ皆尺八ト云ト、覺エテ居ルハヒガコトナリ、凡ソ竹ヲサカサマニキリテ、根ノ方ノ上ニナリタルハ尺八ナリ、タトヘ一重ニテモ尺八ト云、眞ロクニ根ノ方ヲ下ヘナシテ、輪ナキヲ輪ナシト云、先日二三ニコノコトヲ話シタレバ、大ニ感心シテ申セシハ、昔シ江戸ニテ、宗匠ノ花生ノ箱ノ書付ニ、尺八ノ花生トアリテ一重切ノアリシヲ、コレハ箱ガ何ノ世ニカチガイタルナルベシト云テ、其花生ノ箱ニハ用マジキ由ヲ申タリシハ、大ナル誤リニテコソ侍レト、申シタリト仰ラレシ、

○先夜ハ大阪ノ、平野屋五兵衞ト申ス町人ノ、京ヘノボリテ、茶ノ湯ヲ數會致シタリシガ、名物ノ小黑ト云茶碗ヲ自慢ニテ出シタリシガ、大勢ノ客ノ、ツイニ茶碗ヲホメタルバカリニテ、名物ノアシライナカリシガ、只喜齋、道圓（近本作道因）ノミコソ、ソノアシライヲ致シテ候由ヲ申スモノヽ、侍リ、コレハイカヾニ候ヤト伺フ、仰ニソレハイカヤウニ致シタルヤ、道圓ガ客タリシトキニ、已ニ茶ヲ建テヽ、出シケルヲ、道圓ガノミテ次ノ客ヘワタシテ後、サテ〳〵結構ノ御茶也、服モ感ジ入タリ、ナド挨拶シテ後、茶碗ノ末座ヘ行ク間ニ此御茶碗ハ、名ニシヲフ山ヲ承ハル、後ホドユルリト拜見致スベシト云テ、末座ノ人ノ茶ヲ飮ケルトキニ、其茶碗ヲ直ニ亭主ヘ御モドシ候ヘト云ハレタレバ、末座ヨリ亭主ヘモドシ、一禮シテ亭主ノ湯ススギスルトキニ、上客

道圓ヨリ迚ノ義ニ、御茶碗拜見イクシタキ由ヲ請ケルトナン、コレハイカガニ候ヤ、仰ニ尤ナル致シヤウナリ、名物ノアシライナリ、ソレハ亭主ヨリ茶碗ヲフキテ出シケルヤ、ソノマヽ出シケルヤ、問ハスヤト、イナトヨ不奉存ト申ス、ソレ茶碗ヲ亭主ニ請フニ三ツノ品アリ、茶碗ノ名物ヲシリテ、亭主ニ請フトキハ、亭主湯スヽギシテノチ、トクトフキテ之ヲ出ダス、是レ一ツ、茶ヲ飲テノチ茶ヲ稱美シテアタラ茶ナリ、今一應ソノ上ヘ御白湯ヲト所望スルトキハ、湯スヽギモセズ、直ニ右ノ茶ノ上ヘ、白湯ヲ入テ出ス是レ一ツナリ、又白湯ヲ一ツト所望スルトキハ、湯スヽギハシテヌグハズニ出スコレ一ツナリ、問テ云、茶碗ヲ稱美スルカ、茶ヲ稱美スルニハ、請コト尤モ至極セリ、白湯ヲ請フコトハ何ノ爲ゾ、仰ニコレハ茶道近本作茶通ノ時ノ作法ナリ、茶道ノ時ハ、茶カ兩種出ル故ニ、ソノヘダテニ必ス白湯ヲ請コト、コレ一ツノ習ナリト仰セラル、

○右ノ平五ガ茶湯ニ、餘儀ナキコトニテ三客ノ上ヘ、二客ノ押カケニテ、二疊題目ノ圍居ニ五客アリケルトナリ、加樣ノ時ハ、タトヘ前カドヨリノ會席ノ物ズキアリトモ、一菜ヲモ減ジテ、膳ギリニ仕マフ樣ニアリタキモノニ候ハズヤト窺フ、一亭一客ノコトヲ承リニシモ、膳ギリニシマフコトアリコノ格ニテ、仰ニ左モアルベシ、一亭一客ノコトヲイツゾヤモ咄セシガ、又ハナシテ聞カスベシ、凡ソ一亭一客ノ時ハ、御前ニモ常修院殿ヘ御所望アリシカドモ、内證ニ功者ノモノナクテハナラズトテアソハサズ、ソノヽチ三菩提院殿ノアソバセシニアイタリトノ仰ニテ、コレヲウケタマハル、亭主ムカイニ出デ、ヽ待合ニテユル〳〵ト語リ、サテ時分モ好カルベシ、御入アレトテ、同道シテ同シク入ル、客ヲ先ヘ、亭主ハアトヨリ入ルナリ、此時ニ掛物ヲカケズ、客ニカクサスルナリ、追付會席ヲ進スベシ、コノ掛物ヲ御掛ケ候ヘトテ内ニ入ル、客カケモノヲトリテコレヲ掛ル、掛物ノオキヤウ、掛物竿ノオキヤウアリ、掛ケ仕舞タルトキ、亭主出テ釜ヲアケ、炭ヲスルトキニ客ニ所望スル、コレ前ニ記シタル通リニス、亭主炭ヲ見テ釜ヲカケ、サテ會席ヲ出シ、亭主モ同シク相伴ス、亭主ノ膳ニハ、幾色ニテモ、ヽリアハセテカハラヌヤウニス、客ノ汁ヲハシメカユルモノヲ、亭主コレヲ盃ニテカヘ、勝手口ヨリ取カユル、サテ中立ニモ又ツレダチテ出ル、ソノ間ニ勝手ヨリ、花生ヲ掛カエテ掛物ニスル、又待合ニテ話シテ、又ツレダチテ入ル、此トキニ手水鉢ノワキニ、花ヲチクコトアリ、此トキハ花カゴニテ、幾色モチクコトナリ、花臺ハ座敷ノモノナリ、花籠ハコノトキノモノナリ、サテ又同道シテ入リテ、茶入茶等ヲ吟味致スベシ、其間ニ花生ラレヨト云テ内ヘ入ル、客花ヲクバリテ下ノ重ニ生ケ、亭主出テ花ヲ見テホムルトキ、亭主ニ向テ花ニモ餘慶アリ、チト生ラレヨト云、生ルコトモ生ヌコトモアリ、生レバ上重ナリ、宗匠ニテ弟子ナド呼タラバ、生テモクルシカルマジ、サテ水指ヲハシメテ、ハコビテカザルナリ、茶モ相伴ス、コノコトハ前ニクワシク記ス、

○常ノ茶ニテモ、花籠ニテ手水鉢ノワキニヲクコトアリ、夏風爐ノ茶ナドニハ面白キモノナリ、亭主ソノアイサツスレバ、客其花カゴトモニ持テ入リ、花ヲ生ルナリ又一興タリ、

○十八日、御本殿ヘ御成、內府公、入江樣、

當年ハ、九條前關白殿薨去ニ依テ、凡テ御慰ゴトナシ、御別業ノ御ス、ハラヒニ付テ、避ラル、トノ稱ニテ、拙モ唯參リカ、リニ伺候致スベキノ由ニテ參ズ、

御床ノ掛物、宗祇ノ連歌、月の秋、花の春立つ、あしたかな、トアルヲ、後光明院ノ勅筆ナリト、(此月歲內ノ立春ナリ、)

黄昏還御、

○廿一日夜、參候、入江樣御成、(右京大夫、拙、)

御筆ノ梅ノ譜ヲ拜領ス、此ハ今清朝ニテ專ラスルコトナリ、開ト未開トニテ大小ヲ知ル爲ナリ、梅花暦ト云コトヲ、何ヤランニテ御覽アリケルト思召テ、百拙ヘモ御尋アリシカ、何ヲ出處ト申スマテモナシ、唯俗語ノヤウニコレヲ梅花暦ト申スヨシヲ、云ヘリト仰ラル、

○今日蘇子由ガ寰城集(五十卷、廿五冊、)ヲ持來レリ、世ニ珍シキモノヽ由、百拙モ終ニ不レ見ト申ス、堀七大夫ハ書寫シタリト承ルト申ス、召上ラレタリトテ御見セナサル、又百拙ガ執次ニテ典籍便覽ヲ(堀修正ガ本ナリ、)御カリアソバシテ御覽アル間ニ御重寶ノコトアリトテ御見セナサル、殊勝ノ明朝本ナリ、物ニ引テハアリ、終ニ如此ノ本書ハ御覽ナサレズト仰ラル、

○大晦日夜、參候、

如ニ例年一御香アリ、(玉ノ井、佐江、上野介、要人、拙、)

亥刻バカリニ退出ス、

御前ノ御書寫物ノ御引出箱ヲ羨テ、今日十五重ノ箱ヲ求メ得タル由ヲ申シ上グ、ソレハ好事ナリ、歲暮ノ賜ナリトテ御笑ナサル、ソレニ付テ御前ノ御引出シニハ環ハナシ、穴ヲアケテ指ニテ引出スヤウニアソバス、氣ガ付タリヤト仰ラル、曾テ氣付申サヌ由ヲ申シ上グ、凡テ引出シモノハ、風ノモレトコロナサニ卒爾ノ間ニハ必ズ內ノ紙タヾクレテ皺ノヨルモノナリ、ソノ爲ニ穴ヲエリテヲクバ、風ヌケテ紙ウゴカズト仰セラル、

(此公ノ御物ズキ凡テ如レ此、御物ズキニ必シモ由アリ、タヾ面白キト云コトニアラズ、是ニカキラズ、)

槐記卷之六　終

明治十五年五月八日
華族蜂須賀茂韶藏本ヲ寫ス、
明治三十三年七月
依近衞公爵家藏本幷川崎千虎氏藏本校正

小杉榲邨校閲
雛田千佳㒵校正

槐記 卷第七

近衞豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

○享保十五年庚戌正月元日、參候、
如ニ例年ノ御口祝拜戴ス、

○七日、 御茶湯始、 拙、二三
御居間ツヾキノ御圍居、
御待合、御書院ノ次ノ間、常信ガ彩色ノ屛風一雙ヒキマハシ、
內ニ薩摩燒ノ火鉢バカリ、 御案內アルマジキマヽ、勝手ニ通ルベキ由仰セラルヽナリ、
御掛物、尙通公ノ御詠艸、奉書ヲ二ツ折ニシテ、中ニ二首遊バシテ奥書アリ、是ハ一條ノ禪閤兼良公ヘ、點ヲ乞ハレシ御歌ナリト仰ラル、早春春日法樂トアリ、奥ニ桃花老人ノ二首共ニ金玉ノ御詠、目出度思召、中ニモ後ノ御歌スグレタル由ヲカヽセラル、
御釜、アシヤ、

コレナド蘆ヤノ上作ニテ上ナキモノヽ由ナリ、地紋ハカイドウノ花ナリ、

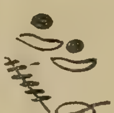
御香合、

新渡ノ瑪瑙石ノ香合ナリ、壽老人ヲホリテ、色モアリ、金モアリ、イトキレイナルモノナリ、

御羽箒、ツル、
右御棚ニカザラル、

御會席、

御汁、スマシ、皮大根、ヨメナ、鷭、
御平、如ニ例年ノ福煮、
御香物、湯煑大根、糟漬ノナスビ、御前ニ御持參アソバス、
御重引、タマゴノカマボコ、ミソツケノカキ、靑小串ニシテ、
御吸物、ハマグリ、耳ヲトリテフクラバカリ、ケンキンカン、皮ヲ五ツニワリテウラカヘシ、
御猪口、ウルカ、
御菓子、靑ト白トノ團子、クシガキ、水栗、(近本作小栗)



コノクシガキハ、今年初メテ薩州ヨリ獻上也、御庭前ナルヲ初メテカヤウニセラレタリトノコトナリ、小キコト小指ノ大サニシテ串ニサシ五ツ、イトシホラシ、

御中立、中川石見守ヲ迎ニ下サル、
御花生、宗和ノ尺八、○總シテマドナシト、尺八ト云コト差別アリ、前ニクハシク記ス、尺八ハマドナシトバカリ心得ベカラズ、尺八ノ一重、尺八ノ二重ト云コトアリト仰ラル、
花、柳、赤椿、
御水指、仁淸、ヌリブタ、
御茶入、千種手ト云、世上ニテコレヲ伊勢春慶ト云ヘドモ、春慶ガ作ヨリモ古キモノナリト仰セラル、コレハ先年古奥陸守ヨリ獻上ナリ、自負ノ茶入ナリト、御前ノ思召ニテ、コレヲハ美類女ト銘ゼラル、奥州キヽオヨビテ、御筆ヲ請ハレケル由ナリ、

いせの海、さし經てすめる、海士なれど、
かゝるみ類めは、かつがざりしを、此歌ニテトナリ、

袋、紺地ノタカラヅクシ、古キンラン、　引家、クワリン、袋、カラヌヒナリ、カヘフクロ、チリメン、
御茶杓、有樂、
御茶碗、朝鮮、
後ノ炭ヲモアソバス、見事ナルコトナリ、總ジテ初後共、炭ノ姿格別ノ御コトナリ、
申ノ半刻退出ナリ、

○翌日御禮ニ參上ノトキ、仰ニ昨日ノ花ヲ、幸ニハタウコンノ咲タリシヲ持タレドモ、大福ノ口切ニ、ハタウコントコロニテハアルマジト思テ柳ニシタリト仰セラル、御尤モナルコトナリト奉レ感、

○廿一日、參候、
御立花ヲアソバスヲ拜見ス、　仰ニ凡立花ノ中興ハ、專光ニ止マリタリ、專光ヲ名人トス、ソノ門人ノ隨一ハ大樹院ナリ、大樹院ニ至リテ、古今ノ精微ヲ盡シニ盡シテ、モハヤ上ナキニナリタリ、總ジテ立花ニ七ツ道具トテ、シン、小シン、ウケ、ナカシ、ヒカヘ、ソヘ、マヘオキ、コレヲ七ツ道具ト云、コレガ具ハラネバ立花ニアラズ、コレハ古今ノ定リニテ、コノ外ハ皆アシラヒナリ、ミコシト云モアシラヒナリ、其人ノ上手下手ハ胴ニアリ、胴一ツニテ、立花ガアツウモウスウモナルナリ、胴ノカクシニ多クハ枇杷ノ葉ヲ仕フ、枇杷ヲツカフニハ、只カクス爲メバカリニツカフテハ、枇杷葉ノ生德ニアラズ、枇杷葉ト云フモノ、一枚ヤ二枚出ルコトハナキモノナリ、必ズ四枚ヅヽ出ルモノナレバ、ソノ心ニテ、二枚或ハ三枚ニ付テ、面裏アルヤウニ生ルモノナリ、枇杷ノ胴ト云フモノハ、又倘以テ生ケ樣ソノ心アリ、前オキト云モノニ習アリ、前オキニカギリテハ、花一ツヲ眞ロクニ前ヘ出スナリ、花瓶モウスバタニハ、前オキニ習アリ、ウスバタニカギリテハ、ソノ緣ヨリ外ヘ出ヌヤウニ生ルモノナリ、

○イブキノツカヒヤウノコトハ、必ズイブキト云モノ、木ダチ、ズイズイト葉ノノビヌモノナリ、殊ニフルキ大木ホド、一カタマリ一カタマリニテ、カブガ立テ出ルモノナレバ、ソレソレニカブダツヤウニ生ル、

ツゲノツカイヤウモ、ツゲト云モノ、枝ノ出ヤウ、橫ニ出ル故ニ、大ヤウ橫ニ生ルナリ、サレドモ上ゲテツカフコトアリ、コレヲノボリツゲト云、イブキ、ツゲ共ニツカイヤウニテ、上手下手ノミユルモノナリ、シヤレヲツカフコトハ是ハ何ノシヤレ、コレハ何ノシヤレト分タヌバ、ソノ詮ナシ、大ヤウ何ノシヤレトモミエヌモノナリ、扨シヤレハ何ノシヤレトツカハヌバ、其詮ナシ、サテシヤレバカリハ、下ヨリ上マデツキ通リテ見ユルヤフニツカフコト第一ナリ、　ナガシ、ヒカヘノコト立花ノ枝ノ姿ニヨリテ、ナガシヤラ、ヒカヘヤラシレヌヤウナルモノア

リ、コレ少シノコトニテ其分チアリ、ナガシハモト木ノ前ヨリ、ミユルヤウニ生ルモノナリ、ヒカヘハ後ヨリ出デテ、モト木ノミヘヌガヒカヘナリ、トメニ草ドメトテ、是非トモニ艸ノ花ヲ仕フコトアリ、笹ニテアシロフモアリ、笹ノツカヒヤウ、甚ダムツカシキモノナリ、イカホドニ面白クテモ、笹バカリハ、

カヤウニ出ルナリ、

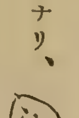
コノヤウニハ出ヌモノナリ、サテタメノキカヌモノナレバ、針ガネニテ、コノ姿ニナルヤウニ生クベシ、

○柳ト云モノガ、少シモタメノキカヌモノナリ、柳ノタメヤウニ習アリ、ヨキホドニ生テ、タメタキト思フ枝ヲ、湯ニテヒタセバ、如何ヤウニモ此方ノ思フヤウニナルモノナリ、又コダメニタムルコトハ、必ズ芽ノ處ニテタムルト折ルヽモノナリ、芽ト芽トノ間ヲ、爪ニテカタヲ入ルレバ、コヽロヨクタメラルヽモノナリ、

○總ジテ立花ハ、眞ヲハジメトシテ、七ツ道具ハ勿論、其ノ外モ一本々々、地カラハエヌキタルヤウニ生ルコト是第一ナリ、大方ガ枝ノヤウニナルヲキロフナリ、同シモノヲ仕フニハ、コレハコノツヾキ、コレハコノツヾキト、連續ヲガテンシテ生クベシ、サナケレバ、此枝ハ中カラ出テ、ドノヲカレト云コトガミエヌヤウニナルモノナリ、

○水際ノコト當世流ニハ、只マンマルニサシソヘヲシテ、作ルヤウナルハ見苦シ、自然トシマルヤウニスベシ、ソノ中ニ習アリ、少シホソナガキヤウニ生ルトキハ、シマルヤウニミユルモノナリ、タトヘバ

如レ此ナレバ、兩方ノ丸ミマデガ、向フカラミユル故ニ、フトクモミユルナリ、



如レ此ニイケレバ、ホソクミユルモノナリ、

○ナガシヲ生ケルニ、多クハ枝トミユルアシヽ、ナガシモ一本ノ木ナレバ、イカニモ本木トミユルヤウニ生ケルベシ、枝ナレドモ木ノ梢ニテ、少シハ子アガルヤウニ勢ハセテ、下ヘ向タル枝ヲキリハラヒテ、梢ノ開キタル花ヲ皆ムシリ、蓓蕾（ツボミ）バカリニシテ本ニ開キタル花ヲ付レバ、イキホヒモヨク、本木トミユルモノナリ、

○ワクラヲツカフコトモ、是バカリハ、何カラ出タルト云フコトモナク、胴ノナカニフトサシ出テ、深山木トソレトモ分カヌ體ガヨキナリ、ソレ故ニコレバカリハ、何ノツヾキトモ云コトハイラヌナリ、

○古風ノ立花ニハ、スヽキヲ眞ニシテ、椿ナドヲ前オキニシタルハ、轉倒シテアシキト云説アリ、餅ガゴトナリ、高山ノ峯ニモ艸花モアリ、麓ニモ大木アリ、ソレニハカヽハルベカラズ、

○立花ノ第一ハ、木ノウラオモテヲ知ルコト肝要ナリ、ウラオモテヲ知ラザレバ、生ケルコトアタハズ、

○水仙ノ一色ニ、シヤガヲツカフコト大秘事ナリ、必ズツカフコトナリ、水仙ノ葉ハ必ズシモ三枚（川崎本作四、）ナルモノニテ、三枚トモニ直ナルハ何枚ニテモナキモノナリ、胴カクシニ、ドウモツカハレヌモノナリ、ソレトモ必一枚ハツカハヌナリ、故ニ胴カクシニハ、必ズシヤガヲツカフコトナリ、尤モ右葉左葉ノ差別アリテ、右ノ處ヘ左モ、左ノ處ヘ右モツカハレヌモノナリ、金錢花亦同シ、前ニ記ス、

○二月九日、夜、參候、

代々ノ天子ノ追號ハ、諡號ト申ニテ候ヤ、神武、綏靖、安寧ヲ初トシテ、天皇ノ號ヲツケテ稱シ奉ルハ、諡號ト申スニテ候ヤ、又院號ヲ稱シ奉ルハ、追號ニテ候ヤト窺フ、仰ニサレバトヨ、先日モチラト御意ナサレシコトナリ、是ガイカフムツカシキモノナリ、上古ノ號ハ、イハワレヒコノ、ニニギノト云ガ天子ノ號ナリ、神武已來ノ號ハ、追テ名付奉ルモノナリ、コレハ孝謙ガ初カト思召ナリ、孝謙ヤ安德等ハ、スデニ遣唐使ノ漢土ノ諡法ヲ、ヨクヨクガテンシテ後ニ、キツト諡號ヲ奉ル法式ヲソナヘテ、諸臣ノ表ヲ奉テ、號シタテマツリタルモノナレバ、是ハ諡號ト云ベキモノナリ、神武コノカタノ代々ノ號ヲ、此ノ格ニ諡號トハ、云ガタキモノナリ、追號トモ云ガタシ、追號ハ、何代經テノチニテモ、其人ノ德ヲ稱シテヲクラル、コトナリ、又サニテモナシ、此ノコトチト上ニモ入ラセラル、コトアリテ、兼テ考ラレタルコトモアリ、御見セナサルベシ、心ニハ得ラレテモ、御口ニホドキガタキコトモアリ、院號ハ其土地ニテ、名付ラレタルモノナレバ、是ニハ强テ論モナシ、地ノ名ト合點スベシト仰ラル、

○三月十七日、參候、

昨日ノ左典厩ヘ、茶ニ參リタル話ヲ、一々申シ上グ、一段出來カシタルヤウニ存ヅ候、仰ニ出來シタリ、料理モ一々風爐メキタル仕方ナリ、每度常修院殿ノ仰ラレシコリナリ、風爐ノ茶トイヘドモ、三四月ト、五六月ト、ハチガフ、其ノ中ニ三月ト八月トノ茶ハ、ナラヌモノ、由、古今ノ宗匠達ノ申シヲカレシコトナリ、三月ハ爐ヲ離レテ間ナキガ故ニ、全ク風爐メキタルモアシ、、爐ノヤウニテモスマズ、八月ノ茶ハ、次ニ爐ノアルマヘナレバ、末ニテサシアフヤウニシテモアシ、、春以來ノ風爐メキタルヤウニシテモアシ、、此際ヲユクコト故ニ、別シテムヅカシキトノコトナリ、昨日ノ左馬ガ料理ナド、タレニ見セテモ、風爐ト見ユル料理ナリ、サテ來月ニモセヨ、五月ニモセヨ、六月ニモセヨ、又一會ト云ヘドモ、右ノ外ニスベキヤウナシ、ソ

レヲハマリタルトテ嫌フナリ、三月ハ三月ラシウ風爐ニナリ、爐ヲ離レテ間ノナキ味ヲシテ、四月ハ四月ラシウ、極暑ノトキノアシライト、次第セヲバ本意ナラズ、尤モ時節氣候ノ、早晏ニヨリテ、寒暖ノ差別モアリ、又其日ノ陰晴寒暖モアリ、風爐ノ茶ナルホドニ、風爐ラシウトバカリ心得テハ、指合コト多シト仰ナリ、イツモ、仰セラル、コトナレドモ、一度一度ニアタラシク承ルコトバカリナガラ奉恐感

○同廿二日夕、　參候、

野村新兵衞ガ、伺ヒ奉リテクレヨト申スコトノ侍リ、古ヘヨリ、飯後ノ茶ト申スコトノ侍ルヨシニテ、亡父モ仕リタリ、他ヘモ召シツレテ參リシカドモ、幼少ノトキニテ、シカトモ覺エ申サヌドモ、大方ニ常體ニカハルコトナシ、炭ヲシテ菓子ヲ出シ、中立シテ入テ茶ヲタツルコトナリ、上流ノ茶人ノ方ヘ相伴ニ參リシニ、中立ノ後ニ羽箒ノ音ノ聞ヘシカバ、イザ參ルベシトテ入ラレタリ、案内ヲマタズ、ソノ後其方ザマノ人ニ尋子シニ、羽箒ニテノ掃ヤウニヨリテ、案内ヲウクルコトモウケヌコトモアリ、圍ヨリ内ヲハケバ、案内ヲマタズ、障子ヲ開キテ、シキイノ外マデヲ掃ケバ、案内ニヨリテ入ルコトナリト申ス、御流儀ニモ侍ルコトニヤト伺フ、仰ニ、是ハ常修院殿ノ直ニ御物語ニテ、御聽ナサレシコトナリ、其節飯後ノ茶ト云名目流行シタリト見エ、飯後ノ茶ト申モ、菓子ノ茶ト申スモカハルコトナシ、菓子ノ茶ノコトナリ、飯ハタベテ參ルベシ、茶ヲ御フルマイ候ヘト申シツカハスカ、他處ヘ茶ニユキタル歸ルサニ、一服タベタシナド云ヲクル是ナリ、サルニヨツテ、菓子ニテ茶ヲフルマフコト、常ノ通リヨリ外ニ、カハリタルコトアルベキヤウナシ、中立ヲスルトセヌトハ、菓子ニ差別アリ、亭主ヨリモ、タ、スルヤウニ仕カケテユケバ、立ザレバナラズ、尤モタツガヨシ、タ、サヌヤウニスレバ、タ、ヌガヨシ、同シ菓子ニテモ、シカトシタルモノニテ、ス、リダンゴトカ、ゼンザイ餅トカ、出ルヤウナルハ、亭主モタ、セルヤウニスルガヨシ、客モタツガヨシ、又格別カロキモノニテ、ハシヤギモノナド出ルヤウナルハ、亭主カラモ、タ、セヌヤウニスルガヨシ、客モ其氣ヲ承リテタ、ヌガヨシ、是ハ一概ナラズ、日外寸松庵ヘ、飯後ノ茶ニ行タリシトキノ菓子ニ、ス、リダンゴヲ出サレテ、其ノマ、ニテ御立下サレヌヤウニ、御ウシロニ、御手水ヲモ設ケタリト申サレシカドモ、少シ庭ヲモ見タシ、幸ナガラ立ベシトテ立タリ、古ヘ常修院殿ヘ、親ク參リ通ヒタルモノニ、安部信濃飛驒ガ弟、ト申スアリシガ、殊ノ外ノ茶湯ズキニテ、主ガサビタル圍居ニ、額ヲ掛タキ由ヲ申テ、飯後庵ト號シ、菓子バカリニテ茶ヲ仕タルコトアリ、是時分ノハヤリコトバト見ヘタリ、必ズハコビノ物ナリ、此事ヲ新兵衞ヘ、傳フベシト仰ナリ、

○古ヘ御所樣ニ三菩提院樣ト、御一處ニ大佛ノ獅子吼院樣ニ御出

ノ次手、常修院樣ヘ立寄テ一服タベタシトテ、菓子ノ茶ニアイタリ、右ノ通リニテカハルコトナシ、菓子ハハシヤギモチヲ出サレタリ、總ジテ茶ノカヘリトカナニゾニテ立寄ル人ニハ、急度菓子ハ出サヌガヨシ、ハシヤギモノナド然リ、先ノ茶菓子ニサシアハヌヤウニシタルガヨシ、菓子ニテ一服タベタシナド云送ルニハ、スヽリダンゴ、ゼンザイ或ハ吸物抔、出スコトモアルベシト仰セラル、

○右ノ次手ニ、跡見ノ茶ノコトヲ申シ上テ、頃日吉田某ガ庸軒流、申サレシハ、去方ヘ迹見ノ茶ニ參リタリシニ、例ノ通リ初手ハ花ニテ菓子ヲ出シ、炭ヲシテ中立シ、後ニ入ルトキハ花ナシ、メクラ床トス、庸軒流ソノ外ニテモ、後ノ花ニ、水ヲスルコトアリトナリ、茶スミテ後ニ、正客ノ申サレシハ、迹ノ義ニ御掛物ヲモ、拜見仕タシト申サレシカバ、日外御目ニカケタルモノニテ候トテ、出サヾリシハ、主客トモニ、尤モニヲボヘテ候ハ、イカニト申シキ、（迹見ノ茶ニ、ユクホドノ人ガラナレバ、カ子テノ入魂ナルベシ、尤ナルアイサツナリ、モシ初テノ人アリテ、右ノ如ク所望セバ、只一二幅ノモノニテ、數ハ所持イタサズ、重子テ御茶申ス節、御目ニカクヘシト云ハンカト、）尤モ面白ク覺ヘ候ト申セシハ、イカニヤト伺フ、仰ニ迹見ト云フコトハ、不知コトナリ、終ニユキタルコトモ、呼ビタルコトモナキナリト仰ラル、左コソアルベキコトニ候、御所樣ナド、迹見ニ呼人モ、參ル人モアルマジケレバト、申シ上シカバ、イナトヨ、昔シ利休ヤ、織部ナドガ方ヘ、迹見ニ大名ノ、參リタルコトヒタトアリ、是レハ秀吉ナドノ、茶ニユカレシ迹故ニ、眞ノカザリトカ、名物カザリトカニテ、又面々ガ茶ニユキテハ、再ビ其目ニアイガタキコト故ニ、强テ所望スルコトナリ、ワザトコシラヘテ、イザ迹見ニ參ラント云ハ、客モ客ナリ、亭主ノクタビレヲモ不レ顧シテ、所望スルモ不仕付ナリ、亭主モ人ニ飮マセタルアトノ、殘リ茶ヲ振舞コトモ由ナキコトナリ、迹見ト云コトアルベカラズト仰ラル、

○日外ノ御話ニ、茶後ニ又菓子ナドヲ出スコトモアリ、夜食ノ前ニ菓子ヲ出スコトモアリ、夜食ノ後又出スコトモアリト、仰ラレシト覺ヘタリ、是ハイカヤウノトキニ候ヤト伺フ、仰ニ、茶後ニ客ノユルリト談ストカ、夜食マデハ間アラント思フトキハ、菓子ヲ出スコトモアリ、イツゾヤ深諦院ヲ呼テ、千鳥ヲ聞カセントノ趣向ナリシガ、何トシテカ鳴カズシテ深更ニ及ビタリ、カヤウノヲリシモ、菓子ニテモ、吸物ニテモ出スコトアルベシ、昔シ常門ノ宗和ヘ朝込ノ茶ヲ、所望セラレテ行カレシガ、時刻ガ少シ早カリケン、其儘亭主出デテ、早クモ御出ナリシコトゾ、寒氣モ甚ダシキニ、先此方ヘトテ、圍居ヘ請ジ入奉リ、釜ヲアケテ小キ鍋ニ、ゼンザイモチヲ仕カケテ、爐ニテアタヽメ、其間ニ釜ノ水ヲ改メ申サントテ、釜ヲ取テ入ラレタリ、

程ナク餅モアタタマリテ、キコシメサレシガ、ウマキコトナリトテ、毎度御噂ナリ、定テ料理ニハ、少シ間ノアラント思ハレタルナルベシ、此コトヲ、新兵衞ニ話セシニ、感ジ奉リ、且曰、故新兵衞ガ話シニ、宗和ノ毎度仰セラレシハ、茶ノ湯トイヘバ、コヽニテ出來カサン、彼シコニテ出來カサント思フハ餅ゴトナリ、一部始終ノ、ソロイタルニテナケレバ、茶ニアラズ、ニヨト出ルカラ、氣一パイニテ、仕マフマデタルマヌヲ、茶トスト仰セラレタリト申シキ、

〇四月五日、　峯君樣、御色直シ、御料理被ㇾ下ㇾ之、

〇六日、　參候、常陸本回ニ付、御膳ヲ獻ゼラル、御下リ拜嘗ス、拙、道乙、石州、

表ノ御床掛物、周子晃ガ枯木ニ鵙

次ノ御床、チンキンノ卓、唐金鴨香爐、

奥ノ御床掛物、探幽二幅對、吉野、龍田、

置花生、フキズミ、杜若、紫ト三輪、

拜領物、拙ニ東山殿御畫掛物、箱入、道乙ニ、伽羅一包、

〇十五日夕、　參候、

此度、加州ヨリ上リシ、宗和ノ十三冊ト云書、カタノ如ク好書ニテ、内々ノ仰ニ寸分チガハヌコトノミナリ、偶ニハ上ニモ御覽ナサレシト違タルコトモアリ、常門ニ御キライナサレシコトヲ、用タルコトモアルハ、此ノ書ノ誤リトハ云ガタシ、宗和モ門人ノ貴賤高下、人ガラニヨリテ對異ナルコト、アルマジキモノニテモナシトテ、其内一ツ二ツヲ擧テ仰ラルヽニハ、亭主口勝手口ノ張紙ノコト、亭主口ハ白張ニ限ル、勝手口ニハ反古張ナドニテ、同ジヤウニナキガ好シトナリ、常門ニハ白張ニ限レリト仰ラル、此等モ常門ノ圍居ニ、反古張ノアルベキヤウナシ、御前ナドハ、反古ナドハアルベカラズト申セシナラン、今日ニテモ、反古ニ限ルト思フモ、亦僻事ナルベシ、トカク雙方同シカラザルヤウニ、色チガヒカ異ナル紙ニテアルベキト仰ナリ、鉦ヲウツコトモ、此書ノ數ト、常門ノ兼テノ御物語トハ違タレドモ、コレモ常門ト云ヘドモ、御法中ノコト故ニ、常ニモテアツカハル、佛具ノアツカイハ、アルベカラズト申セシモ、イザシラズトノ仰ナリ、此ニハカギラス、總ジテ書ノ見ヤウ、カクノゴトクアルベキコトナリ、此ヲ見損ジテ違フコト多シ、

〇此頃新兵衞ガ伺申上度トテ、私マデ問ヒシ、太皷張障子ヲ、少シクリテタテツケヲ仕タリシヲ、亡父新兵衞ト、北野ノ亘覺トヲ呼タリシニ、此タテツケヲ見テ散々シカリテ、亘覺ヘ對シテ、此方ノ流ニハナキコトヲ、悴ガ致シタリ、愧入ヨシヲ申タリシカバ、亘覺ノ申サレシハ、是モサルコトニ候、夜會ナドニハ、燈ノアカリウラヲ、好モノナリト申サレシコトハイカヾド申シキ、仰ニナルホド、御前ノ御カコイニテ、タテツケニハチリヲツケテクルナリト仰ナリ、此ナケレバ、夜會ノトキニ火ガ影ホソク通ルナリ、常門ニハ夜會ノ用捨、コトノ外大事ニナサレシコトナリ、

〇又新兵衞カ問ニ、四疊半ノタヽミノシキヤウハ、誰モシリタル

コトナリ、風爐ニナリテハ、上流ノ衆中ハ、半疊ノタ、ミヲ、勝手口ヘシキカユルナリ、此ハシキカユルコトニ候ヤ、タ、ミハサシヲモテ、サシウラノアルモノナレバ、ソレソレノ間ニアハセテキリアハセタルモノナリ、半疊ノタ、ミモ、シキカヘテハ見苦シカルベシ、ソノマ、置テハイカニ、若シシキカユルナラバ、疊ノ目ヲタテニ致シ候ヤ、ヨコニ致シ候ヤト伺フ、ソレハ半疊ヲシキカユル了簡ナリ、總ヲテタ、ミヲシキカユルコト、其間其間ニアハセタルモノナレバ、一疊半疊シキカユルコトアルベカラズ、風爐ニナリテシキカヘント思ハヾ、四疊半トモニシキカユルニ非ザレバ不レ宜ナリ、式正ノ四疊半ナレバ、シキカユルニ不レ及、爐ヲフサグノミニテ、半疊ガ中ヘ入ル分ナリ、但シ極暑ナドノ時分カ、又ハ事ニヨリテ、何時ノ勝手口ヲヤメニシテ、亭主口、通口ヲ一ツニシテ、客ノ後ロナド、スヾシクセントナドノ趣向ニテスルトキハ、三疊ヲナラベシキ、勝手口ニタテニ一疊シキ、ソノ先ヘ、半疊ヲ入ル、ガヨシ、ソノ子細ハ式正ヲハズシテ、四疊半ヲヤメテ、三疊ト一疊ノカコイニスルト云モノナリ、半疊ノ處ハイラヌトコロニシテ、無用ノメクラダ、ミニスルノ意ナリ、此時客モ入ラントシテ、四疊半ノシキヤウニテナキハ、四疊半ノナヲリヤウニ、ナヲラヌガヨキナリ、是ハ格別ノ變ナリ、平生ノコトニアラズ、必ズスマジキコトナリトノ仰ナリ、新兵衛甚感シ奉ル、

○此ゴロノ書ノ中ニ、ヲボメキテ書タルコト多シ、ミナミナ面白コトナリ、茶碗右ノ手ニテアシロフコトモアリトバカリ云タリ、此ハ大ニワケノアルコトナリ、印土(イド)茶碗ノ大ナルヲ、昔ハ右ノ手ニテ取タリ、是ハイドハ唐物ユヘ、唐物ノアシライナリト云說ハ、大ニアシ、、昔ノ說ソレナリ、イドノ大ナル茶碗ト茶入トヲ平常ノカザリノ樣ニカザレハ、茶入ガマケテ見苦シキナリ、ソレ故カザリツケノ茶入ヲ、先ヘ茶碗一パイニヨセテカザルナリ、左アル故ニ右ノ手ニテトリテモ、手ガ茶碗ト、茶入ノ間ヘハイラヌト云フコトナリ、コレヲヲボメキテ、書タリトノ仰セナリ、

○十七夕、　參候、

此ホド是モ新兵衛ガ伺ナリ、上流ニモ油次ト云モノアリ、如何サマニモ、短檠ヲ出スカラハ、油次ナクテハ、アルベカラザルモノナリト存ズ、但シ手燭ニテモ出シ、短檠ヲ引替ルコトニヤトノ問ヒニ候ト申シ上グ、仰ニイカニモ御流義ニモアリ、短檠ハスハリタルモノニテ、引替ルコトハ更ニナキコトナリ、油次ト云モノハアレドモ、是ニテ油ヲ次コトハ終ニナキモノナリ、イカニ長座ナレバトテ、コレニテ油ヲ次グホドノコトハコレナシ、但シ油次ハナクテカナハヌコト一ツアリ、此大秘藏ノ說ナリ、

曉ノ茶湯、朝込ナドノヤウノ大事ハ、客ノ入タルトキハ暗クテ、燈ニテ食ヲタベ、中立シテ入トキハ燭ノイラヌト云、此按排ガ大事ナリ、然レドモ夜ノ長短モアリ、客ノ遲速モアリテ、左ヤウニケヌキアハセニハイカヌモノナリ、既ニ障子ガシラミテ燈ノ内ニアルハ、殊ノ外ニ憂ナルモノニテ宜カラス、左ヤウノ時外ノアカリニテ、食ノナル位ナレバ燈ヲ引ナリ、ソノ短檠ヲ入サマニ、此油次ノ入コトアリ、油次ハ何ニテモカラカヲヤキモノ、口アリテ手ノ附タルモノヲ用ユ、コレニモ心得アリ、小サケレバ水滴ニナル、大ナレバ水次ニナル、水次ニモナラズ、水滴ニモナラヌモノヲ用ユベシ、油次バカリ持出ルコトハナシ油次ノ入物アリ、此ニ油次ト、土器トヲ入レテ持出テ、、短檠ノ火皿ヲヲロシ、土器ノ上ニヲキ、右ノ手ニモチ、左ノ手ニハ短檠ヲ提テ入ルコトナリ、油次ノ入モノ、形ハ、小キタバコボンホドノモノナリ、下ハユビツニマゲテ取手アリ、マゲモノ、ソト、マルブチ幾通リモアリ、カツラヲケノ如シ、ソノアヒクチヲ、櫻ノカワニテマトヒ、取手ノ角ノ處モ、サクラガワニテマトヒ、栗色ノタメニヌリタルモノナリ、此レ宗和形ナリ、常修院殿ノ物ズキニテ、タマブチトタマブチトノ間ニ、蒔繪金ヲヲカレタルアリ、是ハヌリガアシクテ御氣ニ不レ入トテ、俄ノ御物ズキナリ、御前ニハ二樣トモニアリトテ、御見セ下サル、形如此、

○カナブロノ灰ノコトヲ伺フ、コレモ新兵衞カ問、仰ニカナブロヲ數寄屋ニ出スコトハ、決シテコレナキコトナリ、常修院樣ニモ堅ク出サヌコトナリト仰ナリ、

カナブロノ灰ト云コト、別ニアルベキヤウナシ、風爐ノ形ニヨリテ、灰ノチガウコトハ必コレアリ、カナブロモ形ニヨリテ、灰ノチガフコトハ土風爐ニ同シ、

○圍居ノ亭主口ト勝手口ト同シヤウニ向ヒテ、シカモ一方ハ、一間半四枚折ノフスマナリ、一方ハ亭主口ナルトキハ、形ヲモ同ジヤウニ、ハヾモチガハズ指合ノヤウナリ、コレハ苦シカルマジキヤ此度新宅ノ圖、ト伺フ、仰ニ左ヤウノ時、必一方ヲヌリマハシニシ、亭主口ハ火燈口ニス、左ヤウノ處ハ、亭主口ヲクワトウノヌリマハシニスルガヨシトノ仰ナリ、

○此度ノ書ニ、タキモノハ堅ムベカラズ、香合ニアルナリヲ、火箸ニテ取ルベシト候、御前ハカタメテ御遣アソバサレ候、コレハイカヾト窺フ、仰ニコレバカリハ昔ヨリナカリシヲ、後西院樣ノ御物數寄ニテ、燒物ヲソノマヽニ入タルハ、先器モヨゴレテムサシ、取タルアトモ見苦シ、カタメテ遣ガヨシ、古ヨリ

ナキコトナレドモ、此レ如セラレテ可レ然ト、常門ヘモ仰ラレテ、常門ニモ左ナサレシナリ、宗和ヨリアルコトニアラズ、是バカリハ後西院ヨリ始リテ、直ニ御聞ナサレシトナリ、

○廿五日夜、　參候、

宗和流ノ手水鉢ニハ、錢形、瓢簞形トテ二色アリ、燈籠ニ形アルコトハ、終ニ古モ御覽ナサレズ、世ニ織部形、利休形等アリ、遠州形ト云モノコレアリヤ、錢形ト云ハ、丸キ大ナル鉢ヲ、玉ブチノヤウニ口ヲ丸ク、大ニ小キハアリ、キリヲトシテ、眞中ニ眞四角ニ、水溜ヲキリタルモノナリ、丁度錢形ナリ、コレハ夏ハ丸キ切落マデ、一パイニ水ヲ張ト云コトナリ、冬ハ四角ノロバカリニ、水ヲハルナリ、瓢簞ハ堅ナル鉢ナリト仰ナリ、

錢形

瓢簞

○鉦ヲウツニハ心得コレアルコトナリ、古ヘ常修院殿、三菩提院殿ナドノ、茶ニ度々アイタリシガ、終ニ鉦ニテ、案内セラレタル日ニアハズ、鉦ヲウツハ本屋ニハナレタル數寄屋ニテハ打ナリ、本屋ツヾキニテハ打マデナシ、直ニ案內スルガヨキナリ、古ヘ二公ノハ皆本屋續ナリ、

○廿七日夜、　參候、

和ニ抔ト云字ヲ、ナド、讀デ、軍書等ニ多ク用ユ、抔ノ字ヲ用ル心ハ、何ト云心ニテアルベキヤ、文章ニテ書カバ、何ノ字ヲ用ベキヤ、和歌ナドニ、などつれなきや、などかへしせぬ等ノコトハ何ゾノ心ナリ、抔ノ字ノ心ニアラズ、抔ノ字意ハ如何アルベキヤト仰ナリ、抔等ノ字ニテモアルベキヤ、ナド、云ハ、假令バ人ニモ參ラレ、私ナドモ參ルト云カ、又是ハ花ナリ、コレナドモ花ノウチナリ、ト云フヤウナ心ナリト申シ上グ、一段尤ナリ、コレハ左アルベシトテ、御傍衆ニ和爾雅ニハアルベシトテ考ヘシメラル、抔ヲナド、訓シ、宜レ用ニ等字一トアリ、又込トイフ字ハ、コムトヨミテ、トリコム、ウチコム等ニコレヲ用ユ、コムト云訓ハ、何ニト云心ニテアルベキヤ、字ハ何レノ字ニテアルベキカ、込ノ字ハ和字ナリ、和爾雅和字ノ部、是ハ籠ノ字ニテアルベキカ、和訓ヨリ文字ヲ求ルヤウニテ、アシクレドモト仰ラル、イカニモ左アルベキト存ヲ奉ル、　コムト云ハ、一ツ二ツノ中ニアラズ、ハイルホドツメル心ヨリ轉ズルナルベシト申シ上グ、立花ノコミモ、此ノ意ノ訓ナルベシト仰ナリ、

○或人某ニ問シニ、天子ノ御諱ヲ避ルコトハ古今通法ナリ、大臣ノ名ヲ避ルコトモコレアルコトニヤ、東鑑ニ判官義經ガ、後京極良經ノ名タルコトノ侍リ、コレハ如何ト申ス、仰ニ天子ノ諱ハ、一字モ犯スコトハ禁法ナリ、大臣ノ諱ハ、其ノ家ノ子孫家

來等、子々孫々マデモ避ルコト是其常ナリ、又訓ヲサクルト云コトアリ、假令文字ハチガイテモ、訓同シケレバ避レ之コト亦其法ナリ、判官義經、後京極良經其例ナリ、外様ノ人ニ、同訓同字ヲツクルコト間々多キコトナリ、奏狀連署等ニ、數名ヲ並タルトキ、太政官ニテ讀上ルコトアリ、ソノトキニ同シ訓ナレバカヘテヨミアグルコト、執筆ノ故實ナリト云傳ヘタリ、

○珠玉ノ二字ヲ、或人海ヨリ出ルタマヲ珠ト云、山ヨリ出ルタマヲ、玉ト云説アリ、イカヾト申シ上ゲ、仰ニ不レ知コトナリ、ソレハタシカ字典カ正字通カ、典籍便覽カニアリト覺エタリ、他日御ミセナサルベシ、珠ハ天然トタマノ形ニテ生ジテ、人工ヲカラヌモノナリ、玉ハ玉人ノ手ヲカリテ、丸クシタルモノナリ、トカクニマドカナルガ、タマノ本體ユヘ、天然ノマドカナルト、人爲ノマドカニスルトノチガイナリト仰ラル、眞珠ナドツヤヽクカラ、海生ノ説ノ出タルナランカト仰ユヘ、貝ノタマノ類ハ、七寶ノ一ツナルベシト申シ上シニ、左アルベシト仰ナリ、

○五月十日夜、參候、

宗和作ノ法師ト云ヘル花生ヲ、出シテ御見セナサル、委細書一通ハ、寺田無禪ガ筆ナリ、書狀二通ハ、冷泉ノ爲條ノ筆ナリ、寺田ノ書ノ趣ニ、或トキ寺田ガ宗和ヘ茶ニ參リタリシニ、此花生ヲカケテ、白玉ニハリノ木ノ花ヲ生タリ、餘リ見事サノマヽ所望セシカドモ、其日ハクレラレザリシガ、翌日是非ニ所望シテモライ來リテ、應山公ヘ御目ニカケシカバ、未ダ何トモ申上ゲヌ中ニ、當代ニ此花生ヲ切ラン人ハ、宗和ナラデハ覺ヘズト仰ラレテ、殊ノ外ノ御稱美ナリシ程ニ、御銘ヲ乞シトキ、法師ト名付ラレタリ、枕草子、徒然艸ノ意ナリトゾ、木ノ端ナルガ故ニ名付ラレタリト、迚ノ儀ニ御染筆ヲト願タレバ、是ハ宗和ニカヽスベシト、其トキノ御書アリ、宗和モ達テ辭退ノ上ニ、裏ノゾキ目ニ、法師ト記サレタリ名物ナリ、總ジテ宗和ノ作ノ物ニ、名ヲ付ラレタルコトハナキモノナリ、竹ノ花生ニテハ是バカリ、瓢簞ニ齋藤別當ト云、是二ツバカリナリト仰ナリ、

サシワタシ四寸バカリナリ、裏環アリ鉄ナリ、下ノゾキメニ、法師トウルシニテ書付アリ、

○又仰ニ、先年此花生ヲカケテ、常修院殿ヲ呼タリシガ、此花生ニ水ヲヒツタリトシテ、花ヲ生タリシガ、常修院殿ノ仰ニ、此花生ニハ少シモ水セヌガヨシ、宗和ノ物ズキガ、大根カワキキリタル處ヲ見タテ、切ラレタルモノナレバ水ヲシテハ詮ナシ、ソノ上竹ヤ燒物トチガイテ、木ニ水ヲシテハ、色ガ同シヤウニナリテ、何ノ詮ナキモノナリト仰ラル、此花生ハ偶ナラデハ御出シナサレズトナリ、

○六月廿二日、上ノ御殿ヘ參候、

御前ヘ召出サレ、一昨廿日ノ大火ノ御沙汰ニテ、早速罷出タル由御褒美ナサル、御前ニモ一昨夜亥刻還御ノ由仰ナリ、憚多キコトナガラ夫迄ナクトモ、還御ナルベキコトト思ヒシニ、次デ御ウワサニ、北野平野ノ炎上ガ、遷座ノ治定ナキウチハ、得御退出ナサレズ、若シ此沙汰アレバ、天子廢朝カタガタノ儀アリ、スデニ火西京ニウツリタル由ヲ聞召サレショリ、此一事ノ始終ヲ御思惟ニテ、漸ク亥ノ刻ニ、兩社別儀ナキ由ヲ注進ノ上ニテ、御退出ナサレシトナリ、サルニテモ、凡人ノ思惟トハ格別ナルコトモ、愚ナルコトナガラ御氣ノ置カレ處ノ、格別タルコトヲ恐感シ奉ル、世上ニテハ御遷座ノヤウニモ、沙汰シ侍ルガト申シ上グ、仰ニ道安ガ申ハ苦シカラズ、若シ公家衆ナド左ヤウノコト申サルレバ、何條左アルベキ、決シテナキコトナリ云キカスベシ、竹門ヨリ奏問ナキウチハ、ナキコトニシテ聞召サレヌ分ナリト仰ラル、

○同日、　・御別業ヘ參候、

石州ノウワサニ、關白公ノ御怜悧ハ今サラ申モ愚ナリ、此頃ノ鷹司家相續ノ儀ニ付、近日岩君御方彼殿ニ入ラセラル、鷹司家諸大夫中ヨリノ願ハ、未ダ御幼稚ノ御コトニ候、今暫ク其儘ニテ御別業ニ御座ナサル、ヤウニ、仕リ候ハンカト申シ上グ、仰ニ若シ故內府ノ御子アリテ、カク御幼稚ナラバ、何方ヘアヅケ申スニヤト、御ナヂリナサル、皆一句モ申上ルコトナクオソレ入シトナリ、

○七月十一日、七月十三日兩日、上下兩御殿トモ、君樣方御匙ノ儀、願ノ通リ御赦免ノ趣キ申シ來、即御禮申上ルノ處、段々結構ノ御意ドモコレアリ、筆舌ニ不レ及云々、御家ト私ニ於テハ竊ニ功成名遂ゲタルノ微衷ニ比ス、

時享保十五戌八月五日　　芝岩記

今生ノ面目ニ備テ、槐記モコレマデニシテ已ヌ、然レドモ日々參候、不レ得レ已事多シ、續篇ヲ記シテ以テ老悔ニ供ント欲ス、

槐記卷之七　終

明治十五年四月四日
華族蜂須賀茂韶藏書ヲ寫ス、
古筆了仲所藏之槐記、五卷以下ヲ欠キ、且ツ錯簡アリト雖モ、
本書ニ較ブレハ、訛謬少キヲ以テ、據テ之ヲ校ス、
同年九月十二日　　五等掌記瀧澤規道、
明治卅三年七月
依近衞公爵家藏本並川崎千虎氏藏本校正

小杉榲邨校閲
雛田千佳艮校正

槐記　續編巻第壹

近衛豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

○享保十六年辛亥元日、參候、
如例年御口祝拜戴ス、君様方御祝儀、次ニテ拜見ス、拙カ歳旦ノ揮毫献上ス、（川本揮テ試ニ作ル）
舊年相レ地卜ニ鄰近一新屋迎レ春賀ニ白頭一自笑不レ知老將レ至、涼期ニ三伏一月期レ秋、

○四日　參候
先日献上ノ拙歳旦ノ詩、御和韻アソバシテ、御試筆遊シタルノ由、御物語御口ヅカラコレヲ承ル、
舊年養レ疾掃ニ塵席一和氣迎レ陽山水頭、背レ醴喫レ茶拋ニ藥釜一、一樓花月富ニ春秋一、

○七日、　御茶湯初、拙、二三、
御次ヨリ直ニ通ルベシ、御案内ハアルマシキヨシ、仰ニテ表ヨリ御路次ニ入リ、御待合ニテ少シ休ミ、直ニ入ル、
御掛物、左京大輔顯輔、古今ノ春ノ歌切ナリ、百人一首ノタナビク雲ノタヘマヨリノ歌ノスヂナリ、俊成卿ノ師匠ナリト仰ラル、ワカナノ歌トモアリ、
一文字紺地金ランン中ツ、（川本作中鶴ノ唐ヌイ）　上下トクサ色、タカラヅクシ、（川本色ノ下、ドンスノ三字アリ）

御釜アシヤ、

○○ヨリ進ゼラレタル由、コレハ、古織所持ノ釜ナリ、フタモ古織ノ物スキナリト仰ナリ、フタニ、カスカヒ、二所ニアリ、見コトナルコト申モ愚ナリ、爐中ナ、カキ爐ニシテ、御カケナサル、

御會席、

御棚、環、羽箒、

御汁、牛房、ヨメナ、一シホ鴨、
御平、御嘉例ノ福煮
御猪口、コノワタ、
御皿、鮭ノシホ引、白酒カケ、
御吸物、キスゴ、コキノコ、
御菓子、小キツマミヤウカン、ホツキイモ、
中立、鉦ニテ御案内、四ツ初、大中ユツキ、小後中、（川本作大中、中中）

御花生、カラエビラ、
御花、ウス色ノ梅、福壽草、
御水指、備前ヌリブタ、
御茶入、ヨシノシユンケイ、ヒヤウタン形、金氣春慶トモ云、

御茶杓、常門樣、（川本作常修院樣）

御茶碗、朝鮮、袋ミラ漢東、（川本作シシチ廣東）（而此註在御茶入之下）

二三、後ノ御炭ヲモ奉請テ底取ニテ御アケ、後炭アソバス、

二三ハ、中ノ半刻御イトマ下サレ、拙ハ夜マデマカリアル、皆御試筆ノ御清書是ヲ下サル、

○此夜御咄ニ舊冬關東ヨリ五百石以下ノ°（川本五百石已°上ノトアリ）諸士ニ御惠アリ、御書出シニ天下省略ノコトヲ仰出サルレドモ、花美ノ心不止●ニヨリ、春ニ至テ思召ノ程ヲ、仰出サルベキトアリ、（拜見スベキヨシニテ、）拜見ス、是如何ナル御思召ヤラン計リガタシ、如何思ゾトテ天下ノ宰相トナリテ、是ヲ裁斷セントナラバ、治平百年ニコヽ、萬人花美ニナラフコトヲ、俄ニ省畧センコト、其法イカヾシテ可ナランヤ、夫官人ノ服制供奉等ハ階ヲ越テ、多少スルコトアタハザルコト古來一定シ、（川本ニ古來一定也能ミ上古續日本記時代トアリ）已上日本紀時代ニハ萬民庶人田舍邊士°（川本邊士ヲ邊土トナセリ）ニテモ、官ノ加級アルコト常ノコトナリ、（今ノ官人ハ五位六位マテナリ、）七位八位九位迄ヲ授ケラレタルコトナリ、其如ク今ノ庶人ニモ次第ノ階級ヲ立テ、、其階級程ヅヽニ服ヲモ定メ、人衆ヲモ限リテ、其品ヲコユルコトナラヌヤウニナレバ、自カラ面々其分ヲ守ルベキコトナリ、四位ハ黑袍、五位ハ赤袍、六位ハ青袍ト定テ、青袍ノ人ハ如何ニ富テモ、赤袍ヲ著コトハナラヌト云ヨウニ、士庶人モ此品ノ人マテハ平絹ヲキル、コノ品ノ人ハ木綿ト定リテ、木綿ノ人ハ平絹ヲ著コトハナラヌト云ヨウニ、品ト服ト人衆ト連立テ、其品ヲ越ル人ニハ罰アル樣ニセバ、自カラ品ヲ越コトナラヌ樣ニナリテ、省畧ノ法モ立ヘキヤト仰アリ、有カタキ御志ト乍憚恐感シ奉ル、

○十二日夜、參候、

御修法ニカヽル、金剛胎藏ノ二幅ハ、本ト弘法ノ大唐ヨリ取得テ、歸朝アリシヨリ以來、近代マデカケラレテ、毎年東寺ヨリ持參シテ掛ケルヲ、清時ト云人、（櫻井家ノ人ナリ）眞言宗ノ法中トナリテ、十九歲ノトキ、初テコノ修法ノ人衆ニ加ハリテ是ヲ拜見シテ、日本ニナラビナキコノ掛物ヲ如此ニシテ紛失アラバ、再ビ得ラレヌコトハ必セリ、イデヤコノ御像ヲ新寫センモノヲト思立テ、十九歲ニテ初テ畵ヲ稽古セラレテ、ソレヨリ年月ヲツムコト十七年ニシテ成就セリ、中々唯人ノ力ニオヨブ處ニ非ズ、（川本作中々其人ノ力ニ不及）○○ノ助力ニテ修覆事終リテ、此人ノ新寫ナリナルマジキ大切ノモノナリ、（川本作今掛ルハ此人ノ新寫也、有マシキ大切ノ物也）御前ニモ弘法ノ像ヲカキテモラヒタリ、御好ニテ獨鈷ノカハリニ筆ヲ持タル圖ナリ、珍シキ御本ニアリ、拜見スベキヨシ仰セラル、

○先日御咄ニテ、加茂ノ敦直近代ノ上筆ニテ並人ナシ、此人十九歲マデ一文不通、イノ字モシラザリシガ、三條橋ノ上ニテ馬子ニ送狀ヲタノマレテ、ヨメザリシヲ深ク恥テ、初テ手ナラヒヲ

シ初タリシトナリ、終ニアレ程ノ人間トナリタルコト、先ハ志ノ學ニ叶ヒタルコトハ勿論ナリ、總シテ名人上手ノ人ノ生レナガラニシテナルハ少ナシ、何トゾ其機會アリテ夫程ノ道ヲ開クベキ端有ト見エタリト仰ラル、（今夜大島求女、中根右衛門カ思立ノコトヲ申シ上ケシニヨリテ、此御物語ニ及ベリ、）

○廿四日、　參候、

色々ノ御咄ノ次手ニ、先手ノ堀田筑前ヲ稻葉石見ガ刺殺セシトキ、イサヽカモ目色ニミヘサリシコトヲ人々稱美セシウチニ、稻葉石見ガ宿ヲ出シトキ、母公ノ方ヘ參リテ申スヤウ、私儀段々首尾宜シク、近々御加增ノ御沙汰モ內々ニ有之由、左アレバヤシキガヘヲ仰出サルベシ、左樣ノコトアレバ御屋敷拜領ノ日、早速立退、唯今ノ屋敷ハ引拂申サデハナラヌコトニ候、大方ノ人左ヤウノ時、遲々及ビ見グルシキ雜具ナドヲ、シドケナク持運ブハ、最口ヲシキモノニ候、女ドモニ仰付ラレ御カタヅケサセラレ、モシ今日ニモアレ仰出サレバ靜謐ニ、即坐御立ノキナサレ候樣ニ、御支度ナサレ候ヘト申テケルヲ、母モサル人ニテコソアルラメ、即日ニ悉ク片付オカレタリケルヲ、大變ノ案內アルトヒトシク、屋敷召上ラレケルニ、一人モ狼狽ノ體ナク立退カレケルトナン、最神妙ナリト仰ラル、柳澤出羽守ガ立身ハ右ノ時ヨリトコソ承レ、城中ノ騷動上ヘ下ヘト返シテ、奧ヨリハ口ヘ走リ出、表ヨリハ奧ヘハシリ入テ、番所々々モ立サワギケルニ、柳澤其トキハ四兵衛トテ、小身ノ人ニテ番ニ詰メ居ケルガ、終ニ不立、居ナガラ袴ヲ帶ニ少シハサミタル迄ニテ居ケル前ヲ、酒井雅樂頭、御前コソ心元ナケレトテ、ハセトホラントシケルヲ、胸グラヲヒシトヽラヘテトホサズ、酒井大ニ怒テ、雅樂頭ナルカ、顏ヲ見シラズヤト云シガ、誰ニモセヨ、此非常ヲ目ガケ、御前ヘ通ラントスル人ヲ、普通ニハ得コソ通スマジケレト申セシカバ、少ラク思惟シテ、大小ヲ拔テワタセシカバ、アツカリタリ、御通リ候ヘトテ通シケルヲ、大ニ感ジテ、御前ニテ直ニ右ノ物語ヲ申上ゲ、後々御用ニタツベキ侍ナリ、御目ガチニテ召仕ハレ候ヘカシト申上ラレシヨリシテ、段々十五萬石松平美濃守ニナリ、甲府ヲ領シケルコソ理ナレ、大變ニ應ズルハ至極ノ鎭リタル處ヨリ出ツベキコトナリト申上シニ、サレバトヨ、先年千種故三位トテ器量アル人ナリシカ、其頃御當職ノ折カラ、築地ノ中ヨリ火出デ、段々ニハビコリ禁裏院中モ危カリケル故、御前ニモ御參內ノ折カラ、アチコチト御徘徊ナサレケルニ、○ノ間ノ下土坐ニ、一人伏テアリケルモノアリ、誰ヤラン、地下ノ官人ドモニコソト、一二度ハ見過シテ御通リアリケレドモ、何トヤラン、御見知ナサレタルヤウニ、アリシホドニ、誰ゾト、御尋ヲアリケレバ、千種ニテ候、重服ノ者ニ候ヘバ（此時ノハ伯父ニテ、ソノ人ニ離テ日ナカリシナリ、川本作伯父ノ喪ニテアリ）升殿ノコトハ憚アリ、是マデ伺

候イタシ、若シモノ時ハ御用アランカト相待ニテコソ候へ、漸ニ火鎭リテ候へバ、退出イタスベキニテ候トテ、ヤガテ御門ヲ出サマニ、目出度御事ニコソ候ヘト、會釋シテ歸ラレケルニ、知ル人一人モナカリシトナリ、カヽル人ノ非常ノコトニ逢タルトキ、ウロタヘマジキ人ナリト仰ラル、

○又後西院ノ御殿成就シテ安鎭ノアリシトキ、其時ノ梶井殿導師ナリシガ、不圖火事出來テ、風ニ隨テ火散亂シ、御殿モ最危カリケル程ニ、安鎭ノ人衆モイカヾト立サワギタルニ、寺家宰相ト云ケル坊官、獨リ門主ノ後ニ伺候シテ少シモイデラレズ、安鎭トハカヽル非常ノ變異ノ災難ノタメゾカシ、御退キアリテハソノ譯立ツベカラズ、モシコノ火御殿ニカヽル程ナラバ、一人モ不殘ヤケシナンコソ本意ナラメ、宮ヲ始メ奉リ某モ一寸モ去ルベカラズトテ、遂ニ退カザリシガ、果シテコトユヱナクシヅマリテ、御殿モ無事ニ目出度カリシモ、ヒトヘニ寺家ガ力ニテ、宮ノ御手ガラニナリタリトナリト仰也、

○又先年吉良上野介ヲ淺野內匠頭ガ打タリシトキ、勅使登城ノ折カラナリシガ、其マヽ老中打揃テ傳奏ノ前ニ出デ、只今カヤウカヤウノコト侍リテ、殿中血ヲナカシタリ、ケガレタリト云ベシ、此時勅答アリテモ苦シカルマジキヤ、但シ他日御答有テ然ルヘキヤ、相尋ヨトノコトナリト申サレシニ、柳原故大納言ノ返事ニ、夫ハ處ニヨルベシ、其處ヲトホラヌ御殿ヲ敕答ノ間ニセバ、苦シカルマジト申サレタリシカバ、左アラバ其通リ申上ベシ、御殿ノシツラヒイサヽカヒマドルベシ、御料理ヲ申付タリトテ、即時ニ饗應セラレシトナリ、柳原モ出來サレタリ、老中ノ心ノ付タヤウ尤ナルコト、手ノマハリタルコト、武家ニアラズハ最サワガシカルベシト仰ラル、

○廿九日、參候、

昨日石州ヲ招タルニ付テ、茶事ノ是非ヲ御評ナシ下サル、昨日ノ茶入カザリノコト、上ノ棚ニ茶入、下ノ棚ニ環、羽箒ヲカケテカザリタルハ、カケモノト三ツカザリノコヽロナルベシ、カケモノヲカケナガシニシタル由ナリ、カケモノヲカケ流シノトキハ、一ツカザリノ筈ナリ、其仔細ハ釜ヲツチニカザリトスルハ、始終ウゴカヌモノナリ、カケモノヲカケナガシニスレバ、釜トオナジク、常カザリニナルユヘニ、茶入ト環、羽箒ト二ツカザリニナリテ下ニナルナリ、又茶ノ仕マヒニ茶入ヲ本座ニナホストキハ、右ノ手ニテナホシタルヨシヲ石見ガ申タリ、ソレハ覺エチガヒナリ、トカク茶入ハイツモ、ヒダリアシラヒノモノナリ、是非左ニテ直スベシ、袋ヲ左ニテ釘ニカケタルヨシナリ、是ハ是非トモ右ノ手ニテカクルガヨシ、左セザレバ、左ノ袖ノウラヲ見コトヲ嫌ナリ、何時モ右ノ手ニテカクベシ、

○具ノ手桶ハ一ツ足ヲ前ノ方ニシテ、二ツアシヲ先ノ方ニスベシ、總ジテ何ニモセヨ、三ツ足ノモノハ是非一ツ足ヲ前ニスルガ習ナリ、香爐杯モ一足ハ前ノモノナリ、若シ本尊ノ爲ニナホス香爐ハ、一ツ足ヲ先ニスルナリ、コレ本尊ヲ尊テナリ、左ナクレバ前ヲ尊ブハツナリ、

○二月五日、　律君樣、御紐落ニ付參候、攝、左京太夫、

先日御會始メ、院ノ御所ノ題ハ松柳遶池水ト云題ナリ、新題ノヨシナリ、此題ニテ詩ヲ作レト云バ、ムツカシカルベシ、先松柳ト云熟字モ珍シ、遶池トアリテモスムベキヲ、池水ヲ遶トハツクリオホセガタカルベシ、作テミヨカシトノ仰ヲ蒙リテ出ヌ、氷消靈沼綠如レ藍、遶レ岸青松與ニ白楊一、洞裏籠レ春長富景、人間猶未レ浹ニ風光一、臺覽ニ供フ、

○此夜ノ御話ニ、御前ノ若キ御時、內府ニテ元日白馬踏歌トモニ御勤ナサレシニ、三度ナガラ雨儀ナリシニ、三度トモ雨儀ト云コトハ不覺、イトメツラシト仰アリケルニ、愛宕故宰相ノ走リ來テ申サレシハ、アレニ候衞士ノ老人ガ申ケルハ、後陽成院ノ御時、天正何ノ年ニヤ三度トモニ雨ナリシ由ヲ告タリ、此ノ老人コソ後陽成院ノ御時ヨリ、衞士ヲ勤タリケル者ナリト申サレシホトニ奇特ノコトニ思テ、還御ノ折カラ、大閤ノ御所ヘ仰上ラレテ、御記錄ヲ御覽ナサレシカバ、イカニモ三度トモニ雨儀ノ由記サレタリ、是ハ奇特ノコトナリトテ、則チ此日ノコトヲ記錄サレシナトリ、其名ヲ問セラレシカバ、安兵衞トヤラン、イカニモ卑俗ノ者ナリシカ、昔人ハカク律義ナルコトノ侍リタルトテ、御稱美ナサレシトナリ、

○九日、　參候、

明日ノ御茶湯ノ儀ニ付、釜ノ御吟味ナサレシニ右近ニ此釜ヲ爐ニカケテ、柄杓ノ合ヲ口ニカケテ、柄トタヽミノ間ノ一寸計アクヤウニスベシト仰ラル、其釜ノ形ハ中釜ノ丸キニ、二分計口ノタチタルモノナリ、是ハ合ヲ落シテカケラルベキモノナルガイナコトト伺フ、總ジテコシキノ立タルハ、釜ニハ合ヲ落シテカケル、カヤウニ口ノヒロキハカケテ立ルガヨシ、姥口ニカクルト覺ルハアシヽ、口ノヒロキ釜ニハ姥口ニ不限、合ヲカクタルカ好ト仰ナリ、

○昨日大町淳安カ茶ニ參リタル御咄ヲ申上グ、石菖鉢ヲカザリタルコトヲ申上グ、御流義ニモアルコトナリ、イカニモヨキ出シ時ニテアルベシト仰ナリ、

○茶入ハセト左アシラヒナレドモ、右勝手ニテ釜ヲカベ付カザリテ、水指ヲコノ方ノ右ニカザリタル時ノ仕廻ニハ、茶入ヲ右ノ手ニテ本座ニ直スニテ候ヤ、仰イカニモ右手ナリ、夫ハ道具トノ間ニ手ノ入ルコトヲ嫌フナリ、夫故ナリ、是ハ茶入ノアシラヒニ

ハ非ス、

○淳安ガ半田ヲ出シケルニ、一旦アゲタル炭ヲ又オロシ候ハ、御流義ニモ是アルコトニヤ、イカニモアルコトナリ、度々御覽ナサレシトナリ、一旦アゲタル炭ヲ又オロシ、何角トスレバ、客ノ前ニハソダヲヒサシク置クコト、イナモノニ候、トルベキ火計ヲアケテ、又オロスベキ火ハノコスガヨカラント、存候ハイカヾト申上ク、イカニモサモアルベキカ、夫ハ下火次第ナリ、下火ガヨクバ何カアラン、底取ニテ汲上クル時、思フヤウニヨキカゲンニハトラヌモノナリ、其アカリヤウニテ、長火箸ニテサラリト火ヲ直シテ持入ベキナリ、

○後ノ炭ニハ香薰物ヲ、先ヘクベタルモヨシ、跡エタカレタルコトモ度々御覽ナサレタリ、炭スミテ香合ヲ□□ト御請ナサレテ、ツガレタルコトアリ、只今ノヤウニ炭取ノ内ヘ香合ヲ入ラレタルコトハ終ニ御覽ナシ、イナコトナリ、羽箒ヲ炭取ニオクコトモナキコトナリ、羽箒ハトカクモチソヘタルガヨキナリ、羽箒ハ道具ニ非ズト仰ナリ、

○フクベカザリハ、イナモノナリ、此ノ時モ、ナニモカモ一ツニカザレトモ、羽箒計ハ添ヘテカザルナリ、フクベカザリハ立テオロスヨシ、前カトモ仰ニテ候、サレバトヨ、客前ニノシキリテ立テタルモイナモノナリ、時アルベシ、夜會ナドニスルコトナリト仰ラル、

○十九日、　參候、

書院ニカザル香爐ノ灰ハ、カキアケニ致シ、火シキヲシカヌコトニヤ、圍居ニテ香ノ茶ノトキ、左ハイタスモノト承ル、イカヾニ候ヤト伺フ、仰ニ書院ハ兩方トモニ苦シカラズ、カキアケニシテモ、ヲシテモヨシ、火敷ヲシキテモ、ナクテモ、圍居ノ香爐ハ必ズカキアゲナリ、

○廿三日、　參候、

今日坊城中納言殿、阿野三位殿、御茶ニ召ル、御薗意齋、御相伴、（伴ノ下川本拙ノ字アリ）拙子テ御勝手ヲ願置キシカ、今日御勝手ヘ參上、一々拜見御丁寧ナルコトハ勿論ノコト、手廻リタルコト、靜謐ナルコト言語ニ及バズ、御氣ノ付候コト、一々不能記、表ノ御圍居、午過參集、意齋案内ニテ御入、

御掛物、　忠通公奏狀、（忠通公ハ法性寺殿、宇治惡左府ノ御父ナリ、奏狀ノ書出ニ云爲房記書トアリ、此爲房坊城家ノ元祖タリ、此故ニカケラルヽトノ仰ナリ、御客ニモ早速御氣付ニテ、御アイサツアリテカタヅケナキ由ヲ仰ラル、（爲房近本作爲方））

御釜、　天猫ノシヤウハリ、

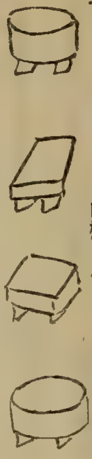
川本作天猫ノ尻張

御香合、（東山時代、少シ長ミアリテ、フンマキエ、スヾアイクチ、甲ハ鶴ヲ青貝ニテマキエニ、松ノチリ枝チクハヘタル所ナリ、松クヒノ鶴ト云フ由ナリ、ウラハ松ノ枝ハカリナリ、目出度モヤウノ出、客ニモ御挨拶アリ）

御會席、　堂上方ハ青漆ノ足付ノ膳朱ニテヨコニ一スヂアリ、意齋ハ平折敷ナリ、

御汁、　ヨメナ、フクサ、セウロ、　香物、　ウリナラツケ、ナクキ、（南京黃藥ノカフトハチ）

御膳先、　ヘンヘ、シキアン、　木具、　シチ、山椒、（杉ノヘギニテ足ツキナリ、タトヘハ、杉ヤキノ箱ノコトクニシテ足ノツキタルモノナリ、形イロイロニテ御客一人々々別々ナリ、



カヤウノ類ニテ、以上九ツアソハス、一通スミテ、カハリヲ出サル、トキハ、又形ノソレソレニカハリタルヲ出サル、ハンヘノ仕様モ、タトヘハ、クジラモチノヤウニ中一スヂヲ青色ニシテ、兩方ハ白ナリ、ソレヲクズアンシキテ、ノセラレタリ、タトヘハ、四角ナル木具ニハ丸キハンヘヲイレ、丸キニハ四角ナルヲ入ラレタリ、二カハリニテスミタリ、三カハリマテハ其用意アリ、カヤウノ所、凡慮ノ及ブ所ニ非ス、他ニアルマシキ御仕形ナリ、

御皿、　キンラン手赤繪、　鱠、　クン、ボウフウ、木ノメ、イリス、　御酒、

鉢、　アカエノゴス、平タキハチナリ、シギノヤキトリ、

御吸物、　イカノホソツクリ、サンセウノ芽、

御菓子、　アン入ノクスダンゴ、クスヲムシ、スイノウゴシニシテ、ソレヲ紙ニ入、アンヲヲキ底ノ上ヨリヲシテ、丸クシテ、又ムス、タトヘバ、大トクジキントンノ如クニシテ白シ、小々サヽイツホトモニ、身ヲニシメニシテ、クシヲサシ、水クリ一ツ、堂上方々ハ、フヲタカ、意齋ハ足ナシノ盆ナリ、

御中立、　此間ニ御前ニモ、シタヽメアソハス、

御花生、　備前ノカケハナイケナリ、是ハ風早故中納言實種ノ進上申サレケルヨシ、ツナギザルト銘アル由、

御花、　辛夷一色、

ミコトナル〻言語同斷、

御水指、　南バンカ子ノ水サシ赤色、

御茶入、　アスカ川、御[illegible]ヨリ献上、

御茶碗、　白高麗、

後ノ炭ヲモ遊ハス、ハンタ　下川本御タ持ノ字アリ　出テ、底ヲモアケラレス、

胴炭ノミヲアケラル、　御ウハサニ、トラズトモナレドモ、アマリ當世ニナキコトノヤウニスル故、出シタリト仰ナリ、

薄茶モナシニ、退出、

此夜直ニ奥ニ御入、今日ノ御客ブリ中々出來タル由、御滿足ナリ、

○今日カ子ノ水指ヲ出サレタルハ、御花生ノヤキモノナル故ニヤアルラン、面白キコトニ奉存ノヨシ申シ上、イナトヨ、ヤキモノ、花生ニテモ、各別ニ色カハルカ、スカタノカハルカ、唐物ニ和物ナド取合サハ、何カクルシカルベキ、カ子ノ水指ヲカサラレタルコトハツイニ修門主ニテハ覺エザルコトナリト仰ラル、

○ツルベノ水指ヲスヾシキ爲ニトテ、風爐ニノミ用ルコトハ心得アシヽ、總別風爐ノ四角ナル處ヘ、四角ナルツルベハ、ハマリスキタルモノナリト、兼テ仰ニテ候、只今頃出シテハ如何ト伺、サレバトヨ、ソノ日ノ寒暖ニモヨルベシ、イカウアタヽカナラバ苦シカルマシ、手桶ナドハ苦シカルマシキニヤ、色トモニ又他道具ノトリアイニモヨルベシト仰ナリ、

○手桶ヲ持ハコブハ、手ヲ持底ヘモ手ヲソヘ中スニヤト伺フ、仰ニ總別カヤウノ類、手ハ不持、ツルベモ、手桶モ底ヘ兩手ヲカケ

ハ非ス、

○淳安ガ半田ヲ出シケルニ、一旦アゲタル炭ヲ又オロシ候ハ、御流義ニモ是アルコトニヤ、イカニモアルコトナリ、度々御覽ナサレシトナリ、一旦アゲタル炭ヲ又オロシ、何角トスレバ、客ノ前ニハンダヲヒサシク置クコト、イナモノニ候、トルベキ火計ヲアケテ、又オロスベキ火ハノコスガヨカラント、存候ハイカヾト申上ク、イカニモサモアルベキカ、夫ハ下火次第ナリ、下火ガヨクバ何カアラン、底取ニテ汲上クル時、思フヤウニヨキカゲンニハトラヌモノナリ、其アカリヤウニテ、長火箸ニテサラリト火ヲ直シテ持入ベキナリ、

○後ノ炭ニハ香薰物ヲ、先ヘクベタルモヨシ、跡エタカレタルコトモ度々御覽ナサレタリ、炭スミテ香合ヲ□□ト御請ナサレテ、ツガレタルコトアリ、只今ノヤウニ炭取ノ内ヘ香合ヲ入ラレタルコトハ終ニ御覽ナシ、イナコトナリ、羽箒ヲ炭取ニオクコトモナキコトナリ、羽箒ハトカクモチソヘタルガヨキナリ、羽箒ハ道具ニ非ズト仰ナリ、

○フクベカザリハ、イナモノナリ、此ノ時モ、ナニモカモ一ツニカザレトモ、羽箒計ハ添ヘテカザルナリ、フクベカザリハ立テオロスヨシ、前カトモ仰ニテ候、サレバトヨ、客前ニノシキリテ立テタルモイナモノナリ、時アルベシ、夜會ナドニスルコトナリト仰ラル、

○十九日、　參候、

書院ニカザル香爐ノ灰ハ、カキアクニ致シ、火シキヲシカヌコトニヤ、圍居ニテ香ノ茶ノトキ、左ハイタスモノト承ル、イカヾニ候ヤト伺フ、仰ニ書院ハ兩方トモニ苦シカラズ、カキアケニシテモ、ヲシテモヨシ、火敷ヲシキテモ、ナクテモ、圍居ノ香爐ハ必ズカキアゲナリ、

○廿三日、　參候、

今日坊城中納言殿、阿野三位殿、御茶ニ召ル、御薗意齋、御相伴、（伴ノ下川本拙ノ字アリ）カ子テ御勝手ヲ願置キシカ、今日御勝手ヘ參上、一々拜見御丁寧ナルコトハ勿論ノコト、手廻リタルコト、靜謐ナルコト言語ニ及バズ、御氣ノ付候コト、一々不能記、表ノ御圍居、午過參集、意齋案内ニテ御入、

御掛物、　忠通公奏狀、（忠通公ハ法性寺殿、宇治惡左府ノ御父ナリ、奏狀ノ書出ニ云爲房記書トアリ、此爲房坊城家ノ元祖タリ、此故ニカケラルヽトノ仰ナリ、御客ニモ早速御氣付ニテ、御アイサツアリテカタジケナキ由ヲ仰ラル、）（爲房近本作爲方）

御釜、　天猫ノシヤウハリ、

川本作天
猫ノ尻張

御香[illegible]、（[illegible]アリテ、フンマキエ、スゞアイクチ、甲ハ鵜ヲ[illegible]松ノチリ枝チクハヘタル所ナリ、松クヒノ鵜ト云フ由[illegible]リ、目出度モヤウノ由、客ニモ御挨拶アリ）

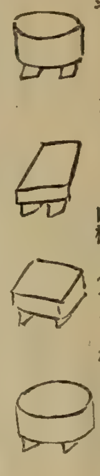
御會席、 堂上方ハ青漆ノ足付ノ膳朱ニテヨコニ一スヂアリ、意齋ハ平折敷ナリ、

御汁、 ヨメナ、フクサ、セウロ、

香物、 ウリナラツケ、(南京黄藥ノカフトハチ) ナクキ、シヲ、山椒、

御膳先、 ハンヘ、シキアン、

木具、 (杉ノヘギニテ足ツキナリ、タトヘハ、杉ヤキノ箱ノコトクニシテ足ノツキタルモノナリ、形イロイロニテ御客一人々々別々ナリ、



カヤウノ類ニテ、以上九ツアソハス、一通スミテ、カハリヲ出サル、トキハ、又形ノソレソレニカハリタルヲ出サル、ハンヘノ仕樣モ、タトヘハ、クジラモチノヤウニ中一スヂヲ青色ニシテ、兩方ハ白ナリ、ソレヲクズアンシキテ、ノセラレタリ、タトヘハ、四角ナル木具ニハ丸キハンヘヲイレ、丸キニハ四角ナルヲ入ラレタリ、二カハリニテスミタリ、三カハリマテハ其用意アリ、カヤウノ所、凡慮ノ及ブ所ニ非ス、他ニアルマシキ御仕形ナリ、

御皿、 キンラン手赤繪、　鱠、 クン、ボウフウ、木ノメ、イリス、　御酒、

鉢、 アカヱノゴス、平タキハチナリ、シギノヤキトリ、

御吸物、 イカノホソツクリ、サンセウノ芽、

御菓子、 アン入ノクスタンゴ、クスヲムシ、スイノウゴシニシテ、ソレヲ紙ニ入、アンヲチキ底ノ上ヨリヲシテ、丸クシテ、又ムス、タトヘバ、大トクジキントンノ如クニシテ白シ、小々サヽイツホトモニ、身ヲニシメニシテ、クシヲサシ、水クリ一ツ、堂上方々ハ、フチタカ、意齋ハ足ナシノ盆ナリ、

御中立、 此間ニ御前ニモ、シタヽメアソハス、

御花生、 備前ノカケハナイケナリ、是ハ風早故中納言實種ノ進上申サレケルヨシ、ツナギザルト銘アル由、

御花、 辛夷一色、

ミコトナルヿ言語同斷、

御水指、 南バンカ子ノ水サシ赤色、

御茶入、 アスカ川、御袋ヨシノカントウ、 陸奥守ヨリ献上、

御茶碗、 白高麗、

後ノ炭ヲモ遊ハス、ハンタ タ下川本御持ノ字アリ 出テ、底ヲモアケラレズ、

胴炭ノミヲアケラル、御ウハサニ、トラズトモナレドモ、アマリ當世ニナキコトノヤウニスル故、出シタリト仰ナリ、

薄茶モナシニ、退出、

此夜直ニ奥ニ御入、今日ノ御客ブリ中々出來タル由、御滿足ナリ、

○今日カ子ノ水指ヲ出サレタルハ、御花生ノヤキモノナル故ニテヤアルラン、面白キコトニ奉存ノヨシ申シ上、イナトヨ、ヤキモノ、花生ニテモ、各別ニ色カハルカ、スカタノカハルカ、唐物ニ和物ナド取合サハ、何カクルシカルベキ、カ子ノ水指ヲカサラレタルコトハツイニ修門主ニテハ覺エザルコトナリト仰ラル、

○ツルベノ水指ヲスヾシキ爲ニトテ、風爐ニノミ用ルコトハ心得アシヽ、總別風爐ノ四角ナル處ヘ、四角ナルツルベハ、ハマリスキタルモノナリト、兼テ仰ニテ候、只今頃出シテハ如何ト伺、サレバトヨ、ソノ日ノ寒暖ニモヨルベシ、イカウアタヽカナラバ苦シカルマシ、手桶ナドハ苦シカルマシキニヤ、色トモニ又他道具ノトリアイニモヨルベシト仰ナリ、

○手桶ヲ持ハコブハ、手ヲ持底ヘモ手ヲツヘ中スニヤト伺フ、仰ニ總別カヤウノ類、手ハ不持、ツルベモ、手桶モ底ヘ兩手ヲカケ

テ持ガヨシトナリ、藥鑵ヲ出サレタルコトモ不覺トノ仰ナリ、

○初更ノ頃、滋野井殿ヨリトテ、松ノ木ノ枝シクリタル七尺アマリナル中ノ枝ニ雉子ヲツケテ御文ヲ奉ラル、此度久々ニテ出仕ノ御賀ニ、先日御肴ヲ下サレタリ、御禮ヲコマコマト書テ奥ニ厨所ヲ召付サセ候、爲御慰ニ供トカヽレタリ、御文ノ上ニハ兵部大輔殿トシテ御諱アリ、御文ノ書出シニ、准后殿下云云、今如此記ス人ハアルマシトテ御褒美アリ、若シ權大輔ヨリ返事アラバ、明日コナタヨリ爲持下サルヘシ、召置テカヘルベシト申付ラレタリ、使ノ人口上ナリト申上ク、仰ニシバラク、マタスヘシトテ、右ノ御返事御書ニテ被下、此ミヨトテ御見セアソバス、御書ノ中ニ鷹飼之得物、厨處之調法令祝著、先恐々穴賢トアソバシタリ、

○右ノ滋野井殿ヨリノ文ノ追書ニ捌物ノ御禮アリ、何事ニヤト伺フ、仰ニコレハ此巳前ソノ方モ考ヘヨト仰付ラレシ、續日本紀ニ出タル玉來ノコトヲ、問ニコサレシホトニ、此書付テヤリタレハコノ外ノヨロコヒニテアリタルナリト、ソレハ玉來ハ芝ノコトナリト覺エ候、サレハトヨスナハチ唐ノ□□カ詩ノ題ニ、靈芝ヲ詠シテ、詩中ニ玉來ト作リタリ、コレホトタシカナル證明ハナシト仰ナリ、舊冬田付某カ、曰左遷ノ文字ハ遠流ニカキリタルコトニヤ、但シ官ヲ貶セラルヲ左遷ト云ニヤ、大臣タル人ヲ大宰ノ帥ニナサルヽモ官ヲ貶セラルヽ義カト云云、余曰、左遷ハサスラヘト訓ジテ、流罪ニカキルコトヽ覺エタリ、但シ窺フベシト、或時コレヲ伺フ、仰ニ流罪ニ限ラズ、一官ヲ貶セラルヽ皆左遷ナリ、流罪モ亦其一ナリ、正字通ノ遷ノ字ノ下、悉ナリ、漢ノ時右ヲ尊テ左ヲ卑ンス、右坐ヲ貶シテ、左ニ遷スノ義ナリト、

○二月廿四日、　廿二日（川本作昨日）　一條右府公ヨリ召サル、翌廿四日、參候、

右府公ノ仰ニ、准后ノ御染筆ヲ御所望ナサレタク思召ス、表向ヨリ仰入ラルヽコトモイカヽナリ、其方參テ申上ヘシト、即チ御疊紙ヲ出サル、ウチニ表題紙三枚、一枚ハ俊成卿八十賀、一枚ハ近江八景、一枚ハ西湖八景トアリ、疊紙ノ上ニ兼香トアリ、予御請申上ルヤウ、御染筆ノコトハ諸方御斷ノ上ハイカヽアランカ、但シ此御所ノコトハ各別ノ思召コレアルコトニ候ヘハ、御辭退モアルマジキカ、併西湖八景ノコトハ前以御沙汰コレヲ承ルコト侍リ、イカヽアランヤ、唯御使ニテ候ハヽ、參リテ社申シ侍ラメト申上テ、翌廿五日、右ノ趣ヲ申上グ、准后ノ仰ニ、サルコトアリ、參テ申サンハ西湖八景ノコト、世間通用ノ八景ハ西湖ニアラズ、瀟湘ナリ、前カト是ヲ御吟味ナサレケルニ、トカク西

湖ニハアラザル由、大明一統志等ニ見エタリ、群書拾唾ニモ、瀟湘八景、西湖十景ト云モノヲ載テ、今世間流行ノ八景ハ瀟湘ナリ、列朝詩集、歴々ノ衆ノ八景モ瀟湘トアリ、傳籍モソノ通リナリ、大概コノ八景ト云モノ、本西湖ニテモ瀟湘ニテモ立タルモノニアラス、復古カ洞天清錄ニノセテ本山水ノ畵アリシニ題シテ、此八ツノ名ヲ記シタルモノナリ、ウチニ瀟湘ノ字アルカラ、不圖西湖八景ト云出シタルモノナランカ、然ル故他ヨリ此八景ノコトタノミアルニハ、或ハ御所勞、或ハ故障ニコトヨセテアソハサズ、シカレドモ此度ノ義ハ各別ノコトナレバ、分キテ仰ラル、ナリ、其御所御畫讚ノ物各別ニ西湖ノ八景ニテアラバ西湖トアソバシ遣ハサルベシ、若モ世間通用ノ西湖八景ニテ候ハヾ瀟湘八景ト遊バシ進セラルベシト仰遣ハサル、即刻參リテ此由ヲ申上グ、御念入ラル、條、御滿足タリ、其意ニ任セラレテ如何樣ニモアソバシ遣ハサルベシトノ御コトナリ、又即日參リテ右ノ趣ヲ申シ上グ、然ラバ追付此方ヨリ持セ進セラルベキノ由ニテ相スメリ、

○茶入ノ紐ノ結ビヤウ、左手ニテワナヲナシ、通用ノ紐ヲ左ノ方ニテ流通スルヤウニシテ、引トキハ手ヲ覆ヒニシテ、コレヲ引トマル處ハ、大指ヲ仰ケテ引トメテ結レヌヤウニスベシ、ムスフトキモ、左ニテワナヲコシラヘ、引シメテ左ノ方ヲ通用トシテ右ノ人サシエビニテ、キツト押ヘテ結ビ付、紐ノムスビ目、仰ムクヤウニシテ、前ニ洞ヲ見ルヿヲ第一ニスベシ、甲ノ平ナルハツカリノ先ヲ下ニツケテ、甲ノナデカタナルハ肩ニ付テ、先サガリニシタルガヨシト仰ナリ、

○長紐ノコトヲ伺フ、長ヒモハ、大海內海ニカギリタルコトニヤト伺フ、仰ニ大海內海ニ限ル可ラズ、併唯今ハメツタニ長紐ニシテ用ルモ、本ノコトニアラズ、長紐ニセテ、カナハヌ茶入アリ、チト、メヅラシク長紐ニスルト云義ニアラズ、常ノ茶入ノ紐ト云モノ、茶入袋ノ口ヲ一杯ニヒロゲテ、ハナノ處ヲ折カヘシテ、三ケ一ナルモノナリ、夫ニテ出入ヨキホドノ茶入ハ、ミナナガヒモナリ、大海ヤ大肩ツギナドノ胴マデ、手ノカヽリテ出ガタキハ短紐ノトガナリ、長紐ニセテハナラヌモノナリ、是ハ大海ニカキラズ、長紐ノ筈ナリト仰ナリ、

○此日柿ノ形ノ御茶入ヲ出サル、コレハ手ニスユルニオヨバズ、胴ヘ手ノカヽリテモタル、程ノ茶入ハ、手ニ居ルニオヨバヌト云々、先日其方ガ見セシ、花藤四郎ノ茶入ナドハ手ニ居ヘテヨカラント仰ナリ、

○先日御薗意齋ガ、掛物ノ土佐光信ト云物、見事ニ思テ寫スベシト取ヨセ、トクミレバ光信ニアラズ、畵ハ見コトナリ、土佐ノ筆ニ非ズ、其時代ノ人唐畵ヲ寫シタルモノナリ、自カラガ筆力

ニ非ズ、咋日右京モ吟味シテ此ニ歸セリト仰セラル、總テ此公ノ御吟味ノ筋、凡テ如此、世上ノ目利ト稱ルモノハ只何トナシニ、ドコヤラカ見コトナリ、ドコヤラガ似セモノナリト云ハ、己カ術ノキカヌユヱナリ、此公ノヤウニ筆力ヲ盡シテ、至極ヲ究メラレタル上ニ、數萬ノ筆力ヲキヤツメラレタル上ニドフ云道理ニテト、理カラ究メラレタルモノ故ニ、白人ニテモイヤトイハレズ、此畫ノコトモ似セモノニテハナシ、人ノ筆力ヲ寫シタル處アリトノコト御尤ナルコトナリ、ウツクシク彩色シタル畫ノ、日本樣ナルカアレハ、何角ナシニ、土佐〳〵ト稱スレハ、イツレモ人モソノ心ニナリテ見ル故ニ、土佐ノ中ニテハ、ドレニテアルヘシトバカリ目カツキテ、土佐テナシニ、唐テナシニハ、誰ニテアルヘシト云氣カツカスニ、吟味スル故ニ、常ニアタラス、且土佐家ニテ見ニモセヨ、アラヌニモセヨ、唐ヲウツシタルモノニテ、畫ハ上手ナカラ、己カ筆力ニアラスト、コレワレ人ノ上ノ術ニアルベキコトナリ、療治ニテモ人ノテキワナルヲ見テ寫テ治スルハ治シヲ、セルコトモアリ、何ニモセヨ、似セテスルニハアラ子ト、己カ肺肝ヨリ出タルコトニハアラス、甚タ御尤ナルコトナリト奉感、

○二月廿七日、晝、　恕軒、御茶獻上、御圍意齋、拙、兼テハ養安意齋ナリ、養安所勞ニ依テ御斷、拙ニ仰付ラル、ナリ、正午參候

待合、　圓座一ツ、上烟草盆計、兩人共煙草ヲ不飲故ナリ、圓座、

釜、　與二郎、中アミタ堂、

掛物、　日高峰ノ詩、高峯ハ建長寺ノ一代ニテ、無準ヨリノ嗣法ニテ、疎石ヨリ先ナリ、（高峰名顯日、後嵯峨帝皇子）

雞鳴雙闕曙、山翠漸霏微、日映金宮上、雲依玉殿飛、萬國秋貢入、千騎早朝歸、自咲何為者、緇塵滿素衣、

右貝季翔、曉望ノ詩、印アリ、一文字金紗、中トンス、上下シケ、

香合、　黄檗ノヤウニテ布袋ナリ、交趾ヲ似セテ樂ニヤキタルモノナリ、蓋ノウラニ樂ノ字アリ、

羽箒、

會席、　御膳杉ノ木具、通同足アリ、

汁、　フクサ、小芋　香物、ナスビ、ナラツケウリ、

皿、　鯛ノイケモリ、イリザケ、ワサビ、ケン、ボウフウ

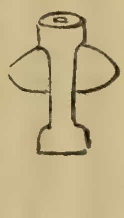
煑物、　ヒヨドリ、シラガウト、フキ、

吸物、　松露、ヨメナ、　菓子、オグラマンヂウ、山ノイモ煮メ、

御中立、　御菓子入、杉ノフチタカヒクキ足ツケテ、

花生、　宗旦ノ二重、無理ト銘アリ、　花、イチハツ、アチモシ、

水指、　イガ、



茶入、

是ハ先日アノ方ニ招カレタル時ノ茶入、何トモシレガタキモノユヘ、御目利ヲ奉願ヨシニテ出サル、ヘラヲコシニテ、手ツクリノモノナリ、ロクロ細工ニアラス、コレコソ長二郎ニテアルヘシト仰ナリ、

袋、　丹地ノ安樂庵、

茶杓、　瀬田掃部、　茶碗、　朝セン新渡、

薄茶生菓子等持參、奥ニテヒロメラル、　暮前意齋、法皇樣ヘ參ルヨシ、御暇下サル、恕軒、拙四ツ前マテ罷リ在ル、夜食下サル、イロイロノ御咄ドモコレアリ、恕軒ヘ黒樂ノ向ヒ兎ノ香合ト、サツマ燒ノ茶入、蓋袋箱共ニ御好ニテ被仰付タルヲ下サル、アリカカキ由シ、一所ニ退出、

○三月五日、　參候、

總シテ門院號ト申スコトハ禁裏ノ御門ノ名ニテ候ヤト、但シ十二門ノ外ノ名モ有之コトニ候ヤト伺フ、仰ニ十二門ノ外ニ内外ノ門號甚多シ、門院號ハ門名ノ外ハナキコトナリ、門院號ノ最初ハ宇治殿ノ御子、上東門院カ始メナルベシ、此人已ニ位ヲ辭セラレテ、後宮ニモ非ズ、皇后ニモ非ズ、大皇后ニモ非ズ、稱スベキ樣ナシ、故ニ其居所ヲサシテ禁裡上東門ノ脇ニ御殿アリタル

マヽニ、上東門院ト號シ奉リタルモノナリ、後世皆々其例ナリ、後世御遺號ニ迄門院號ヲ用ルモ、ヤハリ其心得尤ナリ、是ニ付テ只今ニテハ廣ク沙汰ハナラヌコトナルカ、右ノ上東門院ヲハジメ、上代ノ門院號ハ大方外ノ門號ナリ、又近代ノ門院號ニ內ノ門號ノアルハ合點ノユカヌコトナリ、朱雀ニナラセラレケルユヱニ朱雀院ト申シ奉リ、近衞ニナラセルヽ故ニ近衞院ト申シ奉リシナリト仰也、

○機嫌ト書クコト、近代ノ文字ニテ、上ツ方ノ御無事ノ號ニナリタルコト、是非モナク、只今ニテハ書狀ニモカヽ子バナラヌヤウニナリ來リタルナリ、此日滋野井殿ヨリ、此度久々ニテ出仕ノ祝儀トシテ松ノ枝ニ雉ヲ付テ奉ラル、其書面甚面白キコト也、コノ始ニコノ二字アリタルヨリノ御ウハサナリ、元來機嫌ノ二字ハ、佛書ノ語ナリ、アナガチ無事ノコトニハアラズトテ、釋氏要覽ヲ出シテ御見セナサル、楞嚴ノ語ナリ、何トシテケ樣ニハアリタルコトニヤト申上、仰ニ東山ノ時分、京將軍ノ折節ハ、出家ナラデハ學問スル人モナク、佛書ナラデハ徘徊セザリシユヘニ、タマタマ文章ラシキコトモ、ミナ法中ノ手カラ出シタルコトユヘニ、カヤウノ文字モツカヒタリト見ユ、今日ニテハ自カラ改ラレモセス、道理モ聞ヘス是非ナキコトナリ、

○此日置花生ニ木瓜ヲ生テ見ヨト仰ラル、即チ生ケテ御覽ニ入ル、總ジテカヤウニノビタルモノヲ生ニハ、細口ノ花生ハアシヽカヤウノ枝ハ横ニ出シタルガヨシ、横ニ出セバ此花生ニテモヲジメガイラマナリ杜若ヤ卯ノ直ニノビタル者ハ廣口ガヨキ也ト仰ラル

○京師ノ所司代ヲシタル佐渡守ガ時分ニ、關東ヨリ上リタル御茶壺ノ、錠ハオリテ、カキハナシ、色々ト詮議スレドモ見エザリシヤ、才覺ノ者アリテ御茶壺ヲフリテ見レバ、箱ノ內、カラカラト鳴コトアリ、十カ九、此箱ヲシメサマニ茶堂衆カ、此中ニカギヲ入レテ、デウヲオロシタルナラン、鍛冶ヲヨビテアケサセンニ、何條ノコトノ有ベキト申セシヲ、佐渡守キヽテ、左ヤウニハナルマジ、錠ハ何ノタメニオロシタルモノゾ、鍵ナラデ、ヒラカバ、私ナルベシ、必定內ナル鍵ニテアルベケレドモ、訟ヘズンバアルベカラズトテ、終ニ訟ヘケルトナン、

○花ヲ生ルニ、花ヲムシルト云フコトアリ、ムシリテ枝モ花モ、各別ニヨクモ、アシクモナルコトナリ、タヾムシラント、カヽリテハ、メッサウナリ、枝ゴトノウラニ付タルツボミ、ウラニ付タル花ハ皆ムシレバ、表ノ花ヒトリヨクナルモノナリト仰ラル

○上ニ云タル置花生ニホケ生タルトキ、幸ニタチノヒタルヨキ枝ノアリシホトニ、ソノマヽデ生テ御覽ニ入シカバ、仰ニ尤モ枝ニヨルコトヽハ云ナカラ、枝ノマヽニテ生タル花ハ、當世ヤウ

ノ花ノ自然ヲ生ルトハ云ヘドモ、大方ガヌカルモノナリ、カヤウニタチノヒタルハ、梢ヲキリテ下ヘヲロシ、下ノ枝ヲ上ケテ生ルデヨクナルコト多シ、氣ヲ付ヘシト仰ラル、

○三月七日、　參候、

風早故三位、奈良ニテ求得タルトテ、大ヒヤウタンヲ持參セラレテ、此瓢タンノ口ノ處、朽テ候ヘドモ、古キヒヤウタンナリ、イカヤウニモ、御モノズキニテ、花生ニ御切リ下サルベシトノコトナリ、一段見ゴトナリ、其儘ニテ置レタリトモ、クルシカルマジト云ヒタレドモ、達テ所望シタル程ニ、切リテ大和歌ト名付テヤリタリト仰ラル、コレハヨキ銘ナルベシト思召トメ御コトナリ、御心ハイカヾト申上シカバ、先奈良ヨリ出タルナレバ、大和ハキコエタルコトナリ、ヘウタンノ上下ヲ切レバウタナルベシト仰ナリ、面白キ御コトナリト申上、昔後西院御時、節ノ五ツアル竹ヲ、舞姫ト名ツケラレタリ、面白キ御銘ナリト仰ラル、

○法中ノ墨跡ニ和南々々トアルハ、野衲ナト書クカハリナリ、ソノコト釋氏要覽ニ見エタリトテ、御抜書遊バシ下サル、

○今ノ人々ノ御茶ヲ仰付ラレ、献上セラルヽニ服紗ノサハキニガテンノユカヌコトアリ、多クハ紙ノ間ヨリ出ス、モロモロノ請次スル人ノ懐中ヨリ出スモイカガナリ、サリトテ棚ニカサリ、又小四方ニノセテカサリ付ルモ、イナモノナリ、昔陸奥守カ茶道宗林カ茶ヲ献ゼシ時ハ、棚ノツリ竹ニ結付タリ、コレモ尤ナリト仰ラル、（川本、イカサマニモ妥紅ノサハキニ合申ヤト申上ク、イカニモ據有テ尤也ト仰ラル、）此時ノ會席ノ汁ニ、鮒ヲシタリ、凡ソ料理ト花トハ、咄ト見テトハ大ニチカウモノナレバ、咄ニテハ、合點ノイカヌコト多キ、中ニ此汁ナト別テ咄ニテハ合點ノイカヌコトナレドモ、鮒ノ汁ニハツイアルマシク、ヨク仕タリ、鮒ノ子ノアル處ヲ、眞四角ニキリテ、汁ニ仕タルホトニ、骨モ大ニシテ喰好、先ハ子計ニテ骨ナシ見タル處モキレイナリ、錦小路カ家ヲカリテ仕タルトキナリ、右京モ感心シタリ、イカイ馳走ナリ、客一人ニ大ナル鮒一疋ツヽノツモリナリトテ、笑タリ、又此時ノ水指ハ、杉ノ片口ニテアリタリ、旅宿ノ旨ヲアラハセリ、何角道具ドモハカ子テソノ用意ヲシタリケルニ、水指ハカリヲ如此ニ仕タルコト、マコトニ作者ナリト仰ラル、

○八日、　參候、

仰ニ三日ノ初雷ハ、サテシモツヨカルベシト思ヒシカ、夫程ニハナクテオサマリタリ、加茂ノ邊ハ近年ニナキ大雷ナリト、玄蕃ガ申タリ、ワツカノチガヒニテ、ヒヾキノ多少アルモノナリ、世間ニテヨク人ノ云コトニ、光ルト其マヽ雷ハキビシキト云、是ハ近キユヘナリ、遠キユヘニ光ルニアヒダモアルナリ、光ハ

鳴ノ勢ナレバ、別段ニアルベキヤウナシ、自體鳴ト電ハ同ヲコトノ筈ナリ、遠近ノ差別マデナリ、是ニ付昔ノハナシアリ、今昔物語ニ見エタリト覺ユ、誰トヤラン云、笛ノ名人ガ、山ニ登リテフキケルヲ、又其トキノヒチリキノ名人カ、山ニノボリテ、是ヲキヽ、サテモヨキ笛カナ、今ノ世ニ是程ノ笛ヲフク人ハ、某ナラデハナキ筈ナリ、定テ某ナルヘシ、イザヤ相吹セントテ、ヒチリキヲ出シ、吹キケルヲ、ツレノ友タチノ聞テ居シガ、先ノ人モコノヒチリキハ、某ナラテハ吹マシトテ、大ニ感ジケルヲ、ソハ聞ケル人ノ耳ニハキコヘズ、コレニテモ相吹ナルヤ、先ノ方ニヨク相合タリト云モ、フシキナリト云ケレバ、カノ人云ヤウ、總ジテ遠方ノ物音ニアハスハ、一段ヅヽ早メテ吹ガ習ナリ、一段早メテ吹ハ、丁度相和スルト申タルヨリ、遠方ノ相吹ノ故實ニナリタリトナリ、御亭ニテ前ノ擣衣ヲ御覽アルニ、杵ノ落タル時ニ、音ハセズ、杵ノアガル時ニ音ノヒヾキアルハ、アレホドノ遠サユヘナリト仰ナリ、

○十六日、　滋野井頭中將殿ヲ被召、見櫟、拙、

前夜參タル時ニ仰ニ、尙通公ヘ逍遙院ヨリ詩ヲ請ハレケル、消息幷尙通公ノ詩ノ御掛物ヲ拜見仕タリヤ、已前ニ見櫟カ參タル時ニ、御カクナサレタルカト、御覽ナサルヽ由ノ仰ナリケルホトニ、私ハツイニ拜見イタサヌ由ヲ申上シカバ、其方カ見ズハ、見櫟ハ見マシ、明日カクヘシト思召ヨシナリ、カヘリテ思フヤウ、拙カ記臆ナキハ今ニ初ヌコトナレハ、サラハ見ルヘシト思テ、年々ノ槐下與聞ヲクリテ見タレバ、未ノ二月五日ト酉ノ二月廿七日ト兩度、見櫟カ故內府公ノ御供シテ來リケルニ、一度ハ小松內府重盛、一度ハコノ尙通ノ詩ヲ上ノ床ニカケラレ、逍遙院ノ消息ヲ下ノ床ニカケラレケル由ヲ記セリ、コレハト驚キ、急キ使ヲ馳テ、女中方マテ右ノ趣ヲ申上ク、ステニ右ノ御掛物ヲカケラルヽ處ヘ申上ラレシカハ、記錄ニ若(シコ)コトハナシトテ御褒美アリケル由、人々吹聽ナリ、(イト難有コソ覺エタリ)此日參リタル時記サレズ、ヨクモ記タリトテ御褒美ナサル、則御床ノ掛物、家長ノ消息ナリ、家長ハ俊成九十ノ賀ノ詩歌ニ序ヲカヽレシ人ナリ、其時分ノ人ナリト仰ラル、

○今日滋野井大納言ヨリマタコソ氣ノツカヌコトヲ云越サレタレ、ムカシヨリ天子ノ在位何十年ト記スハ、讓位ノ年ヨリ記タルカ、即位ノ年ヨリ記タルモノカト云コサレタリ、ハナノサキノコトナガラ、急ニ返答ナリガタシ、氣ノツカヌコトナリト云ヤリタリ、跡ヨリ考ヘツカハスベシトオボシメスナリ、昔ヨリ前年ノ讓位ニ翌年ノ即位ナニホドモアルコトナリ、イカヽ思フゾト仰アリケル程ニ、在位ト申スカラハ即位ヨリニテアルベキカト申上シニ、イヤトヨ、ケ樣ノコトハスベテ道理ニテハ云ハ

レズ、タトヘ云アテ、モ例ガ合ヲバ詮ナシ、神代ヨリノ例ヲ合シミテ、ヒシト合ヲバ考ヘトハ云レズ、俗儒ヲ記誦ノナラヒトテシカレトモ、眞學ノヤマイハ得テハ道理カラヲシテ古例ヲ辨セス、誤多シ

○頭中將殿ノ御ハナシニ、コノコロ關白ヘ御料理ヲ上シニ、盃ノ臺ヲ物ズキニテ桃ノ枝ニ實ノナリタル處ヲ臺ニシテ獻ゼシヲ、御褒美ニテ、後段々關白公ヨリノ御馳走ノ御料理ノ節、又右ノ臺ヲ出サレシ程ニ、イカナル故ニヤト思ヒシガ、難波ヨリ杯ヲ取始メラレシカバ、盃ノ下ニ紙ニ包ミタルモノ、アリシ程ニ、タシカニ御詠ナルベシト思テ居シカドモ、誰取上ベキヤウモナク、皆々讓リ合テ辭セシカドモ、難波カ盃ヲ取ラレシユヘニ、取上テ拜見セラレシカバ、御詠ニハアラデ、桃花盛ト云題ヲシルサレタリ、互ニ目ト目ヲ見合セ、ヤウ〳〵亥ノ刻前迄ニ當座ノアリケルコトノ、苦シサヨトノ玉ヒシヲ承リテ、見櫟モサコソハオハスラメ、サリトモ四ツマデニ出來タルハ、何レモ何レモノ御方々ナレバコソト感ジ奉ル、

○十九日、參候、

風爐ノ灰ノヒヅミノコトヲ伺フ、五トクノ腹ヨリ、五トクノ角ニアタルコトハ、常ノコトナリ、壁付ノ五トクノ腹ヨリ、客付ノ五トクノ角ニツクルコトニヤ、客付ノ五トクノ腹ヨリ壁付ノ五トクノ角ニツクルコトニヤト伺フ、仰ニソレハアシキ不審ナリ、總體風爐ノ七ヒズミハ、ヒズムニ非ズ、ロクヲ立ルナリ、第一ニ厚板ヲヒヅマスベキヤウハナシ、ロクナル坐敷ニロクナル板ヲ直スニ、ヒヅムベキヤウナシ、丸クナル筈ナリ、丁ト其通リニ風爐ヲ直セバ、客付ヨリ見タルトキニ、風爐ヒヅミテ見ユルナリ、夫故ニ風爐ヲ少シヒヅマセテ、カベ付ノ方ヲ少出シメニシテ直セバ、客付カラロクニ見ユルナリ、故ニ灰ハ又厚板ト同ジヤウニスルト云モノナリ、灰カラ見ル故ニヒヅムヤウニ思ヘトモ、厚板カラ見レバロクニツクルト云モノナリ、スレバ是非トモカベ付ハ腹、客付ハ角トノ筈ノコトナリ、

○昔ヨリカサヲ茶碗ト云コトアリ、三ツモ五ツモ茶碗ヲ重テ出シテ、薄茶ヲ立ルコトアリ、此ノ時ノナラヒアリ、上ノ茶碗ノ湯ヲ、次ノ茶碗ヘアケテ立ルカ習ナリ、夫故ニ次ノ茶碗ハコボシノ處ニ直スナリ、コボシハ夫ダケ跡ヘ引ナリト仰ラル、シカシ、カヤウノコトハ必セヌカヨキナリ、先ハ人々ノシラヌコトハ異風ナルヤウニ思ヒテ、目ヲトムルモノニハ、ミトラル、カ、セソナキコトナリト仰ラル、

○ナツメヲフクハ指三ツニテ、ナデマハスヤウニシテ、五ノ指ノ皆入ルヤウニ見ユルガヨシ、フヤキハ甲ヲ先ヘフク計ナリ、夫モ五ノ指ノ皆入ルヤウノ筈ナリ、

○茶杓ハウツムクハ苦シカラズ、仰クヲキラフ柄杓ハ内ヘ向ガヨ

シ、外ヘ向ハキラフ、

○廿二日、　參候、

昨日茶湯ニ花ヲ拜領ス、御禮ヲ申上グ、仰ニサレバトヨ、シヤカヲツカハスベシト思ヒテ、トリヨセタレバ、ヤウヤウ、一リンサキタリ、花トモ云ガタシト見ユ、其方ガ初テ風爐ニアクルヨシヲ聞召タルホドニ、四季咲ナレトモ、カキツバタヲト志シテ、他所ヘモラヒニ遣サレテ下サレヌト仰ラル、面目他ニコエテ難有、作者ハ其心ヲシラス、唯珍トノミ思テ生タリ、表ヘ出クル所ヘ、淳庵ニアヒテ、右ノ物語ヲシテ、御所ノ御志ノクハシキコト中モ恐アリトテ、互ニ恐感シ奉ル、

○四月十一日、　入江樣御成、拙、

○四月十五日、　參候、

所司代參ラルヨシ承リ、朝ノ内ニ參候シ、風爐ヲ拜見ス、見コトナルコト中モオロカナリ、ソモ此灰ハ入江樣ヨリ被進シ灰ニテ類稀ナル灰ナリ、少シ拜領ス、例ニハカハリタル灰ノヨウニ見受タルヨシ申上、仰ニイカニモコレハ風爐モ大ナリ、カタカタ此灰ノカタニシタリ、コレヲ昔ノ人ハ杉ト云、山ト云灰ノ仕樣ト、杉ト云灰ノ仕樣ト二色アリ、コレヲ杉ト云、上ノ開タル風爐ニハ、コレモ又面白シト仰ラル、御床ノ御掛物ハ定家ノ文歌入、御花、川骨二リン、葉一枚、唐金ノ

花生、表御床、張瑞圖カ一行、掩關閑坐トアリ、河内ノ守モ、午半ノ頃參ラレタルヨシナリ、大門ヒラカレズ、ククリヨリ入ラル、此掛物ヲ見テ感ゼラレシヨシナリ、唯今ノ御身ニテハ御相應ノモノト感シ奉ルノ由、申上ラルト承及、

○廿四日、　參候、

總シテ茶ノ湯ニ中立ヨリ衣服著易ルコト、初メ花ヤカニ、後シメヤカナルカ、初メシメヤカナル物ヲ著シ申カヨキコトニ候ヤ、但シハジメハシメヤカニ、後花ヤカナルカ宜候カト伺フ、仰ニ夫ハ昔ヨリ咄ノアルコトナリ、嚴殺（川本作有）殿ノトキ、病中ニ慰ニ皆々茶湯ヲ申付ラレタルニ、稻葉美濃守カ中立以後、大小紋ノ衣服ニ花ヤカナル上下ヲ著テ仕タルヲ、人々異風ナルコトニ思テ、此事ヲ片桐石見守ニ咄セシニ、石見守カ云クルハ、ソコカ茶湯ナリ、必シモト兼テ定ラレヌ處ナリ、今度ノ茶ハ大樹ノ御慰ニ、被仰付タルコトナレハ、何カナ珍敷コトニテ、慰ニナル樣ニトノ心得尤ナリト被申シ由ニテ、此時代ノ咄ニナリタルコトノ由ナリ、此事ヲ三菩提院殿ヘハナシタリシ人ノアリシヲ、一門ノ仰ニソレハ合點ノ行ヌコトナリ、慰ニナラバ左樣ノ事ニテテナクトモ、如何樣ニモ、慰樣アルベキコトナリ、衣服ヲ異風ニシタテ、慰ニナル樣ニト云フコトハ、茶ノ本意ニハアルヘカラス、合點ノ行ヌコトナリト仰ラレタリ、總ジテ花ヤカナル衣服、シメリタ

ル衣服ト云コトニハアラス、著替ルハ初メヨリ給仕ヲシ、花ヲ生ケナドシテ、ケガレタル衣服ユヱ、茶ヲ立ルニ臨テ改メ出ソト云コトナレハ、衣服ノモヤウニ心ハアルベカラズ、尤所ニモ客ニモ場ニモ時節ニモヨルベキコト、著カヘヌコトモアルベシ、必ズシモト云コトニハアルベカラズ、

○廿五日、　參候、

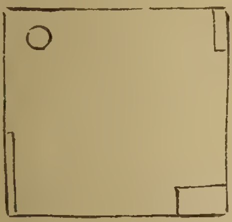
御本殿ヘ興福寺ノ寶物ドモ參ルニ付、准后樣幷房君樣、律君樣、入江樣、御成、拙、

華源磬、洒濱石、明道明通川本作菩薩ノ像ハ、先年モ參リタル故ニ、此度ハ不參、其外ミナミナ來ル、各々拜見ヲ許サル、准后樣、午前還御、入江樣君樣方、暫御跡々ニ成セラル、關白樣、入江樣御相伴、御下ヲクタサル、奧小書院、

○廿七日、　大德寺御佛詣ノ序、寸松庵ヘ御成、拙、淳庵

待合、一疊大目ノ所、四方ヤ子、棚三重、中段硯箱、カケゴノワキニ竹紙ニカケ合ニ筆

二階ノ上リ段、石ニテ三段アリ、イツレモ、ウスヘリアリ、一チ上ノ段フクロ戸二枚アリ、上リ段ノ兩方ニ、腰カケ、一方ニハ竹ノ皮ノ圓坐二ツ、タバコホンアリ火入七寶、灰吹アンヲン、タバコ入奉書、此マデ芳春院案內、亭坊白キコロモニテ御迎ニ出ラル、互ニ禮服ノ御アイサツアリ、〔御前ノ御煙草盆ハ二階ニアリ〕



圍居、四疊シキ、アカリ口大目タヽミ、出床板床ナリ、ニシリアカリ、世間ヨリ大ナリ、タテヨコトモニ四五寸モ廣ナリ、佐久間將監殿好ノ圍居ナリ、

掛物、博大士ノ像ニ、寧一山ノ讃ナリ、ヨメス、一文字紫地印金中ハシヤ、上下ハコモントンス、佐久間好ノ表クナリ、畵ノ筆者不知トノコトナリ、唐筆ニテ見コトノヨシ、御噂ナリ

風爐、カナ風爐、小ナリ、丸形ナリ、コレモ佐久間寄附ノ由ナリ、好ミトミユ、

薄板、木地、

釜、イツレモ、皆ヒヤウタン形ナリ、クワン、

釜ノ形、皆瓢箪ナリ、

會席、御前木地ノハンダイ、次ハヲシキチヤワン、

汁、根イモ、三ツ葉シメシ、フクサ、

皿、竹ノ子、アラメチムスヒ、土佐鉄、ツノ山桝、ニヒヤシ、

香物、小皿ウリ一切牛、

坪皿、ユバ、酒シホ、醬油、ワサビ、

引物、ツクネイモ、色付、菊ノ葉ノ油アゲ、

菓子、御前三寶フチ高、次ハ唐物、菓子盆、大德寺キントン、シキサトウ、河茸、

吸物ハナシ、

御中立、初ノ樓、白衣御迎ニ出ラル、

花生、佐久間將監、

花、紅ト、ウス色トノアザミ二リン

水指、赤金釣瓶、

茶入、アゲソコノ手ノ由仰ナリ、甚見コトナリ、アゲソコニケ樣ノハ稀ナリ、藤四郎ナリ、コレハ江月所持ノ茶入ニテ、遠州ノフウ袋ナリトソ、油ノ湊ト銘アル由ナリ、袋ハモフルノ由仰ナリ、芋ノ子ノ大ナル形ナリ、黃茶ノ波形ノヨウナル袋ナリ、

茶杓、佐久間將監、

格別見ゴトノ由仰ナリ、節ヲ先ニヨセテ、節ヨリ前ニ樋アリ、ソノ

茶碗、上朝鮮新渡ナリ、次井戶、

直ニ書院ヘ御通リ被遊、
床御染筆、養レ雛成ニ大鵠一、種レ子作ニ長松一、
書院床、唐硯水入カウチ、カラスナリ、
御菓子、白羊カン、
御烟草盆、三玉寶アタラシキ火入灰吹、奉書包、
又三寶、サカイノユキセンヘイ、リウカンニク、
温飩出テ還御、入江様ヘ御立寄、両人トモニ、ウス茶仰付ラレ
花二ツヅヽ生ル、淳安ウスバタニ杜若、掛花生ニカラマツ、拙
掛生花ニ卯ノ花ニアザミ、青磁ノ置花生ニ、ユリ二リン、暮前
月出、御夜食、
汁、スマシ 葉付大根、メツカタケ、モツク、コブ、
皿、サシミ、竹ノ子、ジユンサイ、コンニヤク、青スミソ、
坪皿、トウフ細ギリ、淺草ノリ、
暮六半頃、御歩行ニテ還御、
○廿九日、　道正庵、御茶獻上、拙、淳安、御供、
待合、上、圓坐一、次、圓坐二、烟草盆、奥ノ四疊ノ御圍ナリ、
掛物、
寂蓮色紙タイ表具、五月やみ、くらぶの山の、ほとゝきす云々トアリ、時ニ取テ面白シ、フトサ七寸計ノ色紙上ニ雲形、下ニ竹ノ模様アリ、薄黒クミユ、仰ニコレハ、銀泥ノ變シタルモノナリトナリ、少シ竪ノ長キヤウ見ユ、仰ニ古ノ色紙ハ如此、竪ノ長キモ、又横ヘ長キモ、有ルモノナリ、眞ノ四角ナルハナキモノトナリ

香合、キンマ、キヤラ、

フタハ世間ニテ見ル金馬ナリ、ミハ子コロナトノ朱チ見ルヤウニ、甚フルキモノニシテ、下地竹ノヤウニミユ、一ツ羽ノ木ノ柄ト合セ飾ラル、

風爐、

アツエン見ゴト、コレハ宗旦ニアツラヘテ、宗旦ヨリ道正ヘ遣シタル風爐也トナリ、甚見事ナリ全無疵、クロミ、イチノ〳〵ノ様ニ、クハン入ガ入テ見事、荒目板ノ上板中、(川本作薄板荒目)

釜、アシヤ、

タトヘバ、中形ノ雲龍ノフトサナリ、ヨク風呂ニ取アイテヨシ、仰ニ少五德カ高ク、イツキ少シ高ト、

御膳、　會席

木地モミト杉トノ中ニテ、ハキタルハキ目、カハト、飯臺ノ形ナリ、御茶碗、ヤキモノ白コケワンノ形、御煑物椀坪トモオナシ、

汁、スマシ 鱚カモ、フキ、皮午房、

平、竹ノ子青アヘ、

皿、アコタテ酢、

吸物、ミソ、イモマキ、

肴、カツチ付アブリ、ホイロカケ、

菓子、クズチマキ、シキ砂糖、カウタケ煮シメ、小栗、

御中立、

花生、手フクベ掛花生、

遠州ヨリ先祖ヘ來ルヨシ、裏ニ日新ト銘アリ、見ゴト、

手フクベノ手ヨリ手マデノ角ニモアラス、平ニモアラス、手ノ少シ脇ヘヨセテ、眞鍮ノ角ノ環ヲ打タリ、口ハ道正庵モノズキニテ、桐ノ木ニテ蓋ヲ一杯ニシテ、眞中ニ竹ヲ入テ、花クハリトス、形タイテイノ手瓢ヨリ、少シ小サクフカシ、炭取ニハナルマシキモノナリ、見立テ花生トセラレシト見ユ、

花、夏菊、

水指、朝セン燒ノ由色黒ナリ、

茶入、オリベ、共蓋

茶入ハカキ薬フタハ白ニ菊ノ模樣アリ、

茶杓、

筒ノ書付ニハ瀬田掃部トアレトモ、道億ノコレハ高橋玄瑞ナリト云レタリ、アレニモ一本アリ、アハセミルニ、寸分タカハズト云々、高橋玄瑞ト云ハ、利休ノ茶ヒキ坊主ナルヨシナリ、コトノ外ニ見コトナリ、表アブラ竹、ウラニ虫クヒアリ、(川本作、アレニモ三手アリ、合セ見ヘシ、時代不差)

茶碗、朝日燒、

後菓子、ヤウカン、コンフ、

御菓子入、

絲皮ノ由タトヘハクリノシタラクナルヤウノモノナリ、イカサマニテ、ホリタリトモミエヌモノナリ、

○晦日、參候、

逍遙院ノ家ニ傳リタル伊勢物語ハ定家ノ一筆ニテ、表青紙トテ世間ニヨク人ノシリタル本ナリシガ、要用ノコトアリテ加賀中

納言ヘ取ラレタリ、ヨクヨクノ秘藏トミヘテ、表紙ノ上ニ、今はや、これにはなれて、伊勢のあまの、舟流したる、心地こそすれ、ト書付ラレシヨリ、天下ノ名物トハナレリ、カヤウノモノコソ名物トハ云ベケレ、又青江ト云茶入ハ、細川家ノ道具ナリシヲ、織部ガ所望セラレテ、其カハリトシテ青江ノ刀一腰、銀千枚ツカハシタリ、ソレヨリ青江ノ號アリトカヤ、其時分ノ人口ニ、細川程ノ人ノ其過分ナル料ヲトルハ、不屆ナリトイヒシカトモ、ナニノ沙汰ニモオヨバス、其後茶湯ヲ度々シテ、又細川ヘ使者ヲ以テ申請タリシ茶入ニテ、茶湯ヲ度々イタシミレバ、兼テ存シタリシヤウナコトニテハナシ、カタヲタケナキヨシニテ、又千兩ツカハシタリ、細川是ヲ受テ、右ノ人口ヲ事トモセズ、細川ノ心ハ、千枚ヤ千兩ニハ目モツカズ、コノ茶入ノ勿體ガ、中々千枚ヤ千兩ノ器量ニアラ子ド、侍ガ所望セラレタレバ、義理ニテコソツカハシタレト申タリトナリ、カヤウノコトハ、却テ風雅ト云ベシト仰ラル、

○今ノ世ノ利休ノ橋ノ坊ノ形ナリトテ、二重ノ下(川本作節)ヲノベテ切タル花生多キモノナリ、其外ニモ是ハ何ノ形、角ノ形ナリトテ、多ク出ルハイナコトナリ、總ジテ細工ニテ拵タルモノハ、棗ヲハヂメトシテ、其形、此形ト云コトアルベシ、上手ニサヘサセレバ、分厘モ違ヌヤウニナルベキナリ、竹ノ花生ハ、利休ガキリ始タルト云コトナリ、尤スグレタルモノズキナリ、千萬無量ノ竹ニ、イカヤウノ竹ニテモ同ヲコトニテ、分寸チガハヌト云、竹ハナキコトナリ、夫故一本一本ニテ、其人ノ物數寄樣ハアリタルモノナリ、常門常ニ仰ラレシ、花生ノキリカタニハ、全ク法ハナシ、尤窓ノキリヤウ、釘穴ノホリ樣ハ、其一流ノトリヤウアリテ、節ノアガリ下リ、景ノ前後、色ノ厚薄、山キズ等ノコトハ、其人ノ器量ニテ、全ク法ハナキモノナリト、然レバコノ形アノ形ト云モノハ、アルベキヤウナシ、ソレ是形ノ似タル計ニテ形ニハアラズ、總ジテ此手、アノ手ト云コトハアルハスナリ、タトヘバ、キヌタノ手、七官ノ手ト云、青磁ハ形ニハ非ズ、性ノコトナリ、似テ非ナルコトナリ、

宗和ノ花生ニハ總ジテ銘ハナキモノナリト承ル、法師ト云フ、木ノ花生ト齋藤別當ト云、フクヘノ花生トノミナリト仰ラル、ソノ花生中ノ法師ヲ拜見ス、又類アルベキモノニ非ス、二ツト切ラルベキモノニ非ス、切テモ此形ノ木二本トハアルヘカラス、アリタリトモ面白カルヘカラス、コレニテコソ天下ノ名物ニテアルベケレ、分厘チカハスニ、コシラヘラル、モノナラバ、其時代ノ竹ニテ切ラハ其作ト云テモナルヘキコトナリ、コノ法師ハ不思議ノコトニテ拜見ヲユルサル、見コトナルコトハ申モオロカ、凡慮ノ及ベキコトニアラス、法師ノ花生ノコトハ前ニ記タルト覺ユ、

○五月十日、　參候、

滋野井入道參ラレ、御前ニテ拙ヘ仰ラレケルハ、醫書ニ鈎脈ト云コトアルヨシ、脈狀病形イカヤウナルモノヤト、拙答ヘテ申ス、弦鈎毛石ハ四時ノ定脈ニシテ、病脈ニアラズ、鈎ハ夏ノ平脈ニシテ、前曲リ後直ク、帶鈎ヲトルカ如クトコソ申セト申上シニ、其帶鈎ノ形ガ、石帶ニ入ルコトユヘナリト仰ラレシ程ニ、内經以來、難經ノ鈎脈ノ處ニ、諸註ヲ揃ヘテ書テ差上、其次ニ

揖ナド唯今マデ、鈎豚ト申スハ、曲レハ鍵ノ様ナルモノヲ、押ヘタルヤウノコトト存ジタリ、石ノ帶ノコトニテハ、覺悟チガヒタルヤウニ候ト申上シニ、イザトヨ今ノ世ノ石帶ハ、便ナル爲計ニシテ、古ノ石帶ト云モノハ、石帶ニ環ヲツケテ、其端ヲ一方ニカケテ結ビ、其アマリヲ後ノ腰ニハサミタルモノナリ、其環ノ古唐物ヲ御前ニ御所持ナサレタリ、何ソハ見スベシト仰ラル、

○十五日、參候、

裝束ノ色ヲ染ル物ニ、アカ花ト云モノ、アヲ花ト云モノアリ、アカ花ニ對スルノ義カ、アヲ花ハ今ノ鷗跖草ナリ、アカ花ハ實ナリ、アカハナト云和名ノ漢ニ出デ、、何ト云モノゾト云コトヲ、覺悟セズヤト仰ラル、暗ニテハ覺ヱ不申、和漢併名ニテ考ヘ申上ベキ由申上グ、翌日考證ノ趣ヲ申上グ、考證別ニ有ナリ、先尤ノ様ニ思召ナリ、アカ花ト云モノハ不見、アカキアカ玉ノ木、アカヱト云コトハ出タリ、アカキノ漢名ヲ朱砂根、（川本朱砂眼トアリ）アカヱ赤車使者、アカ玉ノ木ハ紫金牛トアリト申上ク、其後高倉家ヘ仰ツカハサレタレバ、落葵ト申モノ、ヨシ早速申上、本草綱目ニテ考ヘラル、ニ、物ヲ染ルコトモアリ、サスガニ高倉家ナリ、ヨク覺エラレタリ、漢名マデ吟味ハ奇特ノコトナリト仰ラル、（コノ事高倉家ニテハ、大ニ秘事ナリ、人ニ語ルベカラズト仰ナリ、）

○滋野井殿ヨリ山アヒト申モノハ、山ノ藍ニテ候ヤ、山ノ間ニテ候ヤ、裝束ニ山アヒノ色トアルモ、アヰニテ染ルニテ候ヤ、山アヒノ色ト云トコニヤト申越サル、不覺ト仰ナリ、（コレモ考證一卷差上別ニ筆記アリ、）

○六月七日、祇園祭禮ノ山ホコ、君樣方御覽御供、寺町永養寺塔松林院（川本作永養寺ニ中松林院）ヘ智君樣、四條新川ヘ房君樣、御成、兩御方ヘ御菓子獻上ス、

○六月十五日、參候、

先日フクラノコトヲ御吟味ノ節、和爾雅ニ和品ノ由記セリト申上シガ、其後堀七太夫ニ御咄アリシカハ、夫ハ先年如圭ガ、何トヤラン申タルヤウニ承ルトテ尋子シガ、冬青樹ノコトナリ（川本作冬青柄ノコトナリ、）救荒本草ニハ凍青ト出セリ、此フクラハ日本ニテ笏ニ作ル、木ナルガユヘノ御吟味ナリシガ、正シク本草ニ象笏（川本作象牙）ニカヘテ、此木ヲ笏ニ作ルヨシヲ載タリ、正シキ凍青ナルベシ、コレニテ思フニ、昔人ノナス所、多クハ其說漢ヨリ出ヅ、日本ノコトナリト思フハアヤマレルコト有ト仰ラル、

○廿五日、參候、

今日御掛物トモノ虫拂ニテ數十幅拜見ス、求馬要人同伴ニテ、其名筆上等ノ味ヲ述ラル、ヲモシロキコトナリ、多クハ探幽、主馬、永眞等ナリ、主馬ノ探幽ニ比スルニ、マサレル所アリト見ヘ、出山ノ釋迦ノ像、併觀音ノ像アリ、コノ輪光ヲ書タル所、

探幽ハ二筆ナリ、主馬ハ二筆ニアラス、一筆ニシテ其初ルトコロヲシラズ、尤探幽ガフタ筆モ、其墨次目見ユル所ニアラズ、シカシ二筆ハ二筆ト見エ、主馬ハ一筆トニシテ、其始ル處終ル處ヲ見ズ、コノ細工凡夫ノ及ブ處ニ非ズ、永眞ハ兄ヲマネテハ及ハザルコトヲシリテ、已レヲ書タルモノナリ、御前ニモ此三幅ナド、ヲサヲサ主馬ニモ探幽ニモ、マクルモノニ非ズト仰ラル、求馬ガ論ヲヨク聞ヘシ、アノ處ヨリ目利タル處ノメキ、ニアラサレバ、書ヲメキクトハ云難シ、形リカタチカラ覺エタル分ニテハ、主馬モ探幽モ、ヲリヲリ雪舟樣ヲ書タリ、周文ヲ書タル時ハ大ニチカフナリト仰ラル、永眞ハ世上ニ何トシテカホメヌカラ、各別ニ兄ヨリヲトリタルト思フハ大ニ非カゴトナリ、十ニヒトツモ永眞ノ正筆ハマレナルモノナリト申サル、(今日拜見ノ永眞ナト世上ノトハ各別ナルモノナリ、我等永眞ナリト云モノ一幅所持シタリ、アルトキ御覽ニ入レシニ大似セモノナリト仰ラル、今日ヨリミレハ各別ナルモノナリ、)仰ニ主馬カ心ニハ雪舟トイヘトモ、ソノヤウニコワキモノトハ思フマシ、古法眼ナトハ直下ニ思ヒタルナラント仰ナリ、

○雪舟ノ維摩ノ像ノ長二尺七八寸、横三尺四五寸モアルベキト見ユル御掛物アリ、リンホウニシテ、軸モ四分バカリニシテアリ、異ナ御表具ナリト存シ、詩シニ毎度御圍居ノ御床ニカヽル由ナリ、ソノ爲床ニ合テ御表具ナリト承ル、カヽル大ナルモノ、何トシテ圍居ニカケラル、ヤト伺シニ、毎度夜會ノ茶ニカケナサルトノ仰ナリ、甚奉感、(夜會ニハ筆フトナルモノヲ掛ル由、兼テ仰ヲ承ルナリ、故ニ一クタリナトノ大字墨跡ノコトナルト思ナリシカ、畫ノモノナト同シ心ナリ、尤ナル御コトナリ、)

○廿九日、參候、

今日例年ノ如ク時服拜領、(川本此所ニ晒一疋縮一反トアリ)畫ノ御相伴、日本ノサクラハ漢土ニナキトモ、アリトモ、云コト古今未定ナリ、白樂天カ山櫻ノ詩ヲ引クコトナリ、山櫻トアルカラハ詩ノ體モ山櫻(ヤマザクラ)ノヤウナリ、然ルニ白氏文集ニハ山櫻トハナシ、詠櫻桃詩ナリトアリ、夫ヨリシテ又櫻桃ヲサクラノコトナリト云說アリ、櫻桃ノ書ヲ見ルニ全ク櫻ニ類セズ、所詮唐ニナキモノナリヤ、少キヤ、櫻ト見ユルモノハ海棠ナリ、是ヨリシテ糸ザクラヲ垂糸海棠ト云ト云說モイカヾ、垂糸ト云カラ枝ノタレタルヲ云フト思フハ誤ナリ、垂糸ト云ハ、海棠ノ花ノシベノ長クシテ、タレタルヤウニサク海棠ノコト、アチノ繪ニ垂糸海棠ト稱スルモ、全ク海棠ニシテ、サクラニ非スト仰ナリ、

○頃日ズンドフルキ鞠ノ書ニ、マリハ七條河原院ヨリハ、四條アマベノマリヲ好ムト書タリ、四條トアレバ今ノエタ村ナルベキカ、アマベト云文字ハイカヤウニ書タルヤラン、蜑戶トカクノ由仰ナリ、蜑ハ海邊ノモノナリ、村里ノ者ニ非ス、蜑戶トハイカヾト、滋野井入道ノ申サレシ程ニ、夫ハ考ヘヤウアシ、、蜑ハ海邊ニ限ルモノニ非ス、海ニ入テ魚ヲトル者ヲ蜑ト云、山ニ

入テ木ヲ切ル者ヲ蛋僕ト云ノヨシ、夷域志ニ見エタリトテ、見セシカバ、入道大ニ感ジテ、多年ノ不審晴タリトテ、喜悅セラレシト仰ナリ、

○折フシ津逮秘書ノ御虫拂ノ中ニ、六一題跋ノ中ニ、謝仙火ノコトアリ、コレハ先日加州ヨリ火ヨケノ札ニヲシテ避火コト仙洞ノ御所ヨリ出タリトテ、專ラ歷々ノ衆中マデトリハヤサル、尤アルコトニヤト、榮君ノ御方マテ、保壽院殿ヨリ仰進セラル、拙ヘモ同名補庵ヨリ申シ來リ、出處アルコトニヤト申來リケルヲ、トモニ其說ナキコトナリ、出處モ有ベカラズト申遣シタリケルガ、不思議ニ此處ニ出合タルコソ奇特ナレト申アケシカバ、ソレハ珍シキコトナリ、左樣ノセンサクアルモシラス、拔書ヲカルベシ、サシカミスベキヨシ仰ナリ、（此コト後ニ北山醫話ニ拔書タリケルヲ見タリ、）

○七月四日、　參候、

昨日堀七太夫カ參リテ申セシハ、宋史ノ中ニ天子ノ人ヲ召スニ、虎爪板ヲ以テスト申候、虎爪板ト申モノ何ナルコトヲ云カ考ヘズ、モシ御前ニ御考アリヤト申上、仰ニ何トヤラン思ヒ當リタルヤウナレドモ、即時ニハ思召出サレズ、追テ御考下サルベシト仰下サレナリ、總ジテ物ヲ考フルニハ、先シレヌコトノ出タルトキ、是ハナニノコトナラン、何ノ中ニテ考ヘ出スベキモノゾト、コヽカラユカネバ、彼カラ行テ、其筋々ニ行アタレハ大ヤウ考ヘアタルモノナリ、何トナク虎爪トアルカラハ字典ヤ、正字通ノ虎ノ處ヤ、爪ノ處ニテ考フベシト思テハイツ迄モ考得ラレヌモノナリ、是モ天子ノ人ヲ招クカラハ、職ノ書ニアルベキカト思ヒテ、七太夫モ問シナラン、其心カラノ職ノ書ニテハ考得ヌナラン、御前ニ思召當リタルコトノアルト仰ラレシハ、筆道書ニ虎爪書龍爪書ト云コトアリ、コヽヨリ考ヘ得ハ、入ラルヘキカト思召テ御考アリシニ、案ノ如ク、天子ノ勅書ヲ下サレテ召サルル格ニヨリテ、龍爪書板ニテ召サルヽコト、虎爪書板ニテ召サルヽコトアリ、其コトナルベキカト、書拔テツカハシタリ、大ニ感ジテ埒明タリト、悅タリト仰ナリ、

○十六日、　參候、

此コロ暢齋ガ行狀ヲカリテウツシタリシガ、俗名ヲ交名ト書テコレアリ、交名トハ漢ノ書ニ見エタルコトニヤ、日本ノ俗名ト申スモノハ漢ノコトハサテオキ、日本ニテハ上ツ方ニハ曾テコレナキコトナリ、スレハ俗名ヲ漢ニ何ト云ト云コトハ、有マシキコトナリト存テ尋シニ、交名ト古來唱ヘ付タルコトナリトシテ、周防守町中ノ法度ヲキハメテ出サレシ、古今ノ大法十七條二十一ケ條ト云モノアリ、其中ノ町人ノ俗名ノコトヲ交名ト書テ、ケウメウト稱ス、ソレナドニテ古來ノ稱號ニテ書タルナラントヽ申シキト申上シニ、御前ニ其コトハ兼テ、不審ニ思召テ考ヘオ

カレタルコトアリ、サリナガラ、シカトシレカタキコトナリ、幸ニ吟味アソバスベシトテ、御見セナサル、先史記ノ貨殖傳ニアリ、此文儀モイカナル心カトリエガタシ、唐ノ六典ニモ出タリ、交名トモ、夾名トモ、狹名トモカケリ、御記錄ナドニ每々出タルコトナリ、連名ノコトノヤウニ、古來スメテアレドモ、シカト連名トモキハメガタシ、タトヘバ階下ノ侍從何十人、內二人ノ狹名ヲ記シテ、內省（川本作內者）ニ申ストアリ、此レ計ニテハ連名ノヤウニ見ユレドモ、史記ノ趣ニテハ連名トモ見ヘズ、所詮此出所ニテハ晄ト明メカタシ、マタ出處ノ出ハ考合ニモナルヘシ、七太夫ニ史記ノ文儀並外ニカンカヘ當リタルコトノアリヤト御尋アリタレドモ、シカト覺悟不仕、カサ子テ申上ベシト申スト仰ナリ、

○八月七日、參候、（百拙、拙、）

今日光雲院樣、（安克君、川本作安光君）七年ノ御遠忌ニテ御非時ヲ下サル、昨日ノ交名ノ義ヲ百拙ヘモ御尋アリシカトモ、僧名ニモ覺エ申サヌヨシ申サル、人ノ異名ヲ毘名（川本作昆名）ト申スヨシヲ申上ラル、

○十五日、參候、

月見ニ入江樣御成ニテ、御亭ニ伺候ス、仰ニ時代ノ出所ハ氣味アシキコト多シ、サレドモ其チガヒタルニテ、コチラカラアチラガスムコトガアリ、推古ノ朝ニ、守屋ノ臣、神道ヲ崇メ、佛道ヲ賤メ、難波ノ浦ヘ佛像ヲ流シタルコトノ處ニ、鎌足ノ臣ノコトアリ、後太子ノ守屋ヲ亡サレシ所ニモ、鎌足トアリ、是ヲ古來淡海公ノコトナリト、スメテオクコトナリ、淡海ハ時代ヲヒタ、シキチガヒナリ、何百年ヲ以テ數フベシ、然レドモ何本ヲ合セテモ、幾所ニモ鎌足ト出タリ、氣味ワロキコトナリト思ヒシカ、或時不圖、古今著聞集ヲ見テ、コノ事體ヲノセタル所ニ、此鎌足ノ名ヲ海足トシテ置タリ、是又何本モカクノ如シ、スレバ國史ノ鎌足ノ字ハ、海足ノ字ノ誤リナリト、始テ覺悟シタリ、何ニテモアレ、不審ノ出タルコトノ心ニ存スルガアラバ、書付テオケバ、思ヒモヨラヌ處ニテ、夫ト見出スモノナリト仰ナリ、

○御亭ニテ入江樣ヲハシメ各々山ノ端ノ月ヲ詠メテ、前川ニウツル景色、遠村ノホノクラク梢ノサタカナラヌ、一々風景ノイハン方ナキ折カラ、イツモ仰ラル、コトナルカ、月ノ大サハ人々ノ目ノ分量ニテ、各々チカウモノナリト云、御前ニハコレホトニ思召、入江樣ニハ何程ト、ソレ〳〵ニ各々面々ノ大サヲ、云々、皆々チカイテ、同シヤウナルハ少シ、大小各別ノチカイナリ、イカナルコトニヤ、

○十九日、參候、（右京太夫、拙、）

右京申上ラレシハ此頃ノ御月見ニハ入江樣モ御成ノ由、如何ナ

ル御輿ニヤト、何事モナシ、亭ニテ夜更ルマテ御覽アリタルヨシテ仰ラル、右京カ隣近ノ野人カ發句ヲ申上ラル、酒徳利はかりうつむく月見哉ト致シタリ、是ハ面白キ句ニテ、シカモ艶ナリ、俳諧ノ文句ハ其人ニヨリテ、各別ノハタラキアルモノナリ、昔シ中院前内府ニハカタノ如クノ肥太リニテシカモ大男ナリシカ、後西院ノ御前ニテ栗コモチハ、コシラヘヤウアシクレハ、タベカヌル、アレハチギリテハ、其味ナシ、一口ニクハル、ヤウニコシラヘタルガヨシト申上ラレシヲ、若キ殿上人ヒソカニヨリテ、中院ノ一口ニクハル、ハイカ程ノ大サニヤト、大笑セラレシカ、誰カ狂歌ヲ讀テ出ス、中の院、口のひろさぞ、しられぬる、かまずに通る、雜煮もちまで、トセラレシヲ、平松故中納言のすれずにとほるトシタキトテ大笑ニナリシヲ、御前ニモ跡ニテ叡聞ニ達シ、御笑ニナリシトナリ、

○仰ニ此頃求馬カ書タル松ノ畫ヲ見テ、カタノ如ク出來タリ、シカシコノ枝ハ、書仕舞タル跡ニテ仕テ候、フトキモ跡ヨリ足タル筆ナルベシトアツシカハ、如何ニモト申ス、求馬カ驚キタルホドニ、イナトヨ、目利シテ云ニハアラズシテ、筆道ニ心在筆前ト云コトアリ、凡ソコノ板ニ何ノ一字ヲカ、ントカ、コノ一巻ニ何ヲカクベシト思フトキニ、先カ、ヌサキニ、コ、ハカウ、コ、ハカウト思惟煆煉シテ、サテ書カ、ルトキハ、タツタ一筆ニテ、直下ニ書終ル、コレ書法ナリ、コノ枝計ハ心筆前ニナク、筆後ニアルユヘナリ、夫ユヱ見ユルト仰ラル、拙、右京太夫ニ向テコノ御意ソ、美談有難コソ覺ユレ、拙カ家ノ療治ナド、別テ心カ筆前ニナキ故ニ、少ノ變症ニテモ、何カハウロタユルハコ、ノ故ナリトコソ、

○廿四日、法輪院樣ヘ御成、滋野井入道殿、拙、午時御成、初夜前還御、謠アリ、源助、

○九月九日、御禮ニ參候、

明日ハ香嚴院君ノ御正忌ニテ、今夕百拙和尚ヲ召ナリ、御非時ヲイタ、クヘキノ由仰ナリ、午半百拙、

御掛物、後醍醐帝古今ノ切レ、御花生、カラカ子紫菊、

仰ニ兼テ百拙御ウハサアリシ、惠林ノ一切經ノ音釋ヲ、ヤウ〳〵出サレタリ、拜見スベキヨシニテ、序ナガラ拜見ス、是ハ大秘藏ノ書ニテ、日本ニモイクバクモナキモノナリ、建仁寺ノ文庫ニ唯一部アルノミニテ、先外ノ寺院ニハアリトモキコヘズ、建仁寺ノハ唐本ニテ一切經ヲクリテ難澁ノ處アレバ、其僧ヲカヒテ拜見ヲ願フトキハ、長老衆ノ立合ニテ、其卷ノミ許サルトコソ聞召タレ、其外ニハナカ〳〵ニ御キ、及ヒモナカリシコト、叡山ノ東堂ニ書本ノアルヨシヲ聞シメシタルホドニ、幸此度輪門ノ御上洛ニテ、御對面ノ折カラ御ウハサアリシニ、東叡山ニ

モナシ、夫ハ幸ノコトヲ聞召レタリ、御センサクノアルベキ由ナリシカ、不思議ニ出テ、此方ニモツカハサレタリトテ出サル、タトヘバ本草綱目和版ノハコホトノ二ツニ入ラレタリ、巻數ハ一切經ヲ皆ノセタレバイカ程アルコトカ、イザシラズ、冊數ハスベテ百冊ナリ、尤モ急ニ寫シタルモノトミヘテ、色々ノ合文書込アリ、イカナル大上根氣ノ人ノシツザソヤ、大方ニ一筆トミエタリ、百拙ニモ始テ拜見ノヨシ申サル、尤フルキモノ、惠林ハ唐ノ玄宗時代ナリト申上ラル、

○和漢トモ凡ソ一二三ヨリ十マデノ數字ニ、一ハ壹、二ハ貳トカキテ、拾マテアルコトハ、何ノ爲ニコシラヘタルモノソ、マキラハシキコトニテ、何トソ分ケアルヘキコトナリ、考ヘアリヤト御尋子ナサル、和尙申上ラレシハ、ソレハ老學庵ノ筆記ニ出タリト存スト、則老學庵筆記ヲ出シ見セラル、御前ニハ牌海ノ中ニテ御覽アリテ拔出サレタル御筆記アリ、定テ老學庵ガ出處ナルヘシト仰ナリ、忽チ老學庵ニ出タリ、シカレドモ何ノ爲ト云コトハナシ、ソレ故何ヤランニテ見當リタルヤウナリ、重テ申シアクベシ、コレハアノ方ニテ、一ノ字、二ノ字ナト一畫ノ增減ニテ各別ニチカウ故ニ、商賈川本商賈ヲ高賈トセリナトノ家ニ格別用ル義ナリト申サル、イカサマニモ、醫書ノ分量ニモ、出タルコト多シ、マキレヌタメナレバ、分量人大事ノモノナレバ別シテナリ、ソノ次ニ、廿日已後ニ稔ノ字ヲ書コトモ、廿ノ字ノマキレヌタメ、唐人ノ今モ商賈ノフテウニヨク記セリト被申、

○百拙和尙ノ話ニ、古ヨリ我國ヲ我國ノ人自ラ稱シテ日本トモ、日東トモ稱ス、唐ハ日本ヨリ稱シテハ漢トモ、唐トモ云ドモ、アノ方ノ人自ラ稱シテ何トモ云コトナシ、イナコトナリト申上ク、仰ニイカニモ左アルベキコトナリ、漢ト稱シ、唐ト稱スルモ世ノ名ニテ、地ノ名ニハ非ス、コレラ日本ノ手ガラト云ベシ、日本ハ百王不易ノ國ニシテ、日本ト稱シテカハルコトナシ、唐ハ一世ノ變易スルカラ文物名分コトゴトク改ルヲ、手ガラニシテ、名ヲ改テヲモニシタルモノユヘ、漢ノ世ナレバ漢ノ稱ナリ、唐ノ世ナレバ唐ノ稱ナリ、忽チ今ハ清ト稱スルカ、アチノ例ナリ、是ニツケテモ、アチヲ中華ト稱ルコソイマイマシケレ、毎度ノコトナレバ云ニ足ラスト仰ナリ、

○和漢ト稱スルコト昔ヨリノコトナリ、カラヲ漢ト稱スルコトハ、日本通用ハ漢唐盛ナリトス、ユヘニアチラヲ唐ト云ニ對シテ、和唐トモ云ヘリ、サアラバ其代々ノ名ヲ稱シテ、和唐トモ、和元トモ、和宋トモ云ベキコトナリ、漢トノミ稱スルコトハワケモナキコトナレドモ、ナルホド漢ノミ和ト對シテ、古今通用シテ、和漢ト稱シテ、苦シカラスト云コト、アチノ書ニ見ヘタリ、終ニ近代朝鮮ノ使者ノ海ニ浮デ、難風ニ逢テ、島々ヲメクリ、本唐ニ至リシカ、其處々ノ方言雜談ヲ記シタル書ヲ、漂海錄ト

云、サマ〳〵ハアルモノナルカ、大方カキ本ノモノナリ、近來朝鮮本ノ漂海錄ヲ得ラレシガ、其中ニ古今ニ通ッテ、和漢ト稱テクルシカラヌコトヨクミエタリト仰ラル、

○近代、唐人ガ唐物ノ書付ニ必ス山ノ字ヲ付ルコト何ノユヘニヤ、何トゾワケアルコトニヤ、和尙曰ク、曾テ存セズ、ナルホド山ノ字ヲツケルコトナリ、唐茶ヲ唐山茶ト書ケルコトコレナリト申サル、

○十七日、　參候、

昨日モ滋野井入道トモヨマセラレタルコトナリ、定家ノ假名遣ト云書、世上ニモ是アルモノナリ、其書ニ二人麻呂抄ニ見エタリ云々トカケリ、二人麻呂トハ定家ト麻呂ト二人ノコトナリト云ヘリ、此二人麻呂抄ト云フコト、世上ニモ是アルモノニヤ、自分ノ書ニ麻呂ト云フモ、イナモノナリ、見竹（川本作兼竹）ニ覺ヘタルカト尋レド覺悟ナシトイヘリ、イカナルコトニヤト思ヒシカ、書本ノカナツカヒヲ御覽有タレバ、一人麻呂トカケリ、尙以テイナコトナリ、後日考ラルベシト仰ナリ、

○一昨十四日ノ御忌日ニ大德寺ヘ御參詣アリシカ、內々ニ願ヒシ大字ノ維經ヲ法堂ノ後ニ張タリ、仰ニ文字ハ遊ハシテ下サル、ナリ、經書ノコトハ御覺悟ナキコトナリ、若シ誤字差謬ノコトモアラハ、好ク改メ考ヘテ申シ上ヘシ、遊ハシ直シテ下サルヘシトアリシカ、折節方丈ニ和尙トモ三人共ニ居合セテ、芳春庵申上ラレシハ、若ノ一字苦ノ字ト易レリ、幸ニ行文字ノコトナレハ、苦ノ字若トアソハシテ、少シハカリ御直シ下サルヘキカト申上ク、仰ニワツカノ義ナラ、又筆法モアレハ、ソノ一字ヲキリヌキテ、張易ラルヘシトアリシヲ、寸松庵主龍岩カ申上シハ、願クハ若ノ字ノ脇ニ、苦ト御直ヲ書添テ下サルヘシ、此一字ヲ添ラル丶ニ、全備一字ノ誤モナキコト知ラレタリト申上タリ、趣向尤ト覺エタリ、一字ヲ添テカケトハ活ナリタル了簡（川本ニ落シタル了簡トアリ）ナリ、甚面白シ、唐ニモ晴ノ處ニ此例多シ、茶道ニテモ此道理多キコトナリ、面白カラスヤト仰ラル、

○九月三日夜、　參候、

角力ハ和漢トモニ通法ニテ、是モ又一ツノ式ナリ、何トモ御前ニテアルベキ、作法ニモアルベカラズ、イナモノナリト仰ナリ、然ラバ御前トイヘドモ、裸體ニテ候ヤ、ハダカニサシヌキヲ著タルモノナリト仰ラル、イナモノナリト仰ナリ、

○十月六日、　御本殿、御口切參候、

滋野井入道ノ昔ノ根合セトテ、菖蒲ノ根ノ長キヲクラベテ勝負アリシコトナリ、一丈一尺ノ根アリシカ、一丈二尺ノ根アリテ、負ニナリタルコト古書ニ見ヘタリ、日本ノ菖蒲ト云モノニ、サマテ長キモノアルコトニヤ、但シ日本ノ菖蒲ト云モノ、漢ニ

テハ其差別アルニヤト御尋ナリ、仰ニ菖蒲ト云テ、各別ナリ、根アハセノ菖蒲ハ、石菖蒲ナリ、ミチノクヘ下リケル人ノ端午ノ菖蒲ヲアヤメヲフカレシト有シモ、菖蒲ナクテマコモニ易タリトアルモ、花菖蒲ナリト仰ラル、

○十一月九日、　參候、

累年私御匙ノコトヲガヒ奉リシカ、律君御方計コソハ是非ナクアヅカリ奉ル、此度又願ヒ奉リシガ、十九日御直ニ宗安ニ仰付ラル、間、ナホ監察シ奉ルベキヨシヲ仰渡サル、

○十二月十九日、　御本殿參候、

今大路内藏權頭マテヲガヒ奉ル條、此度律君樣御方マテ御匙ノヲガヒ相カナヒ申ス上ハ、先私ノ役義不殘御赦免ノ上ハ、御祝儀計只今迄ノヤウニ頂戴イタスベキヤウナシ、冥加ニ盡ベキコトナリ、何トゾ御内役中御了簡ヲ以テサシ除カレ下サルベキヨシヲ申上ク、御役御免ト申スニテハナシ、相カハラズ御機嫌伺ハル、上ハ、些少ノ御祝儀辭退イタスベキヤウハナシ、サレドモヲカヒノ上ハ先同役中相談アルヘキノヨシ申渡サル、翌廿日、大膳太夫ヘモ右ノ通リ申上ク、

○廿九日夜、　參候、

如ニ例年ー御口祝拜戴、御香二座アリ、

午刻御成、權之進、素謠仕舞アリ、酉刻還御、

○十月八日、　參候、

先日伺タル﨟ノ字ノコトヲ申上ク、（是ハ淺井頼ヨリ產後一﨟ト云ハ、幾日ノニトニヤト問ハレケルホトニ、）其答ノ趣ヲ申シ上ク、臘ノ字ノコトハ、前以テ御センサクアリシカ、シカトスマヌコトナリ、幸ニ醫書ニ﨟ノ字ノセンサクアレハ、重疊ノコトナリ、先ツ年限ノ功勞ヲ經テ、官位ヲス丶ム時ニ、何年ノ勞ノ〳〵トアリテ、又タトヘハ十六年ノ極﨟、又ハ上﨟中ノ下ノトアル、コノ﨟臘皆ナリ何ユヘニ臘ノ字ヲ書ト云コトヲ知ラス、梵ニ臘人ノコトアリ、コレハ夏百日ノコトナリ、コレニテモ合セス、イナコトナリト仰ラル、（臘人ノコト正字通ニミエタリ、）蠟モ亦通ス、醫書ニテ產前產後ノ書ニテハ見當ラス、幼科書ニテハ、幼科發揮育嬰家秘等ニ、一臘之臍風、百晬之咳嗽ト云コト出テ、、謂初生八日ト出タリトテ、御目ニカク、コレモ亦一ツノ考ナリ、書扱テサシ上クヘキノ由仰ナリ、

○十一日、嵯峨渡御、（滋野井入道殿、松下見櫟、拙、）

卯ノ上刻、スクニ河端三間屋ニ御成、追付御上船、嵐山上覽、船中ニテ御菓子等召上ラル、入道殿御詠アリ、

大井河、秋はあらしの、山かせも、けふの爲とや、殘す紅葉、

松下見櫟

自ㇾ古嵐峰知ㇾ有ㇾ花、初看霜葉映ニ朝霞ㇾ、仙舟一棹瑠璃水、錦繡堆中自在ㇾ拏、

拙

年々隨ニ台駕一、毎駭嵐山頭、曝レ錦秋陽影、濯レ纓着浪水、雲谿ニ山色一異、日照ニ水光一浮、自レ此期ニ花信一、孰賢春與レ秋、午下刻御上リ、天龍寺中妙智庵洞雲カ繪ドモ御覽、道スカラ入道殿ノ昔ハテアハセトテ、菖蒲ノ根ノ長キヲタクラベテ、勝負アリシコトナリ、一丈一尺ノ根ノアリシカ、一丈二尺ノ根アリテ負ニナリタルコト、古書ニ見エタリ、日本ノ菖蒲ト云モノ、漢ニテハ其差別アルニヤト御尋アリ、仰ニ菖蒲ト云モノニハ、數種アリ、石菖蒲、白菖、花菖ト云、各々別ナリ、テアハセノ菖蒲ハ、花菖蒲ナリ、陸奥ヘ下リケル人ノ端午ノ菖蒲ヲフカレントアリシニ、陸奥ニハ菖蒲ナクテ、マコモニ易タリトアルモ、花菖ナリト、入道殿サコソ本草ニテモ菖蒲根ニ九節ナニカト、フシノセンサクハアレドモ、根ノコトハ侍ラスト、拙申上シハ、九節ト申スモ、九ツノ數ニカキリタルコトニアラズ、肥鮮長大ヲ云ハントテノコトナリ、地黄ノ九蒸九曝モソノ道理ナル由ヲ、若水カ炮炙全書カ、玄達カ、用藥須知カニノセタリト覺ヘ申スノ由ヲ申シ上ク、面白キコトノ由ヲ仰ラル、コノ頃申上シ蝦鞠ノコト、外科正宗ノ文ヲ見侍リシニ、義烏兵士、肩膊下連、生ニ小瘤一五枚、三月餘、漸發レ痒、異狀、以レ手捫レ之、内則翕々攻動、予視レ之内動果如ニ蝦鞠一、此必有ニ異蟲一、以レ針破ニ其一枚一、先出ニ紅水一、一匙少頃、攻ニ出黑嘴粉紅蟲一條一、形姐樣、長六七分、又破ニ一枚一、依然如レ是ト、此文ニテ見レハコノ蝦鞠ト云モノ、三才圖繪等ニ出ルモノニテハアルヘカラス、鞠ノ字カラミテ、若シ左モアルヘキニヤト云ヘドモ、是ハ蝦ノ字カラ見ルカ好カランカ、鞠ハ鞠躬ノ義ニテ、腰ノ曲リタルモノ、義ナリ、蝦ハコエビナリ、エビハ腰ノ曲リタル形ナルカ故ニ、蝦鞠ト申タルモノカト申シ上ク、イカニモ尤左アルベキコトナリ、是ハ外ノ考ニモ入ヘキコトナリト仰ナリ、

○嵯峨ニテ御菓子ニクリコ餅ヲ仰付ラル、龜ヤ虎ヤヲ呼テ、役人衆ヨリ明朝微明ノ御菓子ナリ、嵯峨マテ持參シテ苦カラヌヤウニ認メテ、今晩アクヘシ、少シモ損セヌヤウニ、覺悟スヘキ由仰付ラル、兩家トモニ得御請申スマジキ由ヲ申シテ辭退ス、然ラハ栗ノ粉ハ別ニ重物ニ入ラレテ、餅ハ餅ニテ、別ニ持參アルヘシ、ソノ餅ヲ今宵アクベシトノ義ナリ、夜半過テ餅計モ捧上ケルトナン、古ヨリ長袖能舞、多錢能商ト云ヘリ、サスカノ者共ナリ、アキナイノ習ニテ、何トイツハリテモ捧ク可ヲ、此用捨ヨクヨクノコトナリ、細事ト云ヘドモヨミンスベキコトナリ、

○十八日暮、　滋野井入道殿、錦小路、拙、

物ノ嗁ト云字ノコト、ソレ〳〵聲ニヨリテソノカハリタルコト、自ラ古ノ字モソレ〳〵ナリ、假令ハ龍ニハ吟ト云、虎ニハ嘯ト

云、獅子ニ吼ト云、馬ニ嘶ト云、犬ニ吠ト云、鳥ニ鳴ト云、日本ニテハ一様ニナクト云、昔高泉和尚ノハナシニ、唐ヨリ日本ヘ上リサマニ、山中ニテ群虎ノナクヲ聽タルカ、丁ドコヽモトニテ、堀川通ニコビキノ大木ヲ大鋸ニテヒクヲトニ、サモニタリト申サレタリ、スレハ嘯トモ云ヘキモノカト仰ラル、

○物ノウツシヲスルニ、見寫ニスルヲ臨書ト云、スキ寫ニスルヲ模書ト云ト仰ナリ、

○十九日夜、　參候、

頃日松坊某カハナシニ、列國ノ治法ヲ論ジテ、某ノ國ハコレヨリ前ニモ、種々變アリタルコト、又コレヨリ後ニモ種々ノ變アルヘシト、其分ケハ御當代ステニ百餘年ヲ絶テ、治平安穩ナリ、今歷々ノ諸大名ミナソノ前ヨリ仕置來ルモノアリ、又御當代ニ御取立ト云ヘドモ、ステニ百餘年ナリ、家老ハ家老、者頭（川本作物頭）ハ者頭ニテ、其下ニ歷代スルコトモ、亦百餘年、ソレ如此ナルハ、上下トモニ自ラ上ニ立ツ人ノ言ヲ承從用來ルヤウニナリ來ル、近代ニ俄ニナリ立タル大名ノ、ソノ身一代ニ大名ニナリタル人ハ、其人ノ器ノ凡ニ越タルコトハ申スモヲロカ、子孫マテソノ人ノナリタチ自然トソノ器ナルヘケレドモ、ソノ善悪ハ各別ニシテ、家中ノ人々皆、ヨリアイ勢ニテ、意志各々思々ナルユヘニ、自ラ號令ニシタカハヌコト多シ、古ヘハ歷々ノ人モ浪人トナリテ、ソノ國ニカヽヘラレテ來レハ、遙ニ小身トナリテ、我ヨリハ小身ノ人ノ下ニ立テ、令ヲ承ル時ハ心服シテ用來ルコトナキ筈ナリト申タリシハ、尤ニコソ覺ヘ候ヘト申シ上シニ、サレバトヨ、尤ナルコトナリト仰ラレシホド、日本一統百代不易ノ君王ハ、目出度ハ勿論ノコト、下トシテモ有難キコトニコソ候ヘト申上シニ、ソレハソレソノ下ニ立テ、君臣トナル人ハヨク〳〵ニ心得ベキコトナルガ、大方ニシテモスミテユクハ仕合トヤ云ハン、不仕合トヤ云ハン、サレドモ最前ハナシハ尤ナルコトナリ、昔ナリ愛宕故大納言ハ將棊ノ上手ナリシガ、志ハキタナキモノナリ、歩ノナリタルハ金ナリ、金ナレバ本ハナンデアロウトモ、カマイハアルマジキコトナルニ、歩ノナリタル金ト、生ノ銀トヲカヘンコトハ思ハレヌモノ、金ハ金ナレドモ、俗性カ歩ナル故ナリト申サレタリ、金ニナリテモ俗性ハ俗性ナルコト尤ナリト申サレタリ、

○此頃加茂ノ松林院ガ參リテ小座敷ノクサリノ間ニテ、茶ヲ振舞ケルニ、（川本クサリノマニテ、釜ヲカケヽルニトアリ、）松林院ガ申ケルハ、中柱ノアル座敷ニハツリカマハセヌコトニ、流義ニ致スナリト申タリ、尤ニ覺エ候ハ、スデニ四疊半ナレバ半柱ノアルベキヤウナシ、尤ニテ候カト申シ上ク、仰ニナルホド古ヨリ云コトナリ、中柱ノアル處ニハ、ツリ釜ハ先ハセヌコトナリ、イカサマニモ同シヤウニ、長

クタテナルモノ、ナラヒタルモイナモノカシ、昔シ應山公ノ御時分ニモ、中柱ノアル座敷ニ釜ヲ釣ラシテ苦シカラヌコトヲ、宗和モ申上ラレテ釣ラレタリ、中古以來ハツルコトニシテ苦シカラヌニナリタリ、其方ニモ釣ベシト仰ラル、

○廿二日、　入江樣、錦小路岡崎ノ第ヘ御成、（玉井、兵部卿、掘、惠性、孤岩、）庭ノ楓葉錦木ノ染ナセル柴門、流水ノ潔キサマ折柄ト云、住居ト云雅興イハンカタナシ、亭主歌ヨミテ奉ル、

丹波賴庸

此さとに、心あらなん、けふしくれ、ふるとも餘所の山めくりして（川本第三句作夕時雨）

○廿三日、　參候、

一昨廿一日ニ何クトモナク、雌鹿ノ來リテ御北隣鷹司公ノ御別莊ノ地ニ入リケルヲ、此御所ノ後苑ニ飼ヲカレケルヲ拜見ス、

夕方錦小路參ラレテ、何角御物語アリ、

○今ハ五德ノフタ置ヲ、カクレカト云ハアヤマリナリ、古ヘ金物ノ蓋置ト云モノアリ、此五色アルモノナリ、

卯ノ蓋置、ホヤ、カニ、一閑人、三人唐子、

此分ヲカクレカト云、五德ハ利休カドレゾヤ見タテ、、コレモカナモノニ類シテ、物スキニ用タルモノナルベシ、五德ヲカクレカト云ハ、アヤマリナリ、五德ハサシヤイヲホク、ツリガマナドノ時ナラデハ用カタキモノナリ、右ノ五色ノカナモノハ皆臺子ノトキコホシニ入テ出ル故ニ、カクレガト云ナリ、五德一ツヲ云ニハアラズ、

○此日三人唐子ノ御蓋置出テアリ、茶ヲタツベキノ由仰ニテ立ル、三人唐子ノアシライハ、セイ高キ人形ノ方ヲ前ノ方ヘシテヲクガ習ナリ、ナゼナレバ、蓋ノカタブキカ、客ノ方ノサカルヤウニト云コトナリ、蓋ノ客ノ方ガサカレハウラガミエヌ故ナリ、何ニテモ裏ヲ見スルヲ嫌フナリト仰ラル、

○入江樣御立アソバサル、次手ニ茶杓ノヲキヤウノコトヲ仰ラル、、巢蓋ノトキハ巢ヲ客付ノ方ニシテ、茶杓ヲ勝手ノ方ニカクルナリ、巢ノナキ蓋ハ客付ノ方ニ茶杓ヲ掛ルナリト仰ラル、

○手燭ノヲキドコロノコト、初メハキリタヽミノキワニ、兩足ヲ前ニシテ、ロクニヲクナリ、茶ヲ入レントシテ、前ニヨセテスヂチカイニヲクナリト仰ラル、前年承リシハ、初モヒヅメテヲクヤウニ覺タル由ヲ申シアケシニ、ソレハユカミハシラノアル時ノコトナリ、ユカミハシラナケレハ、ロクニヲクガヨキナリト仰ラル、

○廿一日、　參候、

先日ヨリ御後苑ニ飼ヲカレタル雌鹿ヲ奈良ヘ送リ遣ハサル、ワクエ入レ、擔夫二人、灯燈夫一人ヲツケテ夜通シニ東辻カ方ヘツカワサレシニ、鹿ニモ、山產ト町產トノ差別アリ、コレハ町ノ產

ナル由ニテ、町ニカヒヲキタル由ナリ、不思議ト謂ヘシ、奈良ヨリハル〳〵都マテ來リ、此御殿ニ來リテ、又無事ニ奈良マデカヘリタルコトノ奇異、其故アルヘシ、

○廿六日夜ヨリ霜月十五日夜マデ、律君御方御不例ニ依テ宿シ奉ル、ソノ間サマサマノ御咄ドモアリ、早卒ノ間ニテ記得シ得サルコト多シ、覺エ書ノ爪シルシシタル分ヲ後ニ記ス、

○或夜御前ニテ凡ソ書物ハ品カハレハ、同シ書ニテモホシキモノナリ、カキリナキモノナレハ十分ニハ得カタキコト必セリ、サレドモ儒書ハ字書カ、考索ノ書ノ外ハサシテ望ナシ、廸モ及ハヌコトナリト上申シカハ、仰ニ昔獅子吼院ノ毎度御會ゴトニ廿一史ノ入ルコトアレハ、誰ニノ方ヘ借ニツカワセトテ、借本ニテ御考アリシホドニ、廿一史ナクテ御不自由ナラン、御求アレカシト申上ケシ人ノ侍リケルヲ、イヤトヨ、タトヒ餘贏アリトモ、一切經ヲ調エサル間ハ、廿一史ハトヽノヘマシキトノ本願ナリト仰ラレシヲ、聞テ恐感シケルカ、終ニ一切經モ御手ニ入リ、廿一史モ求ラレシトノ御コトナリ、

○御爐ニ大蓋ノ瓢簞釜ノカヽリタルニテ、茶ヲ立ベキ由仰ナリ、イツモノ如ク建シニ、大蓋ハサキサゲニ引コトハナキコトナリ、蓋ヲ取テ正直ニ引カ習ナリト仰ラル、

○折節三人唐子ノ蓋置ナリシカ、仰ニ三人唐子ノ蓋置ハ、三人ノ中ニテヒキ、方ヲ先ヘスルカ習ナリ、ヒキ、方ヲ先ヘスレバ、客ノ方サカリテ蓋ノ裏ヲ見セヌ爲ナリト、

○先日滋野井入道殿ノ不審ナサレシ根アハセノコトヲ仰ニ、根アハセハトウシテモ、日本ニテ石菖蒲ト、泥瀟トガヒトツニマキレタルナルヘシ、根アハセトテ、根ノ長キヲ賞翫スルコト其由ヲ知ラス、何トソ漢朝ニモ其例アルヘキト思テ、御考ナサルレドモ、シカトシタルコトヲ未タ考ヘアタラレス、日本ニテ九節ノ菖蒲ヲ、コヽノフシノアヤメト歌ニモヨメリ、コレヲモアヤメト云ヘハ、石菖ト菖蒲トマキレタルモイザシラズ、石菖ハ九節ヲ尊ヒテ、仙藥タルコト書ニミヘタレハ、根ノ長キヲ稱スルコト其由ナキニ非ス、アヤメソロヘノ書一巻ヲ選セラル、

○東門跡ノ床ノウチニ、一ツトコロ床ノ正中ニ一通リヲ、金唐紙ニテハラレタル處アリ、錦小路ノハナシニテ、前カドウカヽイタルカ、分ケアルコトニ仰ラレタリ、伺ヘキノ由ヲ申サル、或時之ヲ伺フ、仰ニコレハ大秘藏ノコトナリ、アレハ遠州ノ好ミニテ古實アル由ナリ、東門跡ニ定家ノ小色紙アリ、日本限リアル名物ナリ、名物ノ掛物ヲカクル爲ニ、ソノカケモノニ合テ張レタルナリトナリ、コレヨリシテ名物ノ掛物ヲカクル床ニハ此法アリト知ヘシ、

○宗和方ノ花生ノキリカタヲ伺フ、私マヘカタ遠州流ノ人ニキリ

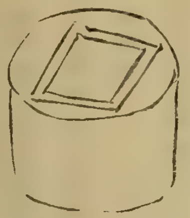
カタヲ習ヒタリシニ、輪ノ所ノ向フ竹ヲノコスニ、三ケ一ニノコスアリ、四ツ一分ニノコスアリ、三ツ一分ヲノコスニハ、ウロコカタニフチヲ切ルナリ、四ツ一分ヲノコスニハ、四角ニキルト承リタル由ヲ申シ上ク、宗和流ノキリカタハ、ナニデアロフトモクチノ中ヘ、四角ノ寸ヲ入レテ、ソノ一分ヲノコシテ、兩方ニメンヲトル、ソノハヾハ見合タルヘシ、メンヲトラサレハ、竹ノ角ガ尖ルユヘナリ、メンノハヾノ廣狹ハモノスキ次第ナリト仰ラル、

○廿二日、　御茶、拙、淳庵、

待合、圓座、二ツ、御待合前ノ手水鉢、柄杓ナシ、

今年ハ奥ノ御圍居、御修理アリテ、アユミノタヽミイシヨリ、改タマリ、中クヽリ出來タリ、中クヽリコシ板ノ下、黑キ小キ石ヲナラヘテ、シカレタリ、アユミモ、キリイシノカタカタソゲタル長ミ二間半ナリ、二間ツヽケタルニ小石ヲマセテタタカレタル、珍シク見コトナリト感ジ奉ル、

手水鉢、宗和方ノ錢形ノ由ナリ、タトヘハ白川石ニテ、尺ハカリニテ、外圓ニ、中角ニ少シフチアリ、



御床掛物、後鳥羽院宸翰ノ御文、肩ニ十八日トアリ、

御香合、推朱、楊民、川本作堆朱揚茂、　羽箒、

御釜、天猫、

御會席、

御汁、フクサ、皮午房、大根、鴫、

御平皿、麩、

御燒物、鮭、白酒ミソカケ、

御吸物、ヒナ、

猪口、ウルカ、

御菓子、大徳寺キントン、コフタケ、アタヽメテ、ムキクリ、

中立、待合、タハコボン、

御花生、二重、三菩提院樣、

花、水仙、赤ツハキ、

御水指、備前、

御茶入、廣澤、袋白地古キンラン、

御茶杓、瀨田掃部、

筒ニ勢政直作トアリ、

御茶碗、萩、

○臘月八日、　參候、

一昨六日ニ三谷丹下ニ茶ニ參リタル御咄申シ上ケシ序ニ、五日ノ大雪ニ、私ノ茶ニハ何トソ、雪ノアシライ社アリタキ物ナリシカドモ、主客共ニ不案内ニテハイカヽト得コソ仕ラサリシカ、

香ノコトハ存シ付タレドモ、イカヽト存シ、後ニ書院ノ床ニテ卓香爐ニ雪御銘ヲ燒タリト申上ク、雪ニハ必香ト申スニテモナク候ヤト伺、左ナリト仰ラル、上ノ宗佐カ方ニモ、ソノ日茶ノ湯ノアリシカ、半田ヲ初ニ持出タリト承ル、初手ニ出スコトモコレアリヤト伺フ、イサシラスト仰ラル、程アリテ、昔常修院殿ノ御物語ニ、去ル功者ノ茶ニ朝コミニ御出アリシニ、夜フカク少シ早過タリト思召シタリシカ、相客モ未ダ來ラザリシカ、亭主迎ヒニ出テ先御通リアレカシトテ、入タリシカハ、亭主初手ニ半田ヲ持出テ炭ヲアケ、殘ル炭ヲヨキホトニシテ、半田ヲ持テ入リ、ツルナベヲ持出テ善哉餅ヲヨキカケンニシテ持參シ、イマダ料理モ出來合ス、寒氣モ甚シ、コレヲヒトツメシアガラルベシトテ進メタリシガ、今ニワスレズ、ウマキコトニ候トテ、毎度御話ナリ、鐺ヲカケテヨキカケンニサメヌホトノ火ニシタルモノナリ、後ノ菓子ハナカリシトノ御咄ナリ、サルエセモノニテ出來シタリトテ、御褒美ナリシカ、是ナリシカ是ヨリ外ニハキカヌコトナリト仰ラレ、後ニクハシク御聞ナサル、初手ニ半田ヲ出シタルニテハナカリシナリ、中立ニ雪ハナハタシカリシ故ニ、中立ハ無用トテ、炭ヲナヲシケルヨシヲ御聞ナサルヨシヲ御話ナリ、

〇十七日、參候、

例年之如ク、御シキセノ御服ヲ拜領ス、（表タテシマ、カイキウラ、ハフタヘ、アサキ）例年ヨリモ寒氣ハナハタシキ由、世上一統ノ風聞ナリ、第一ノメイハクハ、硯水ノコホルニコソト申上クシニソ大秘說アリ、酒ヲ入ルレハヲハル、硯ヲアフレハ墨カハクナリ、水入ノ水ハマタソレホトニハナキモノナリ、畢竟水ガコホルニハアラス、硯ガコホルナリ、硯ヲ前夜ヨリ、蒲團ニツヽミテヲケバ、翌日終日コホラヌモノナリ、御前ニタメサルヽニ、イカホトノ嚴寒ニモ、コホラストナン、此コト硯譜ニ東坡カ言ニアリト仰ラル、

明治十五年三月

華族蜂須賀茂韶藏書ヲ寫ス

明治三十三年七月

依近衛公爵家藏本並川崎千虎藏本校正之、

小杉榲邨　校閲

西脇玉峯　校正

槐記續編第一終

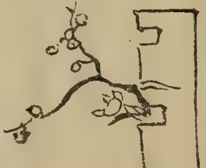
槐記續編卷第貳

近衛豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

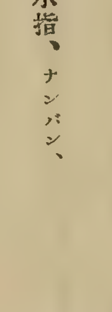
○享保十七年壬子元日、參候、
如ニ例年一御口祝拜戴ス、
君樣方ヘ御年玉ニ、鵜ノ掛物ヲ獻上ス、細川本作鵜、
御床ノ掛物、後水尾院御宸翰、六十あまりの、國もうこかす、
○七日、御茶湯始、拙、宗也、
御待合、腰カケ、圓坐二ツハカリ、手水鉢、柄杓ナシ、
御迎、右馬權助、
御掛物、定家、定家ヘ除目ノ書付、定家ノ書込アリ、先年拜見ス、御表具ヲ改ラル、一文字、紫地金紗、中、コウドン、上下、アサキノ紗、
御釜、蘆屋、

サクラノモヤウ、上々作ノ由、
御棚、香合、環、

香合、タトヘハハリモノノヤウニテ、ヌリモノナリ、全體ハクロクユエンカタアリテ、ソノ中ハ朱ナリ甲ニ賓來ノモヤウアリ、見カヘシニ松ニチドリノ繪アリ、信長ヨリハフルク、源平ヨリハ後ノモノナリト仰セラル、
御會席、
御汁、ウスタレ、アンコウ、
御平、フク煮、
御燒物、サケコヾモリ、白酒カクテ、
御吸物、鶴、アヲミ、
御菓子、サガノ黄マンヂウ、カウタケニシメ、菓子盆ニ口取、時代マキヱノ重箱ニマンヂウ、アタヽメテ、
中立、御待合、カイキノ幕、タベコボン、手爐、鉦ニテ御案内四ツ、一大、二中、三小、四中、
御花、白梅、福壽草、



御筒、細川三齋ノ二重、言語ヲ絕ス、
御水指、ナンバン、



御茶碗、萩、

アカノ手白樂ニテ雲鶴ノモヨウアリ
御茶杓、常修院樣御作、
御茶入、

イセシユンケイ、至極ノ手、コレヲ千種手ト云フ由、タトヘバ地ハアカキヤウニテ、黄クスリ肩ニアリ、クログスリニ、カナクヒシトアリ、類マレナルモノヽ由ナリ、
御袋、タテシマノカイキ、カントウノヤウニミユ、メツラシキモノナリ、
○宗也ハ御イトマ下サレ、拙夜マテ罷在ル、十炷香、一座アリ、今日御

庭ヘ鶯ノ來リシガ、早立春ニ間モナキホドアリテ、先日ヨリハ聲和キタリ、ソレニツキ昔シ　後水尾院ノ御歳ヨラレテ、御耳ウトクナラセラレテ、鶯ノ音ヲ、トクキカセラレヌコトノウトマシ、籠ノ聲ナリトモトアリシカバ、我モ〱ト獻上シテ、ワレヲトラジト自負シテ獻上セシヲ、御聽ナサレテ、萬物モ時代ニツレテカハルニヤ、若キトキ御聞ナサレシ鶯トハチガヒテ、ナマリヲソチヤウニナリタリト仰ラレシヲ、□□ノソノ答ゾ、御若年ノトキハタヾ今ノヤウニ、鶯ノハヤラサリケルホドニ、三光ノヲヽニノト云ヤウニ、ツケヲシタルハナカリシホドニ、御尤ナリトテ、隨分世上ニステハテタル、常ノ鶯ヲトリヨセテ御聽ニ達セシカバ、コレコソ春鶯ノ囀ルナレトテ、御滿足アリシトナリ、

○先頃誰人ノ作ニヤ、ものかわり、星うつるをもしらですむト、云歌ヲ承リシガ、假令和歌ニ用ヒ來ラヌ言葉ニテモ、漢語ヲ詠ヂテモ、苦シカラヌコトニヤト、申上グ、仰ニソレハナニホトモアルコトナリ、逍遙院ノ傀儡師ノ歌ニ、イトヲヒキト作ラレタルモ、聯珠詩格ノ語ナレドモ、ソノマヽ用ヒタルモノナリト仰ラル、百人一首ニ、夜をこめて、鳥のそらねははかるとも、世にあふさかの、關はゆるさじト、清少納言ガ讀ケル歌ハ、ヒトツモ漢語ハナシ、アリフレタル古來用ヒ來レル、言葉ニテ作リタテ、、夜ヲコメテ鳥ノソラネヲト云ヘハ、孟嘗君ノコトトキコヘ、關ハユルサジト云ヘハ、函谷關ヲ逢坂ノ關ニ比シタリトソノマヽキコユルハ、上手ノワザナルヘキヤト申上グ、仰ニ尤モ上手ノワザ也、サレドモソレトコレトハ各別ノ論ニシテ、趣向ノタテヤウガチガフタレハ、其評ハ當ルベカラズ、清少納言ハ和言ニテ、漢ノ故事ヲ用ヒントシタルモノナリ、コチラハ漢ノ言ヲ用テ、和ノコトヲ作ラントシタルモノナリ、名々別々ナリト仰ラル、

正月初旬ヨリ、嫡孫痘瘡ニテ同下旬ニ卒ス、是ニ因テ地穢ヲ蒙リテ、二月下旬マテハ出仕ヲ止ル、此間ノ槐記ナシト云

○二月廿八日、　關白公東門跡得度ニ渡御、拙モ、參候

明六ツ時參上、辰ノ半刻御成、

四ツ時得度ノ式始、御堂ノ左ニ二疊臺、關白公、一條樣御座、左ノ方、着坐ノ公家衆三人、

九ツ時事畢ル、而シテ御能始ル、

翁、千歳、八木藤四郎、三番叟、梶　貞五郎、

橋本橘之進 高砂、ツレ、津田勘十郎、間、鳥居佐四郎、中村孫三郎、吉田治右衛門、早水七十郎、多田仙四郎、中風六三郎、

麻生、何某、仲尾壹岐、藤六、藝六、八木藤四郎、横地他三郎、烏帽子ヤ、谷大一郎、

野村八郎兵衛 八島、ツレ、辰巳喜七、間、那須原勘五郎、井神五郎右衛門、能勢與三右衛門、入谷傳六、中村幸助

釣狐、白蔵主、原勘五郎、釣手、八木藤四郎、

權之進東北、間、田中喜六、井上忠兵衛、平島清七、清水庄九郎、平岩源兵衛、
御中入、夜ニ入
八郎兵衛道成寺、梶良五郎、横地多三郎、小島平八、梶橋源八、松本和泉、谷田彌介、高木利兵衛、
福神、福神、山田與三右衛門、參詣、鳥居庄四郎、同、田中喜六、
竹内平七三輪、間、中尾伊與、福江庄助、能勢與三右衛門、松本和泉、福井藤兵衛、中村幸助、
若尾彦十郎祝言、宮川吉兵衛、有田治右衛門、清水源二郎、多田十四郎、中風六三郎、
夜四ツ時還御、

○三月朔日、參候、
此コロ唐ノ六典ノ御會ノ處ニ、御不審ノ所モアリ、醫書ノ出處ノ可不可ヲモ、其方マカリ出タレハ御吟味ナサルヘシトテ、ヨケヲカレタリ、見櫟ヨリ拔書ノ參ルベシ、拜見シテ考ヘキノ由仰下サル、同ク四日參候ノ刻、書付テ申シ上グ、左ニ記ス、

○三月十八日、東門跡御成、拙、見櫟、
明六ツ時、律君樣御同道、御能コレアリ、

○三月廿四日、下加茂松林院ヱ御成、
九ツ時御出門、拙、大膳、御供、
待合、上御烟草盆、上ノ圓座、硯箱、時代文箱、ヘリトリゴザ、
掛物、一條禪閤兼良御筆、
香合、交趾ノヌリモノ、
常座、（近本作堂庫）カザリ、上ノ棚茶入、古瀬戸チヌケ、下ニフクベ、脇ニ羽箒香合、袋、ヒトヘツル、タカラヅクシ、裏カイキ、
釜、フシガマ、天猫、自在ニテツリ、
會席、御膳、木地杉ノヒツベキ、カハトシ、御碗、盞茶碗、
汁、フクサ、フキ、山ノイモ、竹ノ子、ヨメナ、
大猪口、ウドアヲアエ、小猪口、ウコギシタシモノ、
平、ヨセドヲフ、アンカケ、カラシ、
御酒、備前德利、
吸物、松露、サンセウノメ、
肴、ノリ、
菓子、カンザラシ、水ドリノモチ、シキサトウ、口取コウダケニシメ
御中立、鉦ニテ御案内、御所望ニテ、
竹ノ置花生、雨マド、薄板、常修院樣ノ由、花、山ブキ、シヤガ、
水指、シガラキヤキ、ハンドウ、ヌリブタ、茶筌カザリ
堂庫、上ノ棚（川本道幸上棚トアリ）ニ御茶碗、シナケナリ、脇ニ、茶杓葉フクサ、次ノ茶碗、ハケメノシホケ、
茶杓、宗和ノ由、
後御菓子、クスマンヂウ、ヤウカン、

○三月廿九日、御本殿御節會御成、入江樣、三寶院樣、芳林院樣、
九ツ過御成、七ツ半時還御、橋本權之進、謡仕舞アリ、
諷、川本謡トアリ

高砂、
湯谷、
御祝言、　難波、切、
仕舞、
西行櫻、江口、山婆、櫻川、保加僧、實盛、春日龍神、祝言、
書院御掛物、漢朝及第圖
御居間掛物、主馬龍虎二幅對、

○四月五日、知君樣宇治へ御成、御供、
四日ノ夜ヨリ參上、明六ツ御出門、角倉船入ヨリ船ニメサレ、伏見豐後橋角倉屋敷ニテ御上リ、シハラク御輿ニメサレ、ダンセウ町ヨリ御歩行、京橋ヨリ又御座船ニメサレ、黃檗ノワタシマテ、(川本黃壁ノ渡トアリ)此間岡屋ノ庄屋共御迎ニ出御船ヲヒク、宇治ヨリ菱ノ木直右衛門父子三人御迎ニ出ラル、岡屋御領ユヘ、道ヲ作リ拜見ノ人多ク出ル、上林又兵衛、有庵、平等院、直右衛門ヨリ、獻上品々有レ之
コレヨリ御歩行、黃檗山御覽、木村主膳方御小休、ソレヨリ平等院御覽、龜カ茶屋觀流亭ニテ御休、此時、御膳 還御ニコウセウ寺御覽、宇治橋ツメヨリ御船ニテ伏見マテ還行、ソレヨリ御幸ノ宮マテ御輿、ゴコウノ宮ヨリ藤ノ森マデ御歩行、藤ノ森ヨリ稻荷マテ御輿、稻荷ニテ御休、松本筑後 暮テ還御、初更半、

○十四日、入江樣へ御成、滋井入道殿、拙、近藤大膳、於佐衞、常陸、大德寺御參詣ノ還御ニ御立寄、藤花御覽、午後御成、
御床掛物、後水尾院、宸翰、御詠歌、經筒ニ、アサミ、
御居間掛物、家隆、籠ニ、牡丹ニ仙翁ハキ、
夜酉下刻還御、

○十五日、入江樣御使ニテ、關白公へ參上、
先日ノ御發句ノ、脇ヲアソバシテ、御目ニカケラル、拙カ句ト御同筆ニテアソバス、
御覽ノ上一二三ノ御點アリ、三句ノ中イツレナリトモ、御心次第トノ御コト也、ソノ次手ニ、連歌ハ巻ニテ仕付タルガヨシ、カホト合點モ行タラバ、前句付ヲモスルカヨシ、巻ニテ仕付レハ、自ラソノクセニナリテ、習ヒ得ルモノ也、前句ニテ仕付レハ、又ソレナリカクセニナリテ、巻ニ得入ラヌモノ也、先日前句ヲトリテ、ナサレタキ由ニ仰ラレタレドモ、ソレハアシシ、ナルナラザレ巻ニテ仕立ルカヨシ、此旨ヲ申スベシト仰也、拙申シ上ケシハ、ソノ義ハ臣カ申シ上ケシコト也、私テイノ所存ニハ、先前句付ヲイクラモアソバシテ、御口馴アソハスカ好カラント存セシニ、思ノ外ナル御コト也ト申シ上ク、サレハトヨ前句付ハヨク〳〵ニ、前句ノ道具ト付合ト、テニハトガヨク〳〵ニ合掌セ子ハ、點ハナキモノ也、巻ニハ總體ノナラヒノ、アトサキカラ、左ヤウニヒシトツカテドモ、點アルコトアリ、ヨカレアシカレ、巻ノフタマキモ三マキモナサルレハ、御合點ノユ

クコト也、ソレヨリ入ルカヨシト仰ナリ、（入江條ヨリ御言傳ニ、先此句モ前句付ト思召テ御付ナサレタリ、左思召テ御覽進セラルベシ、卷ハ新式ヲモ御聞アソバシテ後アソバサント、）新式ト云ヘドモ、各別ノコトハナシ、先第一連歌ノ表ウラノガテンヲ、左ノコトクスルコレヨリ外ニ、各別ノコトアルヘカラズ、

第唱句ノ一句ニ二ヲ付ルコト、一チカタキモノ也、第一ノ句ハ歌ニテハ題トガテンシテ、二ノ句ノ一句ニテ、第一ノ句ノ意ヲ、ワヅカ半句ニテ述ルコト故ニ、第二ヲ大事トスルコト也、第三カラハ、前ヲカラズニ、已レヒトリ立テ、連歌ト云モノニ入ルノ初也、故ニ前ヲハナレテハナレズニ、ヒトリバシリスルコト故、コレ又大事ナリ、ワロフスルト句ガヨハクナリテ、常ノ句作リニテ、第三ノヤウニナキモノ也、ソレ故ラソドメモアレドモ、先テトメヲモニスルハ、句ヲツヨクセウト云コトナリ、四句メハ、ズイブンカロク全ク三ヘノ付合也、ソレカラシテハ全ク連歌ニナリテ、四ニ五ヲ付、五ニ六ヲツクルヤウニナル、シカレドモ表八句、裏十句マデハ、ズイフンメヅラシキ言葉、ハツミタル意趣ヲセヌコト也、二ノヲモテカラハ、戀ナリトモ、雑ナリトモスベキ也、花モ常座ヲアケテスルコトハ、ヨクノコト也、初心ノ輩必ズスベカラズ、二ノ折ヨリハ各別也、（一ノ析ヲ、大切ニスルモコレナリ、）花ニ櫻、鳥ニ名鳥ハ習ノコト也、決シテスベカラズ、

關白公ノ御唱句ニ、

　　志らきくの、露は志らすや、千世の色、ト云句ニ、兼育カ、

　　　聲はかりこそ、秋の松風、ト付タルヲ、

掘川ノ禪閤ノ、コトノ外御ホメナサレテ、サスガニ家ノ子也、二ノ附合ノ句也ト仰ラレシ也、全體ニテ付合タルコトハ、ナニモナキヤウナレドモ、全體ニテ唱句ニヨク付テ、千世の色ト云ニ、まつかぜヲ付、しらきくニ、秋ヲアシライタル、道具モ、付合モ、句ガラモ、テニヲハモ好トテ、御褒美ナリシト也、又古ヘ　後水尾院、御連歌ノ席ニテ、

　　ゆきかひの、おほきは瀨田の、長はしに、ト云句ニ、

　　　やはせのふねは、わたす人なし、

ト付ラレタレハ、後水尾院、コトノフ御シカリニテ、是ハシルサレマシ、改作スヘキノ由仰ナリシニ、後西院ノ、

　　　船もひまなく、わたす湖、

トアソバシタレハ、是ハヨサソウナリ、記スヘシトノ仰也トアリ、コレニテ合點スヘシ、前ノ付合ハ風早ノ實種ナリシ、ヨホド自慢ノ句ニテセラレタル也、ウラヲ付タル心ナレドモ、全體ウラトノミ氣カ付クバカリニテ、瀨田ニハ矢橋ヲ付テ、渡す人なきハ何ノ詮モナク、風景モナニノ面白キコトナシ、船も隙なく、湖ヲ渡ス風景イワンカタナシ、コレニテ合點スヘシト仰

ナリ、野渡無レ人舟自横、トアレハ、渡ス人ナキ處ニヨルヘキカ、ヤバセニ渡ス人ナキ不二面白一也、

又禪閤ノ御時、今大路治部大輔カ巻ノ句ニ、

春は花のなみこゝもとや、大井川、トシタリシヲ禪閤ノコレハ記サレマヲ、改作セヨトテ改メサヽレシナリ、作リヤウシタテ、ハタラキガ過テ、ケウトク好カラズトナリ、チヨトキケバ面白キヤウナレドモ、トクト吟シテヨカラヌ所ヲ、ヨク御覽シ付タリ、花のなみト云モ、古歌ノ句也、波こゝもとノ文字モ、源氏ノ須磨ノ巻ノ語也、ナニカケウトキコトハナキヤウナレドモ、なみこゝもとト云ハ、須磨ナトノヤウナル、大海ノなみこゝもとナリ、大井川クライノ川ニ、なみこゝもとハ不似合ト仰ナリ、面白キコトナラズヤ、ケウトキト云味ヲ、コヽニテカテンスヘシト仰ナリ、

右ノ件々、入江様ニ參リテ申スヘシト仰ナリ、即時ニ參候シテ一々申シ上ク、

○此コロ錦小路右京大輔カ、芳野ニ花見ニマカルト云シカ、コノホトカヘリテ、道ノ記モアリトテ、多ク歌ヲキヽシが、御前ニモ馬ノ餞ナサレテ、御次手ニ一首ノ御詠ヲツカハサル、

よしのよし、みつゝむかへれ、名にしおふ、花の言葉を、

家つとにして、（近本上句作、吉野よく見てこそかへれ名にしおふ、）

返し、

さきさかず、よしのはつせは、おほつかな、

まつみる君か、言のはの花、

ト云、歌枕ノ端書ニスルトテ、ウレシガリタルトノ仰ナリ、

○入江様ノ御ハナシニ、コノコロ奥州ノカタヱ、家ノ香柴舟ヲ、關白公ヨリ御所望ノ次手ニ、

世をわたる、なくさめにせむ、我方へ、

よせよ柴船、それならすとも、

ト仰ツカハサレシニ、奥州ノ方ヨリ少バカリ獻上シテ、モハヤ是ノミニテ殘ナシト申上ラル、

返し、

言の葉の、匂ひしなくは、柴船の、

なみの底木に、なしやはてまし、

トナン、ソレナラズトモトアソハシタルニ、少計ヲ捧テ、殘ナシトテ一種ヲ獻ゼラレシハ、口惜キニアラズヤト入江様仰ナリ、

○四月十九日ヨリ、閏五月十五日マデ故障ノコト侍リテ、久シク不二參候一、今日初テ參候、何カノコト　仰承ル、先頃ヨリ、又六典ノ御會初リテ、其序ニ儀禮ノ講習ヲ仰付ラル、罷出テ承ルベシ、且御會ノ御手傳ヲモ、致スベキノ由仰下サル、有カタキ由御請申シ上ク、

○十九日、參候、

コノ頃錦小路ノ大和ノ記ヲカリテ一見ス、羨シキコトニコソ、中ニ就テ後醍醐帝ノ陵ノコトヲ、返ス返ス感シテカカレシガ、ソノ廢頽ヲ歎キテ也、イカナル故ニヤ諸陵ノ中ニテモ、今ニ盛ニ御遺跡ノ貴キモアリ、田間野頭ニアリテ、ソレトモ知リガタキモノアルハ、イカナルコトニヤ、陵トアルカラハ、ドレトテモ替リハアルマジキコト也、勅使ナドアルベキニヤト申シ上グ、往昔ハ十陵トテ、御在位ノ天子ヨリ、十所ノ陵墓ヘ、御使立ラルル式アリ、今ハソレモナシ、昔トテモコト〳〵ク立ラルルニアラズ、

○廿二日、參候、

馬ノ皆具シタルヲ、カザリ馬ト書ハ、イカナル文字ニテ候ヤトウカヾフ、仰ニ日本様ニテハ、餝馬トカクナリ、コレハカラクラヲキテ、アツブサマデカケタル馬ノコトナリ、常ノ具シタル馬ハ、クラヲキ馬ト云、コレモ日本ヤウニテハ、鞍置馬ト書也トアリシ傍ニ、堀某アリテ、漢ニテハ鞍勒馬ト書ヨシ申サル、

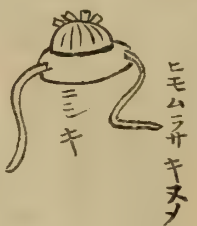
○六月六日夕、參候、

先日仰ラレシ藻壁門ノコト、拾芥ニ出タル故ノ御不審也、藻壁ノ字、日本ニテ新ニ付タルニハアルマジト思ヘドモ、漢ニテ不レ見不審、イカサマニモアルベキ字也ト思ヘドモ昔ヨリ知レガタキコトトミヘタリ、昔院ノ御母后ノ門院號ヲ選ハレシニ、□□

□ト申ス人、藻壁門シカルベカランカトアリシニ、時ノ關白、壁ノ字ハ、壁ノ字ニヤ壁ノ字ニヤトアリシニ、壁ノ字也ト申サレシヲ、ソレハ何ニ出タルヤラントアリシニ、語塞リケルト也、法性寺ノ道隆、十二門ノ額ヲカヽレシトキ、藻壁門一ツヲハ書レサリシト也、是故ニテモアルベキカ、先人ノ精詳イワンカタナシ、正脩ガ何ヤラン、漢ノ書ニテ見當リタルヤウニ申ス、若見當リタルコトアラバ、申上グベキノ由仰ラル、

○同七日、參候、

滋野井入道殿御前ニテ、如此モノ拙ヘモ御ミセナサル、何ト申スニテ候ヤト窺、是ハ打飼ト云モノ也、本ハ鷹飼ノ持モノニテ、鷹ノ餌ヲ入ル、モノナリ、夫ハ藥ニテ仕タル物也、其手如此ニシテ、長途ナドニ要用ノ物ヲ入テ、腰ニ付ルモノナリト仰ラル、其形雅ナルモノナリ、



○十二日、參候、

滋野井入道殿ノ御咄ニ、答拜ト云コトヲ、賓拜スレバ主人答拜スト云トキハ、アチカラ拜シテ後、コチカラソノ拜ニ答ヘテ拜スルコトノ様ニ心得タル、左ニアラズ、答拜ト云ハ、相對シテ度々拜スルコト也、古今ノ儀皆カクノゴトシ、左ニテ候ヤト申シ上ラル、イカニモ其通リ也ト仰也、拜ト揖トノ別ハ、拜ハ平

伏シテ首地ニイタル也、揖ハ會釋也、三揖トアルモ、先サキヘ御出アレト云ヲ、ヒラニ御先ヘトユヅルカ揖ナリト仰ラル、

○書物ニ闕字ヲ記シテ尊ヲ表スルニ、平出ト特出トノ儀アリ、延喜式ニクワシクミヘタリ、平出ト云ハ、同シクダリニ記スコトヲ書下シニセズ、アトハ何字アマロフトモ、次ノクダリニアゲテ記スヲ平出ト云也、クダリノ通リニ平ニ記スト云心也、特出ト云ハ、クダリノ通リヨリモ、一字アゲテ記スヲ云、各別ノ闕也、シカレドモ此ハ當世ノ儀ニシテ、上古ハナキコト也、當今ニテハ漢ノ書ニテ、書物ノ系ヲ箱ニシテ、一段アゲテナドシルスコトハ、分モナキコト也、昔シ天子ノ御諡號ナドヲ記スモ、同シクダリニテ、何字ノ闕ト云コトアリ、タトヘハ當今天子ハ七字、院ハ何字ト云ヤウニ、文字ノ數ニテ定リアリ、此モ漢唐ヨリノコトニヤト申シ上ケラル、仰ニイカニモ唐法也、コレニ分ノアルコト也、古ヘ碑銘ヲ記サルヽニ、平出ニシテ書テハ、クダリガ大分ニツブレテ、記シヲホセラレヌカラ、一クダリノ中ニテ、闕字ヲコシラヘタルモノ也ト仰セラル、

○六月十七日、儀禮、禮記ノ御講筵ニ侍ス、兼々諸大夫中マテ願ヲキシハ、私儀唯今ニテハ、御匙御斷ヲ申シ上ゲ、御用一切コレナキコトニ、御祝儀御目錄拜領ノ段、其恐レナキニ非ズ、冥加ノ程困究ニ及ヒ候、何トゾ隨例ノ賜ノ儀、何レモ御意待ニテ御用捨コレアレカシト、願ヒ置クコト春來也、今日入道殿、百拙和尚、九峯和尚、松下見櫟、堀正藏、拙、御講、後拜領物各々コレアリ、女中以ニ蓋物一コレヲヒカル、入道殿ヲハシメ、拙マデ夏ノ服ヲ賜フ、例年ニ少シモカワラズ、拙モ拜戴ス、恐感肝ニ銘ジテアリカタク拜戴ス、カ子テノ願ヲ御聽上ケラレテ、ソレトナクイツレモノ井ニ拜領ノ段、思召ノホト筆舌ニ及ヒカタシ、

○廿二日、參候、

日本ニテクスリバコヲ、藥籠トカクコト不審也、藥筥、藥笥トモニ漢ノ字也、藥籠ト云ハアチニテ、山中ニテ藥ヲ採テ入ルル器ナルベシ、茶器ノ花生ニモ藥籠ト云モノアリ、尻ボソニテ採藥ニ用ユベキモノ也、コノコトナルヘキヤト、入道殿申シ上グ、イカニモ左アルベキコト也ト仰セラル、正藏、見櫟、モ、左モアルベキカト申サル、ソレニ付日本ニテ、藥バコト云モノヽ形モアルコトニヤト申シ上ク、入道殿仰ニ、日本ノ藥筥ト云モノ古キ形アリ、尤モ醫者ノ所持ノモノニ非ズ、宮中ノモノ也トテ、次ノ御會ニ悉ク記シテコレヲ下サル、

○廿七日、參候、

昨日見櫟ヨリ申シコシ候ハ、銀四錢三分ヲ一兩トシ、四十三錢ヲ、十兩トスルコトハ、何ノ世ヨリノコトニ候ヤト申シ來ル、其覺悟ナキ由ヲ申シ遣ハス、ソレヨリシテ、心當リノ算書ドモ

考ヘ申セドモ、曾テ見當ルコトナシ、信齊翁ヘ尋ニ遣ハセシカドモ、惕齊ニモ承ハラズト申シ來ル、銀座ニハ若シ時世等コレアルヘキヤト、平野某ヘ問ニ遣ハセシカドモ、不覺ノ由申シ來ル由ニ付、某ニ申シ遣ハセシ反翰ニ、銀ニ花フリト云モノアリ、舊物ノ由シ、此料四十三錢コレアリト（近本作已アリ、）覺エタリト申シ來ル、花フリト云モノ一兩年前、安居ノ寶物開帳ノ節、拙見タリシハ、假令歌ガルタノ大サニシテ、長メニ四角也、四角ニ丸キ花形アリ、尊氏將軍ヨリ寄附ノ由ヲ申ス、イカヽト伺フ、仰ニ日本ノ和書ニ記サル、處、延喜式等兩ト云ハ皆十錢也、四錢三分ヲ兩トスルコト御存念ナシ、但シ武家トリアツカウ處、ミナ四三ノ數ナレハ分アルベシ、時代モアルベシ、吟味スベキノ由仰ナリ、松下、堀、和尙達ヘモコノ由ヲカタル、百拙和尙ノ曰、黃檗山ノ官銀、每々持參ノ料ハ四三ノ數也、一年ノ積累也後世ヘ遺ス處ノ帳面ニハ、ソレヲ漢ノ法ニ準シテ、十錢一兩ノ數料ニシテ記ス故、四三ノ處ニ氣モツカズ、イカサマニモソノワリアルベキコトニヤトアリシガ、果シテ次ノ御會廷ヘ、一紙ノ考索ヲ持參ニテ拜見ス、尤故アリテ面白キコト也、則チ入紙ニシテ置ク、尙考索スベシト云々、

○七月十六日、　如レ例參候、

關白公ニハ御用ノコトアリテ、チヨト御成ニテ早々還御ノ由也、鷹司樣、入江樣御成、大文字拜見、初更ノ頃退出、

○二服三服建ノウス茶ノトキ、湯ス、ギスルコト、他流ニハ絕テコレナキコト也、御流義ニカギリタルコトナルガ、此度加州ヘ下向ノ節、金森ニ相尋シニモ、湯ス、ギハ一遍也、二遍ハセズト申ス、二遍ス、グベ濃茶ニナルノ由ヲ申ス、イカヾト伺フ、仰ニ古ヘ　後西院ノ御前ニテ、常修院殿ヲ初メ、三菩提院並ニ御前ニモ、度々御薄茶ノコトアリシニモ、湯ス、ギ一遍、茶筌湯ス、ギ一遍、凡テ二遍也ト御覺エナリ、是モ何トゾ堂上堂下ノ差別ナリヤ、イサシラズト仰也、敬法門院ニモ御大切ナリ、此頃　法皇御不豫ノ御沙汰アリ、何トヤラン講會ト云ヘドモ、其慮リアルベケレバ、暫ク御延引ノ由仰出サル、

○八月七日、　參候、御桉合物アリ

諒闇ノコトヲ申シ上グ、サレバトヨ思召カケナキ御コトニテ、別シテ關白ニモ御闇敷マシマス、御忌服ノ筈ナレドモ別勅ニテ除服仰下サル、左ナケレバ蟄居ナサレヲバナラズ、左樣ニテハ中々スマヌコト多シ、未ダ御觸穢ノコトナシ、一兩日モ過ザレバ萬事ノ儀調ハズ、古ヘモ如此ニテ、急ニ諒闇ニハナリガタキニヤト申シ上グ、仰ニ古ヘハ其事コト〳〵ク備ル、即日諒闇ニテモ何ノツカユルコトナシ、今ハツカユルコトノミナリ、ソノコト萬事スマネバ、諒闇ノ儀ト、ノハズト仰ナリ、

○八月九日、參候、右京大夫、掃、

後光明院ハ、近代ニテハ又大御器量ノ天子ニテマシマス、飽マデ御慈悲フカクマシマシテ、飽クマテ嚴重ニテ、恐レ奉ルコトタヾナラズト也、愛宕故大納言殿ノ御咄ニモ、毎度承リシト、右京大夫申シ上ラル、仰ニ毎度御キヽアソバシタルコト、唯々世ニモ恐シク侍リシト語ラル、此大納言モタヾ人ニハアラズ、當世又アルマジキ人間也、ヤス丸トテ後光明院兒ニテアリシホドニ、ソダチ各別也ト、右京ノハナシニ、後宮中ニテ若キ公家衆ノ博奕シテヒソカニ遊ハレシヲ、愛宕ミテ面白カルベキワザ也、我モ人數ニ加ヘタマヘトテ、飽マデ戯レ遊ビテ、事スミケル後、是ハ宮中ナドニテアルベキコトニ非ズ、我モタシナミ申スベシ何レモタシナマレヨト申サレシホドニ、誰何ト思フ人モナク止ケルト也、接レ人ニ厚キコトヲ見ルベシト申サレタリ、

○御咄ニ、後光明院ノ御トキ、唐橋ノ某ハ才鈍キ人ニテ、ミナ若キ衆中ノナブリモノナリシニ、或夜詰番ニ、番所ニギヤカニ人々ノ大笑ノ聲ノキコエシヲ、御前ニ聞召サレテ、ヤス丸ヲ召テ、アレナニゴトニカ見テ參レト仰ラレシヲ、走リカヘリテ、唐橋ニ哆羅尼舞ヲマヘト、人々ニ進メラレテ舞ヘルニコソト申シタリ、然ラハ其方今一度走リ行テ、我モ哆羅尼舞ヲ覺ヘタリ舞ベシトテ、立並テ舞ヘトノ詔也、ヤス丸、ワレハ存ゼネバ、イカテカハト申上ラレタリシニ、サリトモイカヤウニモマヘト、仰アリケルホドニ、ヤガテ行テ右ノゴトクマヘレシカハ、人々興サメテヒソ〳〵ト成ケル、ヤス丸カヘリテ其ノ通リヲ申シ上タレハ、ヒト〳〵ノ人ヲ問ハセラレタルノミニテ止ヌ、總ヲテ思召如レ此御憐愍ニテ、又嚴烈イタシカタナシ、夜學ナドアソバシテ、更レバ兒達ノネブリコケテアルヲ、女中ヲ召テハ衣服ニテモ著セヨカシト、仰アリケルト也、

○崩御ハ廿一カ二カニテアリケルガ、其間ニ今行ハル丶所ノ性理大全、惺窩文集、ソノ外版ノモノ多シ、崩御ノ少シ前御夢ヲ御覽アリテ、意林庵ヘ御物語アソハセシハ、處ハ紫宸殿ノ前ト思シキ處ニ、十丈バカリノ龍ノ臥シテ、行幸ヲ待テ居タリシホドニ、其龍ニ乘セラレシカハ、ヤガテ昇天アソバシタルト御覽アリケルハイカニト、勅詔ノアリシニ、意林庵申シ上ラレシハ、是ハ日出度御瑞夢イロ〳〵思召立ノ侍リシニ、天下思召ノマヽニナルベキ前表ナルベシトアリシヲ、サレバトバカリニテ、微笑アソバシケルガ、其時御製ノ詩アリ辭世ノ御心持也ト云フ、ソレヨリ五日バカリシテ御疱瘡ニテ、終ニカクレマシ〳〵シト也、

○或時後水尾院宮中ヘ御幸アリ、御學文、御詩作ノコトハ御聞及アソバシタリ、和歌ノコトハサマデ御沙汰ナシ、是モ亦我國ノ

道也、遊バセカシト思召ナリトテ、十首ノ歌ヲ御持參ニテ、進ゼラレシヲ御覽アリシガ、供御ナドマイラセラル、間ニ、十首ノ御歌ノ和韻ヲノコラズアソバシテ、叡覽ニソナヘラレシカバ、後水尾院樣ニモ、殊ニ叡感アサカラズ、コレニテハ歌ヲアソバサズトモト、仰ラレシ由ト物語セラル、

○十二日、　參候、

日外車輪釜ヲ拜見イタセシ刻、仰ニ車輪ハ夜會ニカケテ一段ヨキ物也、火ノ影ノ炭ニウツリテ其由アリト、三菩提院ノ說也ト仰アリシガ、近日車輪ノ釜ヲ見出セシトテ御覽ニ入ル、コレハ本遠州ガ物ズキ也、御流義ニハナキモノナレドモ、古ヘモカケラレタルヲ見タリ、三菩提院ニモカケラレタリ、汝ガ見セシ釜ハヨカラズ、御所持ノ釜ヲ出シテ御見セナサレシガ、各別ノモノ也、並ベテハ影モナキ由ヲ申シ上ゲシカバ、左ホドニ思ハヾ下サルベキ由ニテ拜戴ス、此釜ニテ當年ノ口切ヲ致スベキ由ヲ申シテ退出ス、

○諒闇ノコトハ久シクナカリシガ、今年イカナル年ニヤ東山院以來也トノ仰ナリ、サアルニコソ、父帝ニアラザレバ諒闇ハナシ、此度モ東山院御存生ニテマシマセバ、東山院中ノ觸穢ニテ禁中ニ觸穢ハナシ、父帝ナキ故ニ祖父帝ノ諒闇ニ御座ナサルルノ儀也ト仰ナリ、（家禮ノ承重ノ儀ト全ク同レ、且父母之喪、無二貴賤一一也、ノ義モ亦同ジ、）

○泉涌寺般舟院ノ兩寺ニテ、法會ヲ執行ハル、コトハ、イカナル故ニテ候ヤト窺フ、　仰ニ此事ヲ大方ノ人アシク心得テ、兩寺ノ御法事ト覺ヘテ、泉涌寺ニヤ參ラン、般舟院ニヤ候セント思ハ僻ガ事也、大根般舟院ハ伏見院ノ宮中ニアリシヲ、程遠キガ故ニ今ノ處ニウツサレテアリシ也、宮中ニテ行ハル、筈ノ御法事ヲ、宮中狹キガ故ニ三昧院ニテ行ハル、ニテコソアレ、大根御本所ニテアル御法事也、サルホドニ大臣ノ著座、被物マテ行ハル、ハ般舟院也、七日々々ニ諸方ノ僧ヲ思召ニテ召サレテ、般舟院ニ來リテ行フモソレユヘ也、泉涌寺ハ御寺ニテ御法寺ナリト合點スベシト仰ナリ、

○當日導師ノ僧ノ履ヲ著テ、佛殿ニ入ルコトハイカヾ、大黑殿ナド舊ハ敷瓦ニテ、土座タル故也ト申ス人アリ、左ニテ候ヤ、大臣ノ座ト云、御前ト云、不禮ノヤウニミユイカヾト申上グ、仰ニ履ト思フガ故ニ左ノ不審アリ、導師ノ履ハ服ノ一ツ也、堂上ノ靴ヲ著テ紫宸ニ上ルモ亦同ジ、

○被物ヲ行ハル、コト、今ニテハ唐織ニカギルヤウナリ、イナコト也、アレハ大藏省ヨリ調進（今ニテモソレ也、）ノ物ニテ、何ニテモアリアヒタル物ヲ下サル、コト也、ウチキナド下サレタル例モアリ、女房ノ絹ヲ被クラル、コトモアリ、（今ハ大藏ヨリ調進ノ分ニテ、被ケラル、間ハカリニテ、アトハ祝ニカユルナリ、）關東ニテ勅會ノ時引カル、モ、唐織ニカギルヤウニ成タリ、

獅子吼院殿ノ毎度ソノ噂ニテ、天臺座首ト四座ノ大夫ハ似タル
モノナリトテ大笑ナサレシガ、イナモノ也、
○十五日、入江樣御成、參候
今日岡崎ノ抱卯子ヘ尋テ、ユル／＼物語イタセシ次手ニ、ゴ
ノコロノ歌トテ、見セ侍ルマヽ御覽ニ入ル、

萬代を、しめしとみつる、君さへも、
はこやの山の、雲かくれます

仲秋ノ存シ寄モアレドモ、未ダ首尾セズトテ見セ侍ラザリシガ、
拙ガ今宵ノ詩ヲ見セ侍リシカバ、殊ノ外ニ面白キトテ、此趣向
ニスベキト申ス、次手ニ御覽ニ入ル、
過㆓密八音㆒寥㆓四海㆒、唯聽商律以ㇾ蟲鳴、人間盡是不平色、明月
爲ㇾ誰獨潔清、
カクハ致シシカドモ、晩ノ陰晴モハカリガタキ由ヲ申シ上ケシ
ガ、雲ハムラ／＼トアリナガラ、月イト清ク照シタリケレバ、
名ニモ不ㇾ負、ナンヂカ句モ氣遣ナシトテ御笑ナサル、全ク雲ナ
シト云ヨリモ、雲間ヨリ洩出ル月ハ一入ナルモノトテ昔シ烏丸
光廣ハ、

薄雲も、うすきはのこれ、月かけの、
さしけんほとは、ひかりもそする、

トテ、詮アル歌ノサマ也ト仰ラル、
○廿日、夜、參候、
倚子ト書テイスト訓ス、其形チ漢ノ制イカニト、問人アリ三才
圖會等ニアルヘシト思ヒシガ、カレニモナシ、佛家ノ法ナルヘ
シト、釋氏要覽等ニモミヘズ、如何樣ニ故アルベシ、考ヘ見ル
ベキノ由仰也、（後ニ百拙ヨリ考ヲ上ラル、御前ニアルベシ）
○四疊半ニ風呂ヲカサルコト、（疊ノシキヤウ、前カト仰ノ通リ記）亭主口ノ疊ノ一間サ
キヘ、ツキツメテカザルコト好シヤ、前ヘヒキヨセテカサル好シ
ヤト伺フ、仰ニフタ色也、ソレハ其座敷ノ恰好、風呂釜ノト
リアイニヨルコトニテ、ツキツメテモヒキヨセテモ餝ル也、大
風呂、大釜ナトハ、サキヘツキツメテカザルガ好シ、小釜、小
風呂、小水指等ハ、前ヘヒキヨセテカザルコトヨシ、ソレモ見
合セ恰好タルヘシ、
○風爐先ノ屛風立ルコト、四疊半ノスキヤ圍居等ニモタツルコ
トニ候ヤ、仰ニ决シテナキコト也、風爐先ノ屛風ト云ハ、常ノ
座敷ニテモ、四疊半ニテモ、襖ノアルトコロカ、壁ト襖トノ鑰(カギ)
ノ手ニナリタル處ニタツルコト也、タトヘハ襖ヲアケテモ、此
處ヲトソト別ノ座敷トキワメタル心也、ソレ故風爐先屛風ハ、カ
ザリノ間ノ道具也ト云ハコレカ爲也、（惡說トモ世上ニ多シ、コレラノコトナト、他說ヲキクニツケテモ、）
（大ニ感心シタル御コト也、他說ノ惡蒙記スニタラズ、コノコロ四疊半ノ圍居ニテ、風爐先屛風ヲ立ル茶ニ合タリ、其仔細ヲ聞ニ異說也、タテズシテモクルシカルマシキ處）

ナリ、

○風爐ノ灰ヲ端正ニスルコト、毎度　常修院殿御物語也、遠州流ノ灰ハ、コトニ見事ナルコト也、コレヲ遠州流ト云ニハアラズ遠州流ハサモアルベキコト也、茶道ガイタス故也、灰ノリツハ過タルト、臺子トハ茶道ノコト也、灰ハコトニ入ニモサセルルコトナレハ、常人ハ結句イナモノ也。左アルホドニトテ今ノヤウニ、ヲタラクニハアルカラス、ドコトモナク亭主ノイタシタル灰ト、ミエルヤウニ仕立ヘキ也ト、仰セラレタル由仰也、

○キリメヲ上ニスル土器ノコトハ、御流儀ニハコレナキコト也、二枚カワラケハアルコト也、コレトテ異亂ナルモノナレハ、慢ニセヌガヨキ也、二枚カワラケト云コト二樣アリ、アトサキニ二枚タツルコトアリ、前ニバカリ、二枚タツコト、即兩方ニ大窓ナトアル風爐ニハ、アトサキニ二枚タツル也、前ニ二枚タツルコトハ、大風爐ニ大釜ナトカクテ、灰ヲヒクヽスルトキニカハラケヲ高ク、︶コノヤウニモル、コノヤウニモスル其爲也、カシナガラ大釜ヲカクルコトハ、マヅハナキモノ也、常修院殿ノ御キライナリシコト也、風爐ニハ小釜ヨシト仰セラル、

○風呂ノ釜ハ大根元ガ、爐クサリノ釜ヲ、風爐ニ掛タルガモトナレハ、小キ筈ノコト也、少シモ涼シクスル趣向ニ、大釜ヲカケ大火ヲスルコトハ、何ノ爲ゾヤト仰ラル、

○八月ノ茶湯トテ、古來ナラヌコトニシタリ、殊外ムツカシキモノ也、此頃何某ガ許ニユキタル、其主人ニモ問シルヘシト仰ラル、此コト毎度承リタルコト也、イカヤウニ致スコトニ候ヤト窺フ、　仰ニ御前ニモ、終ニアソバシタルコトナシ、　後西院ノ御所望ニテ、　常修院殿アソバシタルテ見タリ、ソノ心持大事也、三四月ノ爐ハ、サシテカハリタルコトモナシ、八月ノ風爐ハ、永々風爐ヲシテ退屈ノヲリカラ、ヤガテ爐ニテロスナレバ、風爐ノ眞サカリノヤウニシテモ其詮ナシ、爐ノヤウノウツリアリテモ、爐ニテ又スヘキヤウナシ、此間ニ工夫ノ入コト也、　常修院殿ノナサレシトキモ、籠ノ花生ニ午時花ヲ入ラレタリ、此花夏ニモアス、口切ニモ對セヌモノナリ、カヤウノ心持ニテ合點スベシ、清涼ナルトテ水ウチ立タル、金ノ花入ニテモアルマヅ、タトヘバフクベノ花生ナド此時シカルヘシ、指合モセス、青竹ノ引切ナド何ノ詮ナシ、カチノ物ト、カツノカスガイノ一引切ナト此時ナルヘシ、コボシモ、杉ノアタラシキニテハアルマヅ、水指モ片口ナド、面白カルヘシ、凡テカヤウノ處、心ヲ付ベシト仰ラル、世上ノ茶、何トシテカヤウノ、用捨アルヘキヤ、惑シ奉ル、

○廿一日、　參候。

實語敎、庭訓往來、今川ナトノ類、イツレモ作者ハサダカナラズト云ヘドモ、實語敎ハコトノ外ニ、古キモノトミヘタリ、長

府本ノ平家物語ニ、山法師ノ習ヘル、山高故不レ貴トハ、カヤウノコトヲヤ申スベキトアリ、スレハ平家物語時分ノモノカ、

○廿七日、參候、（三寶院様、右京大夫、拙、）

右京大夫申上ラル丶ハ、御院號ノコト、後ノ字ヲ付ルハ、其帝政似サセラレタトカ、其帝德ヲシタハレタルトカ云コトニテ付ラル丶由也、コレハ勘文ナトアルコトニヤト、仰ニ諡號ニテ付ラルルモアリ、遺詔ニテ付テアルモアリ一定セズ、東山院ナドハ今ノ仙洞ノ院宣也、後水尾院ハ遺詔也、後西院ハ諡也、カクノゴトク、イロ〱ナリト仰ラル、ソレニ付昔シヨリ、門院號アマタアレドモ、羅生門院ト云ハナシ、杜貝公（川本部貝香ノ故事トアリ、）ノ故事モ鬼神也、綱カ故事モ鬼也、カヤウノコトニテ耳ニタツ號ナル故平トテ、御前ニモ大笑ナサル、ソレニ付近代西ノ角ノ御門ヲ、ハマグリ門ト云コト、俗稱トハ云ナカラ、イカナルコトニヤト申サル、アレハ後西院ノ凝華洞ヲ、アレニ設ラル丶トキ、頂妙寺モ河原ヘ引ケテ、此御門モ出來タリ、本此前ニ寛文ニ禁裏炎上ニテ、土地モヒロガリテ、凝華洞ヲアレニ設ケラル丶カラ出來タレバトテ、燒タル故ニ明キタルトテ蛤トハ云、火ノ門ト云モソレ也、延寶ニ鷹司殿ヨリ出火ニテ、禁裏炎上ニテアリケルガ、東ノ御門ヨリ先ニ入タル火ナレハトテ、東門ヲヒノモントト云タル也、ソレヲ後世ニハ好事ノヤウニ、ヒノモン通リナド云也

又日華門ノ通リ故、ヒノモント云ト云コトナド、皆附會ノ說ナリ

○凝華堂（川本ニ凝華洞トアリ）ト名付ラレタルハ、今ノ仙洞樣ノ宣旨也ト仰ラル、右京申シ上ラレタルハ、今ノ仙洞ノ御所ニモ、號アルコトニヤト申サル、ナキコト也、凝華洞ハ、後西院ノカクレマシ〱テ後モ、ヒタト仙洞ノ御幸ナリシ處也、ソレ故ニ名付ラレタルモノ也、舊院ヘ御幸ト云モスマヌコト也、ソレ故ニ名付ラレタルモノ也、イカサマニモヨキ名也、御庭ノ體サゾ御物數寄ナルベシト申シ上グ、サレハトヨ仙洞ノ御庭ニモ、池モアレバ山モアリ、アナタニモソノ通リナレドモ、又チガイタル趣アリ、御池ノ中島ニ御亭アリ環波亭ト云、山ノ峰ニ疊嶂臺ナト、ミナ名目トモ面白キコト也ト仰ラル、

○九月五日、參候、

天子ノ御喪服ヲメサルルヲ錫紵ト申スハ、漢ノ文字ニテ候ヤ、イカニモ漢ノ文字也ト仰ラル、

○天子ノ御服ヲメサルルハ、院ノ御送葬ノ日ヨリ、メサル丶ト申スハイカガゾト伺フ、仰ニ、御送葬ノ日、始テ遺詔ノ奏ト云コトアリ、院ノ遺詔ヲ奏シテ、服ヲメスコトナリ、（世上御送葬ノ日マテ、御幸ノヤウニ云ハ、アヤマリナルベシ、）此度ノ靈元院ト申スヤウナルコトマデ、遺詔ノ趣也ト、申シ上ルコト也、

靈元ハ、孝靈孝元ノ字也、コレハ兼テ思召ニテ遺詔也、明正モ、元明、元正ノ字也、コレハ仙洞ノ號セラレタル追號也、遺詔ニアラサレハイツレモ考出スコトト仰セラル、

○世ニ安德天皇ト、後醍醐天皇トハカリチ、院號ヲ稱シ奉ラヌハ、御在位ニテ崩御ナリタル故也ト申スハ、誠ニテ候ヤト伺フ、仰ニ安德ハ眞ノ御諡ニテ、世上ニ申ス表德號也、追テ諡セラレタルモノ也、是バカリハマコトニ御在位ノ天子ニテ、崩御ナリタル也、後醍醐ハ醍醐寺ヲ立ラレテ、延喜ノ德ヲ追テ號ラレタルモノ也、故ニ世上ニコソ天皇トハ申セ、記錄モノナドニハ、後醍醐院ト申ス也ト仰セラル、

○東山院御讓位アリテ、程ナク崩御ナリタル故ニコソ、當今上皇帝ハ、天皇元服ニテマシマス由也、ナニトシテカハ、御歲ニタラヌ親王ニ、御讓位アリタルニヤト窺フ、仰ニ往古ヨリ御讓位ノコト其例多シ、忽チ安德天皇ハ、二歲ニテ讓位アリシ、上ハ其餘甚多シ、如何ナル思召ヤラン、コトノ外ニ御讓位ヲ急ガレテ、炎上ノ後近衛ノカリトノニテ、御讓位也、ソノ中ニ禁裏院中造營ノコトヲハリタル故、當今ハスグニ御遷行ヲ禁裏ヘナサル、東山院樣ニハ新院ニ御入ナサレテ、新院ト稱シ奉リタル也、崩御ナリタル故ニ、天皇元服ニテアリタルニアラズ、御存生ニテモスデニ御讓位ナリタル上、先帝ステニ新院ニテマシマセハ、天皇タルコト明ナリ、

○十二日、參候、入江樣御成、

後光明院ニハ、各別ノ御器ナリシコト、毎度仰ラレシコトナルガ、ソノ頃板倉周防守ガ、所司代ヲツトメシトキナリ、後水尾院ニ癖ノ御腦マシ〳〵テ、日々ノ御容體ヲ叡聞ニ達セシニ、尙御心元ナクヤ思召サレケン、板倉周防守ヲ召テ、近日行啓アルヘキノ由ヲ、仰下サル、周防守申シ上ケシハ、朝覲行幸ノコトハ、其儀大方ノコトナラズ、先關東ニモ申シ遣シ、其儀モタヽサレズシテ、ニワカニハ調フマジキ由ヲ申シ上ゲシニ、サラハ其コトハ止ラルヘシ、禁中辰巳ノ隅ノ築地ヨリ院御所ノ戌亥ノ隅マデ、梯ニテ高廊下ヲ急々ニ申シ付ヘシ、禁裏ノ內ヲ行幸ナルハ常ノコト也、廊ヨリ廊ヘウツラル、コトニ、誰カ行啓ト申スモノアルヘキヤ、早々ニ仕立ヘシトテ終ニ行啓ナリケルトナリ

○廿二日、參候、

日本ニテソリハシノコトヲ、反橋ト書ケリ、反ノ字ニソルト云和訓アル故ナルヘシ、論語ニ棠棣之花偏兮夫反セリトアリ反ハソル心ナリ、夫故ナルヘシ、シカレドモ反橋ト書コト、漢ノ書ニテ御覽ナシ、堀ヘ御尋ナリシカバ、釣橋ト書由ヲ申ス、出處シカト不覺ノ由也、越峰ノ八幡ヘ參リテソリハシヲ見テ、此地ニモ

釣橋アリト申サレシト承ト申ス、先反ノ字ヲ、醫書ニアノヤウナ形ニ、用ヒタルコトアリヤト仰也、婉モ申ス、醫書ニ角弓反張ト申ストキハソル心ニテ侍ル、釣モ天釣内釣トテ、ソルコトニ遣ヒタリト申シ上ク、反ノソルハ、コチノ方ヘソルコト也、釣モツリアゲテソル心也、天ノ字、内ノ字テ、ソリヤウ違也、反張モ角弓ノ反ニテ、張ノ字ヲ付テ聞ユル也、釣ノ一字ニテ、ソルトハ云ガタカルベキヤ、又アチノ字ニ虹橋ト云字アリ、サレドモコレハ脚ノナキ橋ノコト也ト仰ラル、日本ノハチハシノ類也、出處總シテ、唐書ヲ御覧アルニ日本ノ如クノソリハシト云モノヲ御ランナシ、ソリタル橋ハ必ズハ子ハシ也、大カタハ脚ナキ橋也ト仰ラル、

○十月七日、御會ニテ參候、

滋野井頭中將殿ノ仰ラレシハ、昔シノ沈宮ト云伽羅ノ合ナト申ス、尤上代ノコトトハ申ナカラ、結構ヲ盡シタルモノナルヘシ、ソノ形ヲモ御覧ナシト仰アリシニ、仰ニ尤時代ニヨリテ多キモノト、稀キモノトアルコレ又常也、シカレドモ昔シヨリノ道具ノ千年ニ及ビテ、傳ルマジキモノモ傳リテアルナレバ、コトニ此等ノモノハノコルベキモノ也、終ニ御覧ナシ、アレハ眞ノ伽羅、眞ノ沈香ノコトニハアルマジ、式ナドニアル何地彼地ト云地ノ字ヲ入テミルニテハアルマジキヤ、沈地ノ宮、伽羅地ノ合ト云コトニテハアルマジヤ、昔ノモノニソノ類多シト仰ラル、

○十一日、入江樣ヘ參候、

先日關白公ヘ御成ニテ、兼テノ連歌ノコトヲ仰ラレシニ、サラバトテ、御句ヲ進セラル、

　色は千種、かほりそひとつ、秋のきく、

右ノ句ニ付ヘキノ由仰也、近日關白公ヘナラセラルベキノ間、御供ニ參ルベキノ由仰ナリ、

○十八日、准后樣、芳林院樣御成、滋野井入道殿、拙、

御掛物、後西院宸翰、双六ノ御歌、

滋野井入道殿仰セラレシハ、昔シ亂碁ト申コトアリタリ、ソレハイカヤウニ致スコトニヤ、梅輪内燈臺ナドノ類ニテ、源氏物語ナドニミタレゴト云、連歌ナドニ能ツカフコト也、其法アリヤト申上ラル、仰ニ後水尾院ノ御前ニテ、タビ〳〵アリタルコト也トテ、アソバシテ御ミセアソバス、コレヲメヤスランゴト云、先石ノ白黒ヲ一ツニマゼテ、碁盤ノ目ヲ四方ニヒトメノコシテ、ヒシト並ヘテ四方ノ角ニ、白石二ツ、黒石二ツ、已上四ツヲ置テ是ヲメヤスト云、扨人五人カ七人カ並テ、丁ニスルハワロシ、ハンニスルカヨシ、ソノ石ヲ、目ニ從テ横ニ走リテ、タトヘハ白石ナレハ、白石ノ縦ニ多クナラヒタル處マテ、縦ノ白石ノツヽキタル石ダケヲトル也、又黒石ナレバソノ次ニ横ニ走リテ、縦ニ黒石ノツヾキタル

ダケヲトル也、ソレハ一度ハ白石、一度ハ黒石ヲツカフ也、人ガ五人カ七人カナレバ、同ジ人ガ一度ハ白、一度ハ黒ヲツカフニナリテヨシ、サナケレバ同シ石ニアリテハ兼テアシヽ、カヤウニシテトリ〳〵シテユクベ、後ニハ皆ニナル也、中々ニ古風ニテ面白キワザ也、

○又滋野井入道殿仰ラレシハ、ナゾト申スモノハ古キコトニテ、後陽成院、後水尾院、ソノ外勅作多キ由也、書タルハナキ物ヤト窺ル、コレハ聞召及バレタルトコナリ、古來勅作ソノ外古キナゾヲ、西門跡ノ先門コトノ外ノ好物ニテ、全備アツメラレタルガアリト也、便リニツケテ見ラレヨト仰セラル、

○香ノ掛物ハ、ナゾノヤウナルハアシキト仰也、前カド承リタルコト也ト申シ上ケシヲ、入道殿コレハ尤ナルコト也ト仰セラレシガ、是ハ頓智ナクテハナルマジキコト也トアリシニ、イカニモ上手下手ノアルモノ也、古ヘ後西院ノ御時、アケテクヤシキト書付アリシ、獅子吼院ノコレヲ取ルベシトテ取ラレシヲ、人々アケテクヤシキハ、イヤナルモノ也トアリシニ、イヤトヨ此銘タヾナラズト仰セラレシカ、果シテ後西院ヨリ出タル掛物ニテ、島八丈ト紅近本紅ハ紺トアリト也、ソノトキビツカリドロ〳〵ト書付ノアリタルヲ、後西院ノメサレシガ、獅子吼院ヨリ出タルニテゾアリケル、唐紙一本也、ココロハト御尋アリシカバ、カミナリト申スニテトテ大笑アリケル、無禪ハ上手也、コレガ出タル掛物ニ、鞠箱ノ上ニ、コノ内ニカクモノアリト、書付タルヲ、松島撿校ガトリテ、サガセドモ何モナシ、此ハナニゾト問ケレハ、蟻ヲ一疋入ヲキタルホドニ、ドコゾニハアルベシト申タリトテ大笑ニナリヌ、又後西院ノ御銘ニ、一本ヌケタ鶴ノ羽箒トシテ、羽二重ヲ出サレ、大閤ノ大鼓ハ鳴テナラズ笛ト書テ、純子ヲ出サレタルナト、古ノ風ニテナゾニアラズ、

○廿四日、關白樣御口切、准后樣御所御成、入江樣、拙、御床掛物、後法性寺殿ノ、一條禪閤兼吉ヘ、朔旦冬至ノコトヲ仰ツカワサレシヲ、禪閤ノ書込ニテ返答ナサレシ兩筆也、時ニトリテ、由アリトミユ、

○ヲモトノ前置ト云コトハ、立花ニハ殊外ノ秘スルコト也、此場ニ立花師ナケレハ社トテ御談ナサル、モロ〳〵カヤウノナリノ葉ニ、カヤウノ實ノ出來ルハ、多クハ葉ト葉トノ間ヨリ出ルモノナリ、生ルニモソノ心得ニテ生ルコト也、ヲモトバカリハ、葉ノ間ヨリハ不レ出、一本立ナルモノ也、ソノ心ニテ生ルヲ秘事ニスルコトナリ、

○十一月五日、關白樣御有卦、入江樣御成、右京大夫、拙、御床禁裏樣ヨリ進セラレタル、後奈良院宸筆懷紙也、諸方ヨリ獻上ノ諸物岡ノ如シ、拙金色紙五枚臺ヘ、付紙ニシテ金一枚ト記シ、五枚ノリ臺ニシテコレヲサシアグ、夕方御次ニテ御下リクダサル、右京、拙、御夜食御相伴、四ツ時退出、

○翌六日、右御禮ニ參候、
御クバリモノ御文匣、布久佐、茶巾二通、箱ニ入、コレヲ下サル
○十三日、參候、
昨日仰付ラレシ砂糖ト云モノハ、本西域ノ製ニシテ、大唐ヘ渡リタルモ遠カラヌヤウ也、本綱ナドニ出タル趣ヲ、考ヘ申スベキノ由也、今日參上、本草綱目ノ趣ハ本唐ノモノニアラズ、西域ノ制ナルヲ、唐ノ太宗ノトキ、使ヲ遣シテ習ハサレシ由也、出處モナク時珍カ說也、甘蔗汁ノコトハ、外臺秘要ニ出タルハ、唐ヨリ傳リタルコト、疑ナキモノノヤウナレドモ、甘蔗汁トバカリニテハ、砂糖ノコトハキハメガタキ由ヲ申シ上ク、即本綱御覽ニ入、ホナルドコレニテ尤ナルコト也、悉伽羅經ト云モノニクハシク出タリ、コレナレバイカウ古キモノ也、西域ノ制ト云モ尤ナリト仰ラル、日本ヘハ、何時分ニ渡リタルニヤト申シ上ク、仰ニ、コレハイカフ近キコト也、ヤウ〱太平記時代前後トミヘタリ、鎌倉ノ將軍ヨリ天龍寺ノ義堂ニ、小壺(ツボ)ニ入テ贈ラレシヲ、殊ニ重寶セラレシ由也、ソレヨリ後廣クナル、禁中ノ式ニモソレマデハ、ヤウ〱アマツラアメノミ也、砂糖ノコト古式ニミヘズト、
○此經ハ三寶院ヨリノ、御タノミニテ淸書ナサレシガ、イロ〱重寶ナルコト多シト也、立花流ノ習ニ、花木ニヨリテ生ルト、生ヌトアリ、佛ノ前ニテ立ルト、立ヌノ花ト云コトアリ、コレモ此經ノ中ニクワシク出タリ、シカモコレヲ生ケヌハ、コノ分ケト云コトマテヲ記セリ、定メテ昔ノ立花者ハ、コレヲヨク知リテ、定メタルナラン、由斷ノナラヌコト也ト仰セラル、
○十七日、關白公ヘ參候、右京大夫、拙
爲レ仰申入候、今日右京權大夫ゟ被レ下候而、御香被レ爲レ催候間、御手透候ハヽ、晩方御參可レ被レ成候、必待思召候旨、宜申入候との御事に御座候、以上、
山科道安樣、　　　瀧　一學、
七ツ過ヨリ參候、兼テ掛物ノ由承リ及候ユヘ、桐ノ箱ニサナダヒホ付タル茶入ノ箱ニ、越前墨流ノ短尺ヲ卷テ入、上にましてくやしき、みしか夜は、明ト書付テ出ス、頭中將殿ニモ御出ニテ御人衆川本人數トアリタリシカ、御用ドモニテ、御客アマタウチツヽキ、初更ノ前始ルトキ、又一乘院宮明日歸寺ニ付御成、ソレ故一座ハ、關白公ニハ御聞ナサレズ、頭中將殿、錦小路權大夫、拙、一學、隼人ノミ聞、御香ノ記並ニ名付別ニ記レ之、御夜食後又一座、關白公初右ノ人衆ニ、大藏權少輔加入ニテ、聞召サレシニ、九種スミテ今一種ニナリテ、火災出來テ御參內、ソレ故批講モナク、掛物ノ勝負モナシ、夜半前歸宅ス、掛物川本作睹物
○廿日、口切御茶　參候、拙、淳安、手水鉢、湯水　御待合腰掛圓座並テ二ツ、御案內、右馬幡介、

御掛物、定家ノ文、灌佛ノ状トミユ、奥ニ定家人衆ノ書入アリ、
一文字、青地金襴、中、茶地金襴、上下、山水純子

御棚、香合、羽箒、

香合、仁清、交趾ノ手、チシトリ

羽箒、トキ、

御釜、天猫ノヤウニミエテ蘆屋ノ
由、盞、唐ノ鏡、

御會席、御碗クロ、御膳シュンケイ糸メ、
縁クロタメヌリ、

御汁、觀音寺納豆、チョロキ、盞ノ上ニ、柚ニ
カラシノセテ、

御皿、アカエ、サキエビ、フノヤ
キタマゴシキアン、

御香物、キイロノ鉢、杉バシ、ウリ、
ナスビ、ナラヅケ、

御煮物、ツボザラ、鴨、ナメ、

御吸物、ハマグリムキミ、
ヨメナ、

御 肴、ノモカラスミ、
リウキウイモ、

御菓子、ダンゴ、コマサトウ、コウタケニシメ、

中 立、

御待合、タバコホン、手爐、島カイキノマク

鉦ニテ御案内、四ツ、一大、二中、三中ノ小、四大、

御 花、ハシバミ、
白椿、

御花生、宗和尺八、御花、イツモナカラ
別シテミコト、凡慮不レ可レ及、

御水指、黒セト、クチハゲノ手、
ヌリブタ、

御茶入、古ビゼン、

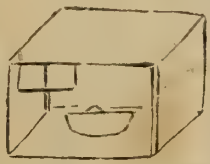
袋、島モウル、

御茶碗、朝鮮、

後半田ニテ、御炭アソバス、

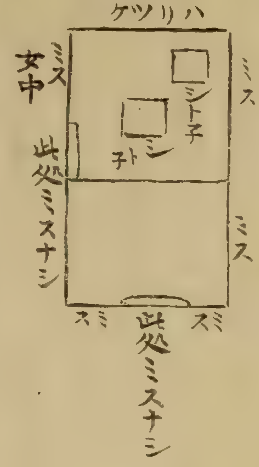
表ノ御床、墨繪ノ龍、 筆、

宗和袋棚、此形アリテ當年初メテ出來ス、袋棚ノ襖、ロキン
ニ唐紙ノ押畫、此墨繪ハ、先年江戸ニテ御印籠ノ下繪ヲ、養
朴ニカヽセラレタル由、名印アリ、引手ハ先年拙カ求メシヲ召
上ラレタル、瓢簞ノツル也、水指ナンハン、



暮六ツ時退出、

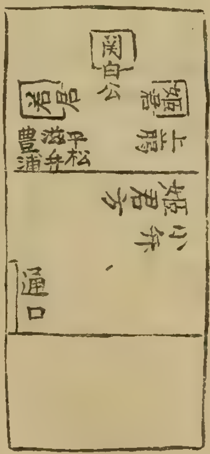
○廿二日、　關白公若君御方御袴著、明六ツ時參候 衣袴、 辰刻ハカリニ始ル、小書院ノ上段ニ御茵二ツアリ、



脇ノ茵ノ上ニ關白公御座、中ノ茵ノ奥ノ方ニ若君御立、御ウシロニ滋野井頭中將殿參ラル、前ノ方平松三位殿參ラル、兩方ニ女中、豐浦、小辨、公家衆御裝束ヲツケラル、御袴、女中針糸ニテ、童裝束トシツケラル、今大路內藏權頭、諸大夫、碁盤ニ青石二ツノセ持出テ、中ノ茵ノ上ニヲキ退ク、平松殿、ヤナイバニユスリツキ、カウガイ載テ持參、碁盤ノ右ノ方ニ置キ退カル、舟橋侍從殿、同クヤナイバニ疊紙ヲ載テ持出碁盤ノ左ノ方ニヲキ退ル、疊紙ノ中ニ、ハサミアリ、三人ノ公家衆、上ノ間右ノ方ノ角ニ著座ス、女中兩人御手ヲ引テ、碁盤ノ上ニノセマイラセ、兩ノ御足ノ下ニ、青石ヲフマセ奉ル、關白公御立チ、右ノ方ノカウガイヲ御取リ、御鬢ヲ分ラル、次ニ左、次ニ後、御櫛ニテソレ〳〵ニ御ナテ、扨左ノ方ノ疊紙ヨリハサミヲ出サレテ、右ノ方ノ御鬢ヲアソハス、上﨟 御トキノ御方、 疊紙ヲ持テ御鬢ノ下ニアテラル、次ニ左、次ニウシロ、關白公上ノ茵ノ上ニ歸リ座セラル、女中御手ヲ兩方ヘ分テ持マイラセ、碁盤ノ上ヨリ先ノ方ニ飛ヲリ玉フ、此ニテ公家衆賀セラル、諸大夫碁盤ヲ引、

右ノ方ノ二間 近本ニ一間トアリ ニ厨子ヲ飾ラル、中ノ棚ニ包ミアリ 今日ノ御裝束ヒロブタニ入ル、 下ノ棚ニ柳筥二ツ 一ツニユスリツキ、一ツニタヽミカミ、カウガイ、クシ、 ソノ次ニ饗ノ御膳二ツ、ヒルノ獻三ツ、エヒノ獻三ツ、長柄加エアリ、

奥ノ書院ニテ御獻アリ、



初ニ御土器三寶ニテ、諸大夫 今大路持出ル、 御三方ニ供ス、公家衆取次テ供セラル、次ニ饗ノ御膳、諸大夫滋野井殿ニワタス滋野井殿供セラル、一二若君ノ御前ニ供ス、 今大路、 諸大夫長柄ヲ持參、滋野井殿ニ渡、三獻ヲ進メ奉リ、退テ加エ、又二獻ヲ奉リ、關白ノ御前如レ前御酌、平松殿長柄上﨟ニ渡サル、上﨟立テ姬君ノ御方如レ前、諸大夫長柄加ヘテ引ク、滋野井殿饗ノ御膳ヲ撤セラル 三寶土器 如レ前 ソノマヽ、 諸大夫取次テ撤ス、

今大路、　關白公ノ御三寶、（川本三方トアリ）姫君御方御三寶如レ前、（其ノマヽ）諸大夫ヒレノ獻ヲ持出シテ、御三方ニ供スル如レ前、長捓加エ如レ前、又撤スル如レ前、次ニエヒノ獻ヲ出ス又如レ前、撤スル亦如レ前、公家衆賀シテ出ラル、少間アリテ三人ノ公家衆ヲ召シテ、祿ヲヒカル（ヒロフタ、サアヤ、）事畢ル、此ヨリ又奧ノ御居間ニテ御祝アリ内々御祝儀、

關白公御小直衣、

公家衆、（兩人ナチシ、舟橋殿裝束、）滋野井淨衣、平松殿黑キナヲシ、

諸大夫烏帽子狩衣、

○廿七日、　參候、

今日ハ御會ニテ參リタルニ、各々退出ノ後、奧ニ召シテ、仰セ有リケルハ、明日ハ仕廻次第早ク參リテ祝フヘシ、スコシ御心祝ノ事アリテ、右京大夫モ參ル筈ナリ、必ス參スヘキノ由仰也、畏テ申シ上ゲシハ、御心祝トハ何事ヤラント申シ上ゲシニ、仰ニ總ジテカヤウノコトハ、何ニトナクトリハヤセバ、色々ノ説（近本作祝）行ハル、モノ故ニ、堅ク隱密ニ致スベシ、頃日ノ御夢ニ、メツラシキコトヲ御覽アリタリ、譬ヘハ所ハ宮中トヲボシキニ、童服ヲ著タル人ノ立テ公ニ對シテ曰、公宜ク山ヲ樂ムベシ、山ホト樂シキ物ハナシ、公意ニ山水ハモトヨリ樂シキモノニシテ、平日ニ登臨スル處ナリ、然ルニ左ノ玉フハ、如何ニシテ樂ムキベキヤ、彼人曰、吾スナハチ山ヲ公ニ奉ルベシ、是ヲ觀テ樂玉フベシトテ、障子ヲ啓カレタレハ、最シホラシキ富士山ヲ庭上ニスエラレタリ、其形チ古ヘ富士ヲ御覽アリタルニ、少シモ替ルコトナク、唯シホラシキコト言パカリナシ、彼人曰、此山ヲ樂ムニ五ツノ德アリ、一ツニハ山ハ先壽キモノ也、二ツニハ四季ニ變アリテ觀ヲ改ルモノナリ、三ツニハ寂然トシテ不レ動モノナリ、四ツニハ五色ノ色アリテ景アルモノナリ、五ツニハ萬歲ノ聲アリ、此五ツヲ以テ永ク祝スルモノナリ、則チ公ニコレヲ奉ルナリ、宜ク樂ミタモウベキナリト云、公モ只今ノ御姿ニハアラテ、束帶シテ對レ之玉フガ、彼人ニ向テノ玉ク、是ハイトモカシコキ御コトナリ、舞蹈シテ拜スベシトノ玉フ、彼人曰、ワレハ拜ヲウクルモノニハアラズト、申スト思召テ御夢ハ醒タリト、奇特ノコトニ思召テスグニ書付タマヘリトナリ、此御祝ニテ、明日御殿中ノコラズ祝儀ヲ下サル、拙モ右京モ參リテ祝タテマツル、

○十二月廿一日、　參候、拙、右京、暮ヨリ滋野井入道殿、

今日ハ關白公ニ、イツモ年忘ノ御祝儀ニテ渡御ナレドモ、今年ハ寒氣モツヨシ、御膳ノモノヲ進ゼラレタルニ、御下リヲイタヾクベキ　ノ由ニテル、

○此コロ拙ガ近所ニ茶人アリテ、京都ノ宗匠タルモノヲ四會ヨヒ

テ、各々花ヲ所望セシニ、四人トモニカヘリザマニ、已ガ立タル花ヲヌキテ、床ニヲキテカヘリシトナリ、コレハアルコトニヤト伺フ、仰ニツイニ御覺エナキコトナリ、古ヘハヤリタルコトニテ毎度コレアリ、後西院ノ御前ニテ、常修院殿ヘ御所望アリタルニモ、ソノマ、オカレタリ、其外毎度御覽アリタルニモ、皆ソノマ、オカレタリ、上ノ流ニハ左スルコトニヤ、何トゾ分アベシ、アト見ノ茶ハ何ノ爲ゾヤ、イカサマニモ廻リ花ナドノ後ニハ、ヌキテヲクコトモアルベキニヤト仰セラル、

○廿三日、　參候、

來年東宮元服ノ式ヲ、一條殿ヘ仰出サレタリ、不才ノ由固辭セラレタレドモ、一ノ上ハ重服也、達テ調進ナルベキノ由ニテ、御請申サレタリ、サゾトリコミニテアルベシ、家ニトリテハ面目ニテ、辱ガラレシ由也、近代式ハナキコト多シ、當今ノ御時モ式ハナシ、次第バカリ也、次第ハ御前ニテアソバシタリ、此度モ次第ハ關白ノ調進ナリト仰セラル、

○廿九日夜、　參候、

如例年歳暮ノ御祝儀ニ參候、如二佳例一御香一座、記別ニ有レ之、御夜食後仰ニ、昨日ハ官位ノ御沙汰ニテ、諸卿參內ニテアリシガ、殊ニ遲ク濟タリシ由也、上ヨリノ仰ニ、來年ハ早々御元服、加冠ノコトハ兼テヨリ關白ニ仰出サレタリ迚ノ儀ニ當官ニテトノ思召也、目出度御請申上ラレナバ、御滿足ナルベキノ由也、關白ニハ存ジモヨラヌ御コト、不才ノ由固辭アリシニ、重ネテ左府、右府ヲ召テ、達テ強テ御請申サスヘキノ由勅諚ナリ、兎ニモ角ニモ、准后ヘ一應相尋テノ上ニコソトアリシヲ、一條殿重ネテ、是ハ私ノ儀ニアラズ、准后ノ處ハ引承ラルベシ、時ト云ヒ機會ト云、殊ニハ近衞一家ノ面目ニアラズ、五家ノモノノ美目タリ、唯枉ケテ御請アルベキノ由也、是ニテ申シ上グベキヤウモナク何分御請申ヘケレドモ、此アリカタキ　勅諚ノ趣准后ヘモ申シ聞ケ、明日コソ御請申スベケレトアリシニ、一條殿重ネテ、此等ノコトハ、議奏傳奏ナドノ預ルトコロニアラス、面々ヘ御前ニテ仰付ラレタル上ハ、是非ニ目出度御請アレトノ御コトニテ、明日ハ御請申サル、筈也、御前ニハ天皇元服ニテ相國宣下アリ、堀川ノ禪閤ト、三世歷々タル段御慶アリ、理髮ハ德大寺トノコトナレバ、子ト孫トニ此度ノ役ヲ勤サセ、相國ヲ子ニモツコト最辱キコト也、先他ニ漏スベカラズ、一條殿ノサスガニ、申サル處分明ニシテ、イヤト云ハレヌ處御感心アマリアリ、春ハフト御參アリ、御禮仰ラルベシトノ由仰也、一條殿ニモ從一位ノ宣下アリ、右府ニテハ珍敷御手柄ノ由仰ナリ、

槐記續編卷之二終

明治十五年三月十七日
華族蜂須賀茂韶藏書ヲ寫ス
明治十五年六月廿九日
五等掌記　樹下茂國　校印
明治卅三年五月
據近衛公爵家藏本幷川千虎藏本校正之、

小杉榲邨　校閲
西脇玉峰　校正

槐記續編卷第三

近衛豫樂院殿家凞公口授

保壽院法眼山科道安筆記

享保十八年癸丑元日、參候

如ニ例年ノ御口祝拜戴、拙カ歲旦ノコト御尋アリ、未定之由申シ上ク、御床ノ掛物、宇治賴通ノ日記、肩書ニ正月ノトアリ、節會ノ供奉百十八人ナト云御文章、間半（マナカバ）ハカリモアリ、

○三日、　關白公　參候、

御口祝拜戴ノ上ニテ、舊冬官位御沙汰ノ刻、來春ハ早々目出度御元服アルヘキ迚ノ義ニ、當官ニテ加冠アルヘキノ由、且又當職ノ儀ハ、　御即位マテハ勤勞スヘシトノ、　勅ナリ、當職ノ儀畏リ奉リテ、當官トアレハ此上ハ相國　宣下ナリ、先方モ其器ニアタルヘカラズ、　准后ノ方ヘモ御伺アリ、其上ニテ御請アルヘキ由仰アリシカトモ、達テ拜請スヘキ由ニテ、御請申シ上タリトノ仰ナリ、此上モナキ目出度御コト哉ト申上ク、

○六日夜、　參候、

相國ト云ハ、太政大臣ノ號ナレハ、元來大閤ト云モ、太政大臣ノ閤ト云コトナリト仰セラル、

大相國ト云ハ、イカサマニモ普通ノコトニアラス、　御前ニ相國　宣下ノ時モ、著陣ノ儀アリシホドニ、此度モ奏慶ノ日、チヨト著陣アレカシト仰ラレシガ、定メテ陣ニ著カルルニテアルヘシ、太政大臣ノ著陣ニハ、陣ノ座ニ厚疊ノ二疊臺ニ茵ヲシキ、後ニ屛風ヲマハシテ座ス、天子ニヒトシキ體也、左府マテハ薄疊ナリト仰ラル、

イツモ明七日ハ御茶湯始ナリ、當年ハ地モイトフ凝タリ、掃除アルベキヤウナシ、少ク御延引アルヘキノ由仰ナリ、當年御會始ハアルヘキノ由ナリ、

○七日、　御會始、　六典、見櫟、正識、拙、

○十六日、　入江様御成、芳林院殿、右京、拙、

御床ノ掛物、菊亭左大將實定卿ノ文也、ウラハ定家ノ、明月記ノ切レナル由ナリ、ヒトコロ、定家明月記ノ切ノ多ク出タルハ、ミナ此類ヲウスクヘキテ出シタリト云、明月記ノ反古ナル由ナリ、明月記ハミナ、カヤウノ歴々ノ衆ノ文ノ裡ニ記サレタル多シトノ御コトナリ、

晩景ニ及ソテ右京大夫ト、筆法書畫ノ御談トモコレアリ、仰ニ書法ニ五習トテ、形ニ習ヒ、目ニ習ヒ、心ニ習ヒ、意ニ習ヒ手ニ習ヒ、コレヲ五習ト云、書法ハ勿論畫ニテモ、凡ソ天下ノコトミナ如レ此、畫ニテ云ヘハ、鳥一ツニテモ、花一ツニテモ、此鳥此花ヲ畫ソト思ヘハ、其鳥其花ノ形ヲヨクヨク見テ、此羽ハカ

ヨツニ重リ、此毛ハドコカラ出タルモノゾト、形ヲヨク見テ心ニ會得シテ、ソレヲイデ書ニウツストキハ、カヤウニスルハヅゾト心エテ、ソノ通ニ手ニウツシテ書スルコト也、コレカ一ツカケテモ畫ニアラス、ソレ故ニ後世ノ畫ニ過リノアルハ、畫ヲ見テソノナリニ似セテ書クハ、手ニテハ習フヤウナレトモ心ニ得ヌコト故、道理カスマヌカラ無理カ出ル、又心ニ得テモ手カ叶ハヌバ、道理ハキコヘテ手ニマハラズ、心ノヤウニ目モ手モ、ウコクニテナケレバ書法ニアラス、ソノ中書ハタトヘハ、鳥ト云生タ正キ物カアル故ニ、ソレヲ正本トシテ書ク故ニ、ツマリ書法ハ畫法ヨリ六ケシキハ、ソレ故ナリト仰セラル、

後水尾院ノ御時

花山のあとをたつぬる（下略）

右ノ歌ノ圖ヲ探幽ニ書サレシニ、同シ枯木ノ雪ヲ書クニ、櫻ノ枯木ニ雪ノツモリタル圖ヲ書タリ、ソノ屏風ヲ御覽アリタルニ、誰カミテモ外ノ枯木トハミヘス、櫻ノ枯木トナラテハミヱス、是カ探幽カ心ニ習ヒテ、手ニウツシタル故ナリト仰ラレシカハ、右京大夫申サルルニハ、櫻ノ枯木ヲ書クハ、同シ枯木ノ枝ヲ、

小枝ノ先ニ、勢アルヤウニ書クコトナリ、櫻ハ枯木ニテモ、冬ノ内ヨリ芽ヲフクミテ、小枝ノ先ヲハルヤウニ書クカ習ナリトアリシヲ、サレバトヨソレカ探幽以來ノ畫法ニナリテ、今ノ畫師カサヤウニ書クナリ、探幽ハ直ニソノ櫻ノ枝ヲ、トクト目ニ習ヒ、心ニ習ヒ、意ニ習ヒ、手ニ書出シタレハ、イカニモ櫻ノ枯木也　、ソレヲ合點セズニ、カヤウニ書クゾトハカリ心得テハ、手ニハ似テモ櫻ニアラズト仰ラル、面白キ御コトナリ、

醫門ノ法モ又如レ此、病人一人ミテモ心ニハ會得セズニ、人ノ直シタルニナラヒテ治スルハ、手ニ習ヒテ心ニ習ハスト云フヘシ、

又仰ニ大字ノ書法ニ、凡大字小字ニカギラズ、スキウツシニスルヲ□□□ト云、ウツホ字ニ書コト也、ウツホ字ニ書スルハ、倒マニウツスヲ法トス、ナゼナレハマスクニウツセハ、文字ナル故ナニトシテモ、ウツボナカラニ私ノ筆法アリ、サカサマニウツセハ、トント文字ニテハナシ、畫ヲ寫スモ同前ナリ、文字ニ畫ニシテウツセハ、全ク私ノ筆ガナキガ為ナリト仰ラル、

其夜掛物ノ御香アリ、筆記別ニコレアリ、

○元日ノ掛物ニ、目出度モノヲ掛ント存シテ、幸ニ竹内頁尙親王ノ自書自讃ノ、富士ノ墨畫ヲカケント存シ出シタレトモ、行衛もしらぬ、我おもひかな、トアルハイカガト掛ザリシ由、入江樣ヘ御物語申シ上テ、大笑ニナリシ由申上ク、御前ニモ大笑アソバシ、コレハアルヘキコトナリ、イツソヤ、其方ニモミセ

ラレシ定家ノ、おはつせの、峰のまさかき、うつもれて、あらしにくもる、雪の山もと、ト云名歌ニ、御黙アルヲ御秘藏ニテ、山本宗林カ關東下向ノ序ニ、御茶ニ招カレケルカ、殊サラ此掛物ノ中ハ縫紗ニテ、宗林ヨリ送リ獻シタル切レナルホドニ、此度ノ馳走ニカケント思召テケルカ、旅立ノ者ニ嵐ニクモルト云山本モ名字ナレハ、時ニ取リテ面白カルヘキカ、クモル山本ハイカヽソト思ヒテヤミヌ、氣ノ付カヌコトナリト仰ナリ、誰カ左マテ氣ノツクヘキヤ、假令付タリトモ初意ノ僻ニ陷テ、ソコマテハ氣ヲ留ムヘカラス、御前ノ思召付ハ格別ナル由ヲ申シ上ル、

○廿五日、　相國　宣下、御本殿參候卯半刻、辰ノ上刻、中使滋井頭中將殿御參、大盤ニ付カル、寢殿ノ南一間、常ノ如ク關白ノ御座ノ疊一疊、東北ノ隅ニアリ、南方間半ニタヽミ五疊シキテアリ、中ノ一間ニ、母屋疊二疊ニ茵、後兩方ヘマハシテ、花鳥ノ金屛風ヲヒカル、

中使參候、大盤所ニツカルヽト、布衣ノ役人四五人出テ、右ノ疊ヲノコラス上ケ、西ノ一間ニ重子、南ノ一間右ノ關白ノ座ニ、厚疊二疊重子茵ヲシキ向ノ對座ノ如シ（此敷使設ノ座ナリ）、中ノ一間ノ簾ヲ半捲キ、西ノ一間ニ櫛笥宰相ト難波中將ト、東帶ニテ座ス、少クアリテ關白公御座ニ付カル、難波立テ中使ノ方ニ行カル、（此處、戸ニヘダタリテシカトミヘス、）中使進ンテ半捲ノ簾ヨリ入テ設ノ座ニハツカズ、關白ノ方ニ向テ拜アリ、答拜アリ、少シ退キ、櫛笥立テ大ウチキノ被物ヲモチテ、中使ニカツケラル、中使コレヲ肩ニカクテモトノ處ヘ退カル、關白御入、

巳ノ下刻外記參ル、（此處、奧ニ御用アリテ不レ得レ見、）關白公復ノ御座（此間又、疊モトノ如クシキカユル、）上﨟（ヲトキノ方、）御簾ヲ揚ル、袴、大ウチキ、座ニツカル、「諸扈」從ノ公卿一人々々ノコラス座ニツカル、付キヲハリテ文仗ニ文ヲ付テ出テ、膝行シテ捧ク、關白コレヲ御覽、事ヲハリテ膝退ス、少時シテ關白御座ヲ御立アリテ、階ヲ下リ寢殿ノ正面ニテ伏拜三度、ソレヨリスグニ御出門、行粧別冊、未ノ下刻還御、々々ノ時、又□□ト云コトアル由、（此トキ、御用アリテ不得見、）

大書院ノ掛物、賢聖ノ間ノ寫シ、三幅對、小書院ノ床ノ御掛物當今　勅筆御懷紙、（詠禁中佳趣和歌トアリ、）前ニ御立花、准后アソハス、タテワケト申ス由ナリ、仰ニコノモヤフノ立花ニ、兩シント、アイヲイト、タテワケト三色アル、各々其法アリテ、ムツカシキ法アル由ナリ、

○廿七日、　六典御會ニテ參候、（入道殿、正藏、九茶、見櫟、）
入道殿ノ御物語、
榮花物語、若水、
關白殿參らせ給へるに、なと御けしきの、くるしけにおはします所と申させ給へは、ないしのすけ御まへにてこの四五日にならせ給ひぬ、御かせにやとて、朴なときこしめせとおこたらせ給すは、

非職雲客所役秘抄、
季御讀經事、
第二日有ニ引茶事一、朝夕兩座之後被レ行レ之、六位三人、（一人居土器、共口許折敷持レ之、一人甘葛煎出土器持、一人持ニ入茶之瓶子一、茶代用レ朴近代之例ナリ）
江家次第第五、　季御讀經
上卿一人著ニ南殿一例、
天喜四年、三ヶ日毎夕、座侍臣施ニ煎茶一、衆僧相加甘葛煎、又厚朴生薑等隨要施レ之、紫宸殿所ニ雜色等參上施ニ件茶於太極殿修時又同、但茶用器等是所例也藏人令
右ノ如ク出タリ、朴ト云モノハ、何物ソヤト、予對フル左ノ如シ、
本草綱目、三十五本（近本作三十五木）ノ二、喬木類、五十一種
釋名云、烈木赤木厚皮、
時珍云、朴樹膚白、肉紫、葉如ニ槲葉一、五六月開ニ細花一、實如ニ冬青子一、生青熟赤、有ニ核子一、八月採レ之、味甘美、又曰、其木質朴而皮厚、味辛烈而色紫赤、故有ニ厚皮、烈木、赤木、諸名一、
和名抄曰、厚朴、（重皮附、）本草曰厚朴、一名厚皮、楊氏漢語抄云、厚

木、保々加之波乃木、

釋藥性云、重皮、和名保々乃加波、厚朴皮名也、

訓蒙圖彙云、ほゝかしは、ほほのき、朴樹也、炮灸全書云、厚朴、今云夢窟木者是ナリ、又云、楊氏漢語抄釋云、甫々磕矢哇、

源順類聚抄、因レ之流ニ僞千載一、遂無下一人覺ニ其非一者上、可レ嘆也、

大和本草云、厚朴ホヽノキ、順和名ニ、保々加之波乃木ト訓ス、

中華ヨリ來ル處ノ厚朴、亦保々ノ木ノ皮ナリ、

右ノ如クナレバ、厚朴ノコトヲ、朴トバカリ記シテモ、苦シカラズトミヘタリ、畢竟此樹ノ形、素朴ナル故ニ朴樹ト號シ、皮厚キ故ニ厚ト云、味辛烈ナル故ニ烈木ト云、色赤キカ故ニ赤朴ト云、然レハ厚モ亦名字也、其實朴タルコト疑ナシ、コトニ況ヤ江次第直ニ厚朴ト出ルオヤ、

○二月四日ヨリ濃州ニ下向シ、十九日歸京、同廿八日ヨリ鷹司殿御疱瘡ニテ、談其事ニ及ハズ、ヤウ〱御蒙中ニ參候ノ刻承ル處如レ左、

○三月七日ヨリ至ニ十七日ニ、一所ニ記レ之、

世上ニ年越ノ夜、寶船トテ、畫ノ上ニ、なかき夜の、十のねむりの、皆目覺、なみのり船の、音のよきかな、ト云廻文ノ歌ハ、古キコトナリ、俊頼ノ記ノ中ニ、アルカト思召由ナリ、（俊頼ハ俊成ノ師也、○後日ニ仰ラルルニハ、俊頼ノ記ニハアラズ何ヤラン俊頼ノ記トハシルスヘカラサルノ由、仰セナリ、）

○下馬トハ馬ヨリヲルルノ義ナリ、下乘トハ駕籠乘物ヨリヲルルノ義ニテ乘ト申候ヤ、下輿トコソ申スヘキニ、下乘トハ何トヤラン、不自由ナル文字ノヤウニ侍ルハイカヽト申シ上ク、仰ニ下馬ハ勿論、下馬墜トテ漢ノ文字ナリ、下乘モ西域記ニ出タレハ漢ノミニアラス、天竺ヨリノ沙汰ト見ヘタリ、下乘ハ、ノリヲオル、心ニテ、馬ニモセヨ車ニモセヨ、乘タルモノヲ下ルノ義ナリ、天子禁門モソレナリ、乘物ヨリヲルヽノ義ニアラズト仰ラル、

○今ノ寺院、並式臺ノ前ニタテスナヲスルモ、漢ノコトナリ、飛砂トモ、坡砂トモ、堤砂トモ云ナリ、坡砂堤砂ハ形ヨリ指テ云ナリ、飛砂ハ其人ヲ待テ、マクタメニ設クテ、節ニ應シテトバス砂ト云心ナリ、（此前水飛ノコトナ、御尋アリタリ、コレモ水ニトハスノ義ナリ、）此ニ付テ秘藏ノコトアリ、元來立砂ヲスルハ漫ニセヌコトナリ、今世寺觀武門ニ多ク此アルハ何ノ爲ゾヤ、立砂ハモト、天子行幸ノ處ニナクテハ、セヌコトナリ、天子行幸ノ時、即チ飛ハシテ敷タメノ砂ナリ、故ニ近衞家ノ玄關前ニハ、終ニ立砂ノコトナシ、行啓ノトキハ初テシタリト仰ラル、

○滋井入道殿ノ御談ニ、今セウデンノ祭ニ、油揚ノ餅ニ何ヤカヤツヽミテ、供物ニスルヲ歡喜團ト云ヘリ、コレハ職方ニアル菓

子ナリ、定メテ職方ノ物ヲトリテ、アノ方ニ用ルナルベシト仰セラレシニ、仰ニイヤトヨアレハ天竺ヨリコレアルコトナリ、先日モ御噂アリシ、卒悉伽羅經ノ中ニクハシクミヘタリ、則チ歡喜團ト云製モクハシクミヘタリ、

○艸書韵會ヲ出シテ、人々會シテ此ヤウニ、艸書ヲ書ソニ何コトノアルベキナレドモ、相ノ字ヲわト書クノ類、ヿト云モノヲ目ノ艸ニハ用ヒラレマシ、オヲツクレバ、誰モ相トヨムナリ、此等ノコトハ、韵會モタノマレズト、右京大夫申サレシヲ、三賓院様モ何ニ此書ハ、ヨロシキニヤト仰ラレシニ、ナルホドアシクハナシ、然レドモ今右京ガ申ス通リ、筆ノ勢ニテ通行ノ處ニ至リテハ、此クヅシデナケレバナラヌト云コトニハアラスト仰ラレテ、サテ奥ヘ御入アリテ右京道安ヘ御意ニ、何トカ思フ、艸字ヲ要領ヤ韵會ノヤウニ集メタルモ無理トハ云カタシ、丁ド一味々々ノ功能ヲ知リテ組立ル藥ノヤウナモノナリ、能書ノ人ノ、一クダリニ連書シタル艸字ノクツシハ、何味モ合セテ一方ニ仕立タルヤウナルモノナリ、一方成就ノ上ニハ、思ヒモヨラヌ藥味モアレドモ、ソコハ古人ノ意味深長ナルコトアリテ、仕立タルモノナレバ大テイノコトニアラズ、思惟シテ及フモ及バヌモアルベシ、及バヌトテ、ソノ一味ヲ廢スルコトアルベカラズ、ヤハリ古人ノ方ノ如ク調合スルカ、自ラ此今日ノ法ナリ、丁ド一壽々々ヲ合セテ、一味配劑スルヤウナモノナリト仰ラル、翌日參候ノ刻申上グレハ、夜前ノ御談ノコト、オボロゲノコトニアラズ、文字ノコトハイザシラズ侍リ、醫門ニ於テハ至極ノ御說ニテ、久シク不審シ侍リシコトノ晴タリト存ズ、古人ノ製方ノ中ニ、此一味ハ何ノ爲ニ入タルモノニヤト、スキト合點及ハザルコト多シ、得テハ其一味ヲ去リテ用ル人アリ、イヤト云ハレズト思ヒシガ、今日ノ御說ニテ、ソレハ甚タ卑陋ナルコトナリ、古人ノ名手ニテ拵ヘタル處ニハ、不盡ノコトアルベケレハ、努々去ルベカラザルコト、存ル由申シ上グ、

○昔シ應山ノ御時、二疊大目ニテ御茶アリタル跡ニテ、小畠了達ヘ御意ニ、何ナリトモ謠ヲウタヘ、此席ニテ所望セン者、普通ニハアルベカラズ、又此席ニテ謠フ者モ、亦普通ニハアルベカラズトアリシニ、扇ヲトリモナヲサズ翁ヲ謠フタリ、メツラシキコトヲ思ヒ付タリト思ヒシニ、獅子吼院殿ノ後ニ聞召テ、扨モ出來タリ、圍居ニテ初テ所望アランニ、君ノ惠ゾアリカタキニテモアルマジ、盡セヌ宿コソ目出度ケレニテモアルマジ、大夫ニトリテ隨分廣キ處ニテ、高音ノモノヲ隨分下音ニテ、座敷ニテ決シテウタハヌモノヲ謠フタルハ、最モヨク思ヒツキタリトテ褒美ナサル、イカサマニモ翁ナラデ、ウタフモノハアルベカラスト仰セラル、

○定家ヘアル人、春たつと、云ばかりにや、三吉野の、山もかすみて、今朝は見えけり、ト云歌ヲ、名歌ノ由ニ候、是ハイカナル所カ名歌ニテ候ヤト伺ハレシニ、ソレハ其人ニテアリ、ソノ歌ノマコトニ名歌タルコトノ、合點ノイカヌハソレホドノ器ナリ、ソノ歌ガ合點ガユケバ、ソレホドノ器ナリ、マコトニ名歌タルコトガ合點ガユケバ、ソレホドノ名人ナリト云レシカ、ソノ不審シケル人、ノチニハ歌道ヲ脩シ得テ、マコトニ名歌タルコトヲ合點シタルトナリ、面白キコトニアラスヤトノ仰ナリ、

○寂蓮法師ノ、高根より、門田に落る、秋風の、稻葉にかよふ、さを鹿の聲ト、云歌ヲヨミテ、殊ノ外自負シテ、ヨミヲハ、セタリト思ハレシニ、新勅選ヲ定家ノエラバレシニ、此歌ヲ入レザリシヲ寂蓮無念ニ思ヒテ、何トテコノ歌ヲトリ給ハズヤト申サレシカハ、定家ノ返答ニ、ソノ歌ヲ面白キヤウニテ、ヌスミ歌トテ此選ニハトラヌト申サレシヲ、寂蓮モ言葉ナクテヤミヌト、言葉ハカワレドモ、夕ざれは、門田の稻葉、おとづれて、蘆のまろやに、秋風ぞふく、ト云歌ヲヌスマレシ故ナリトゾ、

○後西院ハ御上手ナリケリ、或日御當座ノアリシニ、山ノ通題ヲ山ノ雪ト云題ニテ、後西院ノアソバシケル、

四つのとき、いつはなりとも、山は雪、
雪は山なる、朝ぼらけ哉、

トアソハシタリ、此等ナド、題ノ文字ノ、山モ雪モ、各々其詮アリテ、雪ハイヅクモアレドモ、雪ト云カラハ山ナラデハナリ、山ハ四時ミナ景アレドモ、山ト云カラハ雪ナラデハト、ヨクモアソバシタリト仰ラル、

又夏ノ晝ト云題ニテ、

にしひかし、なゝめにうつる、日の影の、
あつさぞ夏の、ひとさかりなる、

○廿日、參候、拙、右京大夫、

右京大夫ノ話ニ、大閤ノ御所ノ御歌、

霜の後、きぬ笠岡の、あきの色を、
きてみよとてか、鹿のなくら舞、

夜ニ入マデ御伽ニ伺候シ、御休ミノ間御次ニテ女中方菓子ナド調進ノ折カラ、右京大夫ノ話ニ昔ノ句ノ俳諧ニ、駕籠かきや、松原さして、いそくらむ、ト云句ニ、醫者もかなはぬ、木曾の御最後、ト致シタリ、又傾城買の、ちからつよさよト云句ニ、大なる家をや、棒にふりぬらむ、ト云句アリト申サル、

○廿二日、參候、

此コロ吉田某ガ茶湯ニ參リテ、拜領ノ茶入ノアシライヲ、盆ニテ建テタリ、勿論面白キコトナリ、此ニ付テ私ニ存シ寄ノコト

アリ、アマリウガチ過タルニテアルベキヤト、一通リ申シ上ゲ、拜領ノ茶入新兵衞ニテ燒物ナリ、花生水指トモ、燒物デナキモノ然ルベカランヤ、花生ハ竹、水指ハ手桶ナド然ルベカラン、茶碗バカリハゼヒモナケレドモ、是モ新シキモノナド、然ルベカランヤト申シ上グ、仰ニイカニモソレハ、同ヲ拜領ト云フ內ニ品アルベキ乎、事ニモヨリ時ニモヨルベキカ、昔シ先々ノ小堀仁右衞門ガ申スハ、先祖遠江守ハ御家ヘハ、別シテ親シク參リシモノナリ、上ヘ奉ラントテ蓋袋コノミヲキタル茶入アリトテ、高取ノ茶入ヲ獻上ス、コレニテ御茶湯アリシトキ、此コト上ニモ聞召テ、後西院樣、常修院樣ニモ御物好アリテ、一切燒物ノ類ヲ不レ用、ソノ意高取ノ茶入ハ新シキモノナレバ、コレヨリ古キモノ、尊キモノヲ出シテモスマヌコトナリ、茶具ハ勿論ノコト料理物マデ、一切燒物ノ猪口皿ノ入ラヌ獻立ニ仕立タリ、茶碗バカリハ、燒物ニアラズシテハナラヌモノナリ、是ハイカニトアリシトキ、常修院殿ノ御物好ニテ、御所持ノ重寶イドノ茶碗ヲカサレタリ、ソレハカリハ、最尊キヲ用テヨカラントナリ、中井常格、小堀仁右衞門、今一人アリ、中井常格ガコトノフ感心シテ、後マデ稱美シタリ、

常修院殿ニモ、常格ニアハレテ、問ハレシニ、感心ノ趣ヲ申シ上ゲタル由ナリ、イカサマニモトキニヨルベキニヤ、御前ニモ蓋袋ハ、御好ノ方ヲ出シテカザリ、古キ袋ヲアトニ出スベキコトナリ、茶入ヲ盆ニノセテ、初メヨリ棚トカ、床トカニカザリ付タラバ、好カラン乎ト仰セラル、

○廿三日、　參候、暮ヨリ入道殿、

入道殿ヘノ御話ニ、日本ニテ誰ノ御判ト書コトイカガナリ、尤モ判ハ連判ト云フコトモアレドモ、ソレハ今云判形ノコトニアラズ、幾人モナラベテ書トキ、面面ノシルシヲ書コトヲ云メシルシナリ、判ニアラズ、唐ニテモ判アリ、華押叢ニモ出タリ、天子ノ御判ニハ御押ト書テアリ、太上天皇御押ト書テハ、イカ、アルベカランヤト仰ナリ、入道殿カシコマリテ、御尤サモアルベキニテ候ト申サル、日本ノ書ニハイマダ其例ヲミズ、押ト書タルコト稀也、判トハ度々出タリ、然レドモ判トアルハ近代ノ書ナリ、古キ書ニハ未ダミズ、定家時代ノ書ニハ毎々出デタリ、御前ニ御押トアソバサレシニ、何條コトノアルベキト申上ラル、

○今ノ世武家方ニ、判形ノ上ニ實名ヲカクコトハ、全クナキコトナリ、判ハ實名ノシルシナリ、名乘アレバ判ナク、判アレバ名乘ナキ筈ナリ、仙臺中將ヨリ獻上ノ文ニハ、終ニ判ハナシ名乘バカリナリ、イカサマニモ家柄ニテサスガナリト仰ラル、

○入道殿ノ仰ニ、當配ノ人ヘハ官名ヲカクハ、此方モ官名ヲ書ク、

少シ下配ノ人ナレバ、アナタハ名ヲ書、此方ハ名乘ナリ、又下配ナレバ判ヲハカリカク、此通例ナリト仰セラル、

○入道殿御歸ノ後、仰ニ先日入道ノ字(アザナ)ノコトヲ出サル氣味ワロシ、昔ヨリ日本ニテ字アル人モアリ字ナキ人モアリ、コレハドウシテモ字ノ字ヲ、アザナト訓スル和訓ヨリ、入タル誤リナルベシ、人ノ名ニ字ノ字ヲ用ルカラ、アザナトヨミツケタルニテ、漢ノ字(アザナ)ノコトニテハナシ、字ノ字ヲ名(ナ)トヨムコト通例也、(小字錄ナドコレナリ)誰字ハ誰トアル故ニ、漢ノ例ニナラヒテ字(アザナ)トヨミタルモノナリ、先ノ人ノ合點ハ、ヤハリ名ノ字ノガテンニテ、誰一名ハ誰ト云心ナルベシト、年來思召ス也ト仰セラル、(多ク漢學ニクワシキ人ハ、和學ニウトシ、和學クワシキ人ハ、漢學ウトシ、カヤウノ御說、和漢トモニクハシカラサレバ、明カナラズ、イツモナカラ奉二恐感一ナリ、)

○廿七日夜、參候、

此コロ右京カ持チ來リタル草字ノモノニ、某ト云文字ヲ、クヅシニ棊ト書ケリ、某ノ字ハモト甘ト云フ字ノ下ニ、木ヲシタルガ正字ナリ、棊トスレハ其ノ字ノクヅシナリ、氣味アシク覺エテ考ヘラレタルニ、棊ノ字ハ棊ノ字ノクヅシニテ、某ノ字ノクヅシニハアラズ、カヤウノコト草字ニ多キコトナリ、今ノ世ニ勘ノ字ヲ勘ト書ク、コレ其ノ字ヲ扁ニ用ヒタルト覺エタル故也、勘ノ字ハモト甘ト云字ノ下ヲ、匹ニシタル文字ナレバ、甚ト云字ノクヅシニテハキコエズ、古ヘノクヅシノ字ニハ絕テナキコトナリ、甘ト云字ノ下、匹ノ字ヲ書タル心ノクヅシナリト仰ラル、(御前ノアソハシタルモノニ、何方ニテモアレ、古人ノクヅシニテナキハ一字モナシ、コレ勿論ノコトナリ、古人ノクッシトイヘトモ、隷字ヲ吟味シテ、ソノ眞ニカナヒタル艸形ナレバ用ラル、サナケレバ如此ノ吟味アルトミヘタリ、文字ノコトハイザシラズト云ヘドモ記ス)

○古人ノ書法ニ、右ノ如クナルハ日本ニテモ、絕テナキコトナリト仰セラル、

日本ニテハ音ヲ專トセズ聲ヲ以テワカツ、尤モ聲ノ抑揚ニテ、クモト云テ雲ニナリ蛛ニナリ、ハシト云テ、橋ニナリ箸ニナリ端ニナル、然ルニ伊呂波ノ文字、ワツカニ四十八字ニテ、天下ノ事物ヲ盡スコト、不思議ト云ベシト申シ上ク、仰ニサレバトヨ、尤モアレニテツキヌコトモアレドモ、先ハコレニテカ、レズト云コトナシ、キユツト云ト云聲ハカ、レヌヤウナレドモ、自ラ其音ハイラヌヤウナモノナリ、

○入道ナド、和學ニノミ志ヲ用ラル、故ニ、和訓カラノミ入ルヤウニセラル、故、ワロフスレバ取違ヘアリ、忽チ字(アザナ)ノ字ヲアサナトノミシテハ、處ニヨリテツカヘルコト多シ、名ノ字ノ替リニ用タルコト多シ、今云イロハガナト云モノヲ、假名ト書クハワロシ、假字ト書ガヨシ、スレバ字ノ字ヲナト稱スル、畢竟文字ヲ假リ名ノ心ニテ、カナトヨミ付ケテ字ノ字ヲ用ユルナリ、イツヅヤモ仰セラレタルヤウニ、平假字、片假字ト云ヘトモ、平モ片カナナリ、片假字(カタカナ)ニテミレバ、伊ヲイト云、呂ヲロト云

類、千ヲチトカクハ、畫(クワク)ノスタナキ文字ハソノマヽ用タルモノナリ、平モ又片カナナリ、伊ヲいト書キ、呂ヲろトカク、書少ケレバソノマヽ用ユ、此ニ付テ古今人ノ不審スルハ、ヘノ字トつノ字ト、ゑノ字トナリ、イロ〱説々アリ、ヘハ邊ノ字ノ之ナリト云説アレトモ、之ハ一字ナリ、シカモヘノ音ナシ、之トスベカラズ、

○御前ノ思召ニハ、ヘノ字ハ反ノ字ノヘヲ用タル片假字ナリ、つノ字ハ、片カナニテハツノ字ナリ、平假字ナレバつノ字ナリ、コレハ、對ノ字ノ片字ナルベシ、對ノ字ハ草形ニテゑト書ク、ツハ頭ヲ用ヒ、つハ尾ヲ用タルナルベシト思召ナリト仰ラル、此等ノコト艸形ニナレタル人ニアラサレハ、シルコトアタハズ、

○伊呂波ハ、弘法大師ノ作ノヤウニ申スト、仰ニ五明ノ作ナリ、五明ハ弘法ノ師ナリ、

○ゑひもせすノ下ニ、京ト云文字ヲ書コト、古來色々ノ説アリ、俗説辨カニコト〱シク、ソノワケヲ述タリ、ソレホドノコトニテアルベキヤウナシ、アレバ、一二三四五六七八九十百千萬億京劫ト云ヘリ、ソノ京ノ字ヲ下ガツマリタル故ニ、フトツキニ書タルヲミテ、十マデノワキニ書コヽロニテ、カキタルトヨリ、外ハミエズ、ソレナレバ、ヨク聞ユルナリ、百千萬億ヲカキタル伊呂波、古キニアルモノナリト仰セラル、シカレドモカヤウノコト、何ノ出處モナシ、思召ニテ仰ラレタルマテナリ、人ニ語ルベカラスト仰ラル、

○伊呂波ト云モノハ、千字文ノヤウニ異字ノ爲ニ、コシラヘタルモノニアラズ、モトハ長歌ナリ、ソレヲトリテ聲ニ用ヒタルモノナリ、此ニ付テ古キ書ニ、五千字文ト云コトアリ、イカヤウノモノゾト思召ニテ、堀正藏ニ御尋アリシニ、近思錄ノ序ニ出タリト申ス、サテハ古キコトニヤト思召ケルガ、カハリタルコトナリ、五千ノ文字ト云コトニアラズ、誰カ千字文、彼カ千字文トテ、五通リアルモノナリ、五通リノ千文字ト云心ナリ、五千ノ文字ノ義ニアラズ、ソレ故ソノ五通リノ千文字ヲ集メテ、奥ニ考異ヲ記サレテ編立ラル、近日出來スベシ、出來セバ御見セナサルベシト仰ラル、アリ難キ旨御請申シ上グ、ソノ中ニ古キ近本闕字ノ印アリ□カ千字文ニ七字闕タリ、異ナコトニ思召ケルガ、ソノコト又近本闕字ノ印アリ□ト云書ニ、□カ千字文ハ、七字不足ノ旨ヲ記セリ、スレバ唐ヨリ、七字不足シタリト見ヘタリ、カヤウノコトヲ奥ニ記サルベシト、思召ノ由ナリ、

○醫經ハ、黃帝ノ書ナリト云ヘドモ、ソノコト古今色々ノ評アリ、秦漢已前ノ文タルコトハ明ナリ、シカレバ其文字ニ付テ隷篆ノ書ヲ、誤ルコトアルベシ、一通リ文字ヲ篆文ニ改メテハ、イカヽアルベキト申シ上ク、仰ニ黃帝ナレバ篆文ノ段ニアラ

ズ、古文ニアラサレバ合ヌ筈ナリ、秦漢ニ書タルヲ正トスレバ、篆文ハ李斯ガ作ナレバ、是ニテ改ムベキカト仰ナリ、正字通ニテハ、大要隷篆ヲ引ヲ、セラルヘキガト申上ク、正字通ハ隷ノミナリ、ソレハ篆字彙ト云書アリ、拜借仰付ラルベシ考ヨト仰ナリ、アリ難クハ存ナカラ、大切ノ御書籍ヲ拜借モ恐レアリ、一通リ内經ノ文字ヲ書ヨセニシテ、此方ニテ考ヘ申ヘキ由ヲ願フ、篆字彙ハ、甚太切稀有ノ書ナリト仰ラル、昔シ荒井筑後守カ此書ノコトヲ語テ、御覽ニ供ヘタキモノナレドモ、其者借スコトヲユルサヌ由ヲ申ス、御所持ノ由仰ラレケレバ、イカイ肝ツブシタリトナリ、

○難經ト云名字ノ義ニ付テ、種々ノ説アリ、聖經賢傳ノ奥義ニシテ、容易ナラザルノ義ニテ、難ト云説アリ、彙改ナドニハ、答客難ノ義ニ難問ニ答ルノ義ナリトス、近代名古屋玄意ノ難經註疏ノ説ニ、難者問ナリト、史記正義ニ出タル由ニテ問ノ書トス、コレミナ難經ト云文字ニ付テ、古人ノ説ヲ逐フノミナリ、本此書名ハ、漢書ノ藝文志、隋書ノ經籍志ドモニ、黃帝八十一難經二巻トアリ、ソレヲ難經ト字ヲ切タルモノナリ、ソレ故ニ字義ムヅカシ、八十一難ノ經ト云ヘバ、解ヲ待タズシテ明ナリト申シ上ク、仰ニコレハ尤ノ義ナリ、カヤウノコトハ外ニモアルベキコトナリ、一段尤ノ由仰ナリ、

○八日、　參候、

小野小町ト申スハ、出處正シキ人ニテコレアリ候ヤ、ヨシサネカ娘タルコトモ、明據アルコトニ候ヤト伺フ、仰ニナルホド明據アルコト也、六義ノ一ツニテ、貫之モ賞セラレシホドノ人ナリ、後狂氣シテ東國ノ方ニ、下リシトヤランハアリ、今謠ニツクリタルヤウノコトハナシ、四位少將ノコトハ、甞テソノ沙汰ナキ人ナリ、ヨク〱歌ハ堪能功名ノ人トミヱテ、古今ニモ、小町ガ姉ノ歌ナリトテ載セラレタリ、其名ヲ出サスシテ小町ガ姉ト、サシタルニテ知ルベシ、

○鸚鵡返シノコトコソ、全ク小町カコトニハアラズ、誰ヤラン出家シタル人ニ、下サレタル御製ニ勅答申シタリシヲ、宮内卿カガミラレテ一字ノ返歌ヲ、鸚鵡カヘシナリト申サレシ由ナリ、ソレヲ小町ニトリ合セテ、謠ニハ作リタルモノナリ、小町ノ髑髏ニスヽキノ生タルヲ、讀レシコトハ、江家次第ニ見ヘタリ、タシカナルコトナリ、

○百人一首ト申スモノ、書體ノカワリタルモノナリ、自ラノ筆ニシテ、上ハ天智ヨリシテ、下諸人ニ至リ、自詠マテヲ載テ、シカモ次第モアクマデ、アノ通リナレバ、又下ニ後鳥羽院ヲノセ、上代ノ歌バカリカトオモヘバ、當代ヲモ載タリ、イカナル故ニヤ、仰ニアレハ其トキノ尾室殿ヨリ、屛風ニ押サレシヤ、歌

ヲ撰ミテ、上ラルベキ由ノ仰ナリシホドニ、上ハ天智入丸ヨリ下愚詠ニ至テ、一人一首ノ歌、百首ヲ自書シテ奉ルノ由ミヘタリ、古今ヲアハセタルガ趣向ナリ、丁ド詠歌ノ大概ニ同シ、上ハ人丸ヨリ下愚詠ニ至リテ、後世歌ノ龜鑑トナルベキ歌ヲ撰バレタリ、古今ヲ一ツニセラレタル、狼籍ノ至リナル由ヲ述ラレテ、ソレガ自慢ナリト仰セラル、

○九日、御茶、百拙、右京大夫、拙、

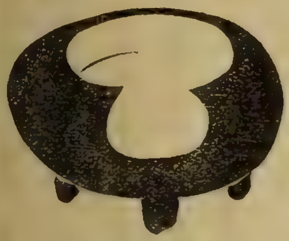
正午、今日ノ御茶ハ、吉田某ヨリ獻上セシ、唐物籠ノ花入ノ御ヒラキニ召サル、

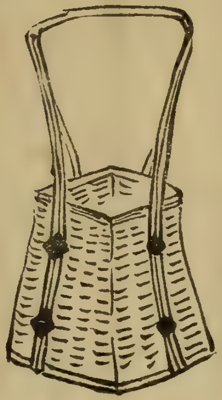
御待合、腰掛、圓坐バカリ、御案内、右馬權助、

御床、籠花生、唐物、吉田ヨリ獻上ノモノナリ、

御花、アザミ　五リン、

小釜ノ風呂、





御釜、江戸作、蓋、唐ノカヽミ、(近本作トヽミ)

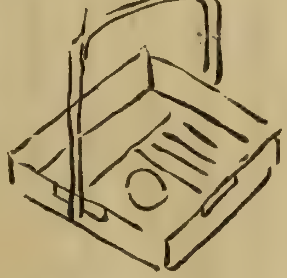
御會席、

御汁、ウスダレ、ワカメ、ウバ、大根タンザク、

御鱠、キンラン手ノ皿、鯛ノ細ヅクリ、鮒ノコカケ、

御引物、キノメ田樂、

香物、



此キノ芽田樂ノ仕ヤウ、豆腐ヲ青ワシニサシナカラ、煮湯ニ入レキノメミソヲコシラヘヲキ、シバラクシテアケテ少シアブリ、上ノ方一ペンバカリミソヲ引ク、ミソハニヤキナシ、

御湯、

御平皿、ミツバ、鴫三切、

御吸物ナシ、

湯盆、湯次カラカ子蓋ナシ、水次、南京青繪、二重ニシテ上ハカゴ、内ニ又一重クスリカカル

炭取、フクベ、

冬ノ御炭取ヲ半分ニ切リテ、内ヲ銀箔ニテダミタリ、

水次、木地ノ長、

御菓子ハ待合ニテ、下サルベキノ由仰セナリ、

中立、

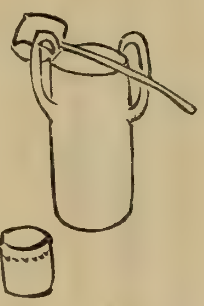
御待合、キンラン手ノ四角ノ鉢、ツバキモチ、水クリ、ヤウジハシ、フチ青漆、中朱ノ四角クヮシボン、

鉦ニテ御案内、

御掛物、西行、御裳裾川ノ百首ヲ、俊成ト定家ヘ、評ヲ請レタル處ノ文也、由來アリテ、御家ニテノ重器ナリ、松花堂ノウツシ一紙、

三井寺ノ僧チンカイ云人、持傳タル由ノ由來並ニ歌アリ、筥ノ書付應山公ノ御染筆、

御水指、仁清、常修院樣御好ノ形、柄杓ヲカケテ引切ヲ前ニ置



御茶入、御茶碗ハ御持參、コホシ杉ノマゲ物、

御茶入、萬右衛門、サツマ藥、袋、モウル

コレハ□久ノ時分、京ニテヤカセテ、サツマヘスヤキニテトリカヘラレテ、サツマクスリヲ、カケラレタルモノナリト也、

蓋袋トモニ・宗和コノミノ由、

御茶杓、三菩提院ヘ、

御茶碗、シガラキ、火替リ、白藥アリ、スヤキノ處、ビゼンノゴトシ、

○今日ノ御茶ハ、吉田ノ某ニ傳ヱ聞ンスルモノヲ召サレントテ、三人ノ者ヲ召サレシガ、果シテ花ヲアソバシタルコト、先以テ花入御賞翫アサカラサル處也、菜籠ニテアルベキ場ヲ、フクベニナサレシモ、籠ノ花生ニサシアフノ義ナルベシ、トリモナヲサズ御口切ノフクベヲ用ラレテ、半分ニ切リテ新シク、仰ニ内モ炭ニテムサキ故ニ、銀ダメニナサレシトノ御コト、トカク申上クヘキヤウナシ、サテ御裳裾川ノ御掛物ハ、稀有ノモノニテ特ニ名高ク、御家ニテサヘ御重寶ノ器也、花入ト並フヘキ御カザリハ、是ナリトノ思召也、其外一切カザリモノナク、茶碗茶入トモカサラレヌハ、花生掛物ノミヲ、カザラレントノ御コト也、百拙和尚ノ曰、今日ノ御茶ニ、一ツモ唐物ヲ用ラレヌ處、甚ダ唐物ノ籠ノ御賞翫アサカラズ、吉田某ニ申キカセナバ、無アリガタク存スベキノ由、三人トモニ申シ上グ、

○前夜ノ御談ニ後水尾院ハ、御寶算ハ八十五歳ニテカクレマス、御長壽ナリシトノ御コト也・天子御在位ヨリ院ニ降リマスニ、

カホドノ御長壽ハ、稀ニヤト申上クシニ、サレバトヨ常々ノ仰ニ、古今ノ天王ノ寶算八十ヲ越シタルハ、孝光天王（近本作孝皇天王）ト身ト也、手モ少ハ書ク、歌モ相應ニハ讀ム、大果報ノモノ也、何レモアヤカラレヨガシ、併炎上ハ七度、コレハイラヌモノ也トノ御コト也、

○十五日、　參候、

西王寺ノ九峯ト、一所ニ御前ニ出、富春草ノ御噂コレアリ、九峯中上ラル丶ハ、頃日袁仲郎カ詩ノ句ニ、愛レ花僧是業、貪レ食鳥忘レ機、ト云句ヲ、兼テハ愛レ花モ僧ノ又一事業也、食ヲ貪ントテハ、鳥モ其機ヲ忘ト云心ナルベシト思ヒシニ、春草ガ云ソレニテハ、鳥忘機ノ意ト對セズ、僧ハ一切愛著ノナキヲ本トス、花ヲ愛スルカラ早執著ノ一ツナレハ、是業因ノ一ツ也ト云心ニテ、業ヲゴウトヨム心也、鳥ハ無心ナルモノニテ、每ニ機ヲ知ルモノナレドモ、食ヲ貪ラントシテハ、暫ク機ヲ忘ルト云、對ノ意ヨリ見レハ、左ナクテハト申ス、尤ノ儀也ト申上ラル、仰ニコレハ左アルベキコト也、是ニ付テハ、是等ノ例イクラモアルベキコト也、愛ノ字別シテ味アリ、同シ文字ニテ意ノグハラリト、チガフコト多シ、コノ例多クアルベキコト也ト申上ラル、

○十六日、　錦小路カ岡崎ノ山莊へ御成、拙御供、先春日社へ御參詣アリテ、神樂丘、眞如堂邊御行步アリテ、直ニ成ラセラルベキノ間、眞如堂邊ニテ御待仕ベキ由ニテ參ス、午前錦ノ山莊へ御成、

掛物、唐畫ノ白鹿ニ瀧、

花籠、拜領ノ器、

花、ノキク、ハ、コ草、ススキ、

御會席、

汁　カブナ葉ツキ、

皿、早鮓、鯛、鱒、ウハタデ、是ハ吉田忠兵衛ヨリ、錦小路へ進上ナリ、

平、タマゴ、シロミバカリフノヤキニシテ、短サクニキリ、タケノコノアマカハバカリ、短尺ニキリ、花柚、

重引、大カマボコ、

吸物、エビ、ミル、

御菓子、サ、モテ、

申ノ半刻　還御、

○五月九日、　參候、

和歌ノ韵ヲ和スルコト、通例ニ假令思なるらんトアレバ、思ノ字ヲトリテ支ノ韵ニテ和シ、我思かなトアレバ、哉ノ字ヲ和スル是其常也、頃日モ思なるらんト云字ヲ、和セラルルニ付テ、思

ノ字ヲヲモヒト押セハ仄ニナル、ヲモフト押セバ平ニナルトノコト也、思ノ字サヘヲセバ、スムハスメトモ、既ニ和歌ニおもふなるらんトアレハ、思ノ字仄ニアシライタルモノ也、和モ又思ノ字ヲ、仄韵ニテ和スベキモノ平。忽チ三體ニ、秋來見レ月多ニ歸思一トアレバ、第三句ノ下ニ押シテ仄トナル、□□朗詠ニ寄ニ相思一トアレバ、平ニナルトノ仰也、拙申シ上ケシハスデニ哉ト和スルカラハ、なるらんノ字ヲ押シテ、哉ノ字ニ和シテイカガアランヤ、なるらんモカナノ意也ト存スルハ、イカヾアランヤト申シ上シガ、イナトヨカナト和訓スル字ガ、タマ〳〵アレバ哉ノ字ヲ用ヒラルレ、何かもの春の柳かノト云モノニ、鴨ノ字ヤ、乎ノ字ヲ押コトモナリガタカラン、所詮、下ニフマヘタル文字ヲ、押ベキカト仰ラル、

○朝込ノ茶ニ、宗和ヲ招請シタルニ、思ノ外ニ早カリシト見エテ、未ダ相伴モ參ザリシ、（此コト前ニモ記ス乎、前ハ常修院殿ト記ス）亭主迎ヒニ出テ、先此方ヘ入ラセ給ヘトテ圍居ニ請シ、釜ヲ揚ゲ炭ヲ直シテ、釜ヲ取リテ入リ、ツルナベヲ持出、ゼンザイ餅ヲアタヽメテ振舞シガ、ウマキコト也ト申サレタル由ナリ、能致シタリ、朝込ハヌレガマトテ、必ズ釜ヲ取リ入レ湯ヲアケ、釜ヲ水ニテシメシ、ヌレタルナリニフカズニ持チ出ル作法也、ソノアキタル處ヘ鐺ヲカケタリ、最ナル致シ方也ト仰ラル、

○或時、　參候、

澳、冲、ミナヲキト訓ズ、二字共ニ字註ニテハ、ヲキト云心ニハアラズ、ヲキト云訓ハヲコル心カ、シカラバ興ノ字ヲヲコルトヨム、風ふけば興津白波ト云ヘバ、立田川ニテ波ノヲコル心カ、入日をあらふ興津白波ト云モ、（近本八雲御抄ニ海バカリニ非ス河ニモヨメリトアリ）波ノヲコル意也、奥ノ字ト興ノ字ト相似タリ、左ニテハナキヤト、大ノ字ニハアラズ、六ト書タルモノ也、鹽干にみゑぬ澳の石ト云ヘベ、アナガチニ興ル意ニテモナシ、所詮青海原ヲサシテヲキト云ニチガイナシ、今漢文ニヲキノコトヲ、澳トモ、冲トモ書カレマヽ、イカカト仰ラル、拙カヘリテ順ノ和名抄ヲ考ルニ、溟渤ト書テヲホキウミトヨメリ、ヲキハヲホキノ中略ナルベシ、シカレバヲキト、漢文ニカクトナラハ、溟渤ト書ベキカ、（其下出處アリ、）和名抄ニ澳ノ字ナシ、順ノ大力、（川本作大才）今更驚クニ堪タリト申シ上グ、尤ノ由仰ナリ、

○或時、　參候、

如クト云ト、若クト云ト、似タリト云ハ、同ヂヨウニテ全ク別也、此コト前ニモ御センギアリシコト也、如クト云ハ、似タモノヲ云ニアラズ、物ヒトツタトヘニトリテ云タ譯也、若ノ字ハ、ソレヨリハ似ノ字ニ近シ、大方ニ類シタモノ也、似ハ全ク類シタモノ也ト仰ラル、本草ナド見ルニ、大ニ由アルベキコト也、

○或時、參候、

三寶院樣御成ニテ、仰ニ佛書ニ如ニ羊無ㇾ聲ト云語アリ、羊ニハ聲ナキモノニヤ、本草ナドニモ曾テ其サタナシト仰ラル、拙羊ト申スモノ、日本ニナキモノナレバ、其實ハ存知候ハネドモ、凡諸獸ミナ聲アリテ、羊ニカギリテ聲ナクハ、本草其サタアルベシ、龍ノ聾、虎ノ驄ナドミナ載タレバ、羊ニカギリテハ、聲アルベシト存スルハ、儒書ニテハイザシラズ、醫書ニ五畜癇ト申スコトノ侍リ、馬癇、其聲馬ノ嘶クガ如ク、羊癇ハ、其聲羊ノ鳴ニ似タル故ニ名クトアリ、然レバ羊ニ聲アルコト必セリト申シ上ル也、

○或夜、參候、近本、川本共ニ或時ニ作ル

寛文ノ禁裏炎燒ノ後、造營事終リテ後、板倉周防守見聞ヲ遂ゲ、紫宸殿ニ至リ、賢聖ノ間ノ圖畫ヲ拜見シテ、コレハイカナル人々ヲ、畫キタルモノゾト問タリシニ、是ハ唐ノトキ、忠臣聖賢ノ圖像ヲ掲テ、天子ニモ御覽ニ入、其人々ノ德ヲモ表シタルモノ也ト申サレシカバ、周防守ツク〲コレヲ聞テ、然ラバ權現樣ヲモ、畫テ入レタキモノニ候ト、申サレシトテ大笑ナサル、

○更衣ト云ハ、厠ニ登ルコトヲモ云、又女官ニモ女御更衣トアレバ、コレモ女官ニ候ヤトウカヾフ、仰ニ官ニアラズ局ノ名ナリ、

○或時、參候、

自在ノアシライニ釜ヲアグルトキ、遠州流ニハカギヲ引出シテ、向フノ方カ、脇ノ方ヘツヽハリテ、炭ヲナヲスナリ、當世ハ自在ノ中ヘサシコミテ、炭ヲ直スハイカヾト申シ上グ、仰ニイカニモ釜ヲアクルバカリカ、炭ヲナホス分ナレバ、自在竹ノ中ヘサシコミタルカ好シ、底ヲトルナラバスキ出シテ、向ノ爐ノ角ノ方ヘ、ヨセカクルガ好シト仰セラル、

○八月十五日、參候、

今ノ世ノ、石燈籠ヲ置クコトイブカシ、ヲビタヾシキ大燈籠ヲスヱテ、見聞ノ爲トス明リノ爲ニアラズ、燈籠ハ明リノ爲メニアラズシテハ、何ノ役ニタヽヌモノ也、併ソレニ又ワケアリ、唯ドコモカモ、アカルキヤウニハナラヌコトナリ、先路次ヘ入ルト、向フニ向テ火ノミユルヤウニスヱ、ソノ燈籠ノ本マデ行ト、又行先ノ向フニ當リテ、ミユルヤウニ直スコト也、ドコマデモ路次ノ廣狹ニヨルベシ、

○石燈籠ノ窓ノコト、今ドキハ半月ノ方ヲ西ノ方ヘスルト、覺エテイルハ非ガコト也、方圓ノ二ツハアカリ多シ、半月ハアカリ少シ、先アカリノ多ク入ル所ニ、方圓ノ方ヲナヲシテ、サマデ光ノイラヌ所ハ半月也、畢竟スル所カ、同シカタチノツキアハ

ヌヤウニスルコト也、

○亭主手燭ヲ持テ出テ、ヲキ所ハイヅカタニ候ヤ、仰ニ飛石ノ外ニ、手燭石ト云モノアリ、今ノ世トビノキト云トカヤ、御前ノ飛石、ミルベキ由ニテメシツレラレ、是ハ石大ナル故ニ別ニスヱズニ、ソノ石ニ直ニヲクヤウニシタモノナリ、

○月夜ト闇トニテ、燈ノ微甚アルコト也ト仰ラル、月ノアタル所ニハ、トモサヌニテハナキヤ、仰ニミナトボス、皆トホスニ燈心ノ入ヤウ、大事也ト仰ラル、月ノ中ル所ニハトボサス、若シトボセバフトクスル、月ノ影ニテ、光リアキラカナラザレハ也ト、承ル由申シ上ク、コレハ大事ノコト也、重テ仰下サルベキ由仰ナリ、

○湯口某カ申スハ、夜會ト云モノト、夜ハナシト云モノトアリ、マチガフ由ニ候、（近本マヽ一々ニ作）イカガト申シ上グ、仰ニイザシラズト仰也、宵ノ茶、深更ノ茶、（近本茶下夜込トノ三字アリ）コレハソレ〳〵ノ、仕ヤウアルモノ也ト仰ラル、

○廿八日、　關白樣ヘ御成、（三寶院樣、入江樣、芳林院樣、右京大夫、拙、）今日知君樣、江戸御著袴ノ御祝儀、御囃子仕舞アリ、御成ノ前、關白樣御前ニ召出サル、（三寶院樣、右京、拙、）此コロ或人ノ話ニ、武者小路殿ノ御歌トテ承ル、

　山家、

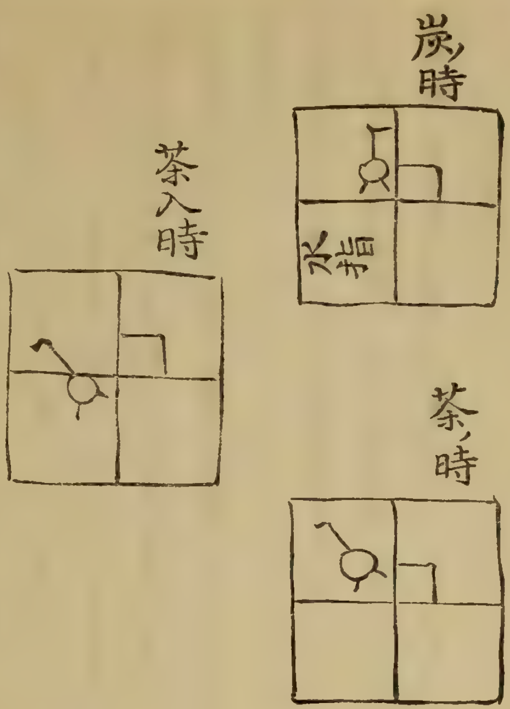
こひしさは、かゝれとてこそ、すむ山に、
　夕はいかに、おもひわぶらむ、

（近本ハさひしさは、かゝれさて社、すむ山に、夕はさすが（いかに）思ひ詫ぬる（らん）ニ作リいかに、らんハ直シナリ、）

本歌ハ、武者小路也、御直シハ靈元院樣也ト、承ルヨシ申上ラル、仰ニ本歌ハ一通リ也、御直シハ又一段深キコト也ト仰也、右京申上ラレシハ、武者小路殿ノ器ニテハ、此ホドノ塲ヘハ、參リカヲマシキコト也、我ヨミ歌ニテハ、ナラヌコトヤイカヾト、仰ニコレハ又ヨホドノコト也、先一通リ詠ミオホセタリト思ヘバ、ソレニテ止ムコトモアリ、又フト思ヒツクコトアリテモ、三タビ思ヒテ、詫らんトイハヾ餘所ノコトニヤ聞ヘンカ、ナド氣ガ付テナラヌモノ也ト仰セラル、右京モカク申サバ、ヨソノ上ニヤナリヌラント存ヲチカヘサウナモノ也ト、申上ラレシニ、にニらんノテニハイカウタシカ也、サレドモカヤウノ歌モ、讀手モヨミテ也、御直シモ御ナヲシナレバコソナレ、今日道安ナドガ讀出テ、右京ニミセタラマシカバ、ヨソノコトニヤナリナンナド、ウワサ聞ニスベシト仰ナリ、（此歌ノ意味、何事ニ付テ、誰カ身ノ上ニ付テモ、覺悟アルベキコトナリ、大方ノ人アラマシノ意ニ兼タルコトヲ、大方ニナリヌレバ、其上ニ付テ、又詫ヌルコトノアル習ナリ、我コヽロナガラ、心ノヤウニナキハ、イカニト告メラレテハ、遁ルヽコトアルベカラズ、）

○九月七日夜、　參候、入江樣、拙、

夜ノ茶手燭直シヤウノコト、炭ノトキハスクニ直ス、茶ノトキハ、ヘリヨリ外ニスヂカヒテ直ス、茶ヲ入ル、トキハ、ヘリヨリ内スヂカヒテナヲス、左ニ圖ス、宗和方ノ手燭ニテ、ヘリヨリ三ツ目ノ前ノ足ヲナヲセバ、火ノ影ヘリヨリ内ニテ止ルヲ、度トスト仰ラル、



○棚ノ水指ノ蓋ハ、棚ノ勝手ノ方ノ柱ニタテカケテ、面ヲ客ノ方ヘシテヲク也ト仰ラル、ゼウハリノ、天猫ノ釜ヲカケラレテ、茶ヲタツベキノ由仰也、即タツ、仰ニゼウハリノ環ニカギリテアシライアリ、カケルトキハスグニ掛テ、ヌクトキハ角ヲ少ヒツメテヌク、左ナケレバ手ノフリアシシ、向ロ傳、環ヲ直シヲクトキモ、角ト角トヲ頭ニテユキ合ヤウニシテ、ソノ合ノ處ヲツマミテ直ス法也、ソレ故ニ角ト角トガ末ニテ合フ、環ニテナケレバ、宗和流ニアラズト仰也、

○柿ノ御茶入也、申シ上シハ、カヤウノ茶入ハ、手ノヒラニ直スガヨキニヤト、仰ニコレラハ平茶入ナリ、柿ナドマデハ、常ノ茶入ノアシライニテヨキ也、大海、内海、ルイザハンドノ類、平ニシテ大ナルモノハ、手ニスヘタルガ好ト仰ラル、手取ノ釜、ナベ釜ハ、キワメテ二ツフクサノモノ也、一ツハ腰ニハサミ、一ツハ左ノタモトニ入テ、手取ノ釜ノトキハ、右ノ手ニテ鉉ヲ常ノ袱紗ニテ持チ、チヨト左ノ手ヲ添テ持ツ、コノ方ニ袂ヨリ左ノ手ニテ出シテ持ソユル也、又鍋釜ニハ、初メヨリフクサ二ツ出シテ、兩方ノ環ヲトル也、イヅレモ一ツハ、色チガヘノフクサ好シト仰ナリ、

○九月九日夜、參候、

大壺流ノ馬ノ書ニ、右功門ト云モノアリ、第二ノユルシノ書也、此中ニ櫻ガリノ、サザナミノタヅナ等、サマ〳〵ノ傳授コトアル中ニ、馬ニテ海ヲワタスコト、馬ニテ河ヲワタスコトヲ大傳授トス、馬ニテ川ヲワタスハ、渡ラヌ先ニ岸ニ著タル意ヲ宗トスベシトアリ、此心ハ淵瀬ヲシラヌ川ヲ、フトワタシカ、リテハ、アトヘモサキヘモイカヌモノ也、ソノ先ノユキツク處ヲ分別シ

テ、向ニテハドノ岸ガ、馬ノアガリ場ノヨカランズル處ゾト、篤ト心ニ分別シテ、此方ヨリワタシカヽルベシ、左ナクシテヲト渡シカヽレバ、アガリ場ナクテ迷惑スルユヘナリ、アガリ場アシケレバ、アガルベキ便リナクテ、人馬ヤモニツカルヽガ爲ト仰セラル、此義馬術ニカギラズ、モロ〳〵ノ藝ニ、ミナ〳〵アルベキコト也、初メニフワトカヽリテ、仕廻ノツカヌコト多シ、醫術ナドニテモ、此病ニ此藥ヲモリテトアランニハカヤウニスベシ、而シテ全體ノユキツク處ハ、イカヾアルベカラントヲ分別セズ、今日シルトコロニシテ、熱症ヤラ寒症ヤラ辯ヘナク、手足厥冷スレバ附子、寒熱往來スレバ空叢ト、バカリニフトモリアゲテ、何トゾ我心ニ思ヒヨラヌ變アレバ、顚倒錯亂スルコト、是先ノ岸ニ目カツカラヌ故也ト申シ上グ、イツレノ道ニテモ、道理ハ同ジモノナリ、コトニ馬ノ書ナド、ソノ人ハ定メテ學術文筆モナキ人ニテアルベケレドモ、言タルコト書タルコトニ、古人ノ道理ニヒシト合同スレバ、イヤトイハレヌコト多シト仰ラル、

○十一夜、參候、

一條惠寛公ヘ宗和ヲ召サレテ、臺子ヲ御所望アリシニ、臺子ニ向ヒテ柄杓ヲ取リ、次ノ間ニ立テ、柄杓ノ柄ヲ五分短クセラレタリ、惠寛公コレヨリ大ニ、宗和ヲ信セラレシト也、此コト前ニ記ス、

コレラナド、右功門内ヲ渡ス、馬術ノ旨ナルベシト申上グ、仰ニイカニモ左アルベシト、

○カヘ茶巾ヲ勝手ヨリ出スハ、湯桶ノ蓋ヲアヲノケテ、コレニノセテ出スハ法也、イカサマニモヨキノセモノ也ト仰也、

○臺天目ノコト、先臺トモニ茶碗ノ常座ニ直シ、常ノ如ク茶巾マテスミテ、サテ茶碗ヲ兩手ニ持チ、凡テ、兩ノ手アシラヒ也、臺ノ先ノ方ヘチロシ、臺ヲフキテ又茶碗ヲノセ、茶ヲ入レ湯ヲ入レ、立ルコト如レ常、併グリノ臺、カゴノ臺、紋ノ臺等ハ、茶碗ヲ下ニヲキ臺ヲ茶碗ノ左、我ガ左ノ方ニ直シ、茶ヲ立テヽ後臺ノ上ニアグ、黑ノ臺、木地ノ臺等ハ、臺ノ上ニテ立ル、

○茶杓ハフチニテウタヌヤウニ承ルイカガ、仰ニフクリンノアル茶碗ハウタズ、フクリンナクレバウツ、

○十三夜、參候、

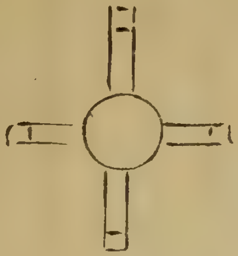
御床、御掛物、同齋院歌合、九月十三夜トアリテ、女房ノ歌數首アリ、俊成ノ父俊賴ノ筆ノ由、毎年今日掛ラルヽノ由仰也、九月十三夜ヲ稱スルコト、說々多シト云ヘドモシカトセズ、畢竟仲秋ノ如ク、アシラハルヽコトニテハナキニヤ、是等ナド餘程フルケレバ、出處ニモナルベキニヤ、管相ノ宰相近本相作府、ノ詠モ、菅家文集ニノリタレバ、タシカナルヤウナレドモ、タマ〳〵九月十三日ノ夜ニ、アタリタルト云モノ也、九月十三夜ヲ、仲秋

ノ如ク詠スル故ニ、此詠アルニアラズ、此歌合ナトニ、九月十三夜ト書ハナシタル處、何トヤランモノ〳〵シト仰ラル、

○茶筌ヲ疊ニヲキヤウノコト、トカクタヽミノ目ヲマタゲテ置ベシ、ソレニテハスハリヨキナリ、茶入ハソレニアフヤウニ、カザルベキ也ト仰セラル、（遠州流ニ山ニカザル、谷ニカザルト云コトアリ、此ルイナルベキニヤ、尻ノトガリタル茶入ナド、山ニカザラバ危カルベシ、尻ノ平ナ茶入ナド山ニカザリ、今モ谷ニカザリテモヨキハ、兩方トモニ目ヲカギリニカサルベキカ、）

○九輪釜ノカケヤウニハ習アリ、カクルトキハ正直ニ（近本直ロクニ作、）持チ、五德ニカケテ後ヘヅラシテ、角ヲ兩方へ分ツベシ、サゲレバ柄杓ニサシ合ナリ、是九輪釜ノアシライナル由、常修院殿ノ御敎ナリト仰ラル、

初ノカケサマ



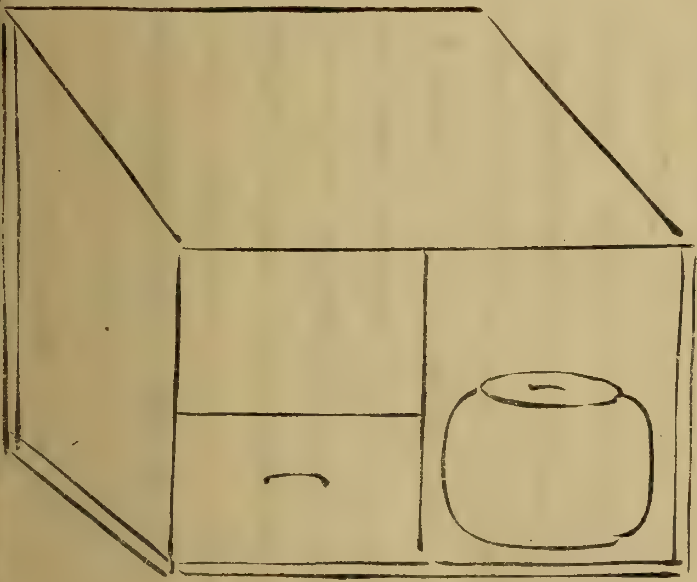
後ノカケヤウ

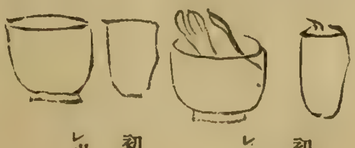
○柄杓ヲ持ツ手ノコト、手ノ內ノ虛ニナルヤウニ持ツヘシ、然レバ手ノ甲九クミユル、左ナケレバ手堅クミユ、

手ノ內虛ノ圖

不虛ノ圖

幅廣キ棚ノカザリハ、初メト終リトノカザリ付、別ヤウ也、





初メ如此

初メ如此

如レ此スレバ、アトノ水ヲ指トキニ、柄杓ガ茶入ノ上ヲコサス、

○十六日、　參候、

唐物茶入ノアシライニ、茶筌ヲ初メハ柄杓ノ方ニヲキ、後ハ左ノ手ニ指カヘテ、コボシノ先ニ直スコト是常ノコト也、イカナル故ト云コトヲ問ヘバ、大方ハ唐物ヲ、大切ニアシラウト對フ、左ニアラズ、如レ此ナクテハナラヌコトアリ、凡テ唐物ハミナ兩方ニテアシラフ、茶入ヲ直スモ右ノ手ナリ、（凡ソ和物ハ、ミナ左ノ手アシライ也、今世俗ニ右ノ手ニテ、アシロウコトハ吾道ニアラズ、）已ニ茶入ヲ直シ、茶筌ヲ直シ、柄杓ヲカケテイデ茶入ヲ取ントスルトキニ、茶筌ト茶入トノ間ヘ手ヲハサムコトヲ、キロウ故ナリト　仰セラル、

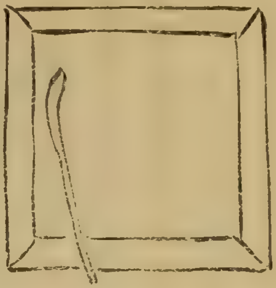
○左ノ手ニ柄杓ヲ持テ、釜ノ蓋ナドシムルトキハ、左ノ手ヲ膝ニ付ルハアシ、、柄杓ノ柄一寸ハカリ上ヲ持チ、膝ニツカスヤウニスベシ、肩ヲ落シテ、臂ヲ身ノ脇ニツクベシ、馬ノタヅナト同シトナリ、遠州カ誰カ、細キ竹二寸バカリニ切テ中ヲ通シ、ソレヲ口ニ加ヘ、ソノ中ヘヒポヲ通シテ、兩方ノ先ヲ手ニ持チ、手ノ出入ニコノヒポノ、タルマヌヤウニ驗レシト也、

○爐ノ炭ヲ直スコト、我手前ヨリヨキトノミ思ヒテモ、先ヨリ人ノ見ル處好カラザレバ、本ノコトニアラズ、胴炭ヲハヲメニ置テ、ソレヨリアシライスルコト、尤ナルコトナリ、三菩提院殿ノ仰ニ、人形廻シト爐ノ炭トハ、向ヲ大事ニスルナリト仰セラレシガ、尤ナルコト也ト仰セラル、

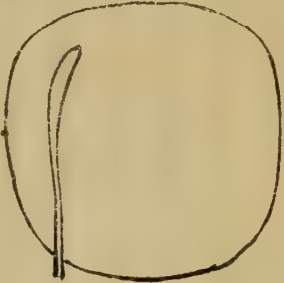
○臺天目ハ唐物茶入ノモノ也、臺天目ニ盆建、コレ亦毎ノコトナリ、臺天目ノ盆タテハ、風爐ニテハ、セマカルベシヤト申上ク、臺天目ノトキハ、風爐ガ好シ、本臺子ヨリ出タルモノナレバナリ、臺天目ヲ水指ノ前ニカザリヲキテ、茶入ヲ跡カラ持テ出ルニテ候ヤ、仰ニ、ソレハサマ〳〵アリテ一ヤウニアラズ、アタマカラ茶碗ヲ袋ニ入ナカラ、臺ニノセカサルコトモアリ、又後ニカザルコトモアリ、茶碗ノ中ヘ茶筌、茶巾ヲシコミテ、茶杓ヲ臺ニノセテ、カサルコトモアリ、（此トキハカリ、茶杓ヲ茶碗ニカケヲ、臺ニ仰ムケヲクナリ、）又臺天目ニ茶杓ハカリヲカケテ、茶巾、茶筌ヲ持テ出ルコトモアリ、

○盆ニ茶杓ヲ置コトハ、ヒヅメテ直スカ習ヒ也ト承ル、左ニテ候ヤ、仰ニソレハ角ノ盆ノトキバカリ也、角ノ盆ニ正直ニ餝リテ、客付ヨリ見レハヒツミテ見ユルモノ也、ヒツムレバ、ロクニミユルナリ、是モ盆ニヨリ違フ也、丸盆ハ正直ニヲク也、ヒシハ菱ノナリニユガメテ置也、花ノ盆ハ花ノ一葩ノ上ニ置也、此外ニ紅花緑葉アリ、長盆アリ、長盆ハ臺子ノカザリニテ、棚ニモカザルナリ、下ニ圖ス、

茶入ノ置處モ、盆ニヨリテ替リアリ、三處アリ、右二色下ニ圖ス、



三所ノ圖



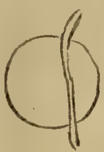
大方ハ下ノ兩方也、花ナトモヤウアルトキハ、中ニチク、

花ノ盆ハ一箇ノ上ニ置也

○或時、參候、

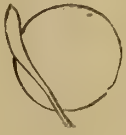
袱紗ヲサバクハ、正面ニテハセヌモノ也、コボシノ方ワキヘヨセ、下タテスルモノ也、ソレナゼナレバ、茶巾ハ正面ニアケテサバク也、ソレ故茶巾ノ定座ヲ不レ犯也ト仰ラル、

○茶杓ヲ茶碗ニカクルコト、世上ノ風ニハ



如レ此

也、此方ノ儀ニハ



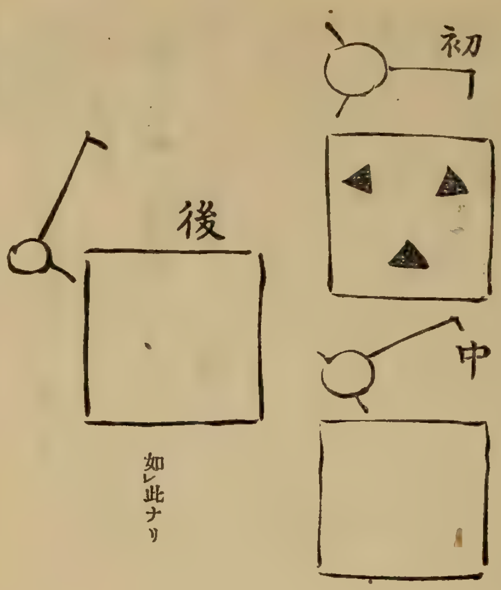
如レ此也、コレモ茶杓ノ定座ヲ不レ犯ナリト仰セラル、

○釜ヲカクルモ世上ニハ、姥口ニハ柄杓ヲカケテ直スナリ、少シニテモコシキアル釜ハ、ヲトシテカクルト覺ルハ惡シ、、釜ヲ爐ニカケテ恰好ノヨキヤウニシテ、柄杓ヲカクルハ恰好次第ニスベシト仰セラル、

○茶筌ヲナヲスモ、茶入ヨリ三ツ目ト覺ルハアシ、三ツメノ疊ノ

谷ヲ、マタゲテナヲスコト法也、ヂクノスワリヨキガ故也ト仰ラル、

○手燭ノナヲシ處、初メハ爐ノワキノタヽミニスクニ直シ、灰炭等ヲスル也、茶ヲ建ルトキハユガメテ直ス、茶碗ニ茶ヲ入ルヽトキ、ヘリヨリ内ヘ入テ、柄ノ方ニテタヽミノ目二ツ先ノ方ニテ、兩ツ足一ハイニ直スナリ、宗和流ノ手燭ニハ、影ニ足ノミヘヌヤウニ、コシラヘタルモノ也、ソノ圖如レ此、



如レ此ナリ

○柄杓ニ湯ヲ汲テ、茶碗ヘ入ルヽトキ、必尻モリシテタヽミニタルモノ也、（上ノ流ニハタルルヲ本トス、近本井川本盤ヌルルモノ也ニ作ル、）ソレハマン中ヘ湯ヲ入レントスルホド、合ノ尻茶碗ノ外ヘ出ル故也、合ヲウツムケテ、前ノ方ヘヒクヤウニスレバ、モラヌモノナリト、仰ラル、

○柄杓ニ水ヲ汲テ入ルヽモ、又同シクシヅクガ、ヲツルモノナリ、（此廿六字據近本之ヲ補）先水指ヘ合ヲ入ルヽトキ、柄杓ノ合ニ八分目ホド入レテ、釜ノ口ヘモテクルトキニ、水指ノ上ニテハ合ヲ斜メニ、釜ノ上マデモテクル内ニ、合ノ底ノロクニナルヤウニスレバ、雫シタヽラヌモノ也ト仰ナリ、（柄杓ノ合ノ底ニ、水ノタヽヘルウチニ、釜ノ上マデユクユヘナリ、）

○茶入ノ袋ノツカリヲ引ニ、左ノ手ニテクミトメヲ持テ、下ヘヒキヲロスハアシヽ、横ニ直ニ引テワナノ方モ又横ニロクニ引、コヽニテ、ヒボノヤワラカナルヲキロフ也ト仰ラル、

○コボシノ直シ處ハ、イツトテモ膝ノ半分ト、ガテンスベシト仰ラル、

○手燭ヲ、ヘリヨリ内ニ入ルヽトモ、已ニ客ニ茶ヲ出シテ、水指ノフタヲトリ、茶巾ヲ釜ノ蓋ノ上ニナヲシ、直ニ手燭ヲヘリノ外ヘ出スヘシ、アトニテ水ヲ汲ニ害アレバナリト仰ラル、

○棚ニテ立ルトキハ、初メハ水指ヲワケテ直シ、仕廻ノトキハ勝手ノ方ヘヨセテヨシ、水ヲサスニ害アレバ也、

○十月八日、入江樣ヘ御成、九峰、拙、

御掛物、日光樣御墨跡、　花、イノコヤナギ、ツバキ、

夜半還御、

○十月十九日、芳林院樣ヘ御成、右京大夫、拙、

御掛物、後西院様双六ノ御歌、
御花、ヤナギ、ツバキ、
夜ニ入リ、安村撿校、平井撿校、
夜半還御、
○十月廿二日、　百拙へ御成、九峯、拙、
待合、友松屏風、
掛物、宗阿彌、一文字金紗、中ドンス、上下シケ、
香合、松木ノ皮、松井圭殿作、大徳寺五老松ノ松ノ由
會席、
汁、モヅク、エリ子、ウド、
皿、ギセイカベ三切、シラスカケテ、
平皿、ユカブラ、アンカケ、ワサビ、
鉢、ナラツケ、ウリ、アミカサ、ユミソ、青竹クシ、川本、アンカウユミソニ作、
菓子、カンザラシモチ、ホツキイモ、シキサトウ、
御中立、
花生、朝鮮平壺、　花、白玉ツバキ、マユミ、
水指、南蠻、ヌリブタ、
茶入、チリベ、利休、　袋、金入、
茶匙、御作、
茶碗、玉水燒、

書院、
御菓子、白マンヂウ、ムシヌキ、
御薄茶、ズンキリ、
掛物、篆字、新筆、
○廿五日、　准后様へ律君様御茶上ラル、拙
御掛物、尚信、枯木ニ鳥二ツカイ、
御香合、琉球細工、蠟石ホリモノ、
御釜、古道也作、丸釜、常修院様ヨリ御傳、
御會席、
御汁、カブラ、ナメ、
平皿、カキ、玉子トヂ、
猪口、梅ボシ、サトウカケ、
御引物、鯛、イタヤキ、
御吸物、タコ、フキノトウ、
御肴、猪口、ウニ、
御菓子、ダンゴ、コシアヅキコカシ、シキサトウ、
口取、色付イモ、
御中立、
御花生、アメチマキ、　御花、イノコ柳、赤ツバキ、

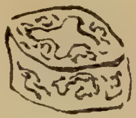
御水指、仁清、

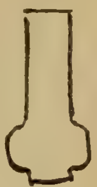
御茶入、瀬戸、イモノコ、　御袋、カントウ、
御茶碗、朝鮮、
御茶杓、御作、
○廿六日、　西王寺へ御成、百拙、拙、
掛物、虎關ノ喝、
釜、丸、
香合、南京、

會席、
汁、カブラ、タ、キナ、
壺皿、胡麻ミソ、ハリグリ、角クリ、柚ホソキリ、
香物、ナラヅケウリ、一口ナスビ、
平皿、ニシキドウフ、セリ、
菓子、ダンゴ、アヅキコカシ、シキサトウ、
御中立、
花生ハカリ、勝手口花臺ニ、カン菊テリハ、紅白ツバキ、水仙二本、

御前へ願ニテ、水仙甘菊ヲアソバス、
水指、セト、

茶碗、宗二作、

茶杓、宗和、筒ニ和公ト、了佐書付アリ、
茶入、拝領ノシガラキ、　袋、カントウ、ツムキ地、
書院掛物、萩坊、雞ノ雌雄、
前ニ唐カテノ花入、枇杷、
○霜月朔日、　大膳大夫へ御成、律君様、拙、
待合、新調御烟艸盆、杉、取手青竹、青地火鉢、唐物ノホヤ、杉ノ八寸ニノシコンブ、
掛物、月庵ノ七言四句詩、
棚、香合、羽箒、　香合、交趾、

釜、拝領ノ丸、
會席、
汁、フクサ、シンキザミ大根、イワタケ、ウドメ、
皿、杉ノ盞、青竹ノ取手、蒸鯛、アンカケ、

二重箱、上、カボチヤ、デンガク、下、香物、
平皿、センパ、鴨ノタヽキ身、ハツキノカブ、
吸物、ニヌキタマゴ、白ミハカリ輪ニシテ二切、コギノコ、
菓子、道明寺モチ、シキサトウ、チヨロギニシメ、
御中立、
花生、備前、

花、梨花三、葉二、
水指、シガラキノ白、
茶入、祖母懐、

袋、唐物キンラン、
茶杓、利休、
茶碗、彌兵衛燒、黒ノ樂、東陽坊ノウツシ、
花生、道安一重、(川本作通安)、寒キク、白椿、
二階掛物、土馬、福祿壽、御賛、
御菓子、クズマンヂウ、
薄茶、
○霜月十五日、入江様西王寺ヘ御成、玉ノ井殿、拙、
待合、御烟艸盆、吸口紙ニ包、外ニキセル紙ニ包、下ニチク、御手アブリ、

掛物、家熈公御懐紙、權中納言トアリ、題雪中梅氷トアリ、
香合、南京冠手、羽箒、
會席、
汁、フクサ、カブラ、ナメ、
壺皿、ユミソ、柚ノハリ、栗ノハリ、生姜ハリ、同カク、
香物、ナラヅケウリ、大コンノクキ、
平皿、ヨセトウフ、クルミ、
吸物、セリ、油麩、チヨロキ、
御菓子、クズマンヂウ、コマサトウ、
御中立、
花生、宗佐ノ一重、　花、白梅、フキノトウ、
水指、瀬戸、
茶杓、道安、
茶碗、上ハ新、(川本、新ノ下、秋トアリ、)次ハキゼト、
表床、
掛物、虎闘、前ニ南蠻瓢箪、水セン、寒菊、
○同十七日、入江様、律君様、大膳大夫ヘ御成、拙、
御待合、待合屏風、杉ノタハコボン、取手青竹、手爐、
掛物、應山公、定家ノ寫シ、明月記ニ出タル寸法、ナニカ朱ニテ書入アリ、
香合、金貝、燒物、入江様ヨリ拝領、

會席、
汁、フクサ、モヤシ子イモノミソヤキ、ナメ、
皿、ナゴヤウドノ青アヘ、
香物、ナスヒ、ウリ、
重引、リウキウイモ、ムシヤキ、三切、
平皿、スクイドウフ、アサクサノリ、カラミ大コン、
吸物、モヅク、チヨロキ二ツタリ、
御菓子、ツマミヤウカン、
御中立、
花生、二重、御作、　花、椿、紅白二リン、
水指、新シガラキ、
茶入、萬右衞門、チチボ、　袋、豐圓キレ、シユチン、
御茶碗、肥後ヤキ、天目、次セト、
茶杓、上杉日向守、

○十七日夜、　參候、入江樣御成、

仰ニ、先日大膳カ茶ニ、勅方燒物ヲ爐ヘクベタルコト、甚ダセザルコト也、勅製トモアランモノヲ、爐中ヱ燒コトハ慮外ノコト也、アルマジキコト也、棚ニ香爐ニテモ置テ燒カバ、シカルベカランカ、爐中ヘハ決シテ燒マシキコト也、又先日西王寺カ花所望セシ、花臺ノ置處モイカヽ、宗佐カ筒ヲカケテ、御前ヘ花ヲ願コトハアルマシキコト也、古宗和ナドナラハ、一條コトハリヲ云テ生ケマジキコト也、宗佐ノ切形ハイカヤウニ生ケテ、然ルベシトモイザシラズ、先亭主ニ、生テミセラレヨト云テモ餘儀ナカルベシ、唐物ノ籠トカ、一向ニ宗和ノ筒トカナラハ、格別ナリト仰セラル、

○花所望ハ品々アルコト也、ソノ方ハイカヽ習タルソト仰ラル、古ヘ遠州ノ流ヲ習タルトキ承リシハ、花臺ヲ床ニナヲシヲキ、客花（此時花臺勝手口ヘ遣シヲク）仕廻ヲ待テ花臺ヲ引、ニシリ上リヨリ上リテ拜見スト、承リシ由ヲ申シ上グ、

仰ニ、トカク只花所望トアレバ、床ニヲク筈也、花生ハ掛ケテ置クコトモ、下ニ置コトモアリ、水次ハナキモノ也、客ステニ花ヲ生ケ仕廻テ手水ニタツトキ、相客ヨリ亭主ニイデテ、花見ラレヨト云トキ、亭主水次ヲ持出テ水ヲサシ、初メハ水七分ニサシヲク也、十分ニハリテ花臺ヲ引、正面ニイテ、拜見シ、相客モ次第ニ見物ス、此常ノコト也、先日ノヤウニ、勝手口ニ花臺ヲ置クコトハ、終ニキカヌコト也、

○花所望ニ一通リ、手水鉢ノ脇ニ花籠ニ、花ノ二色ニテモ、三色ニテモ組置コトアリ、ソノトキハ上客ノ人、ソノ籠ヲ持テ入コトハセヌコト也、ソレニテハ、我ハガホニ生ント云コト也、ソノマヽ、ニイタシヲクコトモ、又心ナキヤウ也、刀掛ノ下石ナド

ノ陰ノ處ヘ、上客カナヲシ置也、ソレヲ下座ノ人持テ入リ、上客ニ向テ、此花何處ニ置クヘキヤト問也、上客對テ勝手口ヘナヲサセル、亭主ニ所望セソト云コト也、亭主出テ所望ノ禮節アリテ、ソコニテ床ヘ直シテ上客ヘ所望スル、此トキ勝手口ニナヲス也、此トリチカヘナルヘシト仰ラル、

○羽箒ヲ棚ニナヲスコト、右羽左羽ノ差別ナシ、何ニテモ不レ苦ザレドモ、右羽左羽ノ入ルコトアリ、ソレ故左右ナクレハナラズ、香合ニテモ、環ニテモ添テカサリテ、一ツカサリトスルトキハ、右羽ニ香合ニテモ、環ニテモノスレハヨシ、左羽ニノスレハ傾ク也、ソレ故ニコノトキニ入コト也ト仰セル、口傳、

○袱紗ヲ脇ノ方ニテサバクハ、茶巾ノ定座ヲキラヒテナリ、

○長緒ヲ用ルコトハ、大茶入カ、平茶入カ、大海、内海ノ類、又ハルイザノ屬、凡ソ長緒ニアラザレバ、茶入ノ出入ナリガタキ故ナリ、

○今ノ世茶入掛ノ釘、柄杓カケノ釘ニ、短緒ヲ四緒ニシテカクルコトハナキコトナリ、長緒ニアラサレバ、四緒ニシテカクルコトハナキコトナリ、

○廿五日、　參候、右京大夫、拙、

總シテ跡見ノ茶湯ト云コト、今モ人ノヨク云コト也、跡見ト云コトハ、御成ナラデハナキコト也、今ノ跡見ト云コトハ、今日御茶アリト聞シ、御殘リアラハ參リ度ト云ノ儀也、ソレ故今日ノアトミト云ヲ、又一ツ其儀アルヘシト仰ナリ、

古ヘ秀吉ナドノ跡見ト云ハ、色々ノ名物ヲ、御成ノ爲ニ設ケタルガ故ニ、此度ナラデ又見ソコトモ、難カルヘシト云心テ、御跡ヲ拜見スル心ナリ、ソレ故ニ三人ニカギラス、七八人ノコトモ、アリ、ソノトキハ路次ニ立コトトミヘタリ、

今ノハ、客ノ數モ大カタ極リアレバ、茶ノ殘リヲ所望スル意ナリ、

跡見ニテ大勢ノトキガ、重子茶碗ノ作法アリ、

茶後ニ參ルハ、極メテ花カ先也、菓子ニテモ出シテ、而シテ掛物ヲ持參シ、掛物竿ヲ持チソヘ、先ノ掛物ニテ候、茶具ヲ調スルノ間ニ、御カタ下サルベシト云テ、花ヲ取リイル、圍居ノ内ノ竿ハ、又別ノ制法アリ、掛ケヤウ、持テ出ヤウニ尤習アリ、茶入ハキハメテハダカ茶入也、客モシ袋ヲコヘバ、勝手ヨリ出シテミスルコト也、

道具ハ極メテハコビ、茶ノ湯ニスルコト也、ソノ外仕ヤウ共アルコト也、重子テ仰聞サルベシトナリ、

掛物ハ巻キナガラ、床ニカザルコトモアリ、竿ヲソヱルコトモアリ、此トキ軸先軸本ノ吟味アリ、

○大晦日夜、　參候、

例年ノゴトク御香一座アリ、此一行據近本補之

茶箍ト、御作ノ尺八ノ花生ヲ拜領ス、

槐記續編第三終

明治十五年四月十七日

華族蜂須賀茂韶藏書ヲ寫ス、

明治三十三年七月

依近衛公爵家藏本幷川崎千虎藏本校正之、

小杉榲邨校閲

西脇玉峯校正

槐記續編巻第四

近衛豫樂院殿家凞公口授
保壽院法眼山科道安筆記

○享保十九年甲寅元日、參候、

如ニ例年一御口祝拜戴ス、

御床掛物、後水尾院宸翰

六十あまりの、國もうこかす、前カト拜見ス、

歳旦ノ御尋アリ、台覽ニ供フ、

送レ臘比來連日雨、雪華已消歳華開、天恩不レ減小園裡、一曲春鶯一朶梅、

○七日、御茶湯始メ、拙、淳庵、

御待合ニ不レ及、入ヘキノ由仰ニテ直ニ通ル、

御掛物、正親町院御詠草五首、最初ニ七菜ノ御歌、

さめ詠ぬ、つむへき數は、七草の、また二葉にも、みへぬ雪間を、

釜、アシヤ、是ハ日外北野ニテ求ラル、

御棚、羽箒、香合、犀皮塗ト云モノヽ由、タトヘハ、青皮ナドニテハリテ、ソノ上チ青クヌリタルモノヽヤウニテ、象眼ノ輪ノモヤウ入テアリ、

御會席、

御汁、カモ、ケシバ、(近本作イケシメハ)

御平皿、フクニ、如例年、アラメ、シロ豆、ホタハラ、ノシ、ゴボウ、

御猪口、ナマコ、柚ノ葉、シラカ大根、鯛生モリ、

御吸物、ハマクリヌキミ、

御菓子、シキザトウニシテ、リウキウイモチチロシテ丸クス、

口取、コウタケ、クリ、

中立、

御待合、カイキノノウレン、煙草盆、手爐、

鉦ニテ御案内、四、

御花生、常修院様、マドナシノ尺八、ホソクシテ少シヒツミアリ、　御花、紅梅、福壽草、

御水指、チランダ、赤絵、

御茶入、春慶、　袋、阿蘭陀、

御茶杓、宗和、

御茶碗、信樂赤、

ハンタニテ、後炭ヲモ遊ハス、

○廿九日、拙御茶獻上、

御客組、公、律君御方、安平次、主殿、

待合、セウギニ、圓座一ツ、

掛物、三菩提院様、御染筆、

棚、羽箒、香合、添テカザル、コレハ後ノ茶アル故ナリ、香合南京手付、羽箒トキ、

釜、アシヤ、山水ノモヤウ、

菓籠、コレハ、大晦日ニ拜領ユヘ出ス

御會席

御膳、公ハ木地桐、律君御方ハ木地杉、主殿ハヌリモノ、

御椀坪平共宗和形、　香物鉢、交趾、　酒注、木地、宗和形

御取肴、ヘキ、　御菓子盆、宗和形、フチタカ、

御汁、ワカメ、玉子白ミ、

御皿、タイラキ、青アヘ、

御煮物、鯛ニミツバ、

御吸物、シホ松非、

御菓子、青モチ、　口取、キクラケ、　水物、クロクワヘ、

御中立、

御待合、木地丸烟草盆、火入アハタ口燒、灰吹アホタケ、　烟草入、加賀奉書、

花生、槌、　花、ミヅキ、ツハキ、

水指、仁清、ヌリブタ、

茶入、高原、

茶杓、常修院樣、

茶碗、粟田口燒、クロ、

薄茶入、宗和形、棗アカ、袋御好、

後御菓子、白マンヂウ、コンブ、　干菓子、拜領ノ食籠ニテ之チ出ス、

其翌日御禮ニ參候ノ處、昨日ノ茶ノ御沙汰ヲ批評、コレヲ承ル、

○柄杓、コボシヲ勝手口ヨリモチテ出サマニ、合ヲアヲノケタリ、客ノ方ヘスルコトヲキラウナリ、合ヲ勝手ノ方ヘシテ、客ニウチヲミセヌヤウニスルコトナリ、昨日ノハ非ナリ、

○香合、羽箒ノトモカサリハ、 如レ此ニモ、 如レ此ニモカサルナリ、尤此トキ右羽左羽ノ差別アリ、余時不入、

○昨日ノ料理ニ青アヘハ、春氣モタセテ好シ、後ノ青餅サシアイタルモノナリ、昔三齋カ去ルモノヽ方ヘ行タリ、極月ニ青酢ノナマスヲ出シタルヲ感シテ、昨夜立春タリ、今日ノ茶湯ハ出來タリトテ、褒美セラレタルト云、

○炭取ニ炭ヲ組コトバカリコソ、亭主ノ物スキタレトテ、コレハカリハ大事ニス、昨日ノクミヤウアシシ、胴炭ハキハメテ、一ツチウヘヲクガヨシ、初手ニ入ルモノナリ、是カ下ニアレハ、是ヲトリタル時、外ノ炭ノ行儀アシクナルモノナリ、ソレユヘ此ヲ上ニ置テ、是ヲ取テアトノ炭、客方ヨリ見苦シクナキ樣ニ組物ナリ、昨日ノ組ヤウアシキ由ナリ、炭ヲスルニ前後ノ炭ノサ

シアハヌヤウニスルハ勿論ナリ、キノウノ炭ニ、輪ノツカイ處
同シケレハ、目ニ立ナリト仰セナリ、
○二月四日、律君樣、嵯峨ニ御出ニ付、御出立御茶進セラル、
御客、入江樣、律君御方、拙、
御掛物、百人一首ノ中ニ出タル人也、
御香合、羽箒、烏帽子キタル樣ノ人形也、箱ノ書付ニキノカミトアリ、コレハ昔シ、宗和公ノ茶湯ニ出タルヲ、寺田無禪カ、ヌスミキタリタル、古キ名物也ト仰ラル、
御會席、
御汁、ヨメナ、
御膾、
御平、酒煮ノ鉄、ミツハ、
御吸物、コギノコ、フキノトウ、
御口取、ワカメヲキザミ、コブニテユハヘ、ハシヤキタルナリ、
御菓子、
御中立、
御待合、煙草盆、手爐、
御花生、カゴノツリ舟、
御花、柳ニ、柳條ヲ縮ル御心ニヤト申上、否トヨ、ツリ舟ニ柳ヲ生テ見セヨト、入江殿ノ御所望ユヘ、生タルト仰ナリ、
御水指、セト、
御茶入、
御茶杓、宗和、

御茶碗、カラツ、拜領ス、
凡ソ道具ヲ請レタルトキハ、亭主ヨリ出レ之、此時キワメテ膝ヲ直シ、爐ニ正面ニナリテ出スコトナリ、此マテハ茶ノ儀ナリ、道具ヲ出スヨリシテハ、茶儀ニアラス、ソレ故ナリト仰ナリ、イツソヤ、袱紗サバキヲ、ワキノ方ヘヨセテスルハ、正面ハ茶巾ノ定座ナレハナリト、仰セラル同意乎、
○五日至十五日、嵯峨大覺寺ヘ御入室ニツキテ、彼地ニ參候ス、
○廿二日、後西院三十三回ニ付御茶アリ、大門樣、入江樣、拙、
御待合、セウギニ、圓座一ツ、
御掛物、後西院樣宸翰、茶ノ湯ノ御歌、
軸本ニ、香臺ニホヤ香爐、勅好ノホシ也、
御釜、後西院ヨリ御拜領ノ、末ノ松山ト云ヘル名物也、
御棚、何モナシ、柄杓カケノ釘ニカケ羽箒、
御會席
御汁、ワカメ、
御菓子、青ト白トノシライト、シキサトウ、口取クハヘ、水物クリ、
御中立、
鉦ニテ御案內、
御花生、後西院樣御作、花、コブシ、

御水指、田中ヤキ、後西院御好、
御茶入、後西院御好、盞袋、藤四郎、
御茶杓、後西院御製、
御茶碗、後西院ヨリ御拜領、シカラキ、

後炭アソハス、燒物ナリ、香合、時代、
入江樣ノ、茶後ニ香爐ヲカザラレタル上ハ、御所望ヲ申テヲロサレヨ、辿ノ義ニ近ク聞キ香爐ヲモ、拜見イタサント申サハ、然ルヘカランヤトハ存セシカトモ、御香ニモアラズ、香爐モ近ケレハイカヾアラント、先サシヒカヘラレタリ、カヤウノトキハ、イカヾ侍ランヤト、仰ニソレヲ色々ト思惟シテ、カクハ餝ラレタリ、先此タキモノハホシナリ、コレハ、後西院ノ勅製ニテ拜領シタレドモ、此レマデ燒ベキコトモナク、秘藏セシカドモ、今日ナラデハ燒ヘキ時節モ、アルヘカラスト思召テ出サレタリ、大モトホシト云者ハ、空燒ノモノニテ、鼻ニアテ、嗅ベキモノニアラス、ソレ故是マテモ終ニ得出サス、空燒ニテ、衣裳ニトムルモ勿體ナシ、幸ニ爐ノ時節モ、過カテニ干ノ節ナリ、然レドモ爐ニ入ルト云コトモナシ、又我ヨリモキ、爐中ニ、勅方ヲ入ル、コトハセスコトナリ、棚ニカサラント思ヒシカドモ、棚ナレハ盆ニノセヲバナラズ、棚ニテ盆ニカザラバ、極メテヲロサレヨト所望アルベシ、サキニモ云通リ干ハ鼻ニアテ、嗅ガスモノナリ、ソレ故ワサト、盆ニテナク臺ニシテ、初ヨリ落シテカザリタルハ、所望ナキ爲ナリ、臺ハ卓モ同前ナリ、卓ニカザリタルモノヲ、ヲロシテミル沙汰ハナシ、公ニモ干ヲ出サレタルハ、今日始ナリ、イカニモ請ハレヌカヨシト仰セラル、

○軸先軸本ト云コト、世上一統ニ、勝手ノ方ヲ軸本、客付ノ方ヲ軸先ト覺エタルハアシシ、何ニテモアレ、掛物ノ書留ノ方ヲ軸本ト云、書出シノ方ヲ軸先ト云、畫ノモノニテ、印ノアルカタヲ軸元ト云、コノ例ニテ推スベシ、軸本軸先ニ、カサルモノト云沙汰ハナシ、ソノ處ノ恰好ニヨルナリ、今日ナドノ御床、軸本ナラデハカサラレヌ處トミユ、

○廿四日、大覺寺樣石山ヘ御成、御供、其夜參候、修學寺離宮ノ御庭ヲ拜見ス、アレハ其時分ノ人ノ作ナルベシ、誰人ニテ候ヤラント申上ク、仰ニアレコソ御亭ヲハツメ、御庭ノ一艸一木ニ至ルマデ、盡ク後水尾院ノ御製ナリト仰ラル、ソレハ何トテアノ遠キ處ヲ、アソハシクルニヤト申上ク、フトアノ山ヲ御手ニ入テヨリ、アノ地勢山水ヲ御考ニテ雛形カ出來テ、草木ヲハシメ踏石捨石ニ至ルマデ、皆ソレ〳〵ニ土ニテ石形ヲコシラヘ、ソノ處ニ置ヲ見テ、恰好ヨキヤウニアソバシ、其七八分モ出來

タル時分ニ、其傍ノ女中ニ、庭功者ノ人コレアル旨ニテ、ゴサツ、ミノ輿ニノセ、平松可心、非藏人某ナドヲ付ラレテ、見分ニ遣ハサル、コト度々ナリ、コレ法皇ノ御所ナリト云風聞アリシヲ、板倉周防守キ、付テ御所ヘ參リ、カヤウ〱ノ沙汰侍リ、若潜ニモ、御幸ノ御志アラバ、何トテ某ニ仰ナキゾ、早々關東ヘ申シ遣シ、何方ヘモナシ奉ンニ、何條コトノアルヘキヤト申サル、叡聞ニ達シ仰出サル、ハ、內膳ニ少シモ氣遣スベカラス、左ヤウノコトハ努々ナキコトナリト、身ガ云ト申シキカセヨ、身ガ左イフニ、誰カイカヤウニ云トモ、ミナ虛說ナリト思フヘシト、仰セアリケレバ、內膳一言ニモ不レ及シテ退出ス、

○二月廿七日、

關白公ヨリ御使ニテ、

依レ仰申入候、然者明廿八日、和歌御會始被二相催一候、貴樣聽聞御望ニ候ハヾ、八時ヨリ御參可レ被レ成旨、仰ニ候以上、

二月廿七日　加治掃部
村井右膳

山科道安樣

アリガタキ旨御請申シ上ケ、廿八日八ツ頃ヨリ參候、

○廿八日、參候、

御人數、

閑院宮、
德大寺大納言、
讀師、高倉中納言、
櫛笥中納言、
高野前中納言、
難波宰相、
滋野井宰相、
發聲、持明院前宰相、
題者、飛鳥井左衛門督、
西洞院右兵衛督、
八條中將、
講師、交野少納言、
芝山兵部大輔、
長谷少納言、
奉行、平松侍從、
持明院中將、
園池少將、
石井侍從、

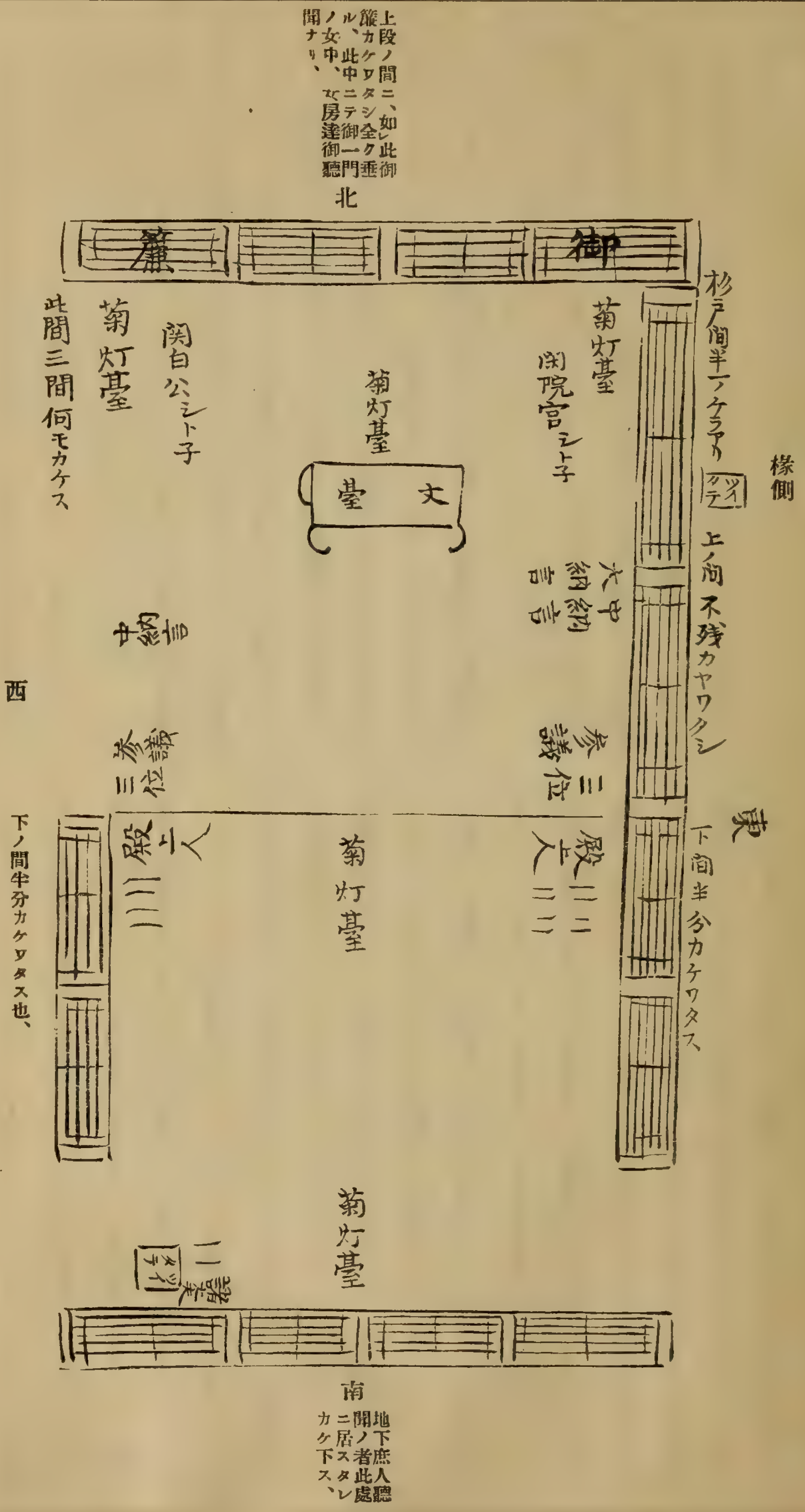
柳原辨、
山本少將、
町尻少將、
山井彈正少弼、
錦小路極﨟、
北小路差次、
慈光寺源藏人、
賴　庸、
孝　道、
昌　全、
法橋兼郁、
法橋兼竹、

思召ニテ召出サレタルコトノ、アリカタサヨト申シ上グ、追付御前ニ召出サル、錦小路右京大夫賴庸一人伺候、　仰ニ和歌御會始、久シク斷タリシヲ、此度私ニ思召立タルニモアラス、餘儀ナキ御事ニテ催サル、其方ハ兼テカヤウノ儀ヲ好ム段、御存知ニテ仰下サレシナリ、先頃內ノ御會ノ節、　公ト中院トヘ勅諚ニテ、和歌ノ會始ヲ催セ、　御製ヲモ下サレントノコト故、御請ヲ申シ上ケキ、老輩ノコトナレハ、中院ヨリ催サルヘシ、若シワカケニテ、早ク始ルコトモアランソト云シカ、果シテ先ニナリタリ、禁裏院中ハ、地下ノ人ノ見ルヘキニモアラヌハ、珍シク拜見スベシ、當時ノ持明院ハ、音節ニクワシキ人ニテ、音聲各別ノモノナリ、ヨク〳〵聽聞スヘシトノ仰ナリ、此式ハ應山公、長山公マテハ毎々ノコト也シカ、太閤、准后、御二代タヘタリシヲ、此度催サレタリト也、年曆百年モ闕ケタリト云、又一說ニ、太閤ノ御時アリシトモ云、ソレナレハ四十一年ニ及フト云ヘリ、兼郁、兼竹ヲ召サレシコトハ、曾祖兼與ト云シハ、長山公ノ御師範タリシ故ニ、其時ハ每々メサル、ソノ例ニヨリテコノタヒモ、父子トモニ召サルトナリ、

秉燭アラザレハ、始マラヌモノナリ、中ノ刻ニ參集ト仰出サレタレドモ、黃昏ニ及フヘシト仰ナリ、此間ニ御座敷ノテイヲ拜見ス、圖後ニ記ス、床ニハ何モナシ、ミスノ掛ワタシタルマテナリ、

トクト暮過テ始ル、委細ノ圖式ハ、重テ拜借シテ寫スヘシ、先余カ見及ヒタルトコロヲ後ニ圖ス、殊勝ト云フモヲソレアリ、大書院上段ノ間ニ如レ左御簾掛渡シ全ク垂レ、其中ニ御一門ノ女中女房達御聽聞ナリ、

座定テ後、奉行、讀師、發聲、題者、講師、其外兩三人座ヲ立テ文臺ノ側ニ寄ル、奉行、讀師ハ文臺ノ本ニ東ニムカヒ、發聲、題者ハ西ニ向ヒ、講師ハ正面北面ス、其後ニ三人北面ス、先讀師懷紙ヲ開キ、開キヤウ有トミユ、橫サマニ持テ文臺ノ上ニ置ク、講師高聲ニ、春日同詠、庭松春久、和歌、某、ハシメハ聲高ク、次第ニヒキク、名ヲ呼キコエス、ソレヨリ次第々々ニ披講アリ、披講ニアツカラヌモアリ、役人ノハキワメテ披講ニアツカル、賴庸面目アリト云々、地下殿上人ヨリシテ納言、宮、關白ニ及フ、披講ヲハルト其マヽ、持


上段ノ間ニ、如此御簾カケワタシ全ク垂ルヽ、此中ニテ御一門ノ女中、女房達御聴聞ナリ、
北
御簾
杉戸間半アケラアリ
ツイタテ
椽側
上ノ間不残カヤワクル
東
下ノ間半分カケワタス
菊灯臺
閑院宮シト子
菊灯臺
文臺
関白公シト子
菊灯臺
此間三間何モカケス
大納言
中納言
中納言
西
参議三位
参議三位
殿上人
殿上人
菊灯臺
下ノ間半分カケワタス也、
菊灯臺
諸大夫
ツイタテ
南
地下庶人聴聞ノ者此處ニ居スタレカケ下ス、

明院殿發聲、タトヘハ謡ト、稱名ト、平家トヲ、一ツニアワセタルカ如キモノナリ、地下殿上人ノ歌ハ一遍、大中納言、參議、三位ハ二遍、閑院宮ハ三遍、關白ハ五遍ナリ、畢テ各々皆本位ニカヘル、關白公持明院ニ向テ、愚詠ヲ數遍ト御會釋アリ、持明院平伏、奉行一人席ヲ立テ懷紙ヲ下ロシ、二ツニ折文臺ニモチソヘテ、西ノ方簾中ニ入リ、此度ハエスリ臺ニ、女房ノ檜扇子ヲノセテ持出テ、最前ノ文ノ臺ノ座ニ居寄リ玉フ、閑院宮ヲ除キ奉リテ、諸卿殿上人皆平伏ス、御懷中ヨリ、松重子ノウスヤウノ懷紙トリイデ、、讀師ノ如ク開キテ扇子ノ上ニ置玉フ、講師コレヲ講ス、庭松春久トハカリ、持明院七遍コレヲ詠歌ス、關白復右ノ御懷紙ヲ、懷ニサシハサミテ茵ニ膝行ス、諸卿皆平伏、閑院宮、關白公、東ノ方衝立ノ内ヨリ奥ニ入リ玉フ、諸卿席ヲ立ツ、暫シテ閑院宮、關白公又茵ニ付玉フ、諸卿殿上人本位ニ並居ス、而獻始ル、閑院宮、關白公ハ殿上人ノ獻、諸卿ハ諸大夫、

宮、關白ハ、三賓二ツ、諸卿ハ一ツ、殿上人ハ足打ナリ、公卿ハ加エアリ、殿上人ハ加エナシ、獻終テ膳ヲ徹ス、殿上人立テ入、關白公諸卿ニ向テ一獻ヲ酌テ、チトニキヤカニト御會釋アリ、閑院宮ト御同道ニテ、彼衝立ヨリ内ニ入リ玉フ、拙ニモ又此マテ拜見シテ退出ス、凡ソ戌ノ半刻コロナリ、

○三月四日、　參候、

營君御方ヨリノ尋ニ、凡ソ表具ハ、縱ニカケテ見ル物ナレバ、ソノ表具ノ紋カラモ、縱ニナルヤウニスル筈ナリ、卷物ハ、横ニ置テ見ルモノナレバ、表具ノ紋カラモ、ヨコニナルヨウニスベキモノナランカト思フナリ、ウカヽイテ得サスベシト、仰ヲ直ニ申上グ、仰ニ、凡ソ掛物ニモセヨ、卷物ニモセヨ、織物ヲ横ニマクト云フコトハナキコトナリ、先利害ニテ云ハソニ縱ニ卷クハ順ナリ、横ニマケバ逆ナリ、逆ナレバ必ウラウチハナルヽモノナリ、故ニ表具モ同、ソレ故ニ卷物ニハ紋カラヲ撰テ、ドチラヘシテモ、サカサマニモ、ヨコニモナラヌ、紋ヲエラビタルカ宜ナリト、

○永君御方ヨリ、小鳥合ハ名ヲ下ニ記スヤ、點ヲ記スヤウカヾウベシト、仰ニ小鳥ニハ人衆ハ不レ記、當リタル人ノ姓名ハカリヲ記ス、人衆ダケヲ記シタクバ、奥ニ別段ニ書ケバ各別ナリ、香記ニハ當リタル人ノ名ハカリナリト仰セラル、

○花月ノ香ハ、先ノ花ノ方ヨリ三遍出シ、又月ノ方ヨリ三遍出シ、其次ハ月ト、花ト、互ニ出スニヤ、又月ノ方ハ月ニテ仕廻、花ノ方ハ花ニテ仕廻ニヤト、仰ニ初メハ三遍、月ハ月、花ハ花ト出シテ、アトハ月一度、花一度ト出スナリト、

○三月十日ヨリ十二日迄、嵯峨御成、拙御供、大覺寺ハ嵯峨天皇ノ御願ニテ、後宇多院ノ中興ナレバ、眞言一宗ニ於テハ尤モ古シ、御室ハ眞言道場ニ於テハ、大覺寺ヨリハ後ノ儀ナリト、然

ルニ今日ニテ見レバ、御室ハ諸堂山門ノ體ハ、大覺寺ヨリモ廣大ニアルハ、如何ナル故ニヤ、アレハ台德院ノ再興ユヘナリ、關東ニ東叡山ヲ立テテ、一品宮ヲ置カレントノ儀ナリシニ、御室ヨリサヽヘ申テ曰、一品ノ宮ヲスヘラルヽハ、御室ニカギリテ外ニハコレナキコトナリト云々、關東ヨリ頻ニ申上ラレシ故ニ、其趣ヲ仰下サレシニ、然ラバ御室ニ於テ、何成トモ思召ノアラバ、御心ニ任セラルベシトアリシニ、然ラバ御室ニ於テ、諸堂山門マデ、古ヘノ如ク建立アランニ於テハ、御領掌アルベキノ由ニテ、思召ノマヽ台德院ヨリ建立アリシ故ニアレホドナリト仰ラル、

○大覺寺ノ御庭ニテ、昨今コヽロヨク鶯ノ囀リケルニ、好音ヲ御聽ナサレテ、鶯ハ所ヲ易ヘズ來ルモノニヤ、御殿ニテモ冬ノ中ヨリナキ出デテ、今ニ至リ啼クコトヨト、仰ラレシホドニ、憚リナガラ拙ガ庭ハ最セハキ處ナレドモ、冬ヨリ今ニ同ヲ處ニ來リ啼クコトノ、ヤサシサヨト申シ上グ、誠ニ宿はと問はゞ如何こたへんト讀ミシモ、同ジ木ニヤドリスルモノニヤ、舊栖ワスレヌモ疑ハシカラズト仰ラル、

○南殿ノ櫻橘ハ、昔シハ梅ナリシヲ、何ノ世ニカ櫻ニナリシコト也、南殿ノ梅ヲ移シ樹ラルヽニ、嵯峨野ノアタリヘ、梅ヲ召上テウエラレシニ、歌ノ付テアリケルトナリ、

勅なれは、いともかしこし鶯の、
　宿はとゝはゝ、いかゝこたへむ、

トアリシ程ニ、其人ヲ尋ラレシカドモ知レズトナン、

御本殿ノ宸殿ノ前ニモ、紅梅ト橘ト也、昔ヲ存セラレシニヤト申シタリ、南殿ノハ右近衞、左近衞ノ陣所ナレバ、ソノ名ヲ呼フ也、禁裏ノハ、左右ノ大將ヨリ奉ルコトナリ、只今ノ橘ハ、造營ノ後今ノ關白ノ大將タリシトキ上サセタリ、櫻ハ九條殿ヨリ奉ラル、イツニテモソレナリト仰セラル、

○風爐ヲ、客付ニカザルコトモ侍ルニヤト、仰ニイザシラズ、左勝手右勝手ハアルベシ、風爐ヲ、客付ニカザルコトアルベカラズ、

○風爐ノ時ノ茶碗ハ、小板中スミニ置ガ習也、ソレヨリ奥ヘヨレバ、柄杓ニサシアウ、口ヘヨスレバ、茶入ヲトルニ手ヲハサムナリ、

○柄杓ハロクニナヲシテ、取サマニ手ヲ仰ゲテ、少シハカリ右ノ方ヘイヂラセテ、取ルガヨシト仰ラル、

○此度大覺寺ニ御茶所ノ出來テ、俄ニ爐ヲ入レラレシカ、急ナルコト故、新シクスリタテタル爐ヲ仕込タリ、イクホトナク、風爐ニナリテ、疊ヲシカレタリシガ、　大覺寺樣ノ仰ニ、爐ヲカキテ埋メタリト仰ラル、ソレハイカナルコトニヤト申上シニ、若

シ秋ニイタリテ損セ子バ、ヌリナヲサヌコトモヤアルベシト、思ヒテ闕キタリト、其器ヲボロゲノコトナラズ、天然ノ御才アリ、

○三月廿七日夜、　參候、

古來大切ノ道具ノカサリニ、銀ヲツカフコトハ常ノ習也、金ヲツカウコトハ稀也、刀脇指ノカザリニ、セツパハヾキ、馬ノ具ニ、金覆輪ノコトヨリ外ニハ、普通ニハナキコト也、昔辻伯耆ト云ヒシ樂人ノアリシニ、其門人ニ笙ノ名管ヲ得テ、殊ニ秘藏シタリシカ、或時己ガカ一パイノカサリヲ仕直シテ、輪マデヲ、コト〳〵ク金ニ仕テ、伯耆ヘ見セケルニ、伯耆タヾ何トナク會釋シテ後、獨リツブヤキケルハ、入ラヌカザリヤ、金ニテナクモガナト云シカ、年月數年ヲ經テ、奈良ノ春日ノ御祭リノ、樂人ニエラバレテ、彼者笙ノ役ニテ、已ニ催シノアリシトキ、裝束ヲ付テカタ〳〵取込ミ中ニ、彼笙ノ金環ヲ、誰盜シヤラン落テ見ヘズ、樂ハスデニ初ル、イカヾハセント周章シテ、今日ノ爲ニ持參セシカイモナク、環ナクテハ吹コトヲ得ズ、師ノ伯耆ニ談ジ合セシニ、伯州初メテ云ラク、其方カ秘藏第一ノ器ノ餝リニ、古來銀器ヲ遣イ來リシ所ヲ、金餝リニセシ時、自謂ラク、此餝リハ災アルベシト思イシガ、果シテ今日ノ儀アリ、其爲ニ兼テ拵ヘ置タリトテ、懷中ヨリ銀環ヲ出シテ渡サレシカバ、彼門人世ニアリカタキコトニ思ヒテ、其日ノ面目ト云ヒ、師ノ恩ノ重キコトヲ感ゼリトカヤ、深思遠慮ト云フベシト仰ラル、誠ニアリガタキ御事ナリ、夫其此子其服ニカナハストハ、カヤウノコトニヤト申上グ、

○古ヘ辻信濃ト云ケル者、篳篥ノ上手ナリシガ、或時青蓮院後ノケイレイインノ御時、能アリテ誰彼來リ、能スデニ濟テ後、今日ノ能囃子ノ評判ノアリシニ、獅子吼院殿ノ仰ニ、鳴物ニ於テハ信濃ガ篳篥ニ過グベカラズ、一曲致セカシトハ思召セドモ、管ヤイカヾトアリシニ、座モ立タズ懷中ヨリ、篳篥ヲ取出テ吹タリ、一曲終リテ後、扨々音律ハサラナリ、志ノ厚キコトコソユヽシケレ、樂人ノ家ニテ即事ノハタラキ、感ジ思召ノ由キコヘシカバ、信濃カシコマリテ申ヤウ、御褒美ハアリカタケレドモ、是ハ私ノ懷中ニハアラズ、近衞樣ノ御懷中ナリト申上ク、ソレハイカニトアリシニ、二十年前フト或時シモ禪閤基熈公ノ御前ヘ參リタリシニ、能コソ參リタレ、淋敷モ成ラセラレタルニ、篳篥一曲吹ケト仰コトアリシニ、畏リテ候ヘトモ、吹馴タル管ヲ持參致サズ、取ニ遣スベキヤト申シ上グ、仰ニ樂人ノ家ニ生レ、殊ニ當時篳篥ノ名譽モアルニ、ソレホトノ物ヲ懷中セヌコトヤアル、笙ノ和琴ノト云ハバコソ、持參セヌ咎ハアルベカラス、篳篥ホトノモノヲト、世ニ不興ニアラセラレシコトノ骨髓ニ徹シテ、面目

ヲ失ヒケルコトノ口惜サニ、其夜ヨリ寢テモ寤テモ、晝夜ヲカキラズ、內外ヲ撰ハス、寸陰分陰モ懷中ニハナスコトナシ、夫故ニコソ今日ノ面目ヲ失ハズ、是ヒトヘニ太閤ノ御所ノ御カゲナレバ、信濃カ懷中ニハアラズ、近衞樣ノ御懷中ナリト申上ケル、昔人ハカク侍リケル、改ムルコトノ殊勝サヨトテ、太閤御所ヨリモ、何々御褒美ヲ下サレケルトナリ、

○昔シ喜多七太夫カ舟辨慶ノ脇ニ、高安彥太郎ガイノリノ段ニ、珠數ヲモミキリタルニ、右ノ袂ヨリカヘノ珠數ヲ取出シテイノリケルヲ、七太夫カ手ヅマニテ、長刀ノ先ニカケテハヲケレバ、左ノ袂ヨリ、又カヘノ珠數ヲ取出シテイノリケルヲ、七太夫大ニ感シテ、今日ノ彥太郎ノ心カケハ、大ニ七太夫ニハヂヲカヽセタリトテ、人々ニハナシシケルトナリ、

○台德院ノ御時、南光坊ノ參ラレケルガ、ステニ御成ッ前ニテ、御拵アソバシテ御對面アリシニ、御印籠ヲサゲラレタルヲ咎メテ、何ノ爲ニ御印籠ヲサクラルヽコトニヤト伺ハル、大樹チヤツト合點アソハシ、是ハ人ノ爲ニ下ル也トアリシニ、御醫者ハ何ノ爲ニ、召連ラルヽニヤト申シ上シヨリ、御生涯台德院ニハ、印籠ヲサケラレストナリ、

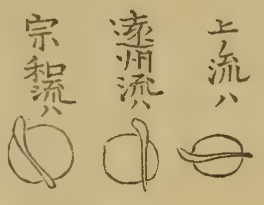
○廿九日夕、　參候、

明四月朔日ニ、私宅ニテ茶湯ヲ催シ候、コトニヨリ二日ッヽケテ仕ルコトアルベシ、コレニハ父子モアリ、朋友モアレバ、同人モアルベキカ、前日ノ茶湯ノコト、卽時ニ相客ヘシルヽコト也、前日ノ道具ヲ、コト〳〵ク易テ出サバ、然ルベカランヤ、但シ一色モ易ヘズシテ出スガ、宜シカランヤト申シ上ク、仰ニイカヾアルベキヤ、昔或トキ、常修院殿、三菩提院殿ナドニ、カヤウノコトヲ聞カセラレナバ、サゾ工夫アルベシ、御參會ニテ、御僉儀アリテナラバ一決スベシ、今日ニアリテハ、コト〳〵ク易ントシテハ、先ッ汝ガ身ノ上ニテムヅカシカルベシ、易ヘヲホセラルベカラズ、風爐モ、衝立ヲ紅鉢ニカユルホドニテナクバ、分タチガタカルベシ、ソレヨリモ第一ハ、道具ニ甲乙出來レバ、客ノ甲乙ニサシアウコトアルベシ、唯一向ニ一色モカワラスガヨカルベシ、花ト花生トハ、カワラデカナワズモノナレバ、此バカリハ格別、ソノ外一切カヘヌガヨカルベシ、花生ハ、花ヨリ好ムモノナレバ也、木具ナトツカフニハ、遣ヒヨウアルベキコト也、前日蓋置コボシナド新クハ、後日ニハ蓋置ハカネノモノ、コボシモ燒物ナドニシテ、料理ノ方ニ木具ヲツカウベシ、但シ前日蓋置コボシヲ、古キモノヲ用テ、後日青竹ノ引切杉ノコボシナラバ、尙以テ宜シカラン、然ラバ料理ニハ、一向木具アルベカラズ、前日ノ木具ヲモシ遣ヒタラントト、客ニシラレタランニハ、最口惜カルベシト仰ラル、毎度ノ感心之レニカキルベカラ

ズト云ヘドモ、殊更ニナヨブヘカラザルコト也、

○四月二日、參候、

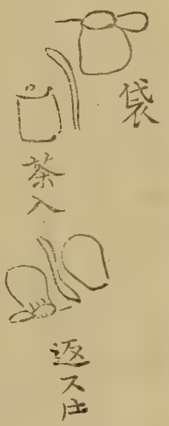
茶杓ヲ茶碗ニノスルノセヤウノコト、全ク此一流ノミナリ、



如レ斯也、他ノ流ハイザシラズ、兎角置合ハ、定座ト假ノ座ト云フコト、何コトニモツキテマヲル也、竪ニ置クトカ、横ニ置クトカ、正シク直スハ置合ノ定座也、此ハ茶碗ニ茶ヲ入レテ後、茶入ニ蓋ヲシメテ、茶入ノ定座ニ直スマデノ間、カリニヲク茶杓ニテ、定座ノカサリツケニアラズ、故ニ竪トモ横トモツカス處ニ直ス、且ユカメテ直スベカリニ非ス、茶碗ノフチヘカケラル、ダタハタヘヨセテヲク也、遠州ヤ千家ノヤウニヅカト直シテ、遠州ノヤウニ節ノ處ヲツマメバ、茶碗ト茶杓トノ間ヘ、指ガハイリテワロシ、千家ノヤウニ茶杓ノ本ヲトリテハ、茶杓ノ定リタルモチヤウナルガ故ニ、キロウ也ト仰セラル、

○茶入ノ袋ヲ出シ申ストキハ、ツカリノ方ヲ、客ノ右ノ手ノ方ニナルヤウニ出シ、客ヨリ返ストキハ、又亭主ノ右ノ手ノ方ニ、ナルヤウニ、モドスナリ、

トカク袋ノ底ヲ、下座トアシロウ故也、カザリモ出ストキハ、



如レ此ナリ、シカルニ茶入ノヒボヲトクトキハ、却テツカリヲ左ノ手ノ方ニ引ハ、袋ノ表ノ客ノ方ニ、ナルヤウニトノ爲ナルベシ、シカレハ棚ニチクトキモ、ツカリノクミトメノ、左ノ方ニナルモ、袋ヲ表ニスル爲カ、釘ニカクルモ同前也

○藤田某カ師、安藤一融ト云ケル者ハ、觀世流ノ謠ニ堪能ナルモノナリ、毎ニ門人ニカタリテ曰、凡ソ小謠ヲ所望セラレテウタウカ、又ハ祝言賀儀ニ參會シテウタウトモ、必々珍シキ謠ヲウタウベカラズ、人ノツケラル、謠ヲウタウモノ也、若シ人ヨリ珍シキ謠ヲウタヒ出シタルニ、得ツケヌハ耻ナリ、隨分珍ラシキ謠ヲモヨク覺ヘル樣ニ、兼テ嗜ムベキコト也ト申タリト承ル、面白キ沙汰ニヤト申上ク、仰ニ何事ニテモ一事ニ堪能ナルモノ

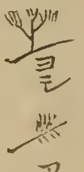
ノ、其コトヲカタルニ法トナルコト多シ、是ハ何事ニモ通スベキコト也、鞠ノ敎ヘニ、凡ソ人ニワタスマリハ、隨分スナヲニ蹴ヨキヤウニシテ渡スコト也、珍ラシキ足ツカイ、ハタラキタルコト、達者ゴトヲ事トハセヌ事也、モシ他ヨリイロ〳〵ノ形トナリテ來ル鞠ハ、日比ノ珍キアシツカイ、ハタラキゴト、達者ゴトヲ、熟所ニアラサレバナラヌ故ニ、稽古ハ兼テ左心得ル事也ト云ヘリ、同コト也ト仰ラル、

○小キ環ノヤウノ〳〵一寸内外ノ、クイチカイノ環ヲ持參シテ、コレハ何釜ニカクルモノニヤ、釣釜ナドニ、カクルモノニヤト申上ク、仰ニツリカマノ環ハ、常ノ環ノヤウニ口ノ合モノ也、カヤウニクイチガイハイラヌ、クイチガイニシテ、是程チイサキ環ハ、指釜ニアタリテ自由スベカラズ、是ハ釜ノ環ニアラズ、ツリカマノクサリニ石帶トテ、色々ノ平ニ長キモノヤ、平ニ丸キモノヲマゼテ、象眼ナド入タルカアルモノ也、此クサリヲカクルニ、下ノ鈎ト、上ノカケ環トヲ、我前ヘロクニスルト、石ノ帶カケニナリテ、フチヲミルモノナリ、此時モヒトツ、此環ヲカクテツレバ、直正(マロ)ニナル也ト仰セラル、ツリフチモ、同前ニヤト申上ク、同コト也ト仰セラル、

○五日、櫻ノ御所紫藤御覽、入江樣ヘ御成、拙御上ニモ花ヲアソハス、入江樣ニモアソハス、拙モ仕ルベキ山仰ニテ、入江樣ニハ、スズカケニ赤イバラヲアソバス、拙、イチハツヲ生ク、スズカケヲ生ルニ、アレガナリヲ生レバ、必花コト〳〵ク横ムキニナル也、尤モ花ヲ多クムシリテ、仰キタルバカリヲ生レハ、花ハアヲムクヤウナレドモ、全體ノ木フリカ横ニタレルナリ、花ヲ正仰ニシテ枝ヲタルレハ、インガリト入ル、枝ブリモタレタルバカリハ詮ナシ、チト枝フリヲ見合セテ、生ラルベシト仰セナリ、タトヘバ、

入江樣

御前



カヤウノモノナリ、

○イチハツハ、生シタルナリヲ、好ク合點セヌバ大ニ誤也、

拙

御前

一枚ノ葉ハ前向ニ、一枚ノ葉ハウシロムキニ、ソノ間ヨリ花ノ出ルハ、イチハツニハナキコト也、ソレハ杜若ニナル也、イチハツハ何枚ニテモ、葉ハ重リテ、

表ナレバ皆表、裏ナレバ皆裏ノモノ也、ソノ上左葉ト右葉トアリテ、左葉ニハ花モ左ヘサク、右葉ハ右ヘサクナリ、故ニ右葉ヘソヘテ、右ヘツキタル花ヲ生ケ、左ヘツキタル葉ヘ、左ヘツキタル花ノツボミヲ生クベシ、而シテ花ハ花ノカブ、ツボミハツボミノカブヲ立テ生クヘキ也、

御花ノツボミハ、花ノ莖ヨリ直ニ出タル御心ニテ、生ラレタルニヤト伺フ、　仰ニイカニモ、ソノ通リ也ト、仰ラル、

○羽釜ヲ風爐ニカクルハ、風爐ノフチト、ハカマノハト前ニテハ、一分カ半分ホド上ルカ下ルカ、後ニテハ二分カ三分カ上ルホドニカクル也、トカクフチト、ハト、一ツニナラヌヤウニスルコト也、ハガマニテナシニ、ツキタチタル釜ハ、イツキノ所ニテ、ヒトツニナラヌヤウニスルコトナリ、（羽釜川本作刄釜）

○四月十一日、　御茶、入江樣、右京太夫、　細

御待合、圓座二ツハカリ、

御掛物、夏璉ノ山水、方尺計、一文字印金、中金地ヨリキン、上下紺地金紗、

御風爐、ツキタテフロ、

御釜、アシヤ、

大木ノ松ノモヤウ、身木ムカフヨリ、フタチコシテ、コナタヘ枝葉アリテ、正面ヨリ少ユカミテ、潤底松トアリ、向ノ方ニ音ノ字アリ、トモ蓋環付、

御菜籠、竹ノクミモノ、コレハ去年御有卦ニ、御近習ヨリ獻上ノモノナリ、

御香合、ビセンヤキ、カニノ香合、青色土ニテ、細工ハナハタ見コトノモノナリ、

御會席、

御汁碗、ナシ、

御飯碗ニ、汁碗ノ蓋ヲシテ、白飯ノ上ニ、メウガ、シヨウカ、クリ、モゾク、キサミコンブ、油アゲ、ユノハ、大根、タテノサヤ、右ノ具コト〱ク、ミジンキサミニシテチカル、

御汁、キンラン手ノ手付ノ汁次ニ、コンブタシ、タレミソノスマシ汁、

御飯鉢、唐物ノ六角ニ、錫スジガ子入タルニ、内朱ニシテカケガフアリ、カケコウノ、上ニ六色ノ具ヲ入ラレテ、下ニ飯タツフリト入レカヘヌヤウニアツバス、

香煎大筒、ションスイ、

御皿、飛龍頭二切、イリサケ、金襴手、

猪口、　香物、ナラツケ、ウリ、ナスビ、

御酒、サカズキ二ツ、

御平皿、入江樣ニハ、竹ノ子、三ツハ、下ニ入、サケノセンバ、ミツハ、

御吸物、ヌカミソ、四角カンテン、

御菓子、道明寺餠、黑コマス入、シキサトウ、口取、マメクワヘ、

御中立、鉦ニテ御案內

御花、センテイ花、

御花生、法師、

此花生ハ、天下ニカクレナキ、宗和ノ直作ニシテ、宗和ノ外ニハ、ユメ〳〵コレナキモノナリ、其由來クワシク、寺田無禪カヽレシ書ツケアリ、寺田無禪ガ圍居ノ、普請セシトキ、宗和ミマワレテ、材木ノ切レ端チ、モライテ、カヘラレ、其後宗和ニテ、茶湯ノアリシトキ、コノ花生ニ白ノツハキチ入レテミセラレシニ、無禪無體ニコイテケレドモクレザリシガ、翌日禮ニユキテ、是非トモト所望セシニヨリテ、クレラレシチ取カヘリ、應山公ノ御前ニ、持出ラルヽト早應山ノ仰ニ、宗和ナラデ此形チ切ルモノアルベカラズ、宗和乎ト仰セラレシニ、シカ〳〵ト答フ、大ニ感セラレシニ、御銘ノコトチ願ハレシカハ、清少納言カ枕草子、ツレ〳〵ニ引タル心ニテ、法師ト名ヅケラレシトナリ、迚ノ義ニ御染筆チト願ハレシニ、書付ハ宗和シカルベシトノ仰ユヘ、宗和ニ申シヽカトモ領承セズ、御前ヨリ御書チ下サレテ、所望スベキヨシチアソバシテ下サル、因テ宗和書付セラル、ウルシトメ也、繩通ノ穴ヨリ、下ノ方ニ法師ト書付アリ、應山公ヨリ無禪ヘ下サレシ、御書付ケアリ、

裏書ニ、宗和ハ金森法印ノ子也、金森法印ハ利休時代ニテ、双ナヤ茶湯ノ上手也、宗和ハ茶ノ器量アルニヨリ、法印ノ茶ノ道、全ク傳ハルト云々トアリ、

御水指、青磁ヌリフタ、

御茶入、藤四郎セトノ子ヌケノ由、袋珠光ドンス、紺地唐草、

御茶杓、宗和、後西院宸翰ニテ、御書アルヨシ也、

御茶碗、新ハギ、

○茶巾ヲ水指ノ上ニモ、小板ノ上ニモヲクコト、イツレモ不レ苦、小板ニヲケバ始終ウコカサス、水指ノ蓋ニヲケバ、アトニテモ釜ノ蓋ノ上ニ直ス、

○四月十六日ヨリ、廿四日迄ハ參宮ス、故ニ不參、

○廿五日、本殿參候、

此度新冠樣御祝儀御能アリ、幸ニ拜見ス、

○廿九日、大町淳庵、御茶獻上、雨儀ニ付書院ニテ、准后樣、入江樣、大門樣、拙、

待合ナシ、

掛物、木庵ノ一クダリ、山鎖一溪雲、

花生、高麗青地、

花、菖蒲、薄板、

風爐、丸形、厚板、

釜、天猫、

菜籠、トクミ、

香合、備前ノカモ、

會席、御上三膳、杉ノ足付、揃膳モミノヒラ折シキ、

汁、スマシ、葉付大根、ツケシメジ、

膳先ニ、大青竹ノ二ツワリ、一方ニ、キノメデンガク、一方ニ、香物、ナラナラ漬瓜、早漬大根、
煮物、シアン鉄酒イリ、ミツバ、
木ノ目、デンガク、カワリ青クシ、
猪口、准后様ニハ、鯛ノイリサケ、二方ハ、ウミソウメン、カンテン、イリサケ、
吸物、ムスビイモ、メウガタケ、
御菓子、黄色ノタンゴ、サトウ入、道明寺ニコカシテ、口取ムキクルミニシメ、
御中立、次ノ間、御案内、自身、
床ノ内、初ノ通リ、
水指、黄瀬戸ノ由、

茶入、ビゼン、丸ツボ、

袋、遠州、キレキンラン、
臺天目、茶碗、朝鮮ノ新渡ノ由、臺、溜ノフクリンアリ、拙ハ平茶碗、ハキ、
○其夜ノ御ハナシニ、臺天目ノトキハ、必ズ茶杓ハアチノケテ臺ニ置也、茶碗ニカクルコトナシ、今日ノハ茶碗ニカル流義ナルベシ、
○湯スヽキノトキ茶碗ヲヲロシ、臺拭ヒ手ニ持テ、茶筌スヽキテスルコトハ、覆輪ノ臺ニカギル也、フクリンナケレバ、上ニテスヽキテモクルシカラズ、
○茶杓ヲ茶碗ノ内ニテウツコトモ、フクリンノアル茶碗ノコトナリ、
○臺ヲフクモフクリンアレバ、ホウツキモ、兩方ヨリチヨトフキテマワサズ、
臺ハ、木地ノ臺、曲輪ノ臺、カゴノ臺、ハナノ臺ナドナリ、コレモ木地、ヌリモノ臺ハ右ノ通リ也、曲輪ノ臺、花ノ臺等ハ、茶碗ヲヲロシテ、湯ヲ入ルコト前カト承ル、
○六月六日、參候、
仰ニ、凡ソカ子ノモノヲ鑄ルハ、熔鍮ノ字也、サ子シニ久シテ、先ノチビタルト云字ハ、何ノ字ナルベキゾ、拙、申サク、大テイアリフレタルナレバ禿ノ字也、ツブチビ通音ニテ、凡ソ岩崎宗助ノ説ニ、ツブト云ハ丸キ名也、頭ヲツブリト云、丸藥ヲコツブト云モ、丸キ稱ナル由、若キトキ承リタルコト也、禿筆ナド云モ、筆ノ古クナリテ、頭ノ毛ノキレタルコトナレバ、左モアルベキヤ、但シカ子ノモノニ遣テモ、クルシカルマジキヤト、ソレハイカヾアルベキヤ、是ハ三器通考ニタシカニアルヨウニ覺ヘタリト申シ上ク、御前ニモ國史ニテ、御覺ヘナサレタリト仰ニテ即考ラル、三器考ノ唐ノ大錢ノ處ニ、爐耗ト出タリ、續日本記ニテ刓ノ字出タリ、刓ノ字正字通ニ、漢ノ高祖ノ傳ヲ

引テ、印刓（サフルレトモ）イテストアルタシカナリ、
○或人ノ申スハ、茶ヲモルニ棗ト中次トハ、チカウ由、兼テ承リ及ビタリ、棗ハ杉ナリニモル、中次ハ平ニモルト云說アリイカヾ、予答テ曰イザシラズ、今日伺フ、仰ニモ、盛ルコトハイザシラズ、クムニハ棗ト中次ノチカヒアリ、棗ハワキカラクム、中次ハ中カラクム、ツイニ棗中次ノ類ニテ、薄茶トモタテラレタルコトナキ故ニ、御氣ツカズクム、カワリメヲミレバ、左モアルベキヤト仰ラル、
○七月八日、參候、右京太夫、掛、
仰ニ、當年ノ七夕ノ御會ノ出題ハ、家々七夕ト申スヨシナリ、ヨミガタカルベシ、イデ詩ニ作ランニモ、成シ難カルベシト、右京申シ上シニモ、逍遙院殿ハ申モ愚ナレドモ、近代ノ御名人也、

たむけにあける星合の空、

トアソバシタリト申サレシカバ、サレバトヨソレホドノ歌アルベキヤ、コヽロモトナシト仰ラル、此序ニ右京イロ〳〵、歌ノ咄アリ追テ可記、
○或人ノ申セシハ、凡ソ今ノ世ニ、茶入ニ唐物々々ト申ス、ミナ藤四郎ナリ、定メテ唐ノ土ニテ、唐物ニウツシテ作リタルナルベシ、唐ヨリ傳來シタルモノニテハナシト承ル、左ニテサムラフニヤト伺フ、サレバトヨ、是古來ノ定說ニテ左申コト也、ソレハナゼ左申スコトゾナレバ、今ノ世所レ存ノ唐物茶入ト云フモノノ、土クスリトモニ、外ノ燒物ニ似タルモノモナシ、凡ソ唐物ノ水指ノ、燒物ノ手ハ如レ此、南蠻ノ手ハ如レ此ト、大カタノキツカケアルモノ也、只唐物ノ茶入ノヤウナルヤキカタモノハ、水指ニモ、外ノ器物ニモ、曾テコレナキモノナリ、夫レ故ニ茶入モ、土ハ唐ニテ、燒方ハ唐物ノヤキモノニ似タルモノモナシ、サルホトニ、藤四郎ニテアルベシトノ推量也、鴻池道億ナドガ說モソレ也、御前ニハ信用シカタク思召テ、何トゾ藥器ノ類ニテ、唐物ニテアルヘキカ、外ニ御覽ナキ上ハ、其說イカヽト思召ナカラ、御不審ニ思召コトモ年久シ、然ルニ去々年細川因幡守（長崎奉行也、兼テ奈良ノ町奉行ニテ、シタシク御出入ヲナスモノナリ、）ガ方へ仰下サルルハ、古昔ノ筆硯ノ具ニ、筆船筆洒トテ、筆スヽキノ唐物ニコレアル筈也、圖繪等ニ見ヘタリ、終ニ御覽アソバサス、唐人ニタノミツカハシ、唐土ニデ此二物ノ、ズンド古キ形ノ器アラハ、指上セト申スヤウニ、仰ツカハサレシニ、唐ニテモ古キ筆船筆洒等ノ形ハ、スキトナシトテ指上セヌ由ヲ、申シ越セシホドニ、イカサマニモ左モアルヘシ、度々ノ亂世沿革ニテ、古物モ紛失シテ、形ヲモ失イタルナルベシト思召セシニ、當年不圖カノ因幡ヨリ、右ノ二物ヲ指上セ、唐人共へ、カネ〳〵タノミヲキシカ、不圖唐土ノ舊物

店ニテ、古キヲ見出シタリトテ差越タリ、取敢ヘズ聞シニ、マカウベクモナキ古物ニテ、圖繪等ノ形ニ毛頭相違ナシ、歡喜スルコト甚シ、儒者共ニミセテ、ヒケラカスベシト思召ナリ、夫ニ付テ、此二物ノヤクシホ、クスリダチ皆今ノ世用ルトコロノ、唐物茶入ト云フ物ニ、少シモチカヒナシ、スレバ古キ燒物ノ、ヤクシホクスリダチ如此ナレバ、今ノ世ノ茶入ノ唐物ト云モ、眞ノ唐物ニシテ、藤四郎カ燒タルモノニテハアルベカラズト、初メテ御不審ハレタルカラ、道億ニミセテ、此器ニテ吟味スベシト仰ラル、（總テ世間ノ物ノ吟味ヲスルコト甚タ淺シコトニ茶湯ニナリテハ、古來ノ謂習シナレハ、ソノ分ニシテ、定說トナリテモ、左云ト云吟味ハナシ、コノ說モソレ也、藤四郎ガ燒タルモノ也、唐ヨリ來ルモノニテハ、ナシト云ヘハ、一人コレヲトナヘテ、千人萬人和同シテ左也ト思フ、唐物ノ外ニ、此ヤケシホナキ故ト、吟味スルモノナシ、）

○十六日夜、　參候、

夜ノ茶湯ニ、石燈籠幾ツアリトモ、皆火ヲ入ル、コトニ候ヤ、月夜ナドニテ、月光ノ明ニ及フトコロニハ火ヲ不レ入、月光ノ及バザル處ニテ、暗キ陰ノ燈籠ニハ火ヲ入ル、トモ申シ、又月夜ノ燈籠ニハ、火ノ入レヤウアリトモ申ス、イカ、ニ候ヤト伺フ、仰ニ大事ノ義也、イツソヤ伺ヒシカドモ其仰ナク、ヤガテ夜會ヲモ仕度ナリト強テ伺フ、仰ニカワリタルコト也、月夜暗夜ニカキラズ、燈籠ニハ皆火ヲ入ル、也、暗夜ハ勿論也、月夜ニモ左ノ如シ、但シ月ノ當ル所ハ、燈心ヲ多ク入ルルカ習也、暗キ方ハ、燈ノカスカナルカ好シト、古人ノ說ナリト仰ラル、

○十八日夜、　參候、

御次ニテ岡本某ニ仰テ、拙ニ御茶ヲ下サル、ニ、棗ニモ餘計ハアルベカラズ、一服ニハ足ルベシ、拂テ飮スベシト仰ラル、岡本茶杓ヲ茶碗ニカケテ、茶ヲ拂ヒサマニ拙ニ問ヤウ、カヤウノ時ハ、茶杓ヲ持ナカラ茶ヲ拂フコトニヤ、又ハ茶杓ヲカケテ置ナガラ其アイタル所ヨリ拂フコトニヤト、予曾テ是ヲ不レ知、サレドモ大棗ノ茶湯ニ、茶ヲ拂フコトハアル由承及ヒタリ、コノ時モイカ、スルコトニヤ伺フベシ、右ノ旨ヲ伺フ、仰ニソノテイハ茶入ト、茶碗トニヨルコト也、口ノチヒサキ茶入ナドハ、茶杓ヲ掛ナガラ拂フモヨシ、口ノ廣キ茶入ハ茶杓ヲ持テ拂フガヨシト仰ナリ茶杓ノカクル處、常ノ如クニテハアルベカラズヤト、仰ニ常ノ處也、左ナケレハ茶ノカ、ルナリ、

○七月廿九日、　參候、

投入ノ花ニ、何某ハ立花ハ好手ノヤウニ承リタレトモ、毎度投入ノ花ハ、不二面白一ヤウニ覺ヘ候ト申上ク、　仰ニカタキヤウニ覺ユルカ、イヤ、カタキノミナラス、詮ナキ大枝ナドヲ仕ヒテ少シカマイタルヤウナリ、先日芳林院殿、御成ノ花モ、下ノ大枝ナカラマシカハト、存スル旨ヲ申上グ、ソレハ花ノロクト、枝ノ無理ナキヤウニトノミ心カ付テ、全體

カ不二面白一モノナラン、然ルニ同シ投入ト云フ中ニ譯アリ、毎度常修院殿ノ御談ニ、花ニハ園居花ト云フコトト、又書院花ト云フコトアルコト也、書院ニ生ルニ、園居ノヤウニショボラニ生テハ、イカニ見事ニテモイナモノ也、又園居ニテ大花モ、同シコト也ト仰ラレシカ、尤ナルコトニアラスヤト仰ラル、

○八月十日、　參候、

世ノ諺ニ、困倦シタルコトヲクタビレタリト云、クタブレタリトモ云ヘリ、コレハクタブレ乎、クタビレ乎、拙敢テ覺悟ナキ由ヲ申シ上ク、誰ソ謠ノ堪能ニテ、古キコトヲ覺ヘタルモノニ問フベシ、今春ナド家ノ者也、古キ書本ナド所持スベシ、安宅ニ、イカニモクタヒレタル體ニテ、御通リ候ハヽト云ヘリ、コレハクタビレト謠フニヤ、クタブレト謠フニヤ、相尋ヌベシト仰也、即チ相尋シニ、今春流ノ文句ニハ、其ヒトクサリナシ、其外ニモ覺エズト申ス、觀世流ノ者藤田某ニ尋シニ、安宅ノ外ニモ谷行ニモ出タリ、マダアルベケレドモ、急ニハ存ヲ出サズ、安宅、谷行トモニ、クタビレト謠フ由ヲ申ス、右ノ旨ヲ申シ上シカバ、先ソレニテヨシ、　勅書ノ御狀ニ、イマニクタヒレヤマストアリ、スレバクタビレニマガイナシ、尤モ俗語ト云ナガラ古キ言ナレバ、何レニ候ヤト人ノ尋シトキ、イカヾ答ヘテ、然ルベカランヤト思ヒテノコト也、拙、申上シハ、勅狀ニ左アル上ハ、何ノ外ニ、證ノ入ベキヤト申シ上シニ、勅書アルユヘニノコト也、外ニ古キモノハ謠也、譯ハイカニモセヨ言ハ古シ、如レ此ノ相ヨミカアレバ、彌勅書ノ通リナリト、タシカナリト仰ナリ、

引證出處ノトラセラレヤウ如レ此アリ、可レ仰可レ貴、

○廿三日、　參候、

或者拙ニ問ヤウ、墨ノ製ニ油煙ヲ遣フコト、古キモノニハナシ、延喜式等ノ製ニモ松烟也、シカレハ弘法ナドノ、唐書ノ筆法ニテカカレシモ松煙也ヤ、但シ唐墨ハ古ヘヨリ油煙ニヤト、拙、曾テ不レ知ト申ス、仰ニ唐土モ全ク古ハミナ松煙也、油煙ニアラス、油煙ニナリタルコトハ近キコト也、說郛ノ墨譜ニ悉ク出タリ、定メテ弘法ト云ヘドモ松煙ナルベシ、

○九月九日夜、　參候、香嚴院公七回忌ニ付、常陸殿御逮夜ニ參ルヘキ由ニテマイル十日ニモ參上、

昔ヨリ正日元旦ニ、屠蘇、白散、度嶂散、膏藥ヲ、典藥頭ヨリ獻上ノコト、定メテ古キコトナルベシ、屠蘇ノ方ハ、本綱ニモ古書ヲ引テノセタリ、白散、度嶂散、膏藥ノ方ハ、漢ノ書ニテ不二見當一、イカヽノコトニヤト申シ上ク、尤近代ノ書ニ、家傳預藥集ト云ヘル俗書アリ、此中ニノコラズノセタレドモ、其出處モナシ、屠蘇カラガ玄朔ヨリ玄治ヘ、御傳授ノ由ヲ載セタリ、タシカナラズ、典藥頭ニタツヌタレドモ、明ニハ云フベカラズ、イカニヤト申上グ、仰ニ此四藥ノコトハ、延喜式、江次第ニノ

セタリ、古法トミヘタリ、シカレドモイツレニモ方ハナシ、藥名ハ屢バノセタリ、但シ一條禪閤ノ江次第ノ抄ニ、醫心方ヲ引テ曰、金谷園記云ト云々、コノ金谷園記ト云モノ、イロ〳〵御僉議アリケレドモ知レズ、イヨ〳〵方ハ不分明也、先ハ和方ト究ムベシ、未ダタシカニハ知レヌコトナリト仰ラル、

○十六日、　參候、

漢土ニテ、批點ヲスルコト、○◎―「」ノ類、一々其名アリテ、要畧論註ノ凡例ニミヘタリ、ソレヲ書テ擧グ、アナタヨリモ、王世貞ノ史記ノ凡例ヲ書テ下サル、（紙一枚ニ入ル）

○廿三日、嵯峨大覺寺樣へ御成、御供拙、

此度新御殿ノ御床ノ釣船ノ、ヒルカギノ釘ヲウタセラレシガ、四方ノ眞中ニウチタルガ、トクト跡ヘヨリテミレバ、トカク前ヘヨリスキタルヤウ也、是非ナク法ヲヤフリテ、少シ奧ノ方ニ打タリ、イカヽノコトゾト思ヒシガ、大事ノコト也、二疊大目ニテモ、三疊大目ニテモセマキ處ユヘニ、床ヲ近クミル、故ニ眞中也、早六疊ノ八疊ノト云座敷ニテ、奧行ノ淺キ床ヲ常ノ如ク釘テ打テハ、淺クミユル也、昔ノ人ノ床ノ折釘ヲ、三尺五寸ヨリ七寸マテ、見合次第ト云タルコト、座敷ノ恰好ニヨルユヘ也、尤ナルコト也ト仰ラル、

○廿四日、　參候、

今日、本多筑後守へ參リシニ、自作ノ筅ヲ一本獻上仕タシ、拙へ渡サレ御機嫌シタイニ、指上ケ申スヤウニトテ渡サレタリ、即チ持參イタシタリトテ指上ク、　御滿足ニ思召也、明日ニモ參ラハ申スベキハ、先ツ志ノホドモ過分也、第一ハ其身達者ニテ、次第ニ繁昌モアリ、眼力ノツヨキ故、手際ノミコトナルコト御感心也、精力ノホド御ウラヤマシク社、思召セトテ、

此さかへ、すこしはそへて、くれ竹の、

行末遠く、成ぬへくらん、（近本べらなりニ作）

ト申也、拙中上シハ何分難レ有存スベシ、シカシ覺エ損ヲテハイカヾ、書付テンナト申セシカハ、何ノ狂歌ノコト書付ヘカラズ、覺エタル通リヲ申スベシトテ書付ササレス、翌日筑後守へ相渡ス、留守ニテ部屋へ渡シ置ク、

○廿八日夜、　參候、（此度治部大輔カ春は花のなみこゝもさや大井川ノ句ヲ出シタルヲ太閤ノ御所の御叱リニテ書サレスト云咄シヲ中上シニ付テ也此事ト前ニシルス）

昔シ法皇ノ御苑ニ、池ヲホラサレシ、落成ノ後御當座アリケルカ、風早ノ故中納言實種ノ歌ニ、

百舟も、千ふねも、

ト讀レタリシヲ、歌ハ出來タルヨウ也、此御池ニ百千ノ舟トハ、アマリ多スギタリ、チトヘシタラハ然ルヘカラント、詔アリシカハ、例ノセキ手ノ聲ニ、十ニシテハイカヽ、二十ニシテハイカ

ゾト思惟ノアマリニ、太閤ノ御所ヘヒソカニ、イカバカリヘシタランニヤト、私語レシカハ、太閤ノ仰ニ、グツトヘシテ、三ツノ舟ハイカニヤトアリシカハ、詔ニ斯コソトノ御コト也、イカニトテ所不相應ノコトハ、然ルベカラスト仰ナリ、

○昔シ後西院ノ御時、漢和ノアリシニ誰ヤランノ句ニ、

老タリレ詩ニ　杜カ白頭、

トシタリシヲ、御前御句ニ、

あかなくの、雪の上なる月の色、

トアソハシクルヲ、後西院ノ御褒美アリシト也、此ハ

老となるとも、いかてかは、月の上なる、雪をみさらむ、

トアル古歌ニテ仕タテラレシ御句也、此歌モト古今ノ小町カ歌ニ、つもれば人の、老となる物ヨリ、出タル歌ナリト仰ラル、

漢和ノ和ハ、漢ヲ好スル人ニテアラサレハ宜シカラズ、漢ヲスル人ハ、和ヲ好スル人ニアラサレハ不宜ト此也、

○十月四日、右京大夫ヘ御成、拙

掛物、行成古今ノ切、春ノ部、

御會席、

汁、スマジ、鱈、青コンブ、

鱠、イリス、キスコ、細切、ウトメ二切、

平、ミソカケ、タヽキ貝、大コン、

鉢引、シメジ鹽ヤキ、樂ノウスキ鉢ニ青松葉ヲシキ、杉ノフタニ青竹ノ取手、

御吸物、ウスフクサ、ミジンサキエビ、セリ、

御菓子、大徳寺キントン、クリノコチツツミ、

夕飯後、黒谷ヨリ眞如堂ヘ御成、右京ヘ還御、

鉢菓子、アマボシ、青磁ノ鉢ニ入、

暮前還御、

○同六日ヨリ七日マテ、大覺寺ノ御門跡御成、遠堂ヘ、七日朝、嵯峨ヘ參候、九日ニ歸ル、

○十日夜、參候、

嵯峨ノコトヽモ委細ニ申シ上ク、

○昔ヨリ名にしおふ、なにしおはヽナトツカフ文字モ、負ノ字ナルベシ、是ハ名ニカナイタルコト也、唐詩ニテ空負ノ、不レ負ノ、辜負スノトツカフトキハ、全クソムキタルコト也、アチラコチラノヤウ也、イカガト申シ上ク、尤モナリト仰ニテ、トクト御思惟アルベシト仰也、途中ノ口號書付テ御覽ニ入ル、道スガラ逗留ノ中ノ記アリ、是ハ御覽ニハ入レス別ニ一巻トス、

嵯峨早行、

夙ニ遠ル市朝一ニ數十程、水村山廓未ニ全明一、城西周道平ニシテ如レ砥、

空負嵯峨三里名、

此負ノ字ハ尤ナリト仰ラル、

○同廿四日、滋野井殿ヘ御成、拙、見樂、正藏、

此日、謠ノ御催ナトアリシカト、御隣家中山大納言殿大病ノ故ニ止メ、先日ノ負ノ字ノコト仰出サレテ、入道殿ヘモ考サセラレシニ、萬葉ノカナツカヒ、並ニ眞名伊勢物語等ニ至テモ、皆名負（ナニシオフ）トカケリトテ取出サレシ也、然レバイヨ〳〵オフト讀ムハ、名ヲ負戴シタルノ意ニテ、名ニカナイタルコト也、辜負、空負、不レ負等ト詩ニ作クレルハ、ソムクノ意ニテ、名ニカナワサルノ義也、某カ友ノ中スハ、ヨミガ、チカイタルニ非スヤト申セシト中上ク尤也ト仰ラル、シカレハ詩ニテ、オフトハヨムマシキコト也、ソムクトヨムベシ、一字兩義也、

○霜月三日夜、　參候、

大覺寺君岡屋、右近拙ヘ茶入ノアシライヲ敎ラル、凡ソ茶入並ニ袋ノアシライハ、手ヲハナサヾルヤウニスルコト肝要也、先ツ本座ノ茶入ヲ左ノ手ニテ、前ヘ引寄セ結ヒ目ヲトキテ、右ノ手ヲカケ前ヘ紐ヲ引サマニ、ヒト引ニ引ケハ、紐ノビスキテ見グルシ、半ハ引テ、又紐ノモトヘ指ヲカケテ、フタ引キニ引テ、中ニテ指ヲ反ヘシ、大指ヲ上ニナルヤウニ引キ、直ニ右ノ手ニテ、ヒボノツカリノモトヲ、指ニテシメヨセテ、ウチヲサメノ紐ヲ、左ノ手ニテ引サクレハ、ツカリノ所紛亂シテ見クルシ、コノウチヲサメト、ワナト正直ニ兩方エ引テヨシ、下ヘタルルハミクルシ、今世上ノハ、ワサト下ヘ引ナリ、ソノ左右ノ手ニテ、スクニ先ノ方ノツカリヒダヲヒロゲ、次ニ前ノ方ノツカリヒダヲヒロケ、又兩タヒ先ノ方ノツカリヒダヲヒロゲテ、ソノ手ヲスグニ袋ニツケテ、右手ニ袋ナカラモチテ、左ノ手ノ上ニノセ、右ノ手ニテ先ノ方ヲヒロゲテ、茶入ヲ出ス、左ノ手ハ、袋ノ口ノヒラカヌヤウニウツムキメニ左右ノ方エ引ケバ、始終茶入ニ手ハナレザル也、兩タビ先ノ方ノツカリヒタヲノフルコト、宗和流ニカキリタルタトコト也、遠州流ニハ、コノ時袋ヲタテニスル也、ソレハスグニ袋ニ手ヲ、ハナスマジト云心也ト仰セラル、總シテ今ノ人茶湯ヲ稽古スルハ、アアタマカラ、茶湯ノ式ヲケイコシテ、早自分ニ茶湯スル也、古ヘノ人ハ、アシライハアシライ、道具ノサバキハサバキト、一色〳〵ニテケイコシタル事ナリト仰ラル、

○霜月七日、　吉田殿ヘ御成、八條殿、拙、

御饗應ノコトハ、善盡シ美盡セリ、

書院ノ掛物ハ御筆ノ物、コレハ先年拜領、此度表具新ニ出來ス、畫ノ內、神應院ヘ御成、床ノ掛物ハ陳南蘋也、ヒガキノ硯箱、雪舟ノ虎ノ屛風、古法眼ガ鳴戶ノ屛風等、家ノ重寶共皆出サル、夕飯後ニハ西郡殿川木錦織ニ作ル萩原殿父子參ラル、能アリ榣之進、同弟子、狂言アリ、勘五郎、同弟子、朝四ツ時ヨリ御成、暮六ツ過還御、

○霜月十五日、　入江樣私宅ヘ御成、常陸殿、兵部卿、大膳、

待合、八疊敷　東北ノ隅、四枚折ノ小屛風、西南ノ隅、八景ノ小屛風、前ニ春日盆、コレハ御衣チノセンガ爲也、

上烟草盆、桐ノ木地ニテ青竹ノ手、奉書ノタハコイレ、火入栗田口、青竹灰吹、
次烟草盆、クリイロ、アンコウノ火入、コレハ拜領、燒モノノ灰吹、
掛物、常修院樣御文、四角ノ茶入ノ事、コレハ常陸殿ヨリ到來故、今日コレヲ掛ル、
釜、車輪、
棚、香合、鏡ノス垣ニ瓢簞ノ繪、羽箒、
御會席、
汁、子イモ、ヤキトヲフノサイ、
杉足付、ヒラタケ、アンカケ、初ハ湯櫃、次ハ盞茶碗　同、御カハリ、ナメ、アンカケ、次ハヒシ、
香物、新キク、　鉢、イマリ、コレハ、兵部卿ヨリ到來、
羹物、セリ、キクラケ、ニシキ麩、ツマミ、クルミ、
猪口、ウドノ、クロアヘ、ハリグリ、
吸物、タマゴユバノワギリ、フキノトウ、
肴、シソ千枚ツケ、生ユビシ、
菓子、ツマミヨウカン、　口取、青竹ノ二ツ割、ギンナントカヤトノニシメ、水物リウキウ芋、
御中立、三疊敷、
花生、宗和ノ二重、　花、ニワトコ、白ノ山茶花、千葉、
水指、仁清ノ平、
茶入、サツマ、　袋、カントウ、
茶杓、御作、
茶碗、上ハ、島本權兵衛ガ手燒、下ハ朝鮮、

茶後、七疊半ヘ御成、
床、掛物金雞、二幅對、光悦硯箱、奉書、
御菓子、小四方ニ紙敷、先ノ方ニ水ヤマブキ、備中柿、沈金ノ食籠ニ、オグラマンヂウムシテ、唐物ノ盆ニノセ出ス、
次ニ吸物御酒等アリ、薄暮燈籠ニ火ヲ入ル、酉ノ下刻還御、スグニ川原ヘ御出、追付參上御禮申上グ、
翌日上ノ御殿ヘ參上御禮申上グ、又翌日御使者、昆布五十本一折、宗和形菓子盆一箱拜領ス、
○同十六日、　御茶、御客、大覺寺樣、入江樣、右京、拙、
右京ハヲリフシ參タルヲ、推シテ御ツメニ入ラル、
御待合、コシカケニ圓座二ツ、
御掛物、石室ノ自畵自讃、枯木ニカラス、
御釜、アシヤ、大釜、獅子ニ牡丹、名物ノ由也、
御棚、香合、羽箒、

香合ハ南京ノクワラノ形ニテ、ウラヲモテトモニ竹ノモヤウアリ、メツラシキ書ヤウナリ、
御會席、
御汁、ウスフクサ、モヅク、ハリ生ガ、
御平皿、ゴマドウフ、アブラアゲ、
香物、ナラヅケ、ナスビ、
御壺皿、大コン、ブツキリ、
御重引、ヒキサキ牛旁、シラガ、

御吸物、南京ノアサガホノ大猪口ニ、柚ノ釜ニ盞ヲシテ出ル、内ハ醤油ニテセリニ栗也、
御菓子、サガノ小饅頭、内ニアント味噌トヲスリマセテ、一分ホトヅツニシテ、ムシヌキタルモノナリ、
口取、ニンジンノニシメ、
御中立、
待合、
烟草盆、請次二ツ、手爐、一ツ、
鉦ニテ御案内、數四ツ、大中小大、
花生、唐物、藤籠、

花、紅梅、一種、
御水指、南蠻ノカ子モノ、

御茶入、小川手、　袋、遠州純子、
御茶杓、セタ、カモン、
御茶碗、赤ノ樂、
○廿四日夜、　參候、
先日ノ御會ニ、右京ハ推カケ也、下座ヲツトメタラバ、何トゾ又アソバスヤウモアルベキニ、念ナフ中座ニ居タレバ、何トモタトヘ思召アリトモ、遊バサルベキヤウアルマシト申上シニ、イザトヨ、中座ナリトモ、推掛ハ推シカケノ仕様アルベシ、ヤウ／＼豆腐ヲ細々ニキリテ、食餘リノヤウニシタリ、是マデニテ止タリト仰ラル、
ヒソカニ承レハ、末座ナレハコフト、御心コシラヘアリシトナリ、
○同廿七日夜、　參候、
先日入江樣御成リニ、カヲテハ大膳一人御相伴トアリシ故、一服ニテ御飲ナガシノ合點也、俄ニ四人ニナリシ故ニ、二服建ニ仕リタリ、席ニテ二服タテト云コト、古來其法ナカルベシ、是ニハ何樣ニモ式ヲ立ラレハ、後來ノ法トナルベシ、御考アソハサレヨカシト申シ上グ、尤也、古ヘ常修院殿、三菩提院殿ニ、カヤウノコト申シナバ、一センサクアルベシ、殘リ多キコト也ト仰セラレシガ、此程御工夫アソハシテ御覽アリケルガ、大方ニ形付タリ、一通リ仰聞ラルベシ、倘此上ハ席ニテアソハシテ、御覽アルベシト仰ラル、
○先一通リニテ上下トモニ、淸キ茶碗ナラバ古法ノ重子茶碗ナルベシ、又上ハ淸ク下ハ古キ茶碗ナラバ、先淸キハ茶筌、茶巾茶杓トモニカサリツケテ、棚ニ茶碗カサリニシテ、次ノ茶碗ヲコボシノ中ニ入テ出ス、（近本井ニ川水ニ酒ニ物ヲ入ルコトモ壺子ノ法也トアリ）コボシニ物ヲ入ルコトモ壺子ノ法ナリ、一通リ淸キ茶碗ヲ下ニシテ、常ノ如クタテテ出シ、又次ノ茶碗ヲ出シテ、初メニ水ニテ茶筌スヽキシテステ、後ニ湯ニテアタヽメ

テ、常ノゴトクニタテテ出シ、上ノ清キ茶碗ノ返ルトキ、湯ニテスヽキ、茶筌スヽギヲセズ、又水ニテスヽギテ茶筌スヽギセズニ、スグニ棚ノ上ニ上ゲテ、ソノ中ニ次ノ茶碗ノカヘルトキ、茶筌、茶巾トモニ次ニシテ、次ノ茶碗ニテ仕廻ベシ、如レ此スレバ茶筌茶巾ノ次ニナルノミニシテ、茶碗ハ清クナリテ、ソノ席紛雜セスト思召也、サレドモコレハ、一通リアソハシテ御覽アラズバ、何ゾサシツカヘルコトナクテハカナウベカラズ、ソノ中ニ入江樣ニテモ御成ノ時、アソハスヘキ由ヲ仰セラル、

先日嵯峨ノ口號ノ詩ヲ、野路井駿河守ヘ遣ハセシニ、返翰アリテ、仙臺ノ大年寺ノ隱居、覺天禪師ニミセケルニ、唱歎アリテ即席ノ和韻アリ、主モ亦和アル由ニテ、送リケルト申シ上ク、御覽アルヘキ由ニテ上ク、

覺天和尙ノ和、

野路井正誼英士來訪、語次論下告明歲登中古稀齡上且和ニ所レ示道安醫師芳韻一、志レ喜以贈、

咫尺恰如ニ千里程一、半年重得レ對ニ高明一、蒼顏喜見老僧健、幸負春來稀哀名、

正誼ノ和唱、

汚ニ大醫道安師早行玉韻一、伏乞ニ慈斧一、

物外逍遙是幾程、處經道眼自分明、侍醫辭去市中隱、赫々衆人稱ニ令名一、

御覽ノ由、奇特ノヨシ仰ラル、

○昔ヨリ木具ハ、淸キトノミ心得テ、處ヲ辨ヘサレハ却テ疑僞出來ルモノ也、先年御前ニ西山ヘ御成ノ序ニ、或寺ヲ御覽アルベシトテ、先ヘ御案內アリシカハ、門內ヨリ路次ヘ水打テ迚ノ義ニ圍居ヘ入御アルヘシト申ス、圍居ヘ入御アリシニ、キツト木具ニ御菓子ヲ上ケ、御茶ヲ獻シタリ、時ニトリテ用意アリトミエ、無禪カ供シタリシカ、後日ニ申シ上シハ、先日ノ木具ハ何トヤラン、却テ汚ハシキニ似タリト申ス、イカサマニモアマリ早速過タリト思召ス、

○大木ナトノ前ニ圍居等ヲタツルニ、屋根ヲ貫クコト得テ人ノスルコト也、處ニヨリテスマシキモノニアラス、昔何某カ家ニ御成ノアリシニ、柿ノ木ノ大ナルヲ、椽ノヒサシヲ貫キテ立タリ、無禪云ヤウ、コノ大木松カ櫻ナラハ尤ナルヘシ、柿ノ大木ニテハイカヽナリ、ヒサシヲキリヌカンヨリ、柿木ヲキランニハシカズ、角テハ何トソ故アリケニテヲカシト申タリ、カヤウノコトモ用捨アルヘキコトナリト仰ラル、

○廿七日、御會ニテ晝ヨリ參候、暮合皆々退出、拙一人夜マテ罷在、

博學多才ノ人ホト羨敷コトハナシ、人ニ物ヲ問ハレテ、タマサカニモ覺ヘタルコトノアルハ、世ニモウレシキモノ也、シカレ

トモ我人トモニ、人ノ知ラヌコトヲ知タシト思フコトハ、僻カコトナリ、知ラレタルコトヲ知ラヌハ無念ナリ、其中ニ儒書ノコトハ知ラスト答テ、忽チ他ヨリ考出サレテモ、更ニ口惜トハ存セス、醫書ノ中ノコトヲトハレテ、覺ヘスト答テ鼻ノサキナルコトヲ、他ヨリ考ヘ出サレタルハ、世ニモ無念ニ思フナリト申シ上シカハ、ソレホトニモ思フハセメテ奇特也、凡テ何コトニヨラス、皆事々物々明ナルハナキ筈ノコト、却テ精シカラヌ筈ノコト、覺ヘテ害ニナラヌト思フハ僻カコト也、昔シノ□□御宇ニ、御家ノ御先祖□□□□ト申セシガ、一通ノ御諫書ノ御自筆ニテアリ、昔シハ護持ノ僧ト云モノ宮中ニアリテ、日々ノ御祈禱ヲ申セシコト也、是ニ付テ護持ノ僧ニ、害アルコトノアリケルコトアリ、此時ノ奏狀也、尤假名書キニテ何ノ仔細ナキコト也、其文ニ凡ソ下ニ立モノハ、己ノ職分ヲ守リ職ヲヨク覺ヘテ、上ヨリノ御尋アラントキモ、己職キリノコトヲ申シ上ルカヨシ、上ヨリモ職分キリノコトヲ御尋アルカヨシ、上ヨリモ才アルモノ也ト思召テ、序ナカラニ、職分ヨリ外ノコトヲ御尋アリ、下ヨリモ、御尋ナクトモ申シ上ソニテ、職分ノ外ノコトヲ申シ上クルカラシテ、害アルコトヲ書レタリ、天晴キ、コト也、御爲ニモナルコトト思ヒテ、此度寫サレテ東宮ヘ上ラレタルト也、爾カ申ス處尤ナリト仰ラル、

○晦日、　參候、

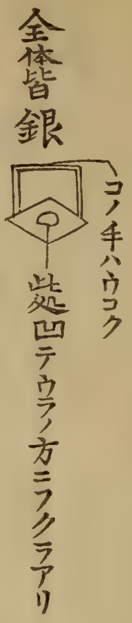
棚ハ大方二重ノモノ也、一重モアリ、上ノ棚ニカサルモノハ、稀ナルモノ也、大方下ノ棚也、上ノ棚ニカサルモノハ、跡マテモヲロサヌモノ也、タトヘハ茶入カサリ、茶碗カサリ、フクヘカサリ等也、中ニテトリテ入ラヌモノヲ、上ノ棚ニカザルナリ、

○茶入カザリヲ初メトシテ、羽箒ヲソヘテカザルモノナリ、左ナクレハ、一ツカザリニナリテ端ニナラヌ也、ソレ故羽箒モ席ヲハキテ後ニ、復棚ニアケテヲクモノ也、左ナケレバ一ツカサリニナル故也、

○此コロ茶入カザリヲ遊ハシタレバ、正客ノ入メヅラシキ御カザリ也、定メテ結構ナルモノナラン、後ホトユル〳〵拜見イタシタシト申ス、御前ニハ柿ノ茶入ヲカザラレタリ、客ハ定メテ唐物トカナ思フラメ、右ノアイサツ也、唐物ニアラザレドモ、茶入カザリニスルコト也ト仰ラル、サレハトヨ何トモ氣ノツカヌヨリハ、益ナルヘシ、唐物ニアラストモ、何トソ分アル御茶入ナルベシトノ、意ナルベシト申シ上ク、ソレモ左アルヘシト仰ラル、

○燒物ハ香爐ニ燒テモ、下ロシテ嗅コトハセヌモノ也、（イカサマ處ニヨリテ勅方トカ何トカ云コトナレハ辻ノ義ニチロシテト云マシキ者ニモアラズ先通例ニテハチロシテカクコトアルヘカラズ、）空燒ノモノナレハ也、銀ヲシキテ燒コトモアリ、カキアクニシテ直ニ燒コトモア

リ、先日モ仰ラルルヤウニ、銀ト云フモノハ、燒モノノ爲ニコシラヘタルモノ也、火敷ハ伽羅ノ爲ナリ、燒物ハ銀也、ソレニ付燒物ノ銀ト云モノハ、一通リ別ニアリ大秘藏ノモノ也、ミスヘシトテ見セラル、終ニ見ザルモノナリ、



此圖ヲ知リタルモノ少シ、タマ〳〵知リタルモノヲ、名ヲ□□□□ト云、伽羅ヲ野邊ニテ燒ナトスルトキニ火加減ノシレヌ故ニ、用ユトイヘリイカヽ、クボミタル處ハ、燒物ノ爲ナルヘシト仰ラル、

○ロヨセノ香爐ノ灰ハ、口ヨリ少シ高メニスル也、スペリクチハ、灰ヲ口ヨリ少シヒキクスル也、ソレカ聞香爐ト、ソラタキ香爐トノ差別ナリト仰ラル、

○盆ニノセテカザルコトモアリ、盆ニノセズカキアゲニシテ、直ニタクコトモアリ、

○伽羅ヲ香爐ニ燒キテアルトキニ、盆ナケレバ、香爐ヲ請ハス、空燒ノカケンナレバ也、盆アレバ必請コトナリ、コレモ亭主モカヽスガテンニナル故也、此トキ香爐並ニ灰ノ仕樣トモニ、上ニ書タル通リナリト仰セラル、

○燒物モ、銀シクホトナラバ灰モチスペシ、銀ヲシカズハカキアケ也、

○棚ニカザルハ、ホヤニテナクバイカヾト申上グ、ホヤ香爐ニテナケレトモ、クルシカラスト仰セナリ、

○十二月四日、　芳林院樣私宅へ御出、玉ノ井、於連、於千代、

床、　花、柳ニ赤椿、　花生、籠

次ノ床、院號東山、　時代硯箱、奉書、

夕御膳、三寶、

汁、フクサ、ケシ、ナメ、ウドメ、

鱠、鯛イリ酢生ケモリ、ケン、赤茱、キンカン、

香物、ナラツケ、ナスビ、ウリ、

煮物、水菜、ハンペ、

二ノ汁、スマシ、鯛、青コンブ、

燒物、小鯛鹽ムシ、アンカケ、生姜、

猪口、引落小皿ニテ、大根黑アヘ、

皿、鮭キリカサ子、白酒、

吸物、カキ、フキノトウ、

重引、卷スルメ、タコ、ミツハ、

茶菓子、羊カン、

後菓子、小倉マンヂウ、
後段、
温飩、
吸物、トウフ、イワタケ、
御膳、
煮物、ノツペイ、鴨、山ノイモ、キクラケ、クワイ、キンカン、
焼物、ヒダラ、酒シホ、
重引、生ガイ、フクラニ、ホシエビ、
硯蓋、カマホコ、此ハ前ニ出ス、
　小間六、　峯都、

種々御ハナシドモアリテ、昨日河原ノ御殿ニテ御雪見アリシヨシ仰セラレ、即チ御詠拜見、
　うち見ゆる東の山の、志ら雪は、只咲花の、色にそ有ける、
面白キ御コト、感シ奉、暮スギ御カヘリナサル、翌日芳林院樣ヘ參リ御禮申上ク、

○大晦日夜、　參候、
例ノ如ク御香一座アリ、
　一朝霜、二山路菊、三玉章、ウ眞砂子
御前、房君御方、常陸局、於綠、川本於線トアリ、拙、
　香本、於阿屋、

香ニ遍目ノトキ、最前ノ何番目ノ香ヲ、今一度聞タキト云人アリテ、香本ヨリ銀ヲヽロシテ出サル、其トキ　御前ノ仰ニ、銀臺ニ銀ヲナヲスニ、未ダ焼サル銀ハロクニナヲシ、已ニ焼タル銀ハ菱ニナヲスコトハ、是カ爲也、皆同シヤウニナヲセハ、カヤウノトキマギラハシト也、

享保二十年、乙卯元日、　參候

此度ノ新御座敷ニテ、御口祝ヲ拜戴ス、

御床ノ掛物、俊賴ノ筆ニテ歌書ノ切レナリ、是ハ法住寺殿ノ御家ノ集也、ソレヲ俊賴ノカヽレシ故ニ、今日カケラレタリト也、俊賴ハ俊成ノ親也、　ソレヨリ吉田眞如堂ヘ參リ、例年上岡崎、錦小路ヘ參ル、今年ハ殊更クラハヤミニテトヒヨル、舊冬モ例年ノ如ク　御筆ヲ賜リテ、書初セヨトノ仰ノアリカタサニ、今朝コソ試筆ヲ仕リタルニ、ヨキニ中テ御覽ニ入レヨトテミセラル、

賜りし筆をとりて、

けふといへは、さすが心も、さわやかに、
病の床に、春をむかへて、

歸リタルト直ニ封シテ、要人マテ差上ク、其序ニ私ノ歳旦ヲモ奉ル、

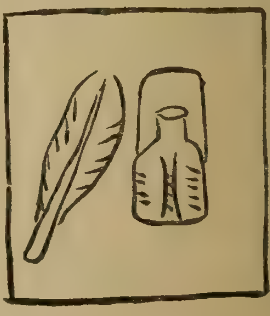
蚊行息喙蠢然動、隨レ例迎他世上春、潤屋邪幾千里雨、聖朝我亦一鄙民、

○七日、御茶湯始、拙、淳庵、

御案内ニ不レ及、直ニ通ルヘキノ由、

御掛物、夢想國師、　山呼萬歲聲、一文字紫地印金、中茶地金紗、上下茶地紋紗、

御棚、ハシカホリノ香合、白鶴ノ羽箒、



此御カサリ甚タメヅラシ、大方ニ二ツカザリノ時ハ、羽箒ハヒダリニ直スガ習常ナリ、香合ノ長カサ(川本作、タケカ長サ)ニ並ヘテハ、イナモノト思召ノ由ナリ、

御釜、天猫ノ由也、蓋ハ常修院樣ノ御モノズキノ由ナリ、ツマミガフルキモノ也、仕立シテ仰付ラレシトナリ、

御會席、

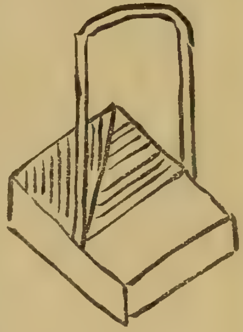
御汁、眞鶴、大コン、牛蒡、

御平、フク煮、前ニ出、

御引物、鯛ノ杉板燒一切、柚キリカサ子、香物カリ、ナスビ、

入物、糸目ノワリブタ、内黑外クリイロ、

御猪口、コノワタ、
御吸物、モヅク、川エビ、
御菓子、モロコシ、シヤキンプクロ、
口取、マメ、クワヘノニシメ、
中立、
待合、鑄物手爐、（川本鑄物作唐物、）タバコ盆、床机二、圓座二ツ、
錠ニテ御案內、



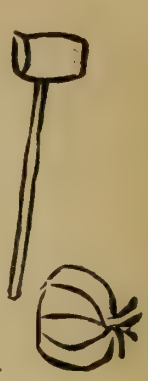
御床ノ竹窓ノ釘ニ、
御花、臘梅、白玉椿、臘梅ノ枝ノナガサニ、ココニカケラレタリ、今少ナガキカ、柳ナドナラハ、一向ニ角釘タルヘシ、コノ御花ハイカイ御自慢ニテキラレタリ、丁ドカヤウノトキ、用ユベキモノナリト仰セラル、

立春モ今少近シ、冬ノ名殘ニテ、臘梅ヲ生ラレタルナルベシト申シ上シニ、サレバトヨ此頃御庭ノ臘梅ノ、今ヲ盛ニ咲タレハコソ、生ラレタリト仰ナリ、
○茶後ニ、ツタイ臘梅ト云ハ、臘月ノ心ニハアラス、眞臘國ヨリ出ル梅ナレハトテ、臘梅トハ申也、アナカチニ、冬ニモカキルヘカラズト仰ナリ、
御水指、信樂、
此水指モ古物也、近年世上ニ、アマリ信樂ノハヤルト聞召テ、久シク御出シナサレズ、冬御取出シアリシニ、アマリニフルヒテ、ムサク思召ノマヽ、アクニテ煑サセラレシカ、斯アタラシクミユルソトヨ、形ト云色ト云見事ナリ、

少シハカリノヤハズ口ニテ、ヌリブタナリ、

御茶入、大海、袋、ドンス、カントウ、
御柄杓、カサリ、
柄杓ノクギニ柄杓ヲカケラレテ、其下ニ大海ヲ袋ニ入テカサラル、
茶後ニ此カサリノコトヲ伺フニ、大海ハントハ本座ニ、カザラ

ヌモノト承ル、拙モ一度、入ノ所望ニヨリテ大海ヲ出ス、カサリヤウ下ノ如シ、



横ニカザラレシハ、イカヽヤト申シ上ク、

仰ニ柄杓カケ、柄杓ノ下ニカザルトキハ、如レ此也、柄杓カ客ノ方ヲ向テヲル故ナリ、若シ風爐先ノ窓ナドアリテ、窓ノシキイナドニ柄杓ヲカケタランニハ、竪ニカザルベシ、柄杓モ竪ナル故、柄杓ニソヘテカサルカラハ、柄杓カ主ニナルナリ、

御茶碗、高麗ノ新渡、

御茶杓、百庵作、メツラシキ形也、先ハヾ大テイノ茶杓ヨリ分半モヒロシ、末マテ同シクライノフトミニテ、トマリノ前二分ホド前ニ、イカニモタカフシニシテ節アリ、ゴマサビノカレタケナリ、

此百庵ト云ハ、細川三斎ノ茶湯堪能ノモノナリシガ、ワカキトキハ一齊ト號ス、茶湯ニ於テハ三齊公ノ、三分ノ一ナラデハ得セヌトテ、一齋トハツキクルトナン、長生シテ　公御十六歳ノトキノ元日ハ、百歳ニナリケルトテ、此茶杓ヲケツリテ奉リシト也、夫ヨリ名ヲモ、百庵ト改メタル由ナリト仰セラル、

御立前ハ、盆ナシノ唐物ダテナリ、

○御茶道口ヲ開カレテ、御挨拶ノ後茶碗ヲ持テ御出、柄杓ノ下ナル茶入ヲ本座ヘ直サレ、茶碗ハコボシノワキニ、カリニ置カレテ、サテ杉ノメンツウニ、青竹ノ引切ヲ入テ持出ラレテ、柄杓ヲトラレ引切ヲ上ラレテ、大目ノ本座ニ直サレテ、柄杓ヲカケラレ、サテ茶入ヲ前ニヨセラレテ、袋サバキアリテ、袋カケノ釘ニカケラレ、茶入ヲ袱紗ニテヌクハレテ、又本座ニナヲサレ、此トキ右ノ手ノアシライニテ、左ノ手ヲソヘラル、サテ茶碗ヲ引寄セテ前ニナヲサレテ、茶杓ヲ御取ナサレテヌクハレ、茶入ノ蓋ニヲカレ此ニテ水指ノフタノ上ヲチヨト拭テ、御腰ニハサマレ、茶筌ヲ取ラレテ、柄杓ノ柄ノ本四目計ニヲカレ、茶巾ヲ水指ノ蓋ノ上ニヲカレテ後、茶碗ヲトクト本座ニ直サレ、フクサニテ釜ノ蓋ヲ取引切ニ掛湯ヲ汲、又フタヲシテ引切ニ柄杓ヲアケテ茶筌ヲ取湯ス、キシテ、此茶筌ヲコホシ先ノ方四目ホトニ置レ、右ノ手ニテ茶杓ヲ持ナガラ、左手右手共ニ茶入ニソヘテ、左ノ手ニ渡シ、左ノ手ヲトクト茶入ニシカセテ、右ノ手ニテ茶入ノ中ノ茶ヲ、下ノフクラノ方ヘ、カキヨセテハスクイ〳〵シテ、茶杓ヲ茶碗ニカリニカケラレ、右ノ手ニテ茶入ヲモチ、左ノ手ヲソヘテ茶入ノ本座ニナヲシ、茶杓ヲトリテ茶ヲカキナラシ、茶入ニカケ湯ヲクミテ、建テラルルヤウ如レ常、サテ水指ノ蓋ノ上ナル茶巾ヲ、

釜ノ蓋ノ上ニノセ、水指ノ蓋ヲトリテ常座ニ直シ、茶碗ノカヘルヲ待ツ、

茶碗カヘリ（川本一禮トアリ）御禮スミテ、湯スヽキ水スヽキ如レ常、コヽニテ、コボシノ先ナル茶筌ト、釜ノ蓋ノ上ナル茶巾トヲ、一所ニ右ノ手ニモチソヘテ茶碗ニ入ラレ、茶入ヲ本座ニ直サレ、茶碗ヲコボシノ先ノ方ニ直サル、

茶巾茶杓ヲモチソヘテ、茶碗ニ入ラルヽコトヲ伺フ、仰ニ唐物建ニ、タマ〱ハスルコトナリ、右ノ手ノタヒ〱ニ、左ニ再三スルヲキラヒテ、毎度ノ儀ニアラズト、

○凡ソ唐物ト云ヘドモ盆ニノラヌホトノ人體ナレバ本座ニハカザラヌモノナリト仰ラル、

○大海ハ茶湯ニハミタリニ出サヌコトノ由兼テ承ル、今日出サレシコトハイカナル故ニヤト伺フ、仰ニサル故ニ今日ノ御挨拶ニ、此茶ハ元日ノ大福ニ上シ祝ノ白ナリ、試ミラレテ宜シク思召ノマヽ、其御下ヲクダサルヽナリト云ハ元日ヨリノ引ダメノ心ニテ大海ニスト仰セナリ

槐記續編卷第四終

明治十五年四月廿五日
華族蜂須賀茂韶藏書ヲ寫ス
明治十五年七月七日、五等掌記樹下茂國校
明治三十三年七月
依近衛公爵家藏本並川崎千虎氏藏本校正之

小杉榲邨校閲
西脇玉峯校正

跋

京師醫山科道安者輯錄近衞家凞公之言行爲一部書號曰槐記公學問該博旁通諸技最善茶事立花窮理覈實非徵之于古不敢語人是故雖燕間之片言隻辭必作後進之模範可謂公能傳之道安能筆之也豈非一大奇書哉然鮮有世傳其書者矣余友夏目士庸家藏其書殘欽不尠每以不得全本爲嘆多年購求之漸借一善本而讀之有前後集八卷因校正其家書不過前集四卷新騰寫後集四卷其始爲完璧好事者之清福可歆羨也夫昇平日久文運盛開雖僻壤遐陬有書坊印本而天下不知復有難得之書也士庸於此書多年購求之勞如此則奇書豈容易可得乎陸務觀云奇書不異借荊州以奇書比一國之可寶惜愛重務觀此句足證奇書之難得也士庸使余記之卷尾冀欲使後世子孫知奇書之難得而可寶惜愛重如此云爾嘉永二年己酉十月廿六日醒癡道人赤堀凞錄於桂影書窓

明治三十三年九月三十日印刷
明治三十三年十月五日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區本郷六丁目五番地　高頭忠造

印刷者　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　島保藏

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　秀英舍工場

發行所　東京市本郷區本郷六丁目五番地　哲學書院

東京日本橋區	嵩山房
同	大塚書店
同	丸善書店
同	鶴喜
同	林平次郎
同	大倉書店
同京橋區	北隆館
同	東海 信文合資會社
同	眞明堂
同	文林堂
同本郷區	盛春堂
同	岡崎屋
同	田中書店
同神田區	岡崎屋
同	有斐閣
同	東京堂
同	敬文堂
同	中西屋
同	明法堂
同	光融館
同	松江堂
同	松新堂
同	清水書店
同	吉田書店
東京麻布區	森江書店
同芝區	鴻盟社
同麹町區	森田書店
同四ッ谷區	櫻井書店
同牛込區	京屋
同小石川區	雁金屋
同下谷區	土井書店
同淺草區	淺倉屋
同	珠水屋
大阪	松村書店
同	吉岡書店
同	前川書店
同	梅原書店
京都	貝葉書院
同	東枝律書房
同	若林書店
名古屋	川瀬代助
同	三輪書店
同	其中堂
駿河靜岡	廣瀬市藏
信州長野	西澤書店
同松本	高美書店
下總千葉	多田屋
陸前仙臺	木文書店
羽後秋田	成見書店
加賀金澤	近田書店
越中富山	中田書店
越後新潟	櫻井書店
同	北光社
同長岡	上田屋
同	目黒書店
同三條	樋口屋
同	原山商店
同水原	西村六平
同新發田	萬松堂支店
同龜田	潤身堂
播磨姫路	矢内書店
出雲松江	川岡清助
紀伊和歌山	野田書店
安藝廣島	積善館支店
肥後熊本	長崎次郎
薩洲鹿兒島	吉田幸兵衛
同	久永書店
周防山口	塞翁堂
筑前博多	積善館支店
渡島函館	種勘七
同	魁文舍
石狩札幌	玉振堂

哲學書院發賣書目

台記
（史料大觀 第壹卷上）

- ●和裝　全貳冊　定價金參圓　郵稅金拾四錢
- ●洋裝上製　全壹冊　定價金貳圓　郵稅金拾八錢
- ●同　假製　全壹冊　定價金壹圓八拾五錢　郵稅金拾四錢

台記抄
台記別記　宇槐記抄
（史料大觀 第壹卷下）

- ●和裝　全壹冊　定價金壹圓六拾錢　郵稅金八錢
- ●洋裝上製　全壹冊　定價金壹圓八錢　郵稅金拾四錢
- ●同　假製　全壹冊　定價金壹圓　郵稅金拾錢

扶桑名畫傳
（史料大觀 第貳卷）

- ●和裝　全拾冊　定價金七圓五拾錢
- ●洋裝上製　全壹冊　定價金四圓八拾錢
- ●同　假製　全貳冊　定價金四圓五拾錢

此三種何レモ郵便小包目方六百匁迄

侯爵　伊藤博文先生著
○帝國憲法皇室典範義解
全壹冊　定價金五拾錢　郵稅金六錢

男爵　末松謙澄先生著
○伊藤井上二元老直話 維新風雲錄
全壹冊　定價金七拾錢　郵稅金六錢

同　先生著
○國歌新論
全壹冊　定價金四拾錢　郵稅金四錢

伯爵　松平直亮先生著
○修德園叢書
第一集　定價金拾五錢　郵稅金二錢

同　先生編
○西村茂樹先生論說集
第一集　定價金五拾錢　郵稅金八錢

文學博士　井上哲次郎先生著
○釋迦種族論
全壹冊　定價金四拾錢　郵稅金四錢

法學博士 一木喜德郎先生著
〇日本法令豫算論　全壹冊
上製 定價金壹圓 郵稅金八錢
並製 定價金九十錢 郵稅金六錢

法學博士 穗積陳重先生著
〇法典論　全壹冊
定價金七拾錢 郵稅金四錢

法學博士 有賀長雄先生著
〇日清戰役國際法論　全壹冊
定價金壹圓 郵稅金拾錢

法學博士 穗積陳重先生著
〇隱居論　全壹冊
定價金五拾錢 郵稅金六錢

文學博士 村上專精先生著
〇因明學全書　全壹冊
定價金六拾錢 郵稅金八錢

同　先生著
〇日本佛教一貫論　全壹冊
定價金參拾錢 郵稅金四錢

文學博士 井上圓了先生著
〇心理摘要　全壹冊
定價金四拾錢 郵稅金四錢

西村茂樹先生著
〇德學講義　全拾冊之內第六卷迄既刊
第一卷 定價金拾七錢 郵稅金四錢
第二卷 定價金拾七錢 郵稅金四錢
第三卷 定價金拾八錢 郵稅金四錢
第四卷 定價金貳拾五錢 郵稅金四錢
第五卷 定價金參拾錢 郵稅金貳錢
第六卷 定價金參拾錢 郵稅金四錢

小柳司氣太先生著
〇宋學概論　全壹冊
定價金參拾錢 郵稅金四錢

清野勉先生著
〇歸納法論理學　全貳冊
定價金壹圓五拾錢 郵稅金拾貳錢

法學士 藤井宇平先生著
〇婚姻進化論　全壹冊
定價金壹圓廿錢 郵稅金拾錢

西村茂樹先生著
〇心學講義　全貳冊
定價金壹圓六拾錢 郵稅金貳拾四錢

文學士 建部遯吾先生著
〇陸象山　全壹冊
定價金五拾五錢 郵稅金八錢

釋雲照律師著
○大日本國教論　全壹冊　定價金四拾錢　郵稅金六錢

同師著
○佛教大意　全壹冊　定價金參拾錢　郵稅金四錢

文學博士　村上專精先生著
○大日本佛教史　全壹冊　定價金壹圓七拾錢　郵稅金拾六錢

文學博士　井上圓了先生著
○倫理摘要　全壹冊　定價金四拾錢　郵稅金四錢

文學士　澤柳政太郎先生著
○佛教道德十善大意　全壹冊　定價金參拾錢　郵稅金四錢

島地、織田兩師合著
○三國佛教略史　全參冊　定價金六拾五錢　郵稅金八錢

岡本柳之助先生著
○政教中正論　全壹冊　上製　定價金壹圓廿錢　郵稅金拾錢　並製　定價金壹圓　郵稅金八錢

春日佑師著
○佛教因果律　全壹冊　定價金五拾錢　郵稅金四錢

惠美忍成先生著
○佛陀論　全壹冊　定價金五拾五錢　郵稅金八錢

淸野勉先生著
○(標註)韓圖純理批判解說　卷上　定價金壹圓廿五錢　郵稅金八錢

鷲尾日守師著
○心理不滅論　全壹冊　上製　定價金八拾錢　郵稅金六錢　並製　定價金七拾五錢　郵稅金六錢

齋藤唯信師著
○阿彌陀佛總論草案　全壹冊　定價金三拾五錢　郵稅金六錢

山縣良温師著
○俱舍論翼　全壹冊　定價金九拾錢　郵稅金六錢

西脇玉峯先生著
○孟亞聖　全壹冊　定價金三拾錢　郵稅金六錢

文學博士 井上圓了先生著
○破唯物論 全壹冊 定價金參拾錢 郵稅金六錢

同 先生著
○妖怪百談 全壹冊 定價金貳拾五錢 郵稅金四錢

同 先生著
○續妖怪百談 全壹冊 定價金貳拾五錢 郵稅金四錢

林學士 和田國次郎先生著
○森林學 第一卷 上製 定價金九拾五錢 郵稅金拾錢 並製 定價金八拾錢 郵稅金八錢

木村勝藏先生著
○商業簿記法 全壹冊 定價金四拾五錢 郵稅金四錢

中根肅治先生著
○慶長以來諸家著述目錄（和學家之部 漢學家之部既刊以下逐次刊行）
和學家之部 全壹冊（和紙和裝定價金七拾五錢 洋紙和裝定價金五拾錢 郵稅各六錢）
漢學家之部 全貳冊（洋紙洋裝定價金壹圓 郵稅金拾錢）

宇都宮五郎先生譯
○權利競爭論 全壹冊 定價金參拾錢 郵稅金六錢

大矢透先生著
○國語溯原 全壹冊 定價金六拾錢 郵稅金六錢

文學士 濱田健次郎先生著
○言語哲學 全壹冊 定價金五拾錢 郵稅金四錢

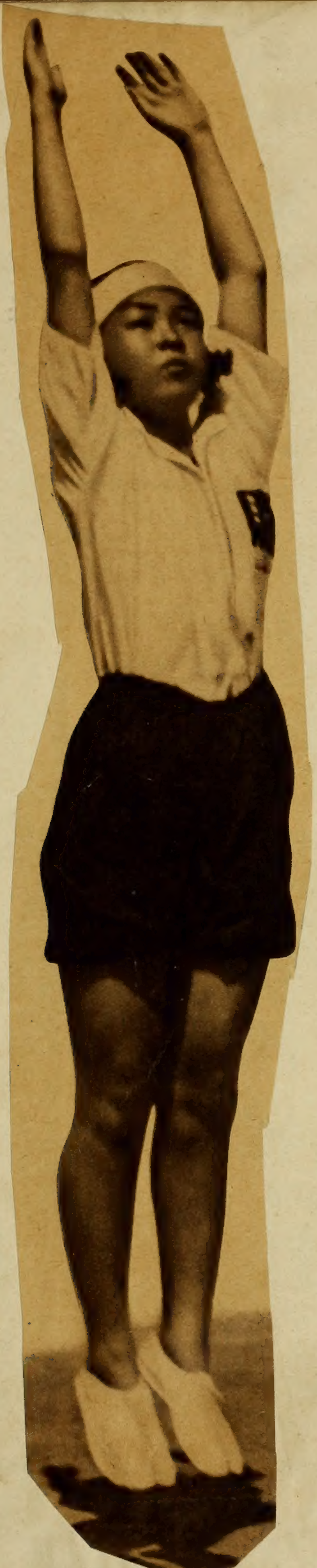
荒浪平次郎先生著
○日清韓三國千字文 全壹冊 定價金參拾錢 郵稅金四錢

宮島大八先生著
○支那語獨習書 全壹冊 定價金五拾五錢 郵稅金四錢

同先生著
○支那語教科書 官話輯要 全壹冊 定價金壹圓 郵稅金六錢

弓場、內藤兩先生合著
○朝鮮語獨學書 全壹冊 定價金貳拾五錢 郵稅金四錢

5977



TOKYO
玉英堂書店
本郷店 神田店